

2026年度 人間環境学部 講義概要(シラバス)



法政大学

科目一覧

【発行日：2026/5/1】 最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目

〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目

〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs

〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ

〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル

〈グ〉：グローバル・オープン科目

〈実〉：実務経験のある教員による授業科目

〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン

〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

【C2002】 民法法Ⅰ [中川 義宏] 春学期授業/Spring	1
【C2003】 民法法Ⅱ [中川 義宏] 秋学期授業/Fall	2
【C2004】 国際法Ⅰ [岡松 暁子] 春学期授業/Spring	3
【C2005】 国際法Ⅱ [岡松 暁子] 秋学期授業/Fall	4
【C2006】 市民社会と政治 [山内 康一] 春学期授業/Spring	5
【C2008】 国際関係論 [岡松 暁子] 春学期授業/Spring	7
【C2009】 アメリカ法の基礎 [永野 秀雄] 春学期授業/Spring	8
【C2010】 地方自治論 [阿部 慶徳] 春学期授業/Spring	9
【C2011】 憲法の基礎 [田上 雄大] 秋学期授業/Fall	10
【C2012】 刑法の基礎 [渡辺 靖明] 春学期授業/Spring	11
【C2013】 環境法Ⅰ [中山 敬太] 春学期授業/Spring	13
【C2014】 環境法Ⅱ [永野 秀雄] 秋学期授業/Fall	14
【C2015】 環境法Ⅲ [中山 敬太] 秋学期授業/Fall	15
【C2016】 環境法Ⅳ [渡辺 靖明] 秋学期授業/Fall	16
【C2017】 国際環境法 [岡松 暁子] 秋学期授業/Fall	18
【C2019】 労働環境法 [櫻井 洋介] 秋学期授業/Fall	19
【C2023】 アメリカ環境法 [永野 秀雄] 秋学期授業/Fall	21
【C2024】 エネルギー政策論 [久谷 一郎] 春学期授業/Spring	22
【C2025】 地球環境政治論 [横田 匡紀] 春学期授業/Spring	24
【C2026】 地域協力・統合 [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	26
【C2034】 行政学Ⅰ [林 嶺那] 春学期授業/Spring	28
【C2035】 行政学Ⅱ [林 嶺那] 秋学期授業/Fall	29
【C2100】 ミクロ経済学Ⅰ [芦田 登代] 春学期授業/Spring	30
【C2101】 ミクロ経済学Ⅱ [芦田 登代] 秋学期授業/Fall	31
【C2102】 マクロ経済学Ⅰ [今 喜史] 春学期授業/Spring	32
【C2103】 マクロ経済学Ⅱ [今 喜史] 秋学期授業/Fall	33
【C2104】 現代企業論 [長谷川 直哉] 春学期授業/Spring	34
【C2105】 ビジネスヒストリー [長谷川 直哉] 秋学期授業/Fall	36
【C2106】 経営学入門 [豊田 太郎] 春学期授業/Spring	38
【C2107】 環境経営と会計 [岸田 隆行] 秋学期授業/Fall	39
【C2108】 公共経済学 [宮本 拓郎] 秋学期授業/Fall	40
【C2109】 中小企業論 [松本 敦則] 春学期授業/Spring	41
【C2110】 環境経済論Ⅰ [杉野 誠] 春学期授業/Spring	42
【C2111】 環境経済論Ⅱ [杉野 誠] 秋学期授業/Fall	43
【C2116】 CSR論Ⅰ [長谷川 直哉] 春学期授業/Spring	44
【C2117】 CSR論Ⅱ [長谷川 直哉] 秋学期授業/Fall	46
【C2118】 国際環境政策Ⅰ [杉野 誠] 秋学期授業/Fall	48
【C2119】 国際環境政策Ⅱ [本郷 尚] 春学期授業/Spring	49
【C2120】 途上国経済論Ⅰ [武貞 稔彦] 春学期授業/Spring	50
【C2121】 途上国経済論Ⅱ [武貞 稔彦] 秋学期授業/Fall	52
【C2122】 国際経済協力論Ⅰ [武貞 稔彦] 春学期授業/Spring	54
【C2123】 国際経済協力論Ⅱ [武貞 稔彦] 秋学期授業/Fall	56
【C2124】 労働経済論Ⅰ [山田 久] 春学期授業/Spring	58
【C2125】 労働経済論Ⅱ [山田 久] 秋学期授業/Fall	59

【C2126】 環境ビジネス論 [竹ヶ原 啓介] 秋学期授業/Fall	60
【C2127】 平和学 [中内 政貴] 春学期授業/Spring	62
【C2128】 人間の安全保障 [中内 政貴] 秋学期授業/Fall	64
【C2129】 ヨーロッパ地域・経済研究 [松本 敦則] 秋学期授業/Fall	66
【C2131】 簿記入門Ⅰ [藤井 誠] 春学期授業/Spring	68
【C2132】 簿記入門Ⅱ [藤井 誠] 秋学期授業/Fall	69
【C2133】 行政法Ⅰ [中山 敬太] 春学期授業/Spring	70
【C2134】 行政法Ⅱ [中山 敬太] 秋学期授業/Fall	71
【C2200】 現代社会論Ⅰ [佐伯 英子] 秋学期授業/Fall	72
【C2201】 現代社会論Ⅱ [島袋 海理] 春学期授業/Spring	73
【C2203】 NPO・ボランティア論 [新田 英理子] 秋学期授業/Fall	75
【C2204】 フィールド調査論 [藤田 研二郎] 春学期授業/Spring	77
【C2205】 フィールド調査論 [大石 友子] 春学期授業/Spring	79
【C2207】 社会統計論 [藤本 隆史] 春学期授業/Spring	81
【C2208】 ファシリテーション論 [徳田 太郎] 秋学期授業/Fall	82
【C2209】 グローカル・コミュニケーション [ESTHER STOCKWELL] 春学期授業/Spring	84
【C2210】 地域形成論 [青木 淳弘] 秋学期授業/Fall	86
【C2211】 地域経済論Ⅰ [湯澤 規子] 春学期授業/Spring	88
【C2212】 地域福祉論 [宮脇 文恵] 春学期授業/Spring	89
【C2213】 地域コモンズ論 [船戸 修一] オータムセッション/Autumn Session	91
【C2216】 都市デザイン論 [佐谷 和江] 秋学期授業/Fall	92
【C2217】 環境社会論Ⅰ [藤田 研二郎] 春学期授業/Spring	94
【C2218】 環境社会論Ⅱ [藤田 研二郎] 秋学期授業/Fall	96
【C2219】 環境社会論Ⅲ [藤田 研二郎] 春学期授業/Spring	98
【C2220】 労働環境論Ⅰ [櫻井 洋介] 春学期授業/Spring	100
【C2221】 労働環境論Ⅱ [櫻井 洋介] 秋学期授業/Fall	102
【C2223】 NGO活動論 [小野 行雄] 秋学期授業/Fall	104
【C2225】 ローカルスタディーズⅠ [船戸 修一] サマーセッション/Summer Session	105
【C2226】 ローカルスタディーズⅡ [坂本 昭夫] 秋学期授業/Fall	107
【C2227】 災害政策論 [川副 早央里] 秋学期授業/Fall	108
【C2229】 社会開発論 [新村 恵美] 秋学期授業/Fall	109
【C2231】 開発教育 [福田 紀子] 春学期授業/Spring	111
【C2232】 国際社会学 [新藤 慶] 秋学期授業/Fall	113
【C2233】 文化経営論 [山口 佳子] 秋学期授業/Fall	114
【C2240】 ファシリテーション論 [徳田 太郎] 春学期授業/Spring	115
【C2241】 科学技術社会論Ⅰ [金光 秀和] 春学期授業/Spring	117
【C2242】 科学技術社会論Ⅱ [金光 秀和] 秋学期授業/Fall	119
【C2243】 ファシリテーション論 [徳田 太郎] 春学期授業/Spring	121
【C2300】 西欧近代批判の思想 [越部 良一] 春学期授業/Spring	123
【C2302】 日本詩歌の伝統 [日原 傳] 春学期授業/Spring	124
【C2303】 比較演劇論Ⅰ [平野井 ちえ子] 春学期授業/Spring	125
【C2304】 比較演劇論Ⅱ [平野井 ちえ子] 秋学期授業/Fall	126
【C2307】 日本美術史論 [手塚 恵美子] 秋学期授業/Fall	127
【C2308】 西洋美術史論 [新保 淳乃] 春学期授業/Spring	129
【C2309】 応用倫理学 [吉永 明弘] 春学期授業/Spring	131
【C2310】 環境倫理学Ⅰ [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall	132
【C2311】 環境倫理学Ⅱ [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall	133
【C2312】 日本環境史論Ⅰ [芳賀 和樹] 春学期授業/Spring	134
【C2313】 日本環境史論Ⅱ [芳賀 和樹] 秋学期授業/Fall	136
【C2314】 ヨーロッパ環境史論Ⅰ [辻 英史] 春学期授業/Spring	138
【C2315】 ヨーロッパ環境史論Ⅱ [伊東 直美] 秋学期授業/Fall	140
【C2316】 環境人類学Ⅰ [高橋 五月] 春学期授業/Spring	141
【C2317】 環境人類学Ⅱ [高橋 五月] 秋学期授業/Fall	142
【C2318】 技術哲学Ⅰ [金光 秀和] 春学期授業/Spring	144
【C2319】 技術哲学Ⅱ [金光 秀和] 秋学期授業/Fall	146
【C2321】 環境人類学Ⅲ [高橋 五月] 春学期授業/Spring	148
【C2322】 環境表象論Ⅰ [梶 裕史] 春学期授業/Spring	150

【C2323】	環境表象論Ⅱ [梶 裕史]	秋学期授業/Fall	152
【C2400】	サイエンスカフェⅠ [石井 利典]	春学期授業/Spring	154
【C2401】	サイエンスカフェⅡ [宮川 路子]	秋学期授業/Fall	155
【C2402】	サイエンスカフェⅢ [高田 雅之]	春学期授業/Spring	156
【C2403】	自然環境論Ⅰ [杉戸 信彦]	春学期授業/Spring	157
【C2404】	自然環境論Ⅱ [杉戸 信彦]	秋学期授業/Fall	158
【C2405】	自然環境論Ⅲ [杉戸 信彦]	春学期授業/Spring	159
【C2406】	エネルギー論Ⅰ [北川 徹哉]	春学期授業/Spring	160
【C2409】	環境健康論Ⅰ [朝比奈 茂]	春学期授業/Spring	161
【C2410】	環境健康論Ⅱ [朝比奈 茂]	秋学期授業/Fall	163
【C2411】	気候変動論Ⅰ [松本 倫明]	春学期授業/Spring	165
【C2412】	気候変動論Ⅱ [松本 倫明]	秋学期授業/Fall	166
【C2413】	自然環境政策論Ⅰ [高田 雅之]	春学期授業/Spring	167
【C2414】	自然環境政策論Ⅱ [高田 雅之]	秋学期授業/Fall	168
【C2416】	環境科学Ⅰ [佐々木 大輔]	春学期授業/Spring	169
【C2417】	環境科学Ⅱ [佐々木 大輔]	秋学期授業/Fall	170
【C2419】	衛生・公衆衛生学Ⅰ [宮川 路子]	春学期授業/Spring	171
【C2420】	衛生・公衆衛生学Ⅱ [宮川 路子]	秋学期授業/Fall	172
【C2421】	衛生・公衆衛生学Ⅲ [宮川 路子]	春学期授業/Spring	173
【C2422】	エネルギー論Ⅱ [北川 徹哉]	秋学期授業/Fall	174
【C2423】	大気と社会Ⅰ [丸本 美紀]	春学期授業/Spring	175
【C2424】	大気と社会Ⅱ [北川 徹哉]	秋学期授業/Fall	176
【C2429】	サイエンスカフェⅣ [渡邊 誠]	春学期授業/Spring	177
【C2430】	環境モデル論Ⅰ [渡邊 誠]	春学期授業/Spring	179
【C2431】	環境モデル論Ⅱ [渡邊 誠]	秋学期授業/Fall	181
【C2432】	自然災害論 [杉戸 信彦]	秋学期授業/Fall	183
【C2433】	自然環境論Ⅳ [高田 雅之]	秋学期授業/Fall	184
【C2500】	環境管理論Ⅰ [大野 香代]	春学期授業/Spring	185
【C2501】	環境管理論Ⅱ [大野 香代]	春学期授業/Spring	187
【C2502】	廃棄物・リサイクル論 [山本 昌宏]	秋学期授業/Fall	189
【C2503】	環境教育論 [野田 恵]	春学期授業/Spring	190
【C2504】	キャリア入門 [櫻井 洋介]	春学期授業/Spring	192
【C2505】	食と農の環境学Ⅰ [西川 邦夫]	春学期授業/Spring	194
【C2506】	食と農の環境学Ⅱ [湯澤 規子]	春学期授業/Spring	196
【C2507】	食と農の環境学Ⅲ [湯澤 規子]	秋学期授業/Fall	197
【C2553】	資源循環の社会実装学－国内資源循環の最前線－ [中野 亮太]	秋学期授業/Fall	198
【C2554】	人間環境特論 (東南アジアの仏教) [川本 佳苗]	春学期授業/Spring	200
【C2555】	人間環境特論 (音楽人類学) [西浦 まどか]	秋学期授業/Fall	201
【C2556】	人間環境特論 (人口から考える持続可能な地域社会) [久井 情在]	春学期授業/Spring	202
【C2557】	人間環境特論 (住宅から考える持続可能な地域社会) [柳瀬 有志]	秋学期授業/Fall	203
【C2558】	人間環境特論 (現代ヨーロッパ社会と宗教) [和田 知之]	秋学期授業/Fall	204
【C2559】	現代思想と人間Ⅰ [竹本 研史]	春学期授業/Spring	206
【C2560】	現代思想と人間Ⅱ [竹本 研史]	秋学期授業/Fall	208
【C2563～】	キャリアチャレンジ [人間環境学部教員]		209
【C2570】	地域経済論Ⅱ [湯澤 規子]	秋学期授業/Fall	210
【C2579】	人間環境特論 (職業選択と自己実現) [才木 弓加]	春学期授業/Spring	211
【C2602】	人間環境学への招待 [人間環境学部教員]	春学期授業/Spring	212
【C2701～】	基礎演習 [人間環境学部教員]	秋学期授業/Fall	213
【C2800】	情報処理基礎 [小林 信彦]	春学期授業/Spring	214
【C2801】	情報処理基礎 [小林 信彦]	秋学期授業/Fall	216
【C2802】	情報処理基礎 [松本 倫明]	春学期授業/Spring	218
【C2803】	情報処理基礎 [渡邊 誠]	春学期授業/Spring	219
【C2804】	情報処理基礎 [渡邊 誠]	秋学期授業/Fall	221
【C2805】	情報処理基礎 [小林 信彦]	秋学期授業/Fall	223
【C2806】	情報処理基礎 [小林 信彦]	春学期授業/Spring	225
【C2807】	ネットワークとマルチメディア [松本 倫明]	秋学期授業/Fall	227
【C2809】	統計とデータ分析 [渡邊 誠]	春学期授業/Spring	228

【C2812】	ネットワークとマルチメディア [松本 倫明]	春学期授業/Spring	230
【C2900】	英語Ⅰ (スキルアップ科目) [平野井 ちえ子]	春学期授業/Spring	231
【C2909】	英語Ⅱ (スキルアップ科目) [DERYK C BLISS]	春学期授業/Spring	232
【C2915】	英語Ⅲ (スキルアップ科目) [DERYK C BLISS]	秋学期授業/Fall	234
【C2930】	English Communication 1 [平野井 ちえ子]	春学期授業/Spring	236
【C2931】	English Communication 3 [吉江 秀和]	秋学期授業/Fall	237
【C2932】	Advanced English Communication 1 [DERYK C BLISS]	春学期授業/Spring	238
【C2933】	Advanced English Communication 2 [DERYK C BLISS]	秋学期授業/Fall	240
【C2950】	テーマ別英語1 [PAUL K KALLENDER]	春学期授業/Spring	242
【C2953】	テーマ別英語2 [DERYK C BLISS]	春学期授業/Spring	244
【C2956】	テーマ別英語3 [佐伯 英子]	秋学期授業/Fall	246
【C2959】	テーマ別英語4 [近藤 亮介]	秋学期授業/Fall	247
【C3000】	研究会A [朝比奈 茂]	年間授業/Yearly	248
【C3003】	研究会A [板橋 美也]	年間授業/Yearly	250
【C3004】	研究会A [杉戸 信彦]	年間授業/Yearly	252
【C3005】	研究会A [岡松 暁子]	年間授業/Yearly	253
【C3006】	研究会A [梶 裕史]	年間授業/Yearly	254
【C3007】	研究会A [北川 徹哉]	年間授業/Yearly	256
【C3010】	研究会A [小島 聡]	年間授業/Yearly	258
【C3011】	研究会A [小島 聡]	年間授業/Yearly	260
【C3012】	研究会A [ESTHER STOCKWELL]	年間授業/Yearly	262
【C3015】	研究会A [武貞 稔彦]	年間授業/Yearly	264
【C3017】	研究会A [辻 英史]	年間授業/Yearly	266
【C3018】	研究会A [永野 秀雄]	年間授業/Yearly	268
【C3019】	研究会A [永野 秀雄]	年間授業/Yearly	270
【C3020】	研究会A [櫻井 洋介]	年間授業/Yearly	272
【C3023】	研究会A [芳賀 和樹]	年間授業/Yearly	274
【C3024】	研究会A [長谷川 直哉]	年間授業/Yearly	276
【C3025】	研究会A [日原 傳]	年間授業/Yearly	278
【C3026】	研究会A [平野井 ちえ子]	年間授業/Yearly	279
【C3027】	研究会A [佐々木 大輔]	年間授業/Yearly	281
【C3028】	研究会A [金藤 正直]	年間授業/Yearly	282
【C3029】	研究会A [松本 倫明]	年間授業/Yearly	284
【C3030】	研究会A [宮川 路子]	年間授業/Yearly	286
【C3031】	研究会A [宮川 路子]	年間授業/Yearly	288
【C3034】	研究会A [渡邊 誠]	年間授業/Yearly	290
【C3035】	研究会A [高田 雅之]	年間授業/Yearly	292
【C3036】	研究会B [杉戸 信彦]	春学期授業/Spring	294
【C3037】	研究会B [岡松 暁子]	春学期授業/Spring	295
【C3038】	研究会B [梶 裕史]	春学期授業/Spring	296
【C3039】	研究会B [北川 徹哉]	春学期授業/Spring	297
【C3040】	研究会B [ESTHER STOCKWELL]	春学期授業/Spring	298
【C3041】	研究会B [ESTHER STOCKWELL]	秋学期授業/Fall	300
【C3046】	研究会B [櫻井 洋介]	秋学期授業/Fall	302
【C3047】	研究会B [櫻井 洋介]	春学期授業/Spring	303
【C3048】	研究会B [芳賀 和樹]	春学期授業/Spring	305
【C3049】	研究会B [長谷川 直哉]	春学期授業/Spring	307
【C3050】	研究会B [長谷川 直哉]	秋学期授業/Fall	309
【C3052】	研究会A [高田 雅之]	年間授業/Yearly	311
【C3054】	研究会B [永野 秀雄]	春学期授業/Spring	313
【C3055】	研究会B [日原 傳]	秋学期授業/Fall	314
【C3060】	研究会B [渡邊 誠]	春学期授業/Spring	315
【C3061】	研究会B [渡邊 誠]	秋学期授業/Fall	316
【C3062】	研究会B [金藤 正直]	春学期授業/Spring	317
【C3063】	研究会B [金藤 正直]	秋学期授業/Fall	319
【C3064】	研究会B [高橋 五月]	春学期授業/Spring	321
【C3065】	研究会B [高橋 五月]	秋学期授業/Fall	323

【C3071】	研究会A	〔高橋 五月〕	年間授業/Yearly	325
【C3072】	研究会A	〔竹本 研史〕	年間授業/Yearly	327
【C3074】	研究会A	〔三原 さやか、佐伯 英子〕	年間授業/Yearly	329
【C3075】	研究会A	〔湯澤 規子〕	年間授業/Yearly	331
【C3076】	研究会A	〔吉永 明弘〕	年間授業/Yearly	333
【C3077】	研究会B	〔杉野 誠〕	秋学期授業/Fall	334
【C3078】	研究会A	〔金光 秀和〕	年間授業/Yearly	335
【C3079】	研究会A	〔藤田 研二郎〕	年間授業/Yearly	337
【C3080】	研究会A	〔松本 敦則〕	年間授業/Yearly	339
【C3082】	研究会A	〔山田 久〕	年間授業/Yearly	341
【C3085】	研究会B	〔湯澤 規子〕	春学期授業/Spring	343
【C3086】	研究会B	〔吉永 明弘〕	春学期授業/Spring	344
【C3087】	研究会B	〔吉永 明弘〕	秋学期授業/Fall	345
【C3092】	研究会B	〔小島 聡〕	年間授業/Yearly	346
【C3093】	研究会A	〔杉野 誠〕	年間授業/Yearly	348
【C3094】	研究会B	〔金光 秀和〕	春学期授業/Spring	350
【C3095】	研究会B	〔高田 雅之〕	春学期授業/Spring	351
【C3100～】	研究会修了論文	〔人間環境学部教員〕	秋学期授業/Fall	352
【C3150～】	コース修了論文	〔人間環境学部教員〕	秋学期授業/Fall	353
【C3160～】	プログラム修了論文	〔人間環境学部教員〕	秋学期授業/Fall	354
【C3200】	人間環境セミナー	〔湯澤 規子、芳賀 和樹〕	春学期授業/Spring	355
【C3201】	人間環境セミナー	〔渡邊 誠、松本 倫明〕	秋学期授業/Fall	356
【C3204】	人間環境セミナー	〔梶 裕史〕	秋学期授業/Fall	357
【C3300～】	フィールドスタディ	〔人間環境学部教員〕		359
【C3320～】	海外フィールドスタディ	〔人間環境学部教員〕		360
【C3454】	SCOPE Seminar	〔伊藤 弘太郎〕	春学期授業/Spring	361
【C3455】	SCOPE Seminar	〔GAEL BESSON〕	秋学期授業/Fall	362
【C3457】	SCOPE Seminar	〔伊藤 弘太郎〕	秋学期授業/Fall	364
【C3458】	SCOPE Seminar	〔GAEL BESSON〕	春学期授業/Spring	365
【C3459】	SCOPE Seminar	〔Mariia ERMILOVA〕	秋学期授業/Fall	367
【C3460】	SCOPE Seminar	〔Mariia ERMILOVA〕	春学期授業/Spring	369
【C3461】	SCOPE Seminar	〔杉野 誠〕	春学期授業/Spring	371
【C3462】	SCOPE Seminar	〔武貞 稔彦〕	春学期授業/Spring	372
【C3700～】	Field Workshop	〔人間環境学部教員〕		373
【C3750】	Co-creative Workshop A I	〔佐々木 大輔〕	春学期授業/Spring	374
【C3751】	Co-creative Workshop A II	〔伊藤 弘太郎〕	春学期授業/Spring	375
【C3752】	Co-creative Workshop B I	〔GAEL BESSON〕	秋学期授業/Fall	376
【C3753】	Co-creative Workshop B II	〔Mariia ERMILOVA〕	秋学期授業/Fall	378
【C3755】	Co-creative Workshop A	〔佐々木 大輔〕	春学期授業/Spring	379
【C3756】	Co-creative Workshop B	〔伊藤 弘太郎〕	春学期授業/Spring	380
【C3757】	Co-creative Workshop C	〔GAEL BESSON〕	秋学期授業/Fall	381
【C3758】	Co-creative Workshop D	〔Mariia ERMILOVA〕	秋学期授業/Fall	383
【C3759】	Co-creative Workshop	〔佐々木 大輔〕	春学期授業/Spring	384
【C3760】	Co-creative Workshop	〔伊藤 弘太郎〕	春学期授業/Spring	385
【C3761】	Co-creative Workshop	〔GAEL BESSON〕	秋学期授業/Fall	386
【C3762】	Co-creative Workshop	〔Mariia ERMILOVA〕	秋学期授業/Fall	388

LAW200HA（法学 / law 200）

民事法 I

中川 義宏

配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5
備考（履修条件等）：環コア：経,口
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私法の一般法について定めた法律である「民法」（その中でも主に契約法と不法行為法）の学習を通じて、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付ける。適宜、裁判実務についても学習する。

【到達目標】

我が国は法治国家であり、紛争が生じた場合、最終的には、司法権を行使する裁判所が、法律に従って、終局的な解決を図る。本講では、民事紛争を解決する際の拠り所となる民法について、主に契約法と不法行為法を中心に、裁判実務を交えて学習し、その学習を通じて、学生たちは、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業では毎回リアクションペーパーを提出してもらう。提出後の授業または学習支援システムにおいて提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・法律学入門	法律学とは何か、何のために法律を学ぶのかについて考える。
第2回	民法入門	民法の全体構造を概観し、民法の体系的な理解を図る。
第3回	民法総則(1)	民法の総則規定である、権利の主体（自然人・法人）、物、意思表示による権利変動について学習する。
第4回	民法総則(2)	民法の総則規定である、意思表示の瑕疵（心裡留保、通謀虚偽表示、錯誤、詐欺・強迫）、契約の不当性について学習する。
第5回	民法総則(3)	民法の総則規定である、無効と取消し、代理、時効について学習する。
第6回	物権	民法の「物権法」と呼ばれる領域に関し、物権の意義と種類、物権変動、占有権・所有権について学習する。
第7回	担保物権	民法の「担保物権法」と呼ばれる領域に関し、担保物権の意義と種類、抵当権について学習する。
第8回	債権総論	民法の「債権法」と呼ばれる領域に関し、債権関係とその内容、債務の不履行、弁済、相殺、債権譲渡、保証債務について学習する。

第9回	契約(1)	民法を理解するうえで大切な「契約法」と呼ばれる領域に関し、契約の意義と種類、契約の成立、契約の解除について学習する。
第10回	契約(2)	民法に規定された「典型契約」のうち、贈与、売買、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇用について学習する。
第11回	事務管理・不当利得	民法の「事務管理」、「不当利得」と呼ばれる領域に関し、その制度趣旨について学習する。
第12回	不法行為(1)	民法の「不法行為法」と呼ばれる領域に関し、その制度趣旨、要件について学習するとともに、プライバシー侵害、名誉棄損に関する裁判例を概観する。
第13回	不法行為(2)	民法の「不法行為」の一類型である、使用者責任、工作物責任、製造物責任について学習する。
第14回	試験及び解説	試験を実施し、その解説をしながら、民事法 I の総括、社会生活における法律の役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業時間外の準備学習として、授業内で取り上げる裁判例を事前に読んで検討してもらうことがあります。また、民法に関する記事や裁判は新聞で取り上げられることが多いので、普段から新聞に目を通すようにしてください。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしない。

【参考書】

民法（全）【第3版】（著者：潮見佳男、発行所：有斐閣）。
鳥瞰民法（全）（著者：河上正二、発行所：信山社）。
六法。

【成績評価の方法と基準】

講義の第14回目に期末試験を行い、成績評価はこの期末試験と平常点（中間レポート及び学習状況等）を基準に評価する。期末試験50点、平常点50点の100点満点のうち60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course introduces civil code(mainly contract law and tort law) to students taking this course.

The goals of this course are to get the legal mindset.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Final grade will be calculated according to the following process mid term report and in class contribution (50%), term end examination (50%).

LAW200HA (法学 / law 200)		
民法法Ⅱ		
中川 義宏		
配当年次／単位：1～4年／2単位		
開講セメスター：秋学期授業/Fall 曜日・時限：木5/Thu.5		
備考（履修条件等）：環コア：経、口		
その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
私法の一般法について定めた法律である「民法」（その中でも主に親族法と相続法）の学習を通じて、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付ける。適宜、裁判実務についても学習する。		
【到達目標】		
我が国は法治国家であり、紛争が生じた場合、最終的には、司法権を行使する裁判所が、法律に従って、終局的な解決を図る。本講では、民事紛争・家事紛争を解決する際の拠り所となる民法の中の親族法と相続法を中心に、裁判実務を交えて学習し、その学習を通じて、学生たちは、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付けることを目標とする。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
課題提出後の授業または学習支援システムにおいて提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。		
授業内では適宜質問して答えてもらうなど双方向の参加型授業を目指します。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・法律学入門	法律学とは何か、何のために法律を学ぶのかについて考える。
第2回	民法・家族法入門	民法の全体構造を概観し、その中の家族法（親族法と相続法）の基礎を学習する。
第3回	親族・戸籍と氏	民法の「親族法」と呼ばれる領域に関し、その基本的概念となる親族、戸籍と氏の考え方について学習する。
第4回	婚姻(1)	民法が規定する親族法のうち、婚姻の意義、婚姻の成立要件、婚姻の効果について学習するとともに、婚姻に関する裁判例を概観する。
第5回	婚姻(2)	民法が規定する親族法のうち、婚姻の無効と取消し、夫婦財産制について学習するとともに、婚姻に関する裁判例を概観する。
第6回	離婚、内縁・事実婚	民法が規定する親族法のうち、離婚の方法（協議離婚、調停離婚等）、内縁・事実婚の意義について学習するとともに、離婚に関する裁判例を概観する。
第7回	親子（実親子関係）(1)	民法が規定する親族法のうち、実親子関係（母子関係、父子関係）について学習するとともに、親子に関する裁判例を概観する。
第8回	親子（実親子関係）(2)	民法が規定する親族法のうち、嫡出子、婚外子（非嫡出子）について学習するとともに、親子に関する裁判例を概観する。
第9回	養子	民法が規定する親族法のうち、養子の種類（普通養子、特別養子）、養子縁組の要件と効果、離縁について学習する。
第10回	親権、後見・保佐・補助、扶養	民法が規定する親族法のうち、親権の内容、制限行為能力（未成年・後見・保佐・補助）の制度、扶養について学習する。
第11回	相続の開始と相続人、相続の効力	民法が規定する相続法のうち、相続の開始と相続人、相続の効力（相続財産の包括承継、遺産共有、相続分、遺産分割）について学習する。
第12回	遺言、遺贈	民法が規定する相続法のうち、遺言制度と遺言の方式（自筆証書遺言、公正証書遺言、秘密証書遺言）、遺言の執行、遺贈について学習するとともに、遺言に関する裁判例を概観する。
第13回	配偶者居住権、遺留分	民法が規定する相続法のうち、配偶者居住権、遺留分の意義について学習するとともに、遺留分に関する裁判例を概観する。
第14回	試験及び解説	試験を実施し、その解説をしながら、民法Ⅱの総括、社会生活における法律の役割について考える。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業時間外の準備学習として、授業内で取り上げる裁判例を事前に読んで検討してもらうことがあります。また、家族法に関する記事は新聞で取り上げられることが多いですので、普段から新聞に目を通すようにしてください。		
【テキスト（教科書）】		
特に指定はしない。		
【参考書】		
民法（全）【第3版】（著者：潮見佳男、発行所：有斐閣、定価：4600円＋税）。		
鳥瞰民法（全）（著者：河上正二、発行所：信山社、定価：1700円＋税）。六法。		
【成績評価の方法と基準】		
講義の第14回目に期末試験を行い、成績評価はこの期末試験と平常点（中間レポート及び学習状況等）を基準に評価する。期末試験50点、平常点50点の100点満点のうち60点以上を合格とする。		
【学生の意見等からの気づき】		
特になし。		
【Outline (in English)】		
This course introduces civil code(mainly family law and inheritance law) to students taking this course. The goals of this course are to get the legal mindset. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting. Final grade will be calculated according to the following process mid term report and in class contribution (50%), term end examination (50%).		

LAW200HA（法学 / law 200）

国際法 I

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：環17：グ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。平等な主権国家で成り立っている国際社会は、国家と国家が合意を結ぶことで国際秩序が維持されている。本講義では、この国家間の合意の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成および紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

【到達目標】

国際法の基礎理論を学び、国際秩序の基本的な法的枠組みを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに 国際法の構造	本講義の対象範囲 国際法の内容、近代国際法の特徴
第2回	法源	条約、国際慣習法、法の一般原則、補助法源としての判例、学説
第3回	条約法	締結手続、留保、効力、無効、改正と終了
第4回	国際法と国内法の関係	論理的関係、国際法における国内法、国内法における国際法
第5回	国家・国家機関（1）	国家承認、政府承認
第6回	国家・国家機関（2）	国家承継、国家機関
第7回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第8回	国際組織法（1）	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的発展
第9回	国際組織法（2）	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性
第10回	国家領域（1）	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任
第11回	国家領域（2）	領域権原の取得原因、日本の領域紛争
第12回	国家責任法（1）	国家責任の概念、国際違法行為責任の基本構造
第13回	国家責任法（2）	国家責任の発生要件、国家責任の解除、外交保護制度
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岩沢雄司『国際法 [第2版]』東京大学出版会、2023年。4,840円。
植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2026年。

【参考書】

森川幸一他編『国際法判例百選 [第3版]』有斐閣、2021年。
繁田泰宏・佐古田彰編集代表、岡松暁子・小林友彦共同編集、鳥谷部 瑠・平野実晴編集協力『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。
その他、適宜講義の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）

期末試験以外の要素は考慮しない。

【学生の意見等からの気づき】

特にコメントはありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the legal order and rules that govern the international society.

By the end of this course, students may learn the basic international theory and gain better understanding by reading leading cases.

Students are required to study at least 2 hours before or after the class.

The course grade will be based on final paper(100%).

LAW200HA（法学 / law 200）

国際法Ⅱ

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：環37：グ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。平等な主権国家で成り立っている国際社会は、国家と国家が合意を結ぶことで国際秩序が維持されている。本講義では、主としてその各論部分を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。

第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

【到達目標】

国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国際法の各論部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	海洋法（1）	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第3回	海洋法（2）	排他的経済水域、公海、大陸棚、深海底
第4回	南極、空域、宇宙	国際化地域、国際航空法、宇宙空間
第5回	個人	国籍、外国人の地位、難民
第6回	国際人権法（1）	人権保障の歴史、条約による人権保障
第7回	国際人権法（2）	国際組織による人権保障、履行確保、人道的介入
第8回	国際刑事法	国際犯罪、国際刑事裁判所
第9回	紛争の平和的解決（1）	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決
第10回	紛争の平和的解決（2）	非裁判的手続、裁判的手続
第11回	国際安全保障、軍縮・軍備管理	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、平和維持活動、核の国際管理、軍縮
第12回	国際人道法（1）	武力紛争法規の適用対象、敵対行為の規制、軍事目標主義
第13回	国際人道法（2）	戦争犠牲者の保護、武力紛争法規の履行確保、軍縮・軍備管理
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岩沢雄司『国際法〔第2版〕東京大学出版会、2022年。

植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2026年。

【参考書】

森川幸一他編『国際法判例百選〔第3版〕』有斐閣、2021年。
繁田泰宏・佐古田彰編集代表、岡松暁子・小林友彦共同編集、鳥谷部 壤・平野実晴編集協力『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。
その他、適宜講義の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%。

期末試験以外の要素は考慮しない。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

履修者は国際法Ⅰを履修済みであることが望ましいが、それを履修の条件とはしない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the specific international legal framework in various fields. Students may learn the legal process of peace making and gain better understanding by reading leading cases.

Students are required to study at least 2 hours before or after the class.

The course grade will be based on final paper (100%).

POL200HA（政治学 / Politics 200）

市民社会と政治

山内 康一

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、①市民社会とは何か、②政治とは何か、市民の政治参加がなぜ重要か、③自由で民主的な市民社会を築き維持するために何が必要か、を考え学びます。政治がどのように機能しているか（あるいは機能していないか）を考え、より良い社会をつくるために市民として政治に参加するための方法論と知識を学びます。一言でいうと「大学生向けのシチズンシップ教育」をめざします。

【到達目標】

市民社会における民主主義の担い手として適切な判断ができる基礎づくりをめざします。世界と日本の民主主義の危機やポピュリズム政治の問題点を学び、より良い社会をつくるためのアドボカシー（政策提言）活動や政策形成に市民として参加するスキルや知識の習得をめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業時間の3分の2を講義にあて、残りの3分の1を具体的な課題や政策についてのグループディスカッションにあてます。授業終了後にリアクションペーパー（質問、意見、提案など）の提出を求め、次の授業でふり返ります。最後に学生の皆さんに具体的な政策を立案して最終レポートにまとめ授業中に発表することを求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・イントロダクション	授業の目標、授業の方針、授業計画、授業の進め方、学び方、最終レポートの発表方法について説明。参考書の紹介。講師の自己紹介。市民社会と政治の概観。
第2回	政治はなぜ重要か？	民主政治と専制政治（北朝鮮と韓国の比較）。豊かな国と貧しい国のちがいを生む理由。
第3回	市民社会とは何か？	市民社会、政府、市場（企業）の関係。市民社会組織（CSO）やNPO、NGO。国際NGO、発展途上国のCSO。
第4回	日本政治（1）体験的政治論「国会議員の仕事とは？」	国会や議院内閣制の仕組み。衆議院議員の日常生活と活動。政治と行政の関係。政党や野党の意義。
第5回	日本の政治（2）選挙制度「良い議員を選ぶには？」	世界の選挙制度（小選挙区制、比例代表制）。国政選挙と地方選挙。政治思想。
第6回	市民が政治を動かす方法：社会を変革する「政策起業家」とは？	NPOや市民向け「ロビー活動マニュアル」の解説。「政策起業家」という職業。
第7回	政策を議論する作法	情報分析の作法。フェイクニュースやポピュリスト政治家に騙されない予防法。

第8回	気候崩壊に市民社会と政治はどう向きあうか	気候崩壊時代を生きる。政治が気候崩壊に対処できない理由。「気候市民会議」という政策イノベーション。
第9回	インターネット時代の政治とメディア	市民と政治をつなぐメディア。インターネットと政治。メディアリテラシー。
第10回	自由と民主主義の退潮と未来	自由民主主義（リベラルデモクラシー）。ポピュリズム（権威主義）政治。
第11回	自由と民主主義、平和を守る	専制政治（ファシズム）。反知性主義。専門知と民主主義。危険な独裁者を選ばないために必要なこと。戦争と平和。戦争の加害の歴史と向きあう。
第12回	シチズンシップ教育	健全な市民社会を築くためのシチズンシップ教育。民主主義のための教育。
第13回	最終レポート発表会（1）「市民や職業人として何ができるか？」	学生の最終レポート（政策提言）の発表と議論。授業のふり返り。
第14回	最終レポート発表会（2）「市民や職業人として何ができるか？」まとめ	学生の最終レポート（政策提言）の発表と議論。授業のふり返り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習および復習時間は各回2時間を標準とします。毎授業後にリアクションペーパーの提出を求めます。必要に応じて宿題を出します。教科書は指定しませんが、参考書はできるだけ読んで下さい。授業でも推薦図書を紹介するのでぜひ読んで下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

エステル・デュフロ『貧困と闘う知』2017年 みすず書房
ジャレド・ダイヤモンド『危機と人類』2019年 日本経済新聞出版社
ジェリー・ストーカー『政治をあきらめない理由』2013年 岩波書店
ダロン・アセモグル、ジェイムズ・ロビンソン『自由の命運』2020年 早川書房

【成績評価の方法と基準】

平常点（15％）、リアクションペーパー（40％）、最終レポート（45％）で評価します。なお、自己都合で4回以上欠席した者は原則として成績評価を行いません（やむを得ない事情があれば個別に相談に応じます）。

【学生の意見等からの気づき】

政治の動きや国際情勢などを踏まえ、また学生の皆さんの意見を聞きながら、授業の進め方やテーマを調整します。授業計画は学期途中でも柔軟に見直し改善したいと思います。毎回の授業では少人数のグループディスカッションを行っていますが、回を重ねるごとに議論のやり方が上手くなっていくケースが多く、積極的に議論に参加していただきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

最終プレゼンテーションの際に自分のノートブックパソコンを持ち込むか、プレゼン資料を事前に講師にメールで送ってもらいます。

【その他の重要事項】

市民社会組織（NGO）スタッフや衆議院議員としての実務経験を踏まえ、実践的な知識やスキルを身につけてもらえる授業をめざします。学問の基本は読むことです。教科書は指定しませんが、シラバスに記載した参考書や授業中に紹介する本を読むことを強くお勧めします。政治の世界では唯一の正しい答えがないテーマが多数あります。答えのない問題にどうやって向き合うかを考え議論する授業にしたいと思います。

【Outline (in English)】

we will learn about ① what constitutes a civil society, what is necessary to build and maintain a sound civil society, ② what politics entails, and what is required for citizens to engage in politics, and ③ the relationship between civil society and politics. We will consider how politics functions (or doesn't) and acquire methodologies and knowledge to participate in politics as a citizen, with the goal of contributing to the creation of a sound society.

We aim to establish a foundation for making informed judgments as participants in democracy within civil society. Our goal is to acquire skills and knowledge to engage as citizens in advocacy activities, such as policy recommendations, and contribute to policy formation for creating a better world.

The standard time allocated for this course is set at 2 hours per session. After each class, submission of a reaction paper is required. Homework assignments may be given as needed. While there is no designated textbook, please make an effort to read reference books. Recommended readings will also be introduced during the lectures, so if possible, consider exploring them.

The assessment will be based on regular attendance (15%), reaction papers (40%), and the final report (45%). Additionally, individuals who are absent four times or more due to personal reasons will generally not be evaluated (exceptions may be considered in case of unavoidable circumstances, subject to individual consultation).

POL100HA (政治学 / Politics 100)

国際関係論

岡松 暁子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：環17：グ,サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会における平和の構築について考察する。前半は、「戦争と平和」をテーマとし、世界史、冷戦期の国際関係、冷戦後の国際秩序、を中心に学ぶ。後半は、戦争がなくても平和ではない、という認識の下、よりよい国際社会の構築をめざした国際社会の取り組みについて学ぶ。

【到達目標】

国際社会の諸問題について、基本的な事象とそれらの主要な分析枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国際社会における平和というものを考察するにあたり、まず、戦争と平和の歴史をたどり、特に第二次世界大戦後の超大国による国際秩序について分析する。さらに、冷戦後の国際社会における新たな紛争と秩序構築について、民族問題、環境問題、貧困問題等に焦点を当てて検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論：平和とは何か	平和の概念について
第2回	戦争と平和の歴史	戦争と平和の歴史につき、特に近現代を中心に概観する。
第3回	冷戦期の国際関係（1）	国際関係の分析枠組としての理論と現実
第4回	冷戦期の国際関係（2）	軍拡競争と軍縮
第5回	冷戦期の国際関係（3）	核兵器・原子力を巡る諸問題
第6回	冷戦後の国際関係	冷戦後の新たな国際問題の特徴
第7回	民族自決と紛争	脱植民地化と民族自決、民族紛争
第8回	国際安全保障	集団安全保障と日本
第9回	人間の安全保障	新たな平和の概念
第10回	南北問題の歴史的変遷	南北問題と南南問題
第11回	貧困と開発	途上国問題
第12回	人権	国際人権保障の困難性
第13回	地球環境問題	地球環境問題の特質
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業で行った範囲をよく復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%。

期末試験以外の要素は考慮しない。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様に進めます。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

The course provides an introduction to international peace studies. The themes of this course are; “War and Peace” and “Human Security”.

【Learning Objectives】 Understand the events in the international societies based on the theory of international relations.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on term-end examination(100%).

LAW200HA（法学 / law 200）

アメリカ法の基礎

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環ア：経、グ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アメリカに興味のある方を対象に、その法制度の基本的な特徴を講義します。憲法上の問題を中心に、統治制度や人権保障のあり方などを検討していきます。それぞれのテーマでは、興味深い判例を紹介していきます。

【到達目標】

学生が、この授業をととして、アメリカ法の基本的な制度を理解できるようになるとともに、社会問題の解決策がひとつではなく、様々なアプローチがあることを理解できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この講義では、法学を専門としていない学生を対象に、アメリカ法の基礎を講義します。まず、導入部としてアメリカの歴史と法の発展を学びます。これに続いて、連邦制度と、独自の三権分立を学びます。この後、わが国の憲法にも大きな影響を与えて続けている人権法について、その代表的なトピックを学習します。そして、社会に出てからも役に立つ労働法、独占禁止法、契約法、不法行為法などを講義します。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

なお、本授業は、対面授業として実施される予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	アメリカ法の歴史	植民地時代、独立革命、連邦憲法の制定、英米法の特徴
第2回	連邦制度	特に憲法、軍隊等をもつ州政府について
第3回	連邦議会	連邦議会の特色、日本の議会との差異
第4回	大統領	大統領の権限、大統領府の組織
第5回	司法権	連邦裁判所、法曹、陪審制、州の司法権との関係
第6回	表現の自由	表現の自由の限界、報道の自由
第7回	集会・結社の自由、通信の秘密	これらの自由とその限界
第8回	信教の自由	信教の自由の限界と国教樹立の禁止
第9回	プライバシーの保護	個人、家族、ライフスタイルのプライバシー
第10回	法の下での平等（1）	人種差別の規制
第11回	法の下での平等（2）	男女差別等の規制
第12回	労働法・社会保障法	米国の社会労働法制の特徴
第13回	経済的自由とその限界	独占禁止法等の仕組み
第14回	これまでの学びの振り返りと授業内試験	これまで学んだ内容について振り返った後、授業内試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布するか、HoppiでPDFファイルとして配布します。

【参考書】

松井茂記『アメリカ憲法入門（第9版）』（有斐閣、2023年）。

【成績評価の方法と基準】

第14回に対面で実施する授業内試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、アメリカ法に興味を持って頂ける授業をしていきたいと思っています。

【Outline (in English)】

< Course Outline >

This course will give you the fundamental principles that comprise the American legal system. We will examine the United States Constitution, centering on the issues of the federal government and civil rights. For each issue we will learn important judicial precedents.

< Learning Objectives >

The goals of this course is to understand the basic system of American law, and, through the cases of the United States, to understand various approaches to solving social and legal problems.

< Learning Activities outside of Classroom >

Students will be expected to prepare and review using the prints distributed in each class. Please study basic terms and legal logic with those prints. Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

The grades of this subject will be evaluated by the in-class examination conducted in the 14th class (100%).

POL200HA (政治学 / Politics 200)

地方自治論

阿部 慶徳

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：環37：口

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地方自治の基礎を学ぶことにより、他の自治体政策に関する科目を理解できるようになることを目的とする。地方自治の最新の動向を、市民としての主体性を持って理解し、自らの考察を踏まえて判断できるような教養を身につける。

【到達目標】

他の自治体政策に関する科目を理解できるように、地方自治に関連する基礎知識を幅広く学習する。このことにより、地方自治体が様々な公共サービスを提供し、自らの生活といかに関連しているかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に対面で授業を行う。映像や新聞記事等を活用して可能な限り地方自治の最近の動きを伝える。また、取り扱った内容に関連して、適宜リアクションペーパーの提出を求める場合がある。授業に対する質問に関し、クラス全体に共有した方が良い内容については、全受講者に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	地方自治の理念・基本的な考え方	地方自治の理念の重要性や、地方自治がなぜ必要なのかを講義する。
2回	地方自治の基本制度	二層制、行政機構・公務員、広域行政、指定都市・中核市制度など、基本的な制度の解説する。
3回	府県関係と地方分権	国と地方政府としての都道府県、市町村の関係や、地方分権がどのように進展したかを解説する。
4回	地方財政	中央政府と比較して、地方政府の財政がいかに運営されているのかを解説する。
5回	法令と条例・規則・要綱	中央政府が制定する法律の範囲内で、地方政府がいかに条例などを制定して自治体行政を運営しているかを解説する。
6回	直接請求権・市民参加	自治体に対して認められている直接請求権制度について解説するほか、同制度を利用した市民参加などについても講義する。
7回	自治体とNPO等との協働	様々な行政課題に対し、NPOや地域社会との協働がいかになされているのか、またその課題について解説する。
8回	自治体の政策体系と行政サービス	自治体の政策が、各行政分野ごとにいかに異なり、自治体内で「調整」されているのかを解説する。

9回	地方自治と地域社会の今日的課題のトピック	実際の社会現象を取り上げ、今までの講義で学んできた地方自治論の観点からどのような分析が可能なのかを解説する。
10回	個別行政（子ども・子育て支援政策）	国や自治体の子ども・子育て支援政策について解説する。
11回	個別行政（学校教育）	国や自治体の学校教育に関する政策や制度を解説する。
12回	個別行政（高齢者福祉）	国や自治体の高齢者福祉に関する政策や制度を解説する。
13回	現代の地方自治の課題	現在の地方自治の課題を、今までの講義をふまえて解説し、1 - 12回の講義のまとめを行う。
14回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず復習をすること。講義で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索するなど情報収集に努めること。自分の住んでいる自治体の財政状況などを調べる。日常的に地方自治に関連のありそうな新聞記事を読む習慣を身につけること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

特に参考書は指定しない。必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（70%）に授業内の小レポート・リアクションペーパーの提出状況等（30%）を加味し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

基本的に対面で授業を行うので、適宜質問の時間を設ける。また、メール等を通じた質問も歓迎する。地方自治に関心が持てるよう、身近なニュース等をお伝えするよう努める。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to learn the basics of local autonomy so that you can understand subjects related to other lectures of local government policies.

It is aim in this lecture to acquire the basic knowledge to be involved as taxpayers in the local government and to think it independently as citizens.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students will be expected to have read the relevant newspaper articles to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, Short reports : 30%

LAW200HA (法学 / law 200)

憲法の基礎

田上 雄大

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本国憲法とこれにかかわる事項について扱う。

憲法は、国の基本法である。この憲法には国家のシステムや基本権保障などが規定されている。日本におけるこれを現実の憲法問題を交えながら学修していく。これにより、日本に住む現代人として憲法にかかわるさまざまな問題を考えられるようにし、日常でさらなる知的発見を得るきっかけの場とする。

【到達目標】

1. 憲法の基礎的な内容について論じることができるようになる。
2. 国の仕組みやあり方について論じることができるようになる。
3. 社会におけるさまざまな問題について憲法という観点から論じることができるようになる。
4. 国ごとの違いについて理解し、それぞれの文化を尊重して論じることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

配布レジュメをもとに講義を行う。講義の終わりには時間を設け、とりわけ重要な質問に対しては、全体に向けて次の回に改めてフィードバックを行う。また学生の興味関心等に応じて講義内容をフレキシブルに対応することもありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、主権・国民	ガイダンスを行うとともに、主権や国民の概念について扱う。
2	憲法制定史（明治憲法・日本国憲法）	日本における憲法史を両憲法の制定や特徴等を軸に扱う。
3	基本権・基本的人権	憲法によって保障されている権利について扱う。
4	天皇・皇族	日本の憲法の独自性ともいえる天皇や皇族の憲法上のあり方について扱う。
5	法の下での平等	さまざまな平等観や差別と区別の違いについて扱う。
6	戦争放棄・自衛権	憲法9条や関連事項の制定過程や政府見解の変遷等について扱う。
7	内心の自由	内心の自由のあり方や限界について扱う。
8	信教の自由、政教分離	信教の自由の特徴や政教分離の概念について扱う。
9	表現の自由、知る権利	表現の自由の重要性とその制約について扱う。
10	身体的自由権	身体的自由権の特徴や論点等について扱う。
11	立法権	三権のうち立法権について扱う。
12	行政権	三権のうち行政権について扱う。
13	司法権、憲法改正	三権のうち司法権について扱う。 また憲法改正の概念や手続きについて扱う。

14 試験・解説等

これまでの知識の復習をかねた試験を行い、解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布したレジュメをもとに授業を進行する。
そのため、終了していない内容のレジュメを忘れずに持ってくる。

【参考書】

- ・東裕（編著）『憲法入門講義』（一藝社、令和3年）ISBN:978-4-86359-235-3
- ・青山武憲『新訂 憲法』（啓正社、平成12年）ISBN:978-4-87572-113-0

【成績評価の方法と基準】

最終試験：100%

自主レポートについては随時受け付ける。

【学生の意見等からの気づき】

必要に応じてHoppiiを活用できるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

質問等があれば講義終了後に対応します。

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【Outline (in English)】

(Course outline)

Constitutional Law is basic law for state. Students learn this in Japan mainly. As a result, students, as modern person living in Japan, will be able to consider various problems.

(Learning Objectives)

1. You will be able to discuss the basic contents of the constitution.
2. You will be able to discuss the structure of the state.
3. You will be able to discuss various issues in society from perspective of constitutional Law.
4. You will be able to understand the differences between countries and respect each culture.

(Learning activities outside of classroom)

For preparation and review time, students will be expected to spend each 2 hours.

(Grading Criteria/ Policy)

test 100%

LAW200HA（法学 / law 200）

刑法の基礎

渡辺 靖明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

備考（履修条件等）：環17：経、口

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「刑法」とは、「犯罪」と「刑罰」とを定めた法律（公的ルール）のことです。それでは、どのような行為が「犯罪」として処罰の対象となるのでしょうか。また、その前提となる刑法の原則とはどのようなものなのでしょうか。この授業では、これらについて具体的な事例を通じて、私たちの社会における刑法の意義と役割とを学びます。

犯罪に関するニュースなどを観ていると、法では、加害者を裁けなかったり、軽い処罰しかなされなかったりするときがある。法は加害者に甘すぎる！ それでは被害者（遺族含む。）が浮かばれない！ このように考える人が少なくないかもしれません。

犯罪の被害者に同情・共感することは、もちろん大切です。しかし、だからといって、その加害者を「敵」として、とにかく重く厳しく罰さえすれば、社会は安心・安全になるのでしょうか。加害者の立場・境遇にも思いをはせ、その言い分にも耳を傾けることも必要なのではないでしょうか。また、法が加害者に「甘い」ように見えるとしても、それはなぜなのでしょう。そして、それは本当に不当な「甘さ」なのでしょうか。

これらのことを冷静に考えるためには、刑法の意義・役割、またその原則の下で、どのような場合に「犯罪」が成立し、また「刑罰」が科されるのか。このことをきちんと理解する必要があります。その理解をせずに、ともかく加害者を徹底的に攻撃して社会から排除し、また加害者に「甘い」法には「不備」があるとして、犯罪の重罰・厳罰化を一方的に求めるのは、単なる「思考停止」です。それでは犯罪の根本的な原因を考えてこれを解消することもできず、犯罪による被害を真に防ぐことも難しくなるのではないのでしょうか。

この意味で、刑法の概要を学ぶことは、犯罪の加害者と被害者との関係をはじめとする現在の国内外の様々な「対立」と「分断」を乗り越え、私たちの誰もが他の人と仲良く共存しながら、自由に幸せに生きていける安心・安全な社会を築くためのヒントになるかもしれません。

【到達目標】

法と倫理・道徳との異同、刑法の意義・役割・限界、刑罰の目的や刑法と他の法律との関係を踏まえて、刑法の一般原則及び犯罪の一般的・個別的な成立要件等や、さらにこれに関する判例（裁判所の判断）及び学説（研究者の見解）を理解し、これらの基礎知識を修得することが、この授業の到達目標です。

レジュメには、〔確認問題〕・〔検討問題〕を適宜設けます。基礎知識修得の目安は、その各問題の解答と理由とを理解し、それを文章（言語）できちんと説明できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

レジュメ中の具体的事例を検討しながら、各回のテーマごとの理解をはかります。適宜コメントなどを提出してもらうことがあります。

小テスト（4回予定）については、解答期限後の授業ないし学習支援システムを通じて、簡易な解説を行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「刑法」とは何か。	法（律）の意義、法の体系及び「刑法」の意義と刑罰の限界を学ぶ。
第2回	殺人罪（1） －犯罪の一般的成立要件	犯罪の一般的成立要件及び刑法における人の「生」と「死」をめぐる議論などを学ぶ。
第3回	殺人罪（2） －犯罪の故意・過失	刑法の故意犯処罰の原則や犯罪の故意と過失の成立要件などについて学ぶ。
第4回	殺人罪（3） －胎児性致死傷	胎児性致死傷と罪刑法定主義との関係などを学ぶ。
第5回	傷害罪	傷害の意義及び傷害と傷害致死との関係（刑法の因果関係）などを学ぶ。
第6回	自殺関与・同意殺人罪	刑法における被害者の同意の意義及び同意の有効性などを学ぶ。
第7回	安楽死・尊厳死	終末期医療における安楽死・尊厳死と刑法との関係などを学ぶ。
第8回	刑罰論	国家が市民に刑罰を科することへの正当化根拠論などについて学ぶ（学習支援システムでアップする録音を聴いてもらう予定）。
第9回	脅迫罪・強要罪・監禁罪	意思決定の自由の罪の基礎を学ぶ。
第10回	不同意（強制）わいせつ罪・不同意（強制）性交等罪	性的自由に対する罪の基礎を学ぶ。
第11回	住居侵入罪	住居権・住居の平穩に対する罪の基礎を学ぶ。
第12回	名誉毀損罪・侮辱罪 真実性の証明による免責	名誉に対する罪の基礎及び刑法における名誉の保護と表現の自由の保障との関係を学ぶ。
第13回	財産に対する罪	財産に対する罪の共通原則及び個別の犯罪の基礎を学ぶ。
第14回	賄賂罪	汚職の罪（国家の作用に対する罪）の基礎を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布レジュメや刑法の参考書等で予習・復習をしてください。特に復習時には配布レジュメ中の各事例や〔確認問題〕・〔検討問題〕を中心に理解を深めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間が標準となります。

【テキスト（教科書）】

なし。配布レジュメを使用します。

【参考書】

特に指定はしません。お薦めの参考書は、開講時に説明します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業で扱った基礎知識を問う定期試験70%、学習支援システム上での小テスト20%、平常点（講師からの質問への回答など）10%の総合評価で行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、教材も含め事例が多くわかりやすく、受講前は難しいと思っていたが、ためになった、など好意的な意見をもらうことができました。これを本年度も維持できるよう努めます。特に最初は難しく感じるかもしれませんが、理解度を確認しながら、楽しく学べるよう心がけます。

一方で、授業でどこを扱っているのかわからないときがあった、授業についていくのが難しかった、との意見もありました。状況に応じて改善します。

【学生が準備すべき機器他】

コロナウィルスの感染予防及び省資源の観点から、レジュメを印刷して直接配布することはしません。学習支援システムで事前にレジュメをアップするので、自身でプリントアウトをして持参するか、または電子機器で閲覧、書き込み等ができるように準備をしてください。

【その他の重要事項】

必須ではありませんが、他の法律系科目もあわせて履修しておく
と、この授業の理解が一層深まるでしょう。また、私が担当する秋
学期開講の「環境法Ⅳ」では、「環境刑法」を扱います。「刑法の基
礎」を履修しておけば、同授業の理解が比較的容易になるかと思
います。

なお、刑法に限らず、法学は、自分のこれまでの断片的な知識・
思い込みによる私見だけを一方的に主張しても、修得したことには
なりません。条文、判例、学説を十分に理解することが必要です。受
講にあたり、また小テスト・定期試験受験時には、このことをよく
理解しておいてもらいたいと思います。

【Outline (in English)】

【Course outline】 What kind of action is subject to punishment
as a crime? What is the basic principle of criminal law to
consider crime and punishment? We will learn it through
concrete examples. And we will think the meaning and role
of criminal law in society.

Learning criminal law may be a hint to overcome various
divisions and build a society where everyone can live happily
while coexisting with others.

【Learning Objectives】 Acquiring basic knowledge of criminal
law is the goal of this class. [Confirmation question] and
[Examination question] are described in the resume. At the
end of this course, students are expected to understand answer
and its reason for each question and to be able to explain them
correctly in sentences.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each
class meeting, students will be expected to spend four hours to
understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will
be decided based on the following Termed examination:80%,
mini exam:20%

LAW300HA（法学 / law 300）

環境法 I

中山 敬太

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4
備考（履修条件等）：環Ⅰ：経、口
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、公害・環境問題の歴史の変遷等を踏まえ、環境法の理念・原則やその基本的な考え方・手法等を踏まえた上で、環境法の法体系(全体像)を含め総論部分を概説する。公害・環境問題を捉える上で、ローカル・リージョナル・ナショナル・グローバルというそれぞれの視点が重要になり、特に本講義では環境法をめぐる「制度」や「政策」等を中心に基本的な考え方やアプローチに関して、アクティブラーニングなどを取り入れながらポイントをおさえて解説する。

【到達目標】

■公害・環境問題の歴史を踏まえた上で、環境法の理念・原則やその基本的な考え方を理解できる。
■本授業が終了後も、自ら「環境法」を自立的かつ主体的に学ぶことができる基本的な能力とスキルを取得できる。
■メディア等で報道されている様々な社会の諸問題を「環境法」等の法的な思考で捉え、根拠を示して理論的に考え方(課題解決策)を示せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で授業を展開する。受講人数等にもよるが、判例分析等で適宜アクティブラーニングを取り入れ、グループディスカッションや全体討議等も行う場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・ワークショップ	本講義の内容や進め方などを概説する。
第2回	公害・環境問題の歴史の変遷	教科書等を用いて、「公害・環境問題の歴史の変遷」に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第3回	環境法の体系	教科書等を用いて、「環境法の体系」に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第4回	環境問題のリスクと不確実性	教科書等を用いて、「環境問題のリスクと不確実性」に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第5回	環境法の理念と基本的な考え方①(未然防止原則と予防原則など)	教科書等を用いて、「未然防止原則と予防原則」などに関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第6回	環境法の理念と基本的な考え方②(汚染者負担原則など)	教科書等を用いて、「汚染者負担原則」などに関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。

第7回	環境法の理念と基本的な考え方③(拡大生産者責任など)	教科書等を用いて、「拡大生産者責任」などに関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第8回	環境法の主体	教科書等を用いて、「環境法の主体」に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第9回	環境法・環境政策の手法	教科書等を用いて、「環境法・環境政策の手法」に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第10回	環境基本法	教科書等を用いて、「環境基本法」に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第11回	環境基本計画	教科書等を用いて、「環境基本計画」に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第12回	環境アセスメント制度	教科書等を用いて、「環境アセスメント制度」に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第13回	環境訴訟と環境紛争	教科書等を用いて、「環境訴訟と環境紛争」に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第14回	まとめ	授業の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義で取り扱う内容を教科書等で該当箇所を授業前後で熟読すること。また関連する判例の復習(読み直し)も行うこと。講義で扱った内容(判例を含む)を1度に限らず定期的に復習することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

■大塚直編(2024)『18歳からはじめる環境法(第3版)』法律文化社

【参考書】

■大塚大塚直(2020)『環境法(第4版)』有斐閣

■北村喜宣(2023)『環境法(第6版)』弘文堂

【成績評価の方法と基準】

平常点30%(出席は受講に際して前提となるが、授業時に出す課題の提出状況やリアクションペーパーの提出を課す場合がある)、期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

上記に記載の授業計画(シラバス)の各回のトピックは、習熟状況や進行状況等によって順番を変えたり、複数回にわたって授業内容を取り扱う場合がある。その場合は適宜授業でアナウンスを行う。

【Outline (in English)】

This class will explain the basic concepts, principles and approaches of environmental law. This class will also incorporate active learning methods such as discussions and workshops.

Evaluation : Attendance 30% and Final Examination 70%

LAW300HA（法学 / law 300）

環境法Ⅱ

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環Ⅰ：経、口

その他属性：〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、われわれが直面する環境問題について、これを解決する法分野のひとつである環境私法を学びます。

【到達目標】

環境問題に現実にかかわる上で必要な知識です。社会人として、この問題に直面したときに、法的な枠組みを用いて考えることができるようにすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この講義では、まず、環境私法の基礎理論となっている不法行為法を学びます。次に、民事差止訴訟や国家賠償法等について、わかりやすく解説します。また、環境問題を裁判によらずに解決するための紛争処理制度について概観します。その後、大気、水質、騒音、土壌といった具体的な環境汚染に関する民事判例について、その特徴を確認しながら検討していきます。最後に、風評被害訴訟を検証します。

なお、この授業は、対面授業として行われる予定です。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境問題と環境私法	環境問題と法の関係、環境法の中の環境私法の役割
第2回	不法行為法（1）	意味、成立要件、種類
第3回	不法行為法（2）	損害、請求権者、損害賠償の調整
第4回	不法行為法（3）	時効、共同不法行為
第5回	複合的大気汚染と共同不法行為	判例法の展開
第6回	民事差止訴訟等	環境問題における民事差止訴訟、消滅時効・除斥期間
第7回	土地工作物責任等	環境問題における土地工作物責任の応用、国家賠償法の適用
第8回	公害紛争処理制度等	公害紛争処理制度、協定による民事的紛争解決
第9回	大気汚染訴訟	大気汚染訴訟に関する判例理論の発展
第10回	水質汚濁・地下水関連訴訟	水質汚濁・地下水関連訴訟の具体例
第11回	騒音訴訟等	騒音訴訟、振動訴訟、悪臭訴訟、日照・通風・風害に関する訴訟の具体例
第12回	眺望権・景観権に関する訴訟	眺望権・景観権の具体例と限界
第13回	土壌汚染訴訟、企業資産における土壌汚染と情報開示	土壌汚染訴訟の具体例、企業資産における土壌汚染と情報開示の問題点

第14回 環境問題に起因する風評被害訴訟及び授業内試験 環境問題に起因する風評被害訴訟における因果関係、損害評価の難しさ及び授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業の最終回に実施される授業内試験により100%評価されます。

【学生の意見等からの気づき】

環境法の知識のない学生にも、そのレベルに幅があるので、学生の理解を確認しながら進めていきたいと思います。

【Outline (in English)】

< Course Outline >

This lecture will give you civil liability for environmental damage, which is one of the legal fields for solving this environmental problem facing us.

< Learning Objectives >

This class shows you the knowledge necessary to get involved in the reality of environmental problems. The goal is to be able to think in the legal framework when faced with these problems.

< Learning Activities outside of Classroom >

Students will be expected to prepare and review using the prints distributed in each class. Please study basic terms and legal logic with those prints. Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

The grades of this subject will be evaluated by the in-class examination conducted in the 14th class (100%).

LAW300HA（法学 / law 300）

環境法Ⅲ

中山 敬太

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4
備考（履修条件等）：環Ⅲ：経、口
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、「環境法Ⅰ」で取り扱った公害・環境問題の歴史、環境法の理念・原則やその基本的な考え方・手法等を踏まえた上で、環境法の法体系(全体像)から各個別法を概説する。また、本講義では各回の授業で取り上げるトピックに関連する判例分析もアクティブラーニング等を取り入れて実施する。環境法は憲法、民法、そして行政法など法領域も多岐に渡り、公害・環境問題を捉える視点は法律分野だけでなく、様々な学問領域が複雑かつ学際的に関わる領域となり、それらを体得する授業展開を実施する。

【到達目標】

■環境法の基本的な考え方を振り返った上で、個別環境法の制度と理論を具体的な国内外の事例(判例等)を踏まえて理解する。
■本授業が終了後も、自ら「環境法」を自立的かつ主体的に学ぶことができる基本的な能力とスキルを取得できる。
■メディア等で報道されている様々な社会の諸問題を「環境法」等の法的な思考で捉え、根拠を示して理論的に考え方(課題解決策)を示せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で授業を展開する。受講人数等にもよるが、判例分析等で適宜アクティブラーニングを取り入れ、グループディスカッションや全体討議等も行う場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義の内容や進め方などを概説する。
第2回	大気汚染防止法	教科書等を用いて、「大気汚染防止法」に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第3回	水質汚濁防止法	教科書等を用いて、「水質汚濁防止法」に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第4回	土壌汚染対策法	教科書等を用いて、「土壌汚染対策法」に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第5回	廃棄物処理法	教科書等を用いて、「廃棄物処理法」に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第6回	化学物質審査法・PRTR法	教科書等を用いて、「化学物質審査法やPRTR法」に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。

第7回	循環型社会形成推進基本法	教科書等を用いて、「循環型社会形成推進基本法」に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第8回	各種リサイクル法	教科書等を用いて、日本の各種リサイクル法に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第9回	生物多様性基本法	教科書等を用いて、「生物多様性基本法」に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第10回	自然環境保全法	教科書等を用いて、「自然環境保全法」に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第11回	国際環境法(海洋汚染問題を中心に)	教科書等を用いて、海洋汚染問題を中心に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第12回	景観法	教科書等を用いて、「景観法」に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第13回	環境法政策学への学際的アプローチ	本テーマについて話題提供をする。
第14回	まとめ	授業の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義で取り扱う内容を教科書等で該当箇所を授業前後で熟読すること。また関連する判例の復習(読み直し)も行うこと。講義で扱った内容(判例を含む)を1度に限らず定期的に復習することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

■大塚直編(2024)『18歳からはじめる環境法(第3版)』法律文化社

【参考書】

■大塚大塚直(2020)『環境法(第4版)』有斐閣
■北村喜宣(2023)『環境法(第6版)』弘文堂

【成績評価の方法と基準】

平常点30%(出席は受講に際して前提となるが、授業時に出す課題の提出状況やリアクションペーパーの提出を課す場合がある)、期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

上記に記載の授業計画(シラバス)の各回のトピックは、習熟状況や進行状況等によって順番を変えたり、複数回にあたって授業内容を取り扱う場合がある。その場合は適宜授業でアナウンスを行う。

【Outline (in English)】

This lecture will explain each topic regarding individual environmental laws. This class will also incorporate active learning methods such as discussions and workshops.

Evaluation : Attendance 30% and Final Examination 70%

LAW300HA (法学 / law 300)

環境法Ⅳ

渡辺 靖明

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金5/Fri.5

備考（履修条件等）：環Ⅲ：経、口

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

刑法は、「犯罪」と「刑罰」を定める法律（公的ルール）です。環境保全のためにも、刑法上様々な行為が犯罪とされ、刑罰（罰則）の対象とされています。しかし、環境を著しく汚染、破壊した人を犯罪者として重く罰しても、失われた環境は回復しません。それにもかかわらず、環境保全のために刑法（罰則）を用いることが常に必要かつ有用なののでしょうか。さらに言えば、「環境」は、身近なゴミのポイ捨てによっても、生成AIの利用に伴う電力の大量消費によっても、また攻撃（防衛）の兵器を用いた戦争によっても害されます。刑法を含めた「法」だけがこうした多様な環境破壊を防ぐための「最適解」なののでしょうか。

これらのことを考えるためには、刑法自体の目的・役割・機能と限界を知り、さらに刑法以外の民法や行政法による環境保全の規制との関係を正しく理解する必要があります。何より、現在の環境保全のための刑法（罰則）ひいては法の制度全体及び社会の在り方自体を広い視野で見ること欠かせません。それは、（生成AI（チャット））は決して教えてくれないであろう「環境」を「なぜ」、「どのように」保全すべきなのかについて、深く考えることにきっとつながるでしょう。

この授業では、刑法の基礎知識を学びつつ、法による環境保全の在り方と限界を理解して、私たち一人ひとりが環境保全のために何をすべきかを多角的な観点から考えられるようになることを目指します。

【到達目標】

法の保全の対象となる「環境」の意義や、環境保全をめぐる「刑法」（罰則）の体系、関連する基本的な判例（裁判所の法的判断）や学説（研究者の見解）を正しく理解して、環境保全への実践的な法の基礎知識を修得することが、この授業の到達目標です。

基礎知識修得の目安は、各回の教科書やその補充・追加のレジュメの内容を理解し、基本的な用語や概念の意味、具体的な事例や問題について、文章（言語）できちんと説明できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書とその補充・追加のレジュメをもとに、各回のテーマごとの理解をはかります。適宜コメントなどを提出してもらうことがあります。

小テスト（4回予定）については、解答期限後の授業ないし学習支援システムを通じて、簡易な解説を行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「刑法」の意義と限界	法（律）の意義、法の体系及び「刑法」の意義と限界を学ぶ。
第2回	「公害罪法」の挫折	「公害罪法」の意義と問題点を具体的な刑事裁判例を通じて学ぶ。
第3回	環境保全と刑法（1）－「環境」の意義	公害防止と環境保全との違いや、法における「環境」の意義などを学ぶ。

第4回	環境保全と刑法（2）－罰則の基礎	環境保全のための罰則の基礎として、刑罰と行政上の制裁との区別、両罰規定、直接罰と間接罰、危険犯の意義などを学ぶ。
第5回	環境保全と刑法（3）－自然生態系の保護	自然生態系（大気・水・土）の保護に関する法律と罰則の基礎を学ぶ。
第6回	環境保全と刑法（4）－動物愛護	動物をめぐる法の体系と罰則を通じて、「動物愛護」の意義を学ぶ（学習支援システムでアップする録音を聴いてもらう予定）。
第7回	廃棄物処理法の罰則（1）－廃棄物の処理体系と罰則	廃棄物処理法上の廃棄物の処理体系及びこれに関する罰則の基礎を学ぶ。
第8回	廃棄物処理法の罰則（2）－「廃棄物」	廃棄物処理法上の「廃棄物」の意義を刑事裁判例を通じて学ぶ。
第9回	廃棄物処理法の罰則（3）－廃棄物の「再生・循環利用」	廃棄物の「再生・循環利用」の法体系と関連する刑事裁判例を学ぶ。
第10回	廃棄物処理法の罰則（4）－不法投棄罪	廃棄物処理法上の不法投棄罪の基礎と関連する刑事判例及び学説を学ぶ。
第11回	廃棄物処理法の罰則（5）－不法焼却罪と業法違反の罪	廃棄物処理法上の不法焼却罪及び業法違反の罪の基礎と関連する刑事裁判例を学ぶ
第12回	リサイクル法・省エネ法の罰則	各種リサイクル法と省エネ法の体系と罰則の基礎を学ぶ。
第13回	刑事手続の概要	環境法上の犯罪を素材として、捜査・起訴・公判の刑事手続の基礎を学ぶ。
第14回	まとめにかえて一環境保全と民主政治・社会倫理	環境保全を支える民主政治の機能と社会倫理とは何かを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、配布レジュメで予習・復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間が標準となります。

【テキスト（教科書）】

長井圓編著、渡辺靖明ほか『未来世代の環境刑法1 Textbook 基礎編』（信山社、2019年）4,620円（税込）。

※下記参考書の『2』と間違えないように注意してください。

【参考書】

長井圓『未来世代の環境刑法2 Principles 原理編』（信山社、2019年）4,180円（税込）。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業で扱った基礎知識を問う定期試験70%、学習支援システム上での小テスト20%、平常点（講師からの質問へのコメントなど）10%の総合評価で行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、レジュメで重要な部分が簡潔にまとめられるなど見やすく工夫されていて満足している、定期的に質問に答えてもらったのでわからないところをそのままにせず理解することができた、など好意的な意見をもらうことができました。これを本年度も維持できるよう努めます。特に最初は難しく感じるかもしれませんが、理解度を確認しながら、楽しく学べるよう心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

コロナウィルスの感染予防及び省資源の観点から、レジュメの直接配布はしない予定です。学習支援システムで事前にレジュメをアップするので、自身でプリントアウトをして持参するか、または電子機器で閲覧、書き込み等ができるように準備をしてください。

【その他の重要事項】

必須ではありませんが、「環境法」等の他の法律系科目もあわせて履修しておく、この授業の理解が一層深まるでしょう。特に私が担当する春学期開講の「刑法の基礎」を履修しておけば、この授業の理解が比較的容易になるかと思います。

なお、刑法に限らず、法律学は、自分のこれまでの断片的な知識・思い込みによる私見だけを一方的に主張しても、修得したことにはなりません。条文、判例、学説を十分に理解することが必要です。受講にあたり、また小テスト・定期試験受験時には、このことをよく理解しておいてもらいたいと思います。

【Outline (in English)】

【Course outline】 We will study about “environmental criminal law”.

We will learn about the various meaning's environment and purposes of environmental conservation through law. And we will think the relationship and differences between criminal law and other laws, and especially the roles and limit of criminal law in environmental conservation.

【Learning Objective】 Our goal is able to consider from a broader perspective about why and how the environment should be conserved, taking into account the roles and limit of environmental conservation (criminal-) laws.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following Termed examination:80%, mini exam:20%.

LAW200HA（法学 / law 200）

国際環境法

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：環37：グ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

【到達目標】

国際環境問題に関する国際法の枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国際環境法の理論、判例についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	国際環境法の対象と 接近方法	アプローチ
第3回	国際環境法の形成 (1)	国際環境法の生成
第4回	国際環境法の形成 (2)	国際環境法の発展
第5回	国際環境法の展開	国際環境法の歴史的展開
第6回	国際環境法の性質 (1)	持続可能な発展
第7回	国際環境法の性質 (2)	世代間衡平、予防的アプローチ、 共通に有しているが差異ある責 任、人類共通の関心事
第8回	国際環境法の定立形 式	枠組条約と議定書
第9回	国際環境法の制度化	締約国会議、事務局、外部機関
第10回	国際環境法の手続的 義務	事前通報・協議制度、報告・審 査制度、情報交換、事前の情報 に基づく同意、環境影響評価、 モニタリング
第11回	国際環境法上の義務 の履行確保	不遵守手続
第12回	人権と環境	人権の国際的保障と環境
第13回	武力紛争と環境	国際人道法における環境保護
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
教科書の該当部分を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間
は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2026年。

繁田泰宏・佐古田彰編集代表、平野実晴共同編集『テキストブック
国際環境法』（東信堂、2026年）。

その他、授業内に指示する。

【参考書】

繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦編『ケースブック国際環
境法』東信堂、2020年。2,800円。

その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）。

期末試験以外の要素は考慮しない。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様の方法で進める。

【その他の重要事項】

旧科目名称「国際環境法Ⅰ」を修得済の場合、本科目の履修はでき
ない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照して
ください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the theory of international
environmental law. Students may learn the specific legal
framework of international environmental issues and gain
better understanding by reading leading cases.

Students are required to study at least 2 hours before or after
the class.

The course grade will be based on final paper (100%).

LAW300HA（法学 / law 300）

労働環境法

櫻井 洋介

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2
備考（履修条件等）：環37：経
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、労働者として自律的なキャリアを形成していく上で必要な労働法の基礎知識の習得を目指します。労働法の役割は、使用者と比べて相対的に立場の弱い労働者を保護し、労使対等の理念を実現することであり、全ての労働者が知っておくべき法律であるといえます。社会に出る前に労働法の基礎知識を習得しておくことは、将来的に自身の身を守ることにもつながります。

【到達目標】

労働法の基礎知識の習得を通じて、身近な労働に関する諸問題について、法的に説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態は基本的に講義形式となります。授業ごとに、小テストを課すことを予定しています。小テストの内容は、講義の中で解説をします。また、最終講義では論述試験を行います。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働環境法の全体像	労働関連法令の構成や全体像、役割等について学ぶ
第2回	労働者、使用者の概念と労働条件の決定	労働法のアクターである労働者や使用者の概念を学ぶとともに、労働条件の決定に関するプロセスを理解する。
第3回	募集・採用と様々な雇用形態	募集・採用時のルールや、採用内定および試用期間の法的性格、有期労働契約の特徴等について学ぶ。
第4回	賃金と労働時間・休憩・休日	賃金・労働時間・休日・休憩に関する基本的な法的ルールを学ぶ。
第5回	様々な働き方と労働時間制度	フレックスタイム制や裁量労働制等といった労働時間管理の諸制度の構造について学ぶ。
第6回	時間外労働と割増賃金の考え方	時間外労働や割増賃金に関する考え方等を学ぶ。
第7回	配置転換・労働条件の変更	配置転換や出向・転籍等の命令権に関する法律上の考え方を理解するとともに、労働条件を変更する際の手続について学ぶ。
第8回	安全衛生と労災補償	使用者の安全配慮義務や労災補償制度の概要を学ぶ。
第9回	労働組合の役割	労働組合の加入や脱退、権利の概要を学ぶとともに、団体交渉の意義や労働協約の法的効力等について学ぶ。
第10回	労働契約の終了：解雇規制と定年退職	解雇に関する法的な規制や定年退職および定年後の再雇用等に関するルールについて学ぶ。

第11回	労働者の人権保障とハラスメント規制	労働者の人権や労働契約上の権利義務、ハラスメントに関する法的規制の現況等について学ぶ。
第12回	平等原則と差別の禁止（女性、障害者、年齢、国籍等）	男女雇用機会均等法および障害者雇用促進法の制定や改正を中心として、労働法上の平等原則や均等待遇、差別禁止に関連する法令の全体像や概要を学ぶ。
第13回	新しい働き方と労働法の現代的課題	非典型雇用の他、フリーランス、ギグワーカー等といった新しい働き方を取り巻く労働環境や法の適用状況等について学ぶ。
第14回	期末テスト	授業内でテストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義の終わりに、次回講義に向けた予習内容を指示しますので、指示に従って該当箇所を熟読してから講義に臨むようにしてください。予習内容は、次週の講義内で紹介する判例を読み込んでもらうことを予定しています。また、復習を行う場合は、レジュメや教科書に目を通すだけでなく、講義内で紹介した判例の内容をしっかりと理解するようにしてください。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に教科書は指定しませんが、労働法の基本書を1冊購入することを推奨します。推奨図書は、参考書の欄をご参照ください。

【参考書】

水町 勇一郎『労働法〔第10版〕』（有斐閣、2024年）※第11版が2026年3月発刊予定。
浜村彰・唐津博・青野覚・奥田香子『ベーシック労働法第9版』（有斐閣アルマ、2023年）
中窪裕也・野田進『労働法の世界（第13版）』（有斐閣、2019年）
判例を学習する際の参考書として、『労働判例百選（第10版）』（有斐閣、2022年）

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに行われる小テスト（基本的な法規制や重要判例についての理解を確認するための選択・穴埋め式問題）を50%、期末試験を50%とします。

【学生の意見等からの気づき】

本講義では、法律科目の初學者向けに、必要に応じて期末テスト前に法律科目の試験答案の書き方等に関する説明を行う予定です。

【その他の重要事項】

本講義は、労働環境論Ⅰ、Ⅱと関係しています。本講義は主に「法律」に焦点を当てますが、労働環境論Ⅰ、Ⅱの講義を通じて、法律の背景にある労働環境の現状や変遷について学んでおくと、より理解が深まると思います。
また、本講義の担当教員は実務家教員であり、これまで金融機関や政府関連機関、コンサルティングファーム等、様々な組織での勤務経験を有しています。本講義では、担当教員の経験を交えながら、将来、学生の皆さんが企業等で働く上で必要となる法的知識を重点的に取り上げます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to provide students with the basic knowledge of labor law necessary to develop an autonomous career. The role of labor law is to protect workers who are in a relatively weaker position compared to employers and to realize the principle of equality between workers and employers, and it is a law that all workers should know. It is important for all workers to have a basic knowledge of labor law before starting their careers, so that they can protect themselves.

【Learning Objectives】

Students will be able to legally explain various labor-related issues in their daily lives through acquiring a basic knowledge of labor law.

【Learning activities outside of classroom】

At the end of each lecture, students will be given instructions on how to prepare for the next lecture (e.g., the relevant pages in the textbook). Please follow the instructions and read the relevant sections carefully before attending the lecture.

When students review the lectures, they should not only read through the resumes and textbooks, but also make sure that they fully understand the content of the precedents introduced in the lectures.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The quiz given in each class (multiple choice/fill-in-the-blank type questions to check understanding of basic laws and regulations and important judicial precedents) will be 50%, and the final exam will be 50%.

LAW300HA（法学 / law 300）

アメリカ環境法

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考（履修条件等）：環37:経,グ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アメリカ環境法の基本を学びます。アメリカ環境法には、優れた環境影響評価、土壌汚染対策、自然保護に関する法制度があります。その一方で、大気汚染の防止については、世界的潮流から距離を置いています。このような特徴を学びます。

【到達目標】

社会に出て、国際的な影響力のあるアメリカ環境法に關係する業務に向き合ったときのために、基本的な理解力をつけることを目指します。また、アメリカ環境法の特徴を学ぶことで、わが国の環境法を考えるとときに、比較して検討できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この講義では、法学を専門としていない学生を対象に、アメリカ環境法を講義します。なお、この授業は、対面授業で行われます。また、対面授業に参加できなかった方のために、パワーポイントは、Hoppiに開示しておきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	アメリカ環境法の概要	連邦政府と州の環境法、政府機関や環境NGOの果たす役割
第2回	アメリカ環境法の歴史	環境規制の始まりと現代的展開
第3回	連邦環境政策法（1）	環境影響評価の仕組み
第4回	連邦環境政策法（2）	具体的事例の検討
第5回	大気汚染防止法	規制内容と具体的訴訟
第6回	水質汚濁防止法	規制内容と具体的訴訟
第7回	土壌汚染対策に関連する規制	スーパーファンド法等
第8回	廃棄物・化学物質に関する規制	資源保護回復法等
第9回	自然保護（1）	海、河川、湿地等の保護
第10回	自然保護（2）	森林の保護・国立公園制度
第11回	自然保護（3）	絶滅危惧種等の保護
第12回	エネルギー法	化石エネルギー、核エネルギーと法、自然エネルギーと法
第13回	コモンローと環境法	州法で特徴のある環境規制
第14回	軍と環境法及び、授業内試験を実施	軍に対する国内外での環境規制を学んだ後、授業内試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたパワーポイント等で、基本的な用語や論理を勉強して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したパワーポイントと、まとめPDFファイルをHoppiにて配布します。

【参考書】

ジェームズ・サルズマン、パートン・H・トンブソン Jr.『現代アメリカ環境法』（尚学社、2022年）、ダニエル・A・ファーバー『アメリカ環境法』（勤草書房、2020年）、畠山武道『アメリカ環境政策の展開と規制改革—ニクソンからバイデンまで（アメリカ環境法入門3/現代選書）』（信山社、2022年）。

【成績評価の方法と基準】

授業の最終回に実施される授業内試験により100%評価されます。

【学生の意見等からの気づき】

動画等を用いたわかりやすい授業をこれからも実施していく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

授業を見るためのパソコン又はスマホを準備して下さい。

【Outline (in English)】

< Course Outline >

This course will give you the fundamental principles of United States environmental law. Among those, the National Environmental Policy Act, Superfund (CERCLA) and nature conservation law are highly evaluated. On the other hand, the prevention of air pollution is lagging behind the global tide.

< Learning Objectives >

The goals of this course is to develop a basic understanding of the internationally influential American environmental law. In addition, by learning the characteristics of American environmental law, you will be able to compare it with environmental law in Japan.

< Learning Activities outside of Classroom >

Students will be expected to prepare and review using the prints distributed in each class. Please study basic terms and legal logic with those prints. Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

The grades of this subject will be evaluated by the in-class examination conducted in the 14th class (100%).

POL300HA（政治学 / Politics 300）

エネルギー政策論

久谷 一郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、エネルギー・気候に係る国内外の情勢と、その課題解決に向けた対応のあり方をテーマとします。国内外のエネルギー・気候問題の現状について、統計などの諸資料を活用しながら客観的な理解を深めます。理論よりも、実践的な知見や視点を伝えることを重視します。これらの学びをもとに、エネルギー・気候に関わる様々な課題を捉える視点を獲得し、課題解決に向けた政策や行動の選択肢を学びます。そのうえで、エネルギー問題および地球温暖化問題の解決のために国家や産業、国際社会が何をすべきかを主体的に考える力を習得します。

【到達目標】

現代社会の重要課題の一つであるエネルギー・気候変動問題について、受講生が自らデータと事実に基づいて広い視野から主体的に考察できるようになることを目標とします。そして、将来に向けて新たな問題を発掘し、課題解決について思考、議論できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国内外のエネルギー・気候問題について、スライドを利用しながら講義形式で解説します。第1回の授業で、エネルギー・気候問題に関する受講生の関心を聴取します。聴取した結果は、第2回以降の授業で取り扱うテーマや解説の軽重に反映します。毎講義の終了時に、理解度を確認するためにリアクションペーパーを提出してもらいます。講義期間を通じて最低1回グループで議論を行い、結論を導き出す演習を行います。また、ショートペーパー（1,000-1,500字）を1回提出してもらいます。

講義は対面を原則としますが、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロ	授業の狙い、構成、成績評価など
2	日本のエネルギー問題	石油危機や東日本大震災の影響など
3	今日のエネルギー問題1	至近の情勢、注目点（エネルギー需給、国際情勢など）
4	今日のエネルギー問題2	至近の情勢、注目点（再エネ、原子力、など）
5	途上国のエネルギー問題1	途上国固有の課題と対策（SDGsの優先順位、都市化の問題、など）
6	途上国のエネルギー問題2	途上国固有の課題と対策（補助金、人口動態、など）
7	エネルギー産業と市場	国内外のエネルギー産業の構造、市場の役割など
8	地球温暖化とエネルギー	気候変動問題の背景、コストの視点など
9	省エネルギー	省エネルギーの意義、手法、政策など

10	水素、ネガティブエミッション	熱需要の脱炭素、水素、CCSなど
11	脱炭素技術と重要鉱物	脱炭素技術・重要鉱物のリスクと対策など
12	産業戦略とエネルギー・気候問題	米国や欧州、中国との競争など
13	演習	ある国のデータをもとに優先度の高い政策を議論、成果を発表
14	国際エネルギー秩序、まとめ	国際市場の安定を図る仕組みなど 受講生の関心に応じて自由に議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業に用いるスライドは事前に配布するので、予め目を通しておくことで理解が深まります。復習では、授業を振り返るとともに、授業を通じて関心を持ったトピックスについて関連情報を収集し問題意識の醸成に努めることで、主体的に課題を発掘する力が養われることが期待できます。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。担当教員が作成する資料（スライド）をもとに毎回授業を進めます。

【参考書】

特定の参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加率・理解度（配点50%）、および1回のショートレポート提出（配点50%）をもとに総合判断します。毎回のリアクションペーパーにおける発展的な考え、議論の提示を加点評価します。逆に、低い授業参加率（1/3以上の欠席）やレポート提出の遅れは減点評価します。

【学生の意見等からの気づき】

第1回授業における学生からの関心表明を踏まえて、2回目以降の授業にメリハリを付けます。

毎回のリアクションペーパーで提示された質問は、代表的なものについて次の講義で回答します。

レポート課題の内容や回数・提出期限などの周知を、講義を通じて徹底します。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

This course focuses on the global and domestic energy and climate situation, as well as the challenges it presents and how they can be addressed. Students will develop an objective understanding of the current state of energy and climate issues worldwide by analyzing statistical data and other facts. The emphasis is on conveying practical insights and perspectives rather than theory. Building on these insights, students is expected to develop a framework for understanding various energy and climate challenges and explore policy and action options for addressing them. Furthermore, students will develop the ability to consider proactively what nations, industries and the international community should do to solve energy problems and issues of global warming.

This course aims to enable students to examine energy and climate change issues — a critical challenge in modern society — independently and from a broad, data- and fact-based perspective. Furthermore, it seeks to develop students' ability to recognize emerging issues and engage in thoughtful discussion and problem-solving.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Slides for the class will be distributed in advance, and suggested to read them beforehand to deepen your understanding. In the review, students are expected to review the class, gather relevant information on topics of interests so that to widen his/her knowledges.

Comprehension of the course (50%) and a short report (50%) will be used to make an overall assessment. Understanding of the class will be assessed by the reaction paper for each lecture. Short reports will be assessed by its submission and performance. Students will receive extra credits for presenting advanced ideas and discussions in each reaction paper. While the credit will be reduced by less class attendance and late submission of the short paper.

POL300HA (政治学 / Politics 300)		
地球環境政治論		
横田 匡紀		
配当年次／単位：2～4年／2単位		
開講セメスター：春学期授業/Spring 曜日・時限：月2/Mon.2		
備考（履修条件等）：環37:G,サ		
その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉		

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

パリ協定、気候変動問題の事例にも示されるように、なぜ地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成は困難に直面するのでしょうか？ 地球環境問題への解決やSDGsに向けて国際社会が合意し、持続可能な世界を構築するためには、合意形成のメカニズムを理解することが必要となります。

この講義は地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成のメカニズムを対象とし、パリ協定、気候変動問題、SDGs、トランプ政権などの事例をとりあげるとともに、国際関係論、グローバル・ガバナンス論の理論枠組みを理解していくことを目的とする。学生には、地球環境政治をめぐる様々な問題を考え、グローバル市民社会の一員としてSDGsや持続可能な世界のあり方を考える視座を獲得してもらうことをめざす。

【到達目標】

- ・パリ協定、気候変動問題、SDGsなどを事例に、地球環境問題をめぐる合意形成のメカニズムを国際関係論の視点から理解できるようになる。
- ・地球環境問題をめぐる国際機構や環境NGO、企業といった様々なアクターの活動が理解できるようになる。
- ・SDGsやプラスチック汚染など近年の地球環境ガバナンスの課題を理解できるようになる。
- ・日本やアメリカの地球環境外交を理解できるようになる。
- ・ヨーロッパやアジアなど地域レベルごとの多様な環境ガバナンスの現状を理解できるようになる。
- ・グローバル・ガバナンス、地球環境ガバナンスといった国際関係論の視点を理解できるようになる。
- ・トランプ政権による地球環境政策への影響を理解できるようになる。
- ・貿易と環境、環境と安全保障、コロナ禍やウクライナ情勢の影響といった複合的な問題をめぐる合意形成のメカニズムを理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この講義では、国際関係論やグローバル・ガバナンスの視点からこの問題にアプローチし、どのようなアクター（国際機構、NGO、企業など）がどのような手段（国際レジームなど）で、どのような問題（気候変動問題やSDGsなど）に取り組み、どのような成果と課題があるのかを確認していく。また講義の各論点とSDGsとの関連についても言及し、SDGsに対する理解を深めることができるように配慮する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。小課題などに対するフィードバックは授業支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	なぜ地球環境政治論を学ぶのか：人類世、地球の限界、地球環境ガバナンスへの逆風

第2回	地球環境ガバナンスの展開	地球環境政治の歴史的展開：国連人間環境会議からSDGsまで
第3回	気候変動ガバナンス(1)	パリ協定などの気候変動ガバナンスの概要
第4回	気候変動ガバナンス(2)	気候変動ガバナンスの新たな展開：気候正義、気候安全保障、ダイベストメント、温暖化懐疑論
第5回	地球環境ガバナンスの課題(1)：生物多様性と化学物質管理の問題をめぐるグローバル・ガバナンス	名古屋議定書などの生物多様性や水俣条約などの化学物質管理をめぐるグローバル・ガバナンスの概要
第6回	地球環境ガバナンスの課題(2)：SDGs、プラスチック	SDGsやプラスチック汚染など近年の地球環境ガバナンスの課題を学ぶ
第7回	欧州の環境ガバナンス	先進的な環境政策をとる欧州での環境ガバナンスの展開：規範パワー、排出量取引、再生可能エネルギー、REACH、ドラギレポート
第8回	アジアの環境ガバナンス	アジア地域の環境ガバナンスの動向：黄砂、酸性雨、PM2.5、煙霧(Haze)
第9回	地球環境ガバナンスにおけるアメリカ	アメリカの地球環境外交：オバマ政権、トランプ政権、バイデン政権、第2次トランプ政権、エネルギー政策、環境正義、温暖化懐疑論
第10回	トランスナショナルな地球環境ガバナンス(1)	NGOや企業などの非国家アクターの役割：地球環境条約に関わる活動
第11回	トランスナショナルな地球環境ガバナンス(2)	NGOや企業などの非国家アクターの活動の新たな展開：CSR、FSC、MSC、ESG投資など
第12回	地球環境ガバナンスにおける日本の役割	日本の地球環境外交：持続可能な発展、地球サミット、京都議定書、名古屋議定書、水俣条約、グリーントランスフォーメーション
第13回	地球環境政治の見方(1)	リアリズムとリベラリズム
第14回	地球環境政治の見方(2)	コンストラクティヴィズム、グローバル・ガバナンス論、パワートランジション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義の各項目について理解できるようにしておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄・山本直編『国際関係論（第4版）』弘文堂、2025年

【参考書】

高橋洋『エネルギー転換の国際政治経済学』日本評論社、2021年
宮永健太郎『持続可能な発展の話』岩波書店、2023年
東京大学 気候と社会連携研究機構編『気候変動と社会』東京大学出版会、2024年
服部崇『気候変動規範と国際エネルギーレジーム』文真堂、2021年
渡邊智明『有害廃棄物に関するグローバル・ガバナンスの研究』ミネルヴァ書房、2022年
舩方周一郎『つながりと選択の環境政治学』晃洋書房、2022年
宇治梓紗『環境条約交渉の政治学』有斐閣、2019年
蟹江憲史『SDGs(持続可能な開発目標)』中公新書、2020年
鄭方婷『重複レジームと気候変動交渉』現代図書、2017年
村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ 3版』有斐閣、2023年
前田幸男『「人新世」の惑星政治学』青土社、2023年
多湖淳『国際関係論』勁草書房、2024年
大芝亮『国際政治理論』ミネルヴァ書房、2016年

西谷真規子・山田高敬編『新時代のグローバル・ガバナンス論』ミネルヴァ書房、2021年。

山本吉宣『国際レジームとガバナンス』有斐閣、2008年
草野大希ほか編『国際関係論入門』ミネルヴァ書房、2023年
関山健『気候安全保障の論理』日経BP、2023年

小田桐確編『安全保障化の国際政治』有信堂、2023年
藤原帰一編『気候変動は社会を不安定化させるか』日本評論社、2022年
西村智朗『気候変動問題と国際法』信山社、2024年
藤田大智『国家平等の形成と課題』信山社、2023年
畠山武道『アメリカ環境政策の展開と規制改革』信山社、2022年
蓮見雄・高屋定美編『カーボンニュートラルの夢と現実』文真堂、2025年

庄司真理子ほか編『新グローバル公共政策(改訂第3版)』見洋書房、2025年

田所昌幸『世界秩序』中央公論社、2025年

赤星聖ほか『国際機構論』法律文化社、2025年

吉沢晃『はじめての国際政治経済学』法律文化社、2025年

【成績評価の方法と基準】

課題類の提出を前提として、期末試験90%、平常点10%で評価する。期末試験についてはレポートテストになる。平常点については、毎回の小課題の提出とその内容について判断する。小課題のフィードバックについては、学生からのリクエストに応じて授業サイト上で行う。

毎回の小課題の提出が不十分だと成績評価の対象となりませんので注意してください。

学習したことを評価するので、学習していないということのないように注意してください。

課題・レポート作成時における生成AIの使用は認めていません。

【学生の意見等からの気づき】

学生のペースに配慮すること。

【その他の重要事項】

講義内容に関わるドキュメンタリービデオを随時用いていきます。

進度により講義内容を変更することがあります。

課題提出と資料配布は学習支援システムを通じて行う。

感染症対策には十分な配慮をします。

半数以上の授業回を対面で実施します。前半を対面、後半以降はオンラインとする予定です。授業回の半数以上での対面受講を求めます。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

For better understandings of sustainable world society, this course aim to provide a wide range of knowledge about global environmental politics from viewpoints of discipline of the International Relations
Course topics.

- ・ History of global environmental governance.
- ・ Global climate governance(The Kyoto Protocol, The Paris Agreements).
- ・ Global biodiversity governance.
- ・ Global chemical governance.
- ・ Global environmental governance of SDGs and Plastic issue
- ・ Environmental governance of the European Union.
- ・ Environmental governance in Asia
- ・ Environmental policy in the U.S.
- ・ Transnational environmental governance (Non-state actors, NGOs, Business and local actors).
- ・ Japan's global environmental diplomacy.
- ・ Theories of global governance (Realism, Liberalism, Constructivism and Global governance)

【到達目標 (Learning Objectives)】

- ・ Students will be able to understand the mechanisms of consensus building on global environmental issues from the perspective of international relations, using the Paris Agreement, climate change issues, and SDGs as examples.
- ・ To be able to understand the activities of various actors such as international organizations, environmental NGOs, and corporations in relation to global environmental issues.
- ・ To be able to understand recent global environmental governance issues such as SDGs and plastic pollution.

・ Understand the global environmental diplomacy of Japan and the United States

・ To be able to understand the current status of various environmental governance systems at the regional level in Europe and Asia.

・ To be able to understand the perspectives of international relations theory, such as global governance and global environmental governance.

・ Students will be able to understand the impact of the Trump administrations on global environmental policy.

・ To be able to understand the mechanism of consensus building on complex issues such as trade and environment, environment and security.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Students should be able to understand each item in the lecture. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Assessments will be made on the basis of a final exam (90%) and a normal score (10%). The final exam will be a report test. Ordinary points will be based on the submission of small assignments and their contents. Feedback on small assignments will be provided on the class website upon request from students.

ARSa400GA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 400）		
地域協力・統合		
大中 一彌		
配当年度／単位：2～4年／2単位		
開講セメスター：秋学期授業/Fall 曜日・時限：月4/Mon.4		
備考（履修条件等）：環コア：グ／主催：国際文化		
その他属性：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。		
授業を紹介する動画を2つ用意しました。ぜひご覧ください： 《なぜ国は買えないのか》 https://x.gd/aZ8no ※学内者限定 《西ヨーロッパと自由》 https://x.gd/6bP6e ※学外からも閲覧できます。		
学内には他にもヨーロッパ関連の科目があります。これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、高校までの世界史の知識を確かめながら、思想史や文化史に軸足をおきつつ、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき基礎教養として、「ヨーロッパとは何か」について学ぶ点にあります。過去と現在を往復しながら、とくにヨーロッパと、その外部とされるものの境界（ボーダー）に焦点をあてつつ、認識をほりさげていきます。		
【到達目標】		
①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べるができる。		
②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。		
③西ローマ帝国崩壊前後以降、10世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。		
④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパや、イスラームの拡大を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。		
⑤ルネサンス期を特徴づけるユマニズムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革がもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。		
⑥中央集権化やヨーロッパ外における植民地をめぐる争い、「文芸の共和国」の出現など、一連の政治的文化的な変化を背景としつつ、商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。		
⑦イギリス、アメリカ、フランスや他のヨーロッパ諸国にみられる市民的権利にもとづく思想・制度の発達について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
・この科目「地域協力・統合」は、2025年度にひきつづき、2026年度も、リアルタイム・オンラインで実施します。		
・授業時間（100分）の前半65分程度は、受講者全体へのフィードバック（15-20分）と講義（45-50分）にあてています。		
・授業時間（100分）の後半35分程度を、グループディスカッションにあてています。		
・毎回の授業資料はGoogle Classroomをつうじて事前に配布しています。		
・学習支援システム-Hoppiiを利用し、小テストを受験してもらう場合があります。		
・基本的にリアルタイム・オンラインですが、授業内容の録画を、受講者の個人情報保護に留意しつつ、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：オンライン/online		
回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
4	考古学的定義	ギリシア世界

5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ
6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニズム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16世紀-17世紀のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、チューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争。西ヨーロッパ諸国間の紛争の新大陸やアジアにおける展開
13	「主権」の発動たる戦争、その悲慘を目の当たりにした人々による平和の希求	ジャック・カロ「戦争の悲慘」。クリュセ、コメニウス、ベンラに芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 小テストが宿題として出されます（ネット上で受験）
- グループ・ディスカッションの課題の提出（授業時間内に提出まで至らなかった場合のみ）
- 本学学習基準によると、講義や演習で2単位を得るのに必要な予習・復習の時間は1回につき4時間以上とされているようです。

【テキスト（教科書）】

教科書を買う必要はありません。Google Classroom上で資料を配布します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- 1. 期末テストは行いません 0%
- 2. 期末レポートは出題しません 0%
- 3. 小テストの受験【インターネット上において授業時間外に受験するため、体育会や就職活動中の学生、所属キャンパスを問わずすべての学生がオンラインで受験できます（※1）】60%
（※1）小テストは授業の復習であり、授業で配る資料をみれば、簡単に答えられるやさしい内容です。
- 4. オンライン授業への参加【リアルタイム・オンライン授業＝月4限のZoomミーティングへの各学生による接続（※2）】20%
（※2）ただし、第1回、第2回、第14回のリアルタイム・オンライン授業（Zoomミーティング）の活動についてのみ、この項目●4.ではなく、●6.における評価対象といたします。
- 5. グループ・ディスカッション&学生間の共働【グループ・ディスカッションにおける意見交換への積極的参加や、グループ・ディスカッションにおける学生間のやりとりのとりまとめ、所定のGoogleフォームを用い、とりまとめた成果物を教員に提出（送信）する、等（※3）】20%
（※3）グループ・ディスカッションは、3～6人程度の学生グループをZoomのブレイクアウト・ルーム機能を用いて毎回新たに作り、複数人の共同作業として行っています。Zoomに接続し、他の学生と共に議論に参加していたことがグループとして提出した成果物に記載されていれば、加点されます。
- 6. その他【1.～5.の合計100%には含めず、その外枠で10%程度まで加算します。】
（ア）運営への協力（協力してくれた方に加点しています；たとえば配布資料の誤字や、WebClassやGoogle Classroom等のLMSの設定の誤りの指摘。授業参加者間の連絡や情報共有に積極的に取り組んでくれたといった形の運営協力が加点の対象）
（イ）第1回、第2回、第14回のリアルタイム・オンライン授業（Zoomミーティング）と関連する活動への参加
（ウ）小テスト以外の提出物（アンケート等）で加点対象とするものが提出された場合

【学生の意見等からの気づき】

- ・ヨーロッパの文化史や政治史、経済史についての学びは、大人の教養として経験しておいたほうが良さそうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
- ・この科目「地域協力・統合」は、高校までの学習内容を確認しながら、大学の学部レベル以上の内容に深めていくという組み立てとすることで参加のハードルを下げ、そうした方（かた）が必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google ClassroomやWebClassを使いますので、必要な機器や情報環境はお持ちであったほうが良いでしょう。

【その他の重要事項】

- ・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。

- ・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
- ・問い合わせ先や、授業内容のイメージについては、次のリンク先をご覧ください（Word ファイル）<https://x.gd/1W2Mf>

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. In this class, students will examine the question with an emphasis on the history of ideas and culture. Starting with the geographical notion of Europe as a "continent", students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity. She or he will move back and forth between the past and the present, focusing in particular on the ambivalence of the boundaries between Europe and its "others", in order to deepen her or his understanding of the question.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Expressing her or his own views about the geographical spread of "Europe".
- 2) Relating the notion of "Europe" to the cultural, political, and philosophical legacies of ancient Greece, Hellenism, and Rome, and making an argument at a level appropriate for an undergraduate student.
- 3) Discussing, at a level appropriate for undergraduate students, the Great Migration of Germanic, Norman, and Slavic peoples and the formation of "Europe", in relation to the history of each country from the time of the collapse of the Western Roman Empire to the 10th century.
- 4) Explaining the relationship between Western Europe in the Middle Ages, which was formed around Catholicism, and Eastern Europe, which was formed around Orthodoxy, and the expansion of Islam, at a level appropriate for undergraduate students.
- 5) Describing, at a level appropriate for undergraduate students, the significance of humanism, which characterized the Renaissance, the impact of the so-called "Age of Discovery" on non-European countries, and the redefinition of the relationship between faith and politics resulting from the Reformation.
- 6) Arguing, both positively and negatively, about the "Eurocentric" consciousness that emerged through the development of commerce under a series of political and cultural changes, including the centralization of power, wars in colonies outside Europe, and the emergence of the "Republic of Letters".
- 7) Illustrating the significance for modern societies of the development of civil rights-based ideas and institutions with historical events in the United Kingdom, the United States, France, and other European countries at a level appropriate for undergraduate students.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

- 1) A simple quiz will be given almost every week as homework. Participation in this quiz is mandatory for all students taking the course. In order to answer this quiz, students need to use the learning support system - Hoppii (on the Internet).
- 2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Based on the following grading methods, students who have achieved at least 60% of the achievement objectives for this class will be considered to have passed the class (C minus or better on a letter grade basis).

1. No final exam will be given. 0%.
2. Attendance will not be taken 0%.
3. Quiz Examination [All students, regardless of their campus affiliation, including athletics and job-seeking students, can take the quiz online because of the use of Hoppii] 61%.
4. Group discussion and collaboration among students [Participation in group discussions, group discussion on Google Classroom, and sending the results to instructors, etc.] 25%.
5. End-of-term report (to be submitted only by those who wish to do so): 14%.

POL100AC (政治学 / Politics 100)

行政学 I

林 嶺那

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

備考（履修条件等）：環コア：□／主催：法

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、主に日本を素材として、行政や官僚制の構造と機能の解説を行う。

【到達目標】

行政や官僚制の構造と機能に関する基本的なテーマを理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

行政や官僚制の構造と機能に関わる13のトピックを、1回の授業で1つずつ取り上げ、逐次解説を行う。授業は一般的な座学の形式をとる。授業の最後にコメントを回収し、次の回の冒頭でフィードバックを行う。学期の中間と最後に計2度の定期試験を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の狙いと方針について論じる。
第2回	官僚制①	官僚制の諸モデルについて論じる。
第3回	官僚制②	政官関係について論じる。
第4回	議院内閣制と大統領制	議院内閣制と大統領制の下での行政の位置づけについて論じる。
第5回	公務員制度とその運用	公務員の採用・昇進・配置について論じる。
第6回	省庁	日本の中央省庁を中心とした行政組織について論じる。
第7回	予算編成	予算の編成プロセスについて論じる。
第8回	地方自治①	地方自治の諸アクターについて論じる。
第9回	地方自治②	政府間関係について論じる。
第10回	政府と市場	政府と市場の関係性について論じる。
第11回	ガバナンス	統治をめぐるアクター間の関係性について論じる。
第12回	政策類型	政策の類型について論じる。
第13回	アジェンダ設定	アジェンダ設定の理論と実証について論じる。
第14回	政策決定	政策決定と合理性について論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

行政に関する新聞、インターネット、テレビ、雑誌等の情報に接するように努力する。本授業の準備学習・復習時間は、教科書購読15分、新聞閲読毎日15分×7日＝115分、合計120分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

真淵勝（2020）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価4290円
曾我謙悟（2022）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価2970円

【成績評価の方法と基準】

①平常点（40％）

コメントを提出

各回のコメントを3段階で評価（おおむね2:6:2）

②期末試験（60％）

持ち込み不可

単語穴埋め問題、論述問題

【学生の意見等からの気づき】

前年度は受講者が300人ほどの多数に及び、学生相互のディスカッションを行うことが困難であった。その分、コメントに対する応答に時間を割くことで、一定の双方向性を担保することに努めた。今年度も、コメント対応に時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

新聞／雑誌を読む。

【Outline (in English)】

This class covers the structure and function of public administration and bureaucracy, based mainly on Japan.

POL100AC (政治学 / Politics 100)

行政学Ⅱ

林 嶺那

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

備考（履修条件等）：環コア：口／主催：法

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、主に日本を素材として、行政や官僚制の構造と機能の解説を行う。

【到達目標】

行政や官僚制の構造と機能に関する基本的なテーマを理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

行政や官僚制の構造と機能に関わる13のトピックを、1回の授業で1つずつ取り上げ、逐次解説を行う。授業は一般的な座学の形式をとる。授業の最後にコメントを回収し、次の回の冒頭でフィードバックを行う。学期の中間と最後に計2度の定期試験を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の狙いと方針について論じる。
第2回	政策決定	利益・制度・アイディアについて論じる。
第3回	政策実施	第一線公務員論等の政策実施論について論じる。
第4回	政策評価	政策評価について論じる。
第5回	行政組織の研究系譜	行政組織をめぐる研究史について論じる。
第6回	マネジメントの公民比較	マネジメントに関する公民の異同について論じる。
第7回	人事行政①	モチベーションについて論じる。
第8回	人事行政②	リーダーシップ、チームワークについて論じる。
第9回	価値	行政組織が目指す価値について論じる。
第10回	組織文化	行政組織をめぐる組織文化について論じる。
第11回	組織変革	行政組織の変革について論じる。
第12回	行政と技術	行政における技術の導入と利用について論じる。
第13回	管理とパフォーマンス	行政管理とパフォーマンスの関係について論じる。
第14回	日本の行政システム	日本の行政システムの特徴について論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

行政に関する新聞、インターネット、テレビ、雑誌等の情報に接するように努力する。本授業の準備学習・復習時間は、教科書購読15分、新聞閲読毎日15分×7日＝115分、合計120分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

真淵勝（2020）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価4290円

曾我謙悟（2022）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価2970円

【成績評価の方法と基準】

①平常点（40％）

コメントを提出

各回のコメントを3段階で評価（おおむね2:6:2）

②期末試験（60％）

持ち込み不可

単語穴埋め問題、論述問題

【学生の意見等からの気づき】

前年度は受講者が300人ほどの多数に及び、学生相互のディスカッションを行うことが困難であった。その分、コメントに対する応答に時間を割くことで、一定の双方向性を担保することに努めた。今年度も、コメント対応に時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

新聞／雑誌を読む。

【Outline (in English)】

This class covers the structure and function of public administration and bureaucracy, based mainly on Japan.

ECN200HA（経済学 / Economics 200）

ミクロ経済学 I

芦田 登代

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：環17：経

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済活動の基礎となる消費者と企業の行動原理を理解し、それらをもとに需要曲線と供給曲線がどのように導かれるのかを学ぶ。市場メカニズム（見えざる手）が資源配分を効率化する仕組みを理解する一方で、公害や公共財など市場が機能しないケース（市場の失敗）についても学習する。これらを通じ、現実の経済問題において家計・企業・政府がどのような役割を果たしているのか、また社会全体の厚生を高めるためにどのような選択を取ることが望ましいのかを考察する力を養う。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の基本的な専門用語や概念を理解し、説明できる。
- ・市場メカニズムによる資源配分の仕組みと、市場の失敗に対する政府の役割について体系的に説明できる。
- ・ミクロ経済学の考え方をを用いて、身近なニュースや日常生活の出来事を論理的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書に基づいて授業を行い、学習支援システムに配布資料や授業のお知らせ等を掲載します。また、復習の一環として、リアクションペーパーやオンライン教材を用いた数問のクイズを課題として出題し、それらへのフィードバックは授業内に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業の全体の内容や進め方の説明、人間環境学部としてのミクロ経済学を学ぶ意義についての解説
第2回	経済学の原理と実践	経済学の基礎となる考え方を学ぶ
第3回	経済学の方法と問い	経済学における科学的方法について学ぶ（モデルとデータ等）
第4回	需要と供給、市場均衡	市場均衡でどのような価格と取引量が実現するのかを学ぶ
第5回	消費者とインセンティブ	消費者の最適な選択行動と、市場取引が消費者にもたらす経済的な豊かさについて学ぶ
第6回	生産者とインセンティブ	企業の利潤最大化行動と市場取引が生産者にもたらす経済的な利益、および参入・退出が決まるメカニズムを学ぶ
第7回	復習	経済学の概念や市場機能の復習をする
第8回	完全競争と見えざる手	価格調整機能（見えざる手）を通じて資源が効率的に配分され、社会全体の経済的な厚生が最大化されることを学ぶ

第9回	貿易	絶対優位と比較優位の概念を区別し、比較優位に基づく分業がどのように相互の利益を生み出すのかを学ぶ
第10回	外部性	市場の失敗1：公害（負の外部性）や教育・技術（正の外部性）が市場に与える影響と、その対処法を学ぶ
第11回	公共財と共有資源	市場の失敗2：公共財のフリーライダーの問題や共有資源の枯渇問題（共有地の悲劇）と、その対処法を学ぶ
第12回	政府の役割	最適な政府の大きさを考察する（税と規制）
第13回	復習	市場と厚生・公共部門の復習をする
第14回	試験・まとめ	試験・まとめ（市場の働きと限界を考える）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、事前にテキストに目を通し、どのような内容を読むのかを確認しておくこと。復習として、授業内容についてテキストやレジュメを用いて整理し、ノートにまとめること、及び課題に回答すること。（各2時間が標準）

【テキスト（教科書）】

アセモグル・レイブソン・リスト(2020)『ミクロ経済学』東洋経済新報社

【参考書】

N.グレゴリー・マンキュー(2025)『マンキュー経済学：ミクロ編 第5版』TKD ラーニング／東京化学同人

小塩隆士(2024)『高校生のための経済学入門 [新版]』ちくま新書

大瀧雅之(2018)『アカデミックナビ 経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

演習・宿題（30％）および期末試験（70％）によって評価します。期末試験の詳細は決定次第、授業内で説明をします。また、期末試験はマークシートによるものと記述式を用います。

【学生の意見等からの気づき】

資料はwebサイトに掲載します

【Outline (in English)】

This course introduces fundamental behavioral principles of consumers and firms, explaining how demand and supply curves are derived. Students will learn how the market mechanism ("the invisible hand") leads to efficient resource allocation and cases of "market failure," such as pollution and public goods, where the market does not function optimally. Through this course, students will understand the roles of households, firms, and the government in real-world economic issues. The ultimate goal is to develop the logical thinking skills necessary to determine desirable choices for maximizing social welfare.

Students are expected to spend approximately two hours per week preparing for and reviewing the course materials.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated according to the following process homework (30%) and term-end examination (70%).

ECN200HA（経済学 / Economics 200）

ミクロ経済学 II

芦田 登代

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：環37：経

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市場における代表的な意思決定者である消費者と企業の経済行動を理解し、望ましい市場取引や政府の役割について考察する。具体的には、秋学期前半では、完全競争市場の条件が満たされない不完全競争市場を取り上げ、資源配分において生じる問題とそれに対する政府の政策を学ぶ。後半では、生産要素市場（労働・土地・資本）での取引を分析し、労働市場や所得分配に関する問題を考える。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の基本的な用語や市場構造（完全競争・不完全競争・生産要素市場など）を理解し、説明できるようになる。
- ・日本の経済を取り巻く問題や身近な出来事を、経済学の考え方に基づいて理解し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

指定の教科書に基づいて授業を行い、学習支援システムに配布資料や授業のお知らせ等を掲載します。また、また、復習の一環として、リアクションペーパーやオンライン教材を用いた数問のクイズを課題として出題し、それらへのフィードバックは授業内に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の概要や進め方、秋学期の内容について概観する
第2回	市場機能	春学期に学んだ市場機能の復習をする
第3回	公共部門の経済学	春学期に学んだ公共部門の経済学を復習する
第4回	生産の費用	生産のための費用構造を理解し、企業が利潤や損失に基づいて参入・退出を判断する仕組みを学ぶ
第5回	競争市場における企業	完全競争市場における競争の意味を理解し、利潤最大化行動から競争企業の供給曲線がどのように導かれるかを学ぶ
第6回	独占	独占が生じる理由を理解し、独占企業と完全競争企業の違いを通じて、市場への影響と弊害を学ぶ
第7回	寡占	寡占市場の特徴を理解し、企業数や企業間の戦略的行動が生産決定や競争の程度に与える影響を分析する
第8回	復習	完全競争、独占・寡占における企業行動と市場構造について復習をする

第9回	生産要素市場	生産要素市場の代表例として労働市場を取り上げ、企業の労働需要と家計の労働供給から、均衡賃金と雇用量が決定されるメカニズムを学ぶ
第10回	勤労所得と差別	賃金格差や差別、効率賃金などの賃金決定要因を学び、均衡賃金の決定メカニズムを考察する
第11回	所得不平等と貧困	不平等の尺度、所得再分配に関する政治哲学、貧困を減らすための政策について学ぶ
第12回	復習	労働市場の経済学の復習をする
第13回	ミクロ経済学のフロンティアの紹介	標準的な理論を拡張する応用分野（情報の非対称性、政治経済学、行動経済学）について、主要な概念を概観する
第14回	試験・まとめ	企業行動や労働市場の経済学のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、事前にテキストに目を通し、どのような内容を扱うのかを確認しておくこと。復習として、授業内容についてテキストやレジュメを用いて整理し、ノートにまとめること、及び課題に回答すること。（各2時間が標準）

【テキスト（教科書）】

アセモグル・レイブソン・リスト(2020)『ミクロ経済学』東洋経済新報社

N. グレゴリー・マンキュー(2025)『マンキュー経済学：ミクロ編 第5版』TKD ラーニング／東京化学同人

【参考書】

小塩隆士(2024)『高校生のための経済学入門 [新版]』ちくま新書
大瀧雅之(2018)『アカデミックナビ 経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

演習・宿題30%、期末試験70%。期末試験はマークシートによるものと記述式を用います。

【学生の意見等からの気づき】

資料はweb サイトに掲載します

【Outline (in English)】

This class provides an introduction to microeconomic theory. The purpose of this class is to foster the logical thinking skill by understanding the market mechanism and the principles behind it. Furthermore, we aim to think about the real situation from an economic point of view, and also to acquire the fundamental skill required to solve the environmental issues.

Students are expected to spend approximately two hours per week preparing for and reviewing the course materials

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated according to the following process homework (30%) and term-end examination (70%).

ECN200HA（経済学 / Economics 200）

マクロ経済学 I

今 喜史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：環37：経

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

消費税は現代の日本経済に対してどのような意義をもっているのか。政府支出を拡大することで景気を改善させる効果は見込めるのか。増え続ける日本の財政赤字はほんとうに持続可能なのか。経済政策の目標は所得の向上のみでよいのか。これらの問いに答えるには、一国全体の経済を分析対象とするマクロ経済学の正確な理解が必要である。この講義は、国内総生産（GDP）などの統計データの意味や標準的な経済理論を学ぶことにより、受講者の一人ひとりが日本経済の全体像を把握できるようなマクロ経済学の思考力を基礎から身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ①統計データを適切に使用し、日本の直面するマクロ経済問題を自分の言葉で説明することができる
- ②日本のマクロ経済政策の現状を理解し、財政の持続可能性について考察することができる
- ③マクロ経済学の理論に基づき、経済政策の是非について自分の意見を論理的に述べるることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教室での対面講義を原則とする。説明はおもに板書に基づいて行い、補足的な資料はすべて学習支援システムに掲載したうえで教室にてプリントアウトしたものを配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	マクロ経済学への導入	社会科学としてのマクロ経済学の分析手法について理解する
第2回	一国全体の経済活動を測る指標	国民経済計算（SNA）の概要を学ぶ
第3回	40年前と「豊かさ」を比べる	国内総生産（GDP）の歴史的な推移をデータから確認する
第4回	GDPが見落としているもの	環境への負荷など、統計で金銭評価されにくい「豊かさ」を把握する方法について議論する
第5回	財政とマクロ経済	政府のマクロ経済政策が必要とされる理由を考える
第6回	政府支出の乗数効果	政府支出の増加により景気が改善するという主張の根拠（ケインズ経済学）を理解する
第7回	乗数効果の応用	簡単な数値例を用いて、政府支出の効果を計算しグラフに表現する
第8回	財政政策の有効性	政府支出を増やしても景気は回復しないと主張の根拠を理解する
第9回	政府の借金とは何か	財政政策にともない発生する政府の予算の問題を議論する

第10回	財政破綻に陥らないためには	財政赤字が持続可能ではない場合にどのような問題が生じるのかを理解する
第11回	経済成長の鍵は何か	日本の経済成長の歴史を、外国と比較する
第12回	資本蓄積による成長	経済成長のメカニズムを、新古典派経済学に基づいて理解する
第13回	技術革新による成長	持続的な経済成長が技術革新によって実現されることを理解する
第14回	講義のまとめと期末試験	講義内容を総括し、授業時間内に期末試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学（第3版）』有斐閣、2023年。
福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門（第6版）』有斐閣、2023年。
アセモグル・レイブソン・リスト（岩本康志訳）『マクロ経済学』東洋経済新報社、2019年。

【成績評価の方法と基準】

講義の最終回に行う期末試験100%とする。なお、毎回の講義に関するクイズが学習支援システムに出題される。回答した場合にはボーナス得点として成績評価に加算する。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料では図表などを適度に織り交ぜ、経済学の予備知識がなくとも理解できるよう配慮する。学習支援システムを活用して毎回のクイズを行い、自由に質問を記入できる欄を設定する。質問に対する回答や前回の補足などを毎回の講義の冒頭で行うという双方向型の講義を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course provides a concise introduction to macroeconomic issues, especially taking account of the Japanese economy. Topics covered are the followings: How to measure the wealth of nations? What determines the long-run economic growth of nations? Why should we care about the government debt? Students are asked to form their opinion based on rigorous theoretical foundations and relevant empirical studies.

【Learning objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:

-Explain what is controversial in macroeconomic policy debate today.

-Use government statistics such as the Systems of National Accounts adequately.

-Understand what is the meaning of the sustainability of government debts.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria】 Grading will be decided based on term-end examination (100%).

ECN200HA（経済学 / Economics 200）

マクロ経済学 II

今 喜史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：環37：経

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物価や賃金の上昇が生活の中でも話題となり、経済政策によって物価上昇を制御する必要性は広く認識されている。しかし、日本銀行が金融政策をどのような時期に、いかなる手段によって実施すべきかをめぐっては常に賛否両論が存在する。この講義では、金融の基礎的な概念を理解したうえで、金融政策の有効性と懸念される副作用について学ぶ。とくに、中国やヨーロッパ諸国の通貨制度と比較しつつ、2022年以降に生じたインフレーション（物価上昇）に対し金融政策がどのように対応するべきかを議論する。日本のバブル経済やアメリカ発の世界金融危機など、金融がマクロ経済を大きく揺るがした事例についても触れる。

【到達目標】

- ①銀行や証券市場などの金融システムが、マクロ経済において果たしている役割を説明できる
- ②金融政策の有効性と副作用について、経済理論と統計データに基づいて考察することができる
- ③国際的な観点から、日本のマクロ経済政策の課題を位置づけることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教室での対面講義を原則とする。説明はおもに板書に基づいて行い、補足的な資料はすべて学習支援システムに掲載したうえで教室にてプリントアウトしたものを配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：マクロ経済と金融の世界	マクロ経済と金融政策をめぐると近年の論点を整理する
第2回	景気変動の読み方	マクロ経済の姿を把握するための指標として国内総生産（GDP）の意味を理解する
第3回	金融の基礎知識	銀行や証券市場のしくみなど、金融の基本概念を学ぶ
第4回	利子率とはなにか	利子率の決定メカニズムを、資金需要と資金供給のグラフを用いて理解する
第5回	日本銀行と「伝統的」金融政策	準備預金制度の概要を学び、金融政策の意味を理解する
第6回	「非伝統的」金融緩和と政策	量的緩和やマイナス金利など、日本銀行が2000年代に採用した政策手段の意図と効果を理解する
第7回	デフレの時代からインフレの時代へ	物価が上昇する状況での金融政策のあるべき姿を考える
第8回	金融政策の副作用	金融緩和がバブル経済の一因となったことを理解し、リーマン・ショックの経緯を学ぶ

第9回	国際金融と為替レート	外国為替市場のしくみを学び、円高や円安とは何かを理解する
第10回	金融政策と円高・円安	金利裁定の理論を学び、為替レートの決定要因を理解する
第11回	為替レートのマクロ経済学	為替レートの変化が国内の景気に与える影響を学ぶ
第12回	ヨーロッパの通貨統合	共通通貨ユーロを導入したヨーロッパの金融政策を日本と比較する
第13回	中国の資本規制	国際金融のトリレンマの考え方にに基づき、中国の通貨制度の特徴を理解する
第14回	講義のまとめと期末試験	講義内容を総括し、授業時間内に期末試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学（第3版）』有斐閣、2023年。
福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門（第6版）』有斐閣、2023年。
アセモグル・レイブソン・リスト（岩本康志訳）『マクロ経済学』東洋経済新報社、2019年。

【成績評価の方法と基準】

講義の最終回に行う期末試験100%とする。なお、毎回の講義に関するクイズが学習支援システムに出題される。回答した場合にはボーナス得点として成績評価に加算する。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料では図表などを適度に織り交ぜ、経済学の予備知識がなくとも理解できるよう配慮する。学習支援システムを活用して毎回のクイズを行い、自由に質問を記入できる欄を設定する。質問に対する回答や前回の補足などを毎回の講義の冒頭で行うという双方向型の講義を行う。

【その他の重要事項】

同じ担当者による春学期「マクロ経済学I」とは独立した内容で講義を行うが、可能であれば「マクロ経済学I」を先に履修することで理解が一層、深まると思われる。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Macroeconomics II gives students a concise introduction to monetary policy issues. Based on some basic concepts of monetary economics, we overview both the proponents and opponents of the monetary policy conducted by the Bank of Japan. We also study international macroeconomic policies, including the effectiveness of monetary policy under the flexible exchange rate regimes, capital controls, and currency unions.

【Learning objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain what is controversial in monetary policy today.
- Use appropriate statistics to evaluate historical events such as the Global Financial Crisis in the late 2000s.
- Understand fundamental theory of international macroeconomics and finance, including exchange rate issues.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria】 Grading will be decided based on term-end examination (100%).

MAN200HA（経営学 / Management 200）

現代企業論

長谷川 直哉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環17：経

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SDGsやパリ協定の登場によって、化石燃料依存型経済から脱炭素経済への移行が求められています。企業はSDGsを達成する上で重要なパートナーと位置づけられており、企業が果たすべき役割はこれまで以上に拡がりをみせています。この授業では、大量生産・大量消費時代の終焉、地球温暖化問題の深刻化、企業の社会的責任に対する関心の高まり、サステナビリティ社会への移行という外部環境の変化を踏まえ、企業を取り巻く様々な現代的課題を取り上げつつ、企業経営のあり方を概観します。

【到達目標】

ヒト・モノ・カネ・情報等の各要素を効率的に機能させる株式会社に関する基礎的な知識を習得します。さらに、SDGsやカーボンニュートラルという事業環境の変化に立ち向かう企業の経営戦略を理解し、持続可能な社会における企業の役割に対する理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

株式会社の基本機能（経営管理、マーケティング、ファイナンス、人的資源管理）、株式会社の組織と戦略（経営組織、経営戦略、製品開発等）、現代企業が直面する諸課題（気候変動、SDGs、脱炭素等）に関する基本理論の説明と様々な業種の企業事例をケーススタディとして取り上げます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の目的・進め方
	企業経営は何か	株式会社の基本機能
第2回	製品・サービスの提供	市場における優位性の獲得
	ケーススタディ①サントリー	ケーススタディ：スポーツドリンクの開発
第3回	株式会社の仕組みと課題	株式会社は誰のものか
	ケーススタディ②本田技研工業	ケーススタディ：ステーションワゴンの開発
第4回	大企業の機能と専門経営者の誕生	所有と経営の分離
	ケーススタディ③キヤノン	ケーススタディ：デジタルカメラの開発
第5回	企業規模の拡大と組織	規模の利益と経営の効率化
	ケーススタディ④スズキ	ケーススタディ：原付自転車の開発

第6回	日本の経営の構造	日本の経営の成果と課題
	ケーススタディ⑤黒川温泉（熊本県）	ケーススタディ：温泉リゾートの再生
第7回	経営戦略の基本	長期的な企業価値向上戦略とは
	ケーススタディ⑥ミツカン	ケーススタディ：納豆食品のマーケティング
第8回	企業による特別講義	企業担当者による講義（詳細内容が確定次第、学習支援システムに掲載します）
第9回	デジタル・トランスフォーメーション（DX）と企業経営	AI・IoTの活用と経営変革
	ケーススタディ⑦日清食品	ケーススタディ：カップ麺の開発
第10回	競争戦略とマネジメント	市場競争力の本質
	ケーススタディ⑧ユニクロ	ケーススタディ：ファストファッションの成功要因
第11回	株式市場と企業価値	企業価値の源泉とは何か
	ケーススタディ⑨ジブリ	ケーススタディ：創造力の源泉とは
第12回	製品開発戦略	製品開発のコンセプトとプロセス：アサヒが業界トップになった要因
	ケーススタディ⑩ビール業界の企業間競争	
第13回	シェアリングエコノミー	消費志向の変化「所有から使用へ」
第14回	SDGsと企業経営	学生が選ぶサステナビリティ企業とは何か
	日経ストックリーグへの挑戦	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料や参考書を使用して必ず復習をして下さい。新聞等で報道される経済問題や企業動向のトピックを継続的にウォッチし、現代企業が生き残りをかけて、どのような戦略的行動をとろうとしているのか考えてみましょう。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文眞堂，2023年

長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会，2023年
Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition), Palgrave Macmillan

長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂，2021年

長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文眞堂，2019年

長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文眞堂，2018年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂，2017年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文眞堂，2016年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：90%

特別講義レポート：10%

期末レポートは講義内容に関する理解度と課題に対して自己の見解を論理的に展開しているかを評価します。特別講義レポートは講義内容の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

経営学の初学者を対象にケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特に準備する必要はありません。

【担当教員の専門領域】

<専門領域>

サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー

<研究テーマ>

取締役会の実効性分析

企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319』2021年

【実務経験のある教員による授業】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役・顧問として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】

With the advent of the SDGs and the Paris Agreement, there is a need to transition from an economy dependent on fossil fuels to a decarbonized economy.

Corporations have been positioned as important partners in achieving the SDGs, and the role they should play is expanding more than ever.

In this lecture, I will explain how corporate management should be in the 21st century, taking into account the changes in the external environment: the end of the era of mass production and mass consumption, the worsening of climate change, and the shift to a sustainable society.

This class aims to provide students with basic knowledge of international policy trends in sustainability and the ability to understand sustainability management in Japanese companies.

Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the special lecture report (10%) and the final report (90%).

MAN200HA (経営学 / Management 200)

ビジネスヒストリー

長谷川 直哉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環17：経

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦前・戦後の日本経済の発展をリードした代表的な企業家の活動について説明します。過去から現在に至る企業および企業家活動の展開を振り返ることで、企業と社会の関係やSDGs（持続可能な開発目標）とビジネスの関係について学びます。併せて、就職活動などが必要とされる企業研究のポイントについて説明します。

【到達目標】

日本企業の成長プロセスを振り返り、①企業のパーパス（存在意義）、②事業活動を通じて長年培ってきた「知の蓄積」の実像、③SDGsを先取りしたビジネスを理解し、現代社会で問われている企業活動の社会的意義や企業価値を的確に評価する知識を身につけます。併せて、就職活動で必須となる企業研究の方法論を身に付けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、わが国の代表的な企業や企業家のケースを取り上げて解説します。講義にはパワーポイントを使用し、必要に応じてDVD等を視聴します。現代企業に求められているE（環境）、S（社会）、G（ガバナンス）が、実際の企業活動の中でどのように実践されているのかを説明します。対面授業を基本としつつ、状況に応じてオンデマンド授業を交えながら講義を行います。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 伊庭貞剛 [住友財閥]	ビジネスヒストリーを学ぶ意義 「自利利他公私一如」の事業精神
第2回	鈴木馬左也 [住友財閥]	「以德招利」の経営
第3回	岡田良一郎 [大日本報徳社]	経済と道徳の両立を目指した社会企業家
第4回	金原明善 [金原治山治水財団]	日本版ソーシャルビジネスの先駆者
第5回	ウィリアム・メレル・ヴォーリズ [近江兄弟社]	「スチュワードシップ」に基づく経営の実践
第6回	高峰譲吉 [三共商店・現第一三共]	研究とビジネスを両立させたバイオベンチャーの先駆者
第7回	豊田佐吉 [豊田式織機・現トヨタグループ]	ニッパンのついた自動化を目指したイノベーション
第8回	鈴木道雄 [鈴木式織機・現スズキ]	社会の変化からオポチュニティを掴む経営構想力
第9回	大原孫三郎 [倉敷紡績・クラレ]	「労働理想主義」の実践

第10回	波多野鶴吉 [郡是製糸・現グンゼ]	「人財マネジメント」を通じた価値創造
第11回	矢野恒太 [第一生命]	相互主義による生命保険事業の確立
第12回	各務謙吉 [東京海上]	リスクマネジメント通じた社会課題の解決
第13回	島津源蔵 [島津製作所]	科学技術は社会の未来を創る
第14回	伊藤忠兵衛 [伊藤忠商事]	「三方よし」の経営

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料と教科書を使用して必ず復習して下さい。企業のホームページに掲載されている「企業の歴史」などを参照して、各企業が生き残りをかけてどのような取り組みを行ってきたのかを考えてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長谷川直哉『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命－』文真堂,2021年
毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文真堂, 2023年
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会, 2023年
Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文真堂, 2019年
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂, 2018年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂, 2017年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂, 2016年
長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文真堂, 2019年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史: CSR経営の先駆者に学ぶ』文真堂, 2016年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどる日本の金融事業史』文真堂, 2013年
長谷川直哉著『スズキを創った男－鈴木道雄』三重大学出版会, 2005年

【成績評価の方法と基準】

期末試験：90%

平常点：10%（リアクションペーパーの提出）

期末試験は教科書に掲載した企業家に関する問題を出题します。講義で取り上げた内容に関する理解度と、設問に対して自己の見解を論理的に展開しているかを評価します。授業終了時にリアクションペーパーの提出を求めます。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを中心に、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特に準備する必要はありません。

【担当教員の専門領域】

<専門領域>

サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー

<研究テーマ>

取締役会の実効性分析

企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年
「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年2月2日～12日)』2020年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319』2021年

【実務経験のある教員による授業】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役・顧問として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】

With the advent of the SDGs and the Paris Agreement, there is a need to transition from an economy dependent on fossil fuels to a decarbonized economy.

Corporations have been positioned as important partners in achieving the SDGs, and the role they should play is expanding more than ever.

In this class, I will explain how corporate management in the 21st century should be based on changes in the external environment, such as the end of the era of mass production and mass consumption, the worsening of climate change, and the transition to a sustainable society.

This class aims to equip students with the knowledge to accurately evaluate the social significance of corporate activities and corporate value, which are being questioned in today's society.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the final examination (90%) and reaction papers (10%).

MAN200HA (経営学 / Management 200)

経営学入門

豊田 太郎

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/.Sat.2

備考（履修条件等）：環17：経

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学は、企業の実践的課題に対する解決策を理論的に明らかにすることが中心となる。しかし、その課題や解決策は、企業外部の環境変化によって比較的短いスパンで様変わりしやすく、また、多様に存在する。そこで本講義では、経営学が学問として登場した背景をなすアメリカ・ビッグビジネス（巨大企業）の出現・成長・確立のプロセスを長期的・歴史的に追いつつ、関連する現代経営学の重要概念についても理解を深めることにしたい。

【到達目標】

本講義では、企業経営における理論的な内容だけではなく、実践的取り組みにも触れながら、変化する環境のなかで企業が実際にどのような方針（戦略）を立て、その方針に基づいてどのような仕組み（組織）を作り、その仕組みの中でどのように運営（管理）しているのか、という一連の経営活動の基礎基本（本質）を歴史を通して理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・本講義は対面で実施する。
- ・毎回講義は配布資料をもとに進めていく。
- ・対面または学習支援システムを通じて、授業内容についての質問を受け付け、フィードバックを行う。
- ・初回授業は必ず出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の内容・進め方とともに、経営学を学ぶことの意義を説明する。
第2回	ビッグビジネスの出現と展開	全国市場の形成
第3回	ビッグビジネスの出現と展開：技術革新の展開①	自動化・連続化が進展した職場
第4回	ビッグビジネスの出現と展開：技術革新の展開②	自動化・連続化が困難な職場
第5回	ビッグビジネスの出現と展開：ビッグビジネスの出現①	環境・戦略・組織
第6回	ビッグビジネスの出現と展開：ビッグビジネスの出現②	US スチール
第7回	ビッグビジネスの出現と展開：ビッグビジネスの出現③	スタンダードオイル・トラスト
第8回	ビッグビジネスの出現と展開：ビッグビジネスの展開①	寡占体制へ

第9回	ビッグビジネスの出現と展開：ビッグビジネスの展開②	鉄鋼業、石油産業
第10回	ビッグビジネスの出現と展開：経営者企業の形成①	組織、トップマネジメント
第11回	ビッグビジネスの出現と展開：ビッグビジネスの展開②	ミドルマネジメント
第12回	ビッグビジネスの出現と展開：ビッグビジネスの展開③	ローマネジメント
第13回	ビッグビジネスの出現と展開：ビッグビジネスと社会	ビッグビジネスの規制と容認
第14回	試験	理解度の確認・評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するプリント等を通じて予習・復習に努めること。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

(100点に満たない場合、平常点を取得していれば加算する)

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当科目につきアンケートを実施していない。

【その他の重要事項】

- ・私語を繰り返す、スマホを常に操作するなど、常識的ルールを守れない者は受講しないこと。執拗に退室を迫られることになる。
- ・積極的な質問を歓迎する。
- ・原則として30分以上遅刻した者は入室できない。また、無断の（一時）退出も認めない。
- ・重要連絡は学習支援システムで配信するので、必ず定期的に確認すること。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts of Business Administration through the history of Big Businesses. The goals of this course are to understand those basic concepts. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course contents. Generally, your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 100%.

MAN200HA（経営学 / Management 200）

環境経営と会計

岸田 隆行

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

備考（履修条件等）：環17：経

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計を利用することによって企業内で行われる活動を一律に貨幣という尺度で表すことによって、企業が全体としてどのような状態にあるのかを把握することができますようになります。環境への配慮は一般に企業のコストを増加させますが、環境コストを把握し管理することで、事業の効率性と環境への配慮を両立させる試みが環境管理会計です。

ではまず会計の基礎（何を記録し、どのように報告するか）を学んだあとで、環境管理会計の技法について学習していきます。

【到達目標】

- ・複式簿記による記録の方法、財務諸表に記載された内容を理解することができる。
- ・基本的な管理会計の手法を理解することができる。
- ・環境への配慮と事業の効率性を両立するための環境管理会計の考え方を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

すべて対面で行います。

配布するプリントをもとに会計の基本的な仕組み、環境経営へのかかわりを説明していきます。

小テスト複数回行い、知識の定着を図ります。小テストのスケジュールは学習支援システムを通じて連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	会計とは何か、環境経営と会計の関係について説明する。
第2回	会計の基礎	会計公準、会計の関係する制度、財務諸表について説明する。
第3回	複式簿記	複式簿記の特徴、帳簿への記入方法について説明する。
第4回	会計基準（1）一般原則	7つの一般原則について説明する。
第5回	会計基準（2）貸借対照表原則と損益計算書原則	貸借対照表と損益計算書の表記方法、資産の評価基準、収益・費用の認識基準について説明する。
第6回	財務諸表の読み方	実際の損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書の読み方について説明する。
第7回	原価計算の基礎	原価計算の簡単な計算方法について説明する。
第8回	管理会計（1）原価管理・利益管理	原価管理と利益管理の方法について説明する。
第9回	管理会計（2）意思決定会計	業務的意思決定と設備投資意思決定における会計の役割を説明する。
第10回	環境管理会計	環境管理会計の概要について説明する。

第11回	マテリアルフローコスト会計	マテリアルフローコスト会計の考え方と環境経営との関連性について説明します。
第12回	ライフサイクルコストリング	ライフサイクルコストリングと環境経営との関連性について説明します。
第13回	原価企画	原価企画と環境経営との関連性について説明します。
第14回	まとめ	本講義で学習した内容を整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するプリントについてしっかりと予習復習をすることはもちろんですが、環境保全に関するニュース等についても目を通しておい

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 30%

期末レポート 70%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

By utilizing accounting to express all internal corporate activities through a uniform monetary standard, it becomes possible to grasp the overall status of a company.

While environmental considerations generally increase corporate costs, Environmental Management Accounting is an approach aimed at reconciling business efficiency with environmental care by identifying and managing these environmental costs.

Therefore, we will first study the fundamentals of accounting (what to record and how to report it), and subsequently learn about the specific techniques used in Environmental Management Accounting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Quiz: 30%

Final Report: 70%

ECN200HA（経済学 / Economics 200）

公共経済学

宮本 拓郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火1/Tue.1

備考（履修条件等）：環37：経

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共経済学は政府の経済活動（政策）を（特にミクロ経済学的な）経済学的な観点から分析する分野です。この授業では、政府の活動の中から市場の失敗への対応・社会保障・税を取り扱います。また、政府を構成する人々には、社会の利益を最大化することを目的としていない人もいます。この授業では、このことが政策の選択にどのような影響をあたえるのかについても考えます。

【到達目標】

- ①望ましい政策とは何かを考えるための基準を身につける
- ②実際に行われる政策がときどき望ましいものから外れてしまう理由や要因を理解する
- ③望ましい政策が実行される社会を作っていくために、私たちはどのように行動すればよいかを理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション (テキスト第1章)	公共経済学がどのような分野なのか、また、この授業がどのような授業なのか説明します。
第2回	ミクロ経済学の復習 (テキスト第2章)	今後の授業での分析の基礎となるミクロ経済学の内容について解説・問題演習を行います。
第3回	市場の失敗(テキスト第3章)	市場がうまく機能しなくなる要因や状況について解説します。
第4回	公共財(テキスト第4章)	市場がうまく取り扱えない公共財について解説します。
第5回	市場均衡の復習	これまでの内容を復習します。
第6回	中間テスト1及び問題解説	これまでの内容についてテストを行い、テスト終了後、問題解説を行います。
第7回	民主主義と社会的意思決定(テキスト第5章)	多数決で選ぶことにすると、社会的余剰を最大にする選択肢が選ばれない可能性があることを説明します。
第8回	間接民主制と選挙制度(テキスト第6章)	間接民主制で起きる問題と選挙制度が与える影響について説明します。
第9回	政治家・官僚・利益団体(テキスト第7章)	政治家が官僚や利益団体とどのように関わり合い、政策を選択しているのかを考えます。また、国と地方公共団体の関係についても考えます。

第10回	中間テスト2及び問題解説	第7～9回の内容についてテストを行い、テスト終了後、問題解説を行う。
第11回	格差と再分配政策(テキスト第8章)	所得の多い人から好きな人に所得を移転する政策である再分配政策について解説します。
第12回	税の仕組みと効果1(テキスト第9章 9.1～9.4)	政府活動の主要な財源である税について、特に消費税について説明します。
第13回	税の仕組みと効果2(テキスト第9章 9.5～)	主に所得税が労働に与える影響について説明します。
第14回	期末試験	第11回以降の内容を中心に、期末試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習は1時間、復習時間は各3時間を標準とします。授業で分からなかったことを中心に復習を行ってください。また、中間試験や定期試験の類題を事前にアップするので類題を解いて試験に備えてください。

【テキスト（教科書）】

寺井公子・肥前洋一「私たちと公共経済」有斐閣ストゥディア

【参考書】

特にありません

【成績評価の方法と基準】

中間テスト1(25%)、中間テスト2(25%)、期末試験(50%)で評価を行います

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

Public economics is the field of analyzing the economic activities (policies) of government from an economic perspective (especially microeconomic perspective). In this course, we will deal with government activities such as responding to market failures, social security, and taxation. In addition, some of the people who make up the government are not interested in maximizing social benefits. This course will also consider how the presence of such people affects policy choices.

< Learning Objectives >

- (1) Acquire criteria for considering what is a desirable policy
- (2) Understand why actual policies sometimes deviate from what is desirable
- (3) Understand how we should act in order to create a society in which desirable policies are implemented

< Learning activities outside of classroom >

The standard preparation time for this class is one hour and the standard review time is three hours each. Please review mainly what you did not understand in class. In addition, I will upload similar questions for the mid-term exams and final exam in advance, so please prepare for the exams by solving the questions.

< Grading Criteria /Policy >

Midterm exam 1 (25%), Midterm exam 2 (25%) and final exam (50%)

MAN200HA (経営学 / Management 200)

中小企業論

松本 敦則

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考（履修条件等）：環17：経、口、グ

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中小企業は日本の全企業数の99.7%を占めており、日本経済の成長の源泉である。また、多くの中小企業は多様性、発展性、可能性を秘めている。しかしながら、現在グローバル化や情報化等により中小企業を取り巻く環境は大きく変化している。本授業では中小企業に関する歴史的経緯を踏まえ、存在意義、現状を理解し、今後の可能性を検討することが目的である。

【到達目標】

学生は中小企業や中小企業政策に関する歴史的経緯と現状、今後の可能性を理解できる。これらを踏まえ、ベンチャー企業や産業集積、商店街、公的な中小企業支援機関や金融機関の役割、ファミリー企業、事業承継、行政の補助金等についても取り上げ、中小企業の多様性、可能性を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で授業を行うが、授業内でのグループワークや中小企業の経営者、中小企業を支援している政策担当者などゲストスピーカーとのディスカッションなども行う。

毎回、テーマに応じた簡単な小レポートを提出してもらう。次の授業で提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス。 中小企業・ベンチャー企業を取り巻く現状分析 1	ガイダンスと日本における中小企業の現状と問題点を考察する。
2	中小企業・ベンチャー企業を取り巻く現状分析 2	日本における中小企業の現状と分析を行う。
3	中小企業政策 1	中小企業基本法を理解する。
4	中小企業政策 2	中小企業政策の変遷を理解する。
5	産業集積 1	産業集積の理論的検討を行う。
6	産業集積 2	日本における産業集積の事例研究を行う。
7	産業集積 3	イタリアにおける産業集積の事例研究を行う。
8	中小企業金融 1	中小企業やベンチャー企業を取りまく金融機関の役割と現状を理解する。
9	中小企業金融 2	信用保証協会や公的金融機関等の役割と現状を理解する。
10	商店街	商店街の発生から現在の状況、課題を学ぶ。
11	中小企業支援機関の役割 1	地域中小企業支援センターの役割を理解する。

12	中小企業支援機関の役割 2	商工会議所、商工会の役割やインキュベーション・マネージャーの役割を理解する。
13	老舗企業・ファミリー企業・事業承継	老舗企業やファミリー企業の事例研究を行う。また、中小企業の社長の高齢化に伴い、事業承継の必要性についても取り上げる。
14	試験とまとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業において配布された資料や紹介された文献を読み復習を行う。また毎回の授業の終了時に次の授業内容を提示するのでその予習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

清成忠男（1996）『ベンチャー・中小企業優位の時代』東洋経済新報社

清成忠男（2009）『日本中小企業政策史』有斐閣

植田浩史、桑原武志、本多哲夫、義水忠一（2006）

『中小企業・ベンチャー企業論』有斐閣コンパクト

渡辺幸男、小川正博、黒瀬直宏、向山雅夫（2022）

『21世紀中小企業論（第4版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、小レポート課題（30%）、平常点（20%）

【学生の意見等からの気づき】

中小企業に関する歴史や制度だけでなく、現在起きている問題（時事問題）も積極的に取り上げていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。

卒業後、銀行にて中小企業への融資、営業、支援等の業務を行ったため、それらの経験も授業で取り上げる。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Small and medium-sized enterprises account for 99.7% of all companies in Japan and are the source of growth for the Japanese economy. Many small and medium-sized enterprises also have diversity, potential, and hidden possibilities. However, the environment surrounding small and medium-sized enterprises is currently undergoing major changes due to globalization and information technology. The purpose of this class is to understand the historical background of small and medium-sized enterprises, their *raison d'être*, their current situation, and to consider their future potential.

(Learning Objectives)

Students will understand the historical background, current situation, and future possibilities of small and medium-sized enterprises and small and medium-sized enterprise policies. Based on this, students will also learn about venture companies, industrial districts, shopping districts, the role of public small and medium-sized enterprise support organizations and financial institutions, family businesses, business succession, government subsidies, etc., and will understand the diversity and potential of small and medium-sized enterprises.

(Learning activities outside of classroom)

Students will read and review the materials distributed and literature introduced in class. In addition, the content of the next class will be presented at the end of each class, so students will prepare for it. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Final exam (50%), short report assignment (30%), regular grades (20%)

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

環境経済論Ⅰ

杉野 誠

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

備考（履修条件等）：環Ⅰ：経

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済論を理解するのに必要なミクロ経済学などの事項を学び、具体的な環境政策、特に環境税や排出量取引などの経済的手段の仕組みや課題を志向できる力を涵養することを目標とする。

【到達目標】

経済発展に伴い、環境問題が多様化・深刻化している。この授業では、経済学の枠組みを用いて環境問題を捉え、どのような政策が必要であるかを理論的に考える。具体的には、「市場の失敗」が発生するメカニズムおよびどのような対策があるのかを考える。またこの授業では、以下の2つを最終目的とする。①環境問題の「本質」を理解し、様々な環境問題に応用できるようになる。②排出量取引制度を疑似体験し、制度設計に必要な思考力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境経済とは何か	環境経済学の位置づけ
第2回	消費者と生産者の理論	ミクロ経済学の基礎的な概念の紹介
第3回	市場均衡と市場の万能性	市場の役割と市場の効率性の理解
第4回	公共財と外部性	市場の失敗と政府の介入根拠の理解
第5回	環境政策の種類	外部不経済への対処方法の理解
第6回	コースの定理	当事者間の直接交渉による解決方法の理解
第7回	排出量取引	排出量取引制度の制度設計とその効果の紹介
第8回	政策手段の比較	環境税と排出量取引を比較検討
第9回	不確実性下の政策選択	不確実性が存在する際の環境政策の効率性
第10回	排出量取引制度の制度設計	世界の排出量制度の比較および国内の議論を紹介
第11回	ゲームで学ぶ環境政策①	コースの定理および排出量取引の制度設計を理解
第12回	ゲームで学ぶ環境政策②	時間的要素（世代間）を入れた場合の排出量取引の制度設計を理解
第13回	地球温暖化問題①	地球温暖化問題に対する各国の取り組みの理解
第14回	地球温暖化問題②	ポスト京都議定書の各国の取り組みの理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。事前に、配布資料および関連する文献に目を通しておくこと。また、時間外の課題を提出期限内に行うこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。担当教員が作成したレジュメや資料を適宜配布する。

【参考書】

日引聡・有村俊秀（2002）『入門 環境経済学』中公新書

一方井誠治（2018）『コア・テキスト 環境経済学』新世社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）に加え、授業後に課す練習問題（30%）を行うほか、授業中の参加の程度・貢献度（10%）を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

小テスト以外の練習問題を増やし、考え方を確認できるようにします。

【その他の重要事項】

対面形式の授業を予定しているため、オンライン授業での対応は原則行いません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】This course introduces key concepts in environmental economic theory and policies to tackle environmental issues to students taking this course.

【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to 1) understand the key theoretical aspect of environmental issues and 2) propose economically efficient environmental policies.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, homework: 30%, in-class contribution: 10%.

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

環境経済論Ⅱ

杉野 誠

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

備考（履修条件等）：環Ⅱ：経

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済発展に伴い、環境問題が多様化・深刻化している。本授業では、様々な環境問題に焦点をあて、どのような政策が必要であるか、経済学の視点から考える。また、実際の環境政策を概観・比較を行う。その際、経済学がどのように役立っているのかを明確にしながら、授業を進める。

この授業では、以下の2つを最終目的とする。

- ①環境問題の「本質」を理解し、様々な環境問題に応用できるようになる。
- ②環境政策を立案するために必要な思考力を身に付ける。

【到達目標】

経済学の基礎的な知識と環境問題に対する理解を深めることができる。

また、環境問題を解決するために必要な政策の思考力を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、イントロ	授業の全体像および環境経済論Ⅱの内容と環境経済論Ⅰの復習
第2回	気候変動問題①	地球温暖化の基礎知識
第3回	気候変動問題②	京都議定書とは何だったのか。
第4回	気候変動問題③	ポスト京都における各国の対策と日本：中期目標を中心に
第5回	気候変動問題④	パリ協定と今後の気候変動対策
第6回	廃棄物の経済学①	ゴミの有料化とは、どの程度の料金に設定するべきか
第7回	廃棄物の経済学②	有料化の方法とそれらの経済的インセンティブ
第8回	廃棄物の経済学③	自治体のゴミの有料化とレジ袋有料化
第9回	廃棄物の経済学④	放射性廃棄物をどのように処理するのか
第10回	都市の環境問題①	コースの定理と日本の公害病
第11回	都市の環境問題②	固定排出源における環境対策
第12回	都市の環境問題③	交通部門に対する環境規制
第13回	都市の環境問題④	道路混雑とロードプライシング
第14回	自主的な取り組み	日本経団連の自主行動計画と自主的取り組みの有効性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料および関連する文献を読むこと。また、グループディスカッションの内容を事前にリサーチし、準備すること。

【テキスト（教科書）】

日引・有村（2002）『入門 環境経済学』、中公新書。

【参考書】

有村・片山・松本（2017）『環境経済学のフロンティア』、日本評論社。

細田・横山（2007）『環境経済学』、有斐閣アルマ。

一方井（2018）『環境経済学』、新世社。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）に加え、グループディスカッション（40%）を行うほか、授業中の参加の程度・貢献度（10%）を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者同士のディスカッションを増やす要望があり、毎回実施できるように努めます。

【その他の重要事項】

対面形式での授業を予定しています。そのため、オンライン授業での対応を原則いたしません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Environmental issues are becoming severe as well as diverse as economies grow. This course introduces three major environmental issues (climate change, waste and air pollution) and policies implemented to tackle these issues to students taking this course.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to 1) understand the nature of environmental issues and, 2) propose environmental policies need to tackle these issues.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the handouts and relevant chapter from the references. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, assignment/homework 20%, in class contribution: 10%

MAN300HA (経営学 / Management 300)

CSR論 I

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：環17：経、グ、サ

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は現代社会において企業が直面する社会課題を取り上げます。企業の社会的責任（CSR）やサステナビリティ（SDGs）を巡る国際的な動向を整理し、企業と社会の関係性が時代とともにどのように変遷してきたのかを説明します。授業を通じて学生がサステナビリティ社会における企業の社会的責任を正しく理解する能力を涵養し、将来の職業選択にも役立つ知識を提供します。

【到達目標】

SDGs（持続可能な開発目標）、CSR（企業の社会的責任）、パリ協定（脱炭素）、責任投資原則、ESG投資など、気候変動を巡る世界的な政策動向と日本企業の対応について理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

SDGsの登場によってサステナビリティがグローバル社会のキーワードとなった今、社会課題の解決に向けて、企業には幅広い責任を果たしていくことが求められています。本講義では、SDGsやCSRに関する理論やケースを取り上げ、企業経営におけるサステナビリティの意義やビジネスがどのように変わっていくのかを解説します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の全体像と進め方
	企業の本質とは何か	企業と社会の関係の変遷
第2回	グローバル経済の進展とその影響	SDGsとパリ協定の登場によって社会経済システムはどのように変化するのか
第3回	SDGs（持続可能な開発目標）と企業経営	SDGsが求める企業像とは何か 企業と社会の関係はどのように変化していくのか
第4回	カーボンニュートラル（パリ協定）の意義	パリ協定を基軸とする 脱炭素革命は経営構造をどのように変えていくのか
第5回	欧州のサステナビリティ戦略①	欧州におけるサステナビリティ戦略の変遷とケーススタディ
第6回	欧州のサステナビリティ戦略②	EUグリーンディールの内容と日本企業への影響
第7回	外部講師による特別講義①	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第8回	責任投資原則と企業評価	投資家による非財務情報の評価が投資行動と企業経営に及ぼす影響

第9回	サステナブルマネーの動向	サステナビリティを推進する諸原則（責任投資原則、責任銀行原則、持続可能な保険原則）について
第10回	人権・人的資本経営	企業価値を高める人権政策と人材育成のあり方
第11回	外部講師による特別講義②	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第12回	サステナビリティを巡る政策動向	企業経営を取り巻く国内外のサステナビリティ政策の動向
第13回	企業不祥事はなぜ起こるのか	企業不祥事に関するケーススタディ
第14回	社会から選ばれるサステナブルストーリー	ビリーブドリブン消費者の台頭によってブランド戦略はどう変わるか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内では1,000社程度の企業がサステナビリティ報告書を発行しています。この授業で習得した知識を活かして、興味のある企業のサステナビリティ報告書を読んでみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文真堂、2023年

長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会、2023年
Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition), Palgrave Macmillan

長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂、2021年

長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文真堂、2019年

長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂、2018年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂、2017年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：90%

特別講義レポート：10%（2社分）

期末レポートは講義内容の理解度と課題に対して自己の見解を論理的に展開しているかを評価します。特別講義レポートは講義内容の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディと企業の実務担当者の講義を織り交ぜて、理論と実務の関係を分かりやすく説明します。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【担当教員の専門領域】

<専門領域>

サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー

<研究テーマ>

取締役会の実効性分析

企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319』2021年

【実務経験のある教員による授業】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役・顧問として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】

In this lecture, we will learn about the social issues that companies face in today's society. the growing interest in SDGs (Sustainable Development Goals) and CSR (Corporate Social Responsibility) is due to the fact that people feel that society is not moving in the right direction.

This class aims to deepen students' understanding of the relationship between society and corporations from the perspective of sustainability. Students will also gain knowledge that will be useful in their future corporate choices.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the reports of the two special lectures (10%) and the final report (90%).

MAN300HA (経営学 / Management 300)

CSR論Ⅱ

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：環17：経、グ、サ

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CSR論Ⅰで習得した知識を基に、SDGs（持続可能な開発目標）やBusiness Ethics（企業倫理）が時代と共にどのように変遷してきたのかを辿ります。持続可能な社会において求められる企業の役割、企業のパーパス（存在意義）や経営思想について理解を深めることめざします。

【到達目標】

SDGsが求める課題は、企業だけでは解決できません。多様な主体とのパートナーシップを通じた課題解決が求められる現代社会では、多面的な物の見方や解決策の策定が欠かせません。企業と社会の関係を巡る国内外の経済思想や企業倫理の変遷を学ぶことで、現代社会が直面している課題の解決に必要な基礎知識の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本のSDGs/CSRおよびBusiness Ethicsに関する基本理論や背景となる思想を解説します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や経営者に求められる倫理観の形成について検討します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方
	社会構造の変化と企業が直面する課題	現代企業が直面する事業環境の変化について
第2回	近代産業の勃興と経済倫理 [1]「経済活動の自由と自律」	アダム・スミス『道徳感情論』にみる経済と倫理の関係性について
第3回	近代産業の勃興と経済倫理 [2]「最大多数の最大幸福をどう生み出すか」	J.ベンサム・J.ミル「功利主義思想」とM.ウェーバー「資本主義の精神と倫理」について
第4回	企業社会の変容とCSR・SDGsの登場	ポスト資本主義社会における企業の役割とは何か
第5回	日本社会の企業倫理と責任経営 [1]	報徳思想を背景とする企業倫理の醸成
第6回	日本社会の企業倫理と責任経営 [2]	戦後日本における企業責任の生成と展開
第7回	外部講師による特別講義 [1]	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第8回	新自由主義から第三の道へ	新自由主義への反動と第三の道（新しい公共）の生成

第9回	ESG経営の最新動向「環境編」	カーボンニュートラル政策の動向と日本企業の対応
第10回	ESG経営の最新動向「社会編」	企業価値を高める人権・人的資本経営とは何か
第11回	ESG経営の最新動向「ガバナンス編」	経営者による企業統治および情報開示の現状
第12回	外部講師による特別講義 [2]	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第13回	企業不祥事の実態	企業不祥事の発生メカニズムと対策
第14回	ネイチャポジティブ経営	自然資本と生物多様性を尊重した経営のあり方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心のある企業のホームページや文献で創業の理念や創業から現代に至るビジネスモデルの変遷を調べてください。企業がどのような価値観を背景にSDGsに取り組んでいるか考えてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文真堂，2023年

長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会，2023年
Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan

長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂，2021年

長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文真堂，2019年

長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂，2018年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂，2017年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文真堂，2016年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：90%

特別講義レポート：10%（2社分）

期末レポートは講義内容の理解度と課題に対して自己の見解を論理的に展開しているかを評価します。特別講義レポートは講義内容の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【担当教員の専門領域】

＜専門領域＞

サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー

＜研究テーマ＞

取締役会の実効性分析

企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319』2021年

【実務経験のある教員による授業】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役・顧問として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】

In this lecture, we will examine the aims of sustainability policy and changes in business strategy. We will consider what the role of corporations in a sustainable society is and what elements are necessary to sustainably increase corporate value.

This class aims to deepen students' understanding of SDGs and carbon neutrality in corporate management. Students will be able to gain a deeper knowledge of the future of Japanese companies.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the reports of the two special lectures (10%) and the final report (90%).

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

国際環境政策 I

杉野 誠

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考（履修条件等）：環ア：経、グ、サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一国内の環境問題では、汚染者と汚染によって影響を受ける主体が比較的明確である。そのため、環境対策の制定が比較的容易である。一方、複数の国にまたがって影響を与える越境汚染（国際的な環境問題）では、多くの利害関係者が係るため、容易に環境対策を導入しにくい。本講義では、様々な国際的な環境問題を取り上げ、どのような環境政策が必要かを考察していく。

【到達目標】

本授業では以下の到達目標を設定する。

- ①国際的な環境問題の本質を理解し、説明できる。
- ②国際的な環境問題に対して経済学的思考ができる。
- ③これらの問題に対して必要な政策を立案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、イントロ	授業の内容および国際的な環境問題の解説
第2回	環境の価値とは	環境評価の手法と費用便益分析
第3回	環境保全技術と環境規制	ポーター仮説とは、環境規制は特許や省エネ投資を促進するの か
第4回	グローバル経済と環境	開発と環境、人口問題と環境保全
第5回	環境と貿易①	汚染回避仮説とは
第6回	環境と貿易②	自由貿易協定（FTA）と環境保全 FTAは環境によいのか
第7回	環境と貿易③	公害輸出とリサイクル
第8回	国際的な自然資源管理①	再生可能資源の保護について
第9回	国際的な自然資源管理②	再生不可能資源（枯渇性資源）の保護について
第10回	気候変動問題①	京都議定書の目的と問題点
第11回	気候変動問題②	ポスト京都の議論と各国の姿勢・取り組み
第12回	気候変動問題③	パリ協定と今後の展望
第13回	国際協力の必要性	国際的な枠組みの重要性について：国際炭素税や国際的な排出量取引制度を中心に
第14回	持続可能な発展	価値の変革：保有から共有へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料を事前に読み、理解できない点・疑問点を明らかにする。また課題を実施し、期限内に提出すること。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

ただし、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

日引・有村（2002）『入門 環境経済学』、中公新書。

有村・蓬田・川瀬（2012）『地球温暖化対策と国際貿易：排出量取引と国境調整措置をめぐる経済学・法学的分析』、日本評論社。

細田・横山（2007）『環境経済学』、有斐閣アルマ。

一方井（2018）『環境経済学』、新世社。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）に加え、課題（30%）を行うほか、授業中の参加の程度・貢献度（10%）を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションの回数を増やすように努めます。

また、参考文献など関連するプリントの配布を増やすようにいたします。

【その他の重要事項】

対面形式での授業を予定しています。そのため、オンライン授業での対応を原則いたしません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】Environmental regulations and policies are easily implemented for regional/domestic environmental issues. On the other hand, environmental regulations and policies are difficult to implement for international environmental issues. In this course we will investigate various international environmental issues we face today. This course introduces key concepts in implementing environmental economic policies to tackle local and global environmental issues to students taking this course.

【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to 1) understand the key theoretical aspect of environmental policies and 2) propose economically efficient environmental policies for global and local environmental issues.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for each class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, homework: 30%, in-class contribution: 10%.

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

国際環境政策 II

本郷 尚

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月1/Mon.1

備考（履修条件等）：環37：経、グ、サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

気候変動など環境問題における様々な課題について背景を含めた理解と経済学的なアプローチによる課題解決を学びます。自分なりに考えることで、環境問題は複雑であり、どんなアプローチにも強みと弱みがあることを学びます。また、経済学的アプローチを活用することで、経済学の理論の理解を深める効果も期待できます。

【到達目標】

環境問題では目指すゴールは同じでも、何を優先するかは人によって違い、道筋も異なります。正解はない、ということは重要な気づきになります。それを前提に「自分なりに考える」習慣を身に着けることを目指します。ビジネスの現場でも問題を整理し、いくつかの解決方法を考え、それぞれの強みと弱みを比較、総合勘案して提案することが求められています。国際的にホットな話題も取り上げますので環境問題を考える基礎的な知識も得られます。また環境問題を通じて国際的な課題、経済問題などを知ることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義前に資料やレジメをアップしますので事前に目を通しておいってください。またキーワードについてネット検索しておくとう理解がしやすいと思います。講義後に出席確認を兼ねて小レポート提出をお願いします。各回講義の最後に質問やコメント、感想などを話す時間を設けます。参加型の講義を目指しますので、できるだけ出席を多くしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	気候変動枠組条約とCOP	気候変動枠組条約会合の歴史とパリ協定
2	カーボンプライシングと排出量取引	外部不経済への対応のためのカーボンプライシングと排出量取引
3	電力化の流れと新たなリスク	脱炭素化が生み出した電力の時代と新たなリスク
4	国際海運と国際航空の排出削減	パリ協定と並行して進む国際航空と国際海運の排出削減のルール作りと背景
5	低炭素・脱炭素燃料	話題になることが多いバイオバイオ燃料、水素、E-Fuelへの転換の道筋と課題
6	大気直接回収(DAC)とマイナスの排出	ネットゼロに欠かせないDACとマイナスの排出(Negative Emission)の必要性和課題
7	気候変動問題と貿易・産業競争力	経済政策の重用な要素となった気候変動政策～産業競争力と気候変動対策の両立のために
8	金融イニシアティブ基準設定と情報開示	脱炭素化社会移行に取り組む金融～基準設定か、説明責任か。アプローチは多様。

9	企業の気候リスクマネジメントとシナリオ分析	脱炭素社会にむけて変革を目指す企業戦略で欠かせないシナリオ分析
10	気象災害と適応	頻発する気象災害への備え～科学分析とリスクマネジメント。正しく恐れる
11	金融機関の環境ガイドライン	金融機関の環境問題への取り組み(セーフガード)～国際協力銀行の事例(現場での経験も紹介)
12	ゴミ問題と経済学的アプローチ	豊かな経済がもたらした課題の都市ゴミ問題 東京モデルを考える
13	循環経済とビジネス	何のための循環経済か。その背景とビジネス化の課題
14	生物多様性と自然資本	究極の環境問題としての自然資本と経済学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に資料をアップロードしますので目を通しておくとう理解がスムーズでしょう。また、関心が高いテーマの場合にはキーワードを検索、様々な意見があることを調べておくとうよいでしょう。講義後には小レポートを作成してください。書くことで整理ができます。

【テキスト（教科書）】

指定はありません

【参考書】

日経産業新聞や他のメディアへの寄稿などは参考になります（ネット検索可能）

【成績評価の方法と基準】

期末試験はレポート提出です。基礎知識は必要ですが知識を確認することが目的ではありません。自分で考えることを求めています。また毎回の小レポートも評価対象であり、配点は期末試験60%、小レポート40%を目安に、また出席状況も勘案して、総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ビジネスや政策検討の現場の生の話に関心が高いようです。毎回冒頭に時々のホットな話題を紹介することにしています。

【学生が準備すべき機器他】

PC,スマホなどアップロードした資料を見ることができ、また小レポートを提出するための機器が必要です。

【Outline (in English)】

We will study various issues in environmental problems particularly climate change, including their background, and how to solve them using economics. By considering these issues by ourselves, and we understand that environmental issues are complex and that every approach has its strengths and weaknesses.

This course aims to provide students with the basic knowledge necessary for considering solutions for environmental issues by economic approach. But more important than knowledge is to develop the ability of analyzing issues and solution based on their way of thinking.

I expect you to search online for several items related to each session's theme. It's preferable to find different explanations. This allows you to learn about the variety of perspectives that exist and know there is no single answer.

The final exam is a report submission. Basic knowledge is necessary, but the purpose of exam is not to check knowledge. I expect you to think by yourself. Students are asked to submit a short report after every lecture. The final exam will be worth 60% of the total score and the short reports will be worth 40% of the total score.

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

途上国経済論 I

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考（履修条件等）：環37：経、ゲ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。またそれらの基礎的な知識は、持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられた各種課題／目標の理解の基礎となるものでもある。

【到達目標】

本講義においては、ア）途上国経済の分析枠組み、特徴、イ）主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、ウ）日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、エ）将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

途上国経済論 I においては、途上国の社会と経済を見る際に使われる分析枠組み、主要地域ごとの歴史と社会の概要、日本と特に関係が深いアジア諸国の経済と社会を中心に学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

また学習支援システムを通じたコメント／質問の提出も可能とする。フィードバックは学習支援システムを通じて個別に行うが、必要に応じて授業内でも内容を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：開発途上国とは。途上国経済を見る目	開発途上国とよばれる国や地域はどのようなところか、概念を整理する。同時に、途上国を見る際に頻繁に使われる分析枠組み（評価軸）を再考する。
第2回	経済成長の理論と途上国経済の位置づけ	経済学の世界では経済成長はどのようなものだと考えられているかを紹介し、途上国経済を扱う「開発経済学」の発展を概観する。
第3回	日本は途上国だったのか？：戦後日本の経済成長と現在の開発途上国経済	戦後日本は急速な経済成長をとげたが、現在の開発途上国にとって日本はどのような点で手本足り得るかを考える。

第4回	途上国社会・経済の概況（1）：アジア地域	アジア地域の「途上国」と呼ばれる国や地域が「キャッチアップ」を果たす過程で、政府・国家がどのような役割を果たしたのか、東アジアと南アジアをとりあげ、歴史的な視点から概観する。特に、分析の視点として「植民地」について考える。
第5回	途上国社会・経済の概況（2）：ラテンアメリカ地域	アジアと異なる「植民地」経験を持つラテンアメリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第6回	途上国社会・経済の概況（3）：アフリカ	アジアと異なる「植民地」経験を持つアフリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第7回	途上国社会・経済の概況（4）：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済（1）：韓国－危機とその克服	韓国は、目覚ましい経済成長を遂げたNIESの代表である。一旦は先進国の仲間入りを果たした韓国の歩んだ道筋と1997年のIMF危機以降の経済・社会の状況について理解する。
第9回	主要国／地域の社会と経済（2）：台湾－その生い立ちと国際社会における立場	台湾も、韓国とならび目覚ましい経済成長を遂げたNIESの一つである。現在の台湾の国際社会・国際経済における地位はその特殊な生い立ちに影響されていることを理解する。
第10回	主要国／地域の社会と経済（3）：香港およびシンガポール－小さな街の大きな経済	アジアNIESの一つである香港とシンガポールをとりあげ、資源のない国（都市）の経済成長について考える。
第11回	主要国／地域の社会と経済（4）：インドネシア－多様性の中の権威主義的開発体制	アセアン（Association of South East Asian Nations）の一員としてNIESに続き経済成長を遂げたインドネシアをとりあげ、政治体制と経済成長（経済発展）の関係について考える。
第12回	主要国／地域の社会と経済（5）：マレーシア－カリスマと経済成長	強力なリーダーによる経済成長戦略を通じて発展したマレーシア経済・社会を概観する。
第13回	民主主義と経済成長	アジア的価値がアジア諸国の経済成長をもたらしたのか。民主主義と経済成長の関係を、アジア諸国を例に考える。
第14回	経済成長、進歩、貧困	先進国、途上国いずれもが経済成長を通じた社会の進歩、貧困の克服を目指してきた。現代の途上国は経済成長によって貧困をなくすことができるのか、という問いを概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

グラボウスキー他（2008年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
渡辺利夫編（2007年）『アジア経済読本（第4版）』（東洋経済新報社）

大塚啓二郎（2020年）『なぜ貧しい国はなくなるのか（第2版）
正しい開発戦略を考える』（日本経済新聞出版）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験80%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内で学生の発言を促す工夫を行う。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、学習支援システム上に掲示する。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This is a first part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings. Those basic knowledge are also the basis for understanding the various issues/goals set forth in the Sustainable Development Goals (SDGs).

[Learning Objectives]

The objectives of this lecture are to a) learn about the analytical framework and characteristics of developing economies, b) learn about the characteristics of the economies and societies of major regions and major countries, c) better understand the position of Japanese society and economy in the world, and d) be able to communicate meaningfully with people in other countries based on basic knowledge in the future.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.

It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%.

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

途上国経済論Ⅱ

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考（履修条件等）：環37:経,ゲ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。それらの基礎的な知識は、持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられた課題／目標の理解の基礎となるものでもある。

【到達目標】

本講義においては、途上国経済論Ⅰに引き続き、ア）主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、イ）日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、ウ）南北問題や世界貿易など、個々の国や地域が置かれている「構造」への理解を深めることで、エ）将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

途上国経済論Ⅱにおいては、新興国と呼ばれる経済成長著しい国、今後の経済発展が見込まれる国などの歴史と社会の概要、国際経済の成り立ちなどを講義形式で学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

また学習支援システムを通じたコメント／質問の提出も可能とする。フィードバックは学習支援システムを通じて個別に行うが、必要に応じて授業内でも内容を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	途上国経済論Ⅰの概要の復習と 途上国経済を見る目
第2回	世界経済の歴史	「経済」と呼ばれるものの誕生も含め、「世界経済」の成り立ち、発展について概観する。
第3回	世界貿易の構造をめぐる議論	国際経済の主要な活動である貿易について、その理論、構造、課題を概観する。
第4回	途上国社会・経済の概況（1）：中国（1） 社会主義と資本主義	中国は世界有数の大国であり、計画経済から市場経済へと緩やかに転換しつつ経済成長を続けている。議論の前提として社会主義／共産主義の考え方についての理解を深める。
第5回	途上国社会・経済の概況（2）：中国（2） 持続的経済成長と大国としての復活	世界経済にインパクトを与える存在となった中国の社会と経済について概観する。

第6回	途上国社会・経済の概況（3）：インドー 目覚めた大国	インドは、近年、経済成長著しいBRICsの一つ。イギリス植民地から独立した後のインドの長い経済停滞、1990年代以降の目覚ましい経済発展という大きな流れを理解する。
第7回	途上国社会・経済の概況（4）：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済（5）：タイー 東南アジアの「先進国」	東南アジア諸国のなかでもNIESに続く目覚ましい経済発展を遂げたタイ。アジア通貨危機の発端となるなど途上国の中の「先進国」の経済社会を概観する。
第9回	主要国／地域の社会と経済（6）：ベトナムー 戦場から市場へ	1960年代にベトナム戦争で大きな傷を受けたベトナムが新興経済国の一角として名乗りを上げる過程を概観する。
第10回	主要国／地域の社会と経済（7）：ブラジルー 南米の大国	ブラジルはインドや中国とならび21世紀に入って新興国として台頭著しい。豊かな自然を抱える大国の姿を概観する。
第11回	主要国／地域の社会と経済（8）：南アフリカー アパルトヘイト	アパルトヘイトという大きな問題を克服して以降の南アフリカ経済の新興国としての経済成長を概観する。
第12回	主要国／地域の社会と経済（9）：ボツワナー 資源の呪いを越えて	アフリカ大陸にありながら世界でも有数の高経済成長を続けたボツワナの経済社会を概観する。
第13回	国際経済の中の域内協力	ASEAN（東南アジア諸国連合）を例に、グローバル化がすすむ国際社会における域内協力の重要性を概観する。
第14回	まとめ：途上国経済および世界経済の未来	講義全般の復習を行うとともに、今後の世界経済、途上国経済の姿について想像する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

グラボウスキー他（2008年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
渡辺利夫編（2007年）『アジア経済読本（第4版）』（東洋経済新報社）
大塚啓二郎（2020年）『なぜ貧しい国はなくなるのか（第2版）正しい開発戦略を考える』（日本経済新聞出版）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験80%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどを充実することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

講義内容にメリハリをつけるとともに、学生からの質問コメントへのフィードバックを充実する予定です。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This is a second part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings. Those basic knowledge are also the basis for understanding the various issues/goals set forth in the Sustainable Development Goals (SDGs).

[Learning Objectives]

The objectives of this lecture are to a) learn about the analytical framework and characteristics of developing economies, b) learn about the characteristics of the economies and societies of major regions and major countries, c) better understand the position of Japanese society and economy in the world, and d) be able to communicate meaningfully with people in other countries based on basic knowledge in the future.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.

It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%.

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

国際経済協力論Ⅰ

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考（履修条件等）：環37:経,グ

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進化する世界において、国と国の間に所得だけではなく様々な格差が広がっている。そして貧困や格差の解消は、持続可能な開発目標（SDGs）の第一の目標とされている。経済協力は、そういった貧困や格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。人々がより良く生きることができる社会の構築に受講生が関わるために、この講義では国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

【到達目標】

本講義を通じて学生は、1）国際協力に関する基礎的な知識を獲得することができる。それら基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取組みを含む。2）これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて、各自が自分なりの意見や考えを持ち、人に伝えられるようになることが期待される。3）加えて「持続可能な開発目標（SDGs）」におけるパートナーシップの意義についても説明できるようになることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国際経済協力論Ⅰにおいては、講師の経済協力の実務経験の紹介も交えながら、日本の取り組みを中心に、経済協力の歴史や背景、その仕組みについての理解を深めるための講義を進める。必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ：国際経済協力（開発協力）とは？	国際経済協力（開発協力）とはどのような取り組みか、またなぜそのような取り組みが必要とされているのかについて理解する。
第2回	開発途上国とは？	開発途上国と呼ばれる国や地域はどのようにとらえられ、どのように生まれたのかを理解し、われわれが途上国をみる際の視点を再考する。
第3回	国際社会と開発協力の歴史（1）（1945年～1960年代）：戦後世界と南北問題	第二次世界大戦後の国際秩序形成の過程と南北問題の登場、初期の開発協力の取り組みについて概観する。
第4回	国際社会と開発協力の歴史（2）（1970年～1980年代）：経済協力への失望と変化の兆し	開発協力の初期の取り組みへの反省と幻滅、その後の変化につながる新たな考え方の登場を概観する。

第5回	国際社会と開発協力の歴史（3）（1990年代～現在）：冷戦後の世界とグローバル化	冷戦終結後の国際秩序と、グローバル化下における開発協力の位置づけを概観する。
第6回	日本の開発協力の歩み（1）：被援助国から援助国へ	第二次世界大戦後の日本は援助を受ける国であったこと、その経験がその後の日本の開発協力に与えた影響について理解する。
第7回	日本の開発協力の歩み（2）：援助国としてのスタート	日本の援助国としての取り組みについて、1950年代～1970年代までの社会経済の変化とあわせ概観する。
第8回	日本の開発協力の歩み（3）：援助大国と日本の責任	日本の援助国としての取り組みについて1980年代～2000年以降の社会経済の変化とあわせ概観する。
第9回	開発協力の仕組みと方法	日本の開発協力の仕組みと現状（特徴）につき、統計資料などをとくに理解する。
第10回	開発協力の現場に関わる人々：政府、援助機関、企業、NGO(NPO)	日本の開発協力はどのような人々に担われているのかを理解する。特に政府（「官」）ではなく、「民」の果たしている役割の大きさについて理解する。
第11回	開発協力をめぐる議論の大きな流れ（1）：経済成長と人間開発	開発協力の基本的な目標の変遷について大きな流れとして理解する。「経済」重視から「人間」重視に移り変わる様を、具体的な戦略（アプローチ）の変遷およびSDGsのような国際目標を通じて理解する。
第12回	開発協力をめぐる議論の大きな流れ（2）：持続可能な開発と環境	開発協力の分野で環境をめぐる問題がとりあげられてきた経緯を知り、時代ごとに異なる環境問題の様相について理解する。
第13回	開発協力の評価と効果をめぐる議論	これまでの開発協力には効果があったのか、という問いに対する答えを概観する。そのうえでこれからの経済協力について考えるための材料を得る。
第14回	日本が開発協力を行う理由	日本は途上国への開発協力を続けるべきか、そうだとすればその理由は何か、日本国民がそれらの問いをどう考えているかを知る。そのうえで自分なりの答えを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

受講生は各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を、講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は利用せず、担当教員が作成した印刷物を授業に配布する。

【参考書】

松本勝男著（2023年）『日本型開発協力 途上国支援はなぜ必要なのか』（ちくま新書）
 牧田東一編著（2013年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力入門』（学陽書房）
 勝間靖編著（2012年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）
 斎藤文彦（2005年）『国際開発論』（日本評論社）
 外務省（毎年発行）『日本の開発協力』（ODA白書）

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（20%）と期末試験（80%）による。

【学生の意見等からの気づき】

提供される情報が多いため、理解しやすい形でメリハリをつけることが求められているところ授業運営に引き続き留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】**[Course Outline]**

This is the first part of a series of lectures on international economic cooperation, with emphasis on Japan's Official Development Assistance. In an increasingly globalized world, disparities are growing not only in income but also in other aspects between countries. Eliminating poverty and disparity is the first goal of the Sustainable Development Goals (SDGs). Economic cooperation is one of the ways to reduce poverty and disparity and to build new countries, societies, and the world together. This lecture aims to provide students with a basic knowledge of international economic cooperation in order for them to be involved in building a society in which people can live better lives.

[Learning Objectives]

Through this course, students will 1) acquire basic knowledge of international cooperation. This basic knowledge includes the history and structure of economic cooperation, the theory behind it, the results and impact of economic cooperation to date, and new challenges and initiatives in recent years. 2) Based on this basic knowledge, students are expected to be able to formulate their own opinions and ideas about Japan's role in the international community, and to be able to communicate them to others. 3) In addition, students are expected to be able to explain the significance of partnership in the Sustainable Development Goals (SDGs).

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.

It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%.

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

国際経済協力論Ⅱ

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考（履修条件等）：環37:経,ゲ

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進化する世界において、国と国の間に所得だけではなく様々な格差が広がっている。そして貧困や格差の解消は、持続可能な開発目標（SDGs）の第一の目標とされている。経済協力は、そういった貧困や格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。人々がより善く生きることができる社会の構築に受講生が関わるために、この講義では国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

【到達目標】

本講義を通じて獲得する基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取り組みを含む。これら基礎的知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて、受講生は自分なりの意見や考えを持てるようになることが期待される。加えて「持続可能な開発目標（SDGs）」におけるパートナーシップの意義についても説明できるようになることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国際経済協力論Ⅱにおいては、国際経済協力の取り組みにおいて近年注目を浴びているテーマについてより深く解説する。特に、誰が、なぜ経済協力を行うのか、経済協力の目的とされている「開発」とは一体何を意味するのか、という点を中心に各テーマにアプローチする。

必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：国際経済協力論Ⅰの復習と国際経済協力をめぐる課題の俯瞰	春学期講義の簡単な概括とあわせ、秋学期にとりあげるテーマについて「持続可能な開発目標（SDGs）」とあわせて全体像を紹介する。
第2回	開発と文化：経済協力の目的を問い直す視点	開発の目標がいかに歴史的に形作られてきたかを知り、多様な文化／社会と開発の関係を概観する。
第3回	新たな主体による開発協力（1）NGO(NPO)と市民社会	近年、開発協力において主たるアクターとなっているNGO(NPO)の活動について概観する。
第4回	新たな主体による開発協力（2）企業	一般に営利を追求すると思われる民間企業が、開発協力の分野で行っている活動を紹介し、その背景を概観する。

第5回	開発とジェンダー／マイクロクレジットという試み	ノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行（バングラデシュ）を事例に、開発とジェンダーの関係について概観する。
第6回	人間の安全保障と開発協力	近年注目される「人間の安全保障」という考え方を知り、国際社会による「人間の安全保障」実現に向けた行動を概観する。
第7回	紛争と平和構築：テロとの戦いと脆弱国家の復興支援	開発協力と紛争／平和の関係について、近年の新たな取り組みをもとに考える。
第8回	アフリカ（1）：アフリカの苦悩 激しい貧困と機能しない国家	アフリカ諸国とそこに暮らす人々がおかれている厳しい状況について概観する。
第9回	アフリカ（2）：アフリカに対して何ができるのか	これまでのアフリカ支援の評価と今後の課題について概観する。
第10回	フェア・トレード（1）：なぜ今、フェア・トレードが重要か？	フェア・トレードとよばれる取り組みがなぜ必要とされているのかについて理解する。
第11回	フェア・トレード（2）：フェア・トレードの試みとその評価	具体的なフェア・トレードの取り組みを紹介し、その課題や現状について概観する。
第12回	国際経済協力や開発による自然・社会環境への影響	開発による環境への影響はどのようなものか概観し、環境への影響を回避／最小限にするためにとられる対策について理解する。
第13回	地球環境問題と経済協力：気候変動（地球温暖化）を中心に	気候変動（地球温暖化）を事例に、国際社会における環境と開発のバランスの議論を概観する。
第14回	まとめ：持続可能な開発目標（SDGs）と支援、パートナーシップ	さまざまな国際協力の課題や現状を踏まえて、これからの支援やパートナーシップのあり方について概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

受講生は各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を、講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は利用せず、担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

松本勝男著（2023年）『日本型開発協力 途上国支援はなぜ必要なのか』（ちくま新書）
 牧田東一編著（2013年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力論入門』（学陽書房）
 勝間靖編著（2012年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）
 斎藤文彦（2005年）『国際開発論』（日本評論社）
 外務省（毎年発行）『日本の開発協力』（ODA白書）

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（20%）と期末試験（80%）による。

【学生の意見等からの気づき】

提供される情報が多いため、理解しやすい形でメリハリをつけることが求められているところ授業運営に引き続き留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したもののスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This is the second part of a series of lectures on international economic cooperation, with emphasis on Japan's Official Development Assistance. In an increasingly globalized world, disparities are growing not only in income but also in other aspects between countries. Eliminating poverty and disparity is the first goal of the Sustainable Development Goals (SDGs). Economic cooperation is one of the ways to reduce poverty and disparity and to build new countries, societies, and the world together. This lecture aims to provide students with a basic knowledge of international economic cooperation in order for them to be involved in building a society in which people can live better lives.

[Learning Objectives]

Through this course, students will 1) acquire basic knowledge of international cooperation. This basic knowledge includes the history and structure of economic cooperation, the theory behind it, the results and impact of economic cooperation to date, and new challenges and initiatives in recent years. 2) Based on this basic knowledge, students are expected to be able to formulate their own opinions and ideas about Japan's role in the international community, and to be able to communicate them to others. 3) In addition, students are expected to be able to explain the significance of partnership in the Sustainable Development Goals (SDGs).

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.

It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%.

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

労働経済論 I

山田 久

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水1/Wed.1

備考（履修条件等）：環37：経、口

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の人間生活の基盤は経済的にも社会的にも労働にあり、産業が高度化し複雑化した今日、労働は通常、企業をはじめとした組織体において行われます。本講義では、労働が行われる「場」である企業に焦点を当てつつ、雇用・労働の仕組みや現在ある様々な問題を学びます。労働経済学や人的資源論の基本を踏まえ、雇用・労働にまつわる基礎的なテーマを取り上げ、多角的な観点から解説していきます。

【到達目標】

雇用・労働問題に関する幅広い知識・見解を習得すると同時に、社会に出てから、能力を伸ばしながら組織で活躍していくのに有益な、考え方や視野を身に付けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式を基本とします。講義では、労働経済学や人的資源論の基本を学んだうえで、労働・雇用にまつわる基本的なテーマについて考えます。歴史的視点と国際比較の視点を交えながら、バランスが求められる労働問題に関する見方を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	労働経済論概要	本講義の概要と目的（何を学ぶのか、何故学ぶのか）について考える。
2	労働経済学基礎	労働経済学の基本的な考え方を経済学の基本を踏まえて学ぶ。
3	人的資源管理総論	人的資源管理の基本的な考え方を、採用・育成・評価・配置の流れに沿って概観する。
4	若年雇用と採用・就職	若年雇用の現状と課題、企業の採用に関する最近のスタンスを知り、最近の就職事情について学ぶ。
5	インターンシップ、離職・転職	インターンシップの状況、離職や転職の現状について学ぶ。
6	人材育成・能力開発	企業の人材育成の状況や職業能力とは何かを学ぶ。
7	キャリア形成	キャリアについての考え方や海外との違いを学ぶ。
8	労働移動	労働移動の現状と課題について国際比較の観点から学ぶ
9	雇用調整	雇用調整にはどのような種類があるのか。人員削減が企業にとってどのような結果をもたらすのかを学ぶ。
10	評価制度	評価にはどういったバイアスが生じやすいのか、公平な評価にはどのようなことが求められるのかを学ぶ。

11	昇進制度	日本企業の昇進制度の特徴と管理職の役割について学ぶ。
12	賃金制度	日本の賃金制度の変遷を学び、年功賃金の意義と限界を理解する。
13	賃上げと労働組合	賃上げがなぜ必要なのかを多角的な観点から考え、春闘・労働組合の意義を学ぶ。
14	試験とまとめ	解説と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回講義までに予習として目を通していただきたい資料等は、講義の中で都度紹介します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に教科書は指定しません。配布資料等をもとに講義を進めます。

【参考書】

①宮本弘暁『労働経済学』（新世社、2018年）、②守島基博『人材マネジメント入門』（日本経済新聞出版、2022）を挙げておきます。各テーマごとの参考文献や参考図書は、個別に講義の中でお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（55%）に加え、リアクションペーパーおよび授業への参加の程度・貢献度（45%）を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

フォントの大きさや枚数など、配布資料の見やすさを改善します。

【Outline (in English)】

【Course outline】In the modern world, work forms the economic and social foundation, and it is predominantly conducted within organizations, including corporations. The lecture emphasizes corporations as the workplaces, where students can learn about employment mechanisms and labor dynamics based on labor economics and Human Resource Management. Additionally, the addresses various topics related to labor issues.

【Learning Objectives】 Students will acquire knowledge and perspectives on labor economics and Human Resource Management. They are expected to develop views and ways of thinking that will help them broaden their opportunities in the business world.

【Learning Activities Outside the Classroom】 Students should be prepared to read papers recommended in advance. Regarding reports, students are encouraged to choose their own themes based on their interests. Typically, 2 hours of self-study are required before and after each seminar.

【Grading Criteria/Policy】 Students will be evaluated based on the final test (55%), reaction papers and their contributions to the class (45%).

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

労働経済論Ⅱ

山田 久

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水1/Wed.1

備考（履修条件等）：環ア：経、口

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の人間生活の基盤は経済的にも社会的にも労働にあり、労働は通常、企業をはじめとした組織体において行われます。VUCAといわれる時代の到来で、企業や雇用のあり方が変革を求められるなか、労働の姿も変容しつつあります。本講義では、労働経済学や人的資源論の考え方を融合しつつ、応用編として、①ダイバーシティ経営、②経済社会の構造変化と雇用、③あるべき労働政策、の3つの大テーマに焦点を当て、多角的な観点から解説していきます。

【到達目標】

雇用・労働問題に関する幅広い視野を身に着けると同時に、社会に出てから、リーダーシップを発揮していくのに役立つ、広い視野や物の見方・考え方を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式とします。講義では、労働経済学や人的資源論の基本を踏まえたうえで、労働・雇用にまつわる様々なテーマを考えます。歴史的視点と国際比較の視点を交えながら、バランスが求められる労働問題に関する見方を、具体的なテーマによって学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	多様な雇用形態	非正規雇用にはどのようなタイプがあるか。正社員とは何か。
2	フリーランスと労働者性	フリーランスという働き方の実情と労働者性を理解する。
3	女性活躍とダイバーシティ経営	男女賃金格差の原因とD I & Eの意味を考える。
4	高齢者雇用と障がい者雇用	長く働き続けることの意義は何か
5	労働時間とフレキシブルワーキング	働き方改革の現状とテレワークの功罪
6	外国人労働者	外国人が活躍できる組織・職場の特徴は。
7	グローバル化と雇用	経済グローバル化は雇用・賃金にどう影響するか
8	デジタル技術と雇用	新技術の導入は労働者に幸福をもたらすか。
9	人口減少と労働市場	人口減少が労働市場に及ぼす影響、雇用が少子化にどう影響しているか
10	コーポレートガバナンスと雇用	企業統治の在り方は雇用の在り方にどう影響するか。
11	雇用政策と失業保険制度	離職者・失業者を政策的にどう救済できるか。
12	最低賃金制度	最低賃金引き上げは本当に労働者にプラスか。
13	積極的労働市場政策	就業能力開発という最強のセーフティネット、北欧に学ぶ

14 試験とまとめ

解説と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は、労働経済論Ⅰを受講済であることを前提に進めます。毎回、取り扱うテーマが異なるので、次回講義までに予習として目を通していただきたい資料等は、講義の中で都度ご紹介します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に教科書は指定しません。配布資料等をもとに講義を進めます。

【参考書】

労働経済論Ⅰで紹介した参考書の他、①ダロン・アセモグル&サイモン・ジョンソン『技術革新と不平等の1000年史（上）（下）』（鬼澤忍・塩原通緒訳、早川書房、2023年）、②山田久『賃上げ立国論』（日本経済新聞出版、2022年）を挙げておきます。各テーマごとの参考文献や参考図書は、個別に講義の中でお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（55%）に加え、リアクションペーパー及び授業への参加の程度・貢献度（45%）を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料の枚数や見やすさを改善します。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In the modern world, work constitutes economic and social foundation, predominantly carried out within organizations, including corporations. The lecture highlights corporations as workplaces. Students can learn about employment mechanisms and labor dynamics based on labor and Human Resource Management. Additionally, it on diversity, the impact of structural changes, and labor market policies.

【Learning Objectives】 Students will acquire knowledge and perspectives on labor economics and human resource management. Students are expected to develop views and way of thinking which help them widen their opportunities in the business world.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to have taken Economic Analysis of Labor Market Systems I. Students should be prepared to read papers recommended in advance. Typically, 2 hours of self-study are required before and after each seminar.

【Grading Criteria/Policy】 Students will be evaluated based on the final test(55%),reaction papers and their contributions to the class(45%)

MAN300HA (経営学 / Management 300)

環境ビジネス論

竹ヶ原 啓介

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金1/Fri.1

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題と経済との関わりを考える題材として「環境ビジネス」を取り上げる。再生可能エネルギー、省エネ、資源リサイクル、環境リスク管理など、様々な分野で展開される企業活動の分析を通じて環境問題を捉え直すことにより、環境と経済の関わりについて複眼的な考察出来るようになることを目標とする。授業では、主要分野の環境ビジネスについて、内外の具体例を素材にファイナンスの基本的な考え方を交えて検討すると共に、実際に企業分析を体験することで理解を深めていく。

【到達目標】

環境ビジネスの視点から多様な企業活動を観察することで、環境問題に関する総合的な理解を深めるとともに、企業のビジネスモデルを分析し、その成長性やリスクについて具体的に議論が出来るようになる。様々な企業情報に触れつつ、汎用性の高いツールとしてファイナンスや経営学の基本的な視点を学ぶことで、「企業を見る目」を養い、様々なビジネスモデルを検討する際に、自然にファイナンス的な見方が出来るようになる。また、企業分析と発表・フィードバックを経験することで、プレゼンテーション能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境ビジネスについて、市場規模や構成、雇用などを巨視的な視点から理解すると共に、エネルギー、資源リサイクル、リスク管理、水、自然資本保全など主要なテーマ毎に、ケーススタディ等を通じて具体的に分析しつつ学習する。併せて、ファイナンスの基本的な考え方、基礎的な分析ツールを知ることにより、汎用性のある知識の習得を目指す。また、個別企業分析とプレゼンを担当することで、実際の企業を素材に環境ビジネスの実像に触れるとともに、教員からのフィードバックを通じてプレゼンテーション能力の涵養を図る。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業で取り上げていくテーマを紹介し、受講後の到達点イメージを共有する。
第2回	環境ビジネス概論／	環境ビジネスの基本的な性格と市場規模など全体像の把握を行うと共に、分析のフレームワークについての知識を整理する。
第3回	環境と金融①	近時注目を集めるESG金融の考え方を理解するとともに、ファイナンスの基本的な考え方やツールについて学ぶことにより、各論以降の検討に向けた基礎を構築する。

第4回	環境と金融②	前回の続き。NPV、IRRなどの考え方、キャッシュフロー表の構成などの基本を理解する。
第5回	環境と金融③／プレゼンチーム分けと事前ミーティング	前回の続き。また、講義後半で行う企業分析のチーム分けを確定し、チームメンバーの顔合わせを行う。
第6回	ケース1：気候変動対策ビジネス①（再生可能エネルギー）	太陽光発電や風力、バイオマスを素材に、再生可能エネルギービジネスについて、その事業性や普及に向けた課題等を考える。
第7回	ケース2：気候変動対策ビジネス②（省エネビジネス、適応ビジネス）	再生可能エネルギーと並ぶ温暖化対策ビジネスである省エネについて考える。ESCOなどを通じて、省エネがビジネスとして成立するポイントについて考える。また、今後拡大が期待される適応領域にも触れる。
第8回	ケース3 3Rビジネス1／企業分析プレゼン①	規制が作り出した巨大産業であるリサイクルビジネスの基本構造を理解し、3Rからサーキュラーエコノミー（CE）に至るビジネス環境の変化を学ぶ。なお、今回から講義の後半に企業分析・プレゼンを実施する予定。
第9回	ケース3 3Rビジネス2／企業分析プレゼン②	前回の続きとして、容器包装リサイクル、食品リサイクル、金属リサイクル等の各論を観察する。
第10回	ケース4：環境リスク管理ビジネス／企業分析プレゼン③	法規制導入を機に拡大が期待されながら、予想とは異なるパスを辿った土壌・地下水汚染対策ビジネスの基本構造を理解し、成功モデル・戦略を探る。
第11回	ケース5：水ビジネス／企業分析プレゼン④	希少化する淡水資源と人口増加をバランスさせる切り札として期待される水ビジネス。国内では上下水道インフラの更新、海外では新興国への進出による成長が期待されているビジネスの現状と展望を考える。
第12回	ケース6：自然資本・生物多様性保全ビジネス／企業分析プレゼン⑤	自然資本／生物多様性という概念と、これをビジネスと接続する視点を確認しつつ、幾つかの優れた事例を通じて、関連ビジネスについて考える。
第13回	ケース7：ESG投資と環境ビジネス1／企業分析プレゼン⑥	欧米の長期投資家を嚆矢に、現在我が国でも影響力を強めているESG投資など「環境金融」の機能について考える。
第14回	まとめ	前回の続きと全体の振り返り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ファイナンスを含めて予備知識は一切不要です。復習による定着を重視して下さい。自分が関心を持つ業界／企業が環境問題にどう関わっているか、という問題意識をもって講義に臨めば得るものが多いでしょう。

講義が大企業等を素材にすることが多い分、毎回ベンチャー企業等を素材とするミニレポートを課題として課します（翌週までに提出）。また、チーム又は個人で企業分析・プレゼンしてもらいます。質疑、講師や他の受講生からのフィードバックを含め、過去の受講生の多くが、この経験が有用だったと振り返っています。毎回の準備学習・復習と宿題対応で4時間程度を標準としますが、これとは別にプレゼン準備には相応の時間が必要です。こうした分析・プレゼン資料作成作りへの積極的な参加が必要です。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用せず、担当教員が作成したレジュメや参考資料を授業支援システム等を通じて配布します。講義は、基本的にこのレジュメを参照しながら行われるので、受講する学生は忘れずに持参するようにして下さい。また、毎回課す課題は、当日教室で配布します。

【参考書】

環境省 環境経済情報ポータルサイト

http://www.env.go.jp/policy/keizai_portal/index.html

このほか、講義において適宜紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

この講義では、一方通行の座学ではなく、ディスカッション等を通じた知識の定着を重視しており、授業に出席することが評価の大前提となります。そのうえで、企業分析・プレゼンテーション（50%）、毎回課すベンチャー企業などの環境ビジネスを素材とする課題（30%）、講義でのディスカッションへの貢献度（20%）などに基づき、総合的に判断します。なお、プレゼンテーション等に関して個別に指導を行う関係上、受講希望者が多い場合には人数調整を行うことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

プレゼン後の振り返りなど、ディスカッションや対話の時間をより充実させる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出には原則として授業支援システムを利用する。プレゼンテーション作成にパワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】

講義の性格上、対面式を原則とします。個別の事情がある場合には別途相談して下さい。分析・プレゼンの件数や対象は受講生数に応じて増減します。受講者が多い年はチームを編成して、最大6～7件程度になり、少ない場合は、受講者一人で1社を担当してもらいます。

教員は銀行員として、環境ビジネスの調査企画、ESG評価等に長く従事した実務経験に加え、数多くの政府委員会に委員として参加しています。本講義は、こうした経験を基に構成されたプログラムです。

【Outline (in English)】**【Course Outline】**

The purpose of this course is to consider the relationship between environmental issues and the economy from the aspect of "environmental business." By rethinking environmental issues through analysis of corporate activities conducted in various fields such as renewable energy, energy saving, resource management, environmental risk management, etc., we aim to provide a multi-faceted view of the relationship between the environment and the economy.

【Learning Objectives】

By observing environmental businesses, you will be able to deepen a comprehensive understanding of environmental issues, analyze a company's business model, and discuss its growth potential and risks in detail. Develop corporate analysis skills by experiencing various corporate activities and learning the basic perspectives of finance and business administration. Improve presentation ability through company analysis and presentation.

【Methods】

First, understand the overall picture of the environmental business, such as market size, composition, and employment. Next, you will learn through case studies on themes such as energy, resource recycling, risk management, water, and natural capital conservation. At the same time, learn the basic idea of finance and basic analysis tools. In addition, by being in charge of individual company analysis and presentations, you will be able to experience the real image of environmental business using actual companies as materials, and to develop his presentation ability through feedback from faculty members.

【Learning Activities Outside of Classroom】

No prior knowledge is required, including finance. Emphasis is placed on fixing by review. There are many things you can get by attending a lecture with an awareness of how the industry / company you are interested in is involved in environmental issues.

Since lectures are often made from large companies, we will impose a mini-report on venture companies as an issue every time (submit by the next week). In addition, we will ask you to analyze and present the company as a team or as an individual. Many past students recall that this experience was useful, including questions and feedback from teachers and other students. The standard for each preparatory study / review and homework is about 1 hour, but apart from this, it takes a considerable amount of time to prepare for the presentation. It is necessary to actively participate in the creation of such analysis and presentation materials.

【Grading Criteria/Policy】

This lecture emphasizes the establishment of knowledge through discussions, etc., rather than one-way classroom lectures, and attending classes is a major premise for evaluation. After that, make a comprehensive judgment based on company analysis / presentation (50%), issues related to environmental businesses such as venture companies imposed each time (30%), and contribution to discussions in lectures (20%). increase. Due to individual guidance regarding presentations, etc., the number of participants may be adjusted if there are many applicants.

POL200HA（政治学 / Politics 200）

平和学

中内 政貴

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環17：G,文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

米中対立、日本を含む東アジアの緊張、そして現在進行形で多くの人命が失われているロシアウクライナ戦争、ガザ紛争、スーダン内戦、それらが生み出す大量の難民・避難民など、今日の世界は平和とは言いがたい状況にある。冷戦が終わって35年あまり、平和はなぜ実現されてこなかったのだろうか。本講義では、平和と対置される戦争について歴史を中心に検討を加えるとともに、平和の様々な側面に光を当て、その実現可能性について学問的な追究をおこなっていく。また、紛争後の「平和構築」と呼ばれる取り組みを検討し、武力行使を伴う紛争を経験した社会にいかによれば平和を築いていくことができるのかを学ぶ。参加者は、戦争（武力紛争）を中心とした平和に対する脅威のあり方とともに、平和とは何であり、なぜ実現が難しいのかを学び、わずかでも現状を平和に近づけるために何が求められるのか、という問いを多面的に考えることが求められる。

【到達目標】

- ・参加学生が、平和とは何であり、平和を脅かす要因を理解し、平和を実現するための主体や方法について知識を身につける
- ・参加学生が平和学の手法を通して現代の国際社会の諸問題を分析できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：平和とは何か	ガルトゥングによる「消極的平和」と「積極的平和」の考え方を手がかりに、平和とは何かを考える
第2回	戦争と平和①：「合法的」な戦争	平和に対する最大の脅威である戦争の歴史を振り返る。まず、戦争が合法であった時代について学ぶ
第3回	戦争と平和②：戦争違法化の試み	戦争の被害の拡大に伴い怒った、戦争を違法化する動きについて学ぶ
第4回	戦争と平和③：集団安全保障と平和	2度の世界大戦を経て生まれた、国際連合を中心とする集団安全保障の仕組みを学び、平和との関係について考える。国連平和維持活動（PKO）についても学ぶ
第5回	戦争と平和④：「内戦」と平和	現代の戦争の中心となった「内戦」について検討し、なぜ平和の実現が困難なのかを考える

第6回	平和構築①：和平合意	現代の紛争においてなぜ停戦や和平合意が困難であるのか、紛争当事者の利害について検討する
第7回	平和構築②：武装解除とスポイラー問題	紛争後に求められる「武装解除・動員解除・再統合（DDR）」の必要性和、平和に反対する勢力の実態について学ぶ
第8回	平和構築③：国家建設	紛争後の状況を管理するために、機能する国家機構を築くことが必要とされることが多いが、問題点も有している。平和構築における国家建設の実態について考える
第9回	平和構築④：復興	長期的に平和を維持するためには、経済やインフラなどの復興が不可欠であるが、これも問題を有している。平和と復興との関係について考える
第10回	平和構築⑤：アクター	紛争後の社会に平和をもたらすために、イニシアティブを握るのはどのアクターであるべきだろうか。ローカル・オーナーシップの考え方や国際的なアクターの関与について考える
第11回	構造的暴力について	平和を脅かす構造的暴力について解説し、具体例に基づいてその解決方法や限界を考える
第12回	文化的暴力について	同じく平和を脅かす文化的暴力について解説し、具体例に基づいてその解決方法や限界を考える
第13回	まとめ：現代の国際社会における平和	講義のまとめを行うとともに、ロシアウクライナ戦争、パレスチナ問題など具体例に基づいて現代の国際社会における平和について考える
第14回	期末試験と解説	学習内容の習得度合いを問い、分析力や文章構成力を問うための試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習として、教科書や参考文献の事前購読を求める
- ・講義内で示したポイントなどについて文献調査やレポートの執筆を求める
- ・平素から報道などで平和や戦争に関する事項をフォローし考察を加えることを求める
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

ヨハン・ガルトゥング著、藤田明史翻訳『ガルトゥング平和学の基礎』法律文化社、2019年。

【参考書】

ヨハン・ガルトゥング著、藤田明史・奥本京子監訳、トランセンド研究会訳『ガルトゥング紛争解決学入門：コンフリクト・ワークへの招待』法律文化社、2014年。
松本雅和『平和主義とは何か：政治哲学で考える戦争と平和』（中公新書 2207）中央公論新社、2013年。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験：60%
- ・レポート課題：25%
- ・アクティブ・ラーニングへの積極的な参加など平常点：15%

【学生の意見等からの気づき】

2025年度の講義で実施した時事ニュースに関する解説や、講義中のディスカッションに関して、授業改善アンケートにおいて肯定的な意見が多く見られたので、さらに工夫して継続・発展させていきたいと考えています。ディスカッションでは賛否が分かれるような設問をたてていますが、教員自身の意見についても聞きたいという声もありましたので、決めつけにならないよう気をつけつつ、参加者の議論の糧となるように意見を紹介したいと思います。

【Outline (in English)】

Peace remains a far distant goal, even 35 years after the end of the Cold War. This course explores the history of war — peace's direct opposite — while examining the various dimensions of peace and the possible paths to achieving it through academic reflection. We will also analyze the challenges of peacebuilding, focusing on how lasting peace can be established in post-conflict societies. Participants will study the nature of threats to peace, particularly war and armed conflict, to understand why achieving peace is so difficult. Through critical discussion, they will be encouraged to consider small but meaningful steps toward building a more peaceful world.

POL300HA（政治学 / Politics 300）		
人間の安全保障		
中内 政貴		
配当年次／単位：2～4年／2単位		
開講セメスター：秋学期授業/Fall 曜日・時限：木3/Thu.3		
備考（履修条件等）：環37：グ		
その他属性：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
1990年代に登場した「人間の安全保障」の考え方は、冷戦終結の時代背景もあり広く国際社会の注目を集めたが、それから30年あまりが経過した現在、「人間の安全保障」は実現されるどころか、むしろ悪化する状況にある。本講義では、まず安全保障の考え方自体を振り返り、伝統的な国家中心の安全保障と「人間の安全保障」の相違を確認し、国家中心の伝統的な安全保障観がメインストリームに戻った現状の分析を行う。そのうえで、人権概念の発展や国際機構の役割の増大などの歴史を振り返りながら、なぜ「人間の安全保障」が重要性を持つようになったのか、そしてその限界がどこにあるのかを詳細に検討していく。また、時事的なトピックを毎回取り上げ、「人間の安全保障」の概念との関係を考える時間を設ける。グループ・ディスカッションを中心とするアクティブ・ラーニングも実施するので、受講者には積極的な参加が求められる。本講義を通して、受講生が現在の国際社会の状況を分析できるようになることが目的とされる。		
【到達目標】		
・参加学生が、安全保障とは何であり「人間の安全保障」がどのような新規性、重要性を有するのかを理解し、なぜ「人間の安全保障」の実現が困難であるのかを説明できるようになる		
・参加学生が、「人間の安全保障」の考え方をを用いて現代の国際社会の様々な問題、特に武力紛争や難民問題などを分析できるようになる		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：安全保障と「人間の安全保障」	安全保障は国家にとって最重要の課題とされており、日本の例を見ても明らかのように現代の国際社会においてその重要性は高まっている。伝統的な国家中心の安全保障の概念を理解した上で、「人間の安全保障」の考え方の基本を学ぶ
第2回	「人間の安全保障」と現代の国際問題	「人間の安全保障」が唱えられてから30年間の歴史を振り返り、中心的な問題について「人間の安全保障」の重要性と限界について考える
第3回	安全保障の歴史	現代の国際社会を規定する主権国家体系の歴史を振り返り、安全保障が国家の中心的な課題となった背景を学ぶ
第4回	現代の国際安全保障体制	2度の世界大戦を経て、国際連合を中心とする集団安全保障の仕組みが整えられた経緯と、その効果や問題点について学ぶ
第5回	人権概念の発展	第二次世界大戦後に人権概念が大きく発展してきた背景と問題点について学ぶ
第6回	国際機構の役割	国連専門機関や地域機構など、国際機構の役割とその限界について学ぶ
第7回	「人間の安全保障」と日本	日本政府が「人間の安全保障」概念を重要視し、その発展をねらう政策を行なってきた経緯や意図を学ぶ
第8回	「人間の安全保障」概念の再検討	人間の安全保障委員会の報告書内容を確認し、改めて「人間の安全保障」概念の詳細について学ぶ
第9回	「人間の安全保障」と武力紛争	もともと「人間の安全保障」を脅かす脅威である武力紛争について「人間の安全保障」の観点から検討する
第10回	「人間の安全保障」と「保護する責任」	「人間の安全保障」と類似の概念として捉えられることのある「保護する責任」との関係について学ぶ
第11回	「人間の安全保障」と難民	国家の庇護から疎外された存在である難民・避難民について「人間の安全保障」の観点から検討する
第12回	「人間の安全保障」と開発協力	現在「人間の安全保障」を実現する重要な手段であると考えられている開発協力の効果や問題点について検討する
第13回	まとめ「人間の安全保障」の必要性	ロシアーウクライナ戦争やパレスチナ問題など、具体的な事例に基づき、現代における「人間の安全保障」について考える
第14回	期末試験と解説	学習内容の理解を問い、問題を分析する力を確認するためのテストを実施する
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
・予習として、教科書や参考文献の事前購読を求める		
・講義内で示したポイントなどについて文献調査やレポートの執筆を求める		
・平素から報道などで関連する事項をフォローし考察を加えることを求める		
・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします		
【テキスト（教科書）】		
長有紀枝『入門 人間の安全保障 増補版-恐怖と欠乏からの自由を求めて』中央公論新社、2021年。		
【参考書】		
東大作編著『人間の安全保障と平和構築』日本評論社、2017年。 坂本拓人、キハラハント愛編『人間の安全保障 東大駒場15講』東京大学出版会、2024年。		
【成績評価の方法と基準】		
・期末試験：60％		
・レポート課題：25％		
・アクティブ・ラーニングへの積極的な参加など平常点：15％		
【学生の意見等からの気づき】		
2025年度の講義で口頭でいただいたフィードバックでは、講義中のディスカッションに関して肯定的な意見が多く聞かえたので、さらに工夫して継続・発展させていきたいと考えています。ディスカッションでは賛否が分かれるような設問をたてていますが、他の講義へのフィードバックでは、教員自身の意見についても聞きたいという声もありましたので、決めつけにならないよう気をつけつつ、参加者の議論の糧となるように意見を紹介したいと思います。		

【Outline (in English)】

This course aims to enhance participants' ability to analyze the current international landscape through the lens of human security. To achieve this, we will first explore the differences between traditional, state-centered security and the concept of human security. We will then examine the historical development of humanitarian thought and the international frameworks that support it, including human rights and the role of international organizations. Additionally, we will discuss contemporary global issues, encouraging participants to critically assess their connection to human security. Active participation is key—students will engage in group discussions and other interactive learning activities.

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

ヨーロッパ地域・経済研究

松本 敦則

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考（履修条件等）：環ア：経、ダグ／「人間環境特論（ヨーロッパ地域研究）」の単位を修得済みの学生は履修不可

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパ地域は広い。欧州連合（EU）加盟国だけでも27か国、人口も約4億4800万人ほどいる。そのため本授業では多くを取り扱うことはできない。そこで経済や社会など個別具体的なトピックスを取り上げていく。この授業の目的はヨーロッパ地域の経済を中心に歴史的経緯、基礎的知識、現在の状況を学ぶことである。

【到達目標】

歴史的経緯を踏まえ、現在のヨーロッパの地域に関するトピックス、特に産業や経済の観点から学ぶことにより、ヨーロッパ地域全体の大枠での現状を認識し、分析できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で授業を行うが、授業内でのグループワークやヨーロッパに駐在経験がある方や専門家などゲストスピーカーとのディスカッションなども行う。

毎回、テーマに応じた簡単な小レポートを提出してもらう。次の授業で提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス ヨーロッパ地域を取りまく環境と現状分析	ガイダンス。 EU統合の歴史的経緯と現状について分析する。
2	イタリアの地域と経済 1	イタリアの地域、経済、社会の観点からイタリアを理解する。また、中小企業の事例研究も行う。
3	イタリアの地域と経済 2	イタリアのボローニャの事例を取り上げ、創造都市の定義や現状を学ぶ。
4	イタリアの地域と経済 3	イタリアのファッション企業における事例研究（事業承継）を行う。
5	フランスの地域と経済	フランスの地域、経済、社会の観点からフランスを理解する。
6	スイスの地域と経済	スイスの地域、経済、社会の観点からスイスを理解する。スイスの時計産業の事例も取り扱う。
7	ドイツの地域と経済	ドイツの地域、経済、社会の観点からドイツを理解する。ドイツの自動車産業の事例も取り扱う。
8	イギリスの地域と経済	イギリスの地域、経済、社会の観点からイギリスを理解する。EUからの離脱問題も取り扱う。

9	ヨーロッパの移民問題	ヨーロッパにはアフリカや中東地域から多くの移民が流入しており、社会問題化している。その現状を学ぶ。
10	ヨーロッパのエネルギー事情	ヨーロッパにはドイツやイタリアなど多くのエネルギーを他国に頼っている国がある。その現状を学ぶ。
11	ヨーロッパ地域に関するゲストスピーカーの講義	ゲストスピーカーをお呼びして講義、ディスカッションを行う。
12	ヨーロッパの観光とオーバーツーリズム	イタリアのヴェネチアを始めフランスのパリやスペインでもオーバーツーリズムの問題が表面化している。その現状を学ぶ。
13	ヨーロッパの気候変動・環境問題	ヨーロッパの気候変動・環境問題について産業の観点から学ぶ。
14	試験とまとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業において配布された資料や紹介された文献を読み復習を行う。また毎回の授業の終了時に次の授業内容を提示するのでその予習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

田中素香・長部重康・久保広正・岩田健治（2023）『現代ヨーロッパ経済（第6版）』有斐閣
アルマ森井裕一（編）（2022）『ヨーロッパの政治経済・入門 新版』有斐閣
ブックス
本田雅子・山本いづみ（編）（2024）『EU経済入門（第2版）』文眞堂

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）、小レポート課題（30％）、平常点（20％）

【学生の意見等からの気づき】

現在ヨーロッパで起きている様々な状況や問題（時事問題）についても積極的に取り上げていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。
イタリアにある日本の外務省の在外公館で専門調査員（経済担当）としてイタリアの経済や政治、社会の調査・研究や日系進出企業のサポート業務を行った。
また、2003年12月にイタリアのミラノで開催された「国連気候変動枠組条約第9回締約国会議（COP9）」にロジスティクス（後方支援業務）要員として参加した。
これらの経験を踏まえ授業を行う。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The European region is large. There are 27 member states of the European Union (EU) alone, with a population of approximately 448 million. As a result, it is not possible to cover much of it in this class. Therefore, we will take up specific topics such as economy and society. The purpose of this class is to learn about the historical background, basic knowledge, and current situation of the European region, with a focus on the economy.

(Learning Objectives)

By studying current topics related to Europe, especially from the perspective of industry and the economy, based on historical background, students will be able to recognize and analyze the current situation in the European region as a whole.

(Learning activities outside of classroom)

Students will read and review the materials distributed and literature introduced in class. In addition, the content of the next class will be presented at the end of each class, so students will prepare for it. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Final exam (50%), short report assignment (30%), regular
grades (20%)

MAN100FA（経営学 / Management 100）

簿記入門 I

藤井 誠

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

備考（履修条件等）：環コア：経／主催：経営

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業において、学生は、ビジネスの共通言語である「簿記」の基本的内容を習得することができる。簿記は「帳簿記入」の略とも言われ、会計データの基礎となることから、簿記を学ぶことは、会計学を理解するうえでも必須の知識となる。

この授業における簿記のレベルについて、春学期は、日商簿記検定3級の範囲のうちの基礎的な部分の前半を扱う。

大学において最終的に会計関係を専門としようとする学生はもちろん、それ以外の学生にとっても、この「簿記入門」は、「会計学入門」と並んで最も重要な科目の1つである。

日商簿記検定3級の試験を目指して学習することも有用であるため、資格取得にも積極的に挑戦して欲しい。

【到達目標】

基本的な取引の内容を理解し、それを記帳し、さらに情報を編集して財務諸表を作成する理論と技術を習得する。

会社における財産管理の技術を習得する。

日商簿記検定3級に合格できる知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は対面形式とオンデマンド形式を併用して行う。まず、説明を行い、その後で例題等の問題を解くことにより、受講生の理解度を確認するとともに、理解の定着を目指す。毎回の授業終了後、各自で十分な復習を行うことが必要となる。課題等に対するフィードバックとして、次回の講義冒頭またはLMS（Hoppii）において解説・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリットについて学習する。
第2回	簿記の意義と仕組み	簿記の意義、簿記の基礎、貸借対照表、損益計算書、貸借対照表と損益計算書の関係について学習する。
第3回	仕訳と転記（1）	勘定、取引の意義と種類、取引8要素と結合関係について学習する。
第4回	仕訳と転記（2）	仕訳と転記について学習する。
第5回	仕訳帳と元帳	帳簿の種類、仕訳帳から元帳への転記について学習する。
第6回	決算（1）	決算の意義と手続、試算表の作成について学習する。
第7回	決算（2）	帳簿の締切りと財務諸表の作成、決算手続と精算表について学習する。
第8回	現金と預金（1）	現金、現金過不足の会計処理について学習する。
第9回	現金と預金（2）	当座預金と当座借越、小口現金について学習する。
第10回	繰越商品・仕入・売上（1）	3分法、諸掛と返品について学習する。
第11回	繰越商品・仕入・売上（2）	仕入帳と売上帳、商品有高帳について学習する。
第12回	売掛金と買掛金（1）	売掛金と買掛金、元帳、明細表について学習する。
第13回	売掛金と買掛金（2）と春学期の総括	クレジット売掛金、前払金、前受金と春学期の内容の確認を行う。
第14回	試験・まとめ解説	定期試験およびまとめ解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、当該回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておく。

復習として、当該回の関連するワークブックの問題を解く（わからない問題、間違えた問題は反復練習することが望ましい）。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とするが、予習より復習に重点を置くことを勧めたい。

【テキスト（教科書）】

渡辺裕亘、片山覚、北村敬子編『検定簿記講義3級（最新版）中央経済社。』

【参考書】

渡辺裕亘、片山覚、北村敬子編『検定簿記ワークブック3級（最新版）』中央経済社。

【成績評価の方法と基準】

授業内に行われる小テスト（30%）と定期試験（70%）の合計により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義を聴いているだけでは集中力が持たないという声があるため、理論を実践する足掛かりとする意味も含め、講義中に実践的な演習課題に取り組む機会を設ける。そのため、電卓（スマートフォンの計算機アプリでも可）を持参すること。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業動画を視聴するためのPCまたはタブレット端末（スマホでは画面が小さく、十分な学習効果が見込めないため、A4サイズのPDFをスクロールなしで表示可能な端末が望ましい。）。

【その他の重要事項】

本授業は対面形式の授業回とオンデマンド形式（動画配信）の授業回によって構成する。ただしハイフレック形式ではない点に留意すること（対面形式の授業回に教室からの配信はしない）。具体的な日程や受講方法の詳細は、学事日程や国家試験の日程等を考慮しつつ、第1回授業の際に説明する。

この科目は、経営学部の1年生の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身に着けて欲しい内容である。また、2年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」「税務会計論」「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる。

【Outline (in English)】

In this class, students will learn the basics of bookkeeping, the common language of business. Bookkeeping is also an abbreviation for "bookkeeping," and since it is the basis of accounting data, learning bookkeeping is essential knowledge for understanding accounting.

In terms of the level of bookkeeping in this class, in the spring, we will cover the first half of the basic part of the scope of the Nissho Bookkeeping Certification Level 3.

For students who ultimately intend to specialize in accounting at university, as well as other students, this "Introduction to Bookkeeping" is one of the most important subjects, along with "Introduction to Accounting."

The standard time for preparation and review for this class is two hours each, but it is recommended that you place more emphasis on review than preparation.

Grades will be determined based on the combined total of in-class quizzes (30%) and regular exams (70%).

簿記入門Ⅱ

藤井 誠

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2
備考（履修条件等）：環コア：経／主催：経営
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業において、学生は、ビジネスの共通言語である「簿記」の基本的内容を習得することができる。簿記は「帳簿記入」の略とも言われ、会計データの基礎となることから、簿記を学ぶことは、会計学を理解するうえでも必須の知識となる。
この授業における簿記のレベルについて、秋学期は、日商簿記検定3級の範囲のうちの基礎的な部分の後半を扱う。
大学において最終的に会計関係を専門としようとする学生はもちろん、それ以外の学生にとっても、この「簿記入門」は、「会計学入門」と並んで最も重要な科目の1つである。
日商簿記検定3級の試験を目指して学習することも有用であるため、資格取得にも積極的に挑戦して欲しい。

【到達目標】

基本的な取引の内容を理解し、それを記帳し、さらに情報を編集して財務諸表を作成する理論と技術を習得する。
会社における財産管理の技術を習得する。
日商簿記検定3級に合格できる知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は対面形式とオンデマンド形式を併用して行う。まず、説明を行い、その後で例題等の問題を解くことにより、受講生の理解度を確認するとともに、理解の定着を目指す。毎回の授業終了後、各自で十分な復習を行うことが必要となる。課題等に対するフィードバックとして、次回の講義冒頭またはLMS（Hoppii）において解説・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	その他の債権債務	売掛金と買掛金以外の債権債務について学習する。
第2回	受取手形と支払手形	手形の種類としくみについて学習する。
第3回	有形固定資産と減価償却	有形固定資産の購入時、決算時、売却時の会計処理について学習する。
第4回	貸倒損失と貸倒引当金	貸倒の意義、貸倒損失、貸倒引当金の計上について学習する。
第5回	資本	株式会社の設立と株式の発行、繰越利益剰余金の計上、配当の決議と支払に関する会計処理について学習する。
第6回	収益と費用	収益・費用の意義、経過勘定項目、消耗品費と貯蔵品の会計処理について学習する。
第7回	税金	利益額に基づいて課される税金と利益以外の金額に基づいて貸される税金の会計処理について学習する。
第8回	伝票	伝票を利用して取引の内容を記入する方法について学習する。
第9回	財務諸表（1）	決算と手続、試算表の作成、精算表の作成について学習する。
第10回	財務諸表（2）	精算表の作成について学習する。
第11回	財務諸表（3）	財務諸表の作成について学習する。
第12回	問題演習	秋学期に学習した内容と3級の検定試験に出題された内容について問題演習を行う。
第13回	基本的な財務諸表を読む	実際の企業の財務諸表を読んで、そこから何が理解できるかを学習する。
第14回	試験・まとめ解説	定期試験およびまとめ解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、当該回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておく。
復習として、当該回の関連するワークブックの問題を解く（わからない問題、間違えた問題は反復練習することが望ましい）。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とするが、予習より復習に重点を置くことを勧めたい。

【テキスト（教科書）】

渡辺裕亘、片山覚、北村敬子編著『検定簿記講義3級（最新版）』中央経済社。

【参考書】

渡辺裕亘、片山覚、北村敬子編著『検定簿記ワークブック3級（最新版）』中央経済社。

【成績評価の方法と基準】

授業内に行われる小テスト（30%）と定期試験（70%）の合計により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義を聴いているだけでは集中力が持たないという声があるため、理論を実践する足掛かりとする意味も含め、講義中に実践的な演習課題に取り組む機会を設ける。そのため、電卓（スマートフォンの計算機アプリでも可）を持参すること。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業動画を視聴するためのPCまたはタブレット端末（スマホでは画面が小さく、十分な学習効果が見込めないため、A4サイズのPDFをスクロールなしで表示可能な端末が望ましい。）。

【その他の重要事項】

本授業は対面形式の授業回とオンデマンド形式（動画配信）の授業回によって構成する。ただしハイフレック形式ではない点に留意すること（対面形式の授業回に教室からの配信はしない）。具体的な日程や受講方法の詳細は、学事日程や国家試験の日程等を考慮しつつ、第1回授業の際に説明する。
この科目は、経営学部の1年生の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身に付けて欲しい内容である。また、2年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」「税務会計論」「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる。

【関連科目】

この授業は、2年次以降の会計関連科目を学習する際の基礎となる科目である。

【Outline (in English)】

In this class, students will be able to acquire the basics of bookkeeping, the common language of business. Bookkeeping is also an abbreviation for "bookkeeping," and as it forms the basis of accounting data, learning bookkeeping is essential knowledge for understanding accounting. In terms of the level of bookkeeping covered in this fall class, the second half of the basic scope of the Level 3 Nissho Bookkeeping Certification Examination will be covered. For students who ultimately intend to specialize in accounting at university, as well as other students, this "Introduction to Bookkeeping" is one of the most important subjects, along with "Introduction to Accounting." The standard time for preparation and review for this class is two hours each, but it is recommended that you place more emphasis on review than preparation. Grades will be determined based on the combined total of in-class quizzes (30%) and regular exams (70%).

LAW200HA (法学 / law 200)

行政法 I

中山 敬太

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水5/Wed.5

備考（履修条件等）：環コア：経,口

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本には多くの法律があるが、その大半は「行政法」に位置づけられる。社会の不確実性が増し、社会構造が複雑化していく中で、行政主体(国や地方自治体等の行政機関)に期待される役割も多様化している状況である。本授業では、各回のトピックに関する基本的な考え方について説明し、具体的な事例等を取り上げながら、とりわけ行政作用法を中心に行政組織法や行政手続法を含め講義する。

【到達目標】

■本授業が終了後も、自ら「行政法」を自立的かつ主体的に学ぶことができる基本的な能力とスキルを取得できる。

■メディア等で報道されている様々な社会の諸問題を「行政法」等の法的な思考で捉え、ロジカルに説明し、論じることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で授業を展開する。受講人数等にもよるが、判例分析等で適宜アクティブラーニングを取り入れ、グループディスカッションや全体討議等も行う場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義の内容や進め方などを概説する。
第2回	行政法の基本構造(憲法・他法律との関係を含む)	教科書等を用いて、「行政法の基本構造」に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第3回	行政法の基本原理①(立憲主義・法治主義など)	教科書等を用いて、立憲主義・法治主義などに関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第4回	行政法の基本原理②(比例原則など)	教科書等を用いて、比例原則などに関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第5回	行政基準	教科書等を用いて、行政基準に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第6回	行政行為	教科書等を用いて、行政行為に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第7回	行政裁量	教科書等を用いて、行政裁量に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。

第8回	行政契約	教科書等を用いて、行政契約に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第9回	行政指導	教科書等を用いて、行政指導に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第10回	行政計画・行政調査	教科書等を用いて、行政計画・行政調査に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第11回	行政上の義務履行確保	教科書等を用いて、行政上の義務履行確保に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第12回	行政罰・行政手続	教科書等を用いて、行政罰や行政手続に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第13回	情報公開法・個人情報保護法	教科書等を用いて、情報公開法や個人情報保護法に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第14回	まとめ	授業の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義で取り扱う内容を教科書等で該当箇所を授業前後で熟読すること。また関連する判例の復習(読み直し)も行うこと。講義で扱った内容(判例を含む)を1度に限らず定期的に復習することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

■櫻井敬子・橋本博之(2025)『行政法(第7版)』弘文堂

■最新版の六法(デイリー六法やポケット六法など)を授業に持参すること。

【参考書】

■芝池義一・大田直史・山下竜一・北村和生編(2022)『判例行政法入門(第7版)』有斐閣

■斎藤誠・山本隆司(2022)『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ(第8版)』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

平常点30%(出席は受講に際して前提となるが、授業時に出す課題の提出状況やリアクションペーパーの提出を課す場合がある)、期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

■毎回の授業で最新版の六法を持参すること。

■上記に記載の授業計画(シラバス)の各回のトピックは、習熟状況や進行状況等によって順番を変えたり、複数回にわたって授業内容を取り扱う場合がある。その場合は適宜授業でアナウンスを行う。

【Outline (in English)】

This lecture will explain the basic concepts, principles, and approaches of administrative law other than administrative litigation and state compensation. This class will also incorporate active learning methods such as discussions.

Evaluation : Attendance 30% and Final Examination 70%

LAW200HA（法学 / law 200）

行政法Ⅱ

中山 敬太

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水5/Wed.5

備考（履修条件等）：環コア：経、口

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本には多くの法律があるが、その大半は「行政法」に位置づけられる。社会の不確実性が増し、社会構造が複雑化していく中で、行政主体（国や地方自治体等の行政機関）に期待される役割も多様化している状況である。本授業では、各回のトピックに関する基本的な考え方について説明し、具体的な事例等を取り上げながら、とりわけ行政事件訴訟法や国家賠償法・損失補償制度を中心に講義する。

【到達目標】

■本授業が終了後も、自ら「行政法」を自立的かつ主体的に学ぶことができる基本的な能力とスキルを取得できる。

■メディア等で報道されている様々な社会の諸問題を「行政法」等の法的な思考で捉え、ロジカルに説明し、論じることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で授業を展開する。受講人数等にもよるが、判例分析等で適宜アクティブラーニングを取り入れ、グループディスカッションや全体討議等も行う場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義の内容や進め方などを概説する。
第2回	行政上の救済手続	教科書等を用いて、行政上の救済手続に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第3回	行政事件訴訟法概観	教科書等を用いて、行政事件訴訟法の概観について解説する。
第4回	取消訴訟(訴訟要件・審理)	教科書等を用いて、取消訴訟における訴訟要件や審理に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第5回	取消訴訟(判決・執行停止など)	教科書等を用いて、取消訴訟における判決や執行停止などに関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第6回	無効等確認訴訟	教科書等を用いて、無効等確認訴訟に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第7回	不作為の違法確認訴訟	教科書等を用いて、不作為の違法確認訴訟に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。

第8回	義務付け訴訟と差止訴訟	教科書等を用いて、義務付け訴訟と差止訴訟に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第9回	当事者訴訟・民衆訴訟・機関訴訟	教科書等を用いて、当事者訴訟・民衆訴訟・機関訴訟に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第10回	行政不服審査法	教科書等を用いて、行政不服審査法に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第11回	国家賠償法(1条)	教科書等を用いて、国家賠償法1条に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第12回	国家賠償法(2条)	教科書等を用いて、国家賠償法2条に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第13回	損失補償	教科書等を用いて、損失補償に関連する具体的な事例等を取り上げながら本テーマについて解説する。
第14回	まとめ	授業の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義で取り扱う内容を教科書等で該当箇所を授業前後で熟読すること。また関連する判例の復習(読み直し)も行うこと。講義で扱った内容(判例を含む)を1度に限らず定期的に復習することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

■櫻井敬子・橋本博之(2025)『行政法(第7版)』弘文堂

■最新版の六法(デイリー六法やポケット六法など)を授業に持参すること。

【参考書】

■芝池義一・大田直史・山下竜一・北村和生編(2022)『判例行政法入門(第7版)』有斐閣

■斎藤誠・山本隆司(2022)『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ(第8版)』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

平常点30%(出席は受講に際して前提となるが、授業時に出ず課題の提出状況やリアクションペーパーの提出を課す場合がある)、期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

■本講義は、「行政法Ⅰ」を履修済みであることが望ましいですが、講義内容に関心がある方は受講をして下さい。

■毎回の授業で最新版の六法を持参すること。

■上記に記載の授業計画(シラバス)の各回のトピックは、習熟状況や進行状況等によって順番を変えたり、複数回にあたって授業内容を取り扱う場合がある。その場合は適宜授業でアナウンスを行う。

【Outline (in English)】

This lecture is a continuation of the "Administrative Law I" class. This lecture will mainly explain administrative litigation and the state compensation system. This class will also incorporate active learning methods such as discussions.
Evaluation : Attendance 30% and Final Examination 70%

SOC200HA（社会学 / Sociology 200）

現代社会論Ⅰ

佐伯 英子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学理論は、社会を分析し理解するための重要な道具です。本科目では理論とその使い方を学び、「社会的に社会を見る」面白さを体験します。まずは現代社会がどのように形作られてきたかを理解するために近代化についての理論を学び、その後は個人と社会の関係、労働と経済的格差、教育、多様性、人権等に関する課題とそれに関連する理論を、具体的な事例や日常生活と関連づけながら多面的・多角的に検討します。

【到達目標】

本科目は現代社会が直面している諸問題を社会学の概念や理論を使って分析することによって、それぞれの学生が自分で考え、それを言語化する力をつけることを目標とします。新たな視点を得ることで「当たり前」を疑い、主体的に調べ、議論する力を涵養することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本科目は講義形式で行いますが、双方向的な学びを促進するため、授業中にオンラインツールを用いたクイズやアンケート等を適宜実施します。また、毎回の授業の最後に、その回の内容に関する小課題を課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	理論と概念の重要性、社会学と持続可能な社会の構築、授業の進め方
第2回	「社会を社会的に考える」とは	社会学的想像力
第3回	近代化と社会	分業、連帯、アノミー、社会的事実
第4回	個人と社会	社会的存在としての人間、アイデンティティ、社会化
第5回	資本主義と労働、格差の再生産	労働、階級、ハビトゥス、文化資本
第6回	管理社会	「従順な身体」、権力とまなざし
第7回	前半のまとめ、試験1	前半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う
第8回	フェミニズム理論	知識とジェンダー、労働としての家事、感情労働、インターセクシュナリティ
第9回	セクシュアリティとジェンダーアイデンティティ	異性愛規範、シスノーマティシティ
第10回	ポストコロニアリズム	オリエンタリズム、サバルタン、人種、多様性
第11回	人種と民族	歴史的背景、マイクロアグレッション、日本におけるレイシズム

第12回	インターセクシュナリティ	権力、アイデンティティ、個人の経験
第13回	社会変化	構造機能主義と紛争理論、社会運動論、人権、民主主義を考える
第14回	後半のまとめ、試験2	後半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

奥村隆 2014『社会学の歴史Ⅰ』有斐閣
クリストファー・ソープ他、沢田博訳 2015『社会学大図鑑』三省堂
クリス・ユール・クリストファー・ソープ、田中真知訳 2017『10代からの社会学大図鑑』三省堂

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎週の小課題を含む）50%、試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

課題に書かれた考えや質問を共有しコメントする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to gain foundational knowledge of sociological theory and the ability to apply such knowledge to issues we face in contemporary society.

【Course outline】

Specific topics to be covered include modernization, inequality, identity, education, and diversity. Each class consists of lectures and activities to apply theories to social issues we have today.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation (including small weekly assignments) 50%;
Exams 50%

SOC200HA（社会学 / Sociology 200）

現代社会論Ⅱ

島袋 海理

配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1
その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代社会における重要なトピックである、ジェンダー／セクシュアリティに関する問題を扱う。ジェンダー／セクシュアリティの視点は、現代社会における日常生活の出来事からマクロな社会問題まで、幅広い課題を考えるツールとなる。本授業では、ジェンダーのみならずセクシュアリティ（第4回）、また性的マイノリティ（第3-5回）についても紹介する。また、生物学（第6回）や教育社会学（第8-10回）、家族社会学（第13回）など、ジェンダー／セクシュアリティをめぐる問題が多様な学問領域を背景にして成立し、時には学問の垣根を越えて展開されてきたことを紹介する。さらに、ジェンダーの関わる問題は日常生活の様々な場面において現れることを示すために、（学校）教育（第8-9回）、大学（第10回）、労働（第11-12回）、結婚・出産（第13回）といった、多くの人々の人生に関わる問題について、ジェンダー／セクシュアリティの観点から考えていく。

【到達目標】

- ①現代社会をジェンダー／セクシュアリティの観点から捉えることができる
- ②現代社会におけるジェンダー／セクシュアリティ問題の射程の広さや議論・立場の多様さを理解する
- ③ジェンダー／セクシュアリティが関わる問題を自分事として考えることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 基本的に講義形式（対面またはオンライン）を採用する。
- 第1回目はオリエンテーションとして、授業の目標と内容、計画等を詳述する。
- 第2回目以降は、以下のように進める。
- (1)前回の授業のコメントシートの内容を取り上げ、前回の復習を行う（10-20分）
 - (2)担当教員から、当該授業回のテーマについてレクチャーを行う（60-70分）
 - (3)当該授業の内容に関する小課題を提示し、提出する（20分）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の概要、講義の進め方
第2回	ジェンダーの定義①	<分類>としてのジェンダー、フェミニズム【教科書ははじめに・1章】
第3回	ジェンダーの定義②	インターセックス／性分化疾患、アイデンティティ【教科書2章】
第4回	ジェンダーとセクシュアリティ①	トランスジェンダー、ジェンダー・マイノリティ【教科書3章】
第5回	ジェンダーとセクシュアリティ②	同性愛者・両性愛者、セクシュアル・マイノリティ【教科書4章】
第6回	生物学とジェンダー／セクシュアリティ	性差と性役割、生物学のジェンダー的偏見【教科書5・6章】

第7回	前半のまとめ、中間試験	前半で扱った内容について問う試験と解説
第8回	教育学とジェンダー	進路の性差、学校文化とジェンダー【教科書7章】
第9回	教育学とセクシュアリティ	青少年の性行動、性教育と家族・国家【教科書8章】
第10回	性暴力／ハラスメントと大学	被害者と加害者の視点、セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント【教科書9・10章】
第11回	仕事とジェンダー	「女性優遇」、男女間の賃金格差【教科書11章】
第12回	仕事とセクシュアリティ	性別役割分業、マタニティ・ハラスメント【教科書12章】
第13回	結婚・出産とジェンダー／セクシュアリティ	母性愛神話、リプロダクティブ・ヘルス&ライツ【教科書13章】
第14回	後半のまとめ、期末試験	後半で扱った内容を中心に問う試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、次回授業のテーマが扱われている教科書の章を事前に講読し、授業テーマについて予習することが求められる（1時間）。本講義は教科書の予習を必須としているため、教科書の事前講読がない場合、授業についていけなくなる可能性がある。また、担当教員が指定するテーマやキーワードについて調べたり、近年起こった事件について調べてもらったりすることが求められる（1時間）。復習としては、授業で取り上げた内容についての振り返りが必要である（1時間）。さらに、教科書や授業内で紹介した参考書を講読することを通じて、当該テーマについて考える時間が必要である（1時間）。参考書に関するレポートの提出が成績評価にも含まれる。

【テキスト（教科書）】

加藤秀一『はじめてのジェンダー論 改訂版』有斐閣、2025年 [ISBN: 9784641151413]

※2017年に出ている初版 [ISBN: 9784641150393]ではなく、2025年の改訂版を使用する。

※本講義は予習必須である。受講生は第2回目以降の授業に臨むにあたって、事前に教科書の指定された範囲を講読する必要がある。講義では教科書の内容についても触れるが、教科書を講読したことを前提に発展的な内容を扱うため、予習をしなければ授業についていけなくなる可能性がある。

【参考書】

<新書>

大越愛子『フェミニズム入門』筑摩書房、1996年 [ISBN: 4480056629]

若桑みどり『お姫様とジェンダー：アニメで学ぶ男と女のジェンダー学入門』筑摩書房、2003年 [ISBN: 9784480061157]

荻野美穂『女のからだ：フェミニズム以後』岩波書店、2014年 [ISBN: 9784004314769]

森山至貴『LGBTを読みとく：クィア・スタディーズ入門』筑摩書房、2017年 [ISBN: 9784480069436]

清水晶子『フェミニズムって何ですか？』文藝春秋、2022年 [ISBN: 9784166613618]

周司あきら・高井ゆと里『トランスジェンダー入門』集英社、2023 [ISBN: 9784087212747]

デボラ・キャメロン『はじめてのフェミニズム』筑摩書房、2023年 [ISBN: 9784480684622]

<入門書・教科書>

加藤秀一『知らないと恥ずかしいジェンダー入門』朝日新聞出版、2006年 [ISBN: 9784023303737]

千田有紀・中西祐子・青山薫『ジェンダー論をつかむ』有斐閣、2013年 [ISBN: 9784641177161]

風間孝・河口和也・守如子・赤枝香奈子『教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ』法律文化社、2018年 [ISBN: 9784589039705]

石田仁『はじめて学ぶLGBT：基礎からトレンドまで』ナツメ社、2019年 [ISBN: 9784816365829]

新ヶ江章友『クィア・アクティビズム：はじめて学ぶクィア・スタディーズ』花伝社、2022年 [ISBN: 9784763420022]

三橋順子『これからの時代を生き抜くためのジェンダー&セクシュアリティ論入門』辰巳出版、2023年 [ISBN: 9784777829484]

池田緑『ジェンダーの考え方：権力とポジショナリティから考える入門書』青弓社、2024年 [ISBN: 9784787235497]

守如子・前川直哉編著『基礎ゼミ ジェンダー・スタディーズ』世界思想社、2025年[ISBN: 9784790717997]

上掲以外の参考文献については、適宜授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパー・小課題の内容：30%

＊コメントペーパーは、毎回の授業内容に関する小課題が含まれる。
＊①小課題の内容を理解した上で記述できているか、②授業で紹介した基本概念や語句を援用して説明できているか、③自分と身近な問題と関連して記述できているか、という3つの観点から評価する。

レポート課題：20%

＊教科書で紹介されている参考文献、あるいは授業中で紹介される参考文献を講読したうえで、その文献に関するレポートを課す。

＊レポートでは、①授業で学んだ内容と選定した文献の関連、②文献から学んだ重要なポイント、③文献から得られた知識や視点を応用して、現代社会における問題に対する論評、の3つの内容が含まれる必要がある。

筆記試験：中間20%、期末30%

＊概念や語句を問う問題と、論述問題で構成される。

＊①授業で紹介した基本概念や語句の意味を理解しているか、②設問の意図を理解したうえで論述できているか、③ジェンダー／セクシュアリティの観点を援用して論述できているか、という3つの観点から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2回目以降の授業の冒頭にて、前回の授業で提出されたコメントシートへのフィードバックを行い、受講生との対話の機会を確保する。
上掲機会とは別に、受講生から授業に対する肯定的・否定的フィードバックを定期的に求める。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインに接続可能なデバイス（パソコン、スマートフォン、タブレット端末等）：出欠をオンラインで確認するため（ただし、やむを得ない事情に応じて、紙による提出も認める）。

【その他の重要事項】

・本授業では、教科書の予習を求める。授業は教科書を読んでいることを前提に発展的な内容を取り扱うため、読まずに参加した場合、授業についていけなくなる可能性が高い。

・授業ではからかいやいじめ、差別や暴力、性的な描写や話題について扱うことがある。そうした際は事前に告知するが、授業の途中で居心地が悪くなったりいたたまれなくなった場合、また気分が悪くなった場合には、担当教員の許可なしに離席しても構わない。その他、配慮を求める場合は遠慮なく申し出て欲しい。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course will address issues related to gender/sexuality, an important topic in contemporary society. By acquiring a perspective on gender/sexuality, students will acquire the tools to think about a wide range of issues in contemporary society, from everyday life events to macro social problems.

Learning Objectivities: (1) View contemporary society from the perspective of gender/sexuality, (2) understand the wide scope of gender/sexuality issues in contemporary society, and (3) consider issues related to gender/sexuality as one's own personal matter

Learning Activities outside of Classroom: Students are required to read the relevant textbook chapter before class. After class, they are expected to read suggested references and explore articles related to the class theme.

Grading Criteria/Policy: Comment Papers and Short Assignments (30%), Short Report (20%), Written Exams (50%): Midterm (20%) and Final (30%)

SOC200HA（社会学 / Sociology 200）

NPO・ボランティア論

新田 英理子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分がより良くありたいと願うように、社会をより良くしたいと願うときに、ボランティア、NPO（Nonprofit Organization）について、多面的、多角的に理解していることで、社会との向き合いの幅を広げることができます。

日本において、NPOが一般的になってきたのは、ここ25年ほどです。ボランティアは、「奉仕」を越えて、現代社会においてますます重要性を増しています。また、NPO・ボランティアと親和性の近い言葉として、市民社会・市民という言葉があります。

この授業では、NPOやボランティアを多角的、多様に理解すると同時に、SDGs達成に向けて活動する、NPOの実践者、ボランティアの実践者からの情報提供も受けます。それらを通じて、ひとりひとりが、市民として、社会とどのように向き合い、関わっていくのか、理解を深め、考える機会とします。

【到達目標】

- ・NPOの意味、役割、これまでの歴史、運営や財源、行政や企業との関係などについて理解を深めます。
- ・ボランティアの意味、役割、これまでの歴史、NPOとの関係について理解するとともに、SDGsとボランティア、SDGsと市民について、考えます。
- ・日本社会においては、1990年代からNPO・ボランティアが取り組んできた社会課題解決への理解を通して、現代の社会の変化やなぜ社会の持続可能性やSDGsへの貢献が重要なのかについて、問題意識が持てるようになります。
- ・今後のより良い社会のあり様を、どのように考えていけばよいのか。市民一人ひとりが、社会とどのように向き合い、関わるべきか、学生自身も含めて考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・原則として各回ごとに、テーマにそった講義を行います。
- ・毎回、ランダムな小グループで話し合い、グループの意見をグループスプレッドシートに書き、授業中にディスカッションする時間を設けます。
- ・出欠を兼ねたリアクションペーパー（感想・質問・意見）を毎回提出してもらいます。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。
- ・NPO・ボランティア活動の実践を聞く機会として、ゲスト講師をお呼びします。事前に質問を集めます。
- ・リアクションペーパーの意見等をもとに、学生からも意見を出してもらい、学生間で様々な視点や考えを学びあいます。
- ・毎回の授業で、ノートパソコン、タブレットなどを使って記入していただく時間がありますので、準備して参加してください。
- ・授業の資料は教材にあげますが、プリントアウトしませんので、必要な方は、自身でプリントアウトしてください。
- ・履修人数によって、12回、13回、14回の授業の持ち方は変更します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ボランティア、 NPO、SDGsに関する基礎知識	・授業の目標、内容、進め方についての説明 ・私たちの生活と、持続可能性
第2回	NPOの基礎知識～ NPOとは何か	・NPO歴史的背景 ・NPOの意味と意義 ・日本社会におけるNPO種類（NPO、NGO、CSOなど）
第3回	SDGsの基礎知識～ SDGsとは何か	・SDGsの歴史的背景 ・SDGsの意味と異議 ・SDGsの担い手としてのNPO、ボランティアの意味
第4回	ボランティア・ボランティア活動とは何か？	・ボランティアの歴史的背景 ・ボランティアの意味と意義 ・個人、組織や法人格とは
第5回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して①	差別/格差の問題と向き合う、NPO・ボランティアの実践事例を通して、持続可能性について考える
第6回	課題設定	5回の授業を通して、グループもしくは自身が解決したい、社会課題を設定します。
第7回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して②	環境問題（プラスチックごみ問題）と向き合う、NPO・ボランティアの実践事例（クリーンアップ等）を通して、持続可能性について考える
第8回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して③	生物多様性と向き合うNPO・ボランティアの実践事例（希少種保全等）を通して、持続可能性について考える
第9回	市民社会とは何か	・市民社会とは ・行政組織や企業組織との違い ・連携について
第10回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して④	外国にルーツをもつ人たちが抱える問題と向き合うNPO・ボランティアの実践事例（学習支援等）を通して、持続可能性について考える
第11回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して⑤	貧困/格差の問題と向き合う、NPO・ボランティアの実践事例を通して、持続可能性について考える
第12回	授業の振り返りと発表①と補足	・半期を通じて、調べてきたNPO・ボランティア活動の発表①
第13回	授業の振り返りと発表②	・半期を通じて、調べてきたNPO・ボランティア活動の発表②
第14回	パートナーシップ	・パートナーシップによって課題を解決するとは ・NPO・ボランティアにとってのパートナーシップの概念を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします

- ・毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をすること。
- ・各回のレジュメ（パワーポイント資料）配布するので、授業後、各自授業内容を振り返り内容をよく理解し、自分なりの考えを整理してみる。疑問点等があれば、次回授業のリアクションペーパーで提出してください。
- ・欠席した場合も授業支援システムからレジュメをダウンロードして授業内容を把握しておくこと。
- ・参考書等で授業内容と関連する内容を読み、考察を深めること。
- ・各自で、関心のある分野のNPOの事例をインターネット等で調べたり、NPO支援センターなどで情報収集したり、実際にボランティア参加してみることをお勧めします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

「基本解説。そうだったのかSDGs」SDGs市民社会ネットワーク発行 1000円

「知っておきたいNPOのこと基本編」日本NPOセンター発行 500円

その他、授業内でも紹介します。授業で聞くだけでなく、参考書のいずれかを購入するか、各自でNPOに関する本や小冊子入手し、授業とあわせて理解や考察を深めるようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の発言、リアクションペーパーの提出、参加姿勢、グループワークへの参加など）：40%

テスト・レポート：60%

なお、原則として、自分都合で4回以上欠席した者は、成績評価を行わない。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の時間、ゲスト講師からのインプットには高評価が得られている

【学生が準備すべき機器他】

授業中に、学習支援システムからアンケートを実施したり、グーグルスプレッドシートに記入したりするため、ノートパソコンやタブレットなどを持参して授業を受講してほしい。

【その他の重要事項】

- ・講師自身は、現在もSDGsを達成するために活動しているCSOのネットワーク組織で普段は活動をしています。
- ・また、20年間、NPOとしてNPOを支援し、活動を行ってきた経験また、現在の活動先であるSDGs市民社会ネットワークの活動をもとに、具体的な事例や体験談を交えて授業を行います。
- ・学生による発表がありますので、授業計画を一部変更することもあります。
- ・履修人数により、グループワークや発表方法などを変更します。

【Outline (in English)】

In this class, we will receive reports from NPO/volunteer practitioners, who understand NPOs and volunteer work from multiple points of view. Through such experiences, students in this class will have opportunities to deepen their understanding of such work and consider how they want to engage with society as citizens.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

The lecturers are required to prepare for and review the lectures by using the materials introduced in the lectures.

After the class, each student should review the lecture content, understand the content well, and organize his/her own ideas. If you have any questions, please submit them in the reaction paper for the next class.

If you are absent from class, download the resumes from the class support system to grasp the contents of the class.

Students are expected to deepen their understanding of the contents of the class by reading the related contents in reference books, etc.

It is recommended that you research NPOs in your field of interest on the Internet, gather information at NPO support centers, etc., and actually participate in volunteer activities.

Grading criteria

Ordinary points (in-class comments, submission of reaction papers, participation attitude, etc.): 40

Tests and reports: 60

As a general rule, students who are absent four or more times will not be graded.

SOC200HA（社会学 / Sociology 200）

フィールド調査論

藤田 研二郎

配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2
備考（履修条件等）：定員制
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査の方法は、研究やマーケティングにおいて必要なばかりでなく、ときに調査を受けたり、また日常的にニュースを読み解く際にもかかわる重要な知識である。本授業では、量的・質的双方の社会調査（アンケート調査とインタビュー調査）の方法について講義と実習を行う。それらを通じて、社会調査を計画的に実施し、また調査結果を適切に読み解くためのスキルを学ぶ。

【到達目標】

社会調査の方法、量的調査と質的調査の特徴について説明できるようになる。それぞれの特徴にもとづき、量的・質的双方の社会調査を計画的に実施できるようになる。日常生活のなかで、社会調査の結果を適切に読み解くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

量的・質的双方の社会調査の方法について、主に各回の前半で講義し、後半で実習を行う。実習の課題は、授業時間外で作業が必要になる場合がある。
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義：本授業の概要を示し、社会調査の定義と種類、量的調査と質的調査の概要について学ぶ。
第2回	社会調査の基礎①	講義：社会調査の歴史、調査倫理、二次データの利用について学ぶ。
第3回	社会調査の基礎②	講義：調査研究のプロセス、問いと仮説・変数について学ぶ。 実習：調査研究を企画する。
第4回	量的調査①	講義：アンケート調査のプロセス、種類について学ぶ。 実習：調査研究の企画をプレゼンし、ディスカッションする。
第5回	量的調査②	講義：調査票の構成、質問項目・選択肢のつくり方、ワーディングの問題について学ぶ。 実習：アンケート調査の質問項目・選択肢を作成する。
第6回	量的調査③	実習：調査票のプリテストを行う。
第7回	量的調査④	講義：データ化と集計方法の種類、Excelの関数について学ぶ。 実習：Excelの関数について実習する。

第8回	量的調査⑤	講義：Excelによる集計方法、単純集計、クロス集計について学ぶ。 実習：単純集計、クロス集計を行う。
第9回	量的調査⑥	講義：リサーチ・リテラシーについて学ぶ。 実習：単純集計、クロス集計の分析結果をまとめ、考察する。
第10回	質的調査①	実習：分析結果をプレゼンし、ディスカッションする。 講義：インタビュー調査の方法と研究例について学ぶ。
第11回	質的調査②	講義：質的調査の種類、インタビュー調査の方法と研究例について学ぶ。 実習：インタビュー調査の質問項目を作成する。
第12回	質的調査③	講義：トランスクリプトの作成、参与観察の方法と研究例について学ぶ。 実習：インタビュー調査を実践し、トランスクリプトを作成する。
第13回	質的調査④	講義：質的データの分析方法について学ぶ。 実習：質的データ分析を実践し、結果をまとめる。
第14回	質的調査⑤／まとめ	実習：分析結果をプレゼンし、ディスカッションする。 講義：量的・質的調査の特徴、組合せについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、日常的に社会調査に関するニュースに関心をもち、調査結果を批判的に読み解くこと。復習としては、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。また適宜、授業時間外の実習の課題を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】

各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、社会調査法の入門的なテキストとして、例えば以下のものがある。
大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編，2023，『最新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）＋実習（40%）＋期末レポート（30%）、を想定。

【学生の意見等からの気づき】

提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。また実習でPCを使う回があるため、各自用意すること。

【その他の重要事項】

本授業は25人程度を定員とし、希望者多数の場合は選考を行う。選考方法は第1回の授業で連絡するので、受講希望者は必ず第1回の授業に出席すること。なお、グループワークを行うため遅刻・欠席しないこと。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】
(Course Outline)

Social research methods are not only necessary in academia or marketing but are also relevant when you receive surveys or interviews and read daily news. In this class, students will learn and practice both quantitative and qualitative methods of social research, including surveys and interviews. Students will learn skills to systematically conduct social research and to appropriately interpret the results.

(Learning Objectives)

Students should be able to do the following:

- Explain the characteristics of social research methods and the differences between quantitative and qualitative research.
- Conduct systematically both quantitative and qualitative social research based on the characteristics of each method.
- Interpret appropriately the results of social research.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students should pay attention to daily news about social research and critically read the results. Students should review the previous class based on the handouts and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (30%) + Practical Work (40%) + Final Report (30%).

SOC200HA（社会学 / Sociology 200）

フィールド調査論

大石 友子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の文化人類学では、身の回りのありとあらゆる現象を研究の対象とすることができる。本講義では、受講生がそれぞれ関心のある身近なトピックの一つを選び、簡易なフィールドワークを通じて何らかの成果物を制作する。そのために、文化人類学におけるフィールドワークや様々な手法を用いた民族誌の制作について学ぶ。これを通じて、フィールドワークの基礎を身につけるとともに、フィールドワークから立ち上がる思考を記述・表現する手法を習得する。

【到達目標】

- ①文化人類学におけるフィールドワークの基礎を身につける。
- ②文化人類学における多様な民族誌の手法について理解する。
- ③フィールドワークから立ち上がる思考を表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

教員による講義とそれに関連したトピックの演習を行う。毎回の授業の終了前にはリアクションペーパーを提出する。また、受講生は自分の関心のある身近なトピックの一つを選び、簡易なフィールドワークを実施した上で成果物を制作し、提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：フィールドワークと民族誌	本授業の概要を理解する。
第2回	文化人類学とその主題	文化人類学が取り扱う多様なトピックについて概観する。
第3回	フィールドワーク①：文化人類学の多様な調査手法	文化人類学のフィールドワークの多様性について学ぶ。
第4回	フィールドワーク②：フィールドワーク体験	実際にフィールドワークを体験し、フィールドノートをつける。
第5回	制作テーマの発表	関心のあるテーマとフィールドを選び発表する。
第6回	民族誌と実験的な記述	民族誌の多様な記述方法について学ぶ。
第7回	フェミニスト・エスノグラフィ	フィールドワークや民族誌に関する批判とそれを乗り越えるための実践について学ぶ。
第8回	映像人類学	映像を用いた民族誌について学ぶ。
第9回	経過報告	制作に関する経過報告を行い、相互にコメントを行う。
第10回	マルチモーダル人類学	写真、音声、展示、漫画などを用いた民族誌について学ぶ。
第11回	マルチスピースズ民族誌とアート	複数種の民族誌と他分野との融合について学ぶ。
第12回	民族誌映画の鑑賞	民族誌映像を鑑賞し、その背景や手法について学ぶ。

第13回 制作物の提出

制作物を提出し、相互に講評を行う。

第14回 講評会、総括

制作物について発表し、全体でディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、授業時間外に自身の選んだテーマに関する簡易なフィールドワークを行い、制作物の制作に取り組む。第5回講義でテーマの発表、第9回講義で途中経過の報告、第13回講義で制作物の提出を行い、第14回講義で課題として制作物に関する発表を行う。本講義の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料を配布する。

【参考書】

- ・原知章 2025『ミニエスノグラフィーの教科書：現場の文脈の理解をめざすフィールドワークへの誘い』ナカニシヤ出版。
- ・小田博志 2023『改訂版エスノグラフィー入門：〈現場〉を質的研究する』春秋社。
- ・村尾静二 2014『映像人類学：人類学の新たな実践へ』せりか書房。
- ・川瀬慈 2019『あふりこ：フィクションの重奏/遍在するアフリカ』新曜社。
- ・奥野克巳、シンジルト（編）2021『マンガ版マルチスピースズ人類学』以文社。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業参加度（授業内やリアクションペーパーでのコメントや質問）10%
- ②各授業の課題30%
- ③制作テーマ発表、経過報告、制作物60%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

授業内の課題に取り組むために、毎回パソコン等を持参すること。

【その他の重要事項】

- ①本科目では文化人類学系の科目履修者など、文化人類学の基礎的な知識があることを前提として授業が行われます。文化人類学系の科目を未履修の受講希望者は、第一回目の講義で教員に相談してください。
- ②本科目では、すべての授業に参加することを前提とし、制作物を作成・提出することが求められます。それを理解した上で受講してください。
- ③定員は20名とし、希望受講者数が定員を超える場合は、第一回目の講義で決定することとします。その際、文化人類学系の科目履修者を優先します。

【Outline (in English)】

< Course Outline >

In contemporary cultural anthropology, almost any phenomenon could be a research target. In this course, students select a topic from a familiar phenomenon and conduct simplified fieldwork to produce an ethnographic work. Therefore, this course offers lectures on anthropological fieldwork and various methods for producing ethnography. Through this course, students acquire basic skills to conduct fieldwork and express ethnographic images.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1: To acquire basic skills to conduct cultural anthropological fieldwork.
- 2: To understand various methods of ethnography in cultural anthropology.
- 3: To acquire basic skills to express ethnographic images.

< Learning Activities Outside of Classroom >

Students must conduct small-scale fieldwork on a topic based on personal interest outside the classroom and independently produce an ethnographic product.

Students are required to choose a topic on the fifth class day, report progress of the fieldwork on the ninth class day, submit the product on the thirteenth class day, and give a presentation explaining the concept of the product on the last class day.

The required time before and after each classroom is about two hours.

< Grading Criteria /Policy>

1: In-class contribution 10%

2: In-class assignment 30%

3: Presentations and ethnographic product 60%

SOC200HA（社会学 / Sociology 200）

社会統計論

藤本 隆史

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2
備考（履修条件等）：定員制
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会では様々な統計調査が行われており、その結果が報告されているが、この講義では、社会統計の基礎として、調査結果の読み方や利用の仕方とともに、実際に統計ソフト（Excel）を使ってデータの集計・分析の方法を学習する。

【到達目標】

調査計画からデータ分析に至るまでの統計調査における一連のプロセスを理解する。データ分析においては、クロス集計の方法など基礎的な統計処理の手順を習得する。分析の目的（何を比べているのかなど）や分析の意味（どのようにしてその分析が行われているのかなど）を理解した上で適切な集計・分析を行えるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、授業資料を配布し、指示された課題に取り組んで提出してもらう。データの集計・分析には、エクセルを用いる。基礎的なデータ処理の手法を中心とし、高度な統計処理は行わない。学期末に確認テストを実施する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。なお、PC教室を利用するため、第1回については受講者数が超過する可能性もあるので、オンライン形式で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	授業概要の説明を行う（受講人数確認のため教室ではなくオンライン形式で実施する）
第2回	社会統計とは何か	社会統計の種類や、政府統計など既存の統計データの探し方や利用方法などを学ぶ
第3回	データとは何か	データの種類や、統計データの収集方法（手順）などを学ぶ
第4回	基礎統計	平均値や標準偏差など記述統計の算出方法を学ぶ
第5回	確率分布および統計的推定について	確率分布の考え方と、標本統計量による母数の推定（点推定・区間推定）の考え方を学ぶ
第6回	クロス集計表の作成	クロス集計の考え方と作成方法を学ぶ
第7回	エラボレーションおよび関連係数	第3変数を用いたエラボレーションの考え方と、クロス集計表による変数の関連の測定方法を学ぶ
第8回	統計的検定の基礎およびカイ2乗検定	統計的検定の基礎知識と、クロス集計表を使った離散変数間の検定を学ぶ

第9回	平均値の比較の分析（1）t検定	独立変数の値が2値の平均値の比較の分析方法（t検定）を学ぶ
第10回	平均値の比較の分析（2）分散分析	独立変数の値が3値以上の平均値の比較の分析方法（分散分析）を学ぶ
第11回	相関係数	連続変数間の関連の測定と分析方法を学ぶ
第12回	回帰分析	連続変数間の因果関係の分析方法を学ぶ
第13回	集計結果のまとめ方	集計結果を利用・加工する方法を学ぶ
第14回	試験・まとめ	統計データの収集から分析に関する知識の確認テストを実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。

【参考書】
向後千春，2007，『統計学がわかる：ハンバーガーショップでむりなく学ぶやさしく楽しい統計学』技術評論社。
その他、講義時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業資料で指示した課題の提出を求める（60%）。また、学期末に統計調査のプロセスやデータ分析に関する確認テストを実施する（40%）。

【学生の意見等からの気づき】
分析手法の理解と習得のために、より多くの具体的な分析作業を行う。

【Outline (in English)】
This course introduces the basics of statistics, which include how to read and use data to students taking this course, using statistical software, such as Excel. The goal of this course is to understand the basics of data analysis.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content with handouts and so on distributed in class.
Grading will be decided based on class assignments (60%), and the term-end examination (40%).

SOC200HA（社会学 / Sociology 200）

ファシリテーション論

徳田 太郎

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：定員制RSP履修不可

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

持続可能な社会の担い手に求められるスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本授業においては、現代社会の課題解決におけるファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】

・参加者主体の話しあいや課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。

・社会における連携や協働の実現の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。

・演習での体験を通じ、メンバーの個性を活かし、ともに協力しあうチームを育てていくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・第1回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。

・第2回～第4回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。

・第5回～第12回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。

・第13回：それまでに学んだスキルとところを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。

・第14回：まとめの講義と、授業内試験（レポート）を行う。

※第1回～第13回は、各授業時間の最後の10分程度を「振り返りシート」の作成に充てる（毎回提出のこと）。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての（また参加者としての）言動については、その都度フィードバックを行う。※大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する（講義）
2	ファシリテーションとは何か	ファシリテーションの全体像を学ぶ（講義・演習）
3	ワークショップとは何か	ワークショップの全体像を学ぶ（講義・演習）
4	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ（講義・演習）

5	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ（講義・演習）
6	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ（講義・演習）
7	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ（講義・演習）
8	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ（講義・演習）
9	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ（講義・演習）
10	話しあいの場をホールドする技術③アイデアの発散～集約	アイデアの発散～集約の技術を学ぶ（講義・演習）
11	話しあいの場をホールドする技術④意見の吟味	対立解消・合意形成の技術を学ぶ（講義・演習）
12	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ（講義・演習）
13	ファシリテーション実践	参加型の場（ワークショップ）の運営を体験する（演習）
14	まとめ	まとめ（講義）および授業内試験（レポート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

・第2回～第4回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にすること。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理すること。（予習・復習各120分程度）

・第5回～第12回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備すること。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめること。（予習・復習各120分程度）

・第13回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨むこと。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解しておくこと。（予習・復習各120分程度）

【テキスト（教科書）】

徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法（改訂版）』（2024年4月、北樹出版、ISBN：978-4-7793-0747-8）。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】

・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・富岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとところ』（岩波書店、2009年）
・堀公俊『ファシリテーション・ベーシックス：組織のパワーを引き出す技法』（日本経済新聞出版社、2016年）

【成績評価の方法と基準】

到達目標に記した3点について、小課題（各回の振り返りシート）の質と量（約60%）、レポート課題（授業内試験）（約20%）、発言や質問・演習など授業への参加度（約20%）から、総合的に評価する。期末の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

「振り返りシートをもとにした講義展開」が好評であったため、引き続き各回の授業は「約3分の1が前回学習内容の深耕、約3分の2が新規学習内容の解説・体験」という漸進的な進め方を採用する。また、毎回くじ引きでグループを構成し、異なるメンバーで話しあいを行う方法も好評であったため、今年度も同様のグループ構成を採用する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出に、学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

◎グループでの話しあいを中心にした体験型の授業です。履修希望者が多い場合は、受講者数を限定する可能性があります。その際、第1回授業の出席者を優先しますので、履修希望者は、必ず第1回授業に出席してください（第1回授業はオンラインで実施します）。

◎RSP生は、本科目は履修不可です。春学期火曜2限（C2240・RSP生優先）または春学期火曜4限（C2243）のファシリテーション論を受講してください。

【実務経験のある教員による授業】

2003年にファシリテーターとして独立、以降、市民活動や地域づくり、医療・福祉、教育・文化などの領域を中心に、全国各地で会議やワークショップ等のファシリテーターとして実務経験を積む。それに関連して、実際の現場での事例をもとに、具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Facilitation is one of the skills and mindsets required of the leaders of a sustainable society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this course, you will understand and acquire the significance of facilitation in solving the problems of modern society, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.

(Learning Objectives)

1. You will be able to explain the methodology of participant-centered discussion and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to the realization of cooperation and collaboration in society.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of its members and cooperates together.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

short reports: 60%, term-end report: 20%, in class contribution: 20%.

SOC200HA (社会学 / Sociology 200)

グローバル・コミュニケーション

ESTHER STOCKWELL

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、個人および社会的環境におけるコミュニケーション（ローカル）と、国際的・多文化的環境におけるコミュニケーション（グローバル）の両側面を「グローバル」という視点から捉え、その理論と実践について体系的に学ぶことを目的とする。授業前半では、コミュニケーションの基本概念やモデルを確認した上で、文化とコミュニケーションの関係、言語および非言語コミュニケーションの特性について学ぶ。さらに、文化が知覚、価値観、態度、行動様式にどのような影響を及ぼすのかを理論的に考察する。授業後半では、多様な文化パターンや異文化間コミュニケーションにおける課題、カルチャーショックのプロセスを理解するとともに、ビジネスや教育といった具体的な社会的文脈における文化の影響について検討する。最終的には、異文化間の相違を認識し、それに対応するための視点を身につけ、グローバルな社会において求められるコミュニケーション能力の基礎を養うことを目指す。

【到達目標】

The aims of the course are:

- ・ to give students opportunities to better know themselves, their values and biases, and to develop an awareness of how these factors influence intercultural environment.
- ・ to enable students to identify culturally learned assumptions and behaviours.
- ・ to enable students to explore specific cultural group information and relate that knowledge to culturally learned awareness.
- ・ to enable students to understand theoretical issues relevant to the study of intercultural communication.
- ・ to develop the process of cultural adaptation.
- ・ to promote positive attitudes towards the culturally different and to develop intercultural communication competence.

Through this course, students will be able to prepare for their professional lives not only in their domestic society but also in an international society. Students entering the fields of business, teaching, social services and tourism will have opportunities to apply their skills in daily contacts with culturally different client groups.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of lectures followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. Students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics that will be discussed in the following class. Classes will consist of a series of short lectures and other video materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures and videos. Students will be expected to gain skills in academic writing, including research techniques and oral presentation skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	Overview of the course, online activities, and overview of global and local (glocal) communication
第2回	Essentials of Human Communication: What and how	Definition of communication / Types of communication / Models of communication / The goal of studying communication
第3回	The Challenge of Intercultural Communication I: Culture and Communication	Why we study intercultural communication / What is culture? / Characteristics of culture
第4回	The Challenge of Intercultural Communication II: Culture and Communication	Culture and our perceptions, values, attitudes, beliefs / Problems in intercultural communication
第5回	Language and Culture: Words and Meaning	Language and intercultural communication / Language and culture
第6回	Non-verbal Communication: The Messages of Action, Space, Time, and Silence	Functions of non-verbal communication / Definition and types of non-verbal communication / Non-verbal communication and culture
第7回	Understanding Diverse Cultures	Various different cultural patterns/ Hofstede's characteristics of culture / Hall's theory of low and high context cultures
第8回	Understanding Diverse Cultures	Various different cultural patterns/ Hofstede's characteristics of culture / Hall's theory of low and high context cultures
第9回	Culture Shock	Definition of culture shock / The stages of culture shock / Effects of culture shock
第10回	Potential Problems in Intercultural Communication	Seeking similarities/ uncertainty reduction/ stereotyping/ prejudice/ racism/ ethnocentrism and power
第11回	Cultural Influence on Context I: The Business Setting & the Educational Setting	Culture and context / Communication and context / Intercultural communication and the business context
第12回	Cultural Influence on Context II: The Business Setting & the Educational Setting	The multinational business context- cultural views toward management
第13回	Intercultural Changes: Recognizing and Dealing with Differences	Becoming intercultural competent / The future of intercultural communication

第14回	Written assignment / course reflection	Students submit a written assignment and a course reflection reviewing key concepts, activities, and learning outcomes from the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes. Therefore, students are expected to take about four hours for preparation and review a class.

【テキスト（教科書）】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in each class.

【参考書】

Adler, R. B., & Rodman, G. (2023). Understanding human communication (15th ed.). Oxford University Press.

Griffin, E., Ledbetter, A., & Sparks, G. (2022). A first look at communication theory (11th ed.). McGraw Hill.

Jackson, J. (2023). Introducing language and intercultural communication (2nd ed.). Routledge.

Neuliep, J. W. (2021). Intercultural communication: A contextual approach (8th ed.). SAGE Publications.

Samovar, L. A., Porter, R. E., & McDaniel, E. R. (2020). Intercultural communication: A reader (15th ed.). Wadsworth Publishing.

Pearson, J. C., Nelson, P. E., Titsworth, S., & Harter, L. (2016). Human communication (6th ed.). McGraw Hill.

Samovar, L. A., & Porter, R. E. (2024). Communication between cultures (10th ed.). Cengage.

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of:

Class Participation: Group discussion & Attendance (30%),
Intercultural Learning Portfolio (40%), and
Campus Equity Audit: Finding Invisible Walls (30%).

* Note that students who miss four (4) classes or more cannot pass this subject.

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

【Outline (in English)】

This course examines communication in both local and global contexts, focusing on personal and social environments as well as international and multicultural settings. Students explore how communication is shaped by cultural frameworks rooted in family structures, religious traditions, and historical worldviews.

The course addresses key elements of intercultural communication, including language use, non-verbal communication, social customs, and culturally informed relationship patterns. These elements are analysed in relation to interpersonal, business, educational, and social contexts. Through lectures and discussions, students develop an understanding of how cultural differences influence communication processes and outcomes. The course provides a foundational overview of intercultural communication and encourages students to continue independent learning beyond the classroom.

ADE300HA（建築学 / Architecture and building engineering 300）

地域形成論

青木 淳弘

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考（履修条件等）：環17：口、文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の持続可能性に関する高度な学習への入門として、様々な視点から地域について検討する。特に、地域学のイメージ、地域に関する近現代史と現在の課題、ローカルキャリアとローカルプロジェクト、21世紀の都市コミュニティ、新たな実践としてのソーシャルイノベーションやソーシャルデザインについて取り上げる。この授業の目的は、学生が地域学の基礎について学びながら、自分のローカルキャリアを考えることである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・地域社会に関する高度な専門学習に必要な基礎知識を習得する。
- ・現代日本における多様な地域問題と解決策のケースを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義を中心とします。

授業内において発言を求めながら、リアクションペーパーや学生からの情報提供なども活用することで、双方向のコミュニケーションを図りたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「地域」のとらえかた	講義のプロローグとして、地域を空間スケールと時間スケールから多角的に俯瞰する。
第2回	「地域社会」の構造	環境、経済、社会、文化、政治など、人間活動の総体としての「地域」「地域社会」を構造的にとらえる。
第3回	地域と記憶～ライフストーリーとパブリックストーリー	人々の生活史（個人的記憶）と地域史（社会的記憶）の関係性について検討し、オーラルストーリーによる地域づくりについても言及する。
第4回	地域形成の近現代史 150年～明治の近代化から戦前期	19世紀後半から20世紀初頭の日本における地域形成史について検討する。
第5回	地域形成の近現代史 150年～敗戦から高度経済成長期	20世紀半ばの日本における地域形成史について検討する。
第6回	地域形成の近現代史 150年～20世紀後半から世紀転換期・21世紀前半	20世紀後半から21世紀前半の日本における地域形成史について検討する。特に「東京一極集中」とその行方について考える。

第7回	郊外と住宅からみた都市の軌跡	地域形成の近現代史の各論として、ニュータウンといわれた大規模団地や戸建て住宅などによる郊外のベッドタウンの形成（第一次郊外化）と、当時の地域社会の風景について検討する。
第8回	郊外の変貌と再生への模索	1980年代以降のロードサイドビジネスの登場と郊外の風景の変貌（第2次郊外化）、現代におけるオールタウン問題と団地再生などの郊外再生、アフターコロナにおけるポストベッドタウンの模索について検討する。
第9回	現代都市のキーワードとしてのコミュニティ	高齢社会、格差社会、多文化共生社会など、いくつかの視点から、21世紀の都市コミュニティ問題について多角的に検討する。
第10回	都市コミュニティを考える	ソーシャルキャピタルやサードプレイス、プレイスメイキング、コミュニティデザインなどの概念とともに、「居場所」づくりなどの地域実践について検討する。
第11回	ローカルプロジェクトとソーシャルイノベーション	地域の課題解決に関する実践について、ソーシャルイノベーション・ソーシャルデザインの視角から検討する。
第12回	内発的発展と持続可能な過疎地域	持続可能な過疎地域・農山漁村に向けた1970年代から21世紀前半に至る内発的発展論の展開について検討する。
第13回	地域社会を考える	これまでの講義内容をふりかえりつつ、改めて、地域社会について考える時間とする。
第14回	ローカルキャリアを問い直す	地域との多様なかかわり方を確認しながら、自らのローカルキャリアを問い直す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、配布資料及びその他の参照資料に基づき、授業時間外の学習を行い、中間レポートなどの課題に取り組むことが必要である（この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする）。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

参考文献は、授業中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、レポート（75%）＋積極的な参加姿勢（25%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・日々、報道される地域に関する出来事は、現代社会の様々な課題と関係しているため、地域に関する学習を通して、時事問題に関するリテラシーを身につける機会になるようです。
- ・さらに、地域をめぐって考え、対話し、ワークする方法と機会を模索していきたいと思います。

【その他の重要事項】

- ・シラバスの内容は目安であり、授業進度や参加者の関心に応じて、適宜変更を行う可能性があります。
- ・ローカル・サステナビリティコースおよび人間文化コースのコースコア科目・基幹科目として、コース履修の導線的かつ基盤的な位置にあるため、2つのコース登録者または履登録予定者の履修を強く推奨します。
- ・ローカル・サステナビリティコースの他のコースコア科目、または人間文化コースの地域に関するコースコア科目とあわせて履修することを強く推奨します。
- ・ローカル・サステナビリティコースと人間文化コース以外にもサステナブル経済・経営コースなどでも、地域に関するテーマと関連する部分が多いので、それらのコースの登録者や登録予定者にも履修を推奨します。
- ・登録コースにかかわらず、どこかの地域で生活する現代人の基礎教養としての履修を推奨します。

【関連深いコース】

上記の【その他の重要事項】の説明、および履修の手引きを参照してください。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to provide an introduction to the advanced studies about “Sustainable community”. Especially, we will examine the various themes, such as the image of local studies, “Local career” and “Local project”, the modern history and the present agenda of community, the urban community in the 21st century, “Social innovation” and “Social design” as new practice. The purpose of this course is for students to consider one’s career while learning about the foundation of local studies.

The goals of this course are to acquire basic knowledge required for advanced studies about local community, and to understand various regional issues and the cases of solution over them in modern japan.

Students need to prepare and review each session by using distributed materials and other references, and to work on short writing assignments. Preparatory and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following: Term-end examination:65%, Active class participation:15%, Mid-term reports:20%

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

地域経済論 I

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コア：経、口

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義で受講生は、地域経済の基盤である産業とその担い手に焦点を当てて、地域の経済発展の基礎と論理について考察します。

【到達目標】

拡大するグローバル社会の中では、国家経済的な視点だけでなく、地域の主体性（ローカル・イニシアティブ）も同時に求められています。本講義では①地域の経済理論、②事例分析にもとづいた昨今の課題を通して、地域の経済に対する具体的な分析能力と企画立案能力を習得し、サステナブルで豊かな地域社会のありかたについて考えることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

地域の経済に関する理論と実践について学びます。受講者からのリアクションペーパーを活用し、可能な範囲で対話型の講義を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「地域経済」とは何か、「豊かさ」とは何か、なぜ地域経済を考えるのか
第2回	日本の地域構造	データ（人口・家族・所得・産業など）からみた地域経済と地域構造
第3回	身近な経済学	地域の環境・経済・社会・文化的側面から地域経済を読み解く
第4回	第一次産業（1）ぶどうとワインからみた地域経済	山梨県甲州市を事例として地域経済の展開について考える
第5回	第一次産業（2）地域づくりの実践と理論	ワインの共同醸造、観光果樹園、住民イベントから地域づくりを考える
第6回	第一次産業（3）持続的社会と地域産業の役割	熊本県水俣市の甘夏生産組合の歴史と現状から環境配慮型地域産業と「内発的発展論」について考える
第7回	第二次産業（1）日本経済と地域産業	産業地域社会論について考える
第8回	第二次産業（2）伝統織物生産地域の構造と展開	ライフヒストリーからみた小規模家族経営と日本経済について考える
第9回	第二次産業（3）在来的経済発展論の射程と課題	地域の経済発展とは何か？ 在来と近代から「複線の発展論」を考える
第10回	第三次産業（1）商店街からみた地域経済	商業と地域の経済について考える
第11回	第三次産業（2）まちづくりの実践と理論	千葉県酒々井町、茨城県取手市などを事例として社会的企業の実践と理論について考える

第12回	第三次産業（3）地域鉄道からみた地域の経済	地域鉄道の経営事例と地域の経済について考える
第13回	地域の経済を考える視点と意義	ローカルの価値について考える
第14回	まとめ	地域の主体性とは何か。その意義と可能性について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。「地域」や「産業」に関わる新聞記事、雑誌、小説、映画、ニュースなどに関心を持ち、可能であれば実際に足を運んだり、食べたり、五感を通して体験してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

- ・『在来産業と家族の地域史—ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009年）
- ・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステナビリティー地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁
- ・「地域づくりの系譜—山梨県甲州市の碓六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁
- ・その他、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）によって評価します。試験は持ち込み不可の筆記試験です。

【学生の意見等からの気づき】

受講生同士の考えを知ることで講義内容が深まりました。引き続き毎回配布するリアクションペーパーを通して、相互的な講義を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

◆Course outline

In this lecture, students will examine the fundamentals and logic of regional economic development, focusing on the industries that are the foundation of regional economies and their players.

◆Learning Objectives

In the expanding global society, not only national economic perspective but also local initiative is required at the same time. In this course, students will learn (1) regional economic theory and (2) specific analysis and planning skills for regional economies through recent issues based on case study analysis, with the aim of thinking about the ideal sustainable and prosperous regional society.

◆Learning activities outside of classroom

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Be interested in newspaper articles, magazines, novels, movies, news, etc. related to "region" and "industry", and if possible, actually visit, eat, and experience them through the five senses. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

◆Grading Criteria /Policy

Evaluation will be made on the basis of final examination (100%).

SOC300HA（社会学 / Sociology 300）

地域福祉論

宮脇 文恵

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

備考（履修条件等）：環17：口,文

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 地域には、様々な人が存在していることを知り、お互いにその存在を認め合い、共存するあり方について、主に福祉的な観点から学ぶ。
2. 自分が暮らそうと思う地域を、だれもが自分らしく「暮らしたい場所」とするために、どうすればよいか。福祉的な観点から学ぶ。
3. 地域において、誰もが仲間はすれにされないためにどうすればよいか、その技法について学ぶ。

【到達目標】

人は誰もが、幸せでありたいと漠然と願っている。それは、自分が暮らしたい場所で、豊かな人間関係に囲まれ、他者から必要とされ、充実した毎を送り、「生きていてよかった」と思えるようになることであろう。その一方で、「幸せになれなくても仕方がない」とされるマイノリティが存在する。

地域福祉は、地域に暮らす一人一人が「幸せだ」「生きていてよかった」と思えることであり、そのためには、住民自身が「我が町を、住んで都にする」という意識を持ち、自分ができることを働きかけていくことが求められる。

本講義では、そのための基礎的な知識として、福祉的なニーズを抱える人々に対する理解と、地域に存在する社会資源、助け合う方法などについて理解を深めていく。そのことをもって、自らが地域社会に働きかけていく意識を醸成し、実践していく力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

地域福祉とは、「地域に暮らす一人一人が幸せになることであり、そのためのしくみをつくり、お互いに働きかけ合っていくこと」である。では、どんな人が大変な思いをしているのか、どうすれば自分らしく暮らしていくことができるのか。子ども・障害のある人・高齢者・貧困など生活困窮者・制度のはざまにあってサービスを使えない人（ゴミ屋敷、ひきこもり、LGBT、外国人移住者など）などへの理解を深め、地域で支え合うための技法と、地域社会を変革していく福祉教育実践や地域福祉計画について学ぶ。授業はすべて講義形式で行い、毎回リアクションペーパーの提出を伴う。リアクションペーパーに記述された学生の問題意識をもとにして、授業内容を再構成して実施したり、課題を再設定する回もあるため、積極的な記述をしてほしい。代表的な問題意識や感想などは、授業の冒頭で教員から受講生に共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方「地域福祉」とは～講義の概要とポイント～	講義の概要・予定と授業におけるルールの確認 地域福祉の理念を学び、国際生活機能分類(ICF)に基づいて、「本人と他者(地域社会)との関わり」を考える。

第2回	優生思想・差別・偏見と私たち	ナチスによる障害者虐殺、日本におけるハンセン病患者隔離政策などから、地域における差別の歴史を学ぶ。
第3回	ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョン	「どんな人でも社会から仲間はずれにしないで、社会の方を変えていく」というノーマライゼーションと、お互いを地域社会の中で認め合って共存していく「ソーシャルインクルージョン」について学ぶ。
第4回	障害のある人たちと地域福祉①	これまで差別されてきた障害のある人について、身体障害・知的障害を中心に地域社会との関わりを考える。
第5回	障害のある人たちと地域福祉②	これまで差別されてきた障害のある人について、精神障害（各種依存症を含む）・発達障害を中心に地域社会との関わりを考える。
第6回	社会的孤立・生活困窮者と地域福祉	野宿生活者などを含めた生活困窮者の現状と社会の偏見、地域における支援の取り組みについて学ぶ。
第7回	外国にルーツを持つ人と地域福祉	日本に暮らす外国にルーツを持つ人の置かれている現状と、私たちが地域で共に生きるあり方について学ぶ。
第8回	認知症と地域福祉	認知症高齢者、若年性認知症当事者の事例から、認知症への理解と地域社会の関わりを考える。
第9回	高齢者と地域福祉	高齢者の気持ち、置かれている社会的な状況などから、制度や政策、さらに地域におけるインフォーマルサポートなど、地域社会の関わりのある方々を考える。
第10回	子ども・家庭と地域福祉①	児童虐待・子どもの愛着形成を中心としてとりあげ、地域社会の関わりを考える。
第11回	子ども・家庭と地域福祉②	社会的養護とそのアフターフォロー、子ども・家庭の貧困をとりあげ、地域社会との関わりを考える。
第12回	多様な性と地域福祉	13人に1人と言われるLGBTについて知り、地域社会で共に幸せに暮らすための方策を探る。
第13回	地域福祉の推進主体～社会福祉協議会、社会福祉法人、NPO、民生委員・児童委員、保護司	地域福祉を推進する中心的な団体である「社会福祉協議会」、地域福祉を推進するNPOのほか、「民生委員・児童委員」「保護司」など、公的なボランティアや、ボランティア活動について学ぶ。
第14回	地域福祉推進における住民参画～福祉教育、地域福祉計画、ソーシャルサポートネットワーク	住民参画の方法として、福祉教育と地域福祉計画をとりあげ、住民の福祉意識の醸成と、見通しを立てて地域を作る計画のあり方を学ぶ留意点を学ぶ。また、地域住民の身近な支え合いとして、ソーシャルサポートネットワークについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
授業時間内、また、課題において視聴覚教材を多用します。

高齢者、子ども連れの親子、障害のある人などを始めとして、野宿者、ひきこもり、性的マイノリティ、外国人など、社会の中で居づらさを感じる人たちが実はたくさんいます。通学、生活の中で、関心を抱いて、目を向けてみてください。メディアの中の話題もチェックしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜資料を紹介していく。

【参考書】

くさか里樹『ヘルプマン！』1～27巻(講談社)、『ヘルプマン！！』1～10巻(朝日新聞)
さかたのり子・穂実あゆこ『児童福祉司一貫田逸子』(青泉社)
柏木ハルコ『健康で文化的な最低限度の生活』(小学館) 他
随時、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(毎回、授業のリフレクションを短くまとめる課題)が50%、学期末レポート50%とします。

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚教材については、古典的な教材と、さらに新しい視聴覚教材を合わせて活用する。

【学生が準備すべき機器他】

配布した資料は、その時間だけではなく、その後の授業でも振り返りながら使うので、地域福祉論用のファイルを用意して、必ず日付を明記して綴じておいてください(あとからいただく「いつ配布されたか教えてほしい」という声には答えられません)。

授業のリフレクションの小レポートの提出は、かなり早いうちから授業支援システムを使用しますので、使えるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

1. 授業についてのご意見を反映して授業を展開することもあります。そのため、シラバスの順番が入れ替わったり、新たな項目が加わることもあります。
2. 授業は、①授業で得た学びを短くまとめ、合わせて②復習または翌週までの予習として映像を視聴し、そこから得た学びを小レポートにまとめる、という双方について学習支援システムに期限内に提出することをもって、授業1回ごとの出席とします。
3. 授業の記録は原則的に手書きとします。ノートPCもしくはタブレット、携帯電話のご使用はご遠慮ください。(事情がある方には対応しますので、遠慮なくご相談ください)

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learn about people who need some kind of help and people who need help but are unable to receive services due to the gap between systems, and learn about how they can live in their own way in the community.

Classes are conducted in a lecture format, and students have the opportunity to present what they have learned as necessary. Study using many audiovisual materials, and submit a small report each time about your impressions. At the end of each class, submit a reaction paper. Based on the student's problem awareness written in the reaction paper, there are times when the class content is reorganized and implemented, and the assignment is set again, so I would like you to write positively. At the beginning of the class, teachers share their thoughts and impressions about typical problems with students.

【Learning Objectives】

Learn about people with various attributes, deepen your understanding of "social inclusion" in which people live while accepting and including each other in society, think about what you can do, and put it into practice become able to.

【Learning activities outside of classroom】

Please collect information about welfare, such as newspapers and news, and attend classes with more interest. In addition, we will give you a pre-work assignment, so please work on it.

【Grading Criteria /Policy】

50% for regular grade and 50% for term papers.

SOC300HA（社会学 / Sociology 300）

地域コモンズ論

船戸 修一

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：オータムセッション/Autumn Session | 曜日・

時限：集中・その他/intensive・other courses

備考（履修条件等）：環37：口、文

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「草原・森林・牧草地・漁場などの資源を共同で利用・管理する仕組み」または「共同で利用・管理する資源そのもの」は「コモンズ」と呼ばれる。この授業では具体的な事例から、このような資源がどのように利用・管理されてきたのか、そして現在どのような利用・管理状況にあるのかを説明する。そのうえで今後の地域社会における自然環境や資源の共同利用・共同管理のあり方について考える。

【到達目標】

まずコモンズ研究がどのような背景で成立し、どのように発展してきたのかを理解する。次に、様々な地域資源やそれに関する実践活動から資源の持続可能な利用や地域社会の持続可能性について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進める。毎回授業後には、授業内容を踏まえた課題を課し、そのレポートを次の授業までに提出してもらう。次の授業、または学習支援システムにおいて課題への解答からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コモンズとは何か？ (1)	コモンズの定義について説明する。
第2回	コモンズとは何か？ (2)	コモンズ研究がどのような実践的課題を背景に進められてきたのかを説明する。
第3回	地域社会と資源	日本の農山村と地域資源との関係性について説明する。
第4回	日本のコモンズ (1) 入会地	入会地の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第5回	日本のコモンズ (2) 農業用水	農業用水の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第6回	日本のコモンズ (3) 棚田	棚田の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第7回	日本のコモンズ (4) 里山	里山の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第8回	人と野生動物 (1) マタギ	狩猟を生業とするマタギの自然観を踏まえ、人間と自然のかかわりについて説明する。
第9回	人と野生動物 (2) 獣害と狩猟	野生動物による農業被害問題を踏まえ、狩猟による動物資源の利用・管理について説明する。

第10回	限界集落と集落維持	「他出子」という人的資源も「コモンズ」に位置づけたうえで、その資源による農山村維持の可能性について説明する。
第11回	グローバルなコモンズとその利用・管理 (1)	グローバリゼーションによる食料の不平等分配を踏まえ、食料の生産・消費について説明する。
第12回	グローバルなコモンズとその利用・管理 (2)	資源枯渇が危惧されるウナギ・マグロ・クジラなどの現状を踏まえ、漁業資源の利用・管理について説明する。
第13回	コモンズ研究の整理	今後のコモンズ研究の可能性と課題について説明する。
第14回	「コモンズ論」のまとめと振り返り	これまでの授業内容を振り返り、それを再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後は授業内容や配布プリントの内容について復習しておくこと。そのうえで授業において紹介した参考書や授業内容に関する文献を読むなど自主的な学習を望む。授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。毎回プリントを配布する。

【参考書】

授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後に課す課題レポートの内容を80%として評価する。さらに学期末に課すレポート（4千字以上）の内容を20%として評価する。なお受講者の人数次第では評価方法を変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な授業参加と授業理解を促すために、毎回授業終了後にリアクションペーパーを課したい。

【その他の重要事項】

開講は、9月14日（月）～17日（木）の予定。

【Outline (in English)】

This class engages with studies on “local commons.” The goal of the lesson is to understand the content of the local commons and their sustainable use. As learning outside of class hours, I would like to review the class and read the literature introduced in the class. The standard time for preparation and review of classes is two hours each. Regarding the method and criteria for grade evaluation, the content of the report submitted at the end of the semester will be evaluated as 20%, and the content of the reaction paper imposed after class will be evaluated as 80%.

ADE300HA（建築学 / Architecture and building engineering 300）

都市デザイン論

佐谷 和江

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考（履修条件等）：環17：口、文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①都市デザインとは、多様な人々が協力して都市の環境を計画・形成するプロセスである。この講義では、実際の事例を通して、「参加・協働」の重要性とそのプロセスを学ぶ。

②市民として都市にオーナーシップを持ち、積極的に関わっていくための考え方や方法を探求する。

③都市デザインに取り組む人々の背景や価値観を理解し、自分自身の価値観を形成する。

【到達目標】

①都市をデザインする理由、プロセス、実現後の評価方法について学び、都市環境に対する洞察力を養う。

②都市デザインへの具体的な関わり方（政策提言、市民参加、ボランティア活動など）を学び、自分も都市の一員として関わる意識を高める。

③都市デザインの背景や価値観を深く理解し、それに基づいて都市をどのように評価するか、都市デザインの良し悪しを評価する視点を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・対面で行う。
- ・講義を聞き、それに関連した質問に対して意見を述べてもらう。
- ・毎回、講義の感想を提出してもらう。Google フォーム使用。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	都市デザインとは？	授業の概要や進め方を紹介する。 また、都市デザインにおいて重要なキーワードを理解する。
2 回	都市全体のデザインとは？	市町村などの都市全体をデザインする方法について理解する。 また、市民の関わり方について理解する。
3 回	景観デザインとは？	美しく秩序ある景観を形成するための方法について理解する。 また、景観の基準を実現する取り組みについて理解する。
4 回	都市計画の意思決定プロセスとは？	計画を進めるためには市長や議会、審議会などが関わっており、これらの仕組みや市民の関わり方を理解する。
5 回	身近な地域でのルールデザインとは？	身近な地域で自分たちで環境に関するルールをつくることのできることを知るとともに、そのプロセスや結果について理解する。

6 回	身近な地域でまちづくりがうまくいかない要因とは？	身近な地域で自分たちでまちづくりを始めたが、結果がでないこともある。それらの事例分析からうまくいかなかった要因を知るとともに、それを回避する方法について理解する。
7 回	復興まちづくりとは？	東日本大震災の被災地で、復興に地域住民がどのように取り組んだか、また、その支援方法について理解する。
8 回	コミュニティのデザインとは？	孤独死や引きこもりなど、地域での孤独が問題となる中、コミュニティのデザインに関する行政の対応について理解する。
9 回	住まいのデザインとは？	住宅政策について知るとともに、多様な事業主体の関わりや、住まいづくりやマンション管理など住み手の主体的な取り組みについても理解する。
10 回	ひろばのデザインとは？	多様な意見がある中で、意見をまとめながらデザインしていくプロセスや、その結果としての環境について理解する。
11 回	地域での居場所のデザインとは？	衰退傾向にある商店街の中で、地域の居場所をつくったプロセスを把握するとともに、継続のための工夫を理解する。
12 回	地域での三世代の居場所づくりと運営とは？	高齢者施設を三世代の居場所へとデザインを変更したプロセスや、その運営について理解する。
13 回	市民活動への支援とは？	暮らしやすいまちにするために、市民活動を支援する取り組みについて理解する。
14 回	試験	1～13回についての試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をすること。各ケースのURLを下記に示すので、事前に概要を把握する。

- 第2回：練馬区都市計画マスタープラン
<https://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/machi/masterplan/index.html>
- 第3回：大田区景観計画
https://www.city.ota.tokyo.jp/kuseijoho/ota_plan/kobetsu-plan/sumai_machinami/keikan/keikankeikaku.html
- 第4回：横須賀市土地利用調整審議会
<https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4805/tokei/chosei/chosei.html>
- 第5回、第6回：横浜市地域まちづくり
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/suishin/machibushin/machibusin.html>
- 第7回：<https://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1-11/20150216105649.html>
- 第8回：川崎市「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」
<https://www.city.kawasaki.jp/shisei/category/38-1-16-1-14-0-0-0-0.html>
- 第9回：港区住宅基本計画
<https://www.city.minato.tokyo.jp/jutakuseisaku/kankyo-machi/sumai/kekaku/3jutakukihon.html>
- 第10回：川崎市カッパーク鷺沼
<https://www.city.kawasaki.jp/miyamae/page/0000040281.html>
- 第11回：墨田区寺島・玉ノ井まちづくり協議会/玉ノ井カフェ
<https://www.facebook.com/teratama/>
- 第12回：新宿区落合三世代交流サロン
https://www.city.shinjuku.lg.jp/seikatsu/file03_04_00001.html
- 第13回：江戸川総合人生大学
<http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/>

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に資料を配付する。

【参考書】

- ・都市のイメージ ケヴィン リンチ 岩波書店 新装版 (2007/5/29)
- ・縮充する日本「参加」が創り出す人口減少社会の希望 山崎亮 PHP 新書 (2016/11/16)
- ・都市計画とまちづくりがわかる本 彰国社 (2017/7/1)
- ・BIOCITY <2018 No.74> 特集エコロジカル・デモクラシーのデザイン ブックエンド (2018/4/1)
- ・新・公民連携最前線PPP まちづくり <https://project.nikkeibp.co.jp/ppp/>
- ・COLOCAL リノベのススメ <https://colocal.jp/category/topics/lifestyle/renovation>

【成績評価の方法と基準】

レポート (40%)、授業の感想の提出 (39%)、授業での意見の発表 (21%)

【学生の意見等からの気づき】

他の学生の意見が聞ける質問の時間を設け、様々な視点から問題を捉えることができたことが好評だったので、質問時間を充実させるとともに、評価の項目に加えた。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

● Course outline

- ① Urban design involves a collaborative effort where diverse individuals come together to design and realize cities. This lecture will explore the significance and process of "participation and collaboration" through real-world examples.
- ② It will investigate the mindset and methods for citizens to actively engage and take ownership in urban environments.
- ③ The course aims to understand the backgrounds and values of those involved in urban design and to develop one's own set of values.

● Learning Objectives

- ① Learn about the motivations, processes, and methods of evaluating urban design, enhancing insight into urban environments.
- ② Acquire specific ways to engage in urban design, raising awareness of one's role as a member of the urban community.
- ③ Deeply understand the background and values behind urban design, establishing criteria for evaluating cities based on these insights.

● Learning activities outside of classroom

You are expected to prepare and review the materials introduced in each lecture.

You are expected to understand the outline of each case in advance by referring to the Internet.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

● Grading Criteria /Policy

Report (40%), submission of class impressions (39%), presentation of opinions in class (21%)

SOC300HA（社会学 / Sociology 300）

環境社会論Ⅰ

藤田 研二郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環17：口

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の環境問題・環境政策の歴史を概観しながら、環境社会学の理論を紹介する。環境社会学では、「地域住民や市民がどう環境問題の解決にかかわるか」ということが、重要な論点の一つとなってきた。この論点に着目しつつ、本授業では、環境社会学の理論からみた環境問題の特徴と、解決のために必要な行動について学ぶ。

【到達目標】

日本の環境問題・環境政策の歴史を説明できるようになる。環境社会学の理論にもとづき、環境問題の特徴を指摘できるようになる。解決のために必要な行動を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、日本の環境問題・環境政策の歴史を、産業公害期（～1970年代）、都市・生活型公害期（1970年代～1980年代）、地球環境問題期（1990年代～）に区分したうえで、関連する環境社会学の理論を事例とともに紹介していく。授業の終わりには、課題を含むリアクションペーパーを提出してもらう。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムで連絡する。

2026年度春学期は、Zoomでのリアルタイム配信によるオンライン授業を予定している。大学で受講する場合は、薩埵ホールなどのオンライン受講スペースを利用すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、環境問題の定義とタイプ、環境社会学のアプローチ、住民・市民のかかりについて学ぶ。
第2回	産業公害期①	戦後から1970年代までの産業公害について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第3回	産業公害期②	水俣病問題を事例に、被害・加害構造論について学ぶ。
第4回	産業公害期③	新幹線公害問題を事例に、受益圏・受苦圏論について学ぶ。
第5回	都市・生活型公害期①	1970年代から80年代までの都市・生活型公害について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第6回	都市・生活型公害期②	自動車排気ガス規制と技術革新を事例に、生産の踏み車論とエコロジーの近代化論について学ぶ。
第7回	都市・生活型公害期③	自然資源管理を事例に、コモングの悲劇、社会的ジレンマについて学ぶ。

第8回	都市・生活型公害期④	森は海の恋人運動を事例に、集合行為、環境運動について学ぶ。
第9回	地球環境問題期①	1990年代以降の地球環境問題について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第10回	地球環境問題期②	市民風車の取組みを事例に、環境NGO・NPOの役割と課題を学ぶ。
第11回	地球環境問題期③	外来種問題を事例に、環境問題の構築主義について学ぶ。
第12回	地球環境問題期④	長良川河口堰問題を事例に、河川政策の展開について学ぶ。
第13回	地球環境問題期⑤	河川法改正を事例に、住民参加の意義、ローカルな知の役割について学ぶ。
第14回	地球環境問題期⑥／まとめ	自然再生事業を事例に、順応的ガバナンスについて学ぶ。 環境問題解決への住民・市民のかかわりという観点から、本授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習として、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】

各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学の入門的なテキストとして、例えば以下のものがある。

鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）＋定期試験（70%）、を想定。

平常点は授業への参加度、リアクションペーパー、課題の提出によって評価する。なお、試験は学期末の定期試験期間中に対面での実施を予定している。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの質問・コメントや提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】

春学期「環境社会論Ⅰ」「環境社会論Ⅲ」、秋学期「環境社会論Ⅱ」の授業内容は相互に関連しており、それぞれ歴史・理論編、現代編、活動編という位置づけである。合わせて履修することでより理解が深まるよう計画しているが、個別に履修しても問題はない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class will introduce the theories of environmental sociology, reviewing the history of environmental problems and policies in Japan. This class will focus on how residents and citizens are engaged in the process of environmental problems, which is one of the most important topics in environmental sociology. Students will learn the characteristics of environmental problems and actions for solving them based on the theories of environmental sociology.

(Learning Objectives)

Students should be able to do the following:

- Explain the history of environmental problems and policies in Japan.

- Point out the characteristics of environmental problems based on the theories of environmental sociology.

- Propose actions for solving environmental problems.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students should pay attention to daily news about environmental problems and policies and collect information. Students should review the previous class based on the handouts and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (30%) + Final Examination (70%).

Regular work will be submitting reaction papers and assignments.

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

環境社会論Ⅱ

藤田 研二郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環17：口

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の環境問題解決では、政府や企業ばかりでない第3の領域「サードセクター」として、環境NGO・NPOやボランティアの役割が注目されている。本授業では、このサードセクターに着目し、社会運動、協同組合、NPOに関する理論や環境問題解決における役割を説明する。それらを通じて、私たち地域住民・市民の立場から環境問題解決にかかわる方法を学ぶ。

【到達目標】

現代社会の環境問題解決におけるサードセクター、環境運動、協同組合、NGO・NPO、ボランティアの役割を説明できるようになる。地域住民・市民の立場から、環境問題解決にかかわる方法を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、サードセクターの議論を環境運動、協同組合、NGO・NPOに大別したうえで、関連する環境問題の事例とともに紹介していく。授業の終わりには、課題を含むリアクションペーパーを提出してもらう。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、サードセクターの主体と環境問題とのかわりについて学ぶ。
第2回	環境問題の歴史	サードセクターの主体のかわりという観点から、戦後から現代までの環境問題・環境政策の歴史を学ぶ。
第3回	環境運動①	社会運動論の前提となる古典的理論、集合行為論、フリーライダー問題について学ぶ。
第4回	環境運動②	住民投票運動を事例に、資源動員論、フレーム分析について学ぶ。
第5回	環境運動③	政治的機会構造論と、小樽運河保存運動を事例に歴史的環境保全について学ぶ。
第6回	協同組合①	協同組合の概要と、生活協同組合（生協）の歴史について学ぶ。
第7回	協同組合②	農業協同組合（農協）の概要と歴史、産直と新規就農支援について学ぶ。
第8回	NGO・NPO①	NGO・NPOの概要と、市場の失敗、政府の失敗について学ぶ。

第9回	NGO・NPO②	NGO・NPOの法人格と、新自由主義の流れについて学ぶ。
第10回	NGO・NPO③	ボランティア、寄付の理論と実態、フーコーの権力論について学ぶ。
第11回	NGO・NPO④	行政の下請け化と、環境NGO・NPOの制度化、日本の環境NGO・NPOの課題を学ぶ。
第12回	NGO・NPO⑤	NGO・NPOのアドボカシーについて、政府への財政的依存との関係と国際会議における活動を学ぶ。
第13回	NGO・NPO⑥	生物多様性条約COP10を事例に、環境NGO・NPOのアドボカシーの課題について学ぶ。
第14回	NGO・NPO⑦／まとめ	環境NPOへの参加を事例に、ソーシャル・キャピタル概念と効果について学ぶ。 環境問題解決におけるサードセクターの役割と課題という観点から、本授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習として、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】

各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学、NPO論の入門的なテキストとして、例えば以下のものがある。
鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。
坂本治也編、2017、『市民社会論』法律文化社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）＋定期試験（70%）、を想定。
平常点は授業への参加度、リアクションペーパー、課題の提出によって評価する。なお、試験は学期末の定期試験期間中に対面での実施を予定している。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの質問・コメントや提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】

春学期「環境社会論Ⅰ」「環境社会論Ⅲ」、秋学期「環境社会論Ⅱ」の授業内容は相互に関連しており、それぞれ歴史・理論編、現代編、活動編という位置づけである。合わせて履修することでより理解が深まるよう計画しているが、個別に履修しても問題はない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The third sector, including environmental NGOs and volunteers, which is neither the government nor the business sector is essential to solve environmental problems in contemporary society. This class will focus on the third sector and explain the theories of social movements, cooperatives, and non-profit organizations and their role in solving environmental problems. Students will learn how to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens.

(Learning Objectives)

Students should be able to do the following:

- Explain the role of the third sector, including environmental NGOs and volunteers in solving environmental problems in contemporary society.
- Propose how to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students should pay attention to daily news about environmental problems and policies and collect information. Students should review the previous class based on the handouts and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (30%) + Final Examination (70%).

Regular work will be class participation and submitting reaction papers and assignments.

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

環境社会論Ⅲ

藤田 研二郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：環17：口

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代社会の環境問題を概観しながら、関連する環境社会学の研究動向を紹介する。とくに生物多様性と地球温暖化の2つをテーマとして、また環境問題解決での「多様な主体による連携」を中心的な論点とする。それらを通じて、今日的な環境問題解決のあり方を検討するとともに、問題解決に向けた課題を学ぶ。

【到達目標】

現代社会の環境問題の特徴を説明できるようになる。今日的な環境問題解決のあり方を提案できるようになる。問題解決に向けた課題を整理できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、現代社会の環境問題を生物多様性と地球温暖化に大別したうえで、関連する環境社会学の研究動向を事例とともに紹介していく。授業の終わりには、課題を含むリアクションペーパーを提出してもらう。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムで連絡する。

2026年度春学期は、Zoomでのリアルタイム配信によるオンライン授業を予定している。大学で受講する場合は、薩埵ホールなどのオンライン受講スペースを利用すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、生物多様性、地球温暖化の問題の特徴、多様な主体の連携による問題解決について学ぶ。
第2回	環境問題の歴史	戦後から現代までの環境問題・環境政策の歴史について、それぞれの時期の問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第3回	生物多様性①	生物多様性の概念と4つの危機、昆明・モンリオール枠組までの対策の展開について学ぶ。
第4回	生物多様性②	白神山道を事例に森林保全の展開と、自然共生サイトについて学ぶ。
第5回	生物多様性③	東京湾三番瀬、名古屋港藤前干潟などを事例に干潟保全の展開と、藻場保全活動について学ぶ。
第6回	生物多様性④	佐渡のトキ認証米を事例に、環境保全型農業の展開と環境アイコンの役割について学ぶ。

第7回	生物多様性⑤	環境保全米を事例に農業協同組合（農協）の事業と、「みどりの食料システム戦略」の展開を学ぶ。
第8回	生物多様性⑥	獣害対策を事例に、コミュニティ・ビジネスの視点と、内発的発展論について学ぶ。
第9回	地球温暖化①	温暖化対策とエネルギー政策との関係、原子力政策の歴史について学ぶ。
第10回	地球温暖化②	温暖化対策の展開と、再生可能エネルギーの促進、パリ協定以降の流れを学ぶ。
第11回	地球温暖化③	日本の太陽光発電、風力発電をめぐる地域トラブル、環境正義の視点について学ぶ。
第12回	地球温暖化④	環境経営とESG投資の展開、気候変動や自然資本に関する情報開示枠組の動向について学ぶ。
第13回	地球温暖化⑤	バイオ炭を事例に、カーボンクレジット、生物多様性クレジットの展開について学ぶ。
第14回	地球温暖化⑥／まとめ	今日的な環境問題解決における多様な主体の連携という観点から、本授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習として、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】

各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学の入門的なテキストとして、例えば以下のものがある。
鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）＋定期試験（70%）、を想定。
平常点は授業への参加度、リアクションペーパー、課題の提出によって評価する。なお、試験は学期末の定期試験期間中に対面での実施を予定している。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの質問・コメントや提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】

春学期「環境社会論Ⅰ」「環境社会論Ⅲ」、秋学期「環境社会論Ⅱ」の授業内容は相互に関連しており、それぞれ歴史・理論編、現代編、活動編という位置づけである。合わせて履修することでより理解が深まるよう計画しているが、個別に履修しても問題はない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class will review environmental problems in contemporary society and introduce related research trends in environmental sociology. In particular, biodiversity and global warming are the two main themes, and partnership among various actors in the process of environmental problems is one of the most important points of discussion. Students will learn contemporary ways and issues of solving environmental problems.

(Learning Objectives)

Students should be able to do the following:

- Explain the characteristics of environmental problems in contemporary society.
- Propose contemporary ways of solving environmental problems.
- Identify issues for solving environmental problems.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students should pay attention to daily news about environmental problems and policies and collect information. Students should review the previous class based on the handouts and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (30%) + Final Examination (70%).

Regular work will be class participation and submitting reaction papers and assignments.

SOC300HA（社会学 / Sociology 300）

労働環境論 I

櫻井 洋介

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、雇用や労働に関する基本的な知識の習得を目指します。企業等に就職した後、昇進や転職等を通じてキャリアを形成し、退職や定年等でキャリアを終えるまでのライフステージの変遷に沿って、時事的な事象を紹介しながら、現代における雇用現場の変化や課題を学んでいきます。

【到達目標】

労働者・職業人として自らの意思でキャリアを形成していくための基本的な知識を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式とします。講義では、採用から労働条件決定における基本的なルール、多様な働き方に関する制度や雇用・労働分野の現代的課題等、労働環境に関する様々なトピックを取り上げます。基礎的な法律や制度の解説のみならず、ニュース記事や時事的なトピックを取り上げることで、現代の労働環境において実際に起きている諸課題への理解を深めていきます。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働環境論概要	本講義の概要と目的（何を学ぶのか、何故学ぶのか）について考える。
第2回	企業の募集・採用と就職活動	募集や採用に関する諸制度について概観するとともに、現代社会における学生の就職活動に関する問題について考える。
第3回	賃金に関する諸課題	賃金に関する日本の諸制度の概要と諸外国の賃金システムとの異同、近年の動向や変化等を学ぶ。
第4回	労働時間管理とワークライフバランス	労働時間管理の基礎を学ぶとともに、労働時間に関する諸外国との比較や日本の特色、近年の動向や変化等を学ぶ。
第5回	多様な働き方とキャリア形成①	諸外国との比較を踏まえた日本における多様な働き方に関する基本的な制度と、それらが企業においてどのように活用されているかを学ぶ。
第6回	多様な働き方とキャリア形成②	多様な働き方に関する現代のトレンドやキャリア観の変遷等について考える。
第7回	ジェンダー平等	女性活躍推進法やLGBTQ等、ジェンダーダイバーシティの基礎について学ぶ。

第8回	雇用における平等原則（年齢・国籍・障害等）	雇用における平等原則や雇用差別の禁止、各種の法令（障害者雇用促進法等）について学ぶ。
第9回	非典型雇用（派遣・パート・ギグワーカー等）	非典型雇用の現状や制度的な変遷等をたどり、問題点等を考える。
第10回	労働安全衛生とメンタルヘルス・ハラスメント	労働安全衛生の基礎知識を学ぶとともに、職場のメンタルヘルスやハラスメント等の問題を取り上げる。
第11回	労働組合の役割と意義	労働組合の役割や意義について学ぶ。
第12回	労働契約の終了（解雇・定年・再就職）	解雇規制や定年制、退職後雇用等について、人口動態やキャリア観の変化に伴う課題を考える。
第13回	労働環境における現代的課題（DX・AI・人的資本投資等）	DX・AI・人的資本投資等といった、現代社会の労働環境における諸課題を考える。
第14回	まとめ：日本における労働環境の現在と未来	これまでの講義で取り扱ってきた日本の現代的な雇用システムを総括しつつ、今後の展望等を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①講義で学習したテーマや論点に関して、日頃から参考書や新聞記事等を読んで理解を深めること。②インターンシップやアルバイトなど、仕事や企業と接する機会を通じて、講義で学習した議論や理論をもとに、仕事と雇用をめぐる実態や課題を考え、授業での学習内容について理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に教科書は指定しません。配布資料等をもとに講義を進めます。

【参考書】

自主学習用の教材として、①浜村彰・唐津博・青野覚・奥田香子『ベーシック労働法第9版』（有斐閣アルマ、2023年）、②小川慎一・山田信行・今野美奈子・山下充『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』（有斐閣アルマ、2015）を挙げておきます。①は労働法の学習用に、②は日本の労働環境における諸課題の学習用に使用して下さい。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（80%）により、講義の理解度や問題認識の深さ等を評価するとともに、平常点（20%、出席を含む）を加味して総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本講義では、講義形式の授業を中心としますが、必要に応じて動画視聴等の機会を設けるとともに、ゲストスピーカーの招聘等も検討します。

【その他の重要事項】

本講義の担当教員は実務家教員であり、これまで金融機関や政府関連機関、コンサルティングファーム等、様々な組織での勤務経験を有しているだけでなく、キャリアの過程で留学や社会人大学院の入学等も経験しています。講義では、教員自身のこれまでの経験も還元するとともに、企業の実務や実態に即した講義を実施します。また、担当教員は現役のサステナビリティコンサルタントであり、「ビジネスと人権」や「労働CSR」、「サプライチェーン上の労働問題」等を専門としています。それらの経験を踏まえて、「サステナビリティ×労働」の視点から、具体的な企業事例を交えながら講義を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This lecture aims to acquire basic knowledge of employment and labor laws. The lecture will introduce the latest issues and changes in the employment field in the modern society, following the transition of life stages from entering a company and developing your career through promotions and job changes, to ending your career.

【Learning Objectives】

Students will acquire the basic knowledge for developing their own careers independently.

【Learning activities outside of classroom】

(1) Deepen students' understanding of the themes and issues studied in lectures by reading reference books, newspaper articles, etc. on a daily basis. (2) Deepen students' understanding of the contents studied in lectures by considering the actual conditions and issues surrounding work and employment through internships, part-time jobs, and other opportunities.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The final report (80%) will be used to evaluate the level of understanding and depth of awareness of the issues studied in the lecture, as well as the overall evaluation by taking into account the usual performance score (20%, including attendance).

SOC300HA（社会学 / Sociology 300）
労働環境論Ⅱ
櫻井 洋介
配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall 曜日・時限：火2/Tue.2
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働環境論Ⅰで学んだ内容をベースとしつつ、特に、現代社会において企業に求められるサステナビリティ経営の観点から、雇用や労働に関する諸課題を深堀します。企業経営における「人的資本投資」や「人権尊重」の重要性、「労働CSR」の意義・役割等について学ぶとともに、企業の実践事例を通じてその理解を深め、サステナビリティの観点から労働環境の今日的課題をとらえるための知識の習得を目指します。

【到達目標】

サステナビリティ経営の観点から、現代の企業に求められる雇用や労働に関する取り組みの全体像を知識として習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式とします。講義では、日本の雇用慣行やキャリア観の変遷、それに伴い企業に対して求められる取り組み等について取り上げていきます。必要に応じて、企業関係者等をゲストスピーカーとして招聘することも検討します。ゲストスピーカーが講演した回は、リアクションペーパーの提出を求めます。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働環境論の概要	労働環境論Ⅰの内容を概括するとともに、本講義の目的やゴールを共有する。
第2回	日本の雇用慣行の特色と変化	職務非限定型の雇用（いわゆるメンバーシップ型雇用）や年功序列型賃金制度といった日本の雇用慣行が、現代社会においてどのように変化しつつあるかを学ぶ。
第3回	キャリア観の変遷と求められる人材像の変化	学生の就職観やキャリア観の変遷に伴い、労働市場がどのように変わってきたか、当該変化に対して企業がどのように対応してきたかについて学ぶ。
第4回	ポストコロナ時代の働き方	コロナ禍において、テレワークの導入等、ニューノーマルの働き方が浸透した一方で、一部には揺り戻しの動きもある中、コロナ前後で働き方がどのように変わったのかを学ぶ。
第5回	労働時間に関する現代的課題	長時間労働の規制強化の流れや柔軟な勤務制度の導入等、現代における労働時間の諸課題を学ぶ。

第6回	DE & I（ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン）経営	企業に求められるDE & Iとは何か、それぞれの定義やメリット、取組事例等を学ぶとともに、ジェンダー平等や性的マイノリティの問題について考える。
第7回	日本における障害者雇用制度と障害者を持つ労働者の権利	障害者差別解消法や障害者雇用促進法において、企業に求められる合理的配慮等について学ぶ。
第8回	外国人労働者に関する問題	現在、見直しが進んでいる技能実習制度や特定技能制度等、外国人労働者の受入に伴う諸課題を学ぶ。
第9回	「ビジネスと人権」－企業に要請される人権尊重の経営	サステナビリティ経営の観点から企業に求められる人権尊重の責任について学ぶ。
第10回	グローバルサプライチェーン上の労働課題	サプライチェーン上に存在する人権・労働問題に対して、企業がどのように取り組みを進めているかを具体例を通じて学ぶ。
第11回	健康経営とウェルビーイング	健康経営の重要性やメリット等について具体例を交えて理解を深めるとともに、近年注目されているウェルビーイングの概念について学ぶ。
第12回	無形資産としての「人材」の重要性と人的資本経営	人材版伊藤レポートや人的資本可視化方針等の策定により人材価値の重要性が見直される中で、企業に問われる人材戦略や情報開示について学ぶ。
第13回	新しい技術の発展と労働環境への影響	AIによって奪われる仕事があると言われる一方で、DXの推進は少子高齢化へのソリューションとなり得るとされている等、新しい技術の導入が労働環境に与える影響や功罪について考える。
第14回	まとめ：サステナビリティ経営からみた労働環境	これまでの講義内容を概観し、今後の労働環境について学生とともに考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は、労働環境論Ⅰを受講済であることを前提に進めます。毎回、取り扱うテーマが異なるので、次回講義までに予習として目を通していただきたい資料等は、講義の中で都度ご紹介します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に教科書は指定しません。配布資料等をもとに講義を進めます。

【参考書】

労働環境論Ⅰで紹介した参考書の他、①濱口桂一郎『ジョブ型雇用社会とは何か：正社員体制の矛盾と転機』（岩波書店、2021）、②櫻井洋介『人権尊重の経営 SDG s時代の新たなリスクへの対応』（日本経済新聞出版、2022）を挙げておきます。各テーマごとの参考文献や参考図書は、個別に講義の中でお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（80%）により、講義内で学習した論点等についての理解度や問題認識の深さ等を評価するとともに、平常点（20%、出席を含む）を加味して総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本講義では、講義形式の授業を中心としますが、必要に応じて動画視聴等の機会を設けるとともに、ゲストスピーカーの招聘等も検討します。

【その他の重要事項】

本講義の担当教員は実務家教員であり、これまで金融機関や政府関連機関、コンサルティングファーム等、様々な組織での勤務経験を有しているだけでなく、キャリアの過程で留学や社会人大学院の入学等も経験しています。講義では、教員自身のこれまでの経験も還元するとともに、企業の実務や実態に即した講義を実施します。

また、担当教員は現役のサステナビリティコンサルタントであり、「ビジネスと人権」や「労働CSR」、「サプライチェーン上の労働問題」等を専門としています。それらの経験を踏まえて、「サステナビリティ×労働」の視点から、具体的な企業事例を交えながら講義を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Based on the content learned in Working Conditions I, the program aims to deepen various issues related to employment, especially from the perspective of sustainable management required of companies in modern society. Students learn about the importance of "human capital investment" and "respect for human rights" for corporate management and labor issues in CSR and deepen their understanding of these issues through practical examples from companies, aiming to acquire knowledge to understand today's labor environment issues from the perspective of sustainability.

【Learning Objectives】

To acquire knowledge of the overall employment and labor initiatives required of modern companies from the perspective of sustainability management.

【Learning activities outside of classroom】

The lecture will proceed on the assumption that students have already taken "Working Conditions I," so preparation and review for the lecture will be required. Since the topics covered in each class are different, materials that you should read through in preparation for the next class will be introduced in each class.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The final report (80%) will be used to evaluate the level of understanding and depth of awareness of the issues studied in the lecture, as well as the overall evaluation by taking into account the usual performance score (20%, including attendance).

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

N G O 活動論

小野 行雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考（履修条件等）：環17：グ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会のアクターとしてのNGOの立ち位置を確認した上で、NGOの方法と目指すものについて理解する。日本のNGOおよび世界のNGOの歴史と現状について学び、社会におけるNGOの役割、さらには市民としての自分自身の役割について考える。

【到達目標】

- 1 世界の人々が直面している問題とそれら相互のつながりについて体験的に理解する
- 2 NGOと市民社会に関する歴史と現状を理解し、広い視野で世界の人々のつながりを考えられるようになる
- 3 NGO活動を通して自ら世界に関わろうとする積極性と市民性を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ワークショップとディスカッションによるグループワークを中心に進める。自ら学び、自ら主体的に関わり、自ら進み行を決める「参加」があらゆる場面での大きな柱となる。毎回積極的に体験し、意見を交換し、調査し発表する姿勢が求められるため、受動的な意識態度では受講できない。映像資料も多用する。毎回授業後は学習システムを利用してふりかえりレポートを提出することを必須とする。次の授業では、それをめぐる意見交換を行いながら先に進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	グループづくりワークショップ
	NGOの基礎	NGOとNPOについて講義
第2回	市民社会1	社会における市民社会の位置と役割に関するワークショップと講義
第3回	NGOの支援方法	インド山岳民族支援をめぐるワークショップ「ドンゴリアコンドの人々」
第4回	開発と近代	インド山岳民族支援をめぐる介入と近代化についてグループ討議
第5回	NGOケーススタディ1	児童労働とフェアトレードに関わるNGOの取り組みに関するワークショップ「ミッション・チョコレート」
第6回	NGOケーススタディ2	児童労働とフェアトレードに関わるNGOの取り組みに関するグループ討議
第7回	NGOの資金	フィリピン支援事例についてシミュレーションワークショップとグループ討議
第8回	市民社会2	ボランティアと寄付について講義とグループ討議

第9回	日本のNGO 1	日本NGO史について講義と日本のNGOについてのグループ調査
第10回	日本のNGO 2	日本NGOについてグループ調査発表と講義
第11回	世界のNGO 1	世界NGO史について講義と世界のNGOについてのグループ調査
第12回	世界のNGO 2	世界のNGOについてのグループ調査発表と講義
第13回	ゲスト講義	NGOで活動してきた方をゲストに迎えて講義と討論
第14回	NGOの役割	NGOの社会的役割および社会との関わりについて講義とグループ討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をすること。ふりかえりシートを重視するので、自身のそれまでの知識・経験を学んだことと結びつけたていねいなふりかえりを時間をかけて行い学習システムにて提出すること
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループワークへの参加度および毎時間のレポートを重視する。ふりかえりシートによるレポート80%、期末レポート20%

【学生の意見等からの気づき】

ふりかえりシート作成にあたり毎回ポイントを提示する

【学生が準備すべき機器他】

授業時間内でインターネットを使った事例調査を行うため、ネットにつながるパソコンまたはスマートホン持参が必須となる。

【その他の重要事項】

グループワークを中心とするので、主体的学習意欲があること、積極的にコミュニケーションをとる意志があることが必須条件である。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】 Understanding the position of NGOs as social actors and the methods and objectives of NGOs. Studying the history and current status of NGOs in Japan and in other countries, Thinking of roles of NGOs and our own in the civil society, considering the role of NGOs in society, and reflecting on your own roles as citizens.

【到達目標（Learning Objectives）】

- 1 To understand modern issues of the world and the their relations.
- 2 To understand the past and present of the NGOs and civil society and acquire broad view of the world citizens.
- 3 To acquire a strong sense of citizenship and positive attitude to get involved in the society.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours each to understand the course content. Prepare the class by skimming through the materials provided. After the class, take time to write a reflection paper. Try relating what you learned in the class to your previous knowledge and experiences.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Active participation to the class and thoughtful reflection is important.

Reflection report after every class 80%

Term-end report 20%

SOC300HA（社会学 / Sociology 300）

ローカルスタディーズ I

船戸 修一

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：サマーセッション/Summer Session | 曜日・

時限：集中・その他/intensive・other courses

備考（履修条件等）：環コア：口

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「農山村（中山間地域）」の現状と課題について考える。

【到達目標】

「農山村（中山間地域）」の現状や課題を理解するだけでなく、その問題解決策まで考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はゼミ形式で進め、「地域」を「農山村（中山間地域）」に絞り、その仕組みや根幹の産業である農林業、そして農山村の集落の現状と課題について理解する。テキストとして、①日本村落研究学会編『むらの社会を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007年）、②日本村落研究学会編『むらの資源を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007年）、③小田切徳美『新しい地域をつくる：持続的農村発展論』（岩波書店、2022年）を使い、毎回1～2章分を受講生に発表をしてもらい、その解説と説明をしたうえで、全員で討論を行う。毎回授業後には、授業内容を踏まえた課題を課し、そのレポートを次回の授業までに提出してもらう。次回の授業、または学習支援システムにおいて課題への解答からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。ゼミ形式を導入するため受講者の定員を30名程度とする。もし受講希望者が定員超過する場合は、第1回目の授業でテストを行い、その成績上位から受講生を選抜する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や成績評価を説明する。
第2回	テキストの輪読・発表・討論（1）	『むらの社会を研究する』の「村落空間」を取りあげる。
第3回	テキストの輪読・発表・討論（2）	『むらの社会を研究する』の「都市化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「むらにとっての資源とは」を取りあげる。
第4回	テキストの輪読・発表・討論（3）	『むらの社会を研究する』の「農業の近代化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「集団的土地利用」を取りあげる。
第5回	テキストの輪読・発表・討論（4）	『むらの社会を研究する』の「過疎化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「水をめぐる排除と協同」を取りあげる。
第6回	テキストの輪読・発表・討論（5）	『むらの社会を研究する』の「縮小化する世帯・家族と家の変化」、『むらの資源を研究する』の「森林問題と林野資源の可能性」を取りあげる。

第7回	テキストの輪読・発表・討論（6）	『むらの社会を研究する』の「今、農村家族の問題は何か」、『むらの資源を研究する』の「日本における農政の変遷と地域政策」を取りあげる。
第8回	テキストの輪読・発表・討論（7）	『むらの社会を研究する』の「農山村の開発に伴う環境破壊」、『むらの資源を研究する』の「農業技術と自然」を取りあげる。
第9回	テキストの輪読・発表・討論（8）	『むらの社会を研究する』の「自然環境と歴史環境の保全活動」、『むらの資源を研究する』の「近代農法の成果と限界」を取りあげる。
第10回	テキストの輪読・発表・討論（9）	『むらの社会を研究する』の「農村女性とパートナーシップ」、『むらの資源を研究する』の「有機農業をめぐるむらのコンフリクト」を取りあげる。
第11回	テキストの輪読・発表・討論（10）	『むらの社会を研究する』の「担い手としての高齢者」、『むらの資源を研究する』の「農村の多面的価値を『引き出す』ツーリズムを目指して」を取りあげる。
第12回	テキストの輪読・発表・討論（11）	『むらの社会を研究する』の「限界集落論からみた集落の変動と山村の再生」、『むらの資源を研究する』の「農業共同化の背景と生産組織の展開」を取りあげる。
第13回	テキストの輪読・発表・討論（12）	『むらの社会を研究する』の「農業者として生きる都市住民の転身」、『むらの資源を研究する』の「農の経営から地域経営へ」を取りあげる。
第14回	テキストの輪読・発表・討論（13）	『むらの社会を研究する』の「定年帰農と新たな農村コミュニティの形成」、『むらの資源を研究する』の「農村女性起業とエンパワメント」を取りあげる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後は授業内容について復習しておくこと。また次回の授業で扱うテキストも読んで、予習しておくこと。授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ①日本村落研究学会編 2007『むらの社会を研究する：フィールドからの発想』農山漁村文化協会。
- ②日本村落研究学会編 2007『むらの資源を研究する：フィールドからの発想』農山漁村文化協会。
- ③小田切徳美 2022『新しい地域をつくる：持続的農村発展論』岩波書店。

上記のうち絶版となっているテキストについては、授業で扱う部分のみ、学習支援システムにおいて配布する。

【参考書】

授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（発表内容・討論への参加姿勢・授業後の課題レポートなど）を80%として評価する。さらに学期末に課すレポートを20%として評価する。なお受講者の人数次第では評価方法を変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ形式で授業を進めるため、なるべく多くの履修学生の意見に耳を傾けたいと考えている。

【その他の重要事項】

受講者が30名程度を超過する場合、初回授業にて選抜する。

開講は、8月4日（火）～7日（金）の予定。

【Outline (in English)】

This class engages with studies on the current situation and challenges of rural areas. The goal of the lesson is not only to understand the current situation and issues in rural areas, but also to think about solutions to those problems. The standard time for preparation and review of classes is two hours each. Regarding the method and criteria for grade evaluation, the content of the report submitted at the end of the semester will be evaluated as 20%, and the content of the reaction paper imposed after class will be evaluated as 80%.

SOS300HA（その他の社会科学 / Social science 300）

ローカルスタディーズⅡ

坂本 昭夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考（履修条件等）：環37：口

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海洋環境汚染は海洋だけの問題ではなく、地球全体の汚染と言えます。日常の便利さを追求、要求した結果が現在の「汚染」です。『汚染』の原因をあらゆる角度から検知し、学ぶことでこれからあるべき人間の姿が見えてきます。その姿が正しいものかを自ら判断し、これからの生活態度を見直すことで、地球環境を正しく導くことができるものと思われま。

【到達目標】

現在の海況を知る。一杯の味噌汁から農業まであらゆる汚染起因物質を知り、海洋汚染、地球環境汚染に関しこれ以上の地球負荷を軽減させるべく学習します。またプラスチック等による環境汚染、そして人間を含む生物全体への影響等を知り、便利な社会が生み出す「汚染」を防ぎます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

PPTを用いた発表、DVDを視聴します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 海洋環境概要	授業の進め方、単位の取り方などを説明するとともにDVDを視聴します。
第2回	東京湾における生物 体系を知る	多種多様な海洋生物を知る。
第3回	海洋ゴミ	海洋ゴミを知る①
第4回	海洋ゴミ	海洋ゴミを知る②
第5回	震災ゴミ	東北震災等で発生した海洋（震災）ゴミを知る
第6回	環太平洋ネットワーク の活動と紹介	日本、ハワイ、カナダ、アラスカで活動する実態を知る
第7回	プラスチックゴミ	海に漂うゴミ、マイクロプラスチックに焦点をあて解説する
第8回	外部ゲスト 一般社 団法人Jeanによる講 義	海洋ゴミ問題を日本国内でいち早く問題定義した団体Jeanによる講義
第9回	海洋温暖化に由来する 赤潮、青潮の発生 メカニズム	何故 赤潮が発生するのかを知り、生活を見直す
第10回	海草「アマモ」の役割	アマモってなに？ アマモを知ることによって海が見えてくる
第11回	海藻「ワカメ」の役割 と東京湾内干潟の 役割を知る	海藻の役割を知り、減少する海藻を知る。
第12回	外部ゲスト「川ゴミ ネット」による『講義 ゴミ軽減	川のゴミが海洋に。その原因を知る。
第13回	レポートの発表	ゴミの軽減策を考える

第14回 農業による河川汚染、大量の農業消費国日本。その河川、海洋汚染を知る。
レポート回収

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。復習、宿題などはありません。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

第13回講義において、レポート提出に関する題をお知らせし、最終講義 第14回にて回収をいたします。レポート内容100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

「地球環境ケーススタディⅡ」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

Marine environmental pollution can be called pollution in the whole earth only in the ocean, not a problem.

The result which pursued and requested daily convenience is the present "pollution".

The form of the future human is being seen by detecting and learning the cause of "pollution" from all angles.

SSS300HA（社会・安全システム科学 / Social/Safety system science 300）

災害政策論

川副 早央里

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環17：口

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

災害はどの地域においても、誰にでも起こりえることです。大規模な災害が起こると、地域社会が大きな打撃を受け、急激な地域変容が生じます。そこで暮らしていた人びとは、生命、仕事、財産、家族や友人関係、自然環境などさまざまなものを失う経験をします。災害は平常時の社会のあり方や構造を露わにします。災害時に発生するこうした諸問題を理解するときには、災害前から社会に潜んでいた問題に着目する視点が求められます。

本講義では、地域社会やそこで暮らす人々の視点から災害と地域復興を捉え、いくつかのテーマと実際の事例から、災害政策が形成されてきた背景やプロセス、残された課題について検討し、私たちが生きる社会について改めて考えたいと思います。東日本大震災のほか、一部海外の事例も取り上げます。

【到達目標】

- (1) 災害復興のリアリティに触れ、災害時の社会状況についての想像力を養う。
- (2) 「災害」「復興」の概念を理解し、災害時に生じる諸課題の背後にある社会構造を学ぶ。
- (3) 災害時の政策が形成された背景、経緯、残された課題を理解する。
- (4) 災害を日常の延長にあるものとして捉え、災害という切り口から日常生活や地域社会の在り方を見直す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を基本としますが、できるだけ多くのグループディスカッションを行いたいと考えています。また、さまざまなドキュメント資料や映像資料を活用して、できるだけ被災地域および被災者の置かれた実状に触れ、災害と復興について考えたいと思います。毎回の授業後にリアクションペーパーを提出してもらいます。次の授業の冒頭にその内容を振り返り、問題意識を共有し補足説明も行いながら、災害に関する理解を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的や進め方を確認する。
第2回	災害とは何か	災害とは何かについて、理論的枠組みや概念を解説する。
第3回	避難（1）：緊急避難	災害発生から避難に至る過程と課題を学ぶ。
第4回	避難（2）：広域的長期的避難	長く広域に避難した被災者の生活実態と課題を学ぶ。
第5回	地域コミュニティの変容（1）：分断と喪失	災害後のコミュニティの分断や喪失の実態を学ぶ。
第6回	地域コミュニティの変容（2）：再編と創造	災害後のコミュニティの再編や創造の実態を学ぶ。

第7回	被災地・被災者支援（1）：支援の実際	被災地および被災者の復興における支援の実際と課題を学ぶ。
第8回	被災地・被災者支援（2）：多様な支援	多様な支援の事例を紹介し、被災地・被災者復興に求められる支援について検討する。
第9回	災害とジェンダー・多様性（1）：災害時のジェンダー課題	災害時のジェンダー課題への対応の実際と課題を学ぶ。
第10回	災害とジェンダー・多様性（2）：災害時の多様性配慮	災害時に求められる多様性への配慮について学び、議論する。
第11回	復興とは何か（1）	復興とは何かについて、理論的枠組みや概念を解説する。
第12回	復興とは何か（2）	復興の事例を紹介し、実際の復興状況と課題を検討する。
第13回	授業内試験	授業内試験を行う
第14回	試験の講評と補論	試験に関する講評と授業全体の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・適宜授業のなかで関連する参考文献や資料を紹介するので、事前に学習してから受講すること（60分程度）。
- ・授業中に配布するレジュメと自身のメモ・ノートをもとに復習し、リアクションペーパーの提出により学習内容や自分の考えを整理するとともに、理解できていない部分を確認すること（40分程度）。
- ・各回の授業に関する課題として、授業内で扱った知識や概念を応用させた課題に取り組み、授業内容の理解を深めること（90分程度）

【テキスト（教科書）】

授業で使用する資料は、授業前にWebClassに掲載する。

予習・復習については、配布資料を使って学習するほか、授業内で紹介する参考書や各種情報を参照すること。

【参考書】

大矢根淳ほか（2007）『災害社会学入門（シリーズ災害と社会）』弘文堂。

その他は授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（リアクションペーパーおよび授業への参加度）：60%
 - ・授業内期末試験：40%
- ＊期末試験未受験の場合には成績評価の対象とはなりません。

【学生の意見等からの気づき】

本授業では、履修生の理解度を確認しながら授業を進めていく。具体的には、学生同士のディスカッションやリアクションペーパーの提出を通じて、意見を共有するほか、質問への回答や補足説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用するPDF資料は、事前にWebclass上に掲載します。紙資料は配布しないので、必要に応じてPCやタブレットを持参して受講してください。

【Outline (in English)】

Disasters can strike anywhere and affect anyone. When a large-scale disaster occurs, local communities suffer significant damage and undergo rapid transformation. People living there experience the loss of life, livelihoods, property, family and friends, and the natural environment. Disasters lay bare the nature and structure of society during normal times. Understanding the problems that emerge during disasters requires a perspective that focuses on issues latent within society before the disaster struck. This lecture will examine disasters and regional recovery from the perspective of local communities and their residents. Through several themes and real-world case studies, we will explore the background and processes behind the formation of disaster policies, the challenges that remain, and rethink the society in which we live. In addition to the Great East Japan Earthquake, we will also cover some international examples.

SOC300HA（社会学 / Sociology 300）

社会開発論

新村 恵美

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4
備考（履修条件等）：環17：グ
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会においても日本においても、経済優先の開発の反省から「社会開発」の重要性がたびたび再確認されてきた。開発、国際協力分野における社会的側面の重要性はSDGsの随所に見られる。しかし、「社会開発」は「経済開発」と対立するものではなく、広い定義で捉えることができるだろう。本科目では、SDGsを意識しつつ、世界の現状、社会開発の枠組みを学び、先進国の私たちの役割を考察する。

【到達目標】

- 下記の3点を到達目標とする。
1. SDGsに関連づけながら、社会開発の概念、扱うテーマについて、理論と実践の両方を往復することで基本的な知識を習得する。
 2. 途上国と先進国、当事者と支援者、というような二項対立ではなく、また自分と違う立場にある人びとを他者化することなく、「貧困」を理解することを目指す。
 3. 想像力を駆使して、社会開発が人間に変化をもたらすものであることを、実感する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

大きく3セクションに分ける。第1に、社会開発の概要として様々な理論や国連・政府の枠組みから社会開発を概観する。第2に、社会開発で取り上げられる課題を分野別に理解し、最後に社会開発とそれによる社会変容の事例を取り上げて検討する。第3に、学生自身の主体的な考察を促すため、提出した課題レポートをグループで共有し、個別の発表を行うほか、シミュレーションゲームや簡単なワークショップなども取り入れる。
各回で、SDGsの関連する目標に照らし合わせ、それぞれの指標も確認する。授業計画の内容欄に、該当するSDGsの目標番号【 】で記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入 社会開発の概要1 定義と背景	本講義の全体像の紹介、オリエンテーションを行い、「社会開発」の概念を整理する。【SDGs全体】
第2回	社会開発の概要2 国連とSDGs	国連のSDGsの枠組み、内容と指標を概観する。【SDGs全体】
第3回	社会開発の概要3 国連と人間開発	国連の「人間開発」の概念を学び、人間開発指数(HDI)、ジェンダー開発指数(GDI)などの主な国際指標を理解する。【SDGs 目標1, 2, 3, 4 &5】
第4回	社会開発の概要4 日本政府による社会開発	社会開発を行う主体としての、国際機関、各国政府の活動について概観する。【SDGs 目標17】
第5回	社会開発の概要5 市民、NGO	NGOの活動について、その種類・形態・財政・人材などを検討する。【SDGs 目標16】

第6回	社会開発の分野1 途上国の貧困	バングラデシュのストリートチルドレンの「ことば」を手掛かりに貧困を想像し理解し、NGOの取り組みから社会開発の役割を検討する。【SDGs 目標1 &11】
第7回	社会開発の分野2 日本の貧困	日本を含めて先進国における貧困について、OECDやILOのデータを検証し現状と要因を考察すると同時に、途上国の貧困との相対化を図る。【SDGs 目標1】
第8回	社会開発の分野3 格差を体験する	なぜ社会開発が必要なのか。ゲームを通して格差を体験し、考察する。【SDGs 目標10】
第9回	社会開発の分野4 フェアトレード	「不公正な」貿易は途上国において何をもたらしているのか。ファストファッションを題材に考える。【SDGs 目標8 &10】
第10回	社会開発の分野5 人口問題と国際協力	高齢社会においても途上国においてもそれぞれ喫緊の課題である人口問題の概観し検討する。【SDGs 目標3 &5】
第11回	社会開発と社会変容1 教育・識字の役割	貧困の悪循環を断ち切る一つの方法として、「識字」を足がかりに、人びとが力をつけることの意味を確認することを通して、社会開発がもたらす変化を学ぶ。【SDGs 目標4】
第12回	【グループ発表】 課題レポートの発表	課題で取り組んだ内容について、グループに別れて話し合い、発表する。
第13回	社会開発と社会変容2 ネパールの債務労働者	ネパールの債務労働者の解放の事例を取り上げ、当事者による社会運動とNGO等による社会開発の役割について考える。【SDGs 目標8】
第14回	期末のまとめ	全体の内容のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習：授業計画に記載された語句などをあらかじめ調べておく。
復習・宿題：授業で配布する資料で復習し、随時課題レポートの準備を進める。
各回の配布資料に、テーマに関連する参考図書や参考文献一覧を掲載するので、関心のあるテーマについて、クリティカル（批判的）な読解と理解を深める。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは定めず、授業ごとに内容に沿って教員が作成した資料を配布する。
授業内容が依拠する引用文献は、各回で配布する資料にリスト化する。

【参考書】
新村恵美（2023）「SDGsとは何か：起源と概要、達成状況」、佐藤龍三郎・松浦司編『SDGsの人口学』人口学ライブラリーNo.23、第2章。
佐藤寛ら編（2007）『テキスト社会開発—貧困削減への新たな道筋』日本評論者
高柳彰夫・大橋正明編（2018）「SDGsを学ぶ-国際開発・国際協力入門」法律文化社
南博・稲場雅紀(2020)「SDGs-危機の時代の羅針盤」、岩波書店
【成績評価の方法と基準】
中間レポート：30%
期末試験：40%
毎回の授業での記述:30%

【学生の意見等からの気づき】
2016年度より担当しています。これまでに、SDGsに関連付けたことが学びやすさにつながった、提出したレポートを互いに発表し合いコメントし合う機会が学びにつながったとのコメントがみられました。今後も履修学生との対話をとおして、授業を作ってゆきたいと考えます。

【学生が準備すべき機器他】

レポート提出などでパソコンを使用し、学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is to learn the theory and practice of social development.

It is structured as follows:

1. Students will review the definition and the history of social development, the theories that influenced social development, as well as the actors of social development such as government, international agencies, NGOs, etc.
2. Specific issues on social development are examined according to the Sustainable Development Goals (SDGs).
3. Several case studies are introduced so that students can discuss the practice of social development.

Students are expected to be cooperative and active during group discussions and presentations.

【Learning Objectives】

1. To acquire basic knowledge of the concept of social development;
2. To understand "poverty" not in terms of dichotomies, such as developing countries and developed countries, people concerned and supporters, and without othering people who are in different positions from oneself; and
3. Use your imagination to realize that social development is something that brings about human change.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on

1. Mid-term report(30%),
2. Final exam(40%), and
3. submission of feedback paper in each class(30%).

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

開発教育

福田 紀子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：主催：CD

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人権に基づいた社会のより良い変化(開発)に取り組むための活動は、課題を抱えた人々の中で実践が重ねられてきました。人権の基本的な概念理解や人道支援の国際基準（スフィア基準／Sphere Standards）のテキストやHuman Rights Based Developmentの研修素材を通して、人類共通の課題意識や試行錯誤の中で獲得した人権尊重の基本的な概念を理解し、どのように伝えようとしているのかをテキストとアクティビティからとらえます。そして、自分たちの社会にある人権問題への理解と関与につなぐ力をつけることを目指します。

【到達目標】

- 1) 国際社会で積み上げられてきた合意文書、教材から、ジェンダーをはじめとする脆弱性の理解、パワーの所在、気付きにくい差別、参加とエンパワメントなど市民社会と人権に関わるに関する基本概念と歴史や経緯を理解する。
- 2) 人権尊重の思考と行動枠組、社会の公正な運営方法に必要な思考と行動のスキルを 自分と社会の現実と関連させながら理解し実践する。
- 3) 参加型学習の学び方（手法、概念、進行）を経験し、人々をエンパワメントする学習について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に読んでおく英文資料、授業内で配布の資料（英・日）、ワークシートを元に進めます。資料の翻訳あるいは解説を分担する機会があります。

授業はレジュメを中心に配布資料の翻訳や概説、ワークシートによる自分の感覚や考えを示し、そこから考える活動を行いながら進めていきます。毎回提出いただくフィードバックシートの中からも、考えを深めたり、関連情報について取り上げていきます。その中でのディスカッション、フィードバックは基本的に日本語で行いますが、参加者の希望によっては一部英語でのセッションも可能です。

課題提示・提出はメール、学習支援システムを使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation Background of Participatory Approach for Empowerment	〈この授業の進め方〉 この授業の進め方、評価について。様々な分野、テーマの参加とエンパワメントのための学習を概観します
第2回	World Studies/Global Education- Educational framework, dimensions and Activities	80年代英国で実践された教育運動の素材から、(学校)教育の場で新しい課題に対応するために必要な概念、枠組み、側面とアクティビティを知ります。

第3回	Peace Education pathway for cultural peace-Difing Peace, A Typology of Violence	2000年代フィリピンの平和教育のテキストから平和の定義、暴力の類型を通して「平和」について考えます。
第4回	PRA/PLA- Participatory Learning approach for Community through discussion tools for visualization and empowerment	60～70年代の経験（失敗）を踏まえて生まれた住民の主体的参加による学習過程からの開発手法の一つであるPRA/PLAについて、共有のtools(手法)、ファシリテーターの態度、参加の場のあり方について学びます。
第5回	PRA/PLA : Tools Practice	PRA/PLA 実践 様々なツールで参加型課題分析を行います ファシリテーター実践準備
第6回	Shpere Standards- Humanitarian Response with Rights Base Aproach～Core Humanitarian Standards/CHS flower &reality	東日本大震災(2011)以降日本でも広がった人道支援の国際基準スフィアの基本理念、行動綱領、権利原則、必須基準などについて概説します
第7回	From Poverty To Dignity-a learning manual on human rights based development, introduction	From Poverty To Dignityの概説、構成を概説します ファシリテーション実践準備
第8回	Facilitaion Practice: Global Education 1	ファシリテーション実践 ／国際理解教育・グローバル教育
第9回	Facilitaion Practice: Global Education 2	ファシリテーション実践 ／国際理解教育・グローバル教育
第10回	Facilitaion Practice:From Poverty To Dignity-Human Rights Based Approaches : Non-discrimination &Attention to Vulnerable Group	ファシリテーション実践 ／脆弱性の理解に必要なパワーとエンパワメント、Intersctionality,などについても考えます
第11回	Facilitaion Practice:From Poverty To Dignity : Participatio	ファシリテーション実践 ／参加、Citizenship、Advocacy等について考えます
第12回	Facilitaion Practice:From Poverty To Dignity-Human : Rights Based Approaches- Module9: empowerment	ファシリテーション実践 ／empowermentについて考えます
第13回	CHS constraction and Conflict Management/ Resolution in Japanese Context ①	市民社会を活性化するために必要な知識・スキル・姿勢と参加を阻害する要因について、スフィア必須基準と「対立から学ぼう」の枠組みから考えます
第14回	CHS constraction and Conflict Management/ Resolution in Japanese Context ②	日本における参加を阻害する文化価値観を超えるため変化の要因やアドボカシーについて考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に紹介された Web 上での資料、配布された資料は必ず読んでおいてください。特に事前に分担した箇所については必要に応じた翻訳・整理と小グループ／パートナーとの発表の準備が必要となります。

国際的な出来事、国内で起こる問題のグローバルなつながり、国際協力活動、身近な社会の課題に関心を持ち、自分の関心と行動傾向を考えながら、授業の理解につなげて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。（レポート課題作成を除く）

【テキスト（教科書）】

特に購入の必要はありません。教材は授業の中で配布または Web 上の所在を伝えます。

【参考書】

『ワールドスタディーズ教養学方学び方ハンドブック』『参加型で考える12のものの見方、考え方』（以上、国際理解教育センター発行）『Global Teacher, Global Learner』（Graham Pike & David Selby）
<https://archive.org/details/globalteacherгло0000pike/page/2/mode/2up>

『Participatory Learning and Action- A Traing Guide』（IIED）
<https://www.iied.org/sites/default/files/pdfs/migrate/6021IIED.pdf>

『The Sphere Handbook』（2018）
Sphere-Handbook-2018-EN.pdf

『From Poverty To Dignity : LEARNING MANUAL ON HUMAN RIGHTS BASED DEVELOPMENT』
<https://wunrn.com/2009/01/poverty-to-dignity-learning-manual-on-human-rights-based-development/>

以下参考文献：

Microaggressions in Everyday Life /

Derald Wing Sue, Lisa Beth Spanierman

Participatory Learning & Action-a trainer's guide(IIED)

Participation Handbook for Humanitarian Filed Workers;

[http://www.urd.org/wp-content/uploads/2018/09/](http://www.urd.org/wp-content/uploads/2018/09/ParticipationHandbook_CHAPTER4.pdf)

ParticipationHandbook_CHAPTER4.pdf

『参加型ワークショップ入門』（ロバート・チェンバース著）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、各回授業のふりかえりシート 50 %

翻訳課題、発表、成果（対面授業の場合模造紙作業等） 10 %

2回のレポート（中間／最終） 40 %

【学生の意見等からの気づき】

参加型学習の体験は積極的な評価を受けています。ただ話し合いやアクティビティが楽しいだけでなく、そこで伝えられる概念やメッセージを読み解き、進行・手法・思考の枠組・問いかけについての意味を自分で掴むことが必要です。不消化感を感じるときもあると思いますが、その感覚も経験として自分の中で保持し、他者に問いかける力に変え、共有から生まれる学びがあればと思います。

【その他の重要事項】

国際合意の文書は完成された概念やタテマエではありません。多くの人々の困難から学ぼうと世界中の人々が積み上げ、練り直し、現実の反映させようと格闘している文脈がひとつひとつあります。災害時の支援としての国際基準には人権感覚の基本とも言える考え方と現実の対応が示されています。慣れないコンセプトもあるかもしれませんが、身近なコミュニティでも、国際的な合意の文脈を理解する為にも必要かつ応用可能なものとして学んでいきましょう。

また「参加型」を中心とした対立解決のプロセスも世界の差別や緊張関係を平和的な手段で正していくために用いられる基本的な手法です。全体に分担したテキストのプレゼンテーションやフィードバックなど授業への関与を重視します。授業の進行によって分担の発表日を変更することもあります。

なお、担当教員は人道支援団体、参加型人権教育ファシリテーター、複数の自治体の男女共同参画センターを経て、現在スフィアトレーナーとして、また大阪西成区釜ヶ崎の支援団体の職員として活動するものです。様々な課題を抱える現場に共通して求められる「人権」「人権尊重」の実践力につながる学びについて取り組んでいます。

【Outline (in English)】

Course outline : Texts on this class would be the Global Education and Peace Education as pedagogy. And as andragogy, the handbook of Participatory Learning and Actions, SPHERE Handbook for HUMANITARIAN STANDARD, FROM POVERTY TO DIGNITY for development workers.

All those texts are suggesting the framework, contents and approaches for the people's participation and empowerment through educational efforts. We try to grasp the meaning and approach of Participation as the basement of social justice and human rights.

Learning Objectives : Getting the Basic Concepts for understanding Citizen's Activism on Rights Base Approach for Social Justice with International Standard, Agreements and Methods.

Learning activities outside of classroom : Students are expected to

read the materials/assignments to translate/summary/analyze/apply into your own situation.

Grading Criteria /Policy

Participation in class, the feedback sheet for each class 50%

Assigned Translation & Group Presentation/ Facilitation 10%

Midterm/Final Report 40%

SOC300HA（社会学 / Sociology 300）

国際社会学

新藤 慶

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考（履修条件等）：環17：口、グ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本における在留外国人の現状と課題を、特に政策・教育・労働の観点から把握する。このことを通じて、国際社会学における主要テーマであるトランスナショナルな移動と定住の状況について理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

本授業を通じて、在留外国人の移動と生活の実態を総合的な観点から理解することで、今日、世界的に生じているトランスナショナルな現象について理解し、自分なりに考察を進めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には、資料に基づいた講義によって進める。ただし、リアクションペーパーに質問事項を記載してもらうことで、その質問に答えながら、受講生の関心に基づいた授業展開ができるよう心がける。受講者数などに応じて授業形態を変更する場合は、学習支援システム等で連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	移民という現象(1): 国際移民の時代	日本の在留外国人の概況について講義する。
第2回	移民という現象(2): 加速する国際移動	人々の国際移動に関する実態と理論的な知見について講義する。
第3回	オールドカマーの生活と課題(1): 在日朝鮮人社会の形成と展開	戦前・戦中・戦後の在日朝鮮人社会の展開について講義する。
第4回	オールドカマーの生活と課題(2): 在日朝鮮人教育の実態と課題	在日朝鮮人教育の実態と課題について講義する。
第5回	ニューカマーの生活と課題(1): ニューカマーの労働と生活	在日ブラジル人を中心に、ニューカマーの来日から現在の状況までについて講義する。
第6回	ニューカマーの生活と課題(2): ニューカマーの教育の実態と課題	在日ブラジル人を中心に、ニューカマーの子どもの教育について講義する。
第7回	外国人技能実習制度(1): 外国人技能実習制度の変遷と課題	外国人技能実習制度の変遷と課題について講義する。
第8回	外国人技能実習制度(2): 地域における技能実習制度の導入	農村地域の製造業の事例を中心に、技能実習生を受け入れた地域の実態について講義する。
第9回	地域社会と外国籍住民(1): 外国籍住民とコミュニティ実践	外国人集住地域の公営住宅を中心に、住民間の関わりについて講義する。

第10回	地域社会と外国籍住民(2): 外国籍住民に対する日本人住民の意識	ブラジル人集住地域における日本人住民の意識について講義する。
第11回	移民の統合と社会保障への影響(1): 移民統合の理念	ヨーロッパを中心に、移民統合の実態と理念について講義する。
第12回	移民の統合と社会保障への影響(2): 移民受け入れの社会保障への影響	移民受け入れによる社会保障制度への影響について講義する。
第13回	国民国家とシティズンシップの変容(1): 外国人住民とシティズンシップ	外国人住民とシティズンシップに関わる理論的な背景について講義する。
第14回	国民国家とシティズンシップの変容(2): 現代日本のシティズンシップ	日本におけるエスニック・マイノリティとシティズンシップの関係について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。まず、授業で紹介した文献等で学習を深めることが挙げられる。それに加えて、国際社会学が扱う対象は、現代社会のさまざまなところで見つけることができるため、普段から国際社会的な関心を持ちながら生活することも重要となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義資料を配布する。

【参考書】

松宮朝，2022，『かかわりの循環』見洋書房。
宮島喬ほか編，2023，『改訂版 国際社会学』有斐閣。
永吉希久子，2020，『移民と日本社会』中央公論新社。
額賀美紗子・芝野淳一・三浦綾希子編，2019，『移民から教育を考える』ナカニシヤ出版。
小内透編，2009，『講座トランスナショナルな移動と定住』（全3巻），御茶の水書房。

【成績評価の方法と基準】

最終レポート（70%）＋毎回のリアクションペーパー（30%）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、各テーマにおける現在の実態を扱ったことを評価してもらったので、この点をさらに深められるよう取り組んでいきたい。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業と、Zoom等を使ったオンライン授業を交互に行うので、そのための機器や接続環境を準備いただきたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course provides an understanding of the current situation and issues facing foreign residents in Japan, particularly from the perspectives of policy, education, and labor. The purpose of this course is to deepen the understanding of transnational migration and settlement, a major theme in international sociology.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- To understand the reality of the movement and lifestyle of foreign residents from a comprehensive perspective.
- To understand the transnational phenomena occurring globally.
- To discuss transnational phenomena.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to prepare and review the materials distributed in each lecture.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on the final report (70%) and reaction papers for each class (30%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

文化経営論

山口 佳子

配当年次／単位：3～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：環コア：文／主催：CD

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21世紀の成熟社会においては、「文化」が重要なファクターとなっています。ここで言う文化には、美術や音楽や演劇といった芸術文化はもとより、日常生活文化や伝統文化、映画やアニメ、ファッションなどの若者文化やポピュラー文化、さらには街並みや景観まで含まれます。それらを文化的「資源」ととらえ、まちづくりやひとづくり、あるいは文化産業をはじめとするビジネスなどに活用していくための「マネジメント」のあり方を考えます。

【到達目標】

文化のしくみを知り、文化に働きかけ、新しい文化を創生していくために、「文化をマネジメント（経営）する」という視点を養います。より具体的には、以下のふたつの面からアプローチします。まず、日本の文化政策、自治体の文化行政、文化予算やファンドレイジングなど、文化を取り巻くさまざまな制度について理解します。続いて、文化産業、企業メセナ、文化関連のNPOなど、文化を推進したり支援している多様な実践的活動について、その現状と課題、今後の可能性などを探ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマを決めた講義を実施する予定で、オンデマンドと対面のハイブリッド型で進行します。講義ではテーマについての感想・意見を書いてもらったりするほか、授業の理解についてや社会的な問題意識についての参加者の意識を確認しながら進めます。なお、初回アンケートにより、授業テーマや授業形態に若干の変更があり得るほか、フィールドワークやゲスト講師による講義を行います。基本的に、講義資料の配布、課題の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。個別の質問等は随時教室内やメール等で受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明するほか、授業への関心についての簡単なアンケートを行う。
第2回	今日の文化政策	文化政策の現在の動向を概観する。
第3回	日本の文化政策のなりたち	芸術文化と文化政策の関わりを知る。文化政策の成り立ち、歴史について学ぶ。
第4回	オンライン/online	都市と芸術文化（創造都市）、まちづくり、地域活性化との関わりを学ぶ。
第5回	日本の文化政策④	「文化芸術基本法」をはじめ、文化の振興を支える法的基盤について学ぶ。
第6回	文化と経済①	文化を支える予算やファンドレイズについて理解する。

第7回	文化と経済②	文化産業／創造産業について、ゲストによる事例をもとに考察する。
第8回	企業による文化支援	企業メセナを中心に企業と文化の関係を探る。
第9回	フィールドワーク	公立セクターが主体となった芸術文化事業を自身の関心に応じて視察・見学する。
第10回	市民社会と文化①	「創造都市」という考えを中心に文化と社会の関わりについて、ゲストによる事例をもとに考察する。
第11回	市民社会と文化②	まちづくり・地域活性化の観点から文化的アプローチについて、ゲストによる事例をもとに考察する。
第12回	文化経営の可能性①	ファッションとサステナビリティに関わる観点から、ゲストによる事例をもとに考察する。
第13回	文化経営の可能性②	授業を通じて学んだことをもとに、文化をマネジメントするための方法や今後の可能性について考える。
第14回	授業内試験	授業内試験を実施し、ここまでの学びを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館や美術館、劇場などの文化施設、まちづくりのための各種プロジェクト、企業や自治体が開催するイベントなど、文化に関わる現場に実際に足を運び、そのマネジメントについてフィールド調査を行うことが求められます（その際、若干の入場料等が発生する可能性があります）。また、文化関連の企画立案や、そのプレゼンテーションのための準備の時間を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、授業中に文献を配布したり必要なリンク先を提示します。

【参考書】

授業中に適宜、参考図書および参考ウェブサイトを提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内の小レポートや課題レポートなどの平常点（40％）と最終試験（60％）から総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

課題提出等に授業支援システムを使用するので、必ず登録を行ってください。

【Outline (in English)】

In the mature society of the 21st century, “culture” has become an important factor. Culture here includes not only artistic culture such as art, music, and theater, but also daily life culture, traditional culture, youth culture and popular culture such as movies, animation, and fashion, as well as cityscapes and landscapes. We consider them as cultural “resources” and think about how to “manage” them so that they can be utilized for town development, people development, and business, including cultural industries.

・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

・ Grading Criteria /Policies : Your overall grade in the class will be decided based on regular marks such as in-class short reports and assignment reports (40%) and the final examination (60%).

SOC200HA（社会学 / Sociology 200）

ファシリテーション論

徳田 太郎

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：定員制RSP優先

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

持続可能な社会の担い手に求められるスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を上げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本授業においては、現代社会の課題解決におけるファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】

- ・参加者主体の話しあいや課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。
- ・社会における連携や協働の実現の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。
- ・演習での体験を通じ、メンバーの個性を活かし、ともに協力しあうチームを育てていくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・第1回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。
 - ・第2回～第4回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。
 - ・第5回～第12回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。
 - ・第13回：それまでに学んだスキルとところを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。
 - ・第14回：まとめの講義と、授業内試験（レポート）を行う。
- ＊第1回～第13回は、各授業時間の最後の10分程度を「振り返りシート」の作成に充てる（毎回提出のこと）。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての（また参加者としての）言動については、その都度フィードバックを行う。＊大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する（講義）
2	ファシリテーションとは何か	ファシリテーションの全体像を学ぶ（講義・演習）
3	ワークショップとは何か	ワークショップの全体像を学ぶ（講義・演習）
4	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ（講義・演習）

5	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ（講義・演習）
6	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ（講義・演習）
7	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ（講義・演習）
8	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ（講義・演習）
9	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ（講義・演習）
10	話しあいの場をホールドする技術③アイデアの発散～集約	アイデアの発散～集約の技術を学ぶ（講義・演習）
11	話しあいの場をホールドする技術④意見の吟味	対立解消・合意形成の技術を学ぶ（講義・演習）
12	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ（講義・演習）
13	ファシリテーション実践	参加型の場（ワークショップ）の運営を体験する（演習）
14	まとめ	まとめ（講義）および授業内試験（レポート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

- ・第2回～第4回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にすること。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理すること。（予習・復習各120分程度）
- ・第5回～第12回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備すること。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめること。（予習・復習各120分程度）
- ・第13回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨むこと。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解しておくこと。（予習・復習各120分程度）

【テキスト（教科書）】

徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法（改訂版）』（2024年4月、北樹出版、ISBN：978-4-7793-0747-8）。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】

- ・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・富岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとところ』（岩波書店、2009年）
- ・堀公俊『ファシリテーション・ベーシックス：組織のパワーを引き出す技法』（日本経済新聞出版社、2016年）

【成績評価の方法と基準】

到達目標に記した3点について、小課題（各回の振り返りシート）の質と量（約60%）、レポート課題（授業内試験）（約20%）、発言や質問・演習など授業への参加度（約20%）から、総合的に評価する。期末の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

「振り返りシートをもとにした講義展開」が好評であったため、引き続き各回の授業は「約3分の1が前回学習内容の深耕、約3分の2が新規学習内容の解説・体験」という漸進的な進め方を採用する。また、毎回くじ引きでグループを構成し、異なるメンバーで話しあいを行う方法も好評であったため、今年度も同様のグループ構成を採用する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出に、学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

◎グループでの話しあいを中心にした体験型の授業です。履修希望者が多い場合は、受講者数を限定する可能性があります。その際、第1回授業の出席者を優先しますので、履修希望者は、必ず第1回授業に出席してください（第1回授業はオンラインで実施します）。

◎上記の通り受講者数を限定する際には、社会人学生（含むRSP生）を優先的に受け入れます。

【実務経験のある教員による授業】

2003年にファシリテーターとして独立、以降、市民活動や地域づくり、医療・福祉、教育・文化などの領域を中心に、全国各地で会議やワークショップ等のファシリテーターとして実務経験を積む。それに関連して、実際の現場での事例をもとに、具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Facilitation is one of the skills and mindsets required of the leaders of a sustainable society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this course, you will understand and acquire the significance of facilitation in solving the problems of modern society, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.

(Learning Objectives)

1. You will be able to explain the methodology of participant-centered discussion and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to the realization of cooperation and collaboration in society.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of its members and cooperates together.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

short reports: 60%, term-end report: 20%, in class contribution: 20%.

SHS300HA（科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 300）

科学技術社会論Ⅰ

金光 秀和

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術と社会は相互に複雑に作用し、その相互作用からさまざまな社会問題が生じています。本講義では、そうした問題が生じる背景や原因について、具体例を取り上げながら、専門家と市民の両方の観点から考察できるようになることを目指します。それを通して、科学技術が関係するこれからの社会問題に対処するための考え方の基礎づくりを行います。

なお、「科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ」と「技術哲学Ⅰ・Ⅱ」は問題意識を共有していますが、違いを示せば、以下のとおりです。

【科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ】

①実践的側面を考察、②過去の事例を中心に考察、③ディスカッションがメイン

【技術哲学Ⅰ・Ⅱ】

①理論的側面を考察、②現在進行中の事例を中心に考察、③講義＋ディスカッション

【到達目標】

本授業で履修者が目指すべき到達目標は以下のとおりです。

- ・科学技術がもたらす社会問題について、具体例を挙げながら説明できる。
- ・科学技術がもたらす社会問題について、専門家および市民の立場から考察できる。
- ・科学技術がもたらす社会問題について、批判的に思考できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方向的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッション（ケースメソッド学習）を行うなど、対話を意識した運営を行います。また、毎回実施するミニ・ペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。ミニ・ペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 授業内レポート①	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。また、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。
第2回	ケースメソッド授業①	事例を通して、専門家としての意思決定を疑似体験し、そのあり方を考察します。
第3回	巨大技術システムがもたらす問題	スペースシャトル・チャレンジャー号事故を取り上げて、巨大技術システムがもたらす問題について説明します。
第4回	ケースメソッド学習②	事例を通して、先端技術がもたらす可能性のある問題について考察します。
第5回	ケースメソッド学習③	先端技術がもたらす可能性のある問題について、専門家の立場から考察します。

第6回	ケースメソッド学習④	先端技術がもたらす可能性のある問題について、市民の立場から考察します。
第7回	科学技術社会における専門家の役割	専門家のあり方について、具体例を取り上げながら考察します。
第8回	科学技術とリスク	具体例を取り上げながら、科学技術とリスクの問題について説明します。
第9回	科学技術社会における市民の役割	科学技術の発展と市民の役割について、具体例を取り上げながら考察します。
第10回	ケースメソッド学習⑤	事例を通して、企業が直面する可能性のある問題について考察します。
第11回	ケースメソッド学習⑥	企業が直面する可能性のある問題について、専門家の立場から考察します。
第12回	ケースメソッド学習⑦	企業が直面する可能性のある問題について、市民の立場から考察します。
第13回	これからの科学技術と私たち	これからの科学技術について専門家と市民の協働の観点から考察します。
第14回	まとめと解説 授業内レポート② 授業内試験	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内レポート②（Reflection Essay【受講後】）と授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF小説などをもとに、科学技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

金沢工業大学・科学技術応用倫理研究所編『科学技術者倫理：本質から考え行動する』白桃書房、2017年
 札幌順編著『新しい時代の技術者倫理』放送大学教育振興会、2015年
 小林傳司『誰が科学技術について考えるのか：コンセンサス会議という実験』名古屋大学出版会、2004年
 金光秀和『技術の倫理への問い』勁草書房、2023年

【成績評価の方法と基準】

本授業は積極的に講義・対話に参加することを期待します。このような観点から、講義・対話への参加度合や毎回実施するミニ・ペーパーの提出によって平常点を評価します（60％）。また、授業内レポート（20％）と授業内試験（20％）を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します。なお、授業内試験は知識の習得だけを目的としたものではありません。必ず初回の説明を確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

グループで行うディスカッションなどが好評でしたので、引き続き対話や双方向性を意識した授業運営を行います。

【その他の重要事項】

本授業の受講を検討している方は必ず第1回の講義に出席してください。本授業の問題意識、内容、評価方法を詳しく説明すると同時に、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。

【Outline (in English)】

Course Outline

Technology and society interact with each other in a complex manner, and various social issues arise from this interaction. The aim of this course is to enable students to consider the background and causes of such issues from the perspectives of both experts and citizens, taking up specific examples. By doing so, students will build a foundation for thinking about how to deal with future social issues related to technology.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the social issues brought about by technology, giving specific examples.
- Examine social issues brought about by technology from the perspective of experts and citizens.
- Think critically about the social issues that technology can bring about.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it, and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class report (20%), in class exam (20%), and in class contribution (60%).

SHS300HA（科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 300）

科学技術社会論Ⅱ

金光 秀和

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を生きる上で科学技術は不可欠の存在です。しかし、科学技術は常に新しい事態をもたらし、時にそれを振興すべきか規制すべきかといった意思決定を迫ります。本授業では、科学技術をめぐる社会的決定に参加する一市民あるいは専門家として、科学技術が関係するこれからの社会問題に対処するための考え方、態度、行動について具体例を通して学びます。なお、「科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ」と「技術哲学Ⅰ・Ⅱ」は問題意識を共有していますが、違いを示せば、以下のとおりです。

【科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ】

①実践的側面を考察、②過去の事例を中心に考察、③ディスカッションがメイン

【技術哲学Ⅰ・Ⅱ】

①理論的側面を考察、②現在進行中の事例を中心に考察、③講義＋ディスカッション

【到達目標】

- 本授業で履修者が目指すべき到達目標は以下のとおりです。
- ・科学技術がもたらす光と影について、具体例を挙げながら説明できる。
 - ・科学技術がもたらす新しい事態について、批判的に思考できる。
 - ・本授業で扱う事例について、自らの意思決定を他者に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方向的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッションを行うなど、対話を意識した運営を行います。また、毎回実施するミニ・ペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。ミニ・ペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 授業内レポート①	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。また、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。
第2回	科学技術と社会をめぐる諸理論	パラダイム論、社会構成主義、モード論などについて説明します。
第3回	「公害」から学ぶ	公害を取り上げながら、科学および科学者の役割などを考察します。
第4回	「遺伝子組み換え作物」から学ぶ	遺伝子組み換え作物を取り上げながら、フレーミングの問題などを考察します。
第5回	「BSE問題」から学ぶ	BSE問題を取り上げながら、専門家と市民の協働などを考察します。

第6回	「Winny事件」から学ぶ	Winny事件を取り上げながら、最先端技術と法の関係について考察します。
第7回	「地球温暖化」から学ぶ	地球温暖化を取り上げながら、通訳不可能性や合理性などについて考察します。
第8回	「動物実験」から学ぶ	動物実験を取り上げながら、二重基準や自然さからの議論などについて考察します。
第9回	「チャレンジャー号事故」から学ぶ	チャレンジャー号事故を取り上げながら、巨大技術システムの問題を考察します。
第10回	「モーゼスの橋」から学ぶ	モーゼスの橋の事例を取り上げながら、技術の政治性の問題を考察します。
第11回	事例分析に向けて	各自で実施する事例分析について、方法論やアプローチの仕方を説明します。
第12回	プレゼンテーション「事例分析」	各自で実施した事例分析について、クラス内で発表・議論します。
第13回	これからの科学技術と私たち	こらからの科学技術にどのようにかかわるのかについて考察します。
第14回	まとめと解説 授業内レポート② 授業内試験	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内レポート②（Reflection Essay【受講後】）と授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF小説などをもとに、科学技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

藤垣裕子編『科学技術社会論の技法』東京大学出版会、2005年
伊勢田哲治[ほか]編『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』名古屋大学出版会、2013年
藤垣裕子責任編集『科学技術社会論とは何か』（科学技術社会論の挑戦1）東京大学出版会、2020年
平川秀幸『科学は誰のものか：社会の側から問い直す』（生活人新書）日本放送出版協会、2010年
金光秀和『技術の倫理への問い』勁草書房、2023年

【成績評価の方法と基準】

本授業は積極的に講義・対話に参加することを期待します。このような観点から、講義・対話への参加度合や毎回実施するミニ・ペーパーの提出によって平常点を評価します（60％）。また、授業内レポート（20％）と授業内試験（20％）を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します。なお、授業内試験は知識の習得だけを目的としたものではありません。必ず初回の説明を確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

グループで行うディスカッションなどが好評でしたので、引き続き対話や双方向性を意識した授業運営を行います。

【その他の重要事項】

本授業の受講を検討している方は必ず第1回の講義に出席してください。本授業の問題意識、内容、評価方法を詳しく説明すると同時に、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。

【Outline (in English)】

Course Outline

Technology is an essential part of living in modern society. However, technology always bring new situations and sometimes force us to make decisions about whether to promote or regulate them. In this course, we will learn how to deal with future social problems related to science and technology as a citizen or an expert who participates in social decisions about science and technology through specific examples.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the light and shade brought about by technology, giving specific examples.
- Think critically about new situations brought about by technology.
- Explain your own decision-making to others regarding the cases covered in this course.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it, and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class report (20%), in class exam (20%), and in class contribution (60%).

SOC200HA（社会学 / Sociology 200）

ファシリテーション論

徳田 太郎

配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4
備考（履修条件等）：定員制
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

持続可能な社会の担い手に求められるスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を上げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本授業においては、現代社会の課題解決におけるファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】

- ・参加者主体の話しあいや課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。
- ・社会における連携や協働の実現の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。
- ・演習での体験を通じ、メンバーの個性を活かし、ともに協力しあうチームを育てていくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・第1回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。
 - ・第2回～第4回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。
 - ・第5回～第12回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。
 - ・第13回：それまでに学んだスキルとところを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。
 - ・第14回：まとめの講義と、授業内試験（レポート）を行う。
- ＊第1回～第13回は、各授業時間の最後の10分程度を「振り返りシート」の作成に充てる（毎回提出のこと）。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての（また参加者としての）言動については、その都度フィードバックを行う。＊大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する（講義）
2	ファシリテーションとは何か	ファシリテーションの全体像を学ぶ（講義・演習）
3	ワークショップとは何か	ワークショップの全体像を学ぶ（講義・演習）
4	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ（講義・演習）

5	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ（講義・演習）
6	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ（講義・演習）
7	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ（講義・演習）
8	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ（講義・演習）
9	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ（講義・演習）
10	話しあいの場をホールドする技術③アイデアの発散～集約	アイデアの発散～集約の技術を学ぶ（講義・演習）
11	話しあいの場をホールドする技術④意見の吟味	対立解消・合意形成の技術を学ぶ（講義・演習）
12	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ（講義・演習）
13	ファシリテーション実践	参加型の場（ワークショップ）の運営を体験する（演習）
14	まとめ	まとめ（講義）および授業内試験（レポート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

・第2回～第4回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にすること。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理すること。（予習・復習各120分程度）

・第5回～第12回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備すること。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめること。（予習・復習各120分程度）

・第13回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨むこと。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解しておくこと。（予習・復習各120分程度）

【テキスト（教科書）】

徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法（改訂版）』（2024年4月、北樹出版、ISBN：978-4-7793-0747-8）。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】

・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・富岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとところ』（岩波書店、2009年）
・堀公俊『ファシリテーション・ベーシックス：組織のパワーを引き出す技法』（日本経済新聞出版社、2016年）

【成績評価の方法と基準】

到達目標に記した3点について、小課題（各回の振り返りシート）の質と量（約60%）、レポート課題（授業内試験）（約20%）、発言や質問・演習など授業への参加度（約20%）から、総合的に評価する。期末の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

「振り返りシートをもとにした講義展開」が好評であったため、引き続き各回の授業は「約3分の1が前回学習内容の深耕、約3分の2が新規学習内容の解説・体験」という漸進的な進め方を採用する。また、毎回くじ引きでグループを構成し、異なるメンバーで話しあいを行う方法も好評であったため、今年度も同様のグループ構成を採用する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出に、学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

グループでの話しあいを中心にした体験型の授業です。履修希望者が多い場合は、受講者数を限定する可能性があります。その際、第1回授業の出席者を優先しますので、履修希望者は、必ず第1回授業に出席してください（第1回授業はオンラインで実施します）。

【実務経験のある教員による授業】

2003年にファシリテーターとして独立、以降、市民活動や地域づくり、医療・福祉、教育・文化などの領域を中心に、全国各地で会議やワークショップ等のファシリテーターとして実務経験を積む。それに関連して、実際の現場での事例をもとに、具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Facilitation is one of the skills and mindsets required of the leaders of a sustainable society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this course, you will understand and acquire the significance of facilitation in solving the problems of modern society, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.

(Learning Objectives)

1. You will be able to explain the methodology of participant-centered discussion and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to the realization of cooperation and collaboration in society.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of its members and cooperates together.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

short reports: 60%, term-end report: 20%, in class contribution: 20%.

PHL200HA (哲学 / Philosophy 200)

西欧近代批判の思想

越部 良一

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

備考（履修条件等）：環17：文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、西欧の近代とその思想に、批判的に対峙する西洋の哲学思想をテーマとする。授業の目的は、西欧近代のいくつかの哲学思想を把握し、それへの批判がいかなる考え方によるのかを理解し、説明できること、これにより、西欧近代の影響を大きく受けている現代の日本社会を広く理解する視点を獲得することである。

【到達目標】

西欧近代批判として、この授業では主として2つの視点から学んでゆく。一つは、西欧の古典思想からの視点であり、もう一つは西欧近代思想自身からの視点である。これにより、西欧近代への批判を、人間を超えた存在（イデア、神など）の尊重と、人間中心主義に対する批判という方向で把握し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業である。講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。質問等のフィードバックは授業内で行う。

まず、西洋思想の源泉であり、古典であって、近代西欧批判の視点を提供するものとして、古代ギリシャのプラトンの哲学と聖書（キリスト教）の思想を取り上げ、次に近代西洋の代表的思想として、功利主義、デカルト、ヘーゲルなどをみていく。そのうえで、そうした近代思想と批判的に対峙するものとして、キルケゴール、ニーチェなどの思想をみてゆきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	この講義の全体の概観、試験のやり方など
第2回	西欧近代思想の特徴とその批判	西洋近代とは何か
第3回	プラトンの思想Ⅰ	人間の魂の在り方と正義
第4回	プラトンの思想Ⅱ	様々な国家体制と民衆制（民主制）批判
第5回	聖書の思想	人の戒めを超える神の命令
第6回	功利主義の思想	最大多数の最大幸福
第7回	デカルトの思想	自然支配者としての人間
第8回	ヘーゲルの思想	人間理性は絶対者（神）である
第9回	マルクス主義	マルクス主義における人間中心主義
第10回	キルケゴールⅠ	現代の批判（神を見失うことと主体性の喪失）
第11回	キルケゴールⅡ	ヘーゲル哲学批判（人間精神は神でない）
第12回	ニーチェⅠ	「神は死んだ」（「ニヒリズム」としての近代西洋批判）
第13回	ニーチェⅡ	近代西洋の大衆化批判
第14回	授業のまとめ	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するプリントをよく読み込むこと。また解説書や概論ではなく、自分で興味を持った授業でとりあげる思想家の著作（むろん翻訳でよい）に少しでも接することが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。適宜、プリントを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）と期末の筆記試験（60％）によって成績を評価する予定である。

期末の筆記試験は教室で最終授業内に行う予定である。ただし、受講者数によっては定期試験期間内に行うかもしれない。6月下旬頃の授業でのアナウンスに注意してほしい。

【学生の意見等からの気づき】

近代日本は西欧近代の影響を大きく受けているから、近現代の日本の思想状況と照らし合わせる視点を背景にしながら講義するつもりである。

【Outline (in English)】

This course deals with the modern Western thought and the philosophical critique to it in the history of Western civilization. The aim of this course is to understand some of the modern Western thoughts and some of the philosophical critiques to them. It also enhances students' understanding of the modern Japanese society greatly influenced by the modern West.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

LIT200HA (文学 / Literature 200)

日本詩歌の伝統

日原 傳

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：環37：文

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

定型詩の実作を指導する授業である。実作に関しては「俳句」を主とするが、「短歌」「川柳」などの実作を体験する機会も設ける予定である。実作の手助けになるように、多くの先人の作品を紹介し、鑑賞したい。

【到達目標】

- ・定型詩（俳句・短歌・漢詩など）の規則を理解する。
- ・定型詩の創作を通して言葉に関する感覚を磨く。
- ・「切字」「取り合わせ」といった俳句に関する技法について理解し、実作に応用する。
- ・日本の詩歌の伝統のなかではぐくまれてきた季語の豊かさを認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式。毎回テーマを設けて、日本の詩歌作品を紹介し、鑑賞する。同時に参加者にほぼ毎回俳句の実作を提出してもらう。提出してもらった作品のなかの秀作、問題作も鑑賞の対象とする。また、「色」「数字」「食べ物」といった切り口から先人の作品を鑑賞する機会も設け、実作の参考に供したい。

※第1回目から対面授業をする予定ですが、状況によってオンライン授業に移行する可能性もあります。授業方法を変更する場合は、学習支援システムでその都度提示します。

※提出課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	俳句の三要素	俳句の約束事～定型・季語・切れ 俳句の片言性
第2回	季語の重層性	俳句のみなもと（和歌・連歌・俳諧）、俳諧の発句、季題と季語、歳時記の世界／実作（俳句）
第3回	切れについて	切字のはたらき、「一物仕立て」と「取り合わせ」／実作（俳句）
第4回	座の文学Ⅰ	松尾芭蕉の場合／実作（俳句）
第5回	座の文学Ⅱ	正岡子規の場合／実作（俳句）
第6回	子規の俳句革新	子規の生涯、子規山脈、「写生」について、吟行という作句法／実作（俳句）
第7回	短歌と俳句／子規の後継者Ⅰ	短歌と俳句の違い／虚子とその弟子たち／実作（短歌・俳句）
第8回	俳句と川柳／子規の後継者Ⅱ	俳句と川柳の違い／碧梧桐の傾向俳句・自由律／実作（俳句・川柳）
第9回	漢詩（近体詩）の規則	子規が初めて作った漢詩の紹介／漢詩（近体詩）の格律／実作（漢詩・俳句）
第10回	俳句の技法Ⅰ／近代の俳句①	比喩（直喩・隠喩）、擬人法／鑑賞（伝統俳句）／実作（俳句）

第11回	俳句の技法Ⅱ／近代の俳句②	字余り・字足らず・句またがり／鑑賞（新興俳句・前衛俳句）／実作（俳句）
第12回	海外俳句／国際俳句／俳句を読むということ	芭蕉「古池や・・・」の翻訳／『台湾歳時記』の紹介／漢俳／実作（俳句）
第13回	現代俳句／青春俳句／文人俳句／子規と漱石	観賞（現代俳句・青春俳句・俳句甲子園）／子規と漱石の交流／実作（俳句）
第14回	授業の総まとめと期末試験	筆記試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義で紹介された資料を導きに自分の好きな作家を見つけ、その作品を読む。
- ・自作の俳句（毎回2～3句ほど）を作って提出する。
- ・本授業の準備・復習時間は、前後2時間ずつを標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当者が作成した資料を配布する。

【参考書】

小林恭二『俳句という遊び』『俳句という愉しみ』（以上、岩波新書）
山本健吉『新版 現代俳句（上・下）』（角川選書）
『合本 俳句歳時記 第五版』（角川書店）
平井照敏編『現代の俳句』（講談社学術文庫）
藤田湘子『実作俳句入門』（立風書房）
片山由美子ほか『俳句教養講座』第1～3巻（角川学芸出版）
日原傳『365日入門シリーズ⑦ 素十の一句』（ふらんす堂）
岸本尚毅『文豪と俳句』（集英社新書）
佐藤和夫『海を越えた俳句』（丸善ライブラリー）
Hiroaki Sato『One Hundred Frogs』（Weatherhill）
馬場あき子・黒田杏子監修『短歌・俳句同時入門』（東洋経済新報社）
岡井隆『短歌の世界』（岩波新書）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加姿勢・提出作品）40％
自信作10句（春学期に作った自作10句）10％
期末試験またはそれに代わる最終レポート 50％

【学生の意見等からの気づき】

提出された実作について解説する時間を多くとりたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to write haiku poems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination (or Term-end report) : 50%、Short reports: 10%、in class contribution: 40%

ART200HA（芸術学 / Art studies 200）

比較演劇論 I

平野井 ちえ子

配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3
備考（履修条件等）：環37：文／定員制
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることです。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なるもの」とは何か？ 比較の視野からこれらのテーマを考えると、私たち自身の美意識のあり方が浮かびあがってきます。ここに他文化を学ぶことの意義があるのです。

【到達目標】

演劇の各ジャンルについて基本的な教養を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本用語の解説もしながら、東西のさまざまな演劇ジャンルを考察するので、とても密度の濃い講義形式となります。比較考察の軸は、つねに日本の伝統芸能です。毎回の講義後、学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書いていただきます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明し、志望理由を簡潔に書いていただきます。受講を希望する人は、必ず出席してください。
第2回	歌舞伎海外公演（1）	歌舞伎海外公演の歴史とその成果について考えます。
第3回	歌舞伎海外公演（2）	歌舞伎海外公演の歴史とその成果について考えます。
第4回	何もない空間	能やギリシャ悲劇を対象に、観客の想像力について考えます。
第5回	歌舞伎舞台の大仕掛け	回り舞台、花道、せり、など、歌舞伎舞台の仕掛けを学びます。
第6回	歌舞伎の音	歌舞伎の音楽、効果音、間について考えます。
第7回	歌舞伎のせりふ	聞かせどころのせりふを例として、歌舞伎のせりふの特徴を学びます。
第8回	歌舞伎と能の視覚効果	歌舞伎と能について、演技の型、舞台構造、衣裳 vs. 装束、化粧 vs. 面などの観点から、対照的に考察します。
第9回	古今東西の劇的葛藤と情感	論理性 vs. 感性という観点から、東西の伝統演劇を考察します。
第10回	日本人の主情性 一家庭悲劇のドラマツルギー（1）	歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの理念について考えます。『平家物語』の原話「敦盛最期」から歌舞伎『熊谷陣屋』へ。

第11回	日本人の主情性 一家庭悲劇のドラマツルギー（2）	歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの理念について考えます。「敦盛最期」から能『敦盛』へ。最終的に、同じ原話から生まれた歌舞伎と能のそれぞれの作品を比較考察します。
第12回	歌舞伎と文楽	歌舞伎と文楽の『熊谷陣屋』を比較考察します。
第13回	総括	春学期の学習内容の復習をします。期末試験の勉強のしかたについても説明します。
第14回	期末試験（記述式）と復習	13回までの講義内容について、まとめと復習を行うとともに、理解度・知識定着度を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義スライドを初めとして、配布資料・URLおよび関連動画については、必ず予習・復習をしてください。日頃から舞台芸術に親しむ姿勢も大切です。そのための個別の質問も歓迎します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義スライドほか、プリント教材。

【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 ー日本人の美意識ー』 TBSブリタニカ
野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書
青山昌文編著 『舞台芸術への招待』 放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】

【平常点】50％
参加態度・ジャーナル（各回の講義内容について考えたことを簡潔にまとめて提出します。）
【期末試験】50％
記述式試験です。

【学生の意見等からの気づき】

「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心がもてて楽しかった」など、基本的に好評でした。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業はBT0309教室にて実施します。学習支援システムを利用します。Zoom講義でも頻繁に動画共有を行うので、使用機器（PC利用のこと）とネットワークの安定性を事前にご確認ください。

【その他の重要事項】

・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも演劇情報を提供します。
・当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【Outline (in English)】

We will compare and analyze Japanese theatres and theatres overseas without favor or partiality to savor underlying cultural backgrounds and aesthetics for each of them. What is theatre? What is tradition? What is originally from Japan? Discussing such topics from comparative perspectives, we can recognize our own identity and aesthetics. This could be the best part of learning other cultures. You can learn basic knowledge about each genre of mainly traditional performing arts. Before/after each class, you are expected to spend four hours to understand the lecture. Grading will be decided based on participations, journal writing and final exam: participations & journals(50%) and final exam(50%).

ART300HA（芸術学 / Art studies 300）

比較演劇論Ⅱ

平野井 ちえ子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：環37：文／定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることです。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なもの」とは何か？ 比較の視野からこれらのテーマを考えると、私たち自身の美意識のあり方が浮かびあがってきます。ここに他文化を学ぶことの意義があるのです。

【到達目標】

春学期講義「比較演劇論Ⅰ」で学んだ理論的枠組みを土台に、さまざまな演劇作品・関連芸術への鑑賞眼を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

演劇各ジャンル・関連芸術の代表的な作品について鑑賞・解説し、受講者の鑑賞眼を養います。各回の講義後、学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書いていただきます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明します。受講を希望する人は、必ず出席してください。
第2回	歌舞伎海外公演（3）	平成中村座海外公演について考察します。
第3回	劇場とは何か	芸能の「場」と観客の想像力について考察します。
第4回	ギリシャ悲劇：ソフォクレス作『オイディプス王』	オイディプス王の物語とギリシャ悲劇の特色を学びます。
第5回	ジャンル横断的考察（1）	歌舞伎と落語：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第6回	ジャンル横断的考察（2）	歌舞伎と映画：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第7回	ジャンル横断的考察（3）	能と歌舞伎：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第8回	ジャンル横断的考察（4）のための基礎講義	文案というジャンルの基礎知識を学びます。
第9回	ジャンル横断的考察（4）	文案と歌舞伎：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第10回	東西の流血シーン	ヨーロッパの演劇と比較して、歌舞伎の「殺し場」の特徴を考えます。

第11回	歌舞伎の理想美	歌舞伎を軸として、演劇におけるリアリズムと様式表現について考えます。
第12回	演劇の季節感	歌舞伎の「芝居年中行事」について、代表的な作品を考察します。
第13回	伝統とは何か	東西の伝統演劇の比較考察をまとめます。期末試験の勉強のしかたについても説明します。
第14回	復習と期末試験	13回までの講義内容について、まとめと復習を行うとともに、理解度・知識定着度・鑑賞力を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義スライドを初めとして、配布資料・URLおよび関連動画については、必ず予習・復習をしてください。日頃から舞台芸術に親しむ姿勢も大切です。そのための個別の質問も歓迎します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義スライドほか、プリント教材。

【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 ー日本人の美意識ー』 TBSブリタニカ

野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書

青山昌文編著 『舞台芸術への招待』 放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】

【平常点】50%

参加態度・ジャーナル（各回の講義内容について考えたことを簡潔にまとめて提出します。）

【期末試験】50%

記述式試験です。

【学生の意見等からの気づき】

「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心がもてて楽しかった」など、基本的に好評でした。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業はBT0309教室にて実施します。学習支援システムを利用します。Zoom講義でも頻繁に動画共有を行うので、使用機器（PC利用のこと）とネットワークの安定性を事前にご確認ください。

【その他の重要事項】

・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも演劇情報を提供します。
・ただし、能や歌舞伎など伝統芸能の基礎知識を前提に授業を進めるので、春学期の「比較演劇論Ⅰ」と併せて履修することを強く勧めます。

【Outline (in English)】

We will compare and analyze Japanese theatres and theatres overseas without favor or partiality to savor underlying cultural backgrounds and aesthetics for each of them. What is theatre? What is tradition? What is originally from Japan? Discussing such topics from comparative perspectives, we can recognize our own identity and aesthetics. This could be the best part of learning other cultures. You are encouraged to enhance your insight into performing arts. Before/after each class, you are expected to spend four hours to understand the lecture. Grading will be decided based on participations, journal writing and final exam: participations & journals(50%) and final exam(50%).

ART200HA（芸術学 / Art studies 200）

日本美術史論

手塚 恵美子

配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：環37：文
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代の日本における美術の展開を、海外との美術交流、美術制度・美術政策の進展、美術と社会の関係にも着目しながら学びます。明治以降の日本では、欧米の美術作品や技法、美術制度（美術教育・ミュージアム・展覧会など）を受容したことにより、新たな局面が開かれます。そして、近世以前からの伝統美術を見直しながら、新たな創造へ向かい、現代へと続く美術界の礎が築かれました。この授業では、そうした時代の代表的な画家・彫刻家・工芸家・建築家らの活動と作品を取り上げ、その魅力と意義を、当時の時代背景と社会、文化的状況や環境とも関連づけながら考察していきます。授業の終盤には現代の身近なアートにも眼を向けます。現在、私たちが見ることのできる美術作品は、どのように受け継がれてきたのか、それらを保護・活用し、持続可能な文化資源として未来へ手渡していくには、どのような課題があるのか、自分自身の身近な問題として思考する視点も養っていきましょう。

【到達目標】

- 1. 近代日本の主要な美術家・美術作品・美術界の動向に関する基本的知識を身につけ、説明できる。
- 2. 主要な美術家の活動と作品を、時代背景・社会・環境・文化と関連づけ、近世から現代への流れの中で考察することができる。
- 3. 現代へ受け継がれてきた文化資源としての美術の保護と活用、未来への継承について、主体的な問題意識をもって思考できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教室での対面講義で、講義内容の要点と美術作品の映像をパワーポイントで映写しながら、講義資料を参照しつつ進めていきます。授業最後に理解度を確認するクイズに解答、授業後に提出する課題で講義内容に対する自身の意見や考察を述べ、特に関心を持ったことや疑問点は参考文献や関連サイトを調べて探究学修を行います（全体を通じて、講義内容に関する意見・考察6回程度、探究学修2回程度、提出回は自由選択）。次回授業でフィードバックを行い、受講生の意見や疑問を共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、日本美術の流れと特色
第2回	西洋美術の受容と鑑賞の場	西洋画の受容史、江戸時代の洋風画、明治時代の洋画、〈美術〉の鑑賞の場
第3回	博覧会と美術工芸	19世紀後半の万国博覧会と国内の博覧会、海外で高い評価を得た日本の美術工芸と明治政府の美術政策
第4回	ミュージアムの展開	博物館・美術館の成立と展開、美術コレクションの形成、ミュージアム建築

第5回	近代都市の形成と洋風建築	国家の首都東京が近代都市の相貌を整え洋風建築が導入されていく過程、お雇い外国人が果たした役割
第6回	日本人建築家の時代	日本人建築家の誕生、第一世代と次世代の建築家たちの代表作
第7回	美術学校・美術団体	工部美術学校と東京美術学校、伝統美術団体と洋風美術団体、主要な美術家（日本画家・洋画家・彫刻家・工芸家）の活動と代表作
第8回	洋風美術と伝統美術	東京美術学校西洋画科の開設、美術団体の白馬会と日本美術院、両団体の主要な美術家とその代表作
第9回	モダニズムの諸相	文部省美術展覧会（文展）開設以降のアカデミズムと反アカデミズム、新しい傾向の美術団体、日本のモダニズムを特徴づける主要な美術家の活動と代表作
第10回	近代建築と装飾	日本人建築家による近代建築の代表作と建築装飾、日本的な表現の模索、建築家と美術家の協働による総合芸術としての近代建築、
第11回	文化遺産を守る、伝える	文化遺産の保護・活用、近代建築と建築装飾の保存・修復、文化財保護法など文化遺産（文化財／文化資源）をめぐる制度の枠組み、
第12回	グラフィックアート	ポスター、ブックデザイン（装幀・挿絵）、絵葉書など
第13回	パブリックアート	公共空間を彩るパブリックアートの歴史と作例、社会・環境に及ぼす影響と機能、アートによる街づくり
第14回	現代の壁のアート、フォローアップ	現代の都市環境の中のグラフィティ、ミューラル、ステンドグラス、モザイクなど、身近な公共空間の壁面に見られるアートの機能と問題点 授業全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として講義資料に目を通して授業内容を把握しておく。授業後に学んだ内容を振り返り、課題を提出、関心を持った点や疑問点については探究学修を行う。こうした準備学習・復習・課題・探究学修に要する時間は、各回平均4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、講義資料を配布する。

【参考書】

毎回の授業で講義内容に関する参考文献、参考サイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業への積極的な参加姿勢とクイズ・課題 60%、期末レポート 40%を基準として、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからいただいた意見をもとに、授業中のシステムトラブルについては改善に努め、授業最後の WebClass を利用した理解度確認クイズの実施方法・解答時間等を見直します。落ち着いた受講環境を維持するため、やむを得ない理由のない遅刻・途中退室は控えていただくよう、受講生の皆さんのご協力をお願いします。

【その他の重要事項】

授業内容に関連のあるミュージアム（東京国立博物館、東京国立近代美術館など）、展覧会、建築、パブリックアートなどにも積極的に足を運び、実際に作品を見る体験を大切にしてください。美術や文化遺産に関する日々のニュースにも、意識を向けるようにしましょう。

【Outline (in English)】

This course provides basic knowledge of modern Japanese art history. We will consider the activities and artworks of major painters, sculptors, decorative artists and architects, from diverse perspectives such as intercultural exchange, the progress of the cultural policy, the relationship between art and society, historical background, cultural conditions and environments of the time. We will also focus on the public arts, murals and graffiti of today for thinking about art as our close issue. Students will be expected to examine how the artworks have been passed down to the present, how to protect and utilize them as cultural resources in our time, and how to pass them to next generation. Through this course, students will be encouraged to explore the issues they are interested in and express their own opinions. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours on average for preparatory study, reviewing the course contents, working on the reaction paper and self-directed investigative learning. Grading will be decided based on active participation (60%), and the term-end paper (40 %).

ART200HA（芸術学 / Art studies 200）

西洋美術史論

新保 淳乃

配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4
備考（履修条件等）：環37：文
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋美術は時代や社会のさまざまな側面を切り取る作品を多く生み出してきました。ルネサンスから近代の美術作品を対象に、①作家の生涯と歴史的背景の確認、②作品の観察、③作品解釈、と諸段階を踏みながら分析を進めます。政治・経済・思想その他複眼的視点から芸術家や作品を立体的に理解すると同時に、西洋美術史の方法論を学びます。

【到達目標】

絵画・彫刻等の具体的な読解をととして、芸術家や作品解釈の知識を得るとともに、ジェンダー構造や市場の観点から芸術教育や作品制作プロセスの歴史的展開にも関心を広げることによって、西洋美術史の流れと方法論についての理解を深める。授業内で作品のディスクリプションを行い、視覚表象の観察力と方法論を身につける。最終的に、授業で得た知見と研究文献の読解に基づき、作品分析をレポートにまとめることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

作品ごとに講義（芸術家の略歴、作品解釈）とアクティブラーニング（作品のディスクリプション）に分けて、スライドを投影しながら配布資料に沿って授業を進めます。作品を観察し言語化するディスクリプションには積極的な参加を求めます。毎回講義内容をふまえてリアクションペーパーを書いていただきます。予習復習の過程で参考文献を読み解きレポート作成に生かしてください。講義後に相談に応じるほか、リアクションペーパーで出された質疑への応答やコメントを適宜記入して学習支援システム経由で返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	趣旨説明 ルネサンス以前の西洋美術史
2	北方ルネサンス	ヤン・ファン・エイク《アルノルフィーニ夫妻の肖像》
3	イタリア・ルネサンス	レオナルド・ダ・ヴィンチとルネサンスの自然主義 ＊ディスクリプション実施
4	イタリア・ルネサンス	レオナルド・ダ・ヴィンチ《最後の晩餐》
5	マニエリスム	危機の時代とマニエリスム ＊ディスクリプション実施
6	マニエリスム	パルミジャニーノ《ヒエロニムスの聖母》
7	バロック	ベルニーニ《アポロンとダフネ》
8	オランダ黄金時代	17世紀オランダ絵画 ＊ディスクリプション実施
9	オランダ黄金時代	マリア・ファン・オーステルウィックの静物画
10	18世紀	ロ可可と新古典主義の美学

11	新古典主義	ダヴィッド《ホラティウス兄弟の誓い》
12	ピクチャレスク	イギリス風景式庭園とピクチャレスクの美学
13	近代の首都パリと前衛の時代	クールベから印象派まで
14	アール・ヌーヴォー	アルフォンス・ミュシャ《ジスモンダ》

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。
準備学習（2時間）：シラバスに記載された参考文献を読むほか、学習支援システムより事前配信される配布資料に目を通して予習する。
復習（2時間）：毎回の課題に回答したうえで、講義中に提示された作品について調べ参考文献を読む。美術館の常設展や展覧会に足を運んで実作を鑑賞し、美術全集などを観て西洋美術に親しむ機会を増やすことを推奨します。期末レポートで有意義なディスクリプションと論述ができるよう、普段から美術作品の観察、関心のあるテーマの文献を読み図像を集めるなど準備してください。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館、1997年
ジェームズ・ホール『新装版 西洋美術解説事典』河出書房新社、2004年
木村三郎『名画を読み解くアトリビュート』淡交社、2002年
パノフスキー『イコノロジー研究 上下』ちくま学芸文庫、2002年
若桑みどり『イメージを読むー美術史入門』ちくま学芸文庫；『絵画を読むーイコノロジー入門』NHKブックス
その他授業中に提示

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への取り組み・課題回答の精度）50％
＊毎回の講義内容を理解し、適切な質疑ができたか。感染症罹患等の特別な事由がない限り、4回以上の欠席・課題未提出は単位認定しないので十分に留意すること。
レポート課題 50％
＊学術文献・資料を3点以上参照しているか。講義をふまえて明確な問題設定ができているか。調べたことと自分なりの考察を言語化できているか。

【学生の意見等からの気づき】

毎回スライドを投影しての授業となるため、手元が暗くなる場合があります。

【学生が準備すべき機器他】

特に必要ない。
授業では資料を白黒印刷して配布します。事前に学習支援システムにて講義資料を配信するので、カラーで見たい方、拡大したい方は各自ブラウザで参照しながら受講してください。

【その他の重要事項】

生成AI使用について以下を遵守してください。
アイデア出しや構成案のたたき台作りに生成AIを使うことは認めるが、ハルシネーションによる誤った情報を排除できる知識と経験がある場合のみに留めること。
課題への回答やレポート作成は知識を蓄積し思考力を鍛錬する機会であるため、AI使用は認めない。
配布資料を表層的にまとめたリアクションペーパーは減点、学術文献に基づかないブログ記事等をまとめたレポートは評価外とするので十分に留意してください。

【Outline (in English)】

< Course outline >
Western Art has produced many artworks from which we can grasp the essence or the structure of the era. Selecting such works of art from Renaissance to 19th-Century, this course analyses them following the methodological steps: study on artist's biography and historical backgrounds, observation and description of each work, then proceeds to interpretation from various points of view, including gender structure or market system.
< Learning Objectives >

Through multifaceted analysis of paintings and sculptures, students will gain knowledge about artists and their works while broadening their focus to include historical contexts surrounding artistic production — such as gender structures and the art market — thereby deepening their understanding of the trajectory and methodologies of Western art history. In class, students will practice describing artworks in order to develop observational skills and methodological approaches to visual representation. Ultimately, students will aim to synthesize their insights gained in class and through reading scholarly literature into a written report analyzing artworks.

< Learning activities outside of classroom >

Preparation and review time for this course is typically 2 hours each.

Preparation (2 hours): Read the reference materials listed in the syllabus and review the handouts distributed in advance via the learning support system to prepare for class.

Review (2 hours): After completing each assignment, research and read reference materials related to the works presented during lectures. Students are encouraged to visit museum permanent collections and exhibitions to view real artworks, and to increase experience of Western art by consulting art encyclopedias and similar resources. To enable meaningful descriptions and analysis in the final report, prepare regularly by observing artworks, reading literature on themes of interest, and collecting images.

< Grading Criteria/Policy >

Participation & Accuracy of Assignments) 50%

* Note that unless due to special circumstances like infectious disease, missing 4 or more lectures or failing to submit assignments will result in no credit.

Report Assignments 50%

* Evaluation criteria include : Reference at least 3 academic sources are required. Clear problem formulation based on the lecture. Verbalizing researched findings and personal insights.

PHL200HA (哲学 / Philosophy 200)

応用倫理学

吉永 明弘

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

備考（履修条件等）：環17：文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学について生命倫理と動物倫理を中心に学ぶ。

【到達目標】

応用倫理学の概要と、特に医療倫理（生命倫理）と動物倫理の議論を理解し、自分なりに現代社会における倫理を考えることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。メールで意見を募り、それを授業に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	応用倫理学について	応用倫理学の特徴について説明する。
2	インフォームドコンセント：専門家と素人の関係	医療倫理のキーワードであるインフォームドコンセントについて説明する。
3	美容整形とスマートドラッグ：治療と改造	美容整形とスマートドラッグを題材に治療と改造の線引きについて考える。
4	遺伝子治療と脳手術：治療と改造	遺伝子治療と脳手術を題材に治療と改造の線引きについて考える。
5	脳死と臓器移植：先端技術の倫理	脳死と臓器移植を題材に先端技術がもたらす倫理問題について説明する。
6	安楽死と尊厳死：生と死の倫理	安楽死と尊厳死を題材に生と死について考える。
7	出生前診断と優生思想：生命の価値	出生前診断と優生思想を題材に生命の価値について考える。
8	法律上のペットの位置づけ	ペットを題材に動物倫理について説明する。
9	工場畜産と動物実験：動物解放論	工場畜産と動物実験を題材に動物解放論について説明する。
10	肉食とベジタリアン：文化とライフスタイル	肉食を題材に動物の福祉と食について考える。
11	中間チェックテスト	これまでの内容が理解できているか確認する
12	情報倫理学	情報倫理学の概説を行う。
13	ビジネス倫理学	ビジネス倫理学について「内部告発」を中心に紹介する。
14	労働と教育について	労働と教育について倫理学の立場から考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

医療や動物に関するニュースを把握しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年。

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年。

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年。

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年（第1章から第3章）。

【成績評価の方法と基準】

中間チェックテスト（40％）と書評レポート（60％）。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を設けることにしました。

【Outline (in English)】

This course deals with bioethics and animal ethics. At the end of the course, students are expected to get an overview on bioethics and animal ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, midterm exam:40%,book review:60%.

PHL200HA (哲学 / Philosophy 200)

環境倫理学 I

吉永 明弘

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

備考（履修条件等）：環17：文

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境倫理学は1970年にアメリカに誕生した応用倫理学の一分野であり、日本では1990年代に始まった若い分野である。本講義ではアメリカと日本の議論の違いに注目しながら環境倫理学の全体像を説明する。受講者はそれを通して倫理的なアプローチの特色を学ぶことになる。

【到達目標】

アメリカの環境倫理学と日本の環境倫理学の歴史と中身について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。メールで質問を募り、授業に反映させる。チェックテストとレポートについては個別にメールで講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	環境問題と倫理学理論	環境問題を「倫理学」の視点から学ぶための基礎となる理論を紹介する
2	環境問題と現代社会	環境問題が「現代社会」の仕組みに由来する問題であることを示す
3	環境問題からみた人類史	人類の歴史を環境問題の観点からまとめ直す
4	土地倫理と自然の権利	環境倫理学の原点とされる「土地倫理」と「自然の権利」を中心にアメリカの議論を紹介する
5	生物多様性の価値	生物多様性はなぜ保全すべきなのかについての議論を紹介する
6	加藤尚武の三つの基本主張	日本の環境倫理学の代表者による三つの主張を紹介する
7	鬼頭秀一のローカルな環境倫理	日本の環境倫理学の特徴である「ローカルな環境倫理」の内容について紹介する
8	公害の環境倫理	公害に関する映画を見て意見交換する
9	環境正義	環境正義について議論する
10	リスク論	リスク論の概要を紹介する
11	中間チェックテスト	ここまでの内容を理解しているかを確認する
12	災後の環境倫理学：原子力発電について	原子力発電についての論点を紹介し議論する
13	災後の環境倫理学：復興のありかについて	震災復興についての論点を紹介し議論する
14	人新世の環境倫理学	人新世と気候工学について概説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘『都市の環境倫理 増補改訂版』勁草書房、2025年

【参考書】

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年（序章、第4章～第10章）

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』ちくまプリマー新書、2021年

【成績評価の方法と基準】

中間チェックテスト（40点）と書評レポート（60点）。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を設けることにしました。

【Outline (in English)】

This course deals with environmental ethics. At the end of the course, students are expected to get an overview on environmental ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, book review:50%, term-end examination:50%.

PHL300HA (哲学 / Philosophy 300)

環境倫理学Ⅱ

吉永 明弘

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考（履修条件等）：環17：文

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「都市の環境倫理」について学ぶ。その中で、哲学的空間論、身体論、人間主義地理学、風土論、都市論などを紹介する。さらに、アメニティマップ作り実践を通じて、各人が自分にとって良好な環境とはいかなるものかについての認識を深めることを目標とする。

【到達目標】

「良い環境とは何か」について自分なりの答えが見つけられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義、質疑応答、レポートへの応答。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	環境問題と哲学・倫理学	環境問題に対する哲学・倫理学のアプローチについて説明する
2	哲学的空間論	ユクスキュルの環境論、市川浩の身体論、ボルノウの空間論を紹介する
3	人間主義地理学	トゥアンとレルフの「場所」についての理論を紹介する
4	風土論:和辻哲郎	和辻哲郎の風土論を紹介する
5	風土論:ベルク	オギュスタン・ベルクの風土論を紹介する
6	風土論的環境倫理の構想	岸由二と桑子敏雄の議論を紹介する
7	都市論:ジェイコブズ	ジェイコブズの都市論について紹介する
8	清溪川復元と美の条例	ソウルの清溪川復元事業と真鶴町の美の条例について紹介する
9	アメニティマップについて	過去のアメニティマップを紹介しながら、作り方を説明する
10	環境と観光:白川郷と妻籠	観光が地域環境にもたらす影響について論じる
11	環境と観光:湯布院の地域づくり	湯布院のドキュメンタリーを見て議論する
12	アメニティマップの発表(1)	各自が作成したアメニティマップを発表し議論する
13	アメニティマップの発表(2)	各自が作成したアメニティマップを発表し議論する
14	アメニティマップの発表(3)全体の講評	アメニティマップについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘『都市の環境倫理 増補改訂版』勁草書房、2025年

【参考書】

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年（第11章～第14章）

吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』ちくまプリマー新書、2021年

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（40％）とマップ作成（60％）。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を設けることにしました。

【Outline (in English)】

This course deals with urban environmental ethics. At the end of the course, students are expected to understand human environment. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, amenity map:50%, term-end examination:50%.

HIS300HA（史学 / History 300）

日本環境史論Ⅰ

芳賀 和樹

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：環17：口、文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世日本の人びとは、資源の開発を通じて自然をつくり変え、さまざまなサービスを獲得しようとしてきました。過剰な自然の改変が“ひずみ”を生み、災害などが頻発するようになると、今度は開発を抑制し、自然資源の持続的利用により人と自然の共存を目指すようになりました。本授業では、縦軸に時間の流れを置き、横軸に「人と自然の関係」、自然をめぐる「人と人の関係」、人の生業を通じた「人と自然の関係」を置き、それらの関係がどのように変化したのかを講義します。本授業の目的は、「近世日本の人と自然の関係史」について基礎的な知識を習得し、その関係の変化について歴史的に考察する力を身につけることです。

【到達目標】

本授業では、「近世日本の人と自然の関係史」について、①歴史用語の意味や使い方、歴史資料の読み解き方を、具体的な事例に基づいて説明できるようにすること、②「近世日本」という時間・空間を意識しつつも、時間の流れによる変化、全国的な動向だけでなく地域性にも注目し、豊かな歴史像を構築できるようにすること、を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行います。各回の授業は、主として配付資料により、シラバス通りに実施します。ワークシートの提出等により、学習状況を確認しながら進めます。提出されたワークシートについては、いくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに—近世日本の人と自然の関係史	「人と自然の関係史」において、「近世日本」がどのような時間・空間であったのかを考える。
第2回	近世日本の社会のしくみ—自然は誰のものか？	近世日本の社会のしくみについて、基礎的な歴史知識を習得する。耕地や山野河海の所有と利益について理解する。
第3回	開発による自然の改変（1）—鉱石を掘る	第3回～第5回では、17世紀前半の資源開発の様子と、それによる自然のつくり変えについて学習する。第3回では、金銀銅を産出した鉱山開発と、これによる自然の改変について理解する。
第4回	開発による自然の改変（2）—水を引き耕地を拓く	鉱山開発を通じて得られた土木技術を用い、幕府や藩が河川の治水に取り組んだことを学習する。治水により洪水を回避できた場所で、村人による耕地開発が進んだことを理解する。

第5回	開発による自然の改変（3）—木材を伐り出す	城や城下町の建設などで建築用材の需要が高まり、各地で森林の伐採が進んだことを学習する。
第6回	人の生業を通じた自然と自然の結びつき	地下の鉱物資源の開発を支えたのは、地上の森林資源であったことを学習する。耕地資源を維持したのは、森林資源であったことを学習する。
第7回	自然の連鎖的改変による“ひずみ”	開発によって森林が荒廃し、災害が頻発したことを学習する。開発の進展により、水と山をめぐる争いが増加したことを理解する。人の生活圏の拡大により、「鳥獣害」が問題となった点について考える。
第8回	開発の促進から抑制へ（1）—治山治水の思想	第8回と第9回では、災害の頻発を背景にして、17世紀後半に、開発の促進から抑制への転換が起こったことを学習する。第8回では、経験に基づく治山治水の思想について理解する。
第9回	開発の促進から抑制へ（2）—開墾の抑制と山地保全	幕府が耕地の開発、草木の掘り採りを抑制し、植林を命じた意味を考える。17世紀後半以降、農業政策の方針が、耕地の拡大から生産性向上に転換したことを理解する。
第10回	水と山をめぐる人と人の争いと合意形成	第7回に関連して、水と山をめぐる人と人の争いの実際を学習する。争論の過程を通じて、人と人がどのように合意を形成したのかについて考える。
第11回	村の暮らしと動物—「鳥獣害」の防除と水田生態系	第7回に関連して、当時の「鳥獣害」の防除方法について学習する。水田という人工的な環境において、豊かな生態系がつくり出された意味を考える。
第12回	人と自然の共存（1）—森林資源の持続的利用	第12回と第13回では、自然資源の持続的利用による人と自然の共存について考える。第12回では、17世紀後半から19世紀にかけて、森林資源の持続的利用が目指されたことを学習する。
第13回	人と自然の共存（2）—水産資源の持続的利用	17世紀後半から19世紀にかけて、水産資源の持続的利用が目指されたことを学習する。
第14回	総括と試験	授業を総括し、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料やテーマに関連する参考書などを確認し、準備学習と復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業資料を配付します。

【参考書】

高橋美貴『「資源繁殖の時代」と日本の漁業』山川出版社、2007年
平野哲也「近世」（木村茂光編『日本農業史』吉川弘文館、2010年、143-253ページに所収）
徳川林政史研究所編『徳川の歴史再発見 森林の江戸学』東京堂出版、2012年
芳賀和樹「日本近世社会の発展から近代社会へ」（高橋美由紀編『現代社会を考えるための経済史』創成社、2023年、32-156ページに所収）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業での学習状況（50%）、期末試験（50%）により行います。授業での学習状況を評価するため、毎回、指定したワークシートを提出してください。期末試験は授業内容の理解度に応じて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がけます。今年度も、授業の冒頭にて、前回の授業に関する復習や、質問や考察などに対するフィードバックの時間を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ワークシートの提出には、学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

In early modern Japan, people sought to transform nature and obtain various services through the development of natural resources. However, excessive modification of nature created "distortions" that led to frequent disasters, and people began to curb development and aim for coexistence between people and nature through sustainable use of natural resources. In this course, the flow of time is placed on the vertical axis, and "the relationship between people and nature," "the relationship between people and people," and "the relationship between nature and nature through people's livelihood" are placed on the horizontal axis, and how these relationships have changed is lectured. The purpose of this class is to acquire a basic knowledge of "the history of the relationship between people and nature in early modern Japan" and to acquire the ability to historically examine the changes in this relationship.

【到達目標 (Learning Objectives)】

In this course, taking up "the history of the relationship between people and nature in early modern Japan," the objectives are 1) to be able to explain the meaning and usage of historical terms and how to read and understand historical materials based on specific examples, and 2) to be able to construct a rich historical picture by focusing on changes over time and regional as well as national trends while being aware of time and space as "early modern Japan."

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students are expected to prepare and review using handouts, reference books related to the theme, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Grading will be based on class work (50%) and a final exam (50%). In order to evaluate your learning in class, please submit the designated worksheet each time. The final exam will be graded according to the level of understanding of the class content.

HIS300HA (史学 / History 300)		
日本環境史論 II		
芳賀 和樹		
配当年次／単位：1～4年／2単位		
開講セメスター：秋学期授業/Fall 曜日・時限：月3/Mon.3		
備考（履修条件等）：環17：口、文		
その他属性：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
近世の日本列島では、さまざまな災害が発生しました。こうした自然の脅威に対し、人びとは、ただ手をこまねいていたわけではありません。経験から、森林が土砂流出や渇水・洪水、飛砂、津波等の被害を防止する機能をもつことを発見し、その機能の発揮を期待して各地で“暮らしを守る森林”を保護・育成したのです。この“暮らしを守る森林”は、近代における保安林制度成立の基礎となり、現在まで受け継がれてきました。本授業では、空間として日本列島の北から南までを広範に取りあげ、近世から近代への時間の流れのなかで、“暮らしを守る森林”がどのように保護・育成されてきたのかを講義します。本授業の目的は、災害をキーワードにして、近世・近代日本の「人と自然の関係史」について考察することです。		
【到達目標】		
本授業では、災害をキーワードに、「近世・近代日本の人と自然の関係史」について学習し、①歴史用語の意味や使い方、歴史資料の読み解き方を、具体的な事例に基づいて説明できるようにすること、②「近世・近代日本」という時間と空間を意識しつつも、時間の流れによる変化、全国的な動向だけでなく地域性にも注目し、豊かな歴史像を構築できるようにすること、を目標とします。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
授業は、原則として対面による講義形式で行います。各回の授業は、主として配付資料により、シラバス通りに実施します。ワークシートの提出等により、学習状況を確認しながら進めます。提出されたワークシートについては、いくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックします。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	はじめに一災害からみた人と自然の関係史	今、災害をキーワードにして、「人と自然の関係史」を学習する意義について考える。
第2回	近世日本の“暮らしを守る森林”	近世日本の人びとが、経験に基づき、“暮らしを守る森林”を保護・育成したことを学習する。
第3回	山を治める	草木の掘り採りが森林を荒廃させ、河川への土砂流出の原因となったことを理解する。土砂災害に対し、植林などが進められたことを学習する。
第4回	水源を育む	渇水・洪水を受けて、水源涵養林が保護・育成されたことを学習する。
第5回	強風に備える	強風を防ぐため、平野部の屋敷の周囲で防風林（屋敷林）が植栽されたことを学習する。
第6回	飛砂に備える	内陸部の森林荒廃による土砂流出が、海岸部での飛砂の被害を助長したことを理解する。主に日本海側で、飛砂の被害を防ぐため、海岸砂防林が植栽されたことを学習する。
第7回	潮風と高潮に備える	主に太平洋側で、潮風や高潮の被害を防ぐため、防潮林が植栽されたことを学習する。
第8回	地震と津波からの復興	地震とそれにとまなう津波の被害からの復興について学習する。被災経験に基づき、堤防の建設と海岸林の植栽が進められたことを理解する。
第9回	飢饉への対応	凶作による飢饉が起こったことを理解する。飢饉の際、森林から得られる食料が人びとの命を繋いだことを学習する。「御救山」と呼ばれる制度が、飢饉からの復興に果たした意味を考える。明暦年間の大火後における、都市江戸の復興過程と防火林の植栽について学習する。
第10回	火災からの復興	第11回～第13回では、近代日本における国土保安の思想と実践について学習する。第11回では、森林行政の展開と、国土保安の思想について考える。
第11回	近代日本の国土保安（1）一国土保安の思想	明治政府が、近世の“暮らしを守る森林”の歴史について調査・収集したことを意味を考える。
第12回	近代日本の国土保安（2）一旧規旧慣の再発見	森林に関する日本初の体系的な法令「森林法」が制定され、そのなかで近世の“暮らしを守る森林”を基礎とする「保安林制度」が定められたことを学習する。
第13回	近代日本の国土保安（3）一保安林制度の成立	授業を総括し、試験を実施する。
第14回	総括と試験	
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
配布資料やテーマに関連する参考書などを確認し、準備学習と復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
特に指定しません。授業資料を配付します。		
【参考書】		
北原糸子編『日本災害史』吉川弘文館、2006年 芳賀和樹「総説“暮らしを守る森林”―江戸時代からのメッセージ―」（徳川林政史研究所編『徳川の歴史再発見 森林の江戸学』II、東京堂出版、2015年、1-48ページに所収）		
【成績評価の方法と基準】		
成績評価は、授業での学習状況（50％）、期末試験（50％）により行います。授業での学習状況を評価するため、毎回、指定したワークシートを提出してください。期末試験は授業内容の理解度に応じて評価します。		
【学生の意見等からの気づき】		
難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がけます。今年度も、授業の冒頭にて、前回の授業に関する復習や、質問や考察などに対するフィードバックの時間を設けたいと思います。		
【学生が準備すべき機器他】		
ワークシートの提出には、学習支援システムを利用します。		
【Outline (in English)】		
【授業の概要（Course outline）】		

The Japanese archipelago in the early modern period has experienced a variety of disasters. People have not simply stood idly by and let nature's threats be ignored. Through experience, they discovered that forests have the ability to prevent damage from landslides, droughts, floods, flying sand, tsunamis, and other disasters, and they protected and nurtured "forests that protect people's lives" in various regions in the hope that they would fulfill this function. These "forests to protect people's lives" became the basis for the establishment of the safety forest system in the modern period, which has been handed down to the present. This course will cover a wide area from the north to the south of the Japanese archipelago, and will explain how "forests that protect people's lives" have been protected and nurtured in the passage of time from the early modern period to the modern period. The purpose of this course is to examine the "history of the relationship between people and nature" in early modern and modern period Japan, using disasters as a key word.

【到達目標 (Learning Objectives)】

In this course, students will learn about the "history of the relationship between people and nature" in early modern and modern Japan, with disaster as the key word. The objectives of this course are (1) to be able to explain the meaning and usage of historical terms and how to read and understand historical materials based on specific examples, and (2) to be able to construct a rich historical picture by focusing on changes over time and regional as well as national trends while being aware of time and space as "early modern and modern Japan."

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students are expected to prepare and review using handouts, reference books related to the theme, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Grading will be based on class work (50%) and a final exam (50%). In order to evaluate your learning in class, please submit the designated worksheet each time. The final exam will be graded according to the level of understanding of the class content.

HIS300HA（史学 / History 300）

ヨーロッパ環境史論Ⅰ

辻 英史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コア：グ、文

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、中世から現代までのヨーロッパ各国の都市における生活世界と周囲の自然環境の変化を、空間利用、食糧供給、保養、衛生など、さまざまな角度から考察する。これにより、ヨーロッパの地理的歴史的な条件のなかでの人々の生活の展開や意識の成り立ちをさぐるとともに、人間社会と環境の共生がいかに達成されてきたのかを理解する。

【到達目標】

ヨーロッパの都市の歴史的発展を、そこに暮らす人々の生活世界（Lebenswelt）がどのように時代によって変化してきたか、また人間と自然環境との関係はどのように変化してきたかを考察することで、ヨーロッパだけでなく日本を含む世界の他地域の都市社会の歴史や文化的独自性についての理解を広げるための視座を提供する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では、中世から現代までのヨーロッパの都市を対象として、都市の景観および都市内部での住民の生活世界、それを取り巻く自然環境との関係について、各地域で特徴のある事象をいくつかとりあげて解説していく。

毎回同時代の重要な文献（日本語訳を使用する）を資料として参照するほか、理解の助けになるような図像・写真・映像などを紹介する。また、それぞれの問題に関係の深い文学・絵画・映画・音楽・建築といった芸術作品をとりあげて紹介していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論：ヨーロッパ都市の環境史について	環境という観点からヨーロッパ都市の歴史を考える際に重要な概念・方法論を紹介する。
第2回	古代都市から中世都市へ	古代都市から中世都市への変化と、中世都市独特の景観について。
第3回	近世絶対主義のもとでの都市の造形	近世になると強大な権力を手にした君主は、都市空間の造形に取り組んだ。それが都市の生活にもたらした影響を分析する。
第4回	近代都市の出現と都市計画	近代都市の特徴と、各国でおこなわれた国家権力の主導する大規模な都市改造／拡大の事業について
第5回	都市の拡大と交通	道路、鉄道、河川交通など、都市の内部および都市と近郊を結ぶ交通の発展と都市の人口規模の増大

第6回	都市と食料供給	人口が密集する都市に食糧を供給するという問題はいかにして対処されたのか。ヨーロッパの食の歴史の中に位置づける。
第7回	都市における水と衛生問題	上水道・下水道など、人びとの生活に欠かせない水との関わりと、衛生と清潔さの歴史。
第8回	都市と自然・災害	都市の外部に広がる自然のとらえ方は近世から近代にかけてどのように変化したか。災害への見方を例に考える。
第9回	都市と緑	都市内の公園・緑地の役割の変化を追う。住民の保養・休養から、教養と学習、政治活動の場まで。
第10回	20世紀の都市問題	20世紀前半から後半にかけて、都市社会の機能変化と、景観および生活空間の変化を関連づける。
第11回	田園都市と郊外の開発	20世紀初頭から各国で都市郊外でのニュータウン建設の試みが始まった。その課題と問題点をあきらかにする。
第12回	20世紀後半の都市改造	第二次世界大戦後の都市では、戦災からの復興や自動車化と消費社会化などの新しい傾向への対応として、どのような対策がおこなわれたのか。
第13回	現代における都市の再生	1980年代ごろから、都市内部および郊外ニュータウンの衰退が問題となってきた。これに対する再生の試みを紹介する。
第14回	まとめ：日本とヨーロッパの都市社会と環境	ヨーロッパの都市社会の発展の過程と日本のそれとを比較検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義のレジュメや資料を使用して復習をすること。

授業期間中に2回、授業内容に関するミニレポートを作成し、提出すること。

そのほか、授業中に紹介する文献を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメを配布する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

2回のミニレポート（40％）と学期末の筆記試験（60％）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度休講につき特になし。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せるので、見やすい位置を選んで着席すること。

【その他の重要事項】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも聴講は可能である。

・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅰ）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

History of daily life and environment in European cities from the middle ages to the 20th century.

By examining the historical development of European cities, how the lifeworlds (Lebenswelten) of their inhabitants have changed over time, and how the relationship between humans and the natural environment has changed, we will provide a perspective that will broaden our understanding of the history and cultural uniqueness of urban societies not only in Europe but also in other parts of the world, including Japan.

Students should review using the lecture resume and materials. In addition, students are required to prepare and submit mini-reports on class content twice during the semester. Reading the literature introduced in class will enhance your understanding of the course content. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Comprehensive evaluation will be based on two mini-reports (40%) and a written exam at the end of the semester (60%).

HIS300HA (史学 / History 300)

ヨーロッパ環境史論Ⅱ

伊東 直美

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

備考（履修条件等）：環17:G,文

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進むなか、世界各地で移民・難民排斥運動、外国人嫌いの風潮が高まり、極右政党が台頭した。もはや我々の社会を考える際に、移民の存在を無視することは出来ない。しかしこの現象は今に始まったことではない。歴史的にどこで、どのような時、人とモノは大きく移動した、もしくは移動せざるを得なかったのか。その結果として何が生じたのか。ヨーロッパにおける人とモノの流れを分析することで、現代における我々の移民との共生の可能性を探ることを授業の目標とする。

【到達目標】

本講義ではヨーロッパ近現代を中心とした歴史を環境との関わりから考えていく。最近の歴史学の動向を学び、理解を深めることにより、現代社会の問題について比較検討する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

映像資料を使った講義を行う。毎回リアクションペーパーを提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
オリエンテーション	移民と私たち	日本の場合
歴史学の成立	歴史学の動向	なぜ歴史を学ぶのか
産業革命	産業革命1	大いなる分岐
産業革命	産業革命2	なぜイギリスで起きたのか
啓蒙主義	啓蒙のヨーロッパ1	知の転換
啓蒙主義	啓蒙のヨーロッパ2	探検と「文明化」使命
フランス革命	フランス革命とそのインパクト	フランス革命の影響
奴隷制	奴隷制とその廃止	現代奴隷制を考える
ナポレオン	ナポレオンの台頭と没落	フランス革命後のヨーロッパ
ジャガイモ飢饉	ジャガイモ飢饉と1848年革命	1848年革命の影響
長い19世紀	ホブズボームの解釈1	第一次大戦以前
短い20世紀	ホブズボームの解釈	第一次大戦
ナチスの台頭	ヒトラーの権力掌握	ナチズム
第二次大戦	第二次大戦の始まり	戦争について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は西洋近現代史に関する授業となっている。『世界史リブレット』（山川出版社）などの該当巻を読むことでよりよい理解が得られる。

準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

レジュメをhoppiiより配布する。

【参考書】

講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（40%）、学期末テスト（60%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

Anti-immigrant and anti-refugee movements, xenophobia, and far-right parties have risen globally. We can no longer ignore the presence of immigrants. However, this phenomenon is not new. Historically, when did large-scale movements of people and goods occur? What resulted from them? By analyzing the flow of people and goods in Europe, this lecture aims to explore the possibility of coexistence with immigrants in our contemporary world.

This course examines modern and contemporary European history through its relationship with the environment. Students will develop the ability to study history and critically compare and analyze issues in contemporary society.

Standard preparation and review time is two hours each.

Grading will be based on reaction papers (40%) and the final exam (60%).

CUA200HA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

環境人類学Ⅰ

高橋 五月

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

備考（履修条件等）：環17：G,文

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学Ⅰは、人間と環境の関係についての文化的側面を探究する学問である環境人類学の基礎を学ぶ講義科目です。文化人類学者たちによる民族誌や理論を参照しながら、様々な文化的背景のもとに多様に存在する人間と環境の関係について学びます。本授業の目的は、文化人類学的な視点を用いて身近な環境の文化的側面について理解を深めることです。

【到達目標】

本授業では、文化人類学的な視点について基礎的な知識を身につけること、また身近な環境について文化人類学のアプローチを利用しながら再考することで、人間と環境の関係の文化的側面についての知識とクリティカルシンキングを養うことを目的にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は映像資料を随時活用しながらオンデマンド形式で行います。また、クリティカルシンキングを育てることを目的とし、ディスカッションコメントを課題とします。この課題では、講義内で出題する講義内容に関連する「お題」に対して、学生が各自ディスカッションコメントとして回答を授業支援システムにて提出します。この課題を通して学生は「お題」に対する自らの考えを言語化するスキルを向上するだけでなく、他学生の回答を通して多様な視点・意見に触れることで自らの思考をさらに深める機会を得ることができます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的や進め方、課題、成績評価の方法について説明します。
第2回	環境人類学とは？	環境人類学とはどんな分野なのかについて紹介します。
第3回	文化生態学とは？	環境人類学の「父」であるジュリアン・スチュワードの研究を紹介します。
第4回	民族生態学とは？	人間と環境の関係を民族学的に考察する研究を紹介します。
第5回	生態人類学とは？	ロイ・ラバポートによる宗教儀式と生態との関係についての研究を紹介します。
第6回	狩猟採集文化	狩猟や採集という文化を通して人間と環境の関係について講義します。
第7回	複合社会	文化的変容が人間と環境の关系到与える影響について講義します。
第8回	中間試験	試験・まとめと解説
第9回	地下環境	鉱物採取（石炭、ウラン、石油、ダイヤモンド）と環境問題との接点について講義します。

第10回	地球温暖化	気候変動が人間と環境に与える影響について講義します。
第11回	人口と環境	人口の増減が人間と環境の关系到与える影響について講義します。
第12回	生物の多様性	生物多様性が人間と環境の关系到与える影響について講義します。
第13回	消費者文化	大量消費社会が生み出す環境問題について講義します。
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料、課題、課題の振り返りを通して必ず予習・復習をすること。
（準備学習）詳しい授業計画を授業第1回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献がある場合は授業前までに読んでおきましょう。
（復習）中間・期末試験の問題は講義で使用する文献および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に紹介します

【参考書】

パトリシア・K. タウンゼンド著、岸上 伸啓・佐藤 吉文訳『環境人類学を学ぶ人のために』世界思想社

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションコメント（30%）、中間・期末筆記試験（70%）。

【学生の意見等からの気づき】

文化人類学は初めて聞く学問で難しそうだったという学生も少なくないですが、履修したら異文化だけでなく自分の身の回りの「当たり前」について考えることができて面白かったというコメントも多いです。
講義で使用するスライドを「ハンドアウト」として授業支援システムにて公開しています。ただ、これは講義の要点が書かれているだけのものですので、学生各自で授業メモを取り、自分なりの授業ノートを完成させてください。
映像資料も利用しながらの授業が好評だったので、今後も同様のスタイルで授業を進めたいと思います。
ディスカッションコメントの回答例紹介コーナーは他学生や教員の意見を知ることができるので楽しく、より深く考える機会になるという意見をたくさんいただいたので、今後も続けていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

環境人類学Ⅰでは、資料配布、お知らせ配信、ディスカッションコメントの提出は全て授業支援システムを通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

"Environmental Anthropology I" is an introductory course to learn about environmental anthropology and related discussions on human-environment relations. The main goal of this course is to help students obtain basic knowledge of environmental anthropology and develop critical thinking skills by asking questions that require them to apply course materials and lectures for their thoughts on human-environment relations and logically explain them to others.

Students will be expected to take two exams and post discussion commentaries on Hoppii. A study time for a class, on average, is four hours. A final grade will be based on mid-term and final exams (70%) and discussion commentaries (30%).

CUA300HA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300）

環境人類学Ⅱ

高橋 五月

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考（履修条件等）：環17:グ、文

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学Ⅱは、「サステナビリティ」をキーワードに、持続可能性とは何か、持続可能社会の実現のために過去にどのような方策が取られ、現在はどのような課題が生じているのか、事例と文化人類学的アプローチをもとに講義し、議論します。本授業の目的は、講義で紹介する文化人類学的アプローチを参考にしながら、学生たちが自ら「サステナビリティ」とは何かという問いに向き合い、理解を深めることです。

【到達目標】

本講義の目的は、持続可能な社会の「作り方」を教えることではありません。本講義は、様々な事例や理論をもとに、クライスメイトと議論しながら、学生が自分なりに「サステナビリティ」のあり方について考え、探求するためのツールを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

関連文献と映像資料を随時活用しながら講義を行います。また、講義では毎回講義内容に関連した「お題」を通して学生にクリティカルシンキングの機会を与えます。具体的には、学生は「お題」に対する自らの考えを述べるだけでなく、次回講義で紹介される回答例を通して他学生の多様な視点・意見に触れることで自らの思考をさらに深める機会を得ることができます。課題提出後の授業、または授業支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の問題意識と成績評価の方法について説明します。
第2回	サステナビリティとは？（1）	サステナビリティの概念の誕生とその歴史的背景について講義します。
第3回	サステナビリティとは？（2）	持続可能な社会とは何か？ これまで実行された方策とその課題について講義します。
第4回	コモンズ（1）	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」について講義・議論します。
第5回	コモンズ（2）	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」と関連した文化人類学的議論について講義・議論します。
第6回	持続可能な農業	農業技術発展と環境変化の関係、遺伝子組み換え作物の生態的影響について講義・議論します。

第7回	持続可能な水産業	水産資源の枯渇や海洋汚染などの問題と持続可能な水産業について講義・議論します。
第8回	中間試験	中間試験と前半の振り返り。
第9回	生物多様性とは？	気候変動に関する文化・政治的問題、自然エネルギーにまつわる文化人類学的議論について講義・議論します。
第10回	里山・里海	里山・里海が目指すサステナビリティの意味やあり方について講義・議論します。
第11回	災害	災害とサステナビリティの関係について講義・議論します。
第12回	エネルギー	エネルギー問題をもとにサステナビリティの意味やあり方について講義・議論します。
第13回	アンソロポシオン	アンソロポシオンとは何か、地球環境にもたらした人類の影響について探求する最新の人類学的研究について講義・議論します。
第14回	期末試験	期末試験と後半の振り返りをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備学習）詳しい授業計画を授業第1回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献を授業前までに読んでおきましょう。

（復習）中間・期末試験の問題は講義で使用する文献および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配付します

【参考書】

授業中に提示します

【成績評価の方法と基準】

講義中にディスカッションコメントの提出（30％）、中間・期末筆記試験（70％）。

【学生の意見等からの気づき】

大教室の授業なのですが、ディスカッションコメントの課題などを活用して学生同士の意見交換ができるように工夫しています。自分の考えをまとめたり、他学生の意見を知ることを楽しんでくれた学生が多かったのは嬉しいです。今後もできるだけ意見交換ができる時間を授業中に設ける予定です。教室内でも学生同士がディスカッションできる機会が欲しいとの声があったので、適宜そうした時間も設けます。

【学生が準備すべき機器他】

環境人類学Ⅱでは、資料配布、お知らせ配信、リアクションペーパー提出は全て授業支援システムを通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This lecture course is designed to introduce a variety of cases that people are intended to promote sustainability, and provide opportunities for students to think critically about socio-cultural dimensions of "sustainability." The main goal of this course is to help students to obtain basic knowledge of environmental anthropology and also to develop critical thinking skills by asking questions which require them to apply course materials and lectures for their own thoughts on sustainability and logically explain them to others.

Students will be expected to take two exams in addition to submit weekly commentaries by the deadline. A study time for a class on average is four hours. A final grade will be based on mid-term and final exams (70%) and weekly commentaries (30%).

PHL200HA (哲学 / Philosophy 200)

技術哲学Ⅰ

金光 秀和

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間と環境の共存、人間と人間の共存に技術（technology）は大きな役割を演じます。しかし、技術はそうした共存を促進するとともに、時にそれを脅かす存在にもなります。持続可能な社会にとって技術が人間社会に及ぼす影響の批判的省察が欠かせないのです。本授業では、技術哲学（philosophy of technology）の知見にもとづきながら、技術が人間社会に及ぼす力を理論的に考察し、それがもたらす問題に対処するための基礎づくりを行います。

なお、「科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ」と「技術哲学Ⅰ・Ⅱ」は問題意識を共有していますが、違いを示せば、以下のとおりです。

【科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ】

①実践的側面を考察、②過去の事例を中心に考察、③ディスカッションがメイン

【技術哲学Ⅰ・Ⅱ】

①理論的側面を考察、②現在進行中の事例を中心に考察、③講義＋ディスカッション

【到達目標】

本授業で履修者が目指すべき到達目標は以下のとおりです。

- ・現代の技術の特徴について、授業で扱った概念を用いて説明できる。
- ・技術が人間社会に及ぼす影響について、授業で扱った概念を用いて説明できる。
- ・技術がもたらしうる問題について、論理的・批判的に思考できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方向的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッションを行うなど、対話を意識した運営を行います。また、ディスカッション・ペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。ディスカッション・ペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 授業内レポート①	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。また、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。
第2回	グループディスカッション①	事例を通して、身の回りの技術について考察します。
第3回	古典的な技術哲学	技術哲学の定義を説明し、古典的な技術哲学の議論を概観します。【教科書序章＋補足資料】
第4回	グループディスカッション②	古典的な技術哲学に関連する事例を検討します。
第5回	現代の技術哲学	現代の技術哲学の議論を概観します。【教科書序章＋補足資料】
第6回	グループディスカッション③	現代の技術哲学に関連する事例を検討します。

第7回	技術は科学の応用か？	技術と科学の関係について考察します。【教科書第1章＋補足資料】
第8回	グループディスカッション④	工学に関連する事例を検討します。
第9回	技術は価値中立的か？	技術の価値中立性について考察します。【教科書第1章＋補足資料】
第10回	グループディスカッション⑤	技術がもたらす変容に関する事例を検討します。
第11回	技術と政治	技術的人工物と人間との関わりを考察します。【教科書第2章】
第12回	グループディスカッション⑥	技術評価に関する事例を検討します。【教科書第4章＋補足資料】
第13回	これからの技術と私たち	科学技術にどのようにかわるのかについて考察します。【教科書第3章＋補足資料】
第14回	まとめと解説 授業内レポート② 授業内試験	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内レポート②（Reflection Essay【受講後】）と授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF小説などをもとに、科学技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げててください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金光秀和・吉永明弘編『技術哲学』昭和堂、2024年

※教科書の購入の必要性、使い方などについては、初回の講義で説明します。

【参考書】

村田純一『技術の哲学』岩波書店、2009年

伊藤邦武ほか執筆『科学/技術の哲学』（岩波講座哲学）岩波書店、2008年

加藤尚武『技術論』（加藤尚武著作集）未来社、2019年

金光秀和『技術の倫理への問い』勁草書房、2023年

【成績評価の方法と基準】

本授業は、知識を得ることだけでなく、積極的にディスカッションに参加するなどして、自ら問題を考察することを期待します。このような観点から、議論への参加度合やディスカッション・ペーパーの提出によって平常点を評価します（30％）。また、授業内レポート（20％）と授業内試験（50％）を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します。なお、授業内試験は知識の習得だけを目的としたものではありません。必ず初回の説明を確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

グループで行うディスカッションなどが好評でしたので、引き続き対話や双方向性を意識した授業運営を行います。

【その他の重要事項】

本授業の受講を検討している方は必ず第1回の講義に出席してください。本授業の問題意識、内容、評価方法を詳しく説明すると同時に、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。

【Outline (in English)】

Course Outline

Technology plays an important role in the coexistence of humans and the environment, as well as in human-to-human relationships. However, while technology promotes such coexistence, it can also threaten it at times. Critical reflection on the impact of technology on human society is essential for building a sustainable society.

In this course, we will theoretically examine the power that technology exerts on human society, based on the findings of the philosophy of technology, and build a foundation for addressing the challenges it presents.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the following:

- Explain the characteristics of modern technology using the concepts covered in the course.
- Analyze the impact of technology on human society using the concepts covered in the course.
- Think logically and critically about the challenges that technology can bring.

Learning Activities Outside of the Classroom

Throughout the course period, students are expected to actively engage with discussions on technological issues by referring to sources such as newspapers, movies, and science fiction novels. They should consider these issues as relevant to their own lives.

Additionally, students should take time before and after each class session to reflect on the cases discussed in class and formulate their own ideas.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content.

Grading Criteria / Policy

Grading will be based on the following components:

- In-class report (20%)
- In-class exam (50%)
- In-class contribution (30%)

PHL300HA (哲学 / Philosophy 300)

技術哲学Ⅱ

金光 秀和

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

技術（technology）は人間と環境の共存、人間と人間の共存にとって不可欠の存在ですが、時にそれを脅かす存在にもなります。持続可能な社会にとって技術が人間社会に及ぼす影響の批判的省察が欠かせないのです。本授業では、特に先端技術（emerging technologies）を取り上げて、技術哲学の知見にもとづきながら、それがもたらしている問題を規範的に考察します。

なお、「科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ」と「技術哲学Ⅰ・Ⅱ」は問題意識を共有していますが、違いを示せば、以下のとおりです。

【科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ】

①実践的側面を考察、②過去の事例を中心に考察、③ディスカッションがメイン

【技術哲学Ⅰ・Ⅱ】

①理論的側面を考察、②現在進行中の事例を中心に考察、③講義＋ディスカッション

【到達目標】

本授業で履修者が目指すべき到達目標は以下のとおりです。

- ・先端技術がもたらしている問題について、授業で扱った概念を用いて説明できる。
- ・先端技術がもたらしている問題について、論理的・批判的に思考できる。
- ・先端技術がもたらしている問題について、自らの考えを他者に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方向的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッションを行うなど、対話を意識した運営を行います。また、ディスカッション・ペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 授業内レポート①	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。また、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。
第2回	グループディスカッション①	事例を通して、先端技術のあり方について考察します。
第3回	AI	AIが人間社会にもたらしている問題を考察します。【教科書第5章】
第4回	グループディスカッション②	AIに関連する事例を検討します。
第5回	ロボット	ロボットが人間社会にもたらしている問題を考察します。【教科書第6章】
第6回	グループディスカッション③	ロボットに関連する事例を検討します。

第7回	テレプレゼンス	テレプレゼンスが人間社会にもたらしている問題を考察します。【教科書第7章】
第8回	グループディスカッション④	テレプレゼンスに関連する事例を検討します。
第9回	スマート農業	スマート農業が人間社会にもたらしている問題を考察します。【教科書第8章】
第10回	グループディスカッション⑤	スマート農業に関連する事例を検討します。
第11回	宇宙開発	宇宙開発が人間社会にもたらしている問題を考察します。【教科書第9章】
第12回	グループディスカッション⑥	宇宙開発に関連する事例を検討します。
第13回	これからの技術と私たち	事例を通して、これからの科学技術にどのようにかわるのかについて考察します。
第14回	まとめと解説 授業内レポート② 授業内試験	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内レポート②（Reflection Essay【受講後】）と授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF小説などをもとに、科学技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金光秀和・吉永明弘編『技術哲学』昭和堂、2024年

※教科書の購入の必要性、使い方などについては、初回の講義で説明します。

【参考書】

ラングドン・ウィナー著、吉岡斉・若松征男訳『鯨と原子炉：技術の限界を求めて』紀伊國屋書店、2000年

ピーター＝ポール・フェルバーク著、鈴木俊洋訳『技術の道徳化：事物の道徳性を理解し設計する』法政大学出版局、2015年

M. クーケルバーク著、直江清隆訳者代表『AIの倫理学』丸善出版、2020年

M. クーケルバーク著、直江清隆訳者代表『AIの政治哲学』丸善出版、2023年

金光秀和『技術の倫理への問い』勁草書房、2023年

【成績評価の方法と基準】

本授業は、知識を得るだけでなく、積極的にディスカッションに参加するなどして、自ら問題を考察することを期待します。このような観点から、対面回における議論への参加度合やディスカッション・ペーパーの提出によって平常点を評価します（30％）。また、授業内レポート（20％）と授業内試験（50％）を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します。なお、授業内試験は知識の習得だけを目的としたものではありません。必ず初回の説明を確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

グループで行うディスカッションなどが好評でしたので、引き続き対話や双方向性を意識した授業運営を行います。

【その他の重要事項】

本授業の受講を検討している方は必ず第1回の講義に出席してください。本授業の問題意識、内容、評価方法を詳しく説明すると同時に、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。

【Outline (in English)】

Course Outline

Technology is essential to the coexistence of humans and the environment, as well as human-to-human relationships, but it can also be a threat at times. Critical reflection on the impact of technology on human society is essential for building a sustainable society.

In this course, we will examine emerging technologies and normatively analyze the problems they can bring about, based on the findings of the philosophy of technology.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the following:

- Explain the problems that emerging technologies can bring about using the concepts covered in the course.
- Think logically and critically about the challenges posed by emerging technologies.
- Clearly articulate their own ideas about the issues related to emerging technologies.

Learning Activities Outside of the Classroom

Throughout the course period, students are expected to actively engage with discussions on technological issues by referring to sources such as newspapers, movies, and science fiction novels. They should consider these issues as relevant to their own lives.

Additionally, students should take time before and after each class session to reflect on the cases discussed in class and formulate their own ideas.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content.

Grading Criteria / Policy

Grading will be based on the following components:

- In-class report (20%)
- In-class exam (50%)
- In-class contribution (30%)

CUA300HA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300）

環境人類学III

高橋 五月

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考（履修条件等）：環17:グ、文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学IIIは、文化人類学を中心に学ぶ演習授業です。受講に際しては、ILAC文化人類学科目、環境人類学I,II,高橋Bゼミのいずれかを受講済みで、文化人類学の基礎知識があることが望ましいです。定員制（20名）とし、もし定員数を超える希望があった場合は、第一回授業内で志望理由書を書いて提出していただき、選考します。選考結果は初回授業の翌々日までに授業支援システムにて掲示します。授業では、文献講読、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れたアクティブラーニングを実践します。質問等がある方は、第1回ガイダンスに出席する、または教員にメールで連絡を下さい。

本年度のテーマは「共生」です。サステナビリティを語る上で重要な概念である「共生」について、日本国内外の文化人類学や関連分野の文献をもとに学び、グループワークやディスカッションを通して議論を深めます。共生とは何か。異文化との共生、動物との共生、微生物との共生、機械やAIとの共生、災害やその他リスクとの共生など、私たちの身の回りにはいろいろな共生に関する課題があります。この授業では、共生について多角的に探求することで、サステナビリティとは何かについてより深く考察することを目標とします。従って、本授業の目的は、共生を「正しく定義する」ことではなく、共生に関する疑問を見出し、その疑問への答えを探ることです。

【到達目標】

- 1) 共生に関する文化人類学や関連分野の議論や視点について基礎的な知識を取得する
- 2) 共生とは何かという問いに対して、批判的に考察し、自らの考えを言語化する力を取得する
- 3) 国内外の事例研究についての基本的な知識を取得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、文献講読、ファシリテーション、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションを中心にを行います。プレゼンテーションは、テーマリストから1つを学生各自が選び、文献などを調査し、自分なりの考えを発表します。「正しい答え」はないので、学生各自が調査をもとに得た知識をクラスメイトと共有し、議論することが目的です。グループワークのテーマは、特別展計画です。「共生」をテーマに博物館の特別展を企画立案し、発表します。特別展づくりを通して、共生について考え、伝えることの意味や方法についてアクティブラーニングを通して学ぶことを目的とします。この授業ではディスカッションの機会を多く設けます。自分の考えを自分の言葉で表現出来るスキル、また人の意見を自分の考えと対比させながら考察を深めるスキルを磨くことも主要な目的としています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の目的や進め方について、また定員制と選考についての説明をする。

第2回	共生とは何か（1）	文化人類学者が共生を研究する意義について講義、討論する。
第3回	共生とは何か（2）	文化人類学者が共生を研究する意義について講義、討論する。
第4回	異文化と共生（1）	異文化との共生について文献講読とディスカッションを通して理解を深める。
第5回	異文化と共生（2）	異文化との共生について文献講読とディスカッションを通して理解を深める。
第6回	非人間と共生（1）	非人間との共生について文献講読とディスカッションを通して理解を深める。
第7回	微生物と共生（2）	非人間との共生について文献講読とディスカッションを通して理解を深める。
第8回	危機と共生（1）	災害やリスクとの共生について文献講読とディスカッションを通して理解を深める。
第9回	危機と共生（2）	災害やリスクとの共生について文献講読とディスカッションを通して理解を深める。
第10回	モノと共生（1）	モノ（インフラ、機械、AIなど）との共生について文献講読とディスカッションを通して理解を深める。
第11回	モノと共生（2）	モノ（インフラ、機械、AIなど）との共生について文献講読とディスカッションを通して理解を深める。
第12回	グループワーク（1）	グループごとに「共生」に関する特別展の企画案をまとめ、発表する
第13回	グループワーク（2）	グループごとに「共生」に関する特別展の企画案をまとめ、発表する
第14回	グループワーク（3）、まとめ	グループごとに「共生」に関する特別展の企画案をまとめ、発表する。まとめ、振り返りをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備学習）詳しい授業計画を授業第1回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献講読、コメント投稿、ファシリテーションやその他の課題の準備をしましょう。

（復習）講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

文献は授業支援システムにて配布します。

【参考書】

文献は授業支援システムにて配布します。

【成績評価の方法と基準】

文献感想文（20%）、プレゼンテーション（20%）、グループワーク（20%）、平常点（20%）、レポート（20%）

【学生の意見等からの気づき】

2025年度は国立科学博物館の特別展でフィールドワークをしました。できる範囲内でフィールドワークの機会も取り入れながら座学だけでは得られない学びを共有したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションとグループワークではノートパソコンを持参してください。手持ちのノートパソコンが無い学生は各自で校内レンタルタブレットなどを利用して持参してください。

【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

【Outline (in English)】

Environmental Anthropology III is a seminar course on cultural anthropology. The main focus of this year is symbiosis. In addition to key questions and debates about symbiosis, we will explore how humans and nonhumans live and how they live together. Students are expected to actively participate in class discussions and group projects. A final grade will be based on reading commentaries (20%), presentation (20%), group project (20%), class participation (20%), and paper (20%).

TRS200HA（観光学 / Tourism Studies 200）

環境表象論 I

梶 裕史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：環17：口、文

その他属性：〈優〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、「文化」の視点からの環境共生型の地域形成・人間形成のとりくみの一例を紹介するものです。「表象」は、心の中に結ばれる像のこと。環境表象とは、人間が自分達をとりまく環境を心にとらえ、捉えるか、ということであると思うとよいでしょう。授業では、その好箇のテーマとして「文化的景観」という考え方をとりあげ、国内を中心とした具体的な事例を紹介し、その豊かな可能性について考察します。

「文化的景観」は、地域の特色ある地理的・歴史的環境と密接に関わる生業・生活文化の「表象」です。ユネスコが世界遺産の幅を広げるために1992年に登録基準として追加して以降、新しい文化遺産の考え方として普及が始まった概念で、わが国も2005年に新文化財として文化財保護法に採り入れています。「自然と人間の共同作品」とユネスコが定義するこの概念は、地域固有の風土・歴史に適応して形成された伝統的な生活・生業（農林水産業や鉱工業）を表わす景観の持続可能性を尊びます。有形を支える無形要素や「五感」で感受される要素も重視し、過去の一点の姿に捉われず「有機的に進化する」見通しを前提に、地域の特色ある生活文化資産を今後にどのように活かし、継承するかという将来像まで視野に入れた、環境共生志向の持続可能な地域形成・人間形成に寄与する考え方であるといえます。授業では主として国内の事例を紹介し、関連する取り組みとして日本型エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等もとりあげます。

【到達目標】

・「文化的景観」が、従来の文化財の考え方とは一線を画する、「環境」の世紀にふさわしい新しい概念であることが理解できる。
・「景観」は見た目だけではないことや、一見「環境」と関わりが薄そうな事柄も大いにエコにつながる可以多いということに気付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業を基本とする、ふつうの講義形式です。テーマの性格上、PPTを使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみるのがメインではないと思って下さい。一定の気軽な質疑応答タイムを設け、質問や感想コメントを歓迎します。また毎回、授業後一週間以内に、学習支援システムに掲載する簡単な「小テスト」を受けて提出してもらいます。（小テストは時間制限なし、参照可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	「景観」とは何か 導入的説明
第2回	ユネスコの「世界遺産」事業概説（「文化的景観」導入の経緯）	併せて国内の世界遺産を紹介
第3回	ユネスコの「世界遺産」概説 その2	前回の補充（授業テーマに関連する海外の世界遺産紹介など）

第4回	文化財保護法の既存の文化財との比較（1）	日本の文化財の種類、内容
第5回	文化財保護法の既存の文化財との比較（2）	「環境」、持続可能性重視の潮流のなかで
第6回	文化的景観の多面的効用（1）	国土の自然環境保全、食料自給率の改善、生態系保全等
第7回	文化的景観の多面的効用（2）	エコツーリズム、グリーンツーリズム、エコミュージアムの素材／「原風景」
第8回	近江八幡の文化的景観とまちづくり（1）	重要文化的景観第1号のまちの市民活動の歴史、特色
第9回	近江八幡の文化的景観とまちづくり（2）	六次産業創出ほか、新たなとりくみと「有機的に進化する景観」
第10回	精神文化と一体の景観（1）	熊野三山（世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」）
第11回	精神文化と一体の景観（2）	沖縄の御嶽、富士山
第12回	精神文化と一体の景観（3）	童話・映画・アニメの名作の舞台：「フィルムツーリズム」との関連
第13回	精神文化と一体の景観（4）	古典文芸が創った名所の例として、松島・鞆の浦
第14回	総集編	初回～13回の授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

不要。学習支援システムに掲載する毎回のスライド教材をもって替えます。

【参考書】

梶裕史『『文化的景観』の特質と可能性』（小島聡・西城戸誠・辻英史編『フィールドから考える地域環境』（第2版）第I部第6章、ミネルヴァ書房、2021）ほか、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末筆記試験55%、毎回の小テスト、中間レポート45%。毎回の小テストと中間レポートの総得点が6割に満たない場合は筆記試験を受ける資格がありません。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンドにも対応した、文章の説明つきのスライド教材を使用するため、体調不良で対面授業に出られない時でも自宅で自習することへの評価や、画像や動画が豊富で親しみやすく、興味を惹かれる（実際に行ってみたくなる）といった感想が少なくありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・日本の伝統文化をサスティナビリティーの視点から見直すことや、エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等に関心を持っている人には良い参考になると思います。

【関連の深いコース】

人間・文化コース、ローカル・サスティナビリティコースと深く関連します。履修の手引きの「コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

This lecture will introduce an example of the environmental symbiosis type of regional initiatives and human character building, from "cultural" viewpoint. "Representation" is an image that is tied in the mind. It would be good to think that environmental representation is how humans grasp the environment surrounding them in their minds. In the lesson, I will take up the idea of "cultural landscape" as its own theme, introduce concrete examples mainly in Japan, and consider the rich possibilities.

Goal

- ・ This lecture aims to help students to understand that "cultural landscape" is a new concept suitable for the century of "environment", which is different from the conventional way of thinking of cultural properties.

- ・ This lecture also aims to help students to realize that "landscape" is not just about appearance, and that things that seem to have little to do with "environment" often lead to ecological issues.

Work to be done outside of class

Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

We also encourage you to visit nearby fields in the stimulus of your lessons. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria

Final exam 55%, each quiz and interim report 45% If your total score for each quiz and midterm report is less than 60%, you will not be eligible to take the written exam.

TRS300HA（観光学 / Tourism Studies 300）

環境表象論Ⅱ

梶 裕史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：環37:口,文

その他属性：〈優〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「生きて変化する文化財」／「五感」が形づくる表象・風景：「環境表象論Ⅰ」の「文化的景観」論の補充を目的として、まずその最大の特色ともいえる「有機的に進化する景観」の意味を、具体例とともに考察します。続いて、おもに「五感」の融合的なはたらきにより形づくられる、個人を超えた地域の集団的表象（＝心の中に結ばれる像）の諸相と、それらが環境共生型の人間形成・地域形成に資する可能性について考察します。

【到達目標】

- ・「有機的に進化する景観」の意味を理解できる
- ・「五感」をばらばらに区別するのではなく、相互作用の融合感覚として捉えることが有効なこと（言い換えれば、「視覚偏重社会」のなかで、現場の実体験の大切さ）を理解できる。
- ・「五感豊か」とは快適なものだけを指すのではないこと（快適、便利ではない要素もかなり重要であること）を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業を基本とする、ふつうの講義形式です。テーマの性格上、PPTを使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみることがメインではないと思って下さい。

一定の気軽な質疑応答タイムを設け、質問や感想コメントを歓迎します。また毎回、授業後一週間以内に、学習支援システムに掲載する簡単な「小テスト」を受けて提出してもらいます。（小テストは時間制限なし、参照可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	「環境表象論Ⅰ」の概要／循環する自然に即した生活文化の遺産
第2回	有機的に進化する景観（1）	ユネスコの定義の意味／「観光文化」／四万十川の事例
第3回	有機的に進化する景観（2）—うつぐみの島・竹富島（前編）	景観の有形部分の真正性
第4回	有機的に進化する景観（3）—うつぐみの島・竹富島（後編1）	景観の有形部分を支える無形文化の厚み（伝統祭事等）
第5回	有機的に進化する景観（4）—うつぐみの島・竹富島（後編2）	島の子供からみる文化継承、持続可能な「観光」のとりくみと課題
第6回	伝統継承の階層的発想、無形文化尊重の潮流	「文化財」概念の進化に関する日本人の好適性
第7回	「五感」のエコロジーと文化的景観（前）	「五感」の視点の概説、視覚・聴覚・嗅覚の事例

第8回	「五感」のエコロジーと文化的景観（後）	触覚、味覚の事例
第9回	光と影・闇（前）	「光環境」という視点、夜の灯りに関するとりくみ事例
第10回	光と影・闇（後）	伝統文化における「闇・影」、星空、エコの視点からの重要性
第11回	音風景とは何か	サウンドスケープの概念、日本人の「風景を聴く」伝統
第12回	「残したい日本の音風景100選」から（1）文化	「自然・生き物」の音風景と伝統
第13回	「残したい日本の音風景100選」から（2）その他	伝統的な生業に関わる音風景
第14回	総括—人間の「身体性」（内なる環境）重視と感覚環境のまちづくり	環境表象論Ⅰのポイントも含め

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

不要。学習支援システムに毎回アップするスライド教材をもって替えます。

【参考書】

梶裕史『『文化的景観』の特質と可能性』（小島聡・西城戸誠・辻英史編『フィールドから考える地域環境』（第2版）第1部第6章、ミネルヴァ書房、2021）ほか、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（教室筆記）55%、毎回の小テスト、中間レポート45%。小テストと中間レポートの総得点が6割に満たない場合は、筆記試験を受ける資格がありません。

【学生の意見等からの気づき】

環境表象論Ⅰとはほぼ同様で、オンデマンドにも対応した、文章の説明つきのスライド教材を使用するため、体調不良で対面授業に出られない時でも自宅で自習できることへの評価や、画像や動画が豊富で親しみやすく、紹介された場所に実際に行ってみたくなる、といった感想が少なくありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・コースとの関連や皆さんの興味・関心との適性は、「環境表象論Ⅰ」同様と思います。表象論Ⅰの単位取得を履修の条件とはしませんが、履修済みであるほうが理解しやすいでしょう。

【関連の深いコース】

環境表象論Ⅰと同様、人間・文化コースおよびローカル・サステイナビリティコースに深く関連します。

【Outline (in English)】

Theme: "Cultural assets that live and change" / Representations and landscapes formed by the "five senses"

For the purpose of supplementing the "cultural landscape" theory of "environmental representation theory I", we will first consider the meaning of "organically evolving landscape", which can be said to be its greatest feature, with concrete examples. Next, various aspects of the collective representation of the region beyond the individual (=the image connected in the heart), which is mainly formed by the fusion of the "five senses", and the human formation and regional formation of the environmental symbiosis type. We will consider the possibility of contributing to.

Goal

- ・ This lecture aims to help students to understand the meaning of "organically evolving landscape"
- ・ This lecture also aims to help students to understand that it is effective not to distinguish the "five senses" separately, but to regard them as a sense of fusion of interactions (in other words, the importance of actual experience in the field in a "visually-oriented society").

- ・ It is understandable that "rich senses" does not mean only comfortable things (comfortable and inconvenient elements are also quite important).

Work to be done outside of class

Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

We also encourage you to visit nearby fields in the stimulus of your lessons. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each

Grading criteria

final exam 55%, each quiz and interim report 45% If your total score for each quiz and midterm report is less than 60%, you will not be eligible to take the written exam.

BSC200HA (基礎化学 / Basic chemistry 200)

サイエンスカフェ I

石井 利典

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/.Sat.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境の科学を正しく理解するためには化学の基礎知識が不可欠です。今後の環境の学習に役立てられるように、高校の「化学基礎」と「化学」の復習にまず取り組みます。さらに、よりクオリティの高い日常生活を得るために役立つ身近な化学についてもできるだけ理解を深めていきます。

【到達目標】

高等学校で履修する「化学基礎」と「化学」を大学受験科目にしていなかった受講者が、「環境科学Ⅰ」「環境科学Ⅱ」「環境科学Ⅲ」などの科目を履修するときに必要とする、基礎化学理論を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

2026年度の授業は、すべて対面での講義を予定しています。各回の授業では、化学の基本的な理論、必要な数値計算法、知っておくべき物質の構造と性質を問題演習を中心に解説します。提出された課題（確認テストなど）からいくつかのポイントを取り上げ、課題提出後の授業、または学習支援システム、Google Classroomにおいて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第1章 原子の構造と性質	原子の構造、放射線、化学結合と分子間力
第2回	第2章 化学変化と量的関係	物質質量、化学反応式
第3回	第3章 酸と塩基	溶液pH値、酸と塩基の反応、中和滴定
第4回	第4章 酸化と還元（1）	酸化剤と還元剤の反応、酸化還元滴定
第5回	第4章 酸化と還元（2）	COD(化学的酸素要求量)値およびDO(溶存酸素量)値の測定原理
第6回	第5章 有機化学の基礎（1）	有機化合物の命名法、異性体、有機化合物の構造と性質
第7回	第5章 有機化学の基礎（2）	炭化水素の反応、アルコールの反応、エステル・アミドの構造
第8回	第6章 身近な有機化合物（1）	脂肪酸の種類、脂肪と脂肪油
第9回	第6章 身近な有機化合物（2）	単糖類、二糖類、多糖類の構造と性質
第10回	第6章 身近な有機化合物（3）	アミノ酸、タンパク質の種類と立体構造
第11回	第6章 身近な有機化合物（4）	合成繊維、合成樹脂、合成ゴム
第12回	第7章 酵素	酵素、補酵素、補欠分子族のはたらき
第13回	第8章 核酸	DNAとRNAの構造、遺伝子発現のしくみ

第14回 期末テスト（60分間）、まとめ・解説
第1回講義～第13回講義の内容に関する筆記テスト、およびまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。毎回の授業で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をしてください。授業終了後に10分間程度で解答できる確認テストを実施します。提出は必須ではありませんが、提出されたものについては採点し、成績評価時に加点します。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したプリントを使用します。授業で取り扱うすべてのプリント類は、学習支援システムまたはGoogle Classroomから各自ダウンロードしてください。

【参考書】

高等学校で使用している『化学基礎』と『化学』の教科書（出版社は問わない）を入手することが望ましい。

入手先は、<https://www.daiichikyokasho.co.jp> を参照

【成績評価の方法と基準】

講義内で実施する確認テスト（10分間程度で解答×13回）：20％、期末テスト（60分間で解答×1回）：60％、課題レポート（800字程度×2）：20％の合計点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

環境科学に関連するテーマとともに、日常生活で体験する身近な科学に関するテーマもさらに多く取り扱ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムとGoogle Classroomとにアクセスできる情報機器と通信環境が必要です。

受講予定者は、Google Classroomのメンバーへの登録が必須になりますので、第1回講義がスタートする前にメンバー登録をお願いします。メンバー登録方法・登録可能期間は学習支援システムで予告します。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course provides an interdisciplinary introduction to environmental science in a chemical perspective. Central theme is the interaction between life and the environment. The course is suitable for students who plan further study in this field, also suitable for students without basic knowledge of environmental chemistry.

< Learning Objectives >

At the end of the course, students are expected to understand basic theory of chemistry and biochemistry for "Environmental chemistry I", "Environmental chemistry II" and "Environmental chemistry III".

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:60%, Short reports:20%,
in class contribution:20%

BLS200HA（生物科学 / Biological science 200）

サイエンスカフェⅡ

宮川 路子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、学生は高校の生物学の知識を基本として、主として人間の身体の構造と生体のメカニズムを学ぶことにより、組織学、解剖学、生理学、疾患の範囲の幅広い知識を身につけることを目的としている。

【到達目標】

学生は、自分自身の身体の構造、仕組みを理解し、健康をはぐくむうえで必要となる組織学、生理学などの幅広い知識を習得する。学生がこれから生きていく上で重要な健康の保持増進、疾病の予防を最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

細胞、血液、筋・骨格系、呼吸器、循環器、消化器など、身体の構造別にそれらの構造、機能、さらには病気などについても学んでいく。講義のテーマにそったビデオを鑑賞することにより、より深く知識を定着させる。

対面講義とオンデマンド講義により授業を行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるため、適宜Hoppiで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	細胞と個体の成り立ち	生命の単位、細胞のはたらき。細胞の分化と分裂、組織。ビデオ鑑賞
第3回	血液について	血液の働き。免疫について。ビデオ鑑賞
第4回	呼吸器	呼吸器を構成する器官。肺の構造と機能。呼吸運動のメカニズム。呼吸器の病気。
第5回	循環器	循環器系の構造と働き。心臓について。血管について。循環器系の病気。
第6回	消化器（1）	消化器を構成する器官。口腔、食道、胃、腸。消化器系の働きと病気。ビデオ鑑賞
第7回	消化器（2）	肝臓の構造と機能。ビデオ鑑賞
第8回	骨・筋肉	筋骨格系の構造と機能。関節の仕組みと働き。筋収縮について。ビデオ鑑賞

第9回	泌尿器	腎臓の構造と機能。尿について。ビデオ鑑賞
第10回	生殖	生殖の仕組み。ビデオ鑑賞
第11回	神経	神経の仕組みと働き。中枢神経系と末梢神経系。神経伝達のメカニズム。神経の病気。ビデオ鑑賞
第12回	感覚・知覚	聴覚・平衡感覚。嗅覚、味覚、皮膚感覚。内臓感覚。ビデオ鑑賞
第13回	発達	発達の成り立ち。赤ちゃんの発達。ビデオ鑑賞。
第14回	まとめ（授業内試験またはレポート提出）	講義のまとめ、授業内試験またはレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。日頃から自分の身体について興味を持ち、観察を行うこと。関連の話題についての知識を収集する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回授業内にてテーマに沿ったプリントを配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

最終講義における授業内試験、または学期末に提出を求めるレポートにより評価を行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

This course is designed to help students acquire extensive knowledge of histology, anatomy, and physiology by learning the morphology and mechanisms of the human body and applying the foundation of high school-level biology.

This course provides students with the knowledge required to comprehend the mechanisms and function of their own bodies and to enhance their health.

Learning Objectives

Students will acquire a broad knowledge of histology and physiology necessary to understand the structure and mechanisms of their own bodies and to nurture good health.

The ultimate goal is to maintain and improve health and prevent diseases, which are important for students to live in the future.

Learning activities outside of classroom

Be curious about and observe your own body on a daily basis.

Collect knowledge on related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the semester (100%).

BAB200HA（基礎生物学 / Basic biology 200）

サイエンスカフェIII

高田 雅之

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学とは、生物の暮らし方や、生物と環境との関係、さらには人間との関わりを含めて理解する学問です。生態学の基礎をわかりやすく学ぶことで、人間の生存基盤である自然環境との向き合い方を考え、ひいては持続的な社会を築く方策を探る能力を養うことにつながっていきます。本講義では、主に日本における生き物を中心とした自然の仕組みと、地球における生物の進化と適応、生物多様性について、基本的な知識と俯瞰的な視点を身に付けます。

【到達目標】

以下の3点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①野生生物の生活と生存戦略
- ②生物の進化と適応
- ③生物多様性の意義

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「動植物の生態」、「生物と環境との相互作用」、「進化と適応」、「動物の行動生態」、「生物多様性」について学びます。国内外の研究事例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、生態学と生物多様性に関する基礎的な知識と理解を積み重ねていきます。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、生態学とは何か、地球の視点から捉える
第2回	鳥類の生態1	鳥類の生態と特徴、身近な鳥たち、環境との関係、取り巻く問題
第3回	鳥類の生態2	渡り鳥、日本の鳥類相、特徴的な鳥の紹介
第4回	植物の生存戦略	種子の散布、身近な植物、環境に対する生存戦略
第5回	昆虫の世界	昆虫の特徴、素数ゼミ、水生昆虫、社会性昆虫
第6回	日本の哺乳類	シカとカモシカ、クマとブナ、イノシシと人の関係
第7回	生物の進化1	古生代までの生物進化の歴史、大絶滅と大進化
第8回	生物の進化2	恐竜の誕生と絶滅、哺乳類と人間の登場、大進化はなぜ起こるか
第9回	自然選択と適応	適応とは、自然選択とは、適応のための様々な生存戦略
第10回	動物の行動生態	なわばり行動、社会行動、個体数の変動、群集生態
第11回	海洋と沿岸の生物1	クジラとイルカの生態

第12回	海洋と沿岸の生物2	海から陸への物質輸送、海鳥、サケと海洋環境、サンゴ礁
第13回	生物多様性1	3つの生物多様性、レジリエンスとは
第14回	生物多様性2	日本が世界の生物多様性ホットスポットとなっている理由

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。さらに理解を深めたい場合は自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。「自然環境科学の基礎（生態学）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will explore the sustainable relationship between humans and nature through learning the basic ecology such as wildlife and ecosystems in Japan, biological evolution, biodiversity.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

GEO200HA（地理学 / Geography 200）

自然環境論 I

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

その他属性：〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

われわれをとりまく自然環境（地形や気候、植生、水循環ほか）は、地域ごとに個性と必然性を有し、変化を繰り返して現在に至っている。「水や空気のように」あたりまえの存在では決していない。本授業では、日本列島の現在の自然環境を、人間社会（暮らしや産業、文化ほか）との関わりのなかで時空間を行き来しつつ見つめなおす。

【到達目標】

自然環境の地域的差異・メカニズム・歴史の変遷を説明できる。
人間社会が自然環境の影響を受ける側面を具体的に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

自然地理学のアプローチを通じ、強く関連しあう自然界の諸要素について理解を深める。講義形式。身近な自然環境の具体像を含む資料も活用する。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自然環境と人間社会	自然地理学、環境決定論、環境可能論
第2回	大気大循環	風の時空間スケール、地球のエネルギー収支、3つの循環、偏西風
第3回	海洋大循環	表層循環、深層循環
第4回	気候の要素・因子・区分	緯度、海流、地形、ケッペンの区分、アリソフの区分
第5回	日本列島の気候（1）	気団、海流、四季
第6回	日本列島の気候（2）	偏西風蛇行、エルニーニョ・南方振動、都市気候
第7回	編年法・古環境復元法	第四紀、年輪、考古、放射性炭素年代、火山灰、珪藻、花粉
第8回	気候変動と海水準変動（1）	気候と生活、氷期と間氷期、酸素同位体比、海水準変動
第9回	気候変動と海水準変動（2）	気候変動の要因、昨今の温暖化
第10回	プレートテクトニクス	地球のしくみ、プレートテクトニクス、標高分布、変動帯と安定地塊
第11回	日本列島の地形環境	島弧海溝系、地形のスケールと種類、地形形成営力、日本列島の現在の地形形成環境、日本列島の地形と地質
第12回	日本列島の地震発生環境	プレート境界の地震、活断層の地震
第13回	土壌・水文	さまざまな土壌、風化土壌と堆積土壌、地球上の水、水循環・水収支・滞留時間、地下水

第14回 植生・動物相

暖かさの指数、日本列島の植生、自然植生とその衰退、植生遷移、日本列島の動物相、気候変動と植生・動物相

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習を行う。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）・期末試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【Outline (in English)】

The natural environment (topography, climate, vegetation, water circulation, and so on) around human society varies in each place worldwide. Their origins are reasonable in terms of science, and they have reached the present status through various global, regional, and local changes in the history of the earth. We examine spatial variation, mechanism, and history of the present-day natural environment in the Japanese island, with in mind the relationship between the natural environment and human society (life, industry, culture, and so on).

Students should be able to do the followings by the end of the course: (1) to explain spatial variation, mechanism, and history of the natural environment, and (2) to explain influence of the natural environment on human society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports (30%) and a final exam (70%).

GEO200HA (地理学 / Geography 200)

自然環境論Ⅱ

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：環17：サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生活の舞台である大地。「動かざること大地の如し」ともいわれるが、実際には河川氾濫や地殻変動などの変化プロセスを通じて形成されてきた。本授業では、いかなる社会もその土地の個性に根ざして成り立っていることを意識しながら、「湿潤変動帯」日本列島の地形的個性を見つめなおし、人間社会との関わり合いを再認識する。

【到達目標】

地形の成り立ちと形成過程を説明できる。

土地条件や土地利用といった視点から人間社会の課題を具体的に提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

背景となる自然地理学的知見を概観したうえで、地形学のアプローチから理解を深める。講義形式。野外調査データを含む資料も活用する。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	土地と人間社会	自然環境と人間社会、土地条件、土地利用、東京の自然史
第2回	「湿潤変動帯」日本列島（1）	地球のエネルギー収支、大気大循環、海洋大循環、気候因子、日本列島の気候環境
第3回	「湿潤変動帯」日本列島（2）	プレートテクトニクス、島弧海溝系、地形のスケールと種類、地形形成営力、日本列島の現在の地形形成環境
第4回	地図	地図の歴史、測地系、地図投影法、一般図と主題図、縮尺と事象、空中写真、時系列比較
第5回	地理院地図	数値標高モデル（DEM）、地理情報システム（GIS）、GNSS、地理院地図、今昔マップ
第6回	河川地形の成り立ちと土地利用（1）	扇状地、天井川、土地利用
第7回	河川地形の成り立ちと土地利用（2）	氾濫原、三角州、土地利用
第8回	海岸地形の成り立ちと土地利用	砂浜海岸、岩石海岸、サンゴ礁海岸、土地利用、海底地形
第9回	変動地形・火山地形の成り立ち	断層変位地形、離水海岸地形、マグマの組成・噴火様式・火山体、山体崩壊
第10回	段丘地形の成り立ちと土地利用	河成段丘、海成段丘、気候変動、地殻変動、土地利用

第11回	段丘面と地殻変動	段丘面の編年、段丘面に基づく隆起量の見積もり
第12回	山地の成り立ち	山地の形成、風化と侵食、地形輪廻、水河地形
第13回	関東平野の地形発達史と古地理	段丘面の分布と成り立ち、沖積面の分布と成り立ち
第14回	人間社会が土地に及ぼす影響	江戸・東京の地形と土地利用、埋立て・干拓、造成、鉄穴流し

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習を行う。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）・期末試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【Outline (in English)】

The land is our stage of life, on which human society stands. It is true that the land does not seem to change, but the land has changed repeatedly and reached the present styles through various geomorphic processes such as river flood and crustal deformation in the recent geologic time. We examine the geomorphic environment in the Japanese islands, one of the tectonically active and intensely denuded regions in the world, in order to recognize how land conditions are related to human society.

Students should be able to do the followings by the end of the course: (1) to explain spatial variation, mechanism, and history of landforms, and (2) to explain issues of human society from the perspective of land conditions and land use. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports (30%) and a final exam (70%).

GEO200HA（地理学 / Geography 200）

自然環境論Ⅲ

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2
備考（履修条件等）：環17：サ
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島の自然環境を大きく特徴づける「変動地形」。変動地形は地震と密接に関わって成立してきた。変動地形の研究は、日本列島の自然環境の理解のみならず、地震が発生する場所や地震史の理解、長期予測において不可欠である。本授業では変動地形の成り立ちを理解し、日本列島の自然環境および地震発生環境の地域的個性、ひいては人間社会のあり方を見つめなおす。

【到達目標】

変動地形と古地震の調査法を説明できる。
日本列島の地震発生環境の地域的個性を具体的に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

背景となる地形学的知見を概観したうえで、変動地形学・古地震学のアプローチから理解を深める。講義形式。国内外における地殻変動の具体像を示す資料も活用する。
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本列島の地震発生環境	島弧海溝系、プレート境界、活断層、活火山
第2回	変動地形と古地震の調査法	地形学・地質学、史料地震学、地震考古学、地震学・測地学
第3回	地震発生繰り返しモデル（1）	地震の歴史を復元する取り組み、変位量分布の規則性と固有地震モデル
第4回	地震発生繰り返しモデル（2）	時間－変位ダイアグラム、時間予測モデル、変位予測モデル、長期評価
第5回	活断層の認定	地震規模と地表変位、活断層地形判読
第6回	相模トラフの地震	1923年大正関東地震、1703年元禄関東地震ほか
第7回	南海トラフの地震	1944・1946年昭和、1854年安政、1707年宝永ほか
第8回	琉球海溝の地震	地震発生可能性、1771年明和ほか
第9回	日本海溝の地震	2011年東北地方太平洋沖地震、869年貞観地震ほか
第10回	千島海溝の地震	17世紀型超巨大地震ほか
第11回	地震と活断層（1）	活動期と静穏期、1995年兵庫県南部地震と六甲・淡路島断層帯ほか
第12回	地震と活断層（2）	2016年熊本地震と布田川－日奈久断層帯ほか

第13回	日本列島の活断層（1）	糸魚川－静岡構造線断層帯、東北日本の活断層、歴史地震
第14回	日本列島の活断層（2）	西南日本の活断層、歴史地震

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習を行う。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】
平常点（30%）・期末試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】
知識と思考力に加え、基礎力や応用力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【Outline (in English)】
The existence of tectonic landforms is one of the most significant features on the natural environment of the Japanese islands. These tectonic landforms have mainly developed related to recurrent large earthquakes. We examine spatial variation, mechanism, and history of tectonic landforms as well as the seismogenic environment in the Japanese islands, in order to understand the natural environment of the Japanese islands and to improve our social resilience. Students should be able to do the followings by the end of the course: (1) to explain research methods in tectonic geomorphology and paleoseismology, and (2) to explain the seismogenic environment in the Japanese islands. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports (30%) and a final exam (70%).

INE200HA（総合工学 / Integrated engineering 200）

エネルギー論 I

北川 徹哉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

備考（履修条件等）：環17：サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エネルギーは私たちの生活や社会，経済と密接にリンクしているとともに，近年の環境への配慮の重要性の高まりを背景に，エネルギー開発・利用のあり方がより一層注目されている。本講義においては，エネルギーの資源の特徴や流れ，エネルギー関連の基礎原理，発電形態を学ぶとともに，我が国および諸外国のエネルギーの現状について知る。

【到達目標】

1. エネルギーと人間生活，社会との結びつきを説明できる。
2. 各種エネルギー資源の特徴とその利用方法，原理について説明できる。
3. エネルギーの利用状況と国際的な動向を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。質問は随時受け付ける。また，レポート課題のフィードバックについては授業最終回に時間を設けたり，動画配信などにより実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	エネルギーとは	エネルギーと環境，エネルギーの姿
第2回	エネルギーの量を表すもの，単位	熱量，仕事，パワー，電力量などの意味と表現
第3回	電力の需要と供給	電力事業の歴史，発電・送電・配電のネットワークと電力消費
第4回	電力システムの安定	電力需給のバランスとコントロール，電力供給の事故
第5回	電力供給の源	三相発電機と送電線
第6回	電力供給のさらなる源	熱力学の基礎，サイクルとは何か
第7回	運動のエネルギー	ピストン（サイクルの一例）における仕事
第8回	エントロピー	エントロピーとはどのようなものか
第9回	熱エネルギーの移動と出入り	エントロピーと熱との関係，カルノーサイクル，エネルギー効率
第10回	熱から電力への変換	熱と水の関係，発電で用いられるサイクル
第11回	火力発電所の仕組み	火力発電の種類，火力発電所の構造
第12回	原子力とは	原子の構造，核分裂，核燃料
第13回	原子力発電所の仕組み	原子炉の種類，原子力発電所の構造
第14回	核燃料サイクル，放射性廃棄物	プルサーマル，高速増殖炉，使用済核燃料の処分

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義での資料などを用いて予習・復習をすること。
次の内容を事前に学習して授業に臨むと良い。第1～3回：エネルギー・資源の用語と単位，第4回：ジュールの実験，第5～9回：前回の講義内容の見直し，第10回：水の性質，第11～14回：火力発電と原子力発電
本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる平常点80%：各種エネルギーの特性に関するレポート課題により，到達目標1～3の達成度を評価する。
授業への参加度による平常点20%：授業での学習状況を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

エネルギー分野は広範囲の内容を含み，楽しく学べます。わからないところは質問してください。メールなどで質問しても構いません。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The topics in this course contain the fundamentals on resources and their conversions to energy used for power generations, and on the energy demand-supply relationship. Special attention is paid to the electricity power generations using the heat produced by fossil and nuclear fuels.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

A. to learn about the energy supply and consumption in our society,

B. to understand the characteristics of various resources and the energy conversion systems from the view points of thermodynamics, and

C. to obtain the knowledge on the international and domestic trends of energy development and trading.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to look over the forthcoming class content and to understand the content after each class. Your study time will be more than four hours for a class on average.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on reports for assignments (80%) and class participation (20%).

BOM200HA（境界医学 / Boundary medicine 200）

環境健康論Ⅰ

朝比奈 茂

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考（履修条件等）：環17：文,サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代西洋医学の発展に伴い、人類は多くの恩恵を受けてきた。その一つに、寿命の延長がある。我が国は世界有数の長寿国であるが、健康寿命をいかに延ばすかが今後の重要な課題とされている。高齢化社会が進むにつれ、健康寿命の延長に向けた取り組みがますます求められる。健康に過ごすためには、適度な運動、自然素材を取り入れた食事、十分な睡眠など、自らが意識し実践できることが数多くある。本講義では、日々何気なく過ごしている生活習慣に焦点を当て、それが健康に与える影響について考察する。特にがんに関する多目的コホート研究などの資料をもとに、生活習慣の重要性について深く掘り下げていく。

【到達目標】

1. 「持続可能な環境重視の社会」を構築するために、環境と健康の対応関係を理解できる。
2. ホメオスタシスと病気の関連性について述べることができる。
3. 日本人の死因について述べるができる。
4. がん（悪性腫瘍）に関わる要因について説明する。
5. 組織損傷の治癒過程について説明できる。
6. 免疫の働きと役割について説明できる。
7. 腸内細菌と免疫系の関係を述べるができる。
8. 食べることの重要性を述べるができる。
9. 治癒を促進する食品が説明できる。
10. 摂取と排出のバランスが身体に及ぼす影響について説明できる。
11. 治癒を妨げるものについて説明できる。
12. ところが治癒に果たす役割などについて説明できる。
13. 人生100年時代を見据えて自らの健康感を述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・本講義は対面授業を基本として実施する。
- ・授業に使用するレジュメは全て学習支援システムを通じて配布し、レジュメに沿って授業を進める。
- ・毎回の授業のはじめに前回の授業内容を振り返ることで内容を深める。
- ・授業のテーマに沿って周囲の学生と意見交換を行うことで自分の意見を確認する。
- ・質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス:講義の概要、ねらい、進め方の紹介	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
第2回	ホメオスタシスと病気	人間に備わっているホメオスタシスの意義について説明し、病気との関連性を検討する。厚生労働省による「人口動態統計の概要」について説明する。

第3回	がんの基礎知識Ⅰ	生活習慣が「がん」の発生に及ぼす影響について説明する。特に飲酒や喫煙が影響する「がん」について科学的根拠に基づき解説する。
第4回	がんの基礎知識Ⅱ	食品や食物が「がん」の発生に及ぼす影響について説明する。運動習慣と「がん」予防について、科学的根拠に基づき解説する。
第5回	免疫系と自律神経系	本来生まれながら人間に備わっている免疫について、その種類、役割などを説明する。また免疫系と自律神経系との関わりを腸内細菌の働きと合わせて考察する。
第6回	組織損傷の治癒過程	組織損傷の治癒過程について、炎症が果たす役割を説明する。組織修復にかかわる一連の流れを説明し、修復を促進する要因や妨げる要因について解説する。
第7回	食べることの重要性	人は食物を材料としてエネルギーを作り出し、それによって生命活動を維持している。食べることの重要性について、その本質に焦点をあて説明する。
第8回	代謝性疾患と脂質異常症	脂質異常症について、発症のメカニズムと関連するLDLコレステロール、HDLコレステロールについて説明する。
第9回	摂取と排出のバランス	動的平衡について、概念と重要性を説明する。体に取り入れる全ての物質（摂取）と体から出される全ての物質（排出）のバランスと病気との関連性について説明する。
第10回	治癒を促進する食品類	食生活が健康にとって如何に重要であるかを説明する。5大栄養素（脂肪、炭水化物、たんぱく質、ビタミン、ミネラル）＋食物繊維がそれぞれ治癒にどのように影響するか説明する。
第11回	自己治癒力を妨げる要因	自己治癒力を妨げるものに、エネルギー不足、血液循環の低下、有害物質の影響、老化などがある。これらの要因と免疫機構の関連性について解説する。
第12回	運動が果たす健康維持の役割	運動が健康に及ぼす影響を説明し、効果的な運動の種類や方法について説明する。
第13回	ところが治癒に果たす役割	精神的および感情的な出来事と治癒反応との間に相関関係があることを示し、これまでに起こった事例をあげ、ところが治癒系に与える影響について解説する。
第14回	人生100年時代に向けて	近年、公衆衛生の発展、生活習慣の改善、医療の発展などから、平均寿命の延長が認められる。人生100年時代に向けてどのような意識を持って日常生活行うべきか、医学を超えた視点で検討する。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 毎回の講義で使用するレジュメ及び資料を参考に必ず予習・復習をすること。 レジュメ及び資料は、講義日の前日20時までに、学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。		

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じて配布する

【参考書】

健康・体力づくりハンドブック 名取 礼二 監修 大修館書店
人はなぜ治るのか アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 日本文化社
癒す心、治る力 アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 角川文庫
補完代替医療入門 上野圭一著 岩波アクティブ新書
標準東洋医学 仙頭正四郎 金原出版

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（100％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後に受け付ける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。

また、オフィスアワーとして毎週木曜日15時～16時40分の100分を設ける。

オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールを通じて連絡をとること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Japan is well-known for the best longevity in the world. However, as oppose to the reputation from the world, it is unfortunate that there are not many Japanese people who can actively enjoy till their end-stage of life. It has been known that the healthy life can be obtained by quality life activities such as moderate exercise or physical activity, quality sleep and rest, and well-balanced diet. This course will provide the knowledge and skills necessary to prevent from illness and acquire such a healthy life. Upon the completion of this course, students will be able to learn and enjoy such a lifestyle.

【Learning Objectives】

Students will be able to understand the relationship between the environment and health in order to build a sustainable environmental society.

To be able to explain the relationship between homeostasis and disease.

To be able to explain the factors related to cancer in humans.

To be able to explain the healing process.

To be able to explain the function and role of immunity.

To be able to explain the foods that promote healing.

To be able to explain the role of the mind in healing.

To be able to describe one's own sense of well-being.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Resume for the lecture will be uploaded through the learning support system. Students are expected to prepare according to the resume.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

The final exam at the end of the semester will be 100%.

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

BOM200HA（境界医学 / Boundary medicine 200）

環境健康論Ⅱ

朝比奈 茂

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考（履修条件等）：環17：文、サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

補完代替医療とは、一言で説明すると「現代西洋医学の領域外に属する医学・医療体系の総称」である。近年、NCCIH（アメリカ国立補完統合衛生センター）では、環境全体を視野に入れたエコロジカルな健康観を基礎とし、生命の特徴である多様性、個別性、一回性を重視する補完代替医療の分野に多大な研究費を投じている。また、アメリカやヨーロッパ諸国を中心に、世界各国の伝統医療が見直され、多くの人が日常生活に取り入れ、その効果を実感している。

本講義では、世界に約600種類存在するとされている補完代替医療のうち、代表的な伝統医療をいくつか取り上げ、その特徴や利点、さらには課題について考察する。また、必要に応じて現代西洋医学と補完代替医療をどのように融合し、あるいは使い分けるべきかを考察し、環境と健康問題に対して多角的な視点を持って取り組む姿勢を養うことを目的とする。必要に応じて現代西洋医学との融合、または使い分けできる思考、姿勢を身につけることで、幅広い視点から環境と健康問題に取り組む可能性を迫る。

【到達目標】

- 1. 補完代替医療の健康観について説明できる。
- 2. 世界の伝統医療についてその特徴を説明できる。
- 3. 代表的な補完代替医療を列挙でき、その内容を概説できる。
- 4. 代表的な補完代替医療の特徴、長所および短所を説明できる。
- 5. 現代西洋医学と補完代替医療を比較し、それぞれの特徴を説明できる。
- 6. 東洋医学の根幹である「気」の概念を理解できる。
- 7. 陰陽論、五行学説について概説できる。
- 8. 鍼・灸療法の特徴、効果、用い方について説明できる。
- 9. ホメオパシーの特徴、長所および短所を説明できる。
- 10. エネルギー療法について実践例を挙げて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・本講義は対面授業を基本として実施する。
- ・授業に使用するレジュメは全て学習支援システムを通じて配布し、レジュメに沿って授業を進める。
- ・毎回の授業のはじめに前回の授業内容を振り返ることで内容を深める。
- ・授業のテーマに沿って周囲の学生と意見交換を行うことで自分の意見を確認する。
- ・質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：講義の概要、ねらい、進め方の紹介	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
第2回	補完代替医療の健康観Ⅰ	NCCIH（アメリカ国立補完統合衛生センター）の研究、取組、世界の現状などを紹介する。

第3回	補完代替医療の健康観Ⅱ	ドイツのがん治療の現状をDVDを視聴しながら解説する。
第4回	補完代替医療システム：中国伝統医学Ⅰ	中国伝統医療である東洋医学について、発祥と発展、健康観や哲学などを解説する。また現代西洋医学との相違を提示し、検討する。
第5回	補完代替医療システム：中国伝統医学Ⅱ	東洋医学の基本概念である陰陽五行論、経穴と経絡、気血水（津液）について説明する。
第6回	補完代替医療システム：中国伝統医学Ⅲ	東洋医学分野の内系医学に属する鍼・灸療法の特徴、効果、用い方について説明し、実際に鍼・灸治療を行いその効果を体験する。
第7回	補完代替医療システム：中国伝統医学Ⅳ	東洋医学分野の寒傷系医学に属する湯液療法の特徴、効果、用い方について説明する。具体例として7種類の生薬を使用する葛根湯を実際に調合、煎じてそれを服用する実習を行う。
第8回	補完代替医療システム：ホメオパシー	欧米やインド、南米などに広く普及している、ホメオパシーについて、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。
第9回	補完代替医療システム：インド伝統医学（ヨーガ）	インド地域を中心として発達した5000年の歴史があるヨーガについて、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。
第10回	精神・身体相互介入による医療：瞑想法、呼吸法	精神および身体相互介入による医療に位置付けられている瞑想について、科学的な視点から捉えるとともに、日本の「禅」との関連性を解説する。
第11回	生物学的療法：マクロビオティック、ハーブなど	世界の多くの著名人、有名人などが行っていると言われている、「マクロビオティック」について、健康観や哲学、長所や短所などを概説し、実際にその調理方法を解説する。
第12回	手技および身体を介する療法：按摩・指圧・マッサージ	按摩・指圧・マッサージについて、その発祥と発展、施術の法則と方法、特徴的な手技、長所と短所などを説明する。
第13回	手技および身体を介する療法：カイロプラクティック、オステオパシー、リフレクソロジー	カイロプラクティック、オステオパシー、リフレクソロジーについて、その発祥と発展、健康観や哲学、長所と短所などを説明する。
第14回	エネルギー療法：ヒーリングタッチ	ヒーリングタッチについて、その発祥と発展、健康観や哲学、長所と短所などを説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で使用するレジュメ及び資料を参考に必ず予習・復習をすること。
レジュメ及び資料は、講義日の前日20時までに、学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じて配布する。

【参考書】

『補完代替医療入門』 上野圭一著 岩波アクティブ新書
『ホメオパシー医学への招待』 松本丈二著 フレグランスジャーナル社
『標準東洋医学』 仙頭正四郎 金原出版
『近代中国の伝統医学』 ラルフ・C・クロイツァー著 創元社

『傷寒論を読もう』 高山宏世著 東洋学術出版社
『アーユルヴェーダとヨーガ』 上馬場和夫著 金芳堂
『ヨーガ根本教典』 佐保田鶴治 平河出版社
『人はなぜ治るのか』 アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 日本文化社

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（100％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後に受け付ける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。

また、オフィスアワーとして毎週木曜日15時～16時40分の100分を設ける。

オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールを通じて連絡をとること。

E-mail : asahina@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

The body can heal itself. Natural healing is not a miracle but a fact of biology - the result of the innate healing system in the human body. The opportunity to experience this spontaneous healing can be increased by giving proper exercise and adequate rest to the body. In this lecture, from the perspective of oriental medicine, students learn about the natural healing system.

【Learning Objectives】

Explain the health perspective of complementary and alternative medicine.

List representative complementary and alternative medicine and outline their contents.

Compare modern Western medicine and complementary and alternative medicine, and explain the characteristics of each.

Understand the concept of "KI," the foundation of Oriental medicine.

To be able to explain the characteristics, effects and usage of acupuncture and moxibustion therapy.

To be able to explain the characteristics, advantages and disadvantages of homeopathy.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Resume for the lecture will be uploaded through the learning support system. Students are expected to prepare according to the resume.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

The final exam at the end of the semester will be 100%.

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

PLN200HA（地球惑星科学 / Earth and planetary science 200）

気候変動論 I

松本 倫明

配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5
備考（履修条件等）：環17：G,サ
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候変動の自然科学的な知見をわかりやすく解説する。
春学期では、まず現在進行中の気候変動である地球温暖化を概観する。つぎに気候変動のベースとなる気候システムの基礎的なことからを深く学ぶ。

【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なリテラシーを身につけることができる。具体的には（１）気候変動科学のこれまでの経緯、（２）温室効果、太陽放射、アルベド等の気候システムの基礎、（３）温暖化予測の概要、（４）大気と海洋の循環と熱収支、（５）炭素循環、（６）簡単な温室効果モデルについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。スライドを用いて最新の観測結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。またビデオ教材を用いる。この授業を受講するにあたり特別な予備知識を必要としない。毎回実施するミニテストからいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	地球温暖化の概要（1）	いくつかの観測結果を概観する。世界平均気温、海面水温、温室効果ガス濃度の変化など。
第3回	地球温暖化の概要（2）	地球温暖化の科学の入門。太陽放射、放射強制力、アルベドについて学ぶ。
第4回	地球温暖化の概要（3）	地球温暖化の予測について概観する。予測の方法、気候モデルの概要、予測の結果など。
第5回	地球温暖化の概要（4）	将来取り得る選択肢についての議論
第6回	大気の構造	大気に焦点をあてる。対流圏、成層圏、中間圏、熱圏、オゾン層、分子組成など。
第7回	放射と熱	電磁波、黒体放射、熱力学の基礎を学ぶ。
第8回	循環と気象	水平方向のエネルギー収支を学ぶ。温帯低気圧、熱帯低気圧、ジェット気流、ハドレー循環など。
第9回	海洋の循環	海洋による熱の循環について学ぶ。風成循環、熱塩循環など。

第10回	エネルギー収支	鉛直方向のエネルギー収支を学ぶ。大気の窓、アルベド、温室効果など。
第11回	温室効果	温室効果の基礎を学ぶ。温室効果ガスによる赤外線吸収と放射など。
第12回	放射平衡	大気が多層モデルによって温室効果の理解を深める。
第13回	炭素循環	二酸化炭素と炭素循環の概念の理解。大気・海洋・植生・土壌における炭素のフラックスと貯蓄量など。
第14回	まとめ	授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用せず、資料を授業中やHoppiiを用いて随時配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%である。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

【学生が準備すべき機器他】

各自の携帯電話やスマートフォンを使う。

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Basic knowledge of climate change.
Learning objectives: Students learn scientific knowledge about climate change. In the spring semester, we focus on the introduction of climate change and the basic knowledge of the climate system.
Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading criteria/policy: Mini-tests (30%), a term exam (70%).

EAE200HA（環境解析学 / Environmental analyses and evaluation 200）

気候変動論Ⅱ

松本 倫明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考（履修条件等）：環17：G,サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候変動の自然科学的な知見を学ぶ。

秋学期では、地球温暖化の実際と影響について深く学ぶ。さらに、地球誕生から現在までの気候変動について学び、地球温暖化の理解を深める。また、昨今の地球温暖化をめぐる動向についても学習する。

【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なリテラシーを身につけることができる。具体には（１）気温の変化とその測定方法、（２）温室効果ガスの増加とその原因、（３）エアロゾルの影響、（４）降水・積雪への影響、（５）海洋への影響、（６）気候変動の予測と不確実性、（７）適応策・緩和策、（８）古気候学について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。最新の研究や観測の結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。

気候変動論Ⅰを履修した後にこの授業を履修することを推奨する。毎回実施するミニテストからいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	平均気温の変化（１）	温度の測定方法を紹介する。気温分布の季節変化と長期傾向を理解する。
第3回	平均気温の変化（２）	長期傾向を抽出するための統計処理の方法を理解する。ヒートアイランドについても補説する。
第4回	温室効果ガス（１）	温室効果ガス濃度分布と季節変化、長期傾向を理解する。
第5回	温室効果ガス（２）	排出量の推移、排出源、吸収源、海洋との交換を理解する。
第6回	エアロゾル	火山とエアロゾルの排出、人為的なエアロゾルの排出、アルベドと気候への影響。
第7回	降水量	降水量と水蒸気量の変化を世界平均と日本の場合について学ぶ。
第8回	雪氷	氷河の後退、北極海と南極の海水、気候への影響について学ぶ。
第9回	海洋・海面水位	気候システムにおける海洋の役割、海面水位変化の分布について学ぶ。
第10回	予測の方法	地球温暖化予測の方法について学ぶ。気候システムの概要、アンサンブル平均など。

第11回	予測の結果	地球温暖化予測の結果（気温、海面水位、降水量、異常気象、日本への影響など）を概観する。
第12回	緩和策・適応策	地球温暖化に対する緩和策と適応策を紹介する。
第13回	古気候学	様々なスケールにおける気候変動を考える。小氷期、中世の温暖期、氷期、間氷期、氷河期など。
第14回	まとめ	講義をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用せず、資料を授業中やHoppiiを用いて随時配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%を予定しているが、途中で簡単なレポート課題を課すことがある。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

【学生が準備すべき機器他】

ミニテストでは携帯電話やスマートフォンを用いる。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Advanced knowledge of climate change.

Learning objectives: Students learn scientific knowledge about global warming. In the fall semester, we lean on the detail of climate change.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Mini-tests (30%), a term exam (70%).

DES300HA（デザイン学 / Design science 300）

自然環境政策論 I

高田 雅之

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環17：口,サ

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究します。

【到達目標】

以下の2点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。

- ①保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題
- ②人間による影響を減らすために取り組まれている主な自然環境保全対策

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「保全の対象となる生態系の特徴」、「人間活動によって引き起こされる諸問題」、「外来種や種の絶滅という難題」、「日本における主な自然環境保全制度」、「新たな課題である里山・生物多様性・自然再生」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と問題意識を積み重ね到達目標に向かいます。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、環境問題の難しさ、自然環境の保全とは
第2回	森林をめぐる諸課題	森林の構造と機能、森林の管理、森林保護をめぐる事例
第3回	草原をめぐる諸課題	半自然草原・高山草原・海岸草原の特徴と取り巻く課題
第4回	湿地をめぐる諸課題	湿原・水田・干潟の特徴と取り巻く課題
第5回	島嶼をめぐる諸課題	海洋島と大陸島、固有の生物相、ガラパゴスや小笠原諸島などの事例
第6回	自然環境をめぐる難題：貴重種1	レッドリストによるリスク評価、希少動物・希少植物の取り組み事例
第7回	自然環境をめぐる難題：貴重種2	種の保存法に関する事例、種の再導入など
第8回	自然環境をめぐる難題：外来種1	様々な導入経路と影響、外来生物対策、国内外の事例

第9回	自然環境をめぐる難題：外来種2	最近の動向、根絶事例、淡水における外来種問題など
第10回	日本の自然環境保全政策1	ワイルドライフマネジメント
第11回	日本の自然環境保全政策2	自然公園、自然環境保全地域など
第12回	自然の再生	自然再生とは、近自然河川工法、自然再生事業など
第13回	里山	里山の特徴と変貌
第14回	生物多様性	生物多様性とは、生態系サービス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていきますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。旧科目名称「自然環境政策論」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will understand the current conditions of the natural environment and learn issues of biodiversity such as endangered species and alien species, and basic nature conservation policy in Japan.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

DES300HA (デザイン学 / Design science 300)

自然環境政策論Ⅱ

高田 雅之

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環17:グ,サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究します。

【到達目標】

以下の3点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。

- ①日本における自然環境保全へ向けた誘導的・社会的・経済的な取り組みの考え方とその実際
- ②諸外国における取り組みの事例とその仕組み
- ③国際条約など国際的な枠組みによる保全

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「環境影響評価や環境計画などの誘導的・計画的なアプローチ」、「法によらない保全事例」、「諸外国における特徴的な保全とその仕組み」、「国際的な枠組みによる保全」、「経済的なアプローチ」、「地域の自然資源の活用とエコツーリズム」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と解決意識を積み重ね到達目標に向かいます。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、文明の盛衰と自然環境、人を動かす概念の進化など
第2回	自然との共生と軋轢	日本における動物・水と人との関わり、開発と自然保護の対立
第3回	環境影響評価1	環境アセスメントの特徴と手続き、日本における制度構築の経過
第4回	環境影響評価2	特徴的な仕組みと事例、戦略的環境アセスメント
第5回	法によらない保全メカニズム	生態学と環境計画、自然環境保全指針などの地域ビジョン、NPOによる取組事例、協定等の自発的手法
第6回	海外の自然環境政策に学ぶ1	フランスの地方自然公園とエコミューゼ、ドイツのビオトープ

第7回	海外の自然環境政策に学ぶ2	イギリスのナショナルトラスト・グラウンドワーク、日本のトラスト活動
第8回	海外の自然環境政策に学ぶ3	欧州の農業環境政策、環境支払い
第9回	国際的な取り組み1	ラムサール条約、世界遺産条約
第10回	国際的な取り組み2	ワシントン条約と生物多様性条約
第11回	国際的な取り組み3	世界農業遺産、ジオパーク
第12回	地域資源の活用とエコツーリズム	エコツーリズムとは、管理型観光と自主型観光、自然の価値を高める経済的な循環事例、地域づくりに生かす試み
第13回	生物多様性と経済	企業活動とリスク、認証制度、生態系サービスへの支払い、自然資本
第14回	生物多様性と政策	生物多様性オフセット、ビオトープ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしてしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will learn social, international and economic measures and possibilities of future new policies for nature conservation and sustainable use of the natural resources.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学 I

佐々木 大輔

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考（履修条件等）：環コア：サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境科学は人と自然の相互作用を把握し、その関係を持続的に維持・発展させるための方法論を体系化した文理融合型の学問分野である。本授業・環境科学Ⅱを通して、環境問題の実態について正しく理解するとともに、その解決に向けた対処法について考える力を養うことを目指す。なお、Ⅰ・Ⅱのいずれかの授業のみを履修しても構わない。

環境科学Ⅰでは主に地球規模での問題について、環境科学Ⅱでは主に地域規模での問題について学ぶ。

【到達目標】

本授業では、主に地球規模での環境問題の実態について正しく理解することを目標としている。

具体的には、（１）気候変動、（２）生物多様性、（３）化学物質汚染について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを用いて授業を行う。

資料は前日までにアップロードするので、各自事前にダウンロードする。

毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の全体像と進め方について
第2回	気候変動（１）	気候変動の歴史、IPCCの将来予測
第3回	気候変動（２）	エネルギー資源
第4回	気候変動（３）	再生可能エネルギー
第5回	気候変動（４）	緩和策
第6回	気候変動（５）	適応策
第7回	気候変動（６）	国際環境政策の変遷、国連気候変動枠組条約の仕組み
第8回	気候変動（７）	日本国内における取り組み（気候変動適応法など）
第9回	気候変動（８）	気候変動と防災・減災
第10回	生物多様性（１）	生物多様性の意義、現状と課題
第11回	生物多様性（２）	国内外の取り組み（生物多様性条約・生物多様性基本法など）
第12回	化学物質汚染（１）	化学物質汚染の現状と課題
第13回	化学物質汚染（２）	国内外の取り組み（水俣条約・POPs条約など）
第14回	まとめ	授業のまとめ、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

担当教員が作成したレジュメや資料を適宜配布する。

【参考書】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門 [第3版]』 有斐閣コンパクト

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（30%）及び授業内に実施する期末試験（70%）の結果を基に成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

高校卒業程度の理科の知識を前提として授業を行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline] This lecture focuses on environmental issues on a global scale.

[Learning objectives] The goal is to foster an accurate understanding of the realities of environmental issues and cultivate the ability to consider approaches for their resolution.

[Learning activities outside of classroom] Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.

[Grading criteria/policy] Students will be assessed based on the results of quizzes administered after each class session (30%) and a final exam conducted during class time (70%).

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学Ⅱ

佐々木 大輔

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土1/Sat.1

備考（履修条件等）：環コア：サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境科学は人と自然の相互作用を把握し、その関係を持続的に維持・発展させるための方法論を体系化した文理融合型の学問分野である。環境科学Ⅰ・本授業を通して、環境問題の実態について正しく理解するとともに、その解決に向けた対処法について考える力を養うことを目指す。なお、Ⅰ・Ⅱのいずれかの授業のみを履修しても構わない。

環境科学Ⅰでは主に地球規模での問題について、環境科学Ⅱでは主に地域規模での問題について学ぶ。

【到達目標】

本授業では、主に地域規模での環境問題の実態について正しく理解することを目標としている。

具体的には、（１）大気環境汚染、（２）水環境汚染、（３）土壌・地下水汚染、（４）廃棄物処理について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを用いて授業を行う。

資料は前日までにアップロードするので、各自事前にダウンロードする。

毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の全体像と進め方について
第2回	大気環境汚染（１）	大気環境汚染の歴史と現状
第3回	大気環境汚染（２）	大気環境汚染のメカニズム、硫酸化物（SO _x ）、窒素酸化物（NO _x ）、微小粒子状物質（PM _{2.5} ）
第4回	大気環境汚染（３）	大気環境汚染への対策
第5回	水環境汚染（１）	水環境汚染の歴史と現状
第6回	水環境汚染（２）	水環境汚染のメカニズム、富栄養化、BOD、COD
第7回	水環境汚染（３）	水環境汚染への対策
第8回	土壌・地下水汚染（１）	土壌・地下水汚染の歴史と現状
第9回	土壌・地下水汚染（２）	土壌・地下水汚染のメカニズム、土壌環境基準
第10回	土壌・地下水汚染（３）	土壌・地下水汚染への対策
第11回	廃棄物処理（１）	廃棄物処理の歴史と現状
第12回	廃棄物処理（２）	日本における廃棄物の定義・区分
第13回	廃棄物処理（３）	廃棄物対策
第14回	まとめ	授業のまとめ、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

担当教員が作成したレジュメや資料を適宜配布する。

【参考書】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門 [第3版]』 有斐閣コンパクト

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（30%）及び授業内に実施する期末試験（70%）の結果を基に成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

高校卒業程度の理科の知識を前提として授業を行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline] This lecture focuses on environmental issues on a regional scale.

[Learning objectives] The goal is to foster an accurate understanding of the realities of environmental issues and cultivate the ability to consider approaches for their resolution. [Learning activities outside of classroom] Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.

[Grading criteria/policy] Students will be assessed based on the results of quizzes administered after each class session (30%) and a final exam conducted during class time (70%).

SOM300HA（社会医学 / Society medicine 300）

衛生・公衆衛生学Ⅰ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

備考（履修条件等）：環17：文、サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学は予防医学であり、疾病の予防、健康の保持増進をはかる科学技術の探究である。歴史的には伝染病の予防に始まり、現在では循環器疾患、心疾患、がん、糖尿病などの生活習慣病の予防から環境と疾病の関係を追及し、さらに健康の疫学へと進み、健康の保持増進をはかるための方策を探索するところまで進んでいる。本講座において学生は、予防医学の基礎となる考え方を学ぶとともに、現代社会に潜むさまざまな健康関連問題を取り上げる。健康意識の提起を行い、個人として自己健康管理を行ううえで必要な知識を習得することを目的としている。

【到達目標】

学生は、各種の健康問題の実情を学び、必要とされる健康行動について考えていく。

たとえば、学生生活においてしばしば問題となる飲酒行動について、アルコール摂取により体に何が起こるのかを知り、飲酒に関わる問題を引き起こさないためにどのような健康行動を身に着けていくべきかについて具体的にその方法を考えることができるようになる。これらの学びの積み重ねによって、学生は、将来の疾病を予防し、健康寿命を延長していくことが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

少子化、超高齢化社会において問題となっている医療関連の話題について学ぶ。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学Ⅰ～Ⅲの内容は若干重複することがある。授業において感想文などの提出を求めた場合には授業内でコメントをするなどのフィードバックを適宜行う。

対面とオンライン（オンデマンド）を組み合わせて講義を行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるため、適宜Hoppiで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義を受けるにあたっての心構え、予防医学の基本的概念予防医学の基礎について
第2回	ライフスタイルと生活習慣病①	生活習慣病の概念、病気の種類
第3回	ライフスタイルと生活習慣病②	主要死因とその関連疾患、生活習慣病の予防について
第4回	ライフスタイルと生活習慣病③	活性酸素と水素 生活習慣病各論
第5回	ライフスタイルと生活習慣病④	生活習慣病各論
第6回	喫煙の健康影響①	タバコの害、法的規制、社会の取り組み
第7回	喫煙の健康影響②	喫煙による疾病、禁煙について

第8回	アルコールの健康影響①	アルコールの健康被害について
第9回	アルコールの健康影響②	アルコール依存症について
第10回	少子・高齢社会における健康問題①	少子・高齢化社会の健康問題
第11回	少子・高齢社会における健康問題②	介護問題、高齢者虐待
第12回	児童虐待	児童虐待の現状と対策
第13回	感染症	性感染症・食中毒
第14回	まとめ	まとめ、レポート提出、または授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜学習支援システムにアップする。

【参考書】

人生100年の健康づくりに医師がすすめる最強の水素術 宮川路子

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポート、または授業内試験で行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静かな環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

Public health is the science and art of preventing disease and promoting human health. The history of public health began with the prevention of infectious diseases and developed into the prevention of lifestyle-related diseases, and establishing the relationship between causation and one's living environment. Moreover, the science of public health has extended into the epidemiology of health, and studies to establish the policies that encourage health maintenance and improvement. In this course, students will learn the basic concepts of preventive medicine and will acquire the knowledge on various health-related issues that are latent in modern society. The aim of the course is to raise health awareness and to acquire the skills necessary for individuals to manage their own health.

Learning Objectives

Students will learn about the realities of various health problems and think about the health behaviors required from younger age. For example, students will learn what happens to their bodies when they consume alcohol, which is often a problem in their daily lives, and will be able to think about specific ways to develop healthy behaviors to prevent problems related to drinking. By accumulating these lessons, students will be able to prevent future diseases and extend their healthy life expectancy.

Learning activities outside of classroom

Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

SOM300HA（社会医学 / Society medicine 300）

衛生・公衆衛生学Ⅱ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：環17：文、サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的能力を完全に発揮させることである。これは、医学から発達した社会学であり、保健、医療、福祉がその3本柱となっている。公衆衛生の実践活動のためには、絶え間ない教育と組織化された地域社会の努力が必要である。本講義で学生は、健康に生きていくための公衆衛生についての重要な知識を身に着けることが可能となる。

学生は疫学の知識を身に着けることにより、ヘルスリテラシーを高める。また、生命倫理について深く学び、いかに健康に生きるかということを考えることを目標とする。

【到達目標】

本講座では、学生は疫学、保健衛生統計学的手法、社会学的手法を用いて問題調査、提起を行い、対策を講じていく過程を学習する。これにより、学生は日々の生活の中で触れる健康情報を評価し、取捨選択を行い、適切な健康行動を取ることが可能となる。また、学生は日本の医療の現状について学び、患者としての適切な受療行動を考える。さらに学生は生命倫理の諸問題について学び、いかに生き、いかに死ぬかについて考えていく。特に終末期医療についての知識を身につけることによって、将来家族や自分が終末期を迎えたときにどのような医療を受け、いかに死を迎えるかを話し合い、決定する機会を持ち、実施することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

衛生・公衆衛生学Ⅰに引き続き、各種健康問題について学習する。さらに、疫学の基礎、疫学調査、スクリーニングについての知識を得る。実際にスクリーニングプログラムの評価法を学び、健康診断の意味を考える。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。映画の視聴に際し、感想文の提出を求めた際には講義の中でコメントを行う。衛生・公衆衛生学Ⅰ～Ⅲの内容は若干重複することがある。対面と、オンライン（オンデマンド）を組み合わせる講義を行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるため、適宜Hoppiで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	衛生・公衆衛生学概論	衛生・公衆衛生学Ⅱで学ぶ内容を紹介し、学ぶ意義について考える。
第2回	疫学の基礎①	疫学の歴史、各種指標
第3回	疫学の基礎②	バイアス・因果関係
第4回	疫学演習	肺がんと喫煙について、因果関係を考える。 計算問題
第5回	水俣病について	ビデオ鑑賞・感想文提出
第6回	スクリーニング プログラム①	スクリーニングプログラムの条件

第7回	スクリーニング プログラム②	スクリーニングにおける問題点、バイアス
第8回	環境保健	環境と健康
第9回	社会保障	日本の医療制度について
第10回	生命倫理①	医の倫理 医療崩壊 患者と医師の権利と義務 安楽死・尊厳死 医療訴訟
第11回	生命倫理②	遺伝子関連問題
第12回	生命倫理③	遺伝病、色覚異常
第13回	生命倫理④	終末期について 映画鑑賞（死について考える） 感想文提出
第14回	まとめ	講義のまとめ、授業内試験、またはレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業後に復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

【参考書】

必要な場合には開講時に指定する

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポート、または授業内試験で行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

衛生・公衆衛生学Ⅰをあらかじめ受講していることが望ましい。

【Outline (in English)】

The aim of public health is health promotion and disease prevention by fully developing the physical and mental abilities of people to protect them from diseases. This is sociology developed from medicine. Health, medical care, and welfare are the three pillars of public health. Practical activities of public health require continuous education and organizational community efforts. In this lecture, students will have the opportunity to learn important knowledge on public health to live a healthy life.

Learning Objectives

In this course, students will learn the process of using epidemiology, health statistical methods, and sociological methods to investigate and raise issues, as well as to take further action. This will enable students to evaluate and discard health information that they come into contact with in their daily lives, and to take appropriate health actions.

In addition, students will learn about the current state of medical care in Japan and consider appropriate treatment behavior as a patient. Students will also learn about bioethical issues and consider how to live and how to die.

Learning activities outside of classroom

Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

SOM300HA（社会医学 / Society medicine 300）

衛生・公衆衛生学III

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4
備考（履修条件等）：環17：文,サ
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的な能力を完全に発揮させることである。公衆衛生の実践活動のためには、人間の教育および社会の努力が必要である。
現在、我が国においては、年間の自殺者数が1998年から14年間連続して3万人を超えていた。その後減少傾向となり2025年度には2万人を切って過去最低となったが、いまだ若者の自殺は増加傾向となっており、対策が求められている。また、精神的な問題を抱える人の数は大幅に増加しているといわれている。しかし、これらの人が適切に精神科を受診できていないことが問題視されている。
本講座では産業保健の現場におけるメンタルヘルス事例および心療内科のクリニックでの症例について紹介しながら講義を行う。学生は精神疾患について学び、自分のメンタルヘルスケアを適切に行えるようになることを目的とする。

【到達目標】

精神疾患についての知識を身につけることにより、学生が自分自身の精神的な安定を保ち、また自分自身のみならず、家族や同僚、友人など、周りの人の状態にも敏感に気づくことができるようにする。ものの考え方を変えることによって、精神を健康に保つ方法を身につける。
栄養療法によって精神疾患を防ぎ、改善する知識を身につける。
精神疾患の予防（予防、早期発見・早期治療、社会復帰）を目指し、日本社会にはびこっている偏見を取り除くことも目的としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面講義とオンライン、オンデマンドによる講義を行う。必要な資料は学習支援システムにアップする。課題を課した場合には、講義の中でコメントをするなどのフィードバックを行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるため、適宜Hoppiで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	衛生公衆衛生学概論	ガイダンス
第2回	精神保健 メンタルヘルスケア①	生涯にわたる精神保健の必要性について 精神保健福祉とその対策 自殺について
第3回	メンタルヘルスケア②	産業保健におけるメンタルヘルスケア 職場におけるメンタルヘルス事例について紹介。過重労働、過労自殺、過労死
第4回	メンタルヘルスケア③	ストレスについて 快適職場について 実際の就労現場の取り組みと課題について

第5回	精神障害①	睡眠障害 よい睡眠をとるために大切なこと
第6回	精神障害②	気分障害について うつ病、双極性障害
第7回	精神障害③	新型うつ病について 職域において増加している回避性うつについて学ぶ
第8回	精神障害④	摂食障害について
第9回	精神障害⑤	不安障害
第10回	精神障害⑥	統合失調症
第11回	精神障害⑦	発達障害と就労問題
第12回	精神障害の栄養療法①	精神障害に対する栄養療法の実際について（有効な疾患）
第13回	精神障害の栄養療法②	精神障害に対する栄養療法の実際について（サプリメント）
第14回	まとめ、レポート提出	講義のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こころの「超」整理法 宮川路子 中央経済社 2012年
参考資料を適宜配布する。

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポートまたは授業内試験で行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。
オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

【実務経験のある教員による授業】

産業医として就労者の健康管理、特にメンタルヘルスケアに力を入れて職場の環境管理に携わる一方、クリニックで栄養療法を中心とした統合医療の診療を行っている。

【Outline (in English)】

The purpose of public health is to protect people from disease, to preserve and promote health, and to enable people to develop fully and to reach their full physical and mental health status. In this course, students will learn about mental illness and be able to take appropriate care of their own mental health.
Learning Objectives: Students will learn about mental illnesses so that they can maintain their own mental stability and be sensitive to the condition of not only themselves but also those around them, such as family, colleagues, and friends. Through learning about the symptoms, students will be able to recognize mental illnesses at an early stage. Students will learn how to change their mindset in order to maintain mental health. Students will gain knowledge on how to prevent and improve mental illness through nutritional therapy. Through the lectures, students will aim to prevent mental illness (prevention, early detection and treatment, and reintegration into society), as well as to remove prejudices prevalent in Japanese society.
Learning activities outside of classroom: Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Policy: Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

INE300HA（総合工学 / Integrated engineering 300）

エネルギー論II

北川 徹哉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火1/Tue.1

備考（履修条件等）：環17：サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

再生可能エネルギーという言葉が脚光を浴びるようになったのは、環境問題がクローズアップされ始めた近年のことである。本講義ではエネルギーを環境問題の視点から眺めつつ、開発と導入が進みつつある再生可能エネルギーの仕組みや特徴について、我が国と諸外国での導入状況を比較しながら理解してゆく。

【到達目標】

1. エネルギーと環境問題との結びつきを説明できる。
2. 各種再生可能エネルギーの仕組みを説明できる。
3. 再生可能エネルギーの効率、事業性、課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。質問は随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境問題とエネルギー	再生可能エネルギーによる電力供給
第2回	再生可能エネルギーの定義と分類	再生可能エネルギーとは、再生可能エネルギーの種類
第3回	水資源	水資源の循環、河川の性質
第4回	水力発電	水力発電の種類と仕組み、落差、中小水力発電
第5回	海水の動きを利用する発電	波力、潮力、潮流・海流による発電
第6回	風と風車	風車のタイプと性能、風がもつエネルギー、発電用風車の仕組み
第7回	風力発電	風況、パワーカーブ、発電量予測、風車と音
第8回	太陽光の特性、太陽光発電に適した物質	太陽光がもつエネルギー、太陽電池セルとシリコン
第9回	太陽光発電の発電量	太陽光発電の仕組みと種類、フィード・イン・タリフ
第10回	太陽光の熱、太陽熱発電	太陽熱の熱利用、太陽熱発電の種類と仕組み
第11回	バイオマス	バイオマスの種類と分類、バイオマスの賦存量
第12回	バイオマスエネルギー	バイオマスエネルギーの利用技術と課題、バイオマスエネルギーの利用事例
第13回	自然の温度を利用したエネルギー	地熱資源と地熱発電、海洋温度差発電
第14回	エコカーなど	(B)EVとFC(E)Vなどのエコカーのバラエティ、燃料電池の仕組みと種類、家庭用燃料電池、水素インフラ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の資料などを使用して予習・復習をすること。

次の内容を事前に学習して授業に臨むと良い。第1回：再生可能エネルギーの売電、第2回：再生可能エネルギーの種類、第3～5回：水の高さ・速さとエネルギーの関係、第6～7回：風力発電の時事問題、第8～10回：太陽光・太陽熱利用の時事問題、第11～12回：バイオマス利用の時事問題、第13回：地球内部と海洋の構造、第14回：エコカーの時事問題

本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる平常点80%：各種エネルギーの特性に関するレポート課題により、到達目標1～3の達成度を評価する。

授業への参加度による平常点20%：授業での学習状況を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

再生可能エネルギーには話題が豊富です。また、再生可能エネルギーのほとんどは、実は昔からあったということを実感して欲しいと思います。わからないことがあれば、メールでも構いませんので質問しましょう。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The topics in this course contain the fundamentals on resources and their conversions to energy used for power generations. Special attention is paid to the electricity generations using renewable resources such as hydropower, wind power, solar power, biomass fuel and geothermal power.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

- A. to learn about the relationship between the energy consumption and the environmental problems,
- B. to understand the characteristics of the renewable energy systems and
- C. to obtain the knowledge on the efficiency of the renewable energy systems as well as on the problems of the renewable resources.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to look over the forthcoming class content and to understand the content after each class. Your study time will be more than four hours for a class on average.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on reports for assignments (80%) and class participation (20%).

EAE300HA（環境解析学 / Environmental analyses and evaluation 300）

大気と社会 I

丸本 美紀

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環17：サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年地球温暖化に伴い気象災害が頻発するなど人間社会にさまざまな影響が出てきています。「大気と社会 I」では、日本の気象災害の事例を中心に、気候変動が人間生活にどのような影響を与えるのか、その歴史や気象災害の現状、要因について学んでいきます。

【到達目標】

1. 気候変動が人間生活にどのような影響を与えてきたのかを説明することができる。
2. 地球温暖化に伴い、どのような気象災害が増えているのかを理解することができる。
3. 防災の視点から、増加している気象災害に対して、どのような対策が必要なのかを自ら考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回資料を配布してパワーポイントで説明し、授業内にリアクションペーパーにてコメントを提出（ミニレポート）してもらいます。提出してもらったコメントについては、翌授業以降でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要説明、気候変動の歴史
第2回	歴史時代の気候変動①	奈良・平安時代の中世気候異常期と気象災害
第3回	歴史時代の気候変動②	奈良・平安時代の温暖期と人びとの生活
第4回	地球温暖化の現状①	世界と日本の気温上昇、地球温暖化の要因
第5回	地球温暖化の現状②	温室効果ガスの排出と自然エネルギー
第6回	地球温暖化と極端気象①	地球温暖化と猛暑
第7回	地球温暖化と極端気象②	地球温暖化と集中豪雨
第8回	地球温暖化と極端気象③	地球温暖化と台風
第9回	地球温暖化と極端気象④	地球温暖化と雪
第10回	その他の異常気象	異常気象の定義、エルニーニョ、ラニーニャ、突風害
第11回	地球温暖化の影響①	地球温暖化の生物への影響、生物季節観測
第12回	地球温暖化の影響②	地球温暖化の農業への影響
第13回	気象災害の構造、気象情報	気象災害の構造、気象情報の種類と問題点
第14回	まとめ、試験	授業のまとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。天気予報や新聞、インターネットなど身近な気象情報に関心を持っておくようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。各回、資料を配信します。

【参考書】

授業内で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、授業内のミニレポート+レポート+平常点（30%）

【学生の意見等からの気づき】

平常点も成績に反映するようにします。

【その他の重要事項】

防災士の資格を生かして、防災の視点も取り入れて、授業を行いたいと思います。

【Outline (in English)】

This course deals with climatic disasters in Japan and climatic impacts to the human environment concerning climate change. At the end of the course, students are expected to illustrate the feature of the issues on climate change, especially climatic disasters in Japan and impacts for human environment.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (70%), and short reports in each class (30%).

EAE300HA（環境解析学 / Environmental analyses and evaluation 300）

大気と社会Ⅱ

北川 徹哉

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環17：サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大気と社会Ⅰに引き続き、大気と人間、社会、都市との関係について網羅的に学ぶ。大気と社会Ⅱにおいては、主に大気と人の生活環境との関わりについて講義する。

【到達目標】

1. 大気運動による物質輸送と社会との関係について説明できる。
2. 都市あるいは地域の独特の大気の動きとそれが引き起こす災害や事故などについて説明できる。
3. 人間生活で利用している気流について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。また、質問は随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大気と人間環境	人の暮らしと大気
第2回	汚染物質の大気拡散	大気汚染物質の種類、広域大気汚染、気温と大気汚染
第3回	ストリートキャニオン	都市における沿道の景観、沿道大気汚染、地形が作る大気環境、大気汚染の環境基準
第4回	ヒートアイランド	ヒートアイランドの性質、都市キャノピー、クールアイランドからの冷氣放出
第5回	クリマアトラスと風の道	ドイツ・シュツットガルトの風の道、気候情報に基づく都市計画・環境計画、風の道をつくるには
第6回	飛砂、風食	地表層土砂の挙動、風紋、飛砂対策、砂漠の拡大
第7回	黄砂の飛来	黄砂の発生源、黄砂の飛来性状と被害、アメリカ・中東・オーストラリアなどのダストストーム
第8回	スギ花粉の飛散	スギ花粉の性質、花粉の観測方法、スギ花粉飛散状況と天候、アメリカ乾燥地域のタンブルウィード
第9回	住居環境と気流（1）	室内で発生する汚染物質、室内にいる人間からのCO ₂ 放出が室内環境に及ぼす影響、換気と通風の違い、換気施設と換気計画
第10回	住居環境と気流（2）	通風による室内環境の変化、人間の代謝と快適感・温冷感
第11回	火災と大気	都市計画法第9条、延焼と市街地火災、火災旋風（ファイヤー・トルネード）、火災の熱と大気

第12回	鉄道・自動車と大気	車両の形と転覆、強風による交通マヒ・事故、鉄道の運行規制とその発動回数減少のための対策、高速鉄道のトンネル微気圧波
第13回	農作物と大気（1）	受粉と気流、光合成と大気、気流による農作物の倒伏、飛来塩分による塩害
第14回	農作物と大気（2）	地域独自の大気特性を利用した農業、霜害とその防止、気温逆転層

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をすること。次の内容を事前に学習しておく。第1～3回：大気汚染物質の種類、第3～5回：都市の気候、第6～8回：砂粒子の大きさと形、第9～10回：屋内の空気管理、第11回：地震の2次災害、熱の種類、第12回：列車や自動車の形状・構造、第13～14回：地域の気候

本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる平常点80%：レポートの採点結果から、到達目標1～3の習得度を総合的に評価する。

授業への参加度による平常点20%：授業での学習状況を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

大気と人の生活に関する様々な話題を取り上げますので、楽しんで受講してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The atmosphere is closely related to human life and social systems such as industries and transportations, and it is important for us to study its characteristics so as to save the human life and society from disasters/sickness, and to create better urban/regional environments.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

- A. to learn about various types of air-transport phenomena such as air pollution, heat island, dust stream and sand drift,
- B. to study on the air flow relating the urban/regional topographical condition, the fire spread in urban areas and the train/vehicle accidents due to strong winds, and
- C. to obtain the knowledge on the ventilation of indoor air to remain the room environment safe and comfortable.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to look over the forthcoming class content and to understand the content after each class. Your study time will be more than four hours for a class on average.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on reports for assignments (80%) and class participation (20%).

PHY200HA（物理学 / Physics 200）

サイエンスカフェⅣ

渡邊 誠

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：物質とエネルギーの理解から環境問題などの考察へ
本科目は文系の皆さんに物理学という分野の内容について慣れ親しんでもらうための科目である。日常のありふれた現象を眺めることにより、物理学は、(1)我々の生活に密接に関連していること、そして(2)環境問題に直結しその本質的なところを理解するためには必須の内容であること、(3)社会課題を考察するためのベースとなっていること、などを「直感的に」学んでいく。物理嫌いの人や高校で物理を履修してこなかった人の受講を大歓迎する。もちろん物理を学んできた人も同様である。高校で習うような（難しい？）式を扱うことはほとんどしない。環境問題を考えるには「地球」というシステムとそこで行われている人間活動「人為」の特徴を「自然法則」に照らして理解する必要がある。この授業の目的はそれらの3つの内容を理解するための基礎的事項を学習することにある。

【到達目標】

物質とエネルギーに関する内容について学習する。物理学的な知識の修得は環境問題をはじめとして様々な社会的課題を考察するために必須であることが理解できるようになることをめざしている。具体的な目標としては次に示すとおりである。

- ・物理学の基礎事項を修得する。
 - ・様々な自然科学的単位について説明できる。
 - ・エントロピーの概念について説明できる。
 - ・物理学と環境問題などとの関係性について説明できる。
- なお授業内容に関係する分野は、運動と力・エネルギー、物質と熱現象、気体、波動、電流と回路、電界と磁界、原子と原子核などであり、高校物理の内容をほぼ網羅するものとなっている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面形式で授業を進めていく予定である。連絡事項等は学習支援システム上に表示する。視覚的教材をできるだけ多く取り入れながら授業を進めていく。授業資料を毎回事前に学習支援システムに掲載するので、資料を参照しながら受講してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本科目の内容について。なぜ物理は環境問題を考察するための基礎となるのか？
第2回	物体の運動とエネルギー	物体の運動、力学について。エネルギー保存則とは何か？
第3回	（力学の法則、エネルギーの概念と様々な単位、エネルギーの保存と散逸など）	ジュール（J）、ワット（W）などの基本的単位の超入門。

第3回	熱とエネルギーを理解しよう （エネルギーの種類と変換、地球に降り注ぐ太陽エネルギーの大きさを測る）	異なった形態のエネルギーと変換について。温度とは？ 比熱とは？ calとJについて。太陽定数の大きさと地球－宇宙の間のエネルギー収支を知ろう。
第4回	熱とエネルギーを理解しよう （気体の性質、エンジンなどの熱機関の原理を理解する）	気体の圧力、体積、温度などの関係（ボイル・シャルルの法則）を理解する。気象現象の考察。熱機関（熱から仕事への変換）と熱効率について。
第5回	熱とエネルギーを理解しよう （熱の伝わり方を見る、金属棒を伝わる熱＋空気の流れにより伝わる熱＋電気ストーブによる加熱）	伝熱の3形態「熱伝導」「対流」「熱放射」を理解する。地球システムと熱との関係は？ 人間活動と熱との関係は？ ヒートアイランド現象とどのように関係しているのか？
第6回	物質の三態と状態変化を理解しよう （氷の融解・水の蒸発と潜熱、地球上に存在する水の役割について）	物質の三態（液体、固体、気体）と相転移を理解する。状態変化に伴って出入りする潜熱の測定。地球上における水の大循環の役割は？ 生命体維持における水の役割は？
第7回	物質の三態と状態変化を理解しよう （水の密度と膨張率＋氷の密度と浮力、氷の融解現象について）	水の温度と体積との関係を理解する。水に浮かんだ氷の融解に伴う水位の変化を調べる。海水温の上昇と海面水位の上昇との関係は？ 氷山が融解すると海面水位は上昇するのか？
第8回	波の性質を知ろう （横波と縦波を観察する、自然の中に現れる様々な波を調べる）	横波と縦波、周期と振動数（周波数）、波長と振幅、波の重ね合わせなどの基礎事項を理解する。音や光の性質などの考察。地震波などの理解。
第9回	電気回路の性質を知ろう （電流、電圧、抵抗の超入門、抵抗線を通れる電流による熱発生（ジュール熱）について）	電気回路とオームの法則、キルヒホッフの法則などの理解。電力系統網における送電ロスとは何か？
第10回	磁石を使って電気を流そう&電池を使って磁石をつろう （電界と磁界について、発電機とモーターの原理を知る）	発電機とモーターのしくみを理解する。電磁誘導と発電の原理を理解する。電磁波とは何か？ 可視光線、赤外線、紫外線、電波、X線などは電磁波の仲間。
第11回	原子・分子を理解しよう （原子の構造とエネルギー、核分裂と原子力発電のしくみについての超入門）	原子核と電子、中性子と陽子、放射線と放射能、Bq(ベクレル)とSv(シーベルト)などについて。原子力発電、ウラン、プルトニウムなどに関する入門的解説。
第12回	物質・エネルギーの保存則と拡散則を知ろう （水と湯の間の熱移動＋水中に落とされたインク拡散などの現象からエントロピーの概念へ）	熱は高温側から低温側へ、インクは部分から全体へ拡散する。物質とエネルギーの「量の保存」と「質の劣化」の直感的理解。
第13回	物質とエネルギーの保存則と拡散則を知ろう （エントロピー論）	なぜLED電球は白熱電球に比べて省エネなのか？ エネルギー変換にはロス（損失）が生じる。エネルギーの最後の行き場は「熱」。人間活動をエントロピーから解釈する。
第14回	総括	講義内容を概観し、環境問題および社会の持続可能性について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料等を使用して必ず予習・復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。学習支援システムに授業資料を掲載します。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本科目では期末試験を行う予定です。また授業内においてレポートを提出してもらうことがあります。成績は期末試験の結果80%、提出されたレポートの充実度20%によって判定します。

【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をもちないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。

この科目は「環境モデル論I」「環境モデル論II」に関する基礎としても位置づけられています。環境問題の学習をより発展させていくためにもそれらを履修することをお薦めします。

【Outline (in English)】

(Course outline) Theme: Physical fundamentals for energy and materials In this course we learn fundamentals of physics. Features concerning energy and materials will be clarified with relation to environmental problems on the earth. The following themes will mainly be examined: the law of motion, the concept of energy, the units of energy and power, energy conversion, energy balance on the earth, heat and its capacity, the three states of substances, molecular dynamics for gases and liquids, thermal engine and the heat efficiency, thermal expansion of liquids and solids, the mechanism of thermal transference (conduction, convection, and radiation), phase transition among three states (melting, boiling, and sublimation), fundamentals of wave phenomena, electric circuit, magnetism and electricity, the structure of atomic nuclear and energy, the fission and radioactivity, the first and the second law of thermodynamics, etc. They are instances lectured in this course. (Learning Objectives) At the end of this class, we are expected to have the knowledge of fundamentals of physics. The concept of energy and materials is expected to be acquired in class. We will explain the meaning of units appearing in nature. The concept of entropy is necessary to be understood. Students will learn the mechanism of environmental problems from the viewpoint of physics. (Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours for preparation before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class. (Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with the term-end examination 80% and reports presented in class 20%.

ENV200HA（環境保全学 / Environmental conservation 200）

環境モデル論 I

渡邊 誠

配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：環コア：サ
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：環境基礎論として「地球」と「人為」を考える
モデルとは自然界や人間社会などで起きている現象、そこに働いている法則、様々な対象間の相互関係等を分析しそのエッセンスを人間にとって分かりやすく表現したものである。また人間活動などにおいて考えられる典型例や標準例、理想化された例などのことを指す場合もある。環境問題を考察するには、地球システムと人間活動の特徴を理解しそれらの関連性を分析することが必要である。地球上に生起する環境問題はどのような自然法則に支配されて（制約を受けて）いる結果なのか？ 本科目では物質とエネルギーという観点から「地球システム」と「人為」の特徴を把握し、それらを「定常開放システム」としてモデル化する。ライフサイクルアセスメントやエコロジカルフットプリントなどの具体的な環境指標についても触れることにより人間活動の特徴を調べていく。本科目の内容を通して眺めてみると、物質とエネルギーは量的に保存されるが質的に劣化する（空間的に拡散する）という特徴を意識することが環境問題を考察するための「鍵」となっていることが理解されるであろう。本科目は「物質循環」という現象や「持続可能」に関する社会的課題を科学的に考察するための基礎という位置づけになっている。

【到達目標】

地球システムとその上で行われている人間活動の特徴を科学的に考察するための背景を知ることをめざしている。具体的な目標は次に示す通りである。

- ・地球システムの概要について説明できる。
- ・自然界における物質循環（例えば炭素循環）のメカニズムについて説明できる。
- ・エネルギーの変換と効率について説明できる。
- ・物質・エネルギーに関する量の保存則と質の劣化則について説明できる。
- ・環境負荷の大きさを表す指標について説明できる。
- ・物質・エネルギーの観点から、社会の持続可能性の条件について考察できる。

本科目は環境問題を考察する上での基礎学であり必須の内容であるといえる。次の「授業計画」で述べている内容は少し難しい表現もあるが、それも履修しているうちに大分理解できるようになるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面形式で授業を進めていく予定である。連絡事項等は学習支援システム上に表示する。授業資料を毎回事前に学習支援システムに掲載するので、資料を参照しながら受講してほしい。また課題を出題した場合には、提出後の授業などにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本科目の内容について。関連する他の科目（サイエンスカフェⅣ、統計とデータ分析、環境モデル論Ⅱなど）の概要と本科目との関連性についての解説。
第2回	玩具「水飲み鳥」はどのようなモデルなのか？	資源として「水」を飲み、排出物として「水蒸気」を大気中に拡散させる水飲み鳥の運動のメカニズムについて。水という物質の「量の保存」と「質の劣化（消費）」についてのイメージをつかむ。そこには地球システムならびに人間活動の特徴が凝縮している。孤立系と開放系そして定常とは？
第3回	地球というシステムを眺める（宇宙から微生物までを考える）	太陽と地球そしてエネルギーを概観する。太陽定数と地球のエネルギー収支。光合成のメカニズムと食物連鎖。生態系と炭素・窒素などの物質循環。水の大循環と地球の放熱。生物（生産者、消費者、分解者）は物質循環に対してどのような役割を担っているのか？
第4回	物質と人為を考える（人間活動による物質とその移動について）	工業製品等の生産とその消費活動のプロセスを例にして、資源の採取から廃棄処分に至る過程を考察する。物質はどのように変化し最後はどこに行くのか？ 廃棄物を焼却処理すると減容化するが、はたして物質は消えて無くなったのか？
第5回	エネルギーと人為を考える（人間活動によるエネルギーの変化とその移動について）	エネルギー資源の採取から変換、利用に至るプロセスを考察する。エネルギーはどのように変換され、最後はどこに行くのか？ エネルギーは消費されるのか？ 消えて無くなるものなのか？
第6回	自然の法則と環境(基礎)	熱力学の第一法則、第二法則の文系版・超入門（その1）。これらの法則は「地球システム」、「人為」とどのように関係しているのか？ エントロピーとは何か？ 環境系のモデルとしての定常開放系について。
第7回	自然の法則と環境（発展）	熱力学の第一法則、第二法則の文系版・超入門（その2）。エントロピーが増大するとはどのようなことか？ ゴミ捨て場はエントロピーのたまり場。エントロピー増大の結果としての環境問題について。
第8回	ライフサイクルアセスメント（LCA）に見る人為の熱力学（基礎）	人間活動の特徴をLCAの立場から考察する。ライフサイクルとは何か？ インベントリ分析、システム境界などの解説。物質・エネルギーの保存則と拡散則はLCAではどのように表現されているのか？
第9回	ライフサイクルアセスメント（LCA）に見る人為の熱力学（発展）	製品やサービスに対する環境影響評価の具体例を用いて考察する。資源採掘、加工・変換、運搬、消費（使用）、廃棄、回収、処分などのプロセスと物質・エネルギーの流れについて。

第10回	エコロジカルフットプリントで環境負荷の大きさを測る（基礎）	人間活動による環境負荷の大きさをエコロジカルフットプリント指標で測る。資源消費・廃棄物等の量と土地面積への変換について。野菜の室内栽培（野菜工場）の環境負荷はどれくらいなのか？露地栽培と比べてどちらが負荷は小さいのか？
第11回	エコロジカルフットプリントで環境負荷の大きさを測る（発展）	人類のエコロジカルフットプリントの増大と地球の扶養力について。地球上で行われている人間活動の負荷はどれくらいなのか？地球は現在の人間活動を支え扶養する力を持っているのか？
第12回	持続可能性への考察（科学技術考）	資源量と廃棄物を受け取る空間の有限性（地球の有限性）から見た成長の限界について。自然界における物質循環と人工的な物質循環の考察。クローズド・ループ・インダストリは存在するのか？ゼロエミッションは可能なのか？そもそも永久機関は存在するのか？エントロピー増大則に伴う人為の「壁」について。
第13回	持続可能性への考察（熱力学考）	玩具「水飲み鳥」再登場。広い空間では動き続ける水飲み鳥だが、狭い空間に置くと動きが止まる。狭い空間で動きを持続させる方法はあるのか？エントロピーの増大と廃棄、そして循環と持続の考察へ。環境系のエッセンスを分析しモデル化する。
第14回	総括	講義内容を概観し、環境問題および社会の持続可能性について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料等を使用して必ず予習・復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じて学習支援システムに授業資料を掲載します。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本科目では期末試験を行う予定です。また授業内においてレポートを提出してもらうことがあります。成績は期末試験の結果80%、提出されたレポートの充実度20%によって判定します。

【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をもちないでください。この科目には環境問題を含めた社会の持続可能性を考察する上で大切な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。

本科目は「環境モデル論II」とは独立した科目ですが、内容的に関連していますので併せてその科目を履修することをお勧めします。また本科目に関する基礎的位置づけとして「サイエンスカフェIV」があります。もちろんこれも独立した科目ですが理解度をより高めるためにはそれを履修することもお勧めします。

【Outline (in English)】

(Course outline) Theme: Introduction to modelling of the earth system and human action. Aim of this course is to acquire the basic knowledge concerning environmental problems and sustainability of the earth. The scientific approach is schemed with thermodynamics. In order to consider the problems, we need to understand the mechanism of the earth system including energy balance and material circulation on it. Feature of human action is required to be examined with relation to natural law on it. This course mainly deals with the matter “energy and materials” which is analyzed through the law of thermodynamics appeared in the field of physics. We formulate the nature of the energy conversion and flow of materials on the earth. The earth system is modeled as one of the stationary-open systems. The techniques of the life-cycle assessment and the ecological-footprint are introduced here. In this course, we recognize that the concept is important for the first law of thermodynamics as energy conservation and the second one as quality consumption (i.e. entropy increment). This is valid not only for energy phenomena but also for material ones. (Learning Objectives) At the end of this class, we are expected to have the concept of the mechanism of the earth system and human actions based on the thermodynamics. We are expected to understand the life-cycle assessment and the ecological footprint. As actual examples of the objectives, students will explain the mechanism of the energy conversion and material circulation. We need to understand the concept of entropy increment and its discharge. The conditions for sustainable society will be discussed. (Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours for preparation before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class. (Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with the term-end examination 80% and reports presented in class 20%.

ENV200HA（環境保全学 / Environmental conservation 200）

環境モデル論 II

渡邊 誠

配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金5/Fri.5
備考（履修条件等）：環37：サ／定員制
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：環境基礎論として「共生」と「持続」を考える
本科目では持続可能とは何か？という問題を自然科学的な観点からより具体的に考えることをテーマとする。対象となる系が持続するということは、システムの時間経過に対する不変性（安定性）を意味するものである。その問題を考察するためには対象系の状態遷移の様子（時間発展、ダイナミクス）を調べることがひとつのアプローチとなる。本科目では、例えばウサギとヤマネコのような喰う者喰われる者の関係性をもとに個体数変動のシミュレーションを体験して考察する。それにより自然界の持っている「持続」のメカニズムを理解する。またこれに伴い「共生」することの意味についても考えていく。このほか、自然界において観察されている幾つかの現象や具体例を眺めてみることににより定常開放システムが持続していくための条件等を探ることにする。このためシステムダイナミクス（SD）手法の初歩的な事項を習得し様々な系の時間発展の様子を理解していく。フィードバック機構とその役割、時間遅れの影響などについて理解を深める。さらには持続可能性というテーマに対してエントロピー増大則などを含めた熱力学的考察をおこなう。

【到達目標】

自然界で観察される現象をコンピュータ上で再現し、その時間発展を追跡するシミュレーションを体験する。具体的な目標は次に示す通りである。
・EXCELの各種機能の利用法を習得し、これを高度（実務）利用することができる。
・システムダイナミクスの手法を理解し、これを応用することができる。
・ウサギとヤマネコのモデルに見る異生物種間の共生関係（捕食－被食関係）のメカニズムが説明できる。
・共生関係をもつ系の安定性（持続性）が考察できる。
・カオス、フラクタルの概念が説明できる。
本科目は環境問題を考察する上での基礎事項が多く含まれている。次の「授業計画」で述べている内容は少し難しい表現もあるが、それも履修しているうちに大理解できるようになるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

情報実習室に設置されているPCを利用しながら対面形式で授業を進めていく予定である。連絡事項等は学習支援システム上に表示する。また授業資料を毎回事前に学習支援システムに掲載するので、資料を参照しながら受講してほしい。
理系の内容が苦手だと思っている学生にこそ理解してもらえるような授業としたい。EXCELを利用するのダイナミクス・シミュレーションの例を紹介するので、これをもとに考察を進めていく予定である。EXCELをより高度利用したいと考えている方にとっても有意義な内容となるであろう。この授業では情報実習室を使用するため受講者数に制限を設けている。
授業内でレポート課題を出題することがある。それが提出された後の授業などにおいていくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明と受講者の決定について
第2回	EXCELラーニング（基礎）	表計算機能を中心にその使用法を習得する。
第3回	EXCELラーニング（発展）	表計算機能、グラフ機能、データベース機能の使用法を習得する。
第4回	成長の限界（基礎）	ローマクラブ「成長の限界」（1972）と世界モデルの紹介。人口、食糧、工業生産、資源消費量などの成長とその限界について。幾何級数成長（指数関数的成長）のメカニズムを銀行預金、利子返済などの具体的な例で体感する。
第5回	成長の限界（細菌増殖モデル）	細菌増殖モデルとそのシミュレーションについて。限られたスペースで増殖する細菌の増殖曲線（S字型曲線、ロジスティック曲線）にこめられた成長と限界のメカニズムの分析。細菌数増加と残されたスペース（資源、栄養）の減少との関係について。
第6回	生物と共生（捕食－被食のモデル）	捕食者と被食者（例えばヤマネコとウサギ）に関する個体数変動のダイナミクスについて。ロトカ・ヴォルテラによる捕食と被食（2種間）の競合関係と正・負フィードバックの効果の分析。自然界が持っている持続性のメカニズムを解析する。
第7回	生物と共生（捕食－被食の発展モデル）	捕食者と被食者の関係の拡張としての多種間の個体数変動のダイナミクスについて。3種、4種間の競合と持続性を解析する。
第8回	システムダイナミクス（基礎）	様々な問題の構造とその分析、原因と結果の因果関係の分析、シナリオの描画、モデルの検証などについて。SDで使用される記号とフローの描き方。レベル（ストック、状態）とレイト（流量）、フロー（流れ）、情報、コンバータ、ソース、システム境界等の概念と計算手法の習得について。
第9回	システムダイナミクス（発展）	具体例をもとにしたSD計算について。正と負のフィードバック（因果関係）ループの理解。その構造がシステムに与える影響（効果）を調べる。それにより「持続する」を考察する。
第10回	複雑系の世界（基礎）	複雑系とカオス理論について。決定論と確率論、初期値敏感性（バタフライ効果）と予測（不）可能性、ロジスティック写像とリターンマップなどの理解。決定論カオス（非線形力学）から社会を考察する。
第11回	複雑系の世界（発展）	複雑系とフラクタルについて。自己相似性、フラクタル次元などの理解とグラフィックスによる描画。自然界においてフラクタル構造はなぜ出現するか？などを考察する。株価の変動、地震のエネルギーなどもフラクタル分布。

第12回	エントロピーの概念	情報理論の紹介。情報量とエントロピーの概念、情報の価値・役割と確率について。エントロピーが最大になるとはどのようなことか？ エントロピーの直感的理解について。持続するということとの関係。
第13回	共生と持続可能な概念	本科目で見えてきたダイナミックスの特徴を熱力学的側面から浮き彫りにする。フィードバックと時間遅れ、多体間の競争・競合、非線形力学等のメカニズムとエントロピー論との関連性について。
第14回	総括	授業内容を概観し、環境問題および社会の持続可能性について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料等を使用して必ず予習・復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じて学習支援システムに授業資料を掲載します。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

この科目では、最終授業時に学習支援システムを通じて期末レポート課題を出題しますので、必ず提出してください。それ以前の授業時にもレポート課題を出題することがありますのでこれも評価に加えます。授業参加の積極性50%、提出されたレポートの充実度50%として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

自宅においてEXCELを利用することのできる環境があれば、予習・復習しやすくなります。

【その他の重要事項】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をもちないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。

本科目は「環境モデル論Ⅰ」とは独立した科目ですが、内容的に関連していますので併せてその科目を履修することをお勧めします。また本科目に関する基礎的位置づけとして「サイエンスカフェⅣ」があります。もちろんこれも独立した科目ですが理解度をより高めるためにはそれを履修することもお勧めします。

本科目は情報実習室を使用して授業を進めます。このため受講者数に制限を設けています。初回授業において受講者の選抜を行いますので、受講を希望する方は必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

(Course outline) Theme: Introduction to system dynamics and sustainability studies with computer simulation In this course we execute computer simulation for dynamical systems with interaction. Personal computers with software EXCEL are used in a computer-practice room. The number of students for this class is limited. Object of this course is to examine the conditions which realize the stable state for dynamical systems. By means of the simulation studies, we clarify the mechanism of sustainability for feedback systems. For instance we practically examine the population change of rabbits and wildcats in forest for a model system as the prey-predator relation. The symbiotic relationship is studied for the systems. (Learning Objectives) At the end of this class, students are expected to have the concept of the symbiotic relation among different species. Simulation technic for dynamical systems is obtained by means of EXCEL usage. The skills of computational processing are obtained in this class. Students will understand the concept of chaos and fractal phenomena as a description of nature in this class. (Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours for preparation before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class. (Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 50% and Mid- and End-term reports 50%.

GEO200HA（地理学 / Geography 200）

自然災害論

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈優〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

災害をもたらす可能性のある自然現象は繰り返して発生しており、将来も発生すると考えられる。防災力の高い持続可能な地域社会の構築に向け、多角的なアプローチが求められる。「何が」「どこで」「いつ」起こり得てその地がどうなるのか。人間社会は「その時」にどのように備えるか。自然災害のリスクとその低減に向けた取り組みを見つめなおす。

【到達目標】

自然災害リスクを決定づける要因を説明できる。
災害リスクを低減させる取り組みについて自然と社会の両面から具体的に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

前半は主に自然界のもたらすハザードを扱い、後半はそれを踏まえて人間社会の取り組みについて検討する。講義形式。図表等の資料も活用する。
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自然災害と防災	自然災害とは、自然災害リスク、防災とは
第2回	土地条件評価	地形、表層地盤、活断層
第3回	地震発生予測	地震とは、地震の起こる場所、地震発生繰り返しモデル、長期評価
第4回	地震災害の諸相（1）	地殻変動、地震動、液状化
第5回	地震災害の諸相（2）	地震火災、津波、津波火災
第6回	火山災害の諸相	活火山の分布、火山噴火とは、火砕流、山体崩壊、溶岩流、噴石、火山灰
第7回	気象災害の諸相	降水量とその季節性・地域性、豪雨と積乱雲、台風、高潮、大雪
第8回	土砂災害の諸相	斜面崩壊（表層崩壊・深層崩壊）、地すべり、土石流
第9回	土地利用と社会基盤（1）	災害危険区域、津波災害警戒区域、防潮堤、かさ上げ、高台移転、流域治水
第10回	土地利用と社会基盤（2）	耐震基準、活断層と土地利用
第11回	防災気象情報	災害種と予測可能性、伝達手段、特別警報、気象警報・注意報、緊急地震速報、津波警報・注意報、噴火警報・注意報
第12回	避難	避難情報、避難場所、避難所、警戒レベル

第13回	災害の歴史・災害経験の継承	記録と記憶、災害史、碑、災害遺構、活断層の保存
第14回	ハザードマップと防災教育	ハザードマップ、災害図上訓練（DIG）、津波と避難、学校、地域

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習を行う。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）・期末試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【Outline (in English)】

Natural phenomena that cause disasters have occurred repeatedly, and will also occur in the future. We have to improve our approaches in all aspects for building resilient and sustainable society. We examine sciences of natural disasters caused by earthquakes, tsunamis, volcanic eruption, heavy rain, and slope failures, and then discuss land use, social infrastructures, use of disaster information, evacuation, hazard map, and education, for reducing natural-disaster risk. Students should be able to do the followings by the end of the course: (1) to explain what determine the risk of natural disasters, and (2) to explain efforts to mitigate natural-disaster risk from the perspective of the natural environment and human society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports (30%) and a final exam (70%).

DES300HA (デザイン学 / Design science 300)

自然環境論Ⅳ

高田 雅之

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：環17：G,サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間活動との持続的な調和を探究するためには、地球規模から私たちの身近なところまでズームの効いた視点で自然環境を理解することが欠かせません。本講義では、地理的視点と生態系の違いの視点から、地球上の各地の自然環境及び野生生物について理解を深めるとともに、人間活動による影響とツーリズムなどを通して共生の可能性について学び、今後の人と自然との望ましい関係を考究することを目的とします。

【到達目標】

以下の4点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①生物地理とバイオーム（生物群の違い）の理解
- ②世界の各地域ごとの野生生物と生態系の特徴
- ③世界の各地域ごとの野生生物と生態系を取り巻く問題と人間との軋轢・共生
- ④生物や自然を対象としたツーリズムとその課題

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「生物地理とバイオーム」、「世界の各地域における生物多様性」、「世界の各地域における自然と人間との軋轢と共生」、「自然を対象としたツーリズムの可能性」などについて学びます。最近の話題やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、科学的な理解とそれに基づく生物多様性保全のあり方を考える能力を高めていきます。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義のねらいと進め方、地球視点でみる自然、生物地理とバイオーム
第2回	南米の自然	南米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第3回	中米の自然	中米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第4回	北米の自然1	北米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第5回	北米の自然2	北米の国立公園と生態系
第6回	ニュージーランドの自然	ニュージーランドの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第7回	オーストラリアの自然	オーストラリアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第8回	アフリカの自然	アフリカの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第9回	ヨーロッパの自然	ヨーロッパの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり

第10回	ロシア・中国・朝鮮半島の自然	ロシア・中国・朝鮮半島の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第11回	南～東南アジアの自然	南～東南アジアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第12回	極地の自然	極地の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第13回	海洋島の自然	海洋島の生物と生態系の特徴、人間活動との関わりなど
第14回	世界の自然とツーリズム	生物や自然を対象としたツーリズムの可能性と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

基礎的な知識や理解としてサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）を受講しておくことが望ましいです。人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand the wildlife and ecosystems on the earth from the viewpoint of geography and biome, and to learn about the impact to nature by human activities and the harmonization between human and nature in future.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境管理論 I

大野 香代

配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5
備考（履修条件等）：環コア：経,サ
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、PFAS（ペルフルオロアルキル化合物）に代表される残留性有機化合物やマイクロプラスチックによる水質汚染が国際的に注目されている。気候変動による豪雨や淡水の枯渇により利用できる水が減少しており、水危機の時代ともいわれている。人間は水が無いと生きていけないが、我々が日々安全で安心な水を利用するためには水源である河川や地下水を汚染しないことが重要である。日本は1960年代に水俣病に代表されるような甚大な産業公害を経験し、現在は水質保全のための法律が整備され、工場による法順守が徹底されることで公害防止が行われている。本講座では水質保全のために企業が行うべき水環境管理について学ぶ。具体的には、水質汚濁防止に関する法律、水質汚染の現状と発生源、水質汚染機構と健康影響、水の浄化技術と水質測定について学ぶ。

【到達目標】

水質汚濁防止に関連する法律や工場内における公害防止管理者の役割について理解する。工場から排出される汚染物質の種類とその処理方法について理解する。具体的には水質を管理するための指標となるBOD、COD、SS等の専門用語、凝集沈殿処理、活性汚泥法等の水処理の基本的技術の概要を理解する。実社会で役立つ環境技術と法令の実務スキルを養う。講義内で公害防止管理者国家試験の問題を解く訓練を行い、授業終段階では、水質概論及び汚水処理特論の問題を7割程度正解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

公害防止管理者試験水質1種及び2種に出題される問題が解けるレベルの水質概論、汚水処理技術及び水質測定の知識を効率的に取得するため、毎回、講師の作成したパワーポイントを用いて要点を絞った講義を行う。講義内で公害防止管理者国家試験の過去問題に挑戦することで、出題傾向を知り、解答テクニックを取得する。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	公害の歴史と公害防止管理者の役割	日本の環境問題の変遷と公害防止管理者法について学ぶ。
2	水質汚濁の発生源、汚濁機構、環境影響	水質汚濁の発生源と富栄養化、赤潮発生、生物濃縮、地下水汚染等の環境影響について学ぶ。
3	水質汚濁に関連する法律	環境基本法及び水質汚濁防止法について学ぶ。
4	演習1 公害防止管理者試験の演習	公害防止管理者試験の過去問題（水質概論の範囲）の演習を行う。出題傾向と対策について講義する。
5	汚水処理を学ぶための基礎知識	BOD、COD等の用語定義を学び、溶解度、酸とアルカリ、酸化還元、化学反応、錯体とキレート等の化学の基礎を復習する。

6	汚水処理1 排水処理計画、沈降分離	工場における水利用の考え方について学ぶ、排水の基本処理である沈殿分離について理解する。
7	汚水処理2 凝集分離と浮上分離	凝集分離及び浮上分離の原理と装置構成を学ぶ。
8	汚水処理3 ろ過分離、化学処理	砂ろ過の機構、中和、酸化還元、活性炭吸着等の各種物理・化学処理について学ぶ。
9	汚水処理4 生物処理法（活性汚泥法）	生物処理法の概要、活性汚泥法の原理や装置について学ぶ。
10	汚水処理5 生物処理法（嫌気処理法）	嫌気処理法の原理や装置について学ぶ。
11	汚水処理6 窒素及びリンの処理、汚泥の脱水	生物処理による脱硝脱窒方法およびリン除去技術、汚泥の脱水技術について学ぶ。
12	演習2 公害防止管理者試験の演習	公害防止管理者試験の過去問題（汚水処理技術の範囲）の演習を行う。出題傾向と対策について講義する。
13	水質測定	公害防止管理者試験に出題される、BOD及びCOD等の水質測定項目に的を絞り学ぶ。
14	期末テスト	本講座で学んだ、法律および排水処理、水質測定に関連する問題に関する理解度を確認するテストを行う。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。講義で配布するパワーポイントを講義前に学習支援システムにアップするので、ダウンロードして予習する。「新・公害防止技術と法規（水質編）」のテキストで講義に関連する箇所を予習、復習する。授業の予習は1時間、復習も2時間程度行うこと。

【テキスト（教科書）】

基本的に講義毎にパワーポイントの資料を配布する。

【参考書】

新・公害防止の技術と法規（水質編） （一社）産業環境管理協会 出版

【成績評価の方法と基準】

演習の講義で小テストを行う。その点数を20点満点とする。期末テストは80点満点とする。課題と期末テストの合計（100点満点）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

排水処理技術は化学式や計算が多く出てくるため、化学知識がゼロベースの学生にも分かりやすく、基礎から教えるよう心掛ける。講義内で大学教養レベルの化学の基礎知識について適宜、復習する。文系の学生にも興味を持ってもらえるよう、近年の水質汚染が社会に与える影響なども交えて講義を行う。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

講師は中国及びタイ、カンボジア、ミャンマー、カンボジア等の東南アジアにおいて、公害防止管理者制度及び公害防止技術の移転事業に18年携わっており、さらに、水質測定の日本産業標準規格（JIS）及びISO（国際標準化機構）において水質測定関連の規格開発を長年行っている。これらの経験を活かし、学生には、国内だけでなく、国際的視点で水質汚濁問題をとらえるような講義を行う。関連資格は公害防止管理者資格（水質）、関連する科目は環境法規、環境ビジネスなどである。

【Outline (in English)】

In recent years, water pollution by persistent organic compounds represented such as PFAS (perfluoroalkyl compounds) and microplastics has attracted international attention. Heavy rainfall and the depletion of fresh water due to climate change have reduced the amount of available water, and we are said to be in an era of water crisis. Humans cannot live without water, but in order for us to use safe and secure water on a daily basis, it is important not to pollute rivers and groundwater, which are the sources of water. Japan experienced enormous industrial pollution in the 1960s, as exemplified by Minamata disease, and now laws have been established to protect water quality, and pollution is being prevented through thorough compliance with the law by factories. In this course, students learn about water environment management that companies should implement to protect water quality. Specifically, students learn about laws related to water pollution control, the current status and sources of water pollution, water pollution mechanisms and health effects, water purification techniques, and water quality measurement.

The evaluation for this course is as follows: Students should perform a report assignment. Submission of the assignment can be worth a maximum of 20 points. The final exam is worth a maximum of 80 points. The grade will be based on the sum of the assignments and the final exam. You should spend about one hour preparing for class and two hours reviewing.

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境管理論Ⅱ

大野 香代

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考（履修条件等）：環コア：経,サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境管理論Ⅱでは、企業の生産活動により排出される大気汚染物質を抑制、管理するための関連法令や技術について学びます。国際的に脱炭素社会への変換が進む中、企業のESG（環境、社会、ガバナンス）への取組が益々重要視されてきています。企業は大気、水質、土壌の汚染防止、騒音振動防止、廃棄物管理等の公害防止に加え、二酸化炭素等の温暖化物質の排出削減に向け、様々な取組を行う必要に迫られています。

本講義では、大気汚染問題の原因や課題について、地球温暖化問題からPM2.5汚染まで幅広い内容を学びます。大気関連の法律体系や行政施策及び、硫黄酸化物やばいじん等の発生源やその処理技術、測定方法についての科学的な事柄等、企業における環境管理の基礎的知識を学びます。

公害防止管理者国家資格（大気）の取得を目指す学生にとっても基礎となる知識を取得することができます。

【到達目標】

近年の国内外の大気汚染問題について、その原因、対策、課題について理解する。環境基本法、大気汚染防止法等の大気関連の規制及び国の政策について知る。大気汚染物を発生する各種生産活動、大気汚染物物質の処理方法及び測定方法について理解する。企業における環境管理の活動について自ら調べ、各産業における課題と対策について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎週、シラバスに記載されているテーマに関する資料を配布し、講義を行う。2回程度課題を出すので、数名のグループでディスカッションを行い、レポートにまとめ、授業内で発表する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムで知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大気汚染の歴史と公害防止対策	日本の公害問題の歴史について学ぶ。企業の公害防止組織について学ぶ。
第2回	近年の大気環境問題（その1）	気候変動とエネルギー問題、環境関連の国際的な取組について学ぶ。
第3回	近年の大気環境問題（その2）	国内の大気の状態について、環境基準の達成率やPM2.5及び光化学オキシダント生成、水銀排出等の問題について学ぶ。
第4回	大気保全のための各種法律	大気に関する各種法律の概要（環境基準、排出基準等）を学ぶ。また、近年の日本の大気環境状況について学ぶ。

第5回	大気汚染の発生源及び発生メカニズム	大気汚染物質を発生する産業活動、大気汚染物質の種類と発生メカニズム。
第6回	アクティブラーニング 課題1	各業種における大気環境保全のための活動を調査し、その特徴をまとめる。SDGsの17のゴールとの関連についても考察する。
第7回	燃焼管理技術	カーボンニュートラル達成のための新技術について触れながら、日本のエネルギー事情について学ぶ。また、燃料の種類や効率的な燃焼管理及び熱回収等の省エネ技術について学ぶ。
第8回	硫黄酸化物の処理技術	排ガス中の硫黄酸化物の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第9回	窒素酸化物の処理技術	排ガス中の窒素酸化物及びその他の有害物質の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第10回	集じん技術	排ガス中のばいじんや粉じんの除去技術について学ぶ。
第11回	アクティブラーニング 課題2	企業の環境管理に関連する課題を出すので、それについて調査し、考察する。
第12回	大気のモニタリング技術と排ガス測定技術	大気の常時監視モニタリングの方法及び排ガスの測定方法について学ぶ。
第13回	排ガスの大気拡散	大気汚染物質の大気拡散について学ぶ。工場近隣への大気汚染物質の影響を知るための拡散モデルについて学ぶ。
第14回	期末テスト	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習は事前に配布された資料を読み、分からない用語等は事前に調べ勉強する。復習は講義で勉強した内容を講義資料を中心に復習し、分からなかった部分については、インターネットや関連文献を調査し、理解するようにする。さらに、興味のもったテーマについて、自分なりに調べ、より深く理解するように努める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

新・公害防止の技術と法規（大気編）の講義に関連するところを読んで学習する。授業の準備学習・復習時間は各2時間とする。

【参考書】

新・公害防止の技術と法規（大気編）発行所（一社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】

レポート2回の評価 各20(%)×2 期末テスト60(%)

【学生の意見等からの気づき】

化学式や数式が出てくると、難しく感じるとの意見が多いので、排ガス処理技術等の説明では、なるべく数式を使用せず、図を多用して視覚的、直観的に原理が理解できるよう、工夫することとする。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で配布した資料

【その他の重要事項】

担当教員はアジア諸国への公害防止管理のための技術及び法制度支援を10年以上行っている。また、水質や大気質の計測、環境マネジメント、環境ファイナンス、気候変動緩和・適応に関する国際標準規格（ISO）の国際エキスパートとして、規格策定を行っている。これらの実務経験を活かし、本講義では大気汚染に係る国内外の環境問題の最新動向を講義に織り交ぜることで、将来、企業において自ら考え、環境に配慮した経済活動が行えるような人材を育成する。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース、環境サイエンスコース

【Outline (in English)】

Course outline：

Environmental Management II, students learn about the relevant laws and regulations and technologies to manage the air pollutants emitted by corporate production activities. The transformation to a decarbonized society is accelerating. In this situation, ESG (Environmental, Social and Governance) initiatives of corporation are becoming more and more important. In addition to conventional pollution prevention measures such as air, water, and soil pollution control, noise and vibration control, and waste management, companies are now faced with the need to take various measures to reduce emissions of carbon dioxide and other global warming substances.

In this lecture, we will learn about the causes and issues of air pollution problems, ranging from global warming to PM2.5 pollution. In addition, students learn about the legal system and administrative measures related to air quality, as well as the sources of sulfur oxides and soot and dust, and scientific matters related to their treatment technologies and measurement methods.

Students aiming to obtain the national qualification for pollution Control manager (Air) can acquire basic knowledge.

Learning Objectives :

- To understand the causes, countermeasures, and issues regarding recent air pollution problems in Japan and abroad.
- To understand the Basic Environment Law, Air Pollution Control Law, and other air-related regulations and national policies.
- To understand the various production activities that generate air pollutants, and the treatment and measurement methods of air pollutants.
- To investigate the environmental management activities of companies and to think about the issues and measures in each industry.

Learning activities outside of classroom :

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy :

Each Report : 20(%) × 2 times

Term-end examination: 60 (%)

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

廃棄物・リサイクル論

山本 昌宏

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水5/Wed.5
備考（履修条件等）：環37：□,サ
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日々の生活や、あらゆる事業活動から生じる廃棄物について、これを適正に処理・リサイクルすることは、健全な社会活動を維持する上で不可欠である。しかし、急激な廃棄物の発生量の増加や処理・リサイクル困難な廃棄物の増加に伴い、自治体における埋立処分場のひっ迫や大規模な不法投棄事案の発生等が社会問題化し、これに対応するため制度の創設や改善が行われてきた。このような制度の変遷について理解し、課題解決の多様な取組について学ぶ。

さらに、脱炭素社会に必須となる循環型社会の実現について、循環型社会形成推進基本法に基づく多様な取組と、プラスチックの資源循環の取組を取り上げ、最近の取組の方向性について学ぶ。加えて、非常時（災害時）の廃棄物問題として、東日本大震災により生じた膨大な災害廃棄物の処理と、原発事故により生じた環境汚染への対応から、災害に対する備えの重要性について学ぶ。

【到達目標】

廃棄物処理・リサイクルを取り巻く課題と、課題解決のための多様な取組について理解する。
循環型社会、ひいては脱炭素社会につながる今後の資源循環の取組の方向性について理解する。
東日本大震災をはじめとする大規模災害への対応を通じて災害への備えの重要性について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行い、リアクションペーパーの提出があります。リアクションペーパーや講義時のコメントは、積極的に講義内容に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の全体構成と進め方、廃棄物・リサイクル関係法の基礎
第2回	ごみ・し尿処理の歴史	江戸時代から廃棄物処理法以前のごみ・し尿処理
第3回	市町村責任による一般廃棄物の処理と社会問題	一般廃棄物処理の制度と実態、施設の立地問題、埋立処分場の衛生問題・ひっ迫
第4回	各種リサイクル制度	容器包装、家電製品、食品廃棄物、建築廃棄物、小型家電製品等の各種リサイクル制度の導入
第5回	排出事業者責任による産業廃棄物の処理と社会問題	産業廃棄物処理の制度と実態、不法投棄・不適正処理の深刻化、有害化学物質問題
第6回	廃棄物処理法の改正と産業廃棄物処理問題の構造改革	不法投棄対策、排出事業者責任の強化等、社会問題に対応するための制度改正
第7回	PCB廃棄物問題への対応	特別措置法の制定と国によるポリ塩化ビフェニル（PCB）の無害化処理

第8回	循環型社会に向けた取組	循環型社会形成推進基本法の制定と循環型社会を目指す取組
第9回	プラスチック資源循環の推進	プラスチックの資源循環の取組と法制化
第10回	浄化槽と下水道	し尿・生活排水処理の取組（浄化槽による取組を中心に）
第11回	東日本大震災への対応	震災により生じた膨大な災害廃棄物の処理
第12回	福島第一原発事故への対応	放射性物質汚染廃棄物の処理、除染、中間貯蔵の取組
第13回	災害廃棄物対策の強化	東日本大震災以降の災害に備える取組
第14回	試験・まとめ	全体の振り返り、授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義を通じて興味を持った事項について、自ら関連情報を探し学習することを推奨します。講義のテーマに関して、参考となる図書等の情報を提供しますので、活用して下さい。

【テキスト（教科書）】

講義で使う資料は、学習支援システムにアップロードすることを基本とします。

【参考書】

環境・循環型社会・生物多様性白書
環境省五十年史（令和3年12月、補遺版 令和5年7月）
廃棄物行政概論 日本環境衛生センター
災害初動期指揮心得 国土交通局東北地方整備局
災害廃棄物管理ガイドブックー平時からみんなで学び、備えるー
廃棄物資源循環学会 編
その他講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー等による平常点40％、期末試験60％

【学生の意見等からの気づき】

2025年度授業のリアクションペーパーにおける意見、要望を参考に、講義資料及び講義内容の改善を行います。
リアクションペーパーにおける質問、感想については、できるだけ次回講義の中で補足説明を行います。

【Outline (in English)】

Regarding waste management and recycling, which are essential to maintaining healthy social activities, students will learn about the changes in the system to deal with various problems and the various efforts to solve problems.

SEE300HA（科学教育・（教育工学） / Science education/ Educational technology 300)

環境教育論

野田 恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースでは、環境教育とESD(持続可能な開発のための教育)について学び、持続可能な社会の実現において教育が果たす役割を理解することを目的とします。また、環境教育の具体的実践例や歴史について学びながら、持続可能な社会のために何が必要なのか、自分自身の考えを深めていきましょう。

今年度は特に「自然とかかわる環境教育（自然体験）」がテーマです。

【到達目標】

環境教育の目的やねらい、歴史的経緯、環境教育で扱われるテーマや主要な概念、教育方法について理解し、説明ができる。環境教育の現状や課題、可能性などについて複合的な視点を持ち、自分なりの考えを持てるようになる。

また、環境問題および環境教育・ESDを「自分とは無関係な知識」ではなく、自らの立場・経験・価値観と結びつけて捉え、批判的かつ建設的に評価できる力を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境教育の理論的基礎やさまざまな環境教育実践について学ぶ。授業形態は、講義のほか参加型（グループワークなど）を行う。詳細は、授業支援システムで連絡する。

リアクションペーパーや提出された課題に対しては、代表的なものをいくつか授業内で取り上げコメントすることでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義のねらい・進め方についての説明と導入
第2回	環境教育の基礎（講義）	環境教育についての基礎（定義・歴史・特徴および実践事例）
第3回	環境教育の変遷～知識教授から参加体験型へ	環境教育は、なぜ知識教授だけでなく参加体験型の方法をとるのか？
第4回	環境教育の実践例ー自然体験学習	自然とかかわりや自然を守る環境教育の事例を学ぶ
第5回	持続可能な開発のための教育（ESD）	持続可能な開発のための教育について解説
第6回	環境教育を「評価する視点」	最近の環境教育の特徴を紹介 良い環境教育とは何か、環境教育を評価するとはどういうことか考える
第7回	中間課題準備：環境教育施設を調べよう	環境教育施設を調べ、訪問し、発表の準備を行います
第8回	中間課題発表	第7回までに調べた環境教育施設について発表（プレゼン）を行う
第9回	環境教育を深める・1～持続可能な開発と環境正義	環境教育への理解を発展させる キー概念を学ぶ

第10回	ゲストスピーク「地域で取り組む環境教育の事例」	地域に根差した環境教育の意義や可能性を学ぶ
第11回	ソーシャルアクションワークショップ	環境問題を解決するアクション（行動）について考える
第12回	環境教育を深める～子どもの権利の視点から	子どもの権利の視点から、環境教育をとらえなおす
第13回	環境教育を深める～自然学校の事例から	教育と地域の持続可能性について実践事例を通じて考える
第14回	まとめ・論述試験	これまでの学びを総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。参考文献や配布する資料などを読み課題に取り組む。

環境教育施設を訪問したり、環境教育プログラムに実際に参加して、授業時間外にも積極的に学びを深めることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず授業内で資料を適宜配布・紹介する

【参考書】

『環境教育』日本環境教育学会編、教育出版
『環境教育学－社会的公正と存在の豊かさを求めて－』井上有一・今村光彦編
『持続可能性の教育－新たなビジョンへ－』佐藤学ほか編著、教育出版
『奇跡のむらの物語』、辻英之著、農文協
『知る・わかる・伝えるSDGs I』、阿部治・野田恵編著、学文社
『知る・わかる・伝えるSDGs II』阿部治、二ノ宮リムさち編著、学文社
『子ども白書2024』子どもを守る会編、かもがわ出版

【成績評価の方法と基準】

詳細はガイダンスおよび授業内で指示します。

・平常点：授業参加度、学習状況、授業内小テスト（5%×10回＝50%）

※授業内で、毎回（第6、7、8、14回は除く）コメントペーパー又は小課題を出します

・中間課題：環境教育施設を訪問しレポート、授業内（第8回）で発表する（35%）

※課題の内容と発表方法は、授業内で詳しくお知らせします

・最終論述テスト：第14回に、授業内で論述試験を行います。（15%）

※持ち込み可、スマホPC使用不可

授業のねらいが「自分なりの考えを持つこと」なので、生成AIの使用防止のため

対面授業内で論述試験に取り組む

【学生の意見等からの気づき】

グループワークが好評だったので、引き続き取り入れる。課題が多かった、文字制限が厳しかったという意見があったので改善する。

【学生が準備すべき機器他】

初回から授業支援システムにアクセスできるように準備しておいてください。

資料やお知らせは、WebClass経由で配布します。授業時間中にアクセスできるようにパソコンやスマホ・タブレットなども機器を準備してください。

【その他の重要事項】

受講生の要望や理解度をふまえて、授業計画や内容は変更することがありますので予めご了承ください。成績評価や課題について説明しますので、受講を希望する方は、第1回目の授業に出席するようにしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with the Environmental Education, and Education for Sustainable Development(ESD). you will learn about environmental education and ESD, understand the role of education for a sustainable society, and further deepen our own thoughts.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to explain the role and examples of Environmental Education and ESD.

【Learning activities outside of classroom Before/after】 each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Policies】 Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (35%), term-end examination (15%), and in-class contribution with comment sheet.

CAR200HA（キャリア教育 / Career education 200）

キャリア入門

櫻井 洋介

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、これから社会に出て自身のキャリアを形成していく学生が、自らの意思で自律的なキャリアを構築できるように、キャリアに関する必要な理論や基礎知識の習得を目指します。また、講義の後半には、自分自身のキャリアを考えてもらう機会を提供します。

【到達目標】

自らの意思で自律的にキャリアを形成していくため、キャリア論や労働環境に関する基礎知識を習得すること。自身のキャリア展望について、理論をもとに考察できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

前半は講義形式で進めます。受講人数にもよりますが、後半は個人ワークやグループワーク等を通じて、自身のキャリアについて考えていただき、個人発表またはグループ発表を行ってもらいます。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方等に関して説明を行う。
第2回	キャリアとは何か	キャリア概念の定義や特徴、キャリア研究のアプローチ方法等について学ぶ。
第3回	ライフサイクルと組織内キャリア形成	ライフサイクルの進展に合わせたキャリアの発達について学ぶ。
第4回	就職活動とインターンシップ	近年の就職活動の動向や求職市場にインターンシップ制度の役割等について学ぶ。
第5回	日本の雇用慣行と組織制度	日本の雇用慣行や変遷、組織制度について学ぶ。
第6回	伝統的キャリアから現代的キャリアへ	バウンダレス・キャリア、プロティアン・キャリアといったような現代的なキャリア観を学ぶ。
第7回	ワークライフバランスとメンタルヘルス	ワークライフバランスに関する近年の動向や労働者の価値観、企業の取り組み等について学ぶとともに、メンタルヘルスの重要性についても取り上げる。
第8回	キャリアの発達と自己実現	自身のキャリア発達が成功であると感じる要素は何か、先行研究等をもとに考える。
第9回	労働関連法規と労働者の権利	自律的にキャリアを構築していく上でおさえておくべき労働関連法規の基礎や、労働者としての権利（キャリア権等）について学ぶ。
第10回	持続可能なキャリア（サステナブルキャリア）とは	近年、注目を集めるサステナブルキャリアの概念について考える。

第11回	人と組織に関する現代的課題	人的資本経営の推進や最新技術の導入による働き方の変化、それによる労働者への影響等、人と組織を取り巻く現代的課題について考える。
第12回	自身のキャリアについて考える①（個人ワーク、グループディスカッション）	これまで学んできたことをもとに、自己理解のための個人ワークやグループディスカッションを通じて、自身のキャリアを考える。
第13回	自身のキャリアについて考える②（個人発表またはグループ発表）	個人あるいはグループで発表を行い、ディスカッションを実施する。
第14回	自身のキャリアについて考える③（個人発表またはグループ発表）	自身のキャリアについて考える③（個人発表またはグループ発表）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料や参考書等をもとに予習・復習をお願いします。毎回の講義の後に、予習箇所は指示します。また、個人発表やグループ発表に向けて、授業時間外にも準備をしていただくことになります。講義の最後に、ワークや発表の成果をレポートの形でまとめてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に教科書は指定しません。配布資料等をもとに講義を進めます。

【参考書】

柏木仁『キャリア論研究 補訂版』（文眞堂, 2020）

【成績評価の方法と基準】

平常点（講義やディスカッションへの参加、貢献）を20%、個人ワークやグループワーク等の成果発表を30%、レポート課題を50%とします（レポートは、個人ワークやグループワークの成果発表の内容をまとめて頂くことを想定しています）。

【学生の意見等からの気づき】

必要に応じて、プレゼンテーション発表の前に「プレゼンテーションの方法」に関する解説講義を行うこととします。

【その他の重要事項】

本講義の担当教員は実務家教員であり、これまで金融機関や政府関連機関、コンサルティングファーム等、様々な組織での勤務経験を有しているだけでなく、キャリアの過程で留学や社会人大学院の入学等も経験しています。講義では、教員自身のこれまでの経験も還元させていただくとともに、企業の実務や実態に即した講義を実施させていただきます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This lecture aims to provide students who are going to develop their own careers with the necessary theories and basic knowledge so that they can build autonomous careers on their own initiative. The lectures also provide students with an opportunity to consider their own careers.

【Learning Objectives】

To acquire basic knowledge of career theory and the working conditions in order to develop their own career autonomously on their own initiative.

To be able to consider their own career prospects based on the theory.

【Learning activities outside of classroom】

Please prepare and review based on the handouts and reference books. Preparation materials will be given after each lecture. In addition, students are expected to prepare for individual and group presentations outside of class time. At the end of the lecture, students will be required to write a report on the results of their work and presentations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

20% will be given for usual performance score (participation and contribution to lectures and discussions), 30% for presentation of individual and group work, and 50% for reports (the summary of the results of individual and group work).

ASS300HA（社会経済農学 / Agricultural science in society and economy 300）

食と農の環境学 I

西川 邦夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月1/Mon.1

備考（履修条件等）：環17：経、口、古

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、学生が現代日本の農業及び農業政策について、農業経済学・農政学の立場から理解することを目的とする。理論・実態・国際比較の視点から、多面的に日本農業・農政を理解することを目指す。経済発展段階が先進国段階に到達するとともに、メガFTAの締結等による貿易自由化が進む中で、農業という産業が国民・地域経済にどのような意義を持つのか、学生は学修する。

【到達目標】

学生が、①農業経済学・農政学の基本的な知識を身につけるとともに、②日本農業が抱える問題点や今後日本農業が向かうべき進路について自分の考えを持ち、③論理的に表現することができることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面形式による講義を実施する。不定期にリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プロローグ：農業問題と農業政策	経済発展が先進国段階に到達するとともに、貿易自由化が進む中で、日本農業が直面している問題と取るべき政策について理論的に解説する。
第2回	国際農産物貿易交渉の展開過程	1980年代のGATTウルグアイ・ラウンドから近年のFTAに至る過程を、世界経済の構造転換に注目しながら解説する。
第3回	TPP・日米貿易協定と日本農業	日本も参加したTPP及び日米貿易協定の交渉過程において、国内・国際的にどのような政治経済的特質が見られたのか検証する。
第4回	アメリカ農業の歴史と現状①	日本にとって政治的・経済的につながりが強いアメリカの農業について、歴史と現状を多面的に概説する。
第5回	アメリカ及びカリフォルニアの稲作	日本の稲作にとって潜在的な競争相手であるカリフォルニア州の稲作の実態と課題について、水問題への対応に注意を払いながら検討する。
第6回	アメリカ農業の歴史と現状②	アメリカの食料・農業問題を扱ったDVDを鑑賞し、第4～5回授業の理解を深める。

第7回	国際農産物市場と日本の食料安全保障	国際農産物市場の現局面と日本の農産物貿易の状況を開設するとともに、食料自給率と食料自給力に示される食料安全保障のあり方について考察する。
第8回	日本経済の動向と食料消費	日本経済の構造転換、及び家族関係の変化の影響を受けた家計と食料消費の関係を、主食であるコメを中心に考察する。
第9回	日本農業の構造変動と多様な担い手	農業構造変動の到達点と新たに登場してきた集落営農組織、農外企業の企業参入等の農業の担い手について、地域的多様性や農地制度改革に注目して検討する。
第10回	農業労働力の脆弱化と確保の課題	農業労働力が昭和一桁世代や団塊世代の高齢化・引退によって枯渇していること、新規就農者や外国人労働者等によって確保が試みられていることを説明する。
第11回	農業の多面的機能と生態系サービス	農業が発揮する経済的機能以外の様々な機能やサービスを、環境経済学の理論的フレームワークや実例を用いて解説する。
第12回	条件不利地域農業と農山村政策	農業の多面的機能を多く担いながらも、衰退と再生の動きが交錯する日本の農山村再生のために求められる政策について、近年の田園回帰の動向に注意を払いながら検討する。
第13回	エピローグ：現代日本の農業政策	これまでの講義の内容を総括するとともに、求められる政策について展望する。
第14回	授業内試験	授業内試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。学生は、授業の前にポータルシステムにアップされる講義資料を予め読んでおく、また授業後に見返しておく。また、授業中に紹介される参考書を読むことも推奨される。興味関心を養うために、学生は新聞で農業関係の記事があったら読んでおくことも望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。資料を事前にポータルシステムにアップするので、各自プリントアウト等をして授業に臨むこと。授業内では配布しない。

【参考書】

- ①田代洋一『農業・食料問題』、大月書店、2012年（本体2,600円＋税）。
- ②速水佑次郎・神門善久『農業経済論 新版』、岩波書店、2002年（4,200円＋税）。
- ④農林水産省『食料・農業・農村白書』（各年版）（www.maff.go.jp/j/wpaper/）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：100%（授業内試験を予定。実施方法は授業中に指示する）

【学生の意見等からの気づき】

実際の受講者に対して教室が広すぎ、学生との意思疎通が難しかった。機会があれば、小さい教室を利用したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料や連絡事項をポータルシステムにアップするので、定期的にチェックをすること。また、公開期限を過ぎた資料は再度アップしないので注意されたい。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This class aims that students become to understand the agriculture and agricultural policy of contemporary Japan which has arrived at the stage of developed countries from the perspectives of agricultural economics and agricultural politics. This class tries to understand various aspects of the agriculture and agricultural policy in terms of theory, history, current status and international comparison. Students can finally understand significances agriculture have as an industry under the stage of developed country and the progress of trade liberalization caused by mega FTAs.

[Learning objectives]

Students will be expected to 1) have basic knowledge of agricultural economics and politics, 2) have thoughts about issues and future directions of Japan's agriculture, and 3) be able to express them logically.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to study for two hours outside of classroom through reading class materials uploaded on the Hoppii.

[Grading criteria/policy]

Grading will be given based on term-end examination (100%).

ASS300HA (社会経済農学 / Agricultural science in society and economy 300)

食と農の環境学Ⅱ

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環17：経、口

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義で受講生は「食」と「農」からみた社会と経済の歴史を検討し、現代社会と未来を考える視座を得ることを目的とします。

【到達目標】

受講生はフィールドワークにもとづいた食と農の研究を中軸に据え、地理学、歴史学、人類学、社会学、民俗学などの知見と成果を加えた、多面的かつ複眼的な視点から、食と農と環境の関係の問題を考えることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

受講者からのリアクションペーパーを活用し、可能な限り、対話型の講義を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションー1番身近なSDGs	地球と人類の課題として「幸せ」と「豊かさ」を実現する社会について考える。
第2回	食と農の現代的課題	身近な現代的課題から食と農とSDGsについて考えるきっかけを得る。
第3回	環境を考える「環」の視点ー私たちは何者なのか	食するという行為をみつめると、どのような社会の様相が見えてくるのかを考える。
第4回	近世日本の食と農と環境ー下肥の世界	近世日本の人びと、食と農と環境の関係について考える。
第5回	近代日本における循環構造の再編ー都市化と疫病と衛生観	都市化と疫病と衛生観について考える。
第6回	戦後日本の環境行政ー清掃事業をめぐって	戦後日本の食と農と環境の関係を清掃事業から考える。
第7回	講義前半についてのオープンダイアログ	簡単なワークショップを実施する予定。
第8回	現代日本の食と農と環境ー「環」の世界は今	現代日本の現状を再考する。
第9回	食べものはどこから来たのかー「種子」から考える	現代の食と農について考える。
第10回	食べものとは何か（1）ー胃袋と社会	地域社会事業と食と農の関係について考える。
第11回	食べものとは何か（2）ー土と農業	戦後農政と農村について考える。
第12回	食べものはどこへ行くのか（1）ー食の再考	食べもの、食べること関わる現代社会の状況を把握する。

第13回 食べものはどこへ行くのか（2）ー食の可能性

食と農と環境の今後の展望を考える。

第14回 私たちはどこへ行くのか

講義内容を総括し、今後の課題を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義内容に関連する新聞記事、雑誌、小説、映画、ニュースなどに関心を持ち考察を深めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

- ・湯澤規子、伊丹一浩、藤原辰史編著『入門 食と農の人文学』ミネルヴァ書房、2024年
- ・湯澤規子『胃袋の近代ー食と人びとの日常史』名古屋大学出版会、2018年
- ・湯澤規子『7袋のポテトチップスー食べるを語る胃袋の戦後史』晶文社、2019年
- その他、随時紹介します。
- ・湯澤規子『ウンコはどこから来てどこへ行くのかー人糞地理学ことはじめ』ちくま新書、2020年
- ・佐藤大介『13億人のトイレー下から見た経済大国インド』角川新書、2020年
- ・真田純子・湯澤規子『地球のまかないごはんー食・農・風景をめぐる往復書簡』農文協、2026年

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）によって評価します。試験は持ち込み不可の筆記試験です。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な資料を用いた講義が好評でしたので、引き続き活用したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

◆Course outline

In this lecture, students will examine the history of society and economy from the perspective of "food" and "agriculture," with the aim of gaining a perspective on contemporary society and its future.

◆Learning Objectives

Students are expected to think about food and agriculture issues from a multifaceted and multifaceted perspective, based on fieldwork-based research in regional economics, as well as knowledge and results from geography, history, anthropology, sociology, and ethnography.

◆Learning activities outside of classroom

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Please pay attention to newspaper articles, magazines, novels, movies, news, etc. related to the lecture content and deepen your consideration. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

◆Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on reaction papers (30%) and final report (70%).

ASS300HA（社会経済農学 / Agricultural science in society and economy 300）

食と農の環境学III

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環17：サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史という縦軸、地域という横軸にもとづいて、地域の「食べものがたり」を知り、考える。「食」と「農」の関係を考える視座を共有し、持続可能な「環境」やこれからの社会について議論する。

【到達目標】

受講生は「食」と「農」をつなげて「環境」や「地域」の魅力を理解し、説明し、発想・構想・実践できる知識と能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

映像資料や受講者からのリアクションペーパーを活用し対話型の講義を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	食と農の「今」に関わるトピックを紹介する。
第2回	地域の「食べものがたり」	知っている、経験したことがある地域の「食べものがたり」について話し合う。
第3回	食を生み出す地域を歩く（1）	歴史・自然・技術を複合的に理解し、食と農と環境の関係を論じる。
第4回	食を生み出す地域を歩く（2）	歴史・自然・技術を複合的に理解し、食と農と環境の関係を論じる。
第5回	食と農の歴史をひもとく（1）	歴史的な視座から食と農を論じる。
第6回	食と農の歴史をひもとく（2）	歴史的な視座から食と農を論じる。
第7回	食と農のローカルとグローバルを再考する（1）	身近な事象から食と農のローカルとグローバルを考える。
第8回	食と農のローカルとグローバルを再考する（2）	身近な事象から食と農のローカルとグローバルを考える。
第9回	食と農をジェンダーで読み解く（1）	食と農に潜むジェンダーの問題を議論する。
第10回	食と農をジェンダーで読み解く（2）	食と農に潜むジェンダーの問題を議論する。
第11回	食と農の学びと探究をひらく（1）	食と農と環境を様々な分野へつなげて考える。
第12回	食と農の学びと探究をひらく（2）	食と農と環境を様々な分野へつなげて考える。
第13回	食と農の人文学としての環境学	これまでの講義内容をふまえて、現代的な社会課題について議論する。
第14回	まとめ	総括と展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料や指定教科書等を使用して必ず予習・復習をすること。

「食」や「農」に関わる新聞記事、雑誌、小説、映画、ニュースなどに関心を持ち、可能であれば実際に足を運んだり、食べたり、五感を通して体験してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

・湯澤規子『7袋のポテトチップスー食べるを語る胃袋の戦後史』晶文社、2019年

その他、随時紹介します。

・湯澤規子『胃袋の近代一食と人びとの日常史』名古屋大学出版会、2018年

・金田章裕『和食の地理学ーあの美味を生むのはどんな土地なのか』平凡社新書、2020年

・湯澤規子、伊丹一浩、藤原辰史編著『入門 食と農の人文学』ミネルヴァ書房、2024年3月刊行

・真田純子・湯澤規子『地球のまかないごはんー食・農・風景をめぐる往復書簡』農文協、2026年

【成績評価の方法と基準】

期末試験100％によって評価します。試験は持ち込み不可の筆記試験です。

【学生の意見等からの気づき】

食と農に関する身近な話題を入口にして、いくつかの基本的な理論を紹介します。やや難しい理論も分かりやすく伝えるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

◆Course outline

In this lecture, students will learn and think about the "food story" of the region based on the vertical axis of "history" and the horizontal axis of "region". We will share the perspective of thinking about the relationship between "food" and "agriculture" and discuss sustainable "environment" and future society.

◆Learning Objectives

Students will acquire the knowledge and ability to understand, explain, conceive, conceptualize, and practice the appeal of "environment" and "region" by connecting "food" and "agriculture".

◆Learning activities outside of classroom

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Be interested in newspaper articles, magazines, novels, movies, news, etc. related to "food" and "agriculture", and if possible, actually visit, eat, and experience them through the five senses. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

◆Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on the following criteria:100% for final examination.

ENV200

資源循環の社会実装学－国内資源循環の最前線－

中野 亮太

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、現代社会の喫緊の課題である「サーキュラーエコノミー（循環型経済）」の実現に向け、資源循環を単なる排出物処理という「コスト」としてではなく、企業の競争力を高める「戦略的資産」へと転換させる社会実装の手法を習得することにあります。具体的には、実社会の廃棄物がどのような法的・経済的メカニズムで資源化されるのか、その裏側にある最適解を、企業の実例を通じて多角的に考察していきます。また環境合理性と経済合理性を両立させる実務の思考プロセスを提示し、持続可能な社会を構築するための具体的な実践知を学生に提供することを主眼とします。本講義はエコモーション株式会社による寄付講座となります。

【到達目標】

企業活動においては、業種を問わず必ず廃棄物が発生する。本講義では、それらを資源として有効に活用する視点を身につけ、資源循環の観点から社会課題を捉える基礎的な思考力を養うことを目標とする。

また、こうした知識や視点は、学生が将来企業や組織で働く際にも実務的に役立つものとなる。

そのため、日本における資源循環産業の構造や社会的役割について基礎的な知識を身につけるとともに、企業活動や日常生活の中で発生する不要物がどのように管理され、資源として循環しているのかを理解する。さらに、資源循環の取り組みを社会の中でどのように活かすことができるのかを考える視点を身につけることを目指す。受講後は、本講義で得た知見を自身のキャリア形成に結びつけ、将来所属する組織において環境面・経済面の双方から資源循環を推進し、企業価値の向上につながる具体的な提案ができる人材となることを期待する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

本講義は講義形式を基本とし、資源循環に関する基礎的な概念や制度について解説するとともに、企業や自治体による具体的な取り組み事例を紹介しながら理解を深める。

授業では、小売業、物流業、リユース事業などさまざまな分野の事例を取り上げ、資源循環が実社会の中でどのように実践されているのかを学ぶ。また、一部の回では企業や関連分野の実務者をゲスト講師として招き、排出事業者側の視点から資源循環の取り組みについて紹介する。

授業は主に次の流れで進める。

① 導入

テーマに関する社会的背景や問題提起を行い、授業内容の位置づけを理解する。

② 講義

資源循環に関する制度、仕組み、産業構造などについて解説する。

③ 事例紹介

企業や自治体の具体的な取り組みを紹介し、実社会における資源循環の実践を理解する。

④ 振り返り

リアクションペーパー等を用いて授業内容を整理し、学生が主体的に考える機会を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	資源循環を学ぶ意義と本講義の目的（ガイダンス）	本講義の目的と全体の構成を説明する。私たちの社会では、企業活動の中で必ず廃棄物が発生している。本講義では、そうした廃棄物を単なる処理対象としてではなく資源として活用する視点を学ぶ。 また、企業の現場において資源循環の取り組みがどのように評価されているのか、実際の事例を紹介しながら、資源循環を理解することが企業活動にどのような価値をもたらすのかを考える。
第2回	資源循環産業の全体像 －社会インフラの基礎理解－	私たちの社会では、どれほどの廃棄物が発生しているのだろうか。本講義では、日本社会における廃棄物の発生量や処理の仕組みを概観し、一般廃棄物と産業廃棄物の違いを理解する。 また、廃棄物処理が社会インフラとしてどのように機能しているのかを学び、資源循環産業の役割について考える。
第3回	廃棄物概念の再定義と再資源化ビジネス －廃棄物と有価物の境界－	廃棄物と資源の境界がどのように決まるのかを考察する。 再資源化ビジネスの基本的な仕組みを解説し、廃棄物を単なる処理対象ではなく資源として捉える視点について理解する。 また、資源循環においてコーディネート機能が果たす役割について事例を通じて学ぶ。
第4回	資源循環における環境合理性と経済合理性 －循環ビジネスの成立－	資源循環の取り組みが成立するためには、環境的な意義だけでなく経済的な合理性が必要である。本講義では、環境合理性と経済合理性の両立という観点から、循環ビジネスが成立する条件を考察する。 資源回収やリサイクルの事例を通じて、環境政策とビジネスの関係について理解する。
第5回	地域の資源循環ステーション －小売業の果たすべき役割－	スーパーマーケットなどの小売業では、日々大量の廃棄物が発生している。 本講義では、小売業における資源の共同回収や再資源化の取り組みを事例から学び、資源循環の実践と目指す方向性について理解する。 （ユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス株式会社 北村智宏）
第6回	資源循環システムの構築と動静脈物流連携の意義 －大手物流企業の展望－	物流ネットワークを活用した資源循環の取り組みについて学ぶ。 製品を届ける動脈物流と廃棄物を回収する静脈物流の連携がどのように構築されているのかを事例を通じて理解し、物流企業が資源循環システムにおいて果たす役割について考察する。 （SGホールディングス株式会社 角本高章）

第7回	認識を改める、という視点 — 価値の再解釈 —	環境問題や資源循環を理解するうえで、既存の価値観を問い直す視点が重要である。本講義では写真家の視点から提示される事例をもとに、同じ対象でも社会的文脈によって価値が変化することを考察する。 資源循環においても「廃棄物」という概念が視点によって変わることを理解する。 (木村伊兵衛受賞作家 長沢慎一郎)	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 本授業のための準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。 【テキスト（教科書）】 適宜紹介する 【参考書】 適宜紹介する 【成績評価の方法と基準】 リアクションペーパー（30%）、期末試験（70%）を総合的に判断して決定する。 【学生の意見等からの気づき】 特になし 【学生が準備すべき機器他】 特になし 【その他の重要事項】 全体的な講義内容の変更はないが、ゲスト講師との予定調整により講義の順番が前後する場合があります。随時、授業支援システムを通じて連絡します。 【Outline (in English)】 Course Description This course explores practical approaches to implementing a circular economy, one of the key challenges of contemporary society. Rather than treating waste simply as a disposal cost, the course examines how resource circulation can be transformed into a strategic asset that enhances corporate competitiveness. This course is offered as an endowed course supported by Ecomotion Co., Ltd. Through case studies of major companies, students will analyze how waste is converted into resources through legal, economic, and operational mechanisms. The course highlights decision-making processes that balance environmental and economic rationality and provides practical knowledge for building a sustainable society. Learning Outcomes In any industry, business activities inevitably generate waste. This course aims to develop students' ability to view such materials as potential resources and to analyze social issues from the perspective of resource circulation. Students will gain a basic understanding of the structure and social role of the resource circulation industry in Japan and learn how materials generated through business activities and daily life are managed and circulated as resources. By the end of the course, students are expected to apply these insights to their future careers and contribute to resource circulation within organizations by proposing initiatives that enhance both environmental sustainability and corporate value. Evaluation Grades will be determined based on reaction papers (30%) and a final examination (70%). Preparation and Review Students are expected to spend approximately two hours preparing for and reviewing each class session. This course is offered as an endowed lecture course funded by Ecomotion Co., Ltd.
第8回	下取りと製品回収システム — 戦略的な資源循環 —	販売製品の下取りサービスを通じた回収システムの仕組みを学ぶ。家庭から排出される使用済み製品がどのように回収され、資源として活用されているのかを理解し、製品回収の社会的意義と課題について考察する。 (株式会社ジャパネットホールディングス、株式会社 MONOPLUS 盛田勇一)	
第9回	消費者行動と回収システム — 行動変容と資源循環 —	資源循環の実現には、消費者の行動が大きく関わる。本講義では店舗回収イベントなどの事例を取り上げ、消費者の行動変容を促す仕組みについて考察する。回収システムの設計と社会的意義について理解を深める。 (株式会社ハンズ 松崎充)	
第10回	資源の国際循環と中古品貿易 — Used In Japan の衝撃 —	日本で使用された中古品が海外市場で流通する仕組みについて学ぶ。 中古品輸出の経済性と社会的意義を理解するとともに、国際資源循環における課題についても考察する。 (GEEKS RETAIRING 矢内祥一朗、大河貿易 ムーンサロム)	
第11回	環境福祉と資源循環ビジネス — 循環産業と社会包摂 —	資源循環産業と福祉の連携について事例を通じて学ぶ。 リサイクルセンターでの分別作業などを通じた障がい者就労支援の取り組みを紹介し、循環産業が社会課題の解決に果たす役割について考察する。 (株式会社KPSホールディングス 先崎潤一、キッズパワー株式会社 中山豪)	
第12回	自治体における資源循環政策 — 地域循環の展開と課題 —	自治体が担う廃棄物処理の役割と課題について学ぶ。 粗大ごみや不燃ごみの処理、リユース促進の取り組みなどを事例に、自治体における資源循環政策について理解を深める。 (品川区清掃事務所 予定)	
第13回	国家戦略としての循環経済 — 資源経済安全保障 —	サーキュラーエコノミーの概念と企業戦略について学ぶ。 また国策としての循環産業とは何を意味するのか。資源安全保障や脱炭素政策など、近年の政策動向を踏まえながら、今後の日本の循環型社会の方向性とその大いなる可能性について考察する。 (株式会社エスプールブルードットグリーン 八林公平)	
第14回	期末試験	講義内容の理解度を確認する試験を実施する。	

OTR200HA（その他 / Others 200）

人間環境特論（東南アジアの仏教）

川本 佳苗

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の精神文化の根底には、仏教や神道に由来する宗教思想が脈々と流れていると言ってもよいが、現代において自身を仏教あるいは神道の信徒であると自覚する者は少ないであろう。その一方で、東南アジアでは日常生活の場で仏教の信仰と実践とが不可分の「生きた」宗教として見られる。

本科目では、今日「東南アジア」と呼ばれている地域のうち、タイ・ミャンマー・カンボジア・ラオスを含む大陸部の諸地域において主要な宗教となった「上座部仏教」（テーラワダ仏教）を中心として講義する。仏教の基本思想に触れるとともに、画像や動画などの視覚的資料を積極的に用いながら、現代東南アジアの社会課題と仏教との関わりを紹介していく。

本科目を通して、学生は世界の歴史における宗教の影響を理解するとともに、自身が暮らす日本社会における宗教の位置付けと東南アジアの仏教のそれとの違いを学ぶことができる。

【到達目標】

- ①東南アジア大陸部における上座部仏教の伝来・受容・定着の様相を説明することができる。
- ②上座部仏教国家の成立過程、国家・社会及び民衆の精神生活と仏教との関わりを説明することができる。
- ③上座部仏教文化と宗教に関連する現代問題を例に挙げるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心とするが、受講者が少数の場合はグループディスカッションの機会を取り入れる。

毎授業の始めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからの質問を取り上げる。

また、学生からの積極的な授業参加を奨励するため、以下を成績評価の対象とする。

①リアクションペーパーや課題において翌週の授業で紹介された優秀作

②口頭発表。3組（1組4名まで）

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	自己紹介・授業概要の説明・グラウンドルールの説明・アンケートを行う。
第2回	東南アジア概説	東南アジアの区分・地理概念・地理と風土を理解する。
第3回	仏教誕生の歴史	ブッダの生涯を理解する。
第4回	仏教の基本思想	十二縁起、初転法輪、四聖諦、中道、八聖道等の基本思想を学ぶ
第5回	仏教の物語	東南アジアの仏教美術や逸話の題材となる主要な物語を学ぶ
第6回	上座部仏教と国家形成：ミャンマー	ミャンマーの歴史における仏教の展開を学ぶ

第7回	上座部仏教と国家形成：タイ	タイの歴史における仏教の展開を学ぶ
第8回	上座部仏教と国家形成：カンボジア・ラオス	カンボジアとラオスの歴史における仏教の展開を学ぶ
第9回	戒律の文化	放生、布薩日など現代でも行われている仏教文化を学ぶ
第10回	ジェンダー課題	東南アジアにおける比丘尼復興運動、LGBTQ課題について学ぶ
第11回	瞑想の文化	大衆在家瞑想運動、マインドフルネス運動への展開を学ぶ
第12回	生命倫理課題	東南アジアの仏教における自死・安楽死・中絶への対応を知る
第13回	精霊・呪術の信仰	東南アジアにおける仏教と精霊信仰との関わりを知る
第14回	総括	試験に関する準備すべき注意点、総括を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容を復習し理解度を反映できるように、学生は4回の課題を提出することを求められる。

各課題は1～2時間で作成できる。

【テキスト（教科書）】

授業で使用する文献は適宜配布する。

【参考書】

- ・中村元『ブッダ伝 生涯と思想』KADOKAWA, 2015.
- ・中村元, 監修：前田専学『ブッダの生涯』岩波, 2017.
- ・監修：奈良康明・下田正弘『新アジア仏教史01 インド1』佼成出版社, 2011.
- ・監修：奈良康明・下田正弘『新アジア仏教史04 スリランカ・東南アジア』佼成出版社, 2011.

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点：28%
- ・小レポート課題4回：24%
- ・コメント・小レポートの優秀作：8%
- ・期末試験：40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業へのパソコン持込や授業中のオンライン環境の整備を推奨する。

【Outline (in English)】

It can be argued that Japanese spiritual culture is deeply rooted in religious concepts derived from Buddhism and Shintoism. Despite this, few people in modern Japan would consciously identify themselves as practitioners of either faith. In contrast, in Southeast Asian countries, Buddhist faith and practice exist as a "living religion," inseparable from daily life. This course lectures on the development of Theravada Buddhism, the majority religion in mainland Southeast Asia, including Thailand, Myanmar, Cambodia, Laos, and Vietnam. The curriculum covers the historical evolution of key Buddhist concepts and introduces contemporary Buddhist culture through the active use of visual materials, such as images and videos.

By studying these historical trajectories, students are expected to gain a deeper understanding of the distinct roles Buddhism plays in Southeast Asian societies compared to the Buddhism observed in their own Japanese context.

OTR200HA（その他 / Others 200）

人間環境特論（音楽人類学）

西浦 まどか

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界中の各地域には、必ずといってよいほど歌や楽器、踊りがある。人はなぜ、音楽をするのだろうか。本授業はこうした問いに迫る「音楽人類学」の入門的概論である。音楽人類学は世界中の地域文化を多角的に迫ってきた文化人類学の下位学問分野である。本授業は、受講生が音楽や生活に関する「当たり前」を問い直す視点と姿勢を獲得することを目的とする。このことは、このグローバルな現代社会において、さまざまな背景を持つ「他者」と協働する際に必ず役立つだろう。

【到達目標】

- ・音楽人類学の主要な理論や考え方について理解し、自分のことばで的確に説明することができる。
- ・多様な慣習や価値観と結びついた多様な音楽文化の存在を理解し、それらについて客観的に考察し、他者と議論を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を基本とする。講義は、オンライン投票ツールを用いた双方向型で進む。一部の授業では、グループワークや演奏体験学習を含む予定である。また毎回提出されるリアクションペーパーを重視し、重要なコメントや寄せられた質問等をピックアップして、翌週の授業時にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コース概要	授業の内容と進め方、文化人類学とは、音楽人類学とは
2	自文化中心主義と文化相対主義	自文化中心主義と文化相対主義の違い、音楽は世界共通言語か
3	記号	ソシユール記号学、パース記号
4	記号からみた音楽	音楽とアイデンティティ、音楽と政治
5	ミュージッキング	「ミュージッキング」
6	参与型音楽と上演型音楽	パフォーマンスの2分類、音楽のあり方と規範
7	儀礼と音楽	通過儀礼論、コミュニタス、秩序と儀礼
8	声と歌	「声の文化と文字の文化」、合唱と独唱
9	ことばとリズム	ことばの詩的機能、ヒップホップとシャーマニズム
10	楽器	楽器分類法、日用品の楽器化、一日用品の楽器化

11	踊りと身体	踊りと音楽の不可分性、音楽における身体性、リズム
12	障害と音楽	障害の医療モデル・社会モデル・文化モデル、ろう者の音楽経験、「音のない音楽」
13	遊びと音楽	遊びの4分類、遊びと文化、音楽における遊び性
14	総括	まとめと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。各回の最後に次回予告を行うので、次回講義時までに関連事例を各自調べてくること。また、復習として各自学んだことをまとめなおすこと。

【テキスト（教科書）】

本授業では教科書は使用しない。

【参考書】

各回の講義にて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業内でのオンラインツールへの投稿、発言、授業態度、リアクションペーパー）60%
 - ・期末試験40%
- ※なお、出席が授業全体の2/3に満たない場合、単位修得不可とする。

【学生の意見等からの気づき】

好評だったオンラインツールを今年度も活用する。聞くだけの講義ではなく、学生自らが主体的に参加できる時間をより多く確保したい。

【学生が準備すべき機器他】

随時オンラインツール上で投票・意見投稿が求められるため、インターネットに接続されたノートPC等を持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

質問等は授業中のオンラインツールまたは授業後に対面で受け付ける。まとまった時間の面談が必要な場合は、メールにて事前にアポイントメントをとること。教員のメールアドレスは、初回授業にて伝える。

【Outline (in English)】

Every region has its songs, musical instruments, and dances. Why do people engage in music? This course is an introductory overview of "the anthropology of music," which seeks to explore such questions. The anthropology of music is a subfield of cultural anthropology that examines regional cultures from multiple perspectives. This course aims for students to develop the mindset and attitude needed to critically reassess what they take for granted about music and their daily lives. This will undoubtedly be valuable when collaborating with individuals from diverse backgrounds in today's global society.

OTR200HA（その他 / Others 200）

人間環境特論（人口から考える持続可能な地域社会）

久井 情在

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半で人口学の基礎を学び、それを踏まえて後半で地方自治体における人口問題と対策について学びます。

【到達目標】

出生、死亡、移動といった人口学の基礎概念について理解し、将来人口推計の方法について説明できるようになるとともに、地域社会の持続可能性について、人口についての正しい理解に基づき議論できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を基本とします。1回の授業につき1～2回、講義内容を踏まえた問題を出し、回答する時間をとります（回答の提出を求めるかどうかは、初回の受講人数で判断し、指示します）。課題については、講義中に案内しますが、出題ならびに提出はHoppiiを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の全体像を示す。
2	世界と日本の人口問題	世界と日本の人口動向を見ながら、人口問題について学ぶ。
3	人口統計	日本においてどのような人口統計があり、どのように作られているのかを学ぶ。
4	人口構造	男女・年齢等で区分した人口の見方について学ぶ。
5	死亡	生命表や平均寿命など、死亡の人口学的分析に関わる概念について学ぶ。
6	出生	出生率の概念と少子化の現状について学ぶ。
7	国内人口移動	東京一極集中の話題を中心に、日本国内における人口移動の動向について学ぶ。
8	国際人口移動	世界の国際人口移動およびその中で日本の位置づけ、日本における外国人の現状、移民政策について学ぶ。
9	将来人口推計	将来人口推計の基本概念と、国立社会保障・人口問題研究所の行う全国将来人口推計、地域別将来人口推計について学ぶ。
10	地方消滅論と地方創生	2014年に提示され自治体関係者に衝撃を与えた「地方消滅論」と、それへの対策として始まった地方創生政策について学ぶ。
11	市町村制度と人口	市町村制度にとって人口がどのように位置づけられているのかについて、市町村制度の変遷を踏まえつつ学ぶ。

12	地方自治体による移住促進	地方創生の一環として地方自治体が行っている、大都市圏からの移住を促進する施策について学ぶ。
13	集落の人口問題	集落レベルでの人口減少・高齢化問題について、地域からの「撤退」という選択肢も踏まえつつ考察する。
14	試験・まとめと解説	期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業は、前回までの授業について理解していることを前提に行うので、毎回授業内容を復習してください。第9回の授業後には、将来人口推計に関連する課題を課す予定です。本授業の復習ならびに課題のための時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

河野綱果『人口学への招待—少子・高齢化はどこまで解明されたか—』中公新書、2007年。
その他の参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験80%、授業中に課す課題20%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

This course deals with the fundamentals of demography, population problems in local communities and policies against these problems in local governments.

The goal of this course is to understand fundamental demographic concepts such as births, deaths, and migration, to be able to explain methods for population projections, and to be able to discuss the sustainability of local communities.

Each class session assumes prior understanding of previous material, so please review the content before every class. Following Session 9, an assignment related to population projections will be assigned.

For review and assignments related to this class, we estimate approximately 4 hours each.

Grades will be determined based on the final exam (80%) and assignments given during class (20%).

OTR200HA（その他 / Others 200）

人間環境特論（住宅から考える持続可能な地域社会）

柳瀬 有志

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会経済情勢が変化中、住宅に求められる役割は多様化している。多発する自然災害、人口減・高齢社会、価値の多様化等、近年の重点テーマに焦点をあて、住宅から考える持続可能な地域社会のあり方について検討する。この授業は、担当教員の実務経験を活かし、学生が住まいやまちづくりの現場に触れながら、今後求められる住宅のあり方について学ぶことを目的とする。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・「住宅から考える持続可能な地域社会」を検討する基礎的知識を習得する。
- ・この授業で取り上げるテーマ毎の具体的な事例・事案の検討を通じて、学生が身近な自分たちの問題として捉え、向き合う姿勢・思考を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業方法は、配布資料とパワーポイントに基づく講義を中心とする。授業内で各テーマに関連する専門家等のゲストスピーカーとの意見交換等を行う。適宜、授業内において発言を求めながら、テーマに応じたリアクションペーパーや学生からの情報提供等も活用することで、双方向のコミュニケーションを図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション～社会経済情勢が変化中、住宅に求められる役割	近年の住宅施策の流れ・トピックを踏まえ、この授業で取り上げるテーマを明示し、持続可能な地域社会を支える住宅を考える視点を確認する。
第2回	災害からの復興と住宅整備について（その1）	東日本大震災、熊本地震、能登半島地震における住宅復興・生活再建の取り組みを検証し、被災者の住まいの再構築のあり方を検討する。
第3回	災害からの復興と住宅整備について（その2）	住民の意向把握、合意形成、計画の検討に至るプロセスを、原発事故で全町避難した自治体をケーススタディに検討する。
第4回	災害からの復興と住宅整備について（その3）	被災地を支える体制について、住民・専門家・自治体が連携する事例を取り上げ、そのあり方を検討する。（ゲストスピーカーとの意見交換等を予定）
第5回	空き家の循環活用と郊外住宅団地の再生について（その1）	空き家予備軍（高齢者の持家等）への対応として、不動産マーケットを通じた循環活用のあり方を検討する。

第6回	空き家の循環活用と郊外住宅団地の再生について（その2）	高度経済成長期に整備され、急激な高齢化と人口減少、空き家問題が深刻化する郊外住宅団地の再生について検討する。
第7回	空き家の循環活用と郊外住宅団地の再生について（その3）	郊外住宅団地の再生、空き家の循環活用について、住民・専門家・自治体が連携する事例を取り上げ、そのあり方を検討する。（ゲストスピーカーとの意見交換等を予定）
第8回	高齢者等が自宅で住み続けるための地域づくりについて	高齢者等への生活支援サービスのあり方について、地域住民等が連携して提供する全国の事例を通じて検討する。
第9回	住宅確保要配慮者等の住まいの確保について（その1）	住宅確保要配慮者の住まい等について検討する。
第10回	住宅確保要配慮者等の住まいの確保について（その2）	住宅確保要配慮者の住まい等について検討する。
第11回	住宅確保要配慮者等の住まいの確保について（その3）	住宅確保要配慮者の住まい等について、住民・専門家・自治体が連携する事例を取り上げ、そのあり方を検討する。（ゲストスピーカーとの意見交換等を予定）
第12回	地域の歴史と住まい環境について（その1）	身近な地域の歴史と居住環境や住まいの関係を考える。
第13回	地域の歴史と住まい環境について（その2）	身近な地域の歴史と居住環境や住まいの関係について、住民・専門家・自治体が連携する事例を取り上げ、考える。（ゲストスピーカーとの意見交換等を予定）
第14回	「住宅から考える持続可能な地域社会」まとめ	以上の13回までの授業を踏まえ、「住宅から考える持続可能な地域社会」を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、配布資料及びその他の参照資料に基づき、授業時間外の学習を行い、中間レポート等の課題に取り組むことが必要である（この授業の準備学習・復習学習は各2時間を標準とする）。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、中間レポート（40%）＋積極的な参加姿勢（20%）＋定期試験（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規開講のためなし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces to learn about The role of housing in building sustainable communities, by referring the practical aspects of housing and urban development.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to consider "sustainable communities, starting with housing.", and by using concrete examples, students will be able to see the issues as familiar to them and develop an attitude of thinking about them.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to study outside of class hours and work on assignments such as midterm reports. (Preparation and review will be 2 hours each)

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Midterm report (40%), Active participation (20%), Final report (40%).

OTR200HA（その他 / Others 200）

人間環境特論（現代ヨーロッパ社会と宗教）

和田 知之

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は宗教学という学問の基本的な考え方を身につけることを目的としています。

世界中の人々が来日したり、もしくは皆さんご自身が海外に渡航する機会が増えつつある現代において、宗教に対するリテラシーは異なる文化や価値観を持つ人々と共生する上で必要不可欠となっています。また現代の政治や社会において宗教が果たす役割は国や地域を問わず今もなお大きいといえるでしょう。しかしここで求められている宗教に対するリテラシーとは、単にそれぞれの宗教の教義を丸暗記することではありません。

この授業では、教員の専門地域であるヨーロッパの事例を扱いながら世俗化、政教関係、ライシテ、移民・マイノリティ、ナショナリズム、いわゆる「カルト」・「セクト」・「過激派」、ジェンダー・セクシュアリティ、宗教間対話、宗教と教育、宗教の自由といった現代の社会問題に関わるテーマを学習していきます。宗教についての学問的な視座を身につけることで、宗教が抱えている重要性や問題への理解を深めるだけでなく、比較を通じて皆さんが宗教に対するご自身の考え方や日本社会一般の通念を自己批判的に検討できるようになることを目指します。

【到達目標】

・宗教と現代社会の関わりについて、ヨーロッパの事例をもとに適切な言説・文章で批判的に論じることができる。

・宗教（社会）学の基本的な概念や宗教へのアプローチの仕方を説明し応用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進めますが、アクティブラーニング（ディスカッション）も適時設けます。また、リアクションペーパーへの回答やフィードバックを各回の冒頭に行います。個人が特定されないように配慮いたしますが（匿名・要約・一部情報を加工）、リアクションペーパーの内容が授業内で他の受講生の方にも共有される点はあらかじめご了承ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容と目標・目的。宗教学とはどのような学問か。
第2回	ヨーロッパ地域の概略	ヨーロッパ地域内の宗教分布と歴史的経緯の多様性。各国における「無宗教」や「世俗」の諸相。
第3回	世俗化	「宗教」・「世俗」概念の形成。ポスト世俗・宗教の公共化。宗教の衰退を前提とした従来の世俗化論の見直し。
第4回	政教関係	各国における政教関係の類型：国教型・公認宗教型・政教分離型。

第5回	ライシテ	政教分離政策として知られるフランスのライシテは現在に至るまで内実をどのように変化してきたのか。フランス国内の地域的多様性とライシテ。
第6回	宗教とナショナリズム	中東欧・南東欧地域における宗教とナショナリズムの結びつき。
第7回	移民・マイノリティの個別事例	ヨーロッパにおけるムスリムとユダヤ人の歴史的経緯および現状の概略。
第8回	移民・マイノリティの比較	ヨーロッパにおけるマイノリティとしてのムスリムとユダヤ人の相互関係、相違点、類似点。宗教の人種化。
第9回	「カルト」・「セクト」・「過激派」	「良い宗教」・「悪い宗教」の区別は成り立つのか。宗教学はこの問いに対してどのように考えてきたのか。
第10回	ジェンダー・セクシュアリティ	宗教学はジェンダーに対してどのように向き合ってきたのか。現在のヨーロッパにおけるフェミニズム的・クイアの宗教改革の動き。ジェンダー・オリエンタリズム。
第11回	宗教間対話	宗教間対話の類型：排他主義・包摂主義・多元主義。ヨーロッパ各国における宗教間対話の盛り上がり。宗教間対話の限界性と問題点。
第12回	ヨーロッパ各国における宗教と教育	宗教教育の類型：宗派教育・情操教育・知識教育。
第13回	宗教と教育における近年の変化・傾向	多文化主義から社会の結束を強調した宗教教育・教科書記述への転回。
第14回	宗教の自由 まとめ	宗教の自由を法や政治によって保障することの難しさ。「宗教」・「非宗教」の線引き。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。事前に下記の参考書を読んだり、授業後は配布資料を読み返すなどして、各回に登場する宗教学の用語や概念の定着に努めてください。

【テキスト（教科書）】

本講義では教科書を使用せず、各回に配布する資料に基づいて授業を行います。

【参考書】

・伊達聖伸編『ヨーロッパの世俗と宗教：近世から現代まで』（勁草書房、2020年）
https://opac.lib.hosei.ac.jp/opac/opac_details/?reqCode=fromlist&lang=0&amode=11&bibid=1400482092&opkey=B176122983915534&start=1&totalnum=6&listnum=4&place=&list_disp=20&list_sort=0&cmode=0&chk_st=0&check=000000

・伊達聖伸・渡辺優編『西洋における宗教と世俗の変容1：カトリックの伝統の再構成』（勁草書房、2024年）
https://opac.lib.hosei.ac.jp/opac/opac_details/?reqCode=fromlist&lang=0&amode=11&bibid=1400531982&opkey=B177027281392953&start=1&totalnum=3&listnum=2&place=&list_disp=20&list_sort=0&cmode=0&chk_st=0&check=000

・伊達聖伸・見原礼子編『西洋における宗教と世俗の変容2：イスラームの定着と葛藤』（勁草書房、2024年）

・伊達聖伸・見原礼子編『西洋における宗教と世俗の変容3：世俗の新展開と「人間」の変貌』（勁草書房、2024年）
https://opac.lib.hosei.ac.jp/opac/opac_details/?reqCode=frombib&lang=0&amode=11&opkey=B177027281392953&bibid=1400531847&start=1&bbinfo_disp=0

・伊原木大祐、竹内綱史、古荘匡義編『3STEPシリーズ 宗教学』（昭和堂、2023年）

https://opac.lib.hosei.ac.jp/opac/opac_details/?reqCode=fromlist&lang=0&amode=11&bibid=1400519944&opkey=B176119789460382&start=1&totalnum=1&listnum=0&place=&list_disp=20&list_sort=0&cmode=0&chk_st=0&check=0

・島蘭進、葛西賢太、福岡信吉、藤原聖子編『宗教学キーワード』（有斐閣、2006年）

https://opac.lib.hosei.ac.jp/opac/opac_details/?reqCode=fromlist&lang=0&amode=11&bibid=1020094492&opkey=B176119896649514&start=1&totalnum=2&listnum=0&place=&list_disp=20&list_sort=0&cmode=0&chk_st=0&check=00

・メレディス・B・マクガイア（山中弘、伊藤雅之、岡本亮輔訳）『宗教社会学：宗教と社会のダイナミクス』（明石書店、2008年）

https://opac.lib.hosei.ac.jp/opac/opac_details/?reqCode=fromlist&lang=0&amode=11&bibid=1020152699&opkey=B177020333181919&start=1&totalnum=1&listnum=0&place=&list_disp=20&list_sort=0&cmode=0&chk_st=0&check=0

・池澤優、藤原聖子、堀江宗正、西村明編『世俗化後のグローバル宗教事情 世界編Ⅰ』（岩波書店、2018年）

https://opac.lib.hosei.ac.jp/opac/opac_details/?reqCode=fromlist&lang=0&amode=11&bibid=1400448892&opkey=B177003510296626&start=1&totalnum=1&listnum=0&place=&list_disp=20&list_sort=0&cmode=0&chk_st=0&check=0

・池澤優、藤原聖子、堀江宗正、西村明編『政治化する宗教、宗教化する政治 世界編Ⅱ』（岩波書店、2018年）

https://opac.lib.hosei.ac.jp/opac/opac_details/?reqCode=frombib&lang=0&amode=11&opkey=B177003510296626&bibid=1400454374&start=1&bbinfo_disp=0

・星野英紀、池上良正、氣多雅子、島蘭進、鶴岡賀雄編『宗教学事典』（丸善出版、2010年）

https://opac.lib.hosei.ac.jp/opac/opac_details/?reqCode=fromlist&lang=0&amode=11&bibid=1020246044&opkey=B176119945652782&start=1&totalnum=4&listnum=0&place=&list_disp=20&list_sort=0&cmode=0&chk_st=0&check=0000

・世界宗教百科事典編集委員会編『世界宗教百科事典』（丸善出版、2012年）

https://opac.lib.hosei.ac.jp/opac/opac_details/?reqCode=fromlist&lang=0&amode=11&bibid=1400149468&opkey=B176119394173767&start=1&totalnum=4&listnum=1&place=&list_disp=20&list_sort=0&cmode=0&chk_st=0&check=0000

・田中雅一、川橋範子編『ジェンダーで学ぶ宗教学』（世界思想社、2007年）
https://opac.lib.hosei.ac.jp/opac/opac_details/?reqCode=fromlist&lang=0&amode=11&bibid=1020130124&opkey=B176120146559268&start=1&totalnum=24&listnum=5&place=&list_disp=20&list_sort=0&cmode=0&chk_st=0&check=00000000000000000000

【成績評価の方法と基準】

平常点と期末試験によって、総合的に評価します。

- ①平常点（リアクションペーパーなど）：40%
- ②期末試験：60%

この成績評価の方法に基づき、本授業の到達目標の60%以上を達成した方を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

各回の授業資料は学習支援システム上にアップロードするため、資料をダウンロードして授業内でもそのまま電子ファイル上でご覧になりたい場合は情報機器端末を持参することを推奨します。

【その他の重要事項】

本講義を受けるにあたり、授業内で取り上げる宗教やジェンダー・セクシュアリティの当事者が実際に他の受講生の方の中にいるかもしれないという自覚を持って臨むようにして下さい。この点に関しては教員の側も細心の注意を払った上で遵守に努めます。

【Outline (in English)】

This lecture aims at acquiring elementary knowledge of religious studies. Students are supposed to learn various themes in contemporary European societies such as secularisation, relationship between state and church, laïcité, migration and minorities, nationalism, so-called "cult"/"sect"/"extremist", gender and sexuality, interreligious dialog, religion and education, and freedom of religion. Through acquiring academic approaches to religion, students are expected to rethink their own bias and conventional ideas about religion in Japanese society critically and comparatively.

PHL200HA (哲学 / Philosophy 200)

現代思想と人間 I

竹本 研史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：現代社会哲学・思想（個人の自由と反差別）

私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。

そこで本講義では、現代社会思想の文献や各種作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。

今学期は、「個人の自由と反差別」をテーマに20世紀の思想を扱います。

【到達目標】

さまざまな学問領域において持続可能でインクルーシブな社会の実現のためにマイノリティと不平等の問題を考察していくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。

そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなうが、リアクションペーパー提出による質疑十次回授業での応答など、インタラクティブな授業になるように心がけます。

単に思想内容の解説だけではなく、当該文献の抜粋を配布したり、映像や写真などの視聴覚教材も用いたりする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、目的、進め方の説明
第2回	個人の自由と反植民地主義 (1)	実存と自由の問題——ジャン＝ポール・サルトルの思想 (1) : 『存在と無』と『嘔吐』を中心に (i)
第3回	個人の自由と反植民地主義 (2)	実存と自由の問題——ジャン＝ポール・サルトルの思想 (1) : 『存在と無』と『嘔吐』を中心に (ii)
第4回	個人の自由と反植民地主義 (3)	ライシテとフランス現代社会 (i)
第5回	個人の自由と反植民地主義 (4)	ライシテとフランス現代社会 (ii)

第6回	個人の自由と反植民地主義 (5)	実存と人種差別・植民地主義の問題 (I) ——ジャン＝ポール・サルトルの思想 (2) : 『ユダヤ人問題』、「黒いオルフェ」、植民地主義は一つの体制である」を中心に (a)
第7回	個人の自由と反植民地主義 (6)	実存と人種差別・植民地主義の問題 (I) ——ジャン＝ポール・サルトルの思想 (2) : 『ユダヤ人問題』、「黒いオルフェ」、植民地主義は一つの体制である」を中心に (b)
第8回	個人の自由と反植民地主義 (7)	実存と人種差別・植民地主義の問題 (I) ——ジャン＝ポール・サルトルの思想 (2) : 『ユダヤ人問題』、「黒いオルフェ」、植民地主義は一つの体制である」を中心に (b)
第9回	個人の自由と反植民地主義 (8)	実存と人種差別・植民地主義の問題 (I) ——ジャン＝ポール・サルトルの思想 (2) : 『ユダヤ人問題』、「黒いオルフェ」、植民地主義は一つの体制である」を中心に (c)
第10回	個人の自由と反植民地主義 (9)	実存と人種差別・植民地主義の問題 (II) ——フランツ・ファノン『地に呪われた者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に (a)
第11回	個人の自由と反植民地主義 (10)	実存と人種差別・植民地主義の問題 (II) ——フランツ・ファノン『地に呪われた者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に (b)
第12回	実存とフェミニズム (1)	実存・フェミニズム・老い——シモーヌ・ド・ボーヴォワールの思想 (1) : 『第二の性』、『おだやかな死』、『老い』を中心に (a)
第13回	実存とフェミニズム (2)	実存・フェミニズム・老い——シモーヌ・ド・ボーヴォワールの思想 (1) : 『第二の性』、『おだやかな死』、『老い』を中心に (b)
第14回	春学期のまとめ	春学期の授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布します。

【参考書】

参考文献については教場で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (100%)

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【その他の重要事項】

2016年度に「人間環境特論（西洋社会思想史I）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We examine historical understandings of the basic and essential concepts for the contemporary society, by the analyses of the philosophical texts, the movies, the arts and etc.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand of the basic and essential concepts for the contemporary society.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read philosophical texts and to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 100 %

PHL300HA (哲学 / Philosophy 300)

現代思想と人間Ⅱ

竹本 研史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：近現代社会哲学・思想（「規律と権力」、「記憶のエチカ、歴史のエチカ」）

私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。

そこで本講義では、現代社会思想の文献や各種作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。

今学期については、前半はミシェル・フーコーの思想を中心に、規律と権力の関係について考察します。後半は、私たちが、「記憶」と「歴史」をめぐる、過去の出来事を語るときにどのようなかたちで語るのか？、また、無数ある出来事と記憶とのどのような関係をもつのか？ などについて討究します。

【到達目標】

さまざまな学問領域において持続可能でインクルーシブな社会の実現のためにマイノリティと不平等の問題を考察していくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。

そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないますが、ご提出いただいたコメントシート提出による質疑+次回授業での応答形式を用いることで、インタラクティブな授業になるようにいたします。

思想系の授業ということで難しくはあるのですが、なるべく関連するような映像や写真などの視聴覚教材も積極的に活用していく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、目的、進め方の説明
第2回	権力と規律社会（1）	ミシェル・フーコー『狂気の歴史』、『監視と処罰』、『性の歴史』を中心に
第3回	権力と規律社会（2）	ミシェル・フーコーの講義録を中心に（1）
第4回	権力と規律社会（3）	ミシェル・フーコーの講義録を中心に（2）
第6回	境界の内と外	エティエンヌ・バリバールの市民権論
第7回	記憶と語り	長崎原爆の言説の変遷

第7回	全体主義批判と人間性の問題（1）	フランク・パヴロフ『茶色の朝』、フロリアン・ヘンケル・フォン・ドナースマルク『善き人のためのソナタ』などを中心に
第8回	全体主義批判と人間性の問題（2）	語りえぬものを語る——『ショアー』と表象の限界（Ⅰ）
第9回	全体主義批判と人間性の問題（3）	語りえぬものを語る——『ショアー』と表象の限界（Ⅱ）
第10回	全体主義批判と人間性の問題（4）	語りえぬものを語る——『ショアー』と表象の限界（Ⅲ）
第11回	全体主義批判と人間性の問題（5）	ハンナ・アーレント『全体主義の起源』、『エルサレムのアイヒマン』
第12回	全体主義批判と人間性の問題（6）	ハンナ・アーレント『人間の条件』、『革命について』
第13回	歴史的建造物の修復	ヴィオレ＝ル＝デュクの仕事
第14回	秋学期のまとめ	秋学期の授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布します。

【参考書】

参考文献については教場で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】

進捗と学生の理解度、双方を勘案して、シラバスの授業計画通りに進められるようにする。

【その他の重要事項】

2016年度に「人間環境特論（西洋社会思想史Ⅱ）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We examine historical understandings of the basic and essential concepts for the contemporary society, by the analyses of the philosophical texts, the movies, the arts and etc.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand of the basic and essential concepts for the contemporary society.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read philosophical texts and to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 100 %

CAR300HA（キャリア教育 / Career education 300）

キャリアチャレンジ

人間環境学部教員

配当年次／単位：1～4年／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、人間環境学部が協定を結んだ受入団体でのインターンシップ参加を通じて、その団体の活動内容とその背景を理解するとともに、キャリア形成に資する知識と経験を身につけることを目的とする。

【到達目標】

在学中に企業・行政組織・NPOなどで短期の就業を体験することでキャリア形成への意識を高め、卒業後の進路選択に資することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本科目は、人間環境学部が独自に連携する自治体やNPOなどの団体に派遣して行うインターンシップ型の科目である。学生は現地に行き、受入団体が用意する研修プログラムに参加する。現地での実習は夏期休暇中と春期休暇中に行い、授業期間中には学内で事前研修と事後研修を行う。なお、実習は、通常の大学での学習を妨げないことが条件となる（詳細は「履修の手引き」を参照）。

また、課題提出後には、授業内または学習支援システムにおいて、提出された課題の内容からいくつかポイントを取り上げ、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	キャリアチャレンジ説明会（春・秋セメスターで各1回実施）	履修を希望する場合、必ず出席しなければなりません。出席者の名簿が「履修希望者名簿」となり、この名簿に記載されていない場合、単位取得はできません。
第2回	キャリアチャレンジ・事前研修	キャリアチャレンジの内容についての事前研修を行います。内容については受け入れ団体によって異なります。
第3回～第12回	キャリアチャレンジ実習	受け入れ団体での研修。
第13回	キャリアチャレンジ・事後研修（1）	キャリアチャレンジの内容についての事後研修を行います。内容は受け入れ団体によって異なりますが、主に研修内容のプレゼンテーションを行います。
第14回	キャリアチャレンジ・事後研修（2）	事後研修会におけるプレゼンテーションを踏まえて、レポートの提出、および講評会を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習先の業種や業務の特色については、担当教員の指導のもと、参考文献や資料を用いた事前の情報収集を行い、実習の効果を高めることが望まれる。本授業における準備学習および復習の時間は、それぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

個別に指導します。

【成績評価の方法と基準】

- ①平常点（80％）
- ②レポート（20％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、参加した学生からの意見や要望を考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【その他の重要事項】

自治体が受け入れ団体の場合は、自治体職員をはじめ公的機関への進路を考えている学生に推奨し選考過程で優先するなど、想定する対象者を特定する場合があります。

「キャリアチャレンジ」は、「フィールドスタディ」、「人間環境セミナー」とともに社会と連携した科目であり、「選択必修科目」（6単位）の対象科目です。

【Outline (in English)】

◆Course outline

This is an internship program for the designated organization/institution. Students will be able to understand mission and activities of the organization/institution and to obtain necessary knowledge and experiences for the future career planning.

◆Learning Objectives

The goal is for students to experience short-term employment at companies, government organizations, NPOs, etc. while they are still in school to raise their awareness of career development and contribute to their career choices after graduation.

◆Learning activities outside of classroom

It is recommended that students collect information (reference literature and materials) in advance to enhance the effectiveness of the practical training with the guidance of the instructor in charge, including the industry and business characteristics of the training site. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

◆Grading Criteria /Policy

- ①Normal score (80%)
- ②Report (20%)

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

地域経済論Ⅱ

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環37：経、口

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では空間軸とともに時間軸を加えて、地域の経済を立体的に把握し、考える事を目的とします。地域の経済を考える具体的な事例は、①近代編（明治～戦前）、②現代篇（戦後～現在）に分けて紹介する。

【到達目標】

学生は、長期的な視野から、国土開発の歴史を概観し、「地域」や「地方」という概念がいかに登場し、その意味がどのように変遷しながら現在に至るのかを考えます。特に戦後の全国総合開発計画の歴史、高度経済成長期における地域構造の大転換、明治・昭和・平成の合併などが地域に与えた影響をふまえて、今、なぜ地域の経済を論じる必要があるのかを議論してみたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

地域や地方の構造や論理に関する歴史について学びます。受講者からのリアクションペーパーを活用し対話型の講義を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションーキミとボクとセカイとチイキ	新しい「地域主義」の時代について論じる。
第2回	「地域」とは何か	国内外の事例を紹介しつつ「地域」という概念と実態について論じる。
第3回	近代編1：繭と葡萄酒	山梨県のワイン醸造業の黎明期について論じる。
第4回	近代編2：米と花	愛知県の花卉産業の歴史について論じる。
第5回	近代編3：羊と大根	愛知県の毛織物業と地域社会事業について論じる。
第6回	近代編4：醤油と本	千葉県の醤油醸造業と社会教育事業について論じる。
第7回	キミとボクとセカイをチイキでつなぐには	近代編の総括と議論。
第8回	現代篇1：「地方（ちほう）」の誕生と全総	戦後の国土開発じぎょうと「地方の時代」の背景を考える。
第9回	現代篇2：海とサッカー	鹿島臨海工業地帯の開発について論じる。
第10回	現代篇3：湖とシジミ	むつ小川原開発計画の光と影について論じる。
第11回	現代篇4：電源開発とおやき	長野県の「味の文化財」と地域固有性への再評価について論じる。
第12回	現代篇5：桜と朝市	山梨県甲州市の地域づくりについて論じる。
第13回	「あたらしい地域主義」から考える地域の経済	担い手、組織、ネットワークなどについて近年の議論にふれる

第14回 まとめ

今、地方から経済を考える意義について議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各講義内容に関係のある情報を集め、考察を深めて下さい。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

- ・『在来産業と家族の地域史ーライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009年）
- ・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティー地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁
- ・「地域づくりの系譜ー山梨県甲州市の基六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁
- ・その他、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）によって評価します。期末試験は持ち込み不可の筆記試験です。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションペーパーを活用する講義方式です。自分自身の問題意識を深めることができたというリアクションがありましたので、今年度も引き続き実施したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

◆Course outline

In this lecture, we aim to understand and think about the regional economy in three dimensions. To achieve that, we focus on region and era. As examples for considering the local economy, we will introduce (1) modern edition (Meiji-prewar) and (2) modern edition (postwar-present).

◆Learning Objectives

From a long-term perspective, students will review the history of national land development and consider how the concepts of "region" and "local" emerged and how their meanings have changed over time to the present. In particular, I would like to discuss why we need to discuss the economy of regions now, taking into account the history of the postwar National Comprehensive Development Plan, the major changes in regional structure during the period of rapid economic growth, and the impact of the mergers of the Meiji, Showa, and Heisei periods on regions.

◆Learning activities outside of classroom

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture. The standard preparation and review time for this class is 30 minutes each. Gather information related to the content of each lecture and deepen your consideration.

◆Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on the following criteria: final examination (100%).

OTR200HA（その他 / Others 200）

人間環境特論（職業選択と自己実現）

才木 弓加

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一人ひとりが自分らしいキャリアを考え、納得のいく職業選択を行うための準備を行います。企業研究、自己分析に加え、人間環境学部での学びを就職活動でどう活かしていくかについて自らが考え、事前準備を進めていきます。就職活動がスムーズにそして有意義なものとなるよう講義を行います。

【到達目標】

キャリアについて考え、職業選択を行うために必要なことを理解し、人間環境学部での学びを今後の就職活動に活かせることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

就職活動の環境が大きく変化し、自己理解、企業理解が深く求められるようになります。本講義では2027年卒の就職活動の変化を具体的に示し、主として2028年卒以降の学生がスムーズに事前準備できるよう方法と進め方を説明します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方・就職活動の全体像
第2回	就職活動の状況について	就職活動の環境変化と求人倍率について
第3回	インターンシップについて	就職活動に重要なインターンシップについての理解
第4回	インターンシップ参加について	インターンシップと就職活動、選考のつながりについて
第5回	企業研究	確立されていない企業研究の方法論を学ぶ
第6回	自己分析①	自己理解の重要性を学ぶ
第7回	自己分析②	自己理解のための方法論を学ぶ
第8回	エントリーシートの意味と重要性	自己分析と企業研究の活かし方
第9回	ゲストスピーカー①	企業のSDGsに対する取り組みと採用活動について 「流通業編」
第10回	ゲストスピーカー②	企業のSDGsに対する取り組みと採用活動について 「製造業編」
第11回	ゲストスピーカー③	企業のSDGsに対する取り組みと採用活動について 「金融業編」
第12回	グループワーク・グループディスカッションについて	人間環境学部での学びの活かし方

第13回	企業の採用方法とポイント/ AIの活用方法	企業の採用活動の概要の説明と同学部先輩からの経験談/ 就職活動におけるAIの活用方法について解説
第14回	これからの就職活動に向けてのポイント	インターンシップ、企業研究、自己分析、エントリーシート、選考について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中、講義後に出された「企業分析シート」、「自己分析シート」などの課題を進める。

関連する話題について、常に意識を高く持って情報を収集する。

本授業の準備学習、復習時間は各2時間程度とする。

【テキスト（教科書）】

レジュメを学習支援システムで配布

【参考書】

① サプライズ内定、角川SSC新書、才木 弓加（著）、2012年

② 内定獲得の攻略法、Gakken、才木 弓加（著）、2024年

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：30%

期末レポート：70%

【学生の意見等からの気づき】

授業の後に配布するリアクションペーパーに、授業への感想や意見だけでなく各自の就職活動に関する疑問や質問を記入してもらい次の授業で回答したところ、学生から好評を得たので、今年も引き続き行います。

【その他の重要事項】

就職活動セミナー等の講師を務める傍ら、就職情報サイトでの動画等のコンテンツへの出演や、直接学生への指導にあたる。独自の指導方法は、徹底した自己分析を行うのが特徴。最新の就職活動のトレンドに適応した就職活動の指導にあたる。企業の採用コンサルティング等も担当。

受講した学生の就職活動に直結するような実務的な授業を目指す。

【Outline (in English)】

Outline and objectives:

This class is designed to give students the opportunity to plan and prepare for their career and employment futures on their own way. Students will learn how to make use of their college studies and experiences to prepare for the career building, as well as exploration of occupations and the self-assessment. This class will help your career building and make it meaningful.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to have completed the required assignments such as "Corporate Analysis Sheet" and "Self-Assessment Sheet" that will be issued during or after a class meeting in some cases. The preparation and review time for this class will each be approximately 2 hours.

Grading Criteria /Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 70%, Short report: 30%

BSP100HA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

人間環境学への招待

人間環境学部教員

配当年次／単位：1～2年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」は受講者が「持続可能な社会」に向けた実践的な解決策を模索する人間環境学部の学びの概要を理解し、人間環境学部における学びの基本的な姿勢、視座を得ることを目的としている。学部のカリキュラムや基本的なアカデミックスキルについて学び、持続可能性に関する様々な側面について講義を受ける中から、各学生が自らの学習の方向性を見極め、大学での学びをより充実したものにすることが狙いである。

【到達目標】

「持続可能な社会」に係わる多様な問題のメカニズムに関する知見を獲得しながら、実践的な解決策を模索するとともに、人間環境学部の学びのあり方を習得するための基本的な姿勢を身につける。人間環境学部における勉学の方向づけ（カリキュラム構成・コース制・研究会など学部の特色の理解）、人間環境学部における「専門性」（既存の学問分野の成果を活かしながら、分野の枠を超える総合的・学際的な思考）について、各コース科目を担当する教員の講義を通して理解する。多様な学問分野やアプローチ方法を学ぶ中で、自分の関心を明確にし、以後の本学部でのコース選択・科目選択のガイドとなる情報を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

学部の専門カリキュラムの構成とそのねらい、教育システムの特色などについて説明を行う。次に、大学生としての学びの作法について、その基本を学ぶ。その後、オムニバス形式（複数教員による講義）により、持続可能な社会を考えるためのさまざまなテーマに関して、多様な学問的アプローチから学ぶことの重要性を具体的に学ぶ。なお、以下の【授業計画】の詳細については開講時に改めて説明する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	人間環境学部における学び方（1）	人間環境学部とは、「人間環境学への招待」の概要
2	人間環境学部における学び方（2）	大学という環境・セーフキャンパス
3	人間環境学部における学び方（3）	カリキュラム・コース制・講義概要
4	人間環境学部における学び方（4）	語学学習・海外で学ぶことの意味・SCOPEと留学プログラム
5	人間環境学部における学び方（5）	レポートの書き方（理論編）・プレゼンテーションの基本（理論編）
6	人間環境学部における学び方（6）	就職関連ミニガイドンス・レポートの書き方（実践編）・プレゼンテーションの基本（実践編）・図書館ミニガイドンス

7	中間試験	これまでの内容を理解したかどうかをチェックする。
8	コースにおける学び（1）	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
9	コースにおける学び（2）	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
10	コースにおける学び（3）	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
11	コースにおける学び（4）	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
12	コースにおける学び（5）	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
13	コースにおける学び（6）	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
14	ワークシートを用いて自分の関心と所属コースとのマッチングを考える	これまでの授業の内容をふまえて自分がどのコースに所属すべきかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。次回授業の予告を行うので、関連文献・資料を読んだうえで出席する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

資料を適宜配布して使用する。

【参考書】

法政大学人間環境学部編，2022，『13歳からの大学講義——Beyond SDGs！』公人の友社。

小島聡・西城戸誠・辻英史編，2021，『フィールドから考える地域環境——持続可能な地域社会をめざして 第2版』ミネルヴァ書房。その他にも、各回講義において、担当教員より関連する文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（受講時のノートや課題の提出など）30%、中間試験35%、期末試験35%、で総合的に成績評価を行う。なお、期末試験は定期試験期間中に実施する予定である。やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。

【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし。この科目独自のアンケートを実施する。

【その他の重要事項】

【授業計画】については変更の可能性がある。開講時に改めて説明するので、第1回講義および学習支援システムでの連絡などを必ず確認すること。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course introduces an overview of the Faculty of Sustainability Studies, basic academic skills, and various approaches towards a sustainable society.

【Learning Objectives】

Through this course, students are expected to:

1. Understand the mechanism behind various issues pertaining to sustainability and consider practical solutions for them;
2. comprehend academic approaches (e.g., how the curriculum is organized, the characteristics of academic courses, and what seminars are), as well as the significance of specialization within the interdisciplinary faculty, through lectures by instructors with diverse backgrounds; and
3. clarify their own academic interests and gain knowledge that is essential to effectively select their academic course and classes.

【Learning Activities outside of Classroom】

Students are required to study before and after the class, using the materials introduced in class. Preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation (including the submission of reaction papers): 30%; Mid-Term Exam: 35%; Final Exam: 35%

BSP100HA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習

人間環境学部教員

配当年次／単位：1～2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループごとの意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。

第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、期末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習はクラス指定があります。学生が担当教員を指定することはできません。

【Outline (in English)】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

Students will be expected to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

Homework will be given as needed for research, collaborative research for presentations, resume preparation, etc. The standard preparation and review time for this class is 13 hours each.

Unless there is an unavoidable reason, no credit will be given for more than four absences. The evaluation criteria will vary depending on the instructor. Evaluation will be made comprehensively based on the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and the final report. The evaluation will be made comprehensively from the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and final reports.

COT100HA（計算基盤 / Computing technologies 100）

情報処理基礎

小林 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。
大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のためのWord/Excel、ゼミ発表等で必要となるPowerpointの基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。

インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義／実習後まとめのレポート作成を行っていく。

講義とあわせ、実習でスキルを身につけていく。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとWindowsの基本操作	1.ガイダンス 講義の概要／評価について／実習環境の解説／学内の環境について／スキルレベルの確認 2.Windowsの基本操作 ファイル操作、キーボード操作
第2回	情報セキュリティ基礎とネットワークの活用1	1.情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード 2.インターネット
第3回	ネットワークの活用2	インターネットの歴史と仕組み 1.電子メール Gmailの活用演習 2.オンラインストレージ Googleドライブの活用演習
第4回	ネットワークの活用3	1.情報検索 インターネットを利用した情報検索と活用演習 2.Googleの各種サービスと生成AIの活用 Googleトレンド等の活用、生成AIの活用と留意点

第5回	ネットワークと情報セキュリティ	1.ソーシャルメディアSNSとトラブルについて 2.情報セキュリティ 安全なネットワークの活用
第6回	文書作成演習-入力・編集とファイル操作	1.Word基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2.基本的な文書作成と保存演習 ページ設定、保存、エクスポート
第7回	文書作成演習-図表の活用	1.書式設定演習 書式設定、印刷設定 2.図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成
第8回	文書作成演習-長文の編集・書式	1.ヘッダとフッタ、インデント、各種入力支援機能 2.長文作成支援機能演習 レイアウトと目次、表紙作成
第9回	プレゼン資料作成の基本演習	1.Powrpoint基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2.資料作成の基礎 プレゼン資料のまとめ方
第10回	プレゼン資料作成の応用演習	1.スライドの効果演習 スライド切り替え/アニメーション効果 2.Powerpoint活用演習 配付資料の作成
第11回	表計算演習-基本的な概念と書式	1.Excelの基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2.書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集・印刷
第12回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1.数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2.参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数
第13回	表計算演習-さまざまな関数	1.応用関数演習 論理関数、文字列操作関数、アンケート処理等で使用頻度の高い関数
第14回	表計算演習-グラフの作成と書式の応用	1.グラフ作成演習 一般的なグラフの作成 2.書式の応用 条件付き書式と入力規則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず復習をすること。
ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につけにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。
講義／実習内容については復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

必要に応じて参考書とwebサイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用(20%)、文書作成(30%)、プレゼン(20%)、表計算(30%)のレポート課題により成績評価を行う。
インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。
文書作成については指定された様式でWordの機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。
プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。
表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。

日常的に使用できるパソコン・ネットワーク環境があることが望ましい。OSやアプリケーションのバージョン等は必ずしも実習室環境と同じである必要はない。

資料配付・課題提出は授業支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。

この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learn about information processing skills(MS Word, Power-Point, Excel, and Security).We focus on the basic skills required for the student.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Use the Internet to collect information and conduct research.

Create documents using charts and graphs.

Create basic presentation data.

Create basic spreadsheets and graphs.

【Learning activities outside of classroom】

Review the content introduced in the lecture repeatedly until you have mastered it.Your required study time is at least four hour for each class meeting.

【Grading criteria】

Grades will be based on report assignments for Internet use (20%), document creation (30%), presentations (20%), and spreadsheets (30%).

COT100HA（計算基盤 / Computing technologies 100）

情報処理基礎

小林 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。
大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のためのWord/Excel、ゼミ発表等で必要となるPowerpointの基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。

インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義／実習後まとめのレポート作成を行っていく。

講義とあわせ、実習でスキルを身につけていく。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとWindowsの基本操作	1.ガイダンス 講義の概要／評価について／実習環境の解説／学内の環境について／スキルレベルの確認 2.Windowsの基本操作 ファイル操作、キーボード操作
第2回	情報セキュリティ基礎とネットワークの活用1	1.情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード 2.インターネット
第3回	ネットワークの活用2	インターネットの歴史と仕組み 1.電子メール Gmailの活用演習 2.オンラインストレージ Googleドライブの活用演習
第4回	ネットワークの活用3	1.情報検索 インターネットを利用した情報検索と活用演習 2.Googleの各種サービスと生成AIの活用 Googleトレンド等の活用、生成AIの活用と留意点

第5回	ネットワークと情報セキュリティ	1.ソーシャルメディア SNSとトラブルについて 2.情報セキュリティ 安全なネットワークの活用
第6回	文書作成演習-入力・編集とファイル操作	1.Word基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2.基本的な文書作成と保存演習 ページ設定、保存、エクスポート
第7回	文書作成演習-図表の活用	1.書式設定演習 書式設定、印刷設定 2.図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成
第8回	文書作成演習-長文の編集・書式	1.ヘッダとフッタ、インデント、各種入力支援機能 2.長文作成支援機能演習 レイアウトと目次、表紙作成
第9回	プレゼン資料作成の基本演習	1.Powrpoint基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2.資料作成の基礎 プレゼン資料のまとめ方
第10回	プレゼン資料作成の応用演習	1.スライドの効果演習 スライド切り替え/アニメーション効果 2.Powerpoint活用演習 配付資料の作成
第11回	表計算演習-基本的な概念と書式	1.Excelの基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2.書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集・印刷
第12回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1.数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2.参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数
第13回	表計算演習-さまざまな関数	1.応用関数演習 論理関数、文字列操作関数、アンケート処理等で使用頻度の高い関数
第14回	表計算演習-グラフの作成と書式の応用	1.グラフ作成演習 一般的なグラフの作成 2.書式の応用 条件付き書式と入力規則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず復習をすること。
ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につけにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。
講義／実習内容については復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

必要に応じて参考書とwebサイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用(20%)、文書作成(30%)、プレゼン(20%)、表計算(30%)のレポート課題により成績評価を行う。
インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。
文書作成については指定された様式でWordの機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。
プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。
表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。

日常的に使用できるパソコン・ネットワーク環境があることが望ましい。OSやアプリケーションのバージョン等は必ずしも実習室環境と同じである必要はない。

資料配付・課題提出は授業支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。

この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learn about information processing skills(MS Word, Power-Point, Excel, and Security).We focus on the basic skills required for the student.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Use the Internet to collect information and conduct research.

Create documents using charts and graphs.

Create basic presentation data.

Create basic spreadsheets and graphs.

【Learning activities outside of classroom】

Review the content introduced in the lecture repeatedly until you have mastered it.Your required study time is at least four hour for each class meeting.

【Grading criteria】

Grades will be based on report assignments for Internet use (20%), document creation (30%), presentations (20%), and spreadsheets (30%).

COT100HA（計算基盤 / Computing technologies 100）

情報処理基礎

松本 倫明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンを用いた基本的な情報処理を学ぶ。とくに大学生活で必要な情報処理技術の習得に重点を置く。

【到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. Microsoft Office Word を用いて学術的なレポートを執筆する技術を身につけることができる。
2. Microsoft Office Excel を用いてデータの集計とデータの可視化の技術を身につけることができる。
3. Microsoft Office PowerPoint を用いてプレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Web の情報検索を効率的に行うことができる。
5. 生成AIを効果的に利用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方に関する説明をする。
第2回	パソコン操作の基礎のおさらい	パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第3回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。
第4回	Excelの基本	Excelの基本的な操作方法を学ぶ。簡単な表を作成する。
第5回	Excelの応用：表計算（1）	Excelを用いて表計算を行う。例題に沿って操作方法を学び、課題を行う。
第6回	Excelの応用：グラフによる可視化	Excelを用いてグラフを作成し、データを可視化することを学ぶ。
第7回	Wordの基本	Wordの基本的な操作方法を学ぶ。
第8回	Wordによるレポートライティング：基本	Wordによるレポートライティングの基本を学ぶ。
第9回	Wordによるレポートライティング：図と表の活用と相互参照	レポートライティングにおける図と表の活用方法と、相互参照の操作方法について学ぶ。
第10回	Wordによるレポートライティング：課題	レポートライティングの技術を用いて、課題を行う。
第11回	PowerPointの基本	PowerPointによるプレゼンテーション資料作成の基本を学ぶ。

第12回	PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成	PowerPointによるプレゼンテーション資料作成の課題を行う。
第13回	WWWによる情報検索	WWWにおける効率的な情報検索を学ぶ。
第14回	AIの利用	AI（とくに生成AI）の仕組みを理解し、効果的な利用方法や注意点を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】

WWWを通じて教材を配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題(70%)と平常点(30%)を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

この授業は概ね好評である。

【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室を使用する。大学から配布されたIDとパスワードを用意すること。

【その他の重要事項】

初心者・初級者を対象に授業を進める。毎回の授業の積み重ねにより、徐々に高度な事柄を学習するため、欠席すると授業についてこれなくなるので注意すること。
この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては履修の手引きおよび掲示やガイダンスで案内する。

【Outline (in English)】

Course outline: Basic computer operations.

Learning objectives: Students learn basic skills to operate PCs. We focus on the skills required in campus life.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Assignment submissions (70%), class participation (30%).

COT100HA（計算基盤 / Computing technologies 100）

情報処理基礎

渡邊 誠

配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2
備考（履修条件等）：定員制
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンによる情報処理と実務を学ぶ
本科目では現代社会において身につけておくことが必要な情報リテラシーを修得する。PCおよびネットワークの基礎的事項と利用技術、情報倫理とセキュリティなどについて学習する。また各種統計資料などの検索法とその利用のための学習を通してデータを活用する力を修得する。さらには企業などの組織のストラテジ（戦略）とマネジメント（管理）に関する内容についてもIT技術との関わりをふまえて学習する。これらにより現代社会について主体的に考察するために必要な知識と技術を獲得する。

【到達目標】

- ・WordおよびExcelによる文書作成および表計算に関する技法を習得し、レポートおよび論文の作成ができる。
- ・PowerPointの利用法を習得し、効果的なプレゼンテーションができる。
- ・Webによる情報検索法を習得し、各種調査に役立てることができる。
- ・情報セキュリティの基礎事項を習得し、コンピュータ・ネットワークを安全に利用することができる。
- ・ITシステムとテクノロジー（情報処理の理論）、ストラテジ（組織の戦略）、マネジメント（運用・管理）の基礎事項について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

情報実習室に設置されているPCを利用しながら対面形式で授業を進めていく予定である。連絡事項等は学習支援システム上に表示する。また授業に必要な資料などについても学習支援システムで提示する。
授業では各種ソフトウェア（OS、ワープロ、表計算、プレゼンテーション、ブラウザなど）の利用法について解説する。またPCの原理と構造、ネットワークとシステム構成、システムに対する脅威・脆弱性に対策などに関する基礎事項について学習する。その他、ITシステムと企業活動、経営戦略と業務分析、システム開発と運用法などについても学習する。なお、これらは情報処理技術者試験「ITパスポート」に関連した内容となっている。
授業内でレポート課題を出題することがある。それが提出された後の授業などにおいていくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明、情報実習室の利用法などの解説
第2回	文書作成と編集（文書作成）	Wordによる文書作成、書式の指定、各種メニューの利用法
第3回	文書作成と編集（図表の活用）	Wordによる図表の活用、描画ツールなどの利用法
第4回	文書作成と編集（実務へ向けての利用と応用	Wordに関する様々な応用法、レポートライティング

第5回	表計算（表計算と関数利用）	Excelの操作法と表作成、各種関数の利用
第6回	表計算（セル参照法と分岐構造）	Excelにおける相対参照と絶対参照、分岐関数と多分岐構造
第7回	表計算（データベース機能）	Excelにおけるデータベース機能の活用と図・グラフの作成
第8回	表計算（実務へ向けての利用と応用）	Excelに関する様々な応用法
第9回	プレゼンテーション（資料の作成）	PowerPointの基本操作、プレゼン資料の作成と編集
第10回	プレゼンテーション（図表・画像の利用）	PowerPointにおける図表と画像・動画などの利用、プレゼン練習
第11回	情報検索と分析（データ収集と分析）	ブラウザ利用法と効率的な情報検索法、統計資料などの検索とデータ収集、各種統計データなどの分析とその活用
第12回	ITシステムとテクノロジー（システムとネットワーク、コンピュータ）	PCの原理と構造、データ表現とビット・バイト、インターネットとLANのしくみ、セキュリティ対策など
第13回	ITシステムとストラテジおよびマネジメント（コンピュータと業務、システム管理）	企業活動と業務分析、品質管理手法、システム開発と運用・管理、テスト・保守と信頼性など
第14回	総括	授業内容のまとめとレポート出題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習してください。またレポート提出のための準備を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。学習支援システムに授業資料を掲載します。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

この科目では、最終授業時に学習支援システムを通じて期末レポート課題を出題しますので必ず提出してください。それ以前の授業時にもレポート課題を出題することがありますのでこれも評価に加えます。授業参加の積極性50%、提出されたレポートの充実度50%として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

あまり急がずにできるだけゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

自宅においてWord、Excel、PowerPointを利用することのできる環境があれば、予習・復習しやすくなります。

【その他の重要事項】

この科目では受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照してください。

【Outline (in English)】

(Course outline) Theme: Introduction to information processing and application to practical business This course is to learn skills concerning information processing and communication techniques by use of personal computers in a practice room. The number of students is limited for this class. We learn the utilization techniques not only for WORD, EXCEL, POWER POINT but also for communication tools such as browsers and mail systems. Fundamentals are lectured concerning network systems and their related matters. We learn strategy and management techniques for practical business. The ethical treatment for communication systems and security management are studied. This course is partially based on the curriculum of “Information Technology Passport Examination” held by Ministry of Economy, Trade and Industry of Japan. (Learning Objectives) At the end of this class, students are expected to have the knowledge of fundamentals in IT area. The skills of information processing are acquired by use of WORD, EXCEL and POWER POINT tools with a personal computer. We obtain fundamental knowledge for security management of computer systems. Students will have penetrating consideration about the role of IT in our society. (Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours for preparation before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class. (Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 50% and Mid- and End-term reports 50%.

COT100HA（計算基盤 / Computing technologies 100）

情報処理基礎

渡邊 誠

配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3
備考（履修条件等）：定員制
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンによる情報処理と実務を学ぶ
本科目では現代社会において身につけておくことが必要な情報リテラシーを修得する。PCおよびネットワークの基礎的事項と利用技術、情報倫理とセキュリティなどについて学習する。また各種統計資料などの検索法とその利用のための学習を通してデータを活用する力を修得する。さらには企業などの組織のストラテジ（戦略）とマネジメント（管理）に関する内容についてもIT技術との関わりをふまえて学習する。これらにより現代社会について主体的に考察するために必要な知識と技術を獲得する。

【到達目標】

- ・WordおよびExcelによる文書作成および表計算に関する技法を習得し、レポートおよび論文の作成ができる。
- ・PowerPointの利用法を習得し、効果的なプレゼンテーションができる。
- ・Webによる情報検索法を習得し、各種調査に役立てることができる。
- ・情報セキュリティの基礎事項を習得し、コンピュータ・ネットワークを安全に利用することができる。
- ・ITシステムとテクノロジー（情報処理の理論）、ストラテジ（組織の戦略）、マネジメント（運用・管理）の基礎事項について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

情報実習室に設置されているPCを利用しながら対面形式で授業を進めていく予定である。連絡事項等は学習支援システム上に表示する。また授業で必要な資料などについても学習支援システムで提示する。
授業では各種ソフトウェア（OS、ワープロ、表計算、プレゼンテーション、ブラウザなど）の利用法について解説する。またPCの原理と構造、ネットワークとシステム構成、システムに対する脅威・脆弱性と対策などに関する基礎事項について学習する。その他、ITシステムと企業活動、経営戦略と業務分析、システム開発と運用法などについても学習する。なお、これらは情報処理技術者試験「ITパスポート」に関連した内容となっている。
授業内でレポート課題を出題することがある。それが提出された後の授業などにおいていくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明、情報実習室の利用法などの解説
第2回	文書作成と編集（文書作成）	Wordによる文書作成、書式の指定、各種メニューの利用法
第3回	文書作成と編集（図表の活用）	Wordによる図表の活用、描画ツールなどの利用法
第4回	文書作成と編集（実務へ向けての利用と応用	Wordに関する様々な応用法、レポートライティング

第5回	表計算（表計算と関数利用）	Excelの操作法と表作成、各種関数の利用
第6回	表計算（セル参照法と分岐構造）	Excelにおける相対参照と絶対参照、分岐関数と多分岐構造
第7回	表計算（データベース機能）	Excelにおけるデータベース機能の活用と図・グラフの作成
第8回	表計算（実務へ向けての利用と応用）	Excelに関する様々な応用法
第9回	プレゼンテーション（資料の作成）	PowerPointの基本操作、プレゼン資料の作成と編集
第10回	プレゼンテーション（図表・画像の利用）	PowerPointにおける図表と画像・動画などの利用、プレゼン練習
第11回	情報検索と分析（データ収集と分析）	ブラウザ利用法と効率的な情報検索法、統計資料などの検索とデータ収集、各種統計データなどの分析とその活用
第12回	ITシステムとテクノロジー（システムとネットワーク、コンピュータ）	PCの原理と構造、データ表現とビット・バイト、インターネットとLANのしくみ、セキュリティ対策など
第13回	ITシステムとストラテジおよびマネジメント（コンピュータと業務、システム管理）	企業活動と業務分析、品質管理手法、システム開発と運用・管理、テスト・保守と信頼性など
第14回	総括	授業内容のまとめとレポート出題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習してください。またレポート提出のための準備を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。学習支援システムに授業資料を掲載します。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

この科目では、最終授業時に学習支援システムを通じて期末レポート課題を出題しますので必ず提出してください。それ以前の授業時にもレポート課題を出題することがありますのでこれも評価に加えます。授業参加の積極性50%、提出されたレポートの充実度50%として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

あまり急がずにできるだけゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

自宅においてWord、Excel、PowerPointを利用することのできる環境があれば、予習・復習しやすくなります。

【その他の重要事項】

この科目では受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照してください。

【Outline (in English)】

(Course outline) Theme: Introduction to information processing and application to practical business This course is to learn skills concerning information processing and communication techniques by use of personal computers in a practice room. The number of students is limited for this class. We learn the utilization techniques not only for WORD, EXCEL, POWER POINT but also for communication tools such as browsers and mail systems. Fundamentals are lectured concerning network systems and their related matters. We learn strategy and management techniques for practical business. The ethical treatment for communication systems and security management are studied. This course is partially based on the curriculum of “Information Technology Passport Examination” held by Ministry of Economy, Trade and Industry of Japan. (Learning Objectives) At the end of this class, students are expected to have the knowledge of fundamentals in IT area. The skills of information processing are acquired by use of WORD, EXCEL and POWER POINT tools with a personal computer. We obtain fundamental knowledge for security management of computer systems. Students will have penetrating consideration about the role of IT in our society. (Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours for preparation before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class. (Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 50% and Mid- and End-term reports 50%.

COT100HA（計算基盤 / Computing technologies 100）

情報処理基礎

小林 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：定員制
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。
大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のためのWord/Excel、ゼミ発表等で必要となるPowerpointの基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。
インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義／実習後まとめのレポート作成を行っていく。
講義とあわせ、実習でスキルを身につけていく。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとWindowsの基本操作	1.ガイダンス 講義の概要／評価について／実習環境の解説／学内の環境について／スキルレベルの確認 2.Windowsの基本操作 ファイル操作、キーボード操作
第2回	情報セキュリティ基礎とネットワークの活用1	1.情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード 2.インターネット
第3回	ネットワークの活用2	インターネットの歴史と仕組み 1.電子メール Gmailの活用演習 2.オンラインストレージ Googleドライブの活用演習
第4回	ネットワークの活用3	1.情報検索 インターネットを利用した情報検索と活用演習 2.Googleの各種サービスと生成AIの活用 Googleトレンド等の活用、生成AIの活用と留意点

第5回	ネットワークと情報セキュリティ	1.ソーシャルメディア SNSとトラブルについて 2.情報セキュリティ 安全なネットワークの活用
第6回	文書作成演習-入力・編集とファイル操作	1.Word基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2.基本的な文書作成と保存演習 ページ設定、保存、エクスポート
第7回	文書作成演習-図表の活用	1.書式設定演習 書式設定、印刷設定 2.図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成
第8回	文書作成演習-長文の編集・書式	1.ヘッダとフッタ、インデント、各種入力支援機能 2.長文作成支援機能演習 レイアウトと目次、表紙作成
第9回	プレゼン資料作成の基本演習	1.Powrpoint基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2.資料作成の基礎 プレゼン資料のまとめ方
第10回	プレゼン資料作成の応用演習	1.スライドの効果演習 スライド切り替え/アニメーション効果 2.Powerpoint活用演習 配付資料の作成
第11回	表計算演習-基本的な概念と書式	1.Excelの基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2.書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集・印刷
第12回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1.数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2.参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数
第13回	表計算演習-さまざまな関数	1.応用関数演習 論理関数、文字列操作関数、アンケート処理等で使用頻度の高い関数
第14回	表計算演習-グラフの作成と書式の応用	1.グラフ作成演習 一般的なグラフの作成 2.書式の応用 条件付き書式と入力規則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず復習をすること。
ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につけにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。
講義／実習内容については復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

必要に応じて参考書とwebサイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用(20%)、文書作成(30%)、プレゼン(20%)、表計算(30%)のレポート課題により成績評価を行う。
インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。
文書作成については指定された様式でWordの機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。
プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。
表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。

日常的に使用できるパソコン・ネットワーク環境があることが望ましい。OSやアプリケーションのバージョン等は必ずしも実習室環境と同じである必要はない。

資料配付・課題提出は授業支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。

この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learn about information processing skills(MS Word, Power-Point, Excel, and Security).We focus on the basic skills required for the student.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Use the Internet to collect information and conduct research.

Create documents using charts and graphs.

Create basic presentation data.

Create basic spreadsheets and graphs.

【Learning activities outside of classroom】

Review the content introduced in the lecture repeatedly until you have mastered it.Your required study time is at least four hour for

each class meeting.

【Grading criteria】

Grades will be based on report assignments for Internet use (20%), document creation (30%), presentations (20%), and spreadsheets (30%).

COT100HA（計算基盤 / Computing technologies 100）

情報処理基礎

小林 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：定員制
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。
大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のためのWord/Excel、ゼミ発表等で必要となるPowerpointの基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。
インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義／実習後まとめのレポート作成を行っていく。
講義とあわせ、実習でスキルを身につけていく。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとWindowsの基本操作	1.ガイダンス 講義の概要／評価について／実習環境の解説／学内の環境について／スキルレベルの確認 2.Windowsの基本操作 ファイル操作、キーボード操作
第2回	情報セキュリティ基礎とネットワークの活用1	1.情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード 2.インターネット
第3回	ネットワークの活用2	インターネットの歴史と仕組み 1.電子メール Gmailの活用演習 2.オンラインストレージ Googleドライブの活用演習
第4回	ネットワークの活用3	1.情報検索 インターネットを利用した情報検索と活用演習 2.Googleの各種サービスと生成AIの活用 Googleトレンド等の活用、生成AIの活用と留意点

第5回	ネットワークと情報セキュリティ	1.ソーシャルメディアSNSとトラブルについて 2.情報セキュリティ 安全なネットワークの活用
第6回	文書作成演習-入力・編集とファイル操作	1.Word基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2.基本的な文書作成と保存演習 ページ設定、保存、エクスポート
第7回	文書作成演習-図表の活用	1.書式設定演習 書式設定、印刷設定 2.図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成
第8回	文書作成演習-長文の編集・書式	1.ヘッダとフッタ、インデント、各種入力支援機能 2.長文作成支援機能演習 レイアウトと目次、表紙作成
第9回	プレゼン資料作成の基本演習	1.Powrpoint基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2.資料作成の基礎 プレゼン資料のまとめ方
第10回	プレゼン資料作成の応用演習	1.スライドの効果演習 スライド切り替え/アニメーション効果 2.Powerpoint活用演習 配付資料の作成
第11回	表計算演習-基本的な概念と書式	1.Excelの基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2.書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集・印刷
第12回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1.数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2.参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数
第13回	表計算演習-さまざまな関数	1.応用関数演習 論理関数、文字列操作関数、アンケート処理等で使用頻度の高い関数
第14回	表計算演習-グラフの作成と書式の応用	1.グラフ作成演習 一般的なグラフの作成 2.書式の応用 条件付き書式と入力規則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず復習をすること。
ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につけにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。
講義／実習内容については復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

必要に応じて参考書とwebサイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用(20%)、文書作成(30%)、プレゼン(20%)、表計算(30%)のレポート課題により成績評価を行う。
インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。
文書作成については指定された様式でWordの機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。
プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。
表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。

日常的に使用できるパソコン・ネットワーク環境があることが望ましい。OSやアプリケーションのバージョン等は必ずしも実習室環境と同じである必要はない。

資料配付・課題提出は授業支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。

この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learn about information processing skills(MS Word, Power-Point, Excel, and Security).We focus on the basic skills required for the student.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Use the Internet to collect information and conduct research.

Create documents using charts and graphs.

Create basic presentation data.

Create basic spreadsheets and graphs.

【Learning activities outside of classroom】

Review the content introduced in the lecture repeatedly until you have mastered it.Your required study time is at least four hour for

each class meeting.

【Grading criteria】

Grades will be based on report assignments for Internet use (20%), document creation (30%), presentations (20%), and spreadsheets (30%).

COT100HA（計算基盤 / Computing technologies 100）

ネットワークとマルチメディア

松本 倫明

配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4
備考（履修条件等）：定員制
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Python は世界でもっとも普及しているプログラミング言語である。小さなスクリプトから、深層学習、人工知能、ビッグデータなどその用途は多岐にわたる。Python が使える人材は様々な分野で需要がある。この授業で得た経験は厳しい時代を生き抜く実践知となるだろう。

この授業では、Python を用いてプログラミングの初歩を学ぶ。プログラミング言語に共通する知識を学び、簡単なゲームを作り、データ解析を行う。また機械学習とAIに発展させる。

春学期に開講する「ネットワークとマルチメディア」とは内容が異なるので、履修の際は注意すること。

【到達目標】

この授業を通じて習得されるプログラミング技術は以下のとおりである。

- 1. プログラミング言語の初歩を理解できる。
- 2. オブジェクト指向の初歩を理解できる。
- 3. 簡単なゲームを作成することができる。
- 4. データを解析して可視化することができる。
- 5. 機械学習の原理を理解し、AIを効果的に使うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって授業内容を深く理解する。提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方に関する説明をする。
第2回	プログラムとは	プログラムにおける命令を学ぶ。
第3回	文字列	文字列の操作を学ぶ。
第4回	変数	変数の使い方を学ぶ。
第5回	繰り返し	ループ（for while）を学ぶ。
第6回	応用問題	理解度を確保するための課題を解く。
第7回	条件分岐	if 構文を学ぶ。
第8回	応用問題	理解度を確保するための課題を解く。
第9回	関数	関数を自作して使う。
第10回	応用問題	簡単なゲームを作る。リストを学ぶ。
第11回	可視化	matplotlib によるデータの可視化を学ぶ。
第12回	機械学習	PyTorch による機械学習の基礎を学ぶ。
第13回	生成AI	生成AIの効果的な利用方法と注意点を学ぶ。

第14回 応用問題

授業で学んだことを横断して応用問題を解く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】

いちばんやさしい Python 入門教室 改訂第2版、大澤文孝（著）、ソーテック社、2023年（初版ではなく第2版です。ご注意ください）

【参考書】

ウェブから教材を提示する

【成績評価の方法と基準】

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題(70%)と平常点(30%)を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の練習問題の比重を増やす、プログラミング能力の定着を促す。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。大学から配布されたIDとパスワードを用意すること。

【その他の重要事項】

受講生はパソコンの基本的な操作（キーボードの操作やファイルの保存）を既に修得していることが望まれる。
この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては掲示やガイダンスで案内する。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Programming of Python.
Learning objectives: Students learn both basic knowledge and skills on Python programming.
Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading criteria/policy: Assignment submissions (70%), class participation (30%).

PRI100HA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）		
統計とデータ分析		
渡邊 誠		
配当年次／単位：1～4年／2単位		
開講セメスター：春学期授業/Spring 曜日・時限：火3/Tue.3		
備考（履修条件等）：定員制		
その他属性：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
テーマ：EXCELを使って統計学の基礎とデータ分析法を学ぶ 統計学は環境問題を含む様々な社会的、自然的現象を定量的に分析し論理的に最適な判断を下すために必要な基礎知識である。様々な環境情報を調べていくと、例えば、不確実性の幅、信頼区間などという表現に出会うことがある。このことは、社会の中にある情報を正確に読み解くためには統計学の初歩的知識が必要である、ということを示している。また情報検索やデータ処理に関する手法を習得しておくことは政策系の学生にとって重要である。本科目ではPCを利用しながら統計学の基礎とデータ処理法を学ぶことをテーマとしている。		
【到達目標】		
具体的な目標は次の通りである。 ・統計学の基礎知識を習得する。 ・統計的手法を社会的現象の分析のために応用することができる。 ・EXCELの各種機能の利用法を習得し、これを高度（実務）利用することができる。 この授業では、様々な情報についてPCを用いて統計処理し、それを応用する力を身につけることをめざしている。もちろんこれらを学習することは、環境学への応用という側面だけではなく、大学生として身につけるべき教養という側面もある。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連		
【主な授業方法】		
E 実験/実習/実技 /Experiment		
【授業の進め方と方法】		
情報実習室に設置されているPCを利用しながら対面形式で授業を進めていく予定である。連絡事項等は学習支援システム上に表示する。また授業に必要な資料などについても学習支援システムで提示する。この科目では統計学を初歩から学習していくので、受講に際しての数学的な予備知識はあまり必要としていない。 授業内でレポート課題を出題することがある。それが提出された後の授業などにおいていくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定である。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり /Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明を行う。
第2回	情報実習室の利用法	情報環境の説明と各種ソフトウェア+ネットワークの利用のしかたについて。
第3回	EXCEL実習（表計算について）	表の作成と演算、データベース機能、グラフ機能、相対参照と絶対参照・複合参照など。
第4回	EXCEL実習（関数の利用について）	各種関数の利用法、IF関数による条件分岐、多分岐構造と階層性など。
第5回	EXCEL実習	論理演算、複雑な条件判断を伴う処理、統計関数の利用法など。
第6回	環境データの検索と分析（データ検索法について）	環境問題を含む社会・自然分野などにおける各種データの検索など。
第7回	環境データの検索と分析（環境情報について）	環境問題を含む社会・自然分野などにおける各種データの分析など。
第8回	統計学入門（代表値について）	代表値（平均値、モード、メディアンなど）について。ランダム性と正規分布、様々な分布について。分布の中心はどこなのか？なぜ正規分布が現れるのか？
第9回	統計学入門（散布度について）	散布度（偏差、偏差平方和、分散、標準偏差、レンジ、変動係数など）について。分布の広がり（バラツキ）の程度をどのようにに計るのか？
第10回	統計学入門（分布と基準値・偏差値について）	データ位置（基準値、偏差値とその統計的意味、正規分布とその面積など）について。例えば偏差値が70であるとは、55であるとは統計的にはどのような意味があるのか？
第11回	統計学入門（相関分析と回帰分析について）	相関分析と回帰分析（相関係数と2つの量の関係の強さ、最小自乗法の考え方、単回帰分析と重回帰分析など）について。因果関係を見抜くにはどうすればよいのか？
第12回	統計学入門（推定について）	統計的推定（母集団と標本、点推定と区間推定、信頼区間など）について。サンプル調査から全体の様子を推定するには？
第13回	統計学入門（検定について）	統計的検定（仮説と検定、危険率と有意水準、帰無仮説・対立仮説と棄却・採択など）について。
第14回	演習	様々な現象を統計的に理解する。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習してください。またレポート提出のための準備を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
テキストは使用しません。学習支援システムに授業資料を掲載します。		
【参考書】		
開講時に紹介します。		
【成績評価の方法と基準】		
この科目では、最終授業時に学習支援システムを通じて期末レポート課題を出題しますので必ず提出してください。それ以前の授業時にもレポート課題を出題することがありますのでこれも評価に加えます。授業参加の積極性50%、提出されたレポートの充実度50%として評価します。		
【学生の意見等からの気づき】		
授業をゆっくりと進めていきます。		
【学生が準備すべき機器他】		
自宅においてEXCELを利用することのできる環境があれば、予習・復習しやすくなります。		
【その他の重要事項】		
この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照してください。		

【Outline (in English)】

(Course outline) Theme: Introduction to statistics and data processing with the software EXCEL. This course is to learn the fundamentals of statistics. At the same time, we acquire skills for data-processing techniques by use of personal computers. The EXCEL is used in a computer-practice room. The number of students is limited for this class. In the earlier stage of this course, we master the utilization techniques of it. After that the concept of statistical distributions is examined. We learn the basic items such as average values, mode, median, deviation, variance, standard deviation, range, and so on. The correlation and regression analyses are studied. Fundamentals of statistical testing and estimation techniques are introduced in the latter stage of this course. (Learning Objectives) At the end of this class, students are expected to have the knowledge of fundamentals of statistics. The skill of computational processing is acquired by use of the tool EXCEL with a PC. Students will apply statistical knowledges to the analysis of social phenomena observed. (Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours for preparation before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class. (Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 50% and Mid- and End-term reports 50%.

COT100HA (計算基盤 / Computing technologies 100)

ネットワークとマルチメディア

松本 倫明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットとマルチメディアの基礎と応用を学ぶ。

近年、インターネットを用いた情報交換が活発に行われている。それにとともに、画像・音声・動画などのマルチメディアに触れる機会も多くなった。

この授業では、インターネットとマルチメディアの基礎と応用について学ぶ。さらに、インターネットの光と影の部分にも焦点を当て、情報倫理についても触れる。

秋学期に開講する「ネットワークとマルチメディア」とは内容が異なるので、履修の際は注意すること。

【到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. 画像処理の基本的な技術を習得することができる。
2. 模式図を自作することができる。
3. ウェブページを制作することができる。
4. インターネットにおける情報発信・情報検索の技術を習得することができる。
5. 生成AIを効果的に利用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって授業内容を深く理解する。提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・基本操作方法のおさらい	授業の進め方に関する説明をする。パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第2回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。
第3回	ペイント系画像処理：Photoshopによる実習	Photoshopによる写真や画像の処理方法を学ぶ。
第4回	ドロー系画像処理：基本	ドロー系画像処理ソフトを用いた、画像処理の基本を学ぶ。
第5回	ドロー系画像処理：自由課題	ドロー系画像処理ソフトを用いて自由課題を制作する。
第6回	Web ページ製作：HTMLの基本	Web ページ作成の基本を学ぶ。HTMLについて重点的に学ぶ。
第7回	Web ページ製作：CSSの基本 (1)	CSSについて学ぶ。
第8回	Web ページ製作：CSSの基本 (2)	CSSについて学ぶ。
第9回	Web ページ製作：課題ページの作成 (1)	Web ページの自由課題を作成する。

第10回	Web ページ製作：課題ページの作成 (2)	Web ページの自由課題を作成する。
第11回	Web ページ製作：課題ページのまとめ。	自由課題のまとめと評価を行う。
第12回	情報検索のコツと練習	WWWにおける効率的な情報検索の方法を学ぶ。
第13回	インターネットの光と影：情報倫理	インターネットにおける情報倫理を学ぶ。様々な事例を取り上げ、インターネットの利用における問題点や注意点を理解する。
第14回	AIの利用	AI（とくに生成AI）の仕組みを理解し、効果的な利用方法や注意点を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】

ホームページ辞典 第6版 HTML・CSS・JavaScript、株式会社アंक (著)、翔泳社、2017年、2,200円

【参考書】

WWWを通じて教材を配布する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題(70%)と平常点(30%)を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート結果は概ね好評であった。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。大学から配布されたIDとパスワードを用意すること。

【その他の重要事項】

受講生はパソコンの基本的な操作（キー入力やファイルの保存）を既に修得していることが望まれる。

この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては掲示やガイダンスで案内する。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Basic use of the Internet and multimedia.

Learning objectives: Students learn both basic and practical skills on the internet and multimedia.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Assignment submissions (70%), class participation (30%).

英語Ⅰ（スキルアップ科目）

平野井 ちえ子

配当年次／単位：年／単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大人の初級レベルのコミュニケーションに親しみをもてるよう、世界遺産をテーマに英語での基礎的な発信力を養います。

【到達目標】

英語でのコミュニケーションに親しみを持つことが第一目標です。世界遺産に関する教養も養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

後述のテキストにより、インプットからコミュニケーションへの橋渡しを重視します。

- 1. Web動画の視聴と小問
- 2. ショート・エッセイの読解・音読
- 3. 文法の確認
- 4. 英語での意見交換（Writing→Speaking）

授業内で随時フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション テキスト Unit 1	シラバスと後述のテキストに基づいて、講座概要を説明します。受講を希望する人は、必ず出席してください。希望者多数の場合、選抜を行う可能性もあります。テキストは、担当教員から履修を認められてから購入してください。オリエンテーションの詳細は、学習支援システムでお知らせします。必ず準備して参加してください。Unit 1の内容は、A Gift of Hope from France: The Statue of Liberty (USA) です。
第2回	テキスト Unit 2	The Temple of the Rising Sun: Nubian Monuments from Abu Simbel to Philae (Egypt)
第3回	テキスト Unit 3	Khmer Smile: Angkor (Cambodia)
第4回	テキスト Unit 4	The Glory of France: Palace and Park of Versailles (France)
第5回	テキスト Unit 5	The Spirit of Scotland: Old and New Towns of Edinburgh (UK)
第6回	テキスト Unit 7	The Mysterious World of the Great Coral Reef: The Great Barrier Reef (Australia)
第7回	テキスト Unit 9	Construction of the Great Buddha Statue: Historic Monuments of Ancient Nara (Japan)

第8回	テキスト Unit 10	The Colosseum, the Great Amphitheatre of Antiquity: Historic Center of Rome (Italy)
第9回	テキスト Unit 11	The Emperor's Peaceful Home: Palaces and Parks of Potsdam and Berlin (Germany)
第10回	テキスト Unit 12	Mysterious Land Drawings: Lines and Geoglyphs of Nazca and Palpa (Peru)
第11回	テキスト Unit 13	Multicultural City: The Historic Center of Cordoba (Spain)
第12回	テキスト Unit 15	The Fall of Constantinople: Historic Areas of Istanbul (Turkey)
第13回	復習と期末試験	12回分の学習範囲について、筆記試験を行います。この試験では、正確さを重視します。直前にポイント講義と質疑応答・復習をします。
第14回	復習	期末試験を返却して徹底解説します。これに基づく学習アドバイスも行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習では、Web動画の視聴と小問、エッセイの読解・音読と小問、ディスカッションのための簡単な英語メモ作成を行って下さい。本授業の準備学習・復習時間は、合計2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Exploring World Heritage Online（「映像でめぐる世界遺産」）成美堂
ISBN:978-4-7919-7343-9

【参考書】

URL（例）
<https://whc.unesco.org/en/list/307/>
<https://www.statueofliberty.org/ellis-island/>

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価します。合計4回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

前年度までのスキルアップ科目「英語Ⅰ」から大幅に内容を変更したので、参考となるアンケートがありません。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業はBT0309教室にて実施します。学習支援システムも利用します。Zoom授業でも動画・音声の共有を行うので、使用機器（PC利用のこと）とネットワークの安定性を事前にご確認ください。円滑な授業展開のため、Zoomではお顔出しと静かな環境からの参加をお願いしています。また、大学でリアルタイム型オンライン授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器を大切に扱ってください。受講を希望する方は、最新情報を学習支援システムで確認し、必ず初回授業に出席して下さい。

【Outline (in English)】

You will be encouraged to improve your communicative skills in English. The core text deals with world heritages as topic, which can be adult learner-friendly. Before/after each class, you will be expected to spend two hours to learn the class materials. Grading will be decided based on regular performances(50%) and final exam(50%).

英語Ⅱ（スキルアップ科目）

DERYK C BLISS

配当年次／単位：年／単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースでは、学生が本授業や他の授業で活用できる語彙や表現の幅を広げる機会を提供します。SDGsを出発点とし、教科書から取り上げた多様なトピックや授業内で生まれたアイデアについて、豊富なペアワーク、グループワーク、クラスディスカッションを中心に展開します。

【到達目標】

The goals of this course are:

1. Expand vocabulary and range of expressions to improve overall English communication skills and confidence, such as expressing opinions or giving more effective presentations
2. Use these expressions and vocabulary to engage in discussions or debates on a variety of topics and viewpoints
3. Apply critical thinking to SDGs and the issues SDGs are trying to solve

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

In principle, classes in Spring 2026 will be conducted face-to-face in the classroom at the Ichigaya campus. If needed, Zoom, Google Meet or other means will be used to deliver on-demand lecture materials. Proactive, positive participation is key to success in this course.

Feedback on class work and assignments will be given throughout the course, either in class or through online means such as Google Classroom or directly through applications like Google Documents. Students should be prepared to use platforms Hoppii (Hosei's Educational Internet System), E-mail, G-Suite (Classroom, Documents, etc.). The instructor reserves the right to change the schedule or format of the class based on the needs of the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1: Course Intro-duction	Unit 1: What are SDGs?	・ Course orientation ・ Course requests ・ Group Activity: self-introductions
Week 2: Society &SDGs	Unit 2: SDGs and Social equality	-Unit 1 review -Unit 2 activities/ discussion
Week 3: Tech and SDGs interact	Unit 4: SDGs and Technology	-Unit 2 review -Unit 4 activities/ discussion
Week 4: SDGs in Educa-tion	Unit 5: SDGs and Education	-Unit 4 review -Unit 5 activities/ discussion

Week 5: Commu-nities and SDGs	Unit 6: SDGs, Urbanism and Cities	-Unit 5 review -Unit 6 activities/ discussion
Week 6: Food Policies and SDGs	Unit 9: SDGs and Food Production / Waste	-Unit 6 review -Unit 9 activities/ discussion
Week 7: Environ-mental SDGs	Unit 10: SDGs and Pollution	-Unit 9 review -Unit 10 activities/ discussion
Week 8: Society &SDGs II	Unit 11: SDGs and Multiculturalism	-Unit 10 review -Unit 11 activities/ discussion
Week 9: Clean Energy &SDGs	Unit 12: SDGs and Energy Production	-Unit 11 review -Unit 12 activities/ discussion
Week 10: Fashion-able SDGs?	Unit 13: SDGs and Fashion	-Unit 12 review -Unit 13 activities/ discussion
Week 11: Project Presentations	Project Presentation Planning	-Unit 13 review Effective Presentations - planning / visuals
Week 12: SDGs on Tour	Unit 15: SDGs and Tourism	-Unit 15 activities/ discussion
Week 13: SDG No. 18	Original concepts for SDG 18	Project Presentations
Week 14: Course in Review	Course Summary	・ Course in Review ・ Closing activities

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

As noted above, classes will be "face-to-face" in the classroom at Ichigaya campus. If necessary, a class may be held using online or on-demand formats. Being Proactive, Positive, Fully Prepared and using Cooperative participation is essential not only to success in the course but in studies overall. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If a student is absent, any missed assignments must be completed. Students who miss a class are responsible for informing their instructor and being fully prepared for the following week's class. Assignments will be submitted in Google Classroom, often using Google Documents, with feedback provided as the class proceeds. University guidelines suggest preparation and review should be around one or two hours per week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

SDGs x Discussion,
Reiko Yoshihara / Chiyo Hayashi / Emi itoi / Noriko Iwamoto / Audrey Morrell, Kinseido Publishing Co., Ltd,
978-4-7647-4150-8

【参考書】

Students are required to undertake independent research using a wide variety of sources for their original projects and presentations. The library is always a good starting point, supplemented with other internet resources. Students are encouraged to consult with the instructor if research assistance is needed.

【成績評価の方法と基準】

You will be graded on:

25% Active participation in class

25% Assignments

25% Project Planning

25% Project Presentations

* Students must attend 80% of the classes in order to pass. (No more than 3 unexcused absences are allowed.)

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【その他の重要事項】

Recommended

1) a good English-Japanese dictionary (if online, well sourced sources such as Oxford, Cambridge, or jisho.org, and so on)

2) online tools will be used each week. While smartphones may indeed be useful, students may find tablets or laptops more effective for most of the tasks

3) the course will make extensive use of online tools such as Google Classroom, Google Documents, and so on. The more familiarity students have with these applications, the smoother the course will proceed for them.

3) to keep in contact with the instructor in case of tardiness or absence

【Outline (in English)】

This course offers students the opportunity to expand their vocabulary or range of expressions for use in this or other classes. Using SDGs as a starting point, this class will centre on plentiful pair work, group work, and in class discussions on a variety of topics drawn from the textbook, as well as ideas generated in class.

英語Ⅲ（スキルアップ科目）

DERYK C BLISS

配当年次／単位：年／単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デジタルリテラシー、すなわちオンラインや印刷物など様々なメディア情報源から情報を理解し活用する能力は、大学や日常生活だけでなく、特にAIが社会のあらゆる側面で活用されるようになる中で、将来の職場においても重要なスキルです。本講座では、マスメディアの設計、それが私たちに与える影響、そして現在および将来においてこれらのツールを最適に管理する方法について考察する機会を提供します。

【到達目標】

The goals of this course are:

1. Expand vocabulary and range of expressions to improve overall English communication skills and confidence, such as expressing opinions or giving more effective presentations
2. Engage in discussions or debates on a variety of topics related to media, social media, and AI
3. Apply critical thinking to Digital literacy issues

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

In principle, classes in 2026 will be conducted face-to-face in the classroom at the Ichigaya campus. If needed, Zoom, Google Meet or other means will be used to deliver on-demand lecture materials. Proactive, positive participation is key to success in this course.

Feedback on class work and assignments will be given throughout the course, either in class or through online means such as Google Classroom or directly through applications like Google Documents. Students should be prepared to use various platforms such as Hoppii (Hosei's Educational Internet System), E-mail, G-Suite (Classroom, Documents, etc.).

The instructor reserves the right to change the schedule or format of the class based on the needs of the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Course Intro-duction	What is social media literacy	・ Course orientation ・ Course requests ・ Group Activity: self-introductions ・ Unit 1 &2: What is social media literacy?
What is the At-tention Econ-omy?	Unit 3 &4: Attention Literacy	-Week 1 review -Unit 3 &4 activities and discussion
What is Fake News?	Unit 5 &6: Information Literacy	-Week 2 review -Unit 5 &6 activities and discussion

Social Media Literacy So Far Why	Unit 7 / Consolidation Activities -Quiz 1 -Unit 8 -Unit 9	-Week 1-3 review -Unit 7 activities and discussion -Quiz 1 review -Unit 8 activities and discussion -Week 5 review -Unit 9 activities and discussion -Week 9 review -Unit 10 &11 activities and discussion
What is online collabo-ration? Part I	Unit 10 &11	
What is online collabo-ration? Part II	Unit 12 &15	-Week 7 review -Unit 12 &15 activities and discussion
What is CTR?	Unit 13 &14	-Week 8 review -Unit 13 &14 activities and discussion -Week 9 review -Unit 16 activities and discussion
What do LLMs do?	Unit 17	-Week 10 review -Unit 17 activities and discussion
Project Presen-tations	Quiz 2 Project Presentations	Quiz 2 Effective Presentations - planning / visuals
Prepara-tions		
Project Presen-tations	Project Presentations	-Large group presentations
Course in Review	Course Summary	・ Course in Review ・ Closing activities

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

As noted above, classes will be "face-to-face" in the classroom at Ichigaya campus. If necessary, a class may be held using online or on-demand formats. Being Proactive, Positive, Fully Prepared and using Cooperative participation is essential not only to success in the course but in studies overall. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If a student is absent, any missed assignments must be completed. Students who miss a class are responsible for informing their instructor and being fully prepared for the following week's class. Assignments will be submitted in Google Classroom, often using Google Documents, with feedback provided as the class proceeds.

University guidelines suggest preparation and review should be around one or two hours per week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Managing Our Digital Lives: Social Media Literacy for University EFL Students 2nd Edition;
Fraser Gould;
Brule Publishing;
979-8310858398

【参考書】

Students are required to undertake independent research using a wide variety of sources for their original projects and presentations. The library is always a good starting point, supplemented with other internet resources. Students are encouraged to consult with the instructor if research assistance is needed.

【成績評価の方法と基準】

You will be graded on:

20% Active participation in class

20% Assignments

20% Project Planning

20% Project Presentations

20% Quizzes x 2

* Students must attend 80% of the classes in order to pass. (No more than 3 unexcused absences are allowed.)

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【その他の重要事項】

Recommended

1) a good English-Japanese dictionary (if online, well sourced sources such as Oxford, Cambridge, or jisho.org, and so on)

2) online tools will be used each week. While smartphones may indeed be useful, students may find tablets or laptops more effective for most of the tasks

3) the course will make extensive use of online tools such as Google Classroom, Google Documents, and so on. The more familiarity students have with these applications, the smoother the course will proceed for them.

3) to keep in contact with the instructor in case of tardiness or absence

【Outline (in English)】

Digital literacy, the ability to understand and use information from various sources of media (online or in print) is a key skill not only for university or daily life but also in the workplaces of the future, particularly as AI becomes part of all aspects of our society. This course will provide the opportunity to look at the design of mass media, how it affects us, and how to best manage these tools now and in the future.

LIN100HA (言語学 / Linguistics 100)

English Communication 1

平野井 ちえ子

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大人の初級レベルのコミュニケーションに親しみをもてるよう、世界遺産をテーマに英語での基礎的な発信力を養います。

【到達目標】

英語でのコミュニケーションに親しみを持つことが第一目標です。世界遺産に関する教養も養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

後述のテキストにより、インプットからコミュニケーションへの橋渡しを重視します。

1. Web 動画の視聴と小問
2. ショート・エッセイの読解・音読
3. 文法の確認
4. 英語での意見交換 (Writing→Speaking)

授業内で随時フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション テキスト Unit 1	シラバスと後述のテキストに基づいて、講座概要を説明します。受講を希望する人は、必ず出席してください。希望者多数の場合、選抜を行う可能性もあります。テキストは、担当教員から履修を認められてから購入してください。オリエンテーションの詳細は、学習支援システムでお知らせします。必ず準備して参加してください。Unit 1の内容は、A Gift of Hope from France: The Statue of Liberty (USA) です。
第2回	テキスト Unit 2	The Temple of the Rising Sun: Nubian Monuments from Abu Simbel to Philae (Egypt)
第3回	テキスト Unit 3	Khmer Smile: Angkor (Cambodia)
第4回	テキスト Unit 4	The Glory of France: Palace and Park of Versailles (France)
第5回	テキスト Unit 5	The Spirit of Scotland: Old and New Towns of Edinburgh (UK)
第6回	テキスト Unit 7	The Mysterious World of the Great Coral Reef: The Great Barrier Reef (Australia)

第7回	テキスト Unit 9	Construction of the Great Buddha Statue: Historic Monuments of Ancient Nara (Japan)
第8回	テキスト Unit 10	The Colosseum, the Great Amphitheatre of Antiquity: Historic Center of Rome (Italy)
第9回	テキスト Unit 11	The Emperor's Peaceful Home: Palaces and Parks of Potsdam and Berlin (Germany)
第10回	テキスト Unit 12	Mysterious Land Drawings: Lines and Geoglyphs of Nazca and Palpa (Peru)
第11回	テキスト Unit 13	Multicultural City: The Historic Center of Cordoba (Spain)
第12回	テキスト Unit 15	The Fall of Constantinople: Historic Areas of Istanbul (Turkey)
第13回	復習と期末試験	12回分の学習範囲について、筆記試験を行います。この試験では、正確さを重視します。直前にポイント講義と質疑応答・復習をします。
第14回	復習	期末試験を返却して徹底解説します。これに基づく学習アドバイスも行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習では、Web 動画の視聴と小問、エッセイの読解・音読と小問、ディスカッションのための簡単な英語メモ作成を行って下さい。本授業の準備学習・復習時間は、合計2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Exploring World Heritage Online (「映像でめぐる世界遺産」) 成美堂
ISBN:978-4-7919-7343-9

【参考書】

URL (例)

<https://whc.unesco.org/en/list/307/>

<https://www.statueofliberty.org/ellis-island/>

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) と期末試験 (50%) から総合的に評価します。合計4回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

前年度までのスキルアップ科目「英語I」から大幅に内容を変更したので、参考となるアンケートがありません。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業はBT0309教室にて実施します。学習支援システムも利用します。Zoom授業でも動画・音声の共有を行うので、使用機器 (PC 利用のこと) とネットワークの安定性を事前にご確認ください。円滑な授業展開のため、Zoom ではお顔出しと静かな環境からの参加をお願いしています。また、大学でリアルタイム型オンライン授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器を大切に扱ってください。受講を希望する方は、最新情報を学習支援システムで確認し、必ず初回授業に出席して下さい。

【Outline (in English)】

You will be encouraged to improve your communicative skills in English. The core text deals with world heritages as topic, which can be adult learner-friendly. Before/after each class, you will be expected to spend two hours to learn the class materials. Grading will be decided based on regular performances(50%) and final exam(50%).

LIN100HA（言語学 / Linguistics 100）

English Communication 3

吉江 秀和

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土2/Sat.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で日本を紹介するテキスト『Introduce Japan in Easy English 初級英語で紹介するニッポン』を用いて、基本的な会話のやり取り、更には、基本的な英文法や英文の構造を学ぶことで、自分でも類似の文章を作り、英語でのコミュニケーションを構築する練習をしていきます。こちらは初級者向けの授業です。

【到達目標】

- ①テキストの文章の内容を理解するとともに、発音に注意して音読できる。
- ②その文章における重要な文法事項を理解できる。
- ③テキストの文章を参考に、類似する会話表現を使ってコミュニケーションをとることに慣れ親しむことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、テキストの文章の予習をしてきてもらいます。予習したことを前提として、授業内で意味や文法の確認、会話の練習、テキストにある設問の確認をして、理解を深めていきます。更に、類似するシチュエーションの会話表現を使って、追加の会話練習をおこなっていき、最後に受講生の前でやり取りを実践していきます。授業を進めるうえで、ペアワークなどほかの受講生と積極的にやり取りをしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業をどのように進めているのかについて説明します。
2	Unit 1	空港で
3	Unit 2	マンションに到着
4	Unit 3	お客様を迎える
5	Unit 4	デパートでお買い物
6	Unit 5	お花見
7	Unit 6	浅草へ行こう！
8	Unit 7	秋葉原を散策
9	Unit 8	平和への祈り
10	Unit 9	京都旅行：新幹線の旅
11	Unit 10	茶道初体験
12	Unit 11	京都の思い出
13	Unit 12	日本滞在最後の日：築地市場～上野公園
14	まとめ（復習）と試験	ここまで学んできた内容の理解度をはかる試験をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業前にテキストの予習をかならずおこなってください。予習の際にはテキストの会話文の意味を確認し、設問を解いてください。そして会話文のリスニングをするだけでなく、繰り返し音読してください。授業後の復習でも、会話の意味の再確認とともに会話の英文や授業中に扱った表現などを繰り返し声に出して練習し、定着させてください。

本授業の予習・復習時間は、1時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

愛甲ゆかり・池田有花『Introduce Japan in Easy English: English Once More! II 初級英語で紹介するニッポン―続・イングリッシュ・ワンス・モア！』朝日出版社、2018年、(1,900円+税) 978-4-255-15577-7

【参考書】

必要に応じてお伝えします。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（50%）と第14回の授業でおこなう試験（50%）から総合的に評価をおこないます。欠席4回で単位取得資格を失いますが、その回数に至らなくても、欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。試験を受けない場合にも、単位取得資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。その際には、インターネット辞書にあるような単語の意味を拾うだけのものではなく、例文が示されていたり、その単語がどのような文型や構文で使われるものなのか分かったりするものを用意してください（主要な動詞がどの文型をとるのかを示されている『ジーニアス英和辞典』が望ましいです）。

【その他の重要事項】

受講者多数の場合には、初回授業にて選抜または抽選を行う可能性があります。受講を希望する学生は、必ず初回授業に出席してください。授業中の発言やほかの受講者とのやり取りなど、積極的に授業に参加することを願います。

【Outline (in English)】

Using the textbook "Introduce Japan in Easy English", students will learn basic conversational exchanges as well as fundamental English grammar and sentence structures. Through this process, they will practice creating similar texts on their own and developing communicative competence in English.

The main goals of this course are for students to be able to use the expressions presented in the textbook appropriately, to create similar sentences on their own, and to engage in simple English conversations with other students.

Students are expected to spend more than one hour on preparation and review for each class.

Your overall grade in the course will be determined based on the following

Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

LIN200HA (言語学 / Linguistics 200)

Advanced English Communication 1

DERYK C BLISS

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースでは、学生が本授業や他の授業で活用できる語彙や表現の幅を広げる機会を提供します。SDGsを出発点とし、教科書から取り上げた多様なトピックや授業内で生まれたアイデアについて、豊富なペアワーク、グループワーク、クラスディスカッションを中心に展開します。

【到達目標】

The goals of this course are:

1. Expand vocabulary and range of expressions to improve overall English communication skills and confidence, such as expressing opinions or giving more effective presentations
2. Use these expressions and vocabulary to engage in discussions or debates on a variety of topics and viewpoints
3. Apply critical thinking to SDGs and the issues SDGs are trying to solve

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

In principle, classes in Spring 2026 will be conducted face-to-face in the classroom at the Ichigaya campus. If needed, Zoom, Google Meet or other means will be used to deliver on-demand lecture materials. Proactive, positive participation is key to success in this course.

Feedback on class work and assignments will be given throughout the course, either in class or through online means such as Google Classroom or directly through applications like Google Documents. Students should be prepared to use platforms Hoppii (Hosei's Educational Internet System), E-mail, G-Suite (Classroom, Documents, etc.). The instructor reserves the right to change the schedule or format of the class based on the needs of the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1: Course Introduction	Unit 1: What are SDGs?	・ Course orientation ・ Course requests ・ Group Activity: self-introductions
Week 2: Society & SDGs	Unit 2: SDGs and Social equality	-Unit 1 review -Unit 2 activities/ discussion
Week 3: Tech and SDGs interact	Unit 4: SDGs and Technology	-Unit 2 review -Unit 4 activities/ discussion

Week 4: SDGs in Education	Unit 5: SDGs and Education	-Unit 4 review -Unit 5 activities/ discussion
Week 5: Communities and SDGs	Unit 6: SDGs, Urbanism and Cities	-Unit 5 review -Unit 6 activities/ discussion
Week 6: Food Policies and SDGs	Unit 9: SDGs and Food Production / Waste	-Unit 6 review -Unit 9 activities/ discussion
Week 7: Environmental SDGs	Unit 10: SDGs and Pollution	-Unit 9 review -Unit 10 activities/ discussion
Week 8: Society & SDGs II	Unit 11: SDGs and Multiculturalism	-Unit 10 review -Unit 11 activities/ discussion
Week 9: Clean Energy & SDGs	Unit 12: SDGs and Energy Production	-Unit 11 review -Unit 12 activities/ discussion
Week 10: Fashionable SDGs?	Unit 13: SDGs and Fashion	-Unit 12 review -Unit 13 activities/ discussion
Week 11: Project Presentations	Project Presentation Planning	-Unit 13 review Effective Presentations - planning / visuals
Week 12: SDGs on Tour	Unit 15: SDGs and Tourism	-Unit 15 activities/ discussion
Week 13: SDG No. 18	Original concepts for SDG 18	Project Presentations
Week 14: Course in Review	Course Summary	・ Course in Review ・ Closing activities

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

As noted above, classes will be "face-to-face" in the classroom at Ichigaya campus. If necessary, a class may be held using online or on-demand formats. Being Proactive, Positive, Fully Prepared and using Cooperative participation is essential not only to success in the course but in studies overall. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If a student is absent, any missed assignments must be completed. Students who miss a class are responsible for informing their instructor and being fully prepared for the following week's class. Assignments will be submitted in Google Classroom, often using Google Documents, with feedback provided as the class proceeds. University guidelines suggest preparation and review should be around one or two hours per week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

SDGs x Discussion,
Reiko Yoshihara / Chiyo Hayashi / Emi itoi / Noriko Iwamoto / Audrey Morrell, Kinseido Publishing Co., Ltd,
978-4-7647-4150-8

【参考書】

Students are required to undertake independent research using a wide variety of sources for their original projects and presentations. The library is always a good starting point, supplemented with other internet resources. Students are encouraged to consult with the instructor if research assistance is needed.

【成績評価の方法と基準】

You will be graded on:

25% Active participation in class

25% Assignments

25% Project Planning

25% Project Presentations

* Students must attend 80% of the classes in order to pass. (No more than 3 unexcused absences are allowed.)

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【その他の重要事項】

Recommended

1) a good English-Japanese dictionary (if online, well sourced sources such as Oxford, Cambridge, or jisho.org, and so on)

2) online tools will be used each week. While smartphones may indeed be useful, students may find tablets or laptops more effective for most of the tasks

3) the course will make extensive use of online tools such as Google Classroom, Google Documents, and so on. The more familiarity students have with these applications, the smoother the course will proceed for them.

3) to keep in contact with the instructor in case of tardiness or absence

【Outline (in English)】

This course offers students the opportunity to expand their vocabulary or range of expressions for use in this or other classes. Using SDGs as a starting point, this class will centre on plentiful pair work, group work, and in class discussions on a variety of topics drawn from the textbook, as well as ideas generated in class.

LIN200HA (言語学 / Linguistics 200)

Advanced English Communication 2

DERYK C BLISS

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デジタルリテラシー、すなわちオンラインや印刷物など様々なメディア情報源から情報を理解し活用する能力は、大学や日常生活だけでなく、特にAIが社会のあらゆる側面で活用されるようになる中で、将来の職場においても重要なスキルです。本講座では、マスメディアの設計、それが私たちに与える影響、そして現在および将来においてこれらのツールを最適に管理する方法について考察する機会を提供します。

【到達目標】

The goals of this course are:

1. Expand vocabulary and range of expressions to improve overall English communication skills and confidence, such as expressing opinions or giving more effective presentations
2. Engage in discussions or debates on a variety of topics related to media, social media, and AI
3. Apply critical thinking to Digital literacy issues

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

In principle, classes in 2026 will be conducted face-to-face in the classroom at the Ichigaya campus. If needed, Zoom, Google Meet or other means will be used to deliver on-demand lecture materials. Proactive, positive participation is key to success in this course.

Feedback on class work and assignments will be given throughout the course, either in class or through online means such as Google Classroom or directly through applications like Google Documents. Students should be prepared to use various platforms such as Hoppii (Hosei's Educational Internet System), E-mail, G-Suite (Classroom, Documents, etc.).

The instructor reserves the right to change the schedule or format of the class based on the needs of the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Course Intro-duction	What is social media literacy	・ Course orientation ・ Course requests ・ Group Activity: self-introductions ・ Unit 1 &2: What is social media literacy?
What is the At-tention Econ-omy?	Unit 3 &4: Attention Literacy	-Week 1 review -Unit 3 &4 activities and discussion
What is Fake News?	Unit 5 &6: Information Literacy	-Week 2 review -Unit 5 &6 activities and discussion

Social Media Literacy So Far	Unit 7 / Consolidation Activities	-Week 1-3 review -Unit 7 activities and discussion -Quiz 1 review
Why	-Quiz 1 -Unit 8	-Unit 8 activities and discussion
What is a	-Unit 9	-Week 5 review -Unit 9 activities and discussion
What is online collabo-ration?	Unit 10 &11	-Week 9 review -Unit 10 &11 activities and discussion
Part I		
What is online collabo-ration?	Unit 12 &15	-Week 7 review -Unit 12 &15 activities and discussion
Part II		
What is	Unit 13 &14	-Week 8 review -Unit 13 &14 activities and discussion
What is CTR?	Unit 16	-Week 9 review -Unit 16 activities and discussion
What do LLMs do?	Unit 17	-Week 10 review -Unit 17 activities and discussion
Project Presen-tations	Quiz 2 Project Presentations	Quiz 2 Effective Presentations - planning / visuals
Prepara-tions		
Project Presen-tations	Project Presentations	-Large group presentations
Course in Review	Course Summary	・ Course in Review ・ Closing activities

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

As noted above, classes will be "face-to-face" in the classroom at Ichigaya campus. If necessary, a class may be held using online or on-demand formats. Being Proactive, Positive, Fully Prepared and using Cooperative participation is essential not only to success in the course but in studies overall. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If a student is absent, any missed assignments must be completed. Students who miss a class are responsible for informing their instructor and being fully prepared for the following week's class. Assignments will be submitted in Google Classroom, often using Google Documents, with feedback provided as the class proceeds.

University guidelines suggest preparation and review should be around one or two hours per week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Managing Our Digital Lives: Social Media Literacy for University EFL Students 2nd Edition;
Fraser Gould;
Brule Publishing;
979-8310858398

【参考書】

Students are required to undertake independent research using a wide variety of sources for their original projects and presentations. The library is always a good starting point, supplemented with other internet resources. Students are encouraged to consult with the instructor if research assistance is needed.

【成績評価の方法と基準】

You will be graded on:

20% Active participation in class

20% Assignments

20% Project Planning

20% Project Presentations

20% Quizzes x 2

* Students must attend 80% of the classes in order to pass. (No more than 3 unexcused absences are allowed.)

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【その他の重要事項】

Recommended

1) a good English-Japanese dictionary (if online, well sourced sources such as Oxford, Cambridge, or jisho.org, and so on)

2) online tools will be used each week. While smartphones may indeed be useful, students may find tablets or laptops more effective for most of the tasks

3) the course will make extensive use of online tools such as Google Classroom, Google Documents, and so on. The more familiarity students have with these applications, the smoother the course will proceed for them.

3) to keep in contact with the instructor in case of tardiness or absence

【Outline (in English)】

Digital literacy, the ability to understand and use information from various sources of media (online or in print) is a key skill not only for university or daily life but also in the workplaces of the future, particularly as AI becomes part of all aspects of our society. This course will provide the opportunity to look at the design of mass media, how it affects us, and how to best manage these tools now and in the future.

LIN200HA (言語学 / Linguistics 200)

テーマ別英語 1

PAUL K KALLENDER

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水5/Wed.5

備考（履修条件等）：2025年度以前に「テーマ別英語1」の単位を
修得済みの学生は履修不可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course examines contemporary global sustainability issues through the framework of the Sustainable Development Goals (SDGs). Students are encouraged to critically analyze social and environmental challenges from interdisciplinary perspectives while developing the ability to discuss these issues in English.

本講義は、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）の枠組みを通じて、現代社会におけるグローバルな持続可能性課題を検討することを目的とします。学生は、社会のおよび環境の課題を学際的観点から批判的に分析し、それらについて英語で議論する能力を養います。

Learning Objectives / 学習目標

By the end of this course, students will be able to:

Critically analyze sustainability-related global issues using the SDG framework.

Employ evidence-based reasoning to construct persuasive arguments.

Strengthen practical research literacy skills.

Develop and refine academic presentation abilities.

Enhance English communication and academic writing competence.

本講義の修了時には、学生は以下の能力を身につけることを目標とします。

SDGsの枠組みを用いて、持続可能性に関するグローバル課題を批判的に分析できること。

根拠に基づく論証を用いて説得力のある議論を構築できること。

実践的なリサーチ・リテラシーを強化できること。

学術的プレゼンテーション能力を開発・向上できること。

英語でのコミュニケーションおよびアカデミック・ライティング能力を高めること。

【到達目標】

This course is designed to not only improve student knowledge of critical global sustainable issues but to apply that knowledge in an academic context.

Applied skills include specific goal-oriented research, analysis and discussion of topics, and practicing academic presentation skills in each class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Except the first class, each class will consist of a lecture introducing SDG concepts, guided discussions, student research presentations, and analytical reflection activities.

Feedback: The instructor will give in-class feedback, comments, and help in each class, and follow up on Hoppii as necessary.

The instructor will supplement the contents of each unit with videos and other study materials.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Course Introduction (The goal and outline of this course)	What Are Sustainable Development Goals? Homework for next class
Class 2	SDG 1: No poverty	Analysis and discussion on this SDG. Homework for next class
Class 3	SDG 2: Zero hunger	Analysis and discussion on this SDG. Homework for next class
Class 4	SDG 3: Good health and well-being	Analysis and discussion on this SDG. Homework for next class
Class 5	SDG 4: Quality education	Analysis and discussion on this SDG. Homework for next class
Class 6	SDG 5: Gender equality	Analysis and discussion on this SDG. Homework for next class
Class 7	SDG 6: Clean water and sanitation	Analysis and discussion on this SDG. Homework for next class
Class 8	SDG 7: Affordable and clean energy	Analysis and discussion on this SDG. Homework for next class
Class 9	SDG 8: Decent work and economic growth	Analysis and discussion on this SDG. Homework for next class
Class 10	SDG 9: Industry, innovation and infrastructure	Analysis and discussion on this SDG. Homework for next class
Class 11	SDG 10: Reduced inequalities	Analysis and discussion on this SDG. Homework for next class
Class 12	SDG 11: Sustainable cities and communities	Analysis and discussion on this SDG. Homework for next class
Class 13	SDG 12: Responsible consumption and production	Analysis and discussion on this SDG. Homework for next class
Class 14	SDG: Peace, justice, and strong institutions	Analysis and discussion on this SDG. Wrap, and future study.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparatory study/review time for this class is four hours in total. Each class has a pre-reading assignment for homework and students are expected to discuss their answers in the following class. Students should make a note of unknown words or expressions in a B-5 notebook.

Specifically, normally homework will specifically require the students to study an outline of next SDG under discussion for the next class, including researching the background and targets and utility of the next goal.

【テキスト（教科書）】

All the contents will be provided by the instructor and presented to the students on Hoppii during the course.

** It is essential that the students bring their wi-fi connected notebook PC or tablet with a keyboard to each and every class with a sufficient screen size to comfortably read the prepared materials and complete the exercises.

【参考書】

These will be provided by the instructor based on United Nations and English language media resources on the SDGs.

【成績評価の方法と基準】

Assessment will be continuous based on in-class performance
Level of participation, debate, volunteering answers: 30%
Quality of results in research based-tasks including critical analysis: 30%
Quality of individual presentations: 40%
No more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

This is the first time I have taught this class.

【学生が準備すべき機器他】

This class does not use a textbook but instructor-created materials that are accessed via Hoppii.
Students MUST bring either a wi-fi connectable notebook/laptop PC or a similar tablet with a screen and keyboard function.
This class cannot be completed by Smartphone.
Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser.

【その他の重要事項】

Addressing and Contacting the Instructor

1. Please address the instructor as Mr. Kallender
2. Please always state your first name, family name, class name, and period name.

For Example:

Dear Mr. Kallender,

My name is Taro Suzuki.

I am a student in テーマ別英語 1

I could not attend today / cannot attend tomorrow (etc.) because of a fever.

I will bring a medical certificate next week.

【Outline (in English)】

Students will work on developing their knowledge of sustainability issues in a global context and practice and improve their ability to research, critically analyse, debate, and present on SDGs and related topics.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to read and prepare for the following class topic and theme each week, i.e. the next SDG goal. They should study the goal, its background, utility, and implementation, and issues, in preparation for the next week's in-class discussions and presentations.

Grading Criteria /Policy:

Assessment will be continuous based on in-class performance
Level of participation, debate, volunteering answers: 30%
Quality of results in research based-tasks including critical analysis: 30%
Quality of individual presentations: 40%
No more than 3 absences per term are allowed.

LIN200HA (言語学 / Linguistics 200)

テーマ別英語 2

DERYK C BLISS

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

備考（履修条件等）：2025年度以前に「テーマ別英語2」の単位を
修得済みの学生は履修不可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建設業は依然として日本にとって最も重要な産業の一つであると同時に、持続可能性における最大の課題の一つでもある。日本は世界有数の才能ある建築家を数多く輩出しており、この地に人類が定住し始めた時代まで遡る独自の建築史を有している。2050年までのカーボンニュートラル達成など、日本の持続可能性目標を成功させるには、建築物の建設方法の変革が不可欠である。本講座では、日本の建築的過去から得られる教訓を、現在および未来に向けてどのように活用できるかを考察する。

【到達目標】

The goals of this course are:

1. Expand vocabulary and range of expressions to improve overall communication and confidence
2. Engage in discussions or debates on a variety of architectural-based topics and viewpoints
3. Apply critical thinking to the Built Environment and issues that connect to architecture, historic buildings, and community development
4. Create three projects that focus on design, creativity, and innovation in the built environment

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

In principle, classes in Spring 2026 will be conducted face-to-face in the classroom at the Ichigaya campus. If needed, Zoom, Google Meet or other means will be used to deliver on-demand lecture materials. Proactive, positive participation is key to success in this course.

Feedback on class work and assignments will be given throughout the course, either in class or through online means such as Hoppii (Hosei's Educational Internet System), E-mail, G-Suite (Google Classroom, Google Documents).

The instructor reserves the right to change the schedule or format of the class based on the needs of the class.

ご注意ください: 主に英語で進め、一部日本語で補う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1:	Course and Project Course Introductions	・ Course orientation ・ Course requests ・ Introductory activities: Sustainability & the Built Environment ・ Group work: About Architecture, About Sustainable Buildings

Week 2:	・ Lessons from the Traditional Design: Foundations	・ Design, Sustainable structures, satoyama
Week 3:	・ Past Part I: A Brief Tour of Traditional Design: Japanese Architecture up to the Meiji Era	
Week 4:	・ Lessons from the Past Part II: A Brief Tour of Traditional Design: Japanese Architecture Meiji & Taisho Era	Western influences, Japanese inventions; conservation frameworks, first architects & first architecture studies
Week 5:	・ Lessons from the Past Part III: A Brief Tour of Showa Era Japanese Architecture	・ Building, then re-building, then building again: the rise of the construction state ・ Project 1 Final Guidance
Week 6:	・ Project I Presentations	Project I Presentations: Small Groups
Week 7:	・ Built Environment & Sustainable growth	Sustainability challenges: mansions, not machiya; ・ Construction is development, development is prosperity ・ Sustainability challenges: roads to nowhere; architecture as a service ・ Crazy architecture; Japan as an architectural laboratory ・ Sustainability challenges: akiya, akichi, adaptive reuse -Project II Final Guidance
Week 8:	・ Overdevelopment to no growth	
Week 9:	・ Buildings but no residents	
Week 10:	・ Project II Presentations	Project II Presentations: Large Groups
Week 11:	・ Future Strategies	・ What happens next? : Decarbonisation, Design for Deconstruction (DfD) ・ Circular economics & Construction ・ What happens next? : 3-30-300, Privately-owned Public Spaces (PoPS) ・ Net-zero & Passive Design
Week 12:	・ Green Buildings & spaces	
Week 13:	・ Back to the future architecture	・ What happens next? : Future architecture taking ideas from the past ・ Project III Final Guidance
Week 14:	・ Project III Presentations	・ Project III Presentations: Class
Week 15:	・ Project III Presentations	
Week 16:	・ Course Summary	・ Course in Review ・ Closing activities

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review should be around four hours per week for a two-credit course. This includes, but is not limited to, reviewing class materials, ensuring assignments are completed on schedule, completing assigned readings as needed, and other activities to prepare for the next class.

【テキスト（教科書）】

All materials will be supplied either in class or online through Google Classroom or by email (when necessary)

【参考書】

Students are required to undertake independent research using a wide variety of sources for their original projects and presentations. The library is always a good starting point, supplemented with other internet resources. Students are encouraged to consult with the instructor if research assistance is needed.

【成績評価の方法と基準】

You will be graded on:

25% Active participation in class

25% Assignments

25% Project Planning

25% Project Presentations

* Students must attend 80% of the classes in order to pass. (No more than 3 unexcused absences are allowed.)

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【その他の重要事項】

Recommended

1) a good English-Japanese dictionary (if online, well sourced sources such as Oxford, Cambridge, or jisho.org, and so on)

2) online tools will be used each week. While smartphones may indeed be useful, students may find tablets or laptops more effective for most of the tasks

3) the course will make extensive use of online tools such as Google Classroom, Google Documents, and so on. The more familiarity students have with these applications, the smoother the course will proceed for them.

3) to keep in contact with the instructor in case of tardiness or absence

【Outline (in English)】

The construction industry remains one of Japan's most important industries but also one of its largest sustainability challenges. Japan is also home to many of the world's most talented architects, and has a unique architectural history that reaches back to the very beginnings of human settlement in these lands. For Japan to be successful in any of its sustainability goals, such as being carbon-neutral by 2050, there must be a change in how buildings are built. This course will look at the lessons Japan's architectural past can be used here in the present, and also into the future.

LIN200HA (言語学 / Linguistics 200)

テーマ別英語 3

佐伯 英子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：2025年度以前に「テーマ別英語3」の単位を
修得済みの学生は履修不可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course explores the role of the arts, including visual arts, music, performance, film, and other creative practices, in reflecting and challenging social norms, shaping identities, and engaging with contemporary social issues. Through readings, discussions, presentations, and assignments in English, students will examine how artistic expressions intersect with politics, culture, and community engagement in both global and local contexts.

【到達目標】

By the end of this course, students will be able to:

1. Become familiar with basic ideas about arts and social change in global and cross-cultural contexts
2. Read and understand English texts related to art, society, and culture.
3. Share their ideas and opinions about the social roles of art through class discussions.
4. Improve basic written and spoken English skills through short essays and presentations.
5. Think about contemporary social issues by using examples from art and creative practices.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted primarily in English, with supplementary explanations in Japanese when necessary, and will combine short lectures with group discussions, guided reading activities, and student presentations. Students will work with a variety of materials, including written texts, images, videos, and other media related to art and social change.

Classes will emphasize active participation, encouraging students to share ideas, ask questions, and respond to others' perspectives in a supportive learning environment. Assignments will be designed to help students gradually build confidence in using both spoken and written English.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to the Course	Course overview and expectations
Week 2	Talking about your favorite art	Sharing students' favorite art, artists, films, or music
Week 3	What does it mean to talk about arts and social change?	Key concepts and ideas
Week 4	Music and literature	Voice and storytelling

Week 5	Visual art and photography	Images and ways of seeing
Week 6	Film and television	Narratives and social commentary
Week 7	Public art, design, and fashion	Creative expression in public and everyday spaces
Week 8	Writing about your Favorite Art	An essay-writing workshop using course materials from Weeks 4– 7
Week 9	War and Peace	addressing conflict, memory, and resistance
Week 10	Gender and sexuality	Bodies, norms, and identities
Week 11	Race, ethnicity, and indigeneity	Representation and identity
Week 12	Disability	Visibility, access, and inclusion
Week 13	Presenting Your Favorite Art	A presentation workshop using materials from Weeks 9 – 12
Week 14	Student Presentations	Final presentations on arts and social change

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to spend approximately two hours each on preparation and review for each class session. This includes reading assigned materials in advance, preparing for and reviewing texts and exercises, and completing assignments presented in class, such as short reports and practice exercises.

【テキスト（教科書）】

Required readings and materials will be introduced and provided during the course.

【参考書】

Recommended readings and materials will be introduced and provided during the course.

【成績評価の方法と基準】

Participation: 30%; Weekly Assignments: 20%; Essay: 20%; Presentation: 20%; Museum Visit and Reflection: 10%

【学生の意見等からの気づき】

N/A (This course will be offered for the first time.)

【Outline (in English)】

N/A (The outline is provided above)

LIN200HA（言語学 / Linguistics 200）

テーマ別英語 4

近藤 亮介

配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2
備考（履修条件等）：2025年度以前に「テーマ別英語4」の単位を
修得済みの学生は履修不可
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ランドスケープ＝風景」は、普段あまり意識されることがないが、西洋絵画の一ジャンルである「風景画（landscape painting）」から、都市環境をデザインする「造園（landscape architecture）」まで、幅広い分野に影響を与えてきた重要な概念である。この授業では、ランドスケープの視点から、近現代のアートとデザインについて学ぶことを通じて、自然と人間、社会と環境との関係について考察する。

【到達目標】

- ・ To learn English vocabulary and expressions related to landscape, art, and design, and to develop the ability to engage in simple discussions and presentations in English.
- ・ To cultivate the ability to critically interpret landscapes encountered in everyday life and while traveling, not merely as beautiful views but as environments shaped by historical and social contexts.
- ・ To deepen understanding of art and design by tracing changes in works and practices related to landscape over time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

In principle, classes will be conducted face-to-face. The course combines lectures by the instructor with group discussions and student presentations in order to approach the subject from multiple perspectives.

Active participation is strongly encouraged. Feedback on assignments and presentations will be provided either in class or through the online system.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	・ Explanation of course objectives, structure, and policies
Week 2	Britain 1	・ "Discovery" of landscape ・ Grand tour
Week 3	Britain 2	・ Landscape painting ・ Geometric gardening ・ Landscape gardening
Week 4	Britain 3	・ Sublime/Picturesque ・ Eclectic garden ・ Wild garden
Week 5	United States 1	・ Garden city ・ Plantations ・ Hudson River School ・ Tourism

Week 6	United States 2	・ Cemeteries ・ Parks ・ Central Park
Week 7	United States 3	・ Prospect Park ・ Parkways/Park systems ・ National parks
Week 8	Mid-term Presentation	・ Students will research a topic related to landscape and give a presentation in English (group).
Week 9	Japan	・ Western-style gardens ・ Hibiya Park ・ Meiji-jingu Shrine ・ Reconstruction Plan for the Imperial Capital (Tokyo)
Week 10	Postwar Landscape Design	・ National Park City (Britain) ・ High Line (US) ・ Zoki-no-niwa (Japan)
Week 11	Postwar Landscape Art	・ Land art ・ Environmental art
Week 12	Final Presentation 1	・ Students will research a topic related to landscape and give a presentation in English (individual).
Week 13	Final Presentation 2	・ Students will research a topic related to landscape and give a presentation in English (individual).
Week 14	Course Review	・ Overall review of the course ・ Feedback on presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to spend approximately four to five hours on preparation (such as reading assigned texts and preparing presentations) and review (such as reflecting on lecture content) for each class session.

【テキスト（教科書）】

Materials will be introduced and distributed in class as needed.

【参考書】

近藤亮介編『セントラルパークから東京の公園を見てみよう』（東京都公園協会、2023年）。

Other materials will be introduced and distributed in class as needed.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on the following components: class participation (40%), mid-term presentation (30%), and final presentation (30%).

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【Outline (in English)】

The concept of landscape is not always consciously recognized in everyday life; however, it has exerted a profound influence across a wide range of fields, from landscape painting as a genre of Western art to landscape architecture concerned with the design of urban environments.

In this course, students examine modern and contemporary art and design from the perspective of landscape, and through this approach, consider the relationships between nature and human beings, as well as between society and the environment.

HSS400HA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400）

研究会A

朝比奈 茂

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「なぜ人間は〇〇〇だろうか？」といった素朴な疑問をもとに、文献資料より人間の生理的・心理的な仕組みや働きについて調査し、自らが問題を提示し解決しようとする理論と方法を習得することを目的とする。

【到達目標】

1. 各自研究テーマを選定し、レポートにて自分の意見を述べるができる。
2. 文献購読をし、その内容をまとめ、ゼミ員に対して発表できる。
3. グループ内で、ディスカッションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

各自設定したテーマに関する資料や文献を収集し、問題点や疑問点を列挙し、グループ内で共有する。グループ内では、集まった多くの情報を統合して、最終的にグループの意見として発表し、レポートを作成する。

授業は主にSGD（スモールグループディスカッション）形式を用いて行う。全体では毎回一人ずつ、調査した内容を全員に報告し、発表の技術を身につける。グループそれぞれが目標やテーマを決め、調査および討論を行う。

また、授業のはじめに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の概要、ねらい、到達目標を明示し、年間スケジュールの確認を行う。また自己紹介を通じてゼミ員相互の理解を深める。
第2回	文献検索、プレゼンテーション、レポート作成	テーマ選びから文献検索、プレゼンテーション、レポート作成に関する説明を行なう。
第3回	テーマ設定、意見交換	グループ分けを行い、役割分担を決める。
第4回	文献講読、意見交換	今後の計画を立てる。
第5回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。
第6回	文献講読、意見交換	文献を講読し、意見交換を行う。
第7回	中間発表	グループごとに、これまで話し合った内容を発表する。
第8回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。
第9回	文献講読、意見交換	文献を講読し、意見交換を行う。

第10回	文献講読、発表資料の作成	グループワークを行う。 文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第11回	文献講読、発表資料の作成	グループワークを行う。 文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第12回	文献講読、発表資料の作成	グループワークを行う。 文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第13回	(1) 最終発表（報告会）	グループごと、テキストに関して発表を行い、ディスカッションを行う。
第14回	(1) 最終発表（報告会）	グループごと、テキストに関して発表を行い、ディスカッションを行う。
第15回	ガイダンス	秋学期のスケジュール確認を行うとともに、夏季休暇中に提示した課題の発表を行う。
第16回	研究（調査）テーマ検討および決定	秋学期に行う、研究（調査）テーマを各々で検討し、決定する。
第17回	資料収集および講読	図書館やインターネットを通じて、資料を収集する。 仕入れた文献を整理して内容を理解する。
第18回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。
第19回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。
第20回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。
第21回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。
第22回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。
第23回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。
第24回	DVD鑑賞	環境全般に関するDVDを視聴し、各々が感じたこと、考えたことを、グループに分けディベート形式で討論する。
第25回	レクリエーション（スポーツ大会）	スポーツ活動を通じて、ゼミ員相互のコミュニケーションを図る。
第26回	外部講師による講演会	現在社会で活躍している講師（学外）を招聘し講義を行う。
第27回	卒業論文報告会	4年生による卒業論文の発表を行う。
第28回	卒業論文報告会	4年生による卒業論文の発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
- ・設定したテーマに関する資料を図書館、WEBを活用して調べておく。
- ・各自興味のあるテーマを決め、文献収集を行う。
- ・思いついた疑問をそのままにしないで、調べるように習慣づける。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

- ・その科学が成功を決める リチャード・ワイズマン 文春文庫
- ・ホモ・デウス 上: テクノロジーとサピエンスの未来, ユヴァル・ノア・ハラリ, 河出書房新書
- ・ホモ・デウス 下: テクノロジーとサピエンスの未来, ユヴァル・ノア・ハラリ, 河出書房新書
- ・基礎からわかる論文の書き方, 小熊英二, 講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

授業の参画状況（80%）、プレゼンテーション（10%）、レポート（10%）を総合して判断する

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後に受け付ける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。

また、オフィスアワーとして毎週月曜日16時40分～18時30分の100分を設ける。

オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールを通じて連絡をとること。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、環境サイエンスコース

【Outline (in English)】**【Course outline】**

This class is conducted as the seminar, emphasizing in the small group discussion.

Students are supposed to be knowledgeable enough to participate in this workshop. Therefore students' preparation for this seminar is essential as well as their positive attitude and active involvement are required. By completing this workshop, students are expected to learn and improve the awareness of health and self-medication, which enable them to create an appropriate decision making and take an action accurately for the health-related issues.

【Learning Objectives】

Understand information literacy.

Explore and collect information.

Select a topic and conduct preliminary research.

To be able to search for relevant literature in databases.

To be able to summarize and present the content.

To be able to discuss in a group.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Resume for the lecture will be uploaded through the learning support system. Students are expected to prepare according to the resume.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

1) Participation in class activities (not attendance) : 80%

2) Presentations:10%

3) Assignments and reports : 10%

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

ART400HA（芸術学 / Art studies 400）

研究会A

板橋 美也

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術・デザイン・ファッション・建築は、ただ「美しさ」や「センスの良さ」を競うだけのものではなく、人々の生活や社会と分かちがたく結びつき、グローバル化の中での異文化受容、戦争、環境問題、ジェンダー、近代化や消費文化の功罪などにまつわる、その時々様々な課題を反映してきました。また、様々な問題を明るみに出し、人々の固定観念を問い直して新たな視点を提供してきました。持続可能な社会の実現のために、美術・デザイン・ファッション・建築等を通してどのような試みがなされてきたのか、そして現在されているのか、一緒に探求します。

【到達目標】

美術・デザイン・ファッション・建築等が社会の様々な課題をどのように反映し、その課題にどのように向き合ってきたのかを理解すること。そして、それを踏まえて、現代社会の課題と、それに対して何がなされているのか・なされるべきかについて、自分の考えを述べることができるようになること。ディスカッションやグループワークを通して、1つの定まった正解がない課題に対して、自分とは違う考えや見方を尊重しながら自分の意見を述べるができるようになること。クラスでの発表とその準備作業を通して、資料収集・分析能力を養い、調査内容に基づいて自分の主張を論理的に説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

（１）指定したテキストやテーマに関する発表・ディスカッション・グループワークなどを通して、美術・デザイン・ファッション・建築等が社会の様々な課題をどのように反映し、その課題にどのように向き合ってきたのかを考えます。

（２）発表担当者が各自の関心にもとづいて調べた内容の発表をし、それについてゼミ生全員でディスカッションをします。

＊（１）（２）いずれの場合も、ゼミ生それぞれが自分の考えや疑問点を積極的に発言することが求められます。

（３）随時、美術館・博物館や建築物などを見学に行く機会を設けたいと思います。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の内容、進め方についての説明
第2回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第3回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第4回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等

第5回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第6回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第7回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第8回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第9回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第10回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第11回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第12回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第13回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第14回	春学期のまとめ	春学期に学んだことを復習・秋学期の内容と進め方についての説明
第15回	4年生による研究テーマ紹介	各自の研究テーマの紹介とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第16回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第17回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第18回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第19回	4年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第20回	4年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第21回	4年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第22回	3年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第23回	3年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第24回	3年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第25回	2年生による研究発表	各自の選んだ本に関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第26回	2年生による研究発表	各自の選んだ本に関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第27回	2年生による研究発表	各自の選んだ本に関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第28回	1年間のまとめ	1年間で学んだことを復習・総括します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献をよく読んだり、提示されたテーマについて下調べをするなどして、授業中のディスカッションで自分の考えを述べる準備をしておいてください。また、秋学期の研究発表に際しては、自らの問題意識にもとづいて主体的に調査を行います。本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時指定します。

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%とし、研究会への貢献度や発表・レポートの内容から総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

取り上げた文献の文章が難しかった、レポートの添削が役にたったという意見をいただきました。読解力・文章力は社会に出てからも役立つ力だと思いますので、文献読解やレポート作成はそれらを磨くトレーニングとして考えていただければと思います。

【関連の深いコース】

人間文化コース、グローバル・サステイナビリティコース

【Outline (in English)】

In this course, students do research, have discussions, give presentations and write essays about art and design for a sustainable society. By the end of the course, students should be able to express their own opinions about how art and design should tackle various social problems and to gain skills in gathering and analyzing materials for their research and giving presentations on what they find in their research. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grades will be decided based entirely on their participation (in-class contribution, presentation, discussion, etc.).

GEO400HA（地理学 / Geography 400）

研究会A

杉戸 信彦

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：自然環境と災害

持続可能性のある地域社会の構築に向けて、その土地の自然環境がもつ個性との調和をはかる視点が求められています。

本研究会では、自然環境について、あるいは自然環境と人間社会のかかわりあいについて、災害という側面を重視しながら主に地理学的な観点から考え、自然環境が人間社会に与える影響や、人間社会のあり方を見つめなおします。

【到達目標】

自然環境と人間社会のかかわりあいについて説明できる。

自然環境にかかわる視点から地域社会の持続可能性について説明できる。

調査法や発表法を身につける。

地図を活用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

グループワークや文献講読、個人研究、ディスカッション、時の話題の紹介などを行います。キーワードは、自然環境、自然災害、地形、地震、津波、豪雨、火山噴火、気候変動、土地条件、土地利用、ハザードマップ、歴史、教育、地域、住民、行政、産業などです。自然環境にかかわる内容をひろく扱います。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	趣旨説明、文献検索説明
第2回	時の話題	紹介、意見交換
第3回	文献講読	読みあわせ
第4回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第5回	課題演習	机上作業
第6回	野外実習	巡検
第7回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第8回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第9回	時の話題	紹介、意見交換
第10回	グループワーク	テーマや地域の設定
第11回	グループワーク	意見交換
第12回	グループワーク	発表、質疑応答・討論
第13回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第14回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第15回	ガイダンス	趣旨説明、論文・発表説明
第16回	時の話題	紹介、意見交換
第17回	文献講読	読みあわせ
第18回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第19回	課題演習	机上作業
第20回	野外実習	巡検

第21回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第22回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第23回	時の話題	紹介、意見交換
第24回	グループワーク	テーマや地域の設定
第25回	グループワーク	意見交換
第26回	グループワーク	発表、質疑応答・討論
第27回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第28回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料収集や調査、発表準備、まとめ等を行う。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点やレポート等の総合評価（100%）

【学生の意見等からの気づき】

知識や応用力、思考力に加え、基礎力やスキルをより涵養すべく、詳しく具体的な説明や効果的な進め方を心がけます。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、環境サイエンスコース

【Outline (in English)】

A perspective of seeking harmony with the natural environment, one of the fundamental factors in each region, is required to improve our social sustainability. We conduct various studies on (1) the natural environment itself, and (2) the relationship between the natural environment and human society, with emphasis on natural disasters. The approaches are mainly based on geography. We examine the impact of the natural environment on human society and sustainability of human society.

Students should be able to do the followings by the end of the course: (1) to explain the relationship between the natural environment and human society, (2) to explain sustainability of human society from the perspective of the natural environment, (3) to conduct surveys and presentations, and (4) to use maps. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on criteria including in-class contribution and reports (100%).

LAW400HA（法学 / law 400）

研究会A

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／4単位
開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火5/Tue.5
備考（履修条件等）：定員制
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会で生じた、あるいは生じている様々な問題を素材として、国際平和（国際社会の中の日本、国際紛争の解決、環境問題の改善、人権の保障、よりよい社会の実現）について考える。

【到達目標】

自分で設定したテーマについて、徹底的に調べ、研究し、発表し、議論することで、問題解決能力を身につける。
卒業時には、研究会修了論文を提出する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

専門文献講読、事例研究、個人の研究報告、時事問題に関する討論、ディベート等を行う。
学生による自主的な運営を期待する。
適宜、サブゼミを行う（読書会、映画鑑賞会等）。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際平和の追求	ガイダンス 年間計画
第2回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第3回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第4回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第5回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第6回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第7回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第8回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第9回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第10回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第11回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第12回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第13回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第14回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第15回	国際平和の追求	個人発表と討論
第16回	国際平和の追求	個人発表と討論
第17回	国際平和の追求	個人発表と討論
第18回	国際平和の追求	個人発表と討論
第19回	国際平和の追求	個人発表と討論
第20回	国際平和の追求	個人発表と討論
第21回	国際平和の追求	個人発表と討論
第22回	国際平和の追求	個人発表と討論
第23回	国際平和の追求	個人発表と討論
第24回	国際平和の追求	個人発表と討論
第25回	国際平和の追求	個人発表と討論
第26回	国際平和の追求	個人発表と討論
第27回	国際平和の追求	個人発表と討論

第28回 国際平和の追求 4年生による総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
報告者が事前に指定する文献を読み、それに基づいて十分に予習をしてくること。
本授業の準備学習・復習時間は、発表担当ではない場合、各2時間が目安である。

【テキスト（教科書）】

植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2026年。岩沢雄司『国際法〔第2版〕』東京大学出版会、2023年。
繁田泰宏・佐古田彰編集代表、平野実晴共同編集『テキストブック国際環境法』（東信堂、2026年）。
森川幸一他編『国際法判例百選〔第3版〕』有斐閣、2021年。
繁田泰宏・佐古田彰編集代表、岡松暁子・小林友彦共同編集、鳥谷部 壤・平野実晴編集協力『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。

【参考書】

山本草二『新版 国際法』有斐閣、1994年。
松井芳郎『国際環境法の基本原則』東信堂、2010年。

【成績評価の方法と基準】

発表：40％
議論への参加：30％
期末レポート：30％

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

発表に必要なPC、機器使用のための鍵等を準備すること。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース

【Outline (in English)】

Participants will discuss international peace focusing on armed conflicts, international environmental issues, human rights etc.
This class goal is to learn the ability to solve disputes.
The participants will be expected to read all materials and documents, which takes more than two hours.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
performance of presentations(30%), participation to the discussion(30%), term-end reports(30%) and in class contribution(10%).

TRS400HA（観光学 / Tourism Studies 400）

研究会A

梶 裕史

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 5/Fri.5

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「文化的景観」とエコツーリズム

「文化的景観」という考え方をベースに、地域固有の自然・文化資産を活かしたエコな地域形成・人間形成の可能性について、日本型のエコツーリズムや観光文化、エコミュージアムなどの視点と結びつけながら、各自の現地調査を通じて事例研究を行う。現地調査（各自の関心によりフィールドを決め、ヒアリング調査を必ず含んで自主的に企画する）で選ぶフィールドについては、特定の一か所に限らないテーマ設定のしかたもある。

【到達目標】

・「環境表象論Ⅰ、Ⅱ」の内容を、自主的な現地調査の体験によって実感的に理解する

・沖縄離島ゼミ宿泊（3年次夏）の体験や、他のゼミ生の研究発表など様々なフィールドの話から、自己の現地体験とのつながりを見つけれられ、研究成果を「共有」できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業です。各回はゼミ生の個人研究発表と質疑応答・ディスカッションおよび教員の助言（フィードバック）が基本です。春学期は新3年生が前年度の個人研究の成果に基いて発表を担当し、秋学期は新4年生に発表してもらう予定です。2年生は先輩の発表を聴いて学びながら、春学期末と秋学期終盤（12月）に、個人研究の構想とその経過報告を、共同発表してもらいます。

「授業計画」各回に記した発表テーマは仮想の一例であり、実際の発表スケジュール（テーマ・順番）は、担当学年のゼミ生が自主的に、有機的なつながりも工夫して組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	年間オリエンテーション、参加者自己紹介	年間スケジュールの説明等
第2回	個人研究発表①	発表は1人30分以内程度、題材は主として昨年度の研究成果に基づき、発表後にグループワークを含む質疑応答や教員のレクチャー等
第3回	個人研究発表②	(例) 南三陸気仙沼における震災復興、農業・水産業とエコツーリズムのとりくみへの移住者の貢献
第4回	個人研究発表③	(例) 瀬戸内の島におけるエコツーリズムのとりくみ（1）－江田島
第5回	個人研究発表④	(例) 瀬戸内の島におけるエコツーリズムのとりくみ（2）－瀬戸内芸術祭の島のアートツーリズム、鞆の浦

第6回	個人研究発表⑤	五島列島の文化的景観－キリスト教浸透の歴史と関わる椿生産の価値
第7回	個人研究発表⑥	四万十川の文化的景観の継承のとりくみ
第8回	個人研究発表⑦	富士山麓の文化的景観の価値とオーバーツーリズムの課題－忍野村の例
第9回	個人研究発表⑧	日光の文化財（街道、社寺の祭礼）継承のとりくみ
第10回	個人研究発表⑨	温泉地らしいまちなみの保全、再興の課題と可能性－伊香保温泉
第11回	グループワーク	教員がトピックを提供
第12回	2年生共同発表①	今年度の個人研究調査構想を、テーマに共通性のあるグループを作って発表。
第13回	2年生共同発表②	前回の続き
第14回	個別指導	個別に提出する現地訪問計画書に基づく
第15回	秋学期オリエンテーション	スケジュール説明、夏休み中の個人研究の各自ふりかえり等
第16回	個人研究発表⑩	(例) 竹富島の「神」への信仰・祭事と「うつぐみ」の景観
第17回	個人研究発表⑪	(例) 竹富島の「神」への信仰・祭事と「うつぐみ」の景観（2）
第18回	個人研究発表⑫	(例) 竹富島のオーバーツーリズムの課題ととりくみ
第19回	個人研究発表⑬	(例) 白保の「サンゴ礁文化」継承による持続可能な地域づくりのとりくみと課題（1）
第20回	個人研究発表⑭	(例) 白保の「サンゴ礁文化」継承による持続可能な地域づくりのとりくみと課題（2）
第21回	個人研究発表⑮	(例) 竹富島とフィルムツーリズム
第22回	個人研究発表⑯	(例) 白保とフィルムツーリズム
第23回	総括のグループワーク①	「旅」とは何か－日本人の歴史・文化の伝統的特質との関わりからの視点から
第24回	総括の不ループワーク②	「五感」・Lohasの視点から
第25回	2年生共同発表③	個人の調査・研究の進捗状況を、テーマの共通点からグループ分けして発表。
第26回	2年生共同発表④	前回の続き
第27回	学年末論文の構想発表（タイトル・要旨・仮目次等）と個別指導	論文に使用する参考文献リストも合わせて提出。
第28回	自主「進路」セミナー	3年生が企画し、4年生が語る、目先の「就活」ノウハウに留まらない体験談や考え方、卒業後の抱負等を聴く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、個人研究の現地調査の準備としての予備知識や現地情報の収集等が課外学習に相当します。予習・復習の時間は毎回各2時間を標準とします。授業内（教室）以外でのゼミ生相互の有益な情報交換。近場の自主的訪問等も奨励します。3・4年生は先輩として新規参加の2年生の指導も行うことが求められます。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容および学年末論文65%、参加姿勢やゼミという組織の中での協調性・貢献度等35%

【学生の意見等からの気づき】

- ・好評の「教員と学生個々との近さ、親しみやすさ」という特色を今後も活かしていきます。
- ・「好きこそものの上手なれ」の信条に沿って、各自の趣味嗜好・資質に適った研究テーマを設定できることは、自律的な自己管理の意思が必要なものの、モチベーションを良好に持続できれば、多様性ゆたかな研究成果を共有できる面白さと刺激があるという声が、定評としてあります。
- ・学部のフィールドスタディほどの質は伴わないにせよ、自主的にヒアリングを必ず含む現地調査を企画し実行する経験は、コミュニケーション力の向上につながっているようです。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

- ・この金曜5限研究会は、新規参加の2年生および継続参加の3・4年生が履修登録対象となります。

【関連の深いコース】

人間文化コース、ローカル・サステイナビリティコース

【Outline (in English)】

Theme: "Cultural landscape" and ecotourism

Based on the concept of "cultural landscape", we link the viewpoints of eco-tourism, tourism culture, eco-museum and other aspects of Japanese-style ecotourism, tourism culture, and the possibility of human formation utilizing local natural and cultural assets. Students conduct case studies through field surveys of their own. Regarding field to be selected in the field survey (field is decided according to their interests and voluntarily planned, including necessarily hearing survey), there are also methods of theme setting not limited to one specific place.

Goal

- ・ Understand the contents of "Environmental Representation Theory I and II" through the experience of voluntary field surveys.
- ・ From the experiences of the Okinawa remote island seminar camp in the previous year and the talks of various fields such as research presentations of other seminar students, you will be able to find a connection with your own local experience and "share" your research results.

Work to be done outside of class

Extracurricular learning is equivalent to collecting preliminary knowledge and local information in preparation for a field survey of individual research. The standard time for preparation and review is 2 hours each. Useful information exchange between seminar students outside the class (classroom). We also encourage voluntary visits in the vicinity. Third and fourth graders are required to provide guidance to second graders who are new participants as seniors.

Grading criteria

Presentation content and year-end dissertation 65%, participation attitude and cooperation / contribution within the organization such as seminars 35%

EVN400HA（その他の環境学 / Others 400）

研究会A

北川 徹哉

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会では都市を構成するエレメントについて勉強する。ここでいうエレメントとは、住宅や建物、交通運輸、食品流通、情報通信、エネルギー、エンターテインメント施設など、さらにはこれらを担うヒトやシステムである。都市を身体に例えると、これらのヒトやモノ、システムは臓器であり、神経であり、血液であったりします。どれも無いと困るものです。このゼミは都市の健康診断をするようなものと考えよう。

【到達目標】

1. 国内または海外の都市の特徴を説明できる。
2. 都市環境と都市基盤について説明できる。
3. 都市内・都市間の各種の交通や流通を説明できる。
4. 都市の政策事例を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

前半は、指定したテキストあるいは資料を用いて各自の担当部分を決めて輪講してゆく。各回の担当者は自分の担当部分の内容を理解して、その他の文献も参照しながら内容をまとめ、発表に臨む。後半には、春学期の輪講で得た知識をベースに個人あるいはグループごとにテーマを設定して課題に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テキスト・資料の内容	輪読するテキスト・資料の確認、輪読担当部分の取り決め
第2回	担当部分の発表・質疑応答	1 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第3回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第4回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第5回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第6回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第7回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第8回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論

第9回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第10回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	9 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第11回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 0 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第12回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 1 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第13回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 2 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第14回	前半の取りまとめ	開始から前回までの取りまとめ
第15回	調査テーマの選定	調査グループの決定、前半の輪読をヒントに調査テーマを考案、構想発表の準備
第16回	調査テーマの構想発表・討論（その1）	各自あるいは各グループによる調査テーマの構想発表と討論（第1回）
第17回	調査テーマの構想発表・討論（その2）	各自あるいは各グループによる調査テーマの構想発表と討論（第2回）
第18回	調査と分析（その1）	調査の方向性の修正、各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第19回	調査と分析（その2）	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業、中間発表の準備
第20回	調査と分析（その3）	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業、中間発表の準備
第21回	中間発表・討論（その1）	各自あるいは各グループによる調査の進捗状況の発表と討論（第1回）
第22回	中間発表・討論（その2）	各自あるいは各グループによる調査の進捗状況の発表と討論（第2回）
第23回	調査と分析（その4）	調査の方向性の修正、各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第24回	調査と分析（その5）	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第25回	調査と分析（その6）	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第26回	調査結果発表の準備	各自あるいは各グループによる最終発表の準備
第27回	調査結果発表	各自あるいは各グループによる最終発表
第28回	調査結果発表	各自あるいは各グループによる最終発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業での資料等を使用して予習・復習をすること。

第1～14回：輪読箇所の精読と不明箇所の事前調査、発表用スライドなどの作成、発表の練習

第15回：エネルギーと社会に関する時事問題・課題の抽出

第16～17、21～22回：発表用スライドなどの作成、発表の練習

第18～20、23～25回：各種文献・レポート・インタビューなどによる調査と分析

第26～28回：発表用スライドなどの作成、発表の練習、発表本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時に指定する。

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッション（50％：議論・質疑応答の良好度，到達目標1～3への到達度），発表（50％：スライド・資料などの完成度や正確性，到達目標1～3への到達度）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

楽しく，じっくりと，小さなことからコツコツ勉強します。また，知識を脳裏に固定するには話すこと，話し合うことが一番です。わからないことも誰かに話すようにしましょう。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース，環境サイエンスコース

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class is a seminar for learning about the urban/regional policies, the transportation systems, the communication networks and the energy supply/demand.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

A. to learn about urban/regional policies, transportation systems, communication/information networks and energy supply/demand,

B. to obtain the knowledges of the problems of those in A and

C. to make suggestions for creating better environment of those in A.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to investigate on their own research issues and to prepare for the presentation and discussion. Your study time will be more than four hours for a class on average.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on the qualities of presentation (50%) and discussion (50%).

CMF400HA（その他の複合領域 / Complex systems(Others) 400）			第5回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
研究会A			第6回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
小島 聡			第7回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
配当年次／単位：2～4年／4単位			第8回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
開講セメスター：年間授業/Yearly 曜日・時限：金3/Fri.3			第9回	共通テーマに関する調査研究	春学期に行った共通テーマに関する調査研究の成果について、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
備考（履修条件等）：定員制			第10回	共通テーマに関する調査研究	春学期に行った共通テーマに関する調査研究の成果について、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
その他属性：			第11回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究計画と春学期の進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】			第12回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究計画と春学期の進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
この研究会のテーマは「持続可能な地域社会の創造」である。特に、環境、経済、社会、文化、公共政策、SDGsなど、多様な視点から、21世紀における地域社会のソーシャルイノベーションについて総合的にアプローチする。また、市民、NPO、地方自治体、企業などの参加と協働に注目する。さらに、「持続可能な地域社会」について学内で探究しながら、高度な「アクティブラーニング」としての地域活動に取り組む。このような挑戦を通して、学生は、大学生としての総合的な能力を構築することをめざす。			第13回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究計画と春学期の進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
【到達目標】			第14回	地域連携プロジェクトの確認	夏期に実施する地域連携プロジェクトの目的と内容を確認する。
学生の到達目標は以下のとおりである。			第15回	地域連携プロジェクトの検証	夏期に実施した地域連携プロジェクトについて検証し、秋学期の共通テーマに反映する知見を共有する。
・持続可能な地域社会に関する知識を習得する。			第16回	共通テーマの調査研究	秋学期に行う共通テーマに関する調査研究について確認する。
・PBLといわれる教育手法により、問題発見と問題解決の能力を獲得する。			第17回	共通テーマの調査研究	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
・調査研究と論文執筆のためのアカデミックスキルを身につける。			第18回	共通テーマの調査研究	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
・アクティブラーニングにより、コミュニケーション力、企画運営力、協働力を身につける。			第19回	共通テーマの調査研究	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】			第20回	共通テーマの調査研究	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連			第21回	共通テーマの中間報告	共通テーマに関する調査研究の進捗状況と知見について全体で確認し、本年度の最終成果に向けて調整を行う。
【主な授業方法】			第22回	共通テーマの調査研究	担当グループごとの報告と質疑応答、議論を行う。
S 演習/ゼミ/Seminar			第23回	共通テーマの調査研究	担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
【授業の進め方と方法】			第24回	共通テーマの最終報告と総括	共通テーマについて各グループが最終報告を行った上で、提言報告書の作成に向けて、全体を総括しながら、本年度の成果を全員で共有する。
研究会の共通テーマでは、認識を共有するためのテキストを輪読するとともに、高度なアクティブ・ラーニングであるPBL（問題発見・解決型学習）として、特定地域との連携による実践・交流を行いながら、調査研究を実施し政策提言を含む報告書にまとめる。さらに基礎的な能力構築のために、ワークショップ技法の習得、書評の執筆、時事問題に関する討論などを日常の研究会に組み込む。なお、学生の個人研究では、各人が地域社会に関する任意のテーマを設定してゼミ研究論文を作成する。グループおよび個人から提出された報告用ペーパーについてはその場でコメントするとともに、後日、必要に応じて、個別に追加コメントを行う。			第25回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】			第26回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
あり/Yes			第27回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】			第28回	1年間のふりかえり	年度当初に掲げた研究会のミッションの実現について検証する。
あり/Yes					
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
回	テーマ	内容			
第1回	オリエンテーション	研究会のミッションと運営方針、テーマ、1年間のスケジュールなどを確認する。			
第2回	前年度の共通テーマの成果に関する報告と共有	前年度の共通テーマの成果について報告した上で、質疑応答により共有する。			
第3回	本年度の共通テーマの確認	本年度の共通テーマについて、背景と目的、想定される調査研究課題などを確認する。			
第4回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。			

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の授業時間外の学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする）。

- ・テキストや関連資料による予習と復習
- ・課題や地域プロジェクトへの取り組み
- ・個人テーマに関する調査研究とゼミ論文の執筆

【テキスト（教科書）】

開講時の約2週間前までに決定し連絡する。

【参考書】

適宜、授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点＝積極的な参加姿勢（40%）、地域プロジェクトへの貢献（30%）、課題提出とゼミ論文（30%）による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

特定地域に関するPBL（問題発見・解決型学習）を進めることについて、答えのない問題に取り組むこと、さらにチームとしての協働は能力構築にとって意義があると感じています。

【その他の重要事項】

この研究会は、ローカル・サステイナビリティコースの学生を対象としています。したがって、履修にあたり、上記のコースコア科目とともに、研究会の共通テーマ、個人テーマと関連するコース共通科目及びコース連環科目を人間環境学部のカリキュラム全体から選択し、各人が有意義な履修プログラムを構築することで、研究会との相乗効果を達成することが望ましいと考えています。

このような「戦略的履修」への手がかりや、思わぬ科目との出会いによって知的成長につながる「余剰の効用」とのバランスについては、相談に応じますから、積極的に助言をもとめてください。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース

【Outline (in English)】

The theme of this seminar is "the creation of sustainable community." In particular, we will approach synthetically about the social innovation of community in the 21st century from various viewpoints, such as environment, economy, society, culture, public policy, and SDGs. Moreover, we will take notice of participation and collaboration of citizen, NPO, local government, company, etc. Furthermore, we will work on community practice as advanced "active learning", with exploring "sustainable community" within the campus. Students aim at building comprehensive abilities as undergraduates through such challenges.

At the end of the course, students are expected to achieve the following goals:

- (1) Acquire knowledge of sustainable community.
- (2) Acquire problem-finding and problem-solving skills through so-called "PBL" methods
- (3) Acquire academic skills for research and writing the thesis.
- (4) Acquire communication skills, planning and management skills, and collaboration skills through active learning including community practice.

Students need to prepare and review each session by using textbooks and related materials, and to work on some assignments, some community projects in this seminar. Preparatory and review time for this seminar are 2 hours each. Students are also required to research on individual interest and write a final report.

Your overall grade in this class will be decided based on the following: Active class participation:40%, Contribution to local project:30%, Short assignment and final report:30%

CMF400HA（その他の複合領域 / Complex systems(Others) 400）

研究会A

小島 聡

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会のテーマは、「持続可能な地域社会の創造」である。特に、SDGsと21世紀における地域社会のソーシャルイノベーションに関する学びを基盤として、地域における社会貢献活動を企画し実践する。また学生は、卒業論文（研究会修了論文）を完成させるための調査研究を行う。この研究会の目的は、学生が、社会人として必要な能力の基礎を涵養しながら、将来のキャリアイメージを模索することである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・持続可能な地域社会に関する知識を習得する。
- ・PBLといわれる教育手法により、問題発見と問題解決の能力を獲得する。
- ・調査研究と卒業論文（研究会修了論文）の執筆のためのアカデミックスキルを身につける。
- ・アクティブラーニングにより、コミュニケーション力、企画運営力、協働力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

研究会の共通テーマでは、高度なアクティブ・ラーニングであるPBL（問題発見・解決型学習）として、特定地域との連携による実践・交流に参画する。さらに、卒後論文（研究会修了論文）については各人がそれぞれのテーマに取り組み、成果については公開のプレゼンテーションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究会のミッションと運営方針、テーマ、1年間のスケジュールなどを確認する。
第2回	前年度の共通テーマの成果に関する確認	前年度の共通テーマの成果について確認する。
第3回	本年度の共通テーマに関する検討	本年度の共通テーマを確認した上で、地域連携プロジェクトとの関連性などについて検討する。
第4回	前年度の成果報告書の構成の検討	前年度の成果報告書の構成について検討する。
第5回	前年度の成果報告書の作成	前年度の成果報告書の作成作業を行う。
第6回	前年度の成果報告書の作成	前年度の成果報告書の作成作業を行う。
第7回	地域連携プロジェクトの企画	夏期に実施する地域連携プロジェクトのイメージと素案について検討する。
第8回	地域連携プロジェクトの企画	夏期に実施する地域連携プロジェクトの基本構想について検討する。

第9回	地域連携プロジェクトの企画	夏期に実施する地域連携プロジェクトの実施プログラムについて検討する。
第10回	地域連携プロジェクトの企画	夏期に実施する地域連携プロジェクトの工程について検討する。
第11回	個人テーマの報告	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究計画と進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第12回	個人テーマの報告	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究計画と進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第13回	個人テーマの報告	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究計画と進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第14回	地域連携プロジェクトの企画	夏期に実施する地域連携プロジェクトの企画内容を調整する。
第15回	秋学期の方向性の確認	秋学期の共通テーマの方向性を確認する。
第16回	前年度の成果報告書の確認と修正	春学期に作成した前年度の成果報告書を確認し修正する。
第17回	共通テーマに関するフィールドスタディの検討	共通テーマに関するフィールドスタディの候補地等について検討する。
第18回	地域連携プロジェクトの検証	夏期に実施した地域連携プロジェクトの成果と知見、課題等について検証する。
第19回	地域連携プロジェクトの展望に関する展望	夏期に実施した地域連携プロジェクトの今後の発展可能性について検討する。
第20回	地域連携プロジェクトをふまえた提言の検討	夏期に実施した地域連携プロジェクトをふまえた提言について検討する。
第21回	共通テーマに関するフィールドスタディの実施	共通テーマに関するフィールドスタディを実施する。
第22回	共通テーマに関するフィールドスタディの成果の確認	共通テーマに関するフィールドスタディの成果を確認する。
第23回	学術論文の作成技法の指導	卒業論文の作成に向けて、学術論文の作成技法を指導する。
第24回	個人テーマの報告	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第25回	個人テーマの報告	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第26回	個人テーマの報告	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第27回	個人テーマの報告	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第28回	研究会のふりかえり	年度当初に掲げた研究会のミッションの実現と各人の「社会人基礎力」の涵養についてふりかえる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の授業時間外の学習を行う（本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする）。

- ・文献の事前学習。
- ・地域連携プロジェクトの企画準備。
- ・研究会修了論文執筆のための調査研究。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

適宜、授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点＝積極的な参加姿勢(40%)、地域プロジェクトへの貢献(30%)、研究会修了論文への取り組み(30%)による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

PBL(問題発見・解決型学習)として、地域実践を企画運営することは、かなりの負担ですが、チームとして協働しながら、かつ学外の組織や人々と連携することで、社会的責任を体感し、研究会を通して、いわゆる「社会人基礎力」を育んでいると感じています。

【その他の重要事項】

この研究会は、ローカル・サステイナビリティコースに登録した学生を対象としています。

したがって、履修にあたり、上記のコースコア科目とともに、研究会の共通テーマ、個人テーマと関連するコース共通科目及びコース連環科目を人間環境学部のカリキュラム全体から選択し、各人が有意義な履修プログラムを構築することで、研究会との相乗効果を達成することが望ましいと考えています。

このような「戦略的履修」への手がかりや、思わぬ科目との出会いによって知的成長につながる「余剰の効用」とのバランスについては、相談に応じますから、積極的に助言をもとめてください。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース

【Outline (in English)】

The theme of this seminar is "the creation of sustainable community." In particular, we will plan and work on community practice based on learning about SDGs and the social innovation of community in the 21st century. Moreover, students shall research for completing graduation thesis. The purpose of this seminar is for students to search for future career image, with cultivating the basic ability required as members of society.

At the end of the course, students are expected to achieve the following goals:

- (1)Acquire knowledge of sustainable community.
- (2)Acquire problem-finding and problem-solving skills through so-called "PBL" methods
- (3)Acquire academic skills for research and writing graduation thesis.
- (4)Acquire communication skills, planning and management skills, and collaboration skills through active learning including community practice.

Students need to prepare and review each session by using textbooks and related materials, and to work on some assignments, some community projects in this seminar. Preparatory and review time for this seminar are 2 hours each. Students are also required to research on individual interest and write graduation thesis.

Your overall grade in this class will be decided based on the following: Active class participation:40%, Contribution to local project:30%, Work on graduation thesis:30%

SOS400HA (その他の社会科学 / Social science 400)

研究会A

ESTHER STOCKWELL

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様性と共生: 日本における EDI と異文化教育の実践

(Diversity and Coexistence: Practising EDI and Intercultural Education in Japan)

本授業は、日本の高等教育における多文化共生を基盤とし、学生の異文化理解力 (Intercultural Competence) を育成することを目的とする。特に、マジョリティである国内学生の適応力の向上に着目し、持続可能な EDI (公平性・多様性・包摂性) の実現を目指す。本授業を通じて、学生は異文化間コミュニケーション能力、共感性、ならびに文化的適応力を体系的に修得するとともに、キャンパス内における多様性の現状を批判的に捉え、課題を分析した上で、実践的かつ具体的な改善提案を行うための能力を身につける。

【到達目標】

異文化理解力の育成

異なる文化的背景をもつ人々と、効果的かつ相互尊重に基づいたコミュニケーションを行うための知識・技能・態度を修得する。

異文化共感力の促進

多様な文化的背景を有する人々の視点、経験、ならびに直面する課題を理解し、それに共感する力を養う。

マジョリティの適応力の向上

国際学生を支援する立場にとどまらず、国内学生自身が多文化的環境に主体的に適応し、積極的に関与する力を高める。

EDI (公平性・多様性・包摂性) に関する理解と実践力の向上

日本の高等教育における EDI の基本原則を理解し、それを具体的な行動として実践するための方法を学ぶ。

行動志向型学習の推進

キャンパス内における多様性および包摂性に関する課題を特定し、データ収集や分析を通じて、実現可能な改善提案を行う能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

In the first semester, the primary learning and assessment activity is a campus-based Diversity Audit project. Through this project, students systematically analyse the current state of inclusivity within the university, engage in critical reflection, and develop evidence-based, actionable proposals aimed at fostering a more equitable and inclusive campus environment. In the second semester, the course focuses on evidence-based learning activities designed to cultivate intercultural empathy. These activities emphasise perspective-taking, emotional awareness, and reflective judgment. Through guided discussion, experiential exercises, and reflective practice, students are expected to enhance their intercultural sensitivity, develop empathic dispositions, and strengthen their capacity to communicate ethically and effectively across diverse cultural contexts.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction & Course Overview	Course syllabus, overview handout, understand course goals Self-reflection on intercultural experiences
第2回	Review of Basic Intercultural Communication Concepts	Ting-Toomey, Understanding Intercultural Communication (Ch. 1– 2)
第3回	Theories of Intercultural Communication 1	Byram's ICC, Deardorff's Pyramid, Bennett's DMIS- Key concepts: culture, communication, context
第4回	Theories of Intercultural Communication 2	Acculturation Theory: Berry, Acculturation: Living Successfully in Two Cultures Ward & Geeraert, Advances in Acculturation Theory
第5回	Intercultural Communication Skills	Verbal/nonverbal communication- Barriers & strategies- Role-play exercises
第6回	Cultural Adaptation Models	Kim, Becoming Intercultural: An Integrative Theory of Communication and Cross-Cultural Adaptation
第7回	Intercultural Empathy & Perspective-Taking	What is empathy?- Experiential activities (e.g., empathy walks, storytelling)- Reflection
第8回	EDI & Multiculturalism in Higher Education	EDI frameworks- Japanese university context- Institutional challenges & opportunities
第9回	Introduction to Diversity Audit Project	What is a diversity audit?- Audit frameworks & tools- Group formation & topic selection
第10回	Diversity Audit: Observation & Data Collection	Prepare for campus diversity audit; form groups and select focus areas Observation checklist, interview training- Fieldwork planning
第11回	Japan's Multicultural Landscape 1 — Demographic & Policy Trends	Liu-Farrer, Immigration and Social Transformation in Japan
第12回	Diversity Audit: Fieldwork & Data Gathering	Conduct campus observations- Interview students, staff, faculty
第13回	Data Analysis & Critical Reflection	Analyzing findings- Reflective journaling- Group discussion: challenges & surprises
第14回	Action Planning: From Audit to Advocacy	Identifying gaps & opportunities- Developing recommendations- Workshop: persuasive communication Presentations to class
第15回	Future Directions	Reflection: personal growth & next steps- Course evaluation- Discussion: sustaining EDI change

第16回	Japan's Multicultural Landscape 2 – Social Issues & Integration Challenges	Tsuneyoshi, Minorities and Education in Multicultural Japan
第17回	Media, Education & Intercultural Awareness	Case study analysis Media critique
第18回	Intercultural Education Methods	Banks, Teaching Strategies for Ethnic Studies
第19回	Curriculum Development for Acculturation Education	Banks & Banks, Multicultural Education Multicultural experiences enhance empathy, reduce bias, and promote cooperation
第20回	Teaching & Facilitation Skills for Intercultural Programs	Bennett, Basic Concepts of Intercultural Communication
第21回	Program Design Principles Curriculum Development for Acculturation Education	Banks & Banks, Multicultural Education Caffarella, Planning Programs for Adult Learners
第22回	Teaching & Facilitation Skills for Intercultural Programs	Bennett, Basic Concepts of Intercultural Communication
第23回	Pilot Testing Programs: Evidence-Based Class Activities for Developing Intercultural Empathy	Patton, Utilization-Focused Evaluation
第24回	Making intercultural education activities	activities related to understanding cultural general knowledge, cultural specific knowledge and developing cognitive empathy
第25回	Program Revision & Improvement	Revise program based on feedback
第26回	Final Program Delivery	Deliver an education program Assessment tool creation
第27回	Presentation	Analysing the activity and sharing reflection
第28回	Reflection & Future Applications	Refined research plan

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials. Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes. Therefore, students are expected to take about four hours for preparation and review per class.

【テキスト（教科書）】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in each class.

【参考書】

Banks, J. A. (2017). An introduction to multicultural education (6th ed.). Pearson Education.
Berry, J. W. (1997). Immigration, acculturation, and adaptation. *Applied Psychology: An International Review*, 46(1), 5– 34.

Deardorff, D. K. (2006). The identification and assessment of intercultural competence as a student outcome of internationalization. *Journal of Studies in International Education*, 10(3), 241– 266.

Gay, G. (2018). Culturally responsive teaching: Theory, research, and practice (3rd ed.). Teachers College Press.

Portera, A., Trevisan, G., & Milani, P. (Eds.). (2025). *Intercultural education, curriculum development, assessment and teaching*. Routledge.

Sleeter, C. E., & Grant, C. A. (2009). *Un-standardizing curriculum: Multicultural teaching in the standards-based classroom* (2nd ed.). Teachers College Press.

【成績評価の方法と基準】

Assessment will be based on class participation, the Diversity Audit project, written reflections, and final presentations. Students will be evaluated on their understanding and application of course content rather than on their English language proficiency.

First Semester

Assessment will consist of:

In-class participation: 30%

Presentation: 20%

Diversity Audit project: 50%

Second Semester

Assessment will consist of:

In-class participation: 30%

Presentation: 20%

Intercultural Education Activity: 50%

Students who are absent from four or more classes will not be able to receive credit for this course, in accordance with the attendance policy.

【学生の意見等からの気づき】

There were no specific requests from students regarding this course. However, the course aims to encourage students to apply what they have learned to their daily lives by critically examining everyday social phenomena.

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース、人間文化コース

【Outline (in English)】

This course examines the development of intercultural competence within the context of Japanese higher education, with particular emphasis on the principles of multicultural coexistence in Japan. It aims to equip students with the knowledge, skills, and attitudes required to engage effectively in multicultural academic and social environments. Special attention is given to students from the majority group (domestic students), highlighting their role and responsibility in fostering inclusive communities.

Through the integration of theoretical frameworks, practical learning activities, and structured reflection, students will critically explore approaches to promoting sustainable Equity, Diversity, and Inclusion (EDI) in higher education settings. A central component of the course is the Diversity Audit, in which students systematically assess inclusivity on campus and develop evidence-based, actionable proposals to enhance equity and inclusion within the university environment.

ECN400HA（経済学 / Economics 400）

研究会A

武貞 稔彦

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 5/Fri.5

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2026年度は「支援」をテーマとします。SDGsの目標1に掲げられている「あらゆる形態の貧困をなくす」ということを中心に、途上国のみならず先進国も含めた社会における「支援」の意味やあり方を考えます。特に、先進国を含む多くの社会で格差や分断が助長されている中、共同して社会を構築し、その中で個々の生活を持続可能にするために、どのような取り組みが必要なのかという観点から、「支援」の意味を深く考えます。

本セミナーは持続可能な開発目標（SDGs）全体に関わりますが、とりわけゴール1,2,10と深い関係にあります。

【到達目標】

本研究会では、（ア）開発と環境保全、貧困をめぐる議論を広い視野から捉え、（イ）自らの意見をもちそれを人に伝え、（ウ）将来の持続可能な社会の姿を想像・構想できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の方法等は、受講者の積極的な提案に基づき、随時見直しを行います。主に a)基礎文献の精読、b)与えられた課題に関するグループ調査とディスカッション、c)参加者の意見表明の機会、からなります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方（予定）について概説する。
第2回	基礎文献の輪読（1）	「支援」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第3回	基礎文献の輪読（2）	「支援」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第4回	基礎文献の輪読（3）	「支援／貧困」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第5回	基礎文献の輪読（4）	「支援／貧困」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第6回	基礎文献の輪読（5）	「支援／災害」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第7回	基礎文献の輪読（6）	「支援／災害」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第8回	グループディスカッション 課題1-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第9回	グループディスカッション 課題1-2	グループ発表および全体ディスカッション
第10回	グループディスカッション 課題2-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第11回	グループディスカッション 課題2-2	グループ発表および全体ディスカッション

第12回	グループディスカッション 課題3-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第13回	グループディスカッション 課題3-2	グループ発表および全体ディスカッション
第14回	春学期のまとめ	春学期全体のまとめ、フィードバック。
第15回	春学期まとめと秋学期オリエンテーション	春学期の復習と秋学期のとり進め方について意見交換を行う。
第16回	グループディスカッション 課題4-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第17回	グループディスカッション 課題4-2	グループ発表および全体ディスカッション
第18回	グループディスカッション 課題5-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第19回	グループディスカッション 課題5-2	グループ発表および全体ディスカッション
第20回	グループディスカッション 課題6-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第21回	グループディスカッション 課題6-2	グループ発表および全体ディスカッション
第22回	グループディスカッション 課題7-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第23回	グループディスカッション 課題7-2	グループ発表および全体ディスカッション
第24回	グループディスカッション 課題8-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第25回	グループディスカッション 課題8-2	グループ発表および全体ディスカッション
第26回	グループディスカッション 課題9-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第27回	グループディスカッション 課題9-2	グループ発表および全体ディスカッション
第28回	まとめ	年間の議論を総括するとともにこれまでの活動に関するフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。基礎文献、与えられた課題（英文含む）は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定のテキストはありません。

【参考書】

研究会において紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（議論への積極的参加や貢献など）（70%）、期末レポート（30%）に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ生同士のコミュニケーションのバリエーションを増やすことに留意する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、調査、発表用のパソコン／タブレットなどを持参すること。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、グローバル・サステイナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力の実務に携わった経験がある。本研究会においては、経済協力の実務を通じて得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

The theme for year 2026 is “Support.” Centered on SDG Goal 1, “End poverty in all forms,” we will consider the meaning and nature of ‘support’ within societies, encompassing not only developing countries but also developed nations. Particularly, as disparities and divisions are being exacerbated in many societies, including developed ones, we will deeply examine the meaning of “support” from the perspective of what initiatives are necessary to collaboratively build societies and sustain individual lives within them.

This seminar is concerned with the Sustainable Development Goals (SDGs) as a whole, but especially with Goals 1, 2, and 10.

[Learning Objectives]

The goal of this seminar is to enable students to (a) gain basic understanding on the concept of poverty, (b) view the debate on poverty from a broad perspective, (b) formulate their own opinions and communicate them to others, and (c) imagine and envision a sustainable society without poverty for the future.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the lectures using the materials introduced in each lecture.

Students are required to read carefully the basic literature and the given assignments (including English texts) before attending the exercises. Read through as much as possible of the reference books introduced in the lectures. Students should have opportunities to actively gather in groups to discuss issues. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on performance in the regular session (active participation and contribution to discussions, etc.) (70%) and the final report (30%).

SOS400HA（その他の社会科学 / Social science 400）

研究会A

辻 英史

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界と日本の生活保障——社会福祉と市民社会

2000年頃から日本は格差社会になったと言われはじめました。経済的に貧困な生活を送っている人の数が増えただけでなく、非正規労働に就いている人々、高齢者、シングルマザー、不登校やひきこもりなど、生活が不安定で困窮化するおそれのある人、また日常的に他者とつながりをもつ機会がなく、孤立した状態にある人たちの存在が注目を集めるようになりました。このゼミでは、このような「社会的弱者」と呼ばれる人たちをリスクや困窮、孤立からどのように救い、地域社会や人間関係の中に包括していくかという問題を扱います。

【到達目標】

このゼミでは、「社会的な弱者」とはどのような人たちなのか、彼ら彼女らの生活を支え、社会の一員として共生していくためにどのような試みがおこなわれているのかを調べ、その問題点を明らかにします。日本を中心に扱いますが世界のそれぞれの地域にも視野を広げます。また現在だけでなく、歴史上のさまざまな時代も考察の対象とします。さらに、社会福祉に関する行政や法律・制度だけでなく、人間相互の助け合いのあり方（「連帯」）やNPO・NGOといった市民社会の活動を含めて幅広く扱います。2026年度のテーマは引き続き＜外国人市民との共生＞、＜子どもの貧困＞です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

このゼミでは、以下のメニューを実施する。

- ① 文献購読：ゼミテーマに関連する重要文献（主として日本語）を講読する。
- ② グループワーク：参加者各自の関心に応じてグループに分かれ、調べた内容を報告する。
- ③ フィールド調査・現地訪問：毎年ゼミテーマに関連する施設や団体を訪問し、その活動を見学またはその手伝いをする中でグループワークに活かす。授業時間外に各自で実施する。
- ④ サブゼミ：通常のゼミの時間に続いて、2年生の読解力改善のための文献精読や4年生の卒論準備のための勉強会を開催する。
- ⑤ 他大との合同ゼミ合宿：年1回開催する。
- ⑥ レポートと面談：各学期末にレポートを執筆する。また個別面談をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介とゼミの説明。
第2回	概説	今年度のゼミで学ぶ内容について概説を聞き、グループ分けをおこなう。
第3回	前年度年度末レポートの発表	前年度末に提出されたレポートの一部の発表と講評をおこなう。
第4回	文献講読（第1回）	ゼミ全体のテーマに関わる基礎的なテキストを講読する。

第5回	文献講読（第1回）	ゼミ全体のテーマに関わる基礎的なテキストを講読する。
第6回	文献講読（第1回）	ゼミ全体のテーマに関わる基礎的なテキストを講読する。。
第7回	グループワーク準備	文献講読で明らかになった課題を整理し、グループワークの準備をする。
第8回	グループワーク（第1回）	グループに分かれて調査する。
第9回	グループワーク（第1回）	グループに分かれて調査する。
第10回	グループワーク（第1回）	グループに分かれて調査する。
第11回	グループワーク（第1回）	グループに分かれて調査する。
第12回	グループワーク（第1回）のまとめ	グループワークの結果をまとめ発表の準備をする。
第13回	グループワーク報告（第1回）	グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第14回	グループワーク報告（第1回）	グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第15回	後半イントロダクション	前半の活動を総括し、後半の課題を整理する。
第16回	春学期学期末レポートの報告	春学期学期末レポートの一部の報告と講評をおこなう。
第17回	文献講読（第2回）	各グループのテーマに関する発展的なテキストを購読する。
第18回	文献講読（第2回）	各グループのテーマに関する発展的なテキストを購読する。
第19回	文献講読（第2回）	各グループのテーマに関する発展的なテキストを購読する。
第20回	文献講読（第2回）	各グループのテーマに関する発展的なテキストを購読する。
第21回	グループワークのテーマ決め	グループワークのテーマを決め、調査内容の割り当てをおこなう。
第22回	グループワーク（第2回）	グループに分かれて調査する。
第23回	グループワーク（第2回）	グループに分かれて調査する。
第24回	グループワーク（第2回）	グループに分かれて調査する。
第25回	グループワーク（第2回）	グループに分かれて調査する。
第26回	グループワーク（第2回）のまとめ	グループワークの結果をまとめ発表の準備をする。
第27回	グループワーク報告（第2回）	グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第28回	グループワーク報告（第2回）	グループごとに報告と質疑応答をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

ゼミのなかでは参加者の個別の関心にそのまま合致した内容を探することは少ないので、各自の自主的な努力が重要である。自分の関心に即して文献を調べ、資料を集めるなど調査し、報告の準備をすること。

また、文献講読の際は、必ず事前にテキストを読んでくること。本授業の準備学習・復習時間は、毎回2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業中に指示する。

【参考書】

以下のほか、開講時に指示する。

- ・ 坪洋一『福祉国家』法律文化社、2012年。
- ・ 落合恵美子編『どうする日本の家族政策』ミネルヴァ書房、2021年。
- ・ 金子充『入門貧困論—ささあう／たすけあう社会をつくるために』明石書店、2017年。
- ・ 橋本俊詔『社会保障入門』ミネルヴァ書房、2019年。
- ・ 堀橋孝文編『どうする日本の福祉政策』ミネルヴァ書房、2020年。
- ・ 田中聡子／志賀信夫編著『福祉再考—実践・政策・運動の現状と可能性』旬報社、2020年。

- ・田中拓道『福祉政治史―格差に抗するデモクラシー』勁草書房、2017年。
- ・畑本裕介/木下武徳『これからの福祉政策―ローカルの視点から考える』有斐閣、2024年。
- ・宮本太郎『貧困・介護・育児の政治―ベーシックアセットの福祉国家へ』朝日新聞出版、2021年。

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの議論（文献講読、グループワーク）への参加（50％）、各学期末のレポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、人間文化コース

【Outline (in English)】

Seminar on social welfare, social policy and civil society in Japan and other countries.

In this seminar, we will examine how attempts have been made to support the lives of the socially disadvantaged, mainly in Europe and Japan, by comparing the circumstances of each region.

Students will be expected to prepare and review the materials introduced in each lecture. The standard preparation and review time for this class is two hours each time.

The overall grade will be determined by 50% of the participation in the seminar discussions (reading of the literature, group work) and 50% of the reports at the end of each semester.

LAW400HA（法学 / law 400）

研究会A

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。2024年度は、英文で書かれたサステナビリティ報告書を学習します。

【到達目標】

このゼミナールは、①4年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、②文献読解を中心とした英語力を身につけること、③日米の環境法の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、①実践ビジネス英語の暗誦、②Japan Times1面の訳、③日経新聞「きょうのことば」の記憶、④米国のPBS放送のシャドウイングを毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、基礎情報技術者試験、および、英検準1級の資格取得を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿は、春・夏の2回で、ディベートとスピーチ訓練、および、3・4年生による研究論文の発表が行われます。

なお、この授業は、対面授業として行われる予定です。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミの概要説明	ゼミ、サブゼミの内容説明、班編成
第2回	サブゼミ課題の導入	サブゼミ課題を2年生のために勉強の仕方等を説明
第3回	春学期本ゼミ発表(1)	環境関連の英文CSRに関する発表
第4回	春学期本ゼミ発表(2)	環境関連の英文CSRに関する発表
第5回	春学期本ゼミ発表(3)	環境関連の英文CSRに関する発表
第6回	春学期本ゼミ発表(4)	環境関連の英文CSRに関する発表
第7回	春学期本ゼミ発表(5)	環境関連の英文CSRに関する発表
第8回	春学期本ゼミ発表(6)	環境関連の英文CSRに関する発表
第9回	春学期本ゼミ発表(7)	環境関連の英文CSRに関する発表
第10回	春学期本ゼミ発表(8)	環境関連の英文CSRに関する発表
第11回	春学期本ゼミ発表(9)	環境関連の英文CSRに関する発表

第12回	春学期本ゼミ発表(10)	環境関連の英文CSRに関する発表
第13回	春学期本ゼミ発表(11)	環境関連の英文CSRに関する発表
第14回	春学期本ゼミ発表(12)	環境関連の英文CSRに関する発表、夏合宿課題の説明等
第15回	秋学期本ゼミ発表(1)	環境関連の英文CSRに関する発表
第16回	秋学期本ゼミ発表(2)	環境関連の英文CSRに関する発表
第17回	秋学期本ゼミ発表(3)	環境関連の英文CSRに関する発表
第18回	秋学期本ゼミ発表(4)	環境関連の英文CSRに関する発表
第19回	秋学期本ゼミ発表(5)	環境関連の英文CSRに関する発表
第20回	秋学期本ゼミ発表(6)	環境関連の英文CSRに関する発表
第21回	秋学期本ゼミ発表(7)	環境関連の英文CSRに関する発表
第22回	秋学期本ゼミ発表(8)	環境関連の英文CSRに関する発表
第23回	秋学期本ゼミ発表(9)	環境関連の英文CSRに関する発表
第24回	秋学期本ゼミ発表(10)	環境関連の英文CSRに関する発表
第25回	秋学期本ゼミ発表(11)	環境関連の英文CSRに関する発表
第26回	秋学期本ゼミ発表(12)	環境関連の英文CSRに関する発表
第27回	秋学期本ゼミ発表(13)	環境関連の英文CSRに関する発表
第28回	秋学期本ゼミ発表(14)	環境関連の英文CSRに関する発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。ゼミでの発表準備、実践ビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなすこと、英検準1級等の資格取得のための勉強を行って下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CSRに関する概説的なテキストを、開講時に指定します。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみです（100%）。春学期・秋学期とも、3回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、学生の努力を応援していきたいと思います。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース、グローバル・サステナビリティコース

【Outline (in English)】

< Course Outline >

This seminar will learn the basics of Environmental compliance audits. In the 2024 academic year, we will examine several sustainability reports written in English.

< Learning Objectives >

The goals of this seminar are:

- (1) to acquire the ability to write a graduation thesis in the 4th grade;
- (2) to acquire English reading comprehension; and
- (3) to learn the basics of environmental law in Japan and the United States.

In addition to the above, in order to improve basic skills, you are required to:

- (1) recite conversational sentences in NHK radio course titled Business English for Global Competence;

- (2) translate of the first page of the Japan Times;
- (3) memorize "Today's Words" on Nikkei newspaper; and
- (4) shadow PBS broadcasting programs.

Students are also encouraged to obtain the following qualifications: (1) Fundamental Information Technology Engineer Examination and (2) EIKEN Grade Pre-1.

< Learning Activities outside of Classroom >

Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture. You are required to prepare for presentations at lectures, complete sub-seminars assignments. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contributions (100%). If you are absent three times or more in both the spring and fall semesters, or if you do not prepare for presentations or do assignments, you will not be able to earn credits.

LAW400HA (法学 / law 400)

研究会A

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。2024年度は、英文で書かれたサステナビリティ報告書を学習します。

【到達目標】

このゼミナールは、①4年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、②文献読解を中心とした英語力を身につけること、③日米の環境法の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、①実践ビジネス英語の暗誦、②Japan Times1面の訳、③日経新聞「きょうのことば」の記憶、④米国のPBS放送のシャドウイングを毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、基礎情報技術者試験、および、英検準1級の資格取得を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿は、春・夏の2回で、ディベートとスピーチ訓練、および、3・4年生による研究論文の発表が行われます。

なお、この授業は、対面授業として行われる予定です。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミの概要説明	ゼミ、サブゼミの内容説明、班編成
第2回	サブゼミ課題の導入	サブゼミ課題を2年生のために勉強の仕方等を説明
第3回	春学期本ゼミ発表(1)	環境関連の英文CSRに関する発表
第4回	春学期本ゼミ発表(2)	環境関連の英文CSRに関する発表
第5回	春学期本ゼミ発表(3)	環境関連の英文CSRに関する発表
第6回	春学期本ゼミ発表(4)	環境関連の英文CSRに関する発表
第7回	春学期本ゼミ発表(5)	環境関連の英文CSRに関する発表
第8回	春学期本ゼミ発表(6)	環境関連の英文CSRに関する発表
第9回	春学期本ゼミ発表(7)	環境関連の英文CSRに関する発表
第10回	春学期本ゼミ発表(8)	環境関連の英文CSRに関する発表
第11回	春学期本ゼミ発表(9)	環境関連の英文CSRに関する発表

第12回	春学期本ゼミ発表(10)	環境関連の英文CSRに関する発表
第13回	春学期本ゼミ発表(11)	環境関連の英文CSRに関する発表
第14回	春学期本ゼミ発表(12)	環境関連の英文CSRに関する発表、夏合宿課題の説明等
第15回	秋学期本ゼミ発表(1)	環境関連の英文CSRに関する発表
第16回	秋学期本ゼミ発表(2)	環境関連の英文CSRに関する発表
第17回	秋学期本ゼミ発表(3)	環境関連の英文CSRに関する発表
第18回	秋学期本ゼミ発表(4)	環境関連の英文CSRに関する発表
第19回	秋学期本ゼミ発表(5)	環境関連の英文CSRに関する発表
第20回	秋学期本ゼミ発表(6)	環境関連の英文CSRに関する発表
第21回	秋学期本ゼミ発表(7)	環境関連の英文CSRに関する発表
第22回	秋学期本ゼミ発表(8)	環境関連の英文CSRに関する発表
第23回	秋学期本ゼミ発表(9)	環境関連の英文CSRに関する発表
第24回	秋学期本ゼミ発表(10)	環境関連の英文CSRに関する発表
第25回	秋学期本ゼミ発表(11)	環境関連の英文CSRに関する発表
第26回	秋学期本ゼミ発表(12)	環境関連の英文CSRに関する発表
第27回	秋学期本ゼミ発表(13)	環境関連の英文CSRに関する発表
第28回	秋学期本ゼミ発表(14)	環境関連の英文CSRに関する発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。ゼミでの発表準備、実践ビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなすこと、英検準1級等の資格取得のための勉強を行って下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CSRに関する概説的なテキストを、開講時に指定します。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみです（100%）。春学期・秋学期とも、3回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、学生の努力を応援していきたいと思います。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース、グローバル・サステナビリティコース

【Outline (in English)】

< Course Outline >

This seminar will learn the basics of Environmental compliance audits. In the 2024 academic year, we will examine several sustainability reports written in English.

< Learning Objectives >

The goals of this seminar are:

- (1) to acquire the ability to write a graduation thesis in the 4th grade;
- (2) to acquire English reading comprehension; and
- (3) to learn the basics of environmental law in Japan and the United States.

In addition to the above, in order to improve basic skills, you are required to:

- (1) recite conversational sentences in NHK radio course titled Business English for Global Competence;

- (2) translate of the first page of the Japan Times;
- (3) memorize "Today's Words" on Nikkei newspaper; and
- (4) shadow PBS broadcasting programs.

Students are also encouraged to obtain the following qualifications: (1) Fundamental Information Technology Engineer Examination and (2) EIKEN Grade Pre-1.

< Learning Activities outside of Classroom >

Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture. You are required to prepare for presentations at lectures, complete sub-seminars assignments. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contributions (100%). If you are absent three times or more in both the spring and fall semesters, or if you do not prepare for presentations or do assignments, you will not be able to earn credits.

SOC400HA（社会学 / Sociology 400）

研究会A

櫻井 洋介

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【人権尊重の経営と労働CSR】

本研究会では、近年、企業の社会的責任（CSR）やサステナビリティ経営の文脈で注目を集めている「ビジネスと人権」をテーマに扱います。サプライチェーン上の児童労働などの社会的な問題や、ダイバーシティ経営、働きやすい人間らしい仕事（ディーセントワーク）の実現といった企業経営上の課題など、「人」に関連する様々な切り口から、責任ある企業経営の在り方を学んでいきます。グループワーク等を通じて自身の関心領域や問題意識を設定していき、最終的には研究会修了論文を執筆することを目指します。

【到達目標】

「ビジネスと人権」や「労働CSR」に関する知見を深め、責任ある企業行動の観点から「企業」と「人」との関係性を考察する力を身に付ける。

また、グループワークや個人発表、論文の執筆を通じて、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、課題設定能力や論理的思考力等を鍛え、アカデミックスキルの基礎を身に付けるとともに、アカデミックスキルの向上を通じて、「社会人基礎力」を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

テキストの講読を行い、その内容をもとにディスカッション形式で進行することを基本とします。また、グループ発表や個人発表を実施してもらうことを想定しています。スケジュールやゼミ生の関心領域等に応じて、ゲストスピーカーの招聘や校外学習（企業見学や他組織との交流、イベントへの参加、ゼミ合宿等）も実施する可能性があります。校外学習は、研究会B（木曜3限）と合同で行う可能性もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミ生同士の自己紹介を行い、合わせて今後のゼミの進め方や年間スケジュールについて確認を行う。
第2回	ビジネスと人権①	予め指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第3回	ビジネスと人権②	予め指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第4回	研究テーマの検討とグループ分け	研究テーマと発表グループを決定する。
第5回	個人・グループ研究①	個人・グループごとに研究を行う。
第6回	個人・グループ研究②	個人・グループごとに研究を行う。

第7回	個人・グループ発表①	予め発表者が指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第8回	個人・グループ発表②	予め発表者が指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第9回	個人・グループ発表③	予め発表者が指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第10回	個人・グループ発表④	予め発表者が指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第11回	個人・グループ発表⑤	予め発表者が指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第12回	個人・グループ発表⑥	予め発表者が指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第13回	個人・グループ発表⑦	予め発表者が指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第14回	個人・グループ発表⑧	予め発表者が指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第15回 第16回	イントロダクション 特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える①	秋学期の進め方の確認を行う。 開示情報の閲覧や文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う（ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある）
第17回	特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える②	開示情報の閲覧や文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う（ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある）
第18回	特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える③	開示情報の閲覧や文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う（ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある）
第19回	特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える④	開示情報の閲覧や文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う（ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある）
第20回	特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える⑤	開示情報の閲覧や文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う（ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある）
第21回	特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える⑥	開示情報の閲覧や文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う（ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある）
第22回	特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える⑦	開示情報の閲覧や文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う（ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある）

第23回	特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える⑧	開示情報の閲覧や文献・資料等の講読等を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う(ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある)
第24回	特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える⑨	開示情報の閲覧や文献・資料等の講読等を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う(ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある)
第25回	特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える⑩	開示情報の閲覧や文献・資料等の講読等を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う(ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある)
第26回	特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える⑪	開示情報の閲覧や文献・資料等の講読等を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う(ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある)
第27回	特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える⑫	開示情報の閲覧や文献・資料等の講読等を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う(ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある)
第28回	1年間のまとめ	1年間の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミ内で取り上げるテーマについて事前にリサーチを行い、ディスカッションの中で自分の意見を述べられるように準備をお願いします。また、グループ発表や個人発表の準備等は授業外において実施していただくことになります。グループ発表および個人発表時は、必ずレジュメや資料を用意するようにして下さい。

ゼミ生には、自身の関心のある分野を定め、自主的にリサーチを進めることを期待します。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

櫻井洋介『人権尊重の経営 SDG s時代の新たなリスクへの対応』（日本経済新聞出版、2022）

【参考書】

ゼミ生の研究テーマに合わせて適宜、参考書をご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）：ディスカッションへの参加、グループワークやゼミ活動への貢献、グループ発表や個人発表の内容等を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本ゼミでは、「ビジネスと人権」や「労働CSR」をテーマとしていますが、これらサステナビリティ経営における個別課題を深く考察していくためには、サステナビリティ経営全般に関する理解が必要不可欠です。従って、本ゼミではサステナビリティ経営の基礎知識を学んだうえで、「人権」や「労働」といったテーマを研究していくことを想定しています。

また、本ゼミでは知識の習得のみならず、「論文・レポートの書き方」や「英語資料の読み方」、「プレゼンテーションの実施方法」等、アカデミックスキルの習得にも重きを置いています。必要に応じて、これらをゼミ内で取り上げる機会を設けていきます。

【その他の重要事項】

本講義の担当教員は実務家教員であり、これまで金融機関や政府関連機関、コンサルティングファーム等、様々な組織での勤務経験を有しているだけでなく、キャリアの過程で留学や社会人大学院の入学等も経験しています。講義では、教員自身のこれまでの経験も還元させていただくとともに、企業の実務や実態に即した講義を実施させていただきます。

また、担当教員は現役のサステナビリティコンサルタントであり、「ビジネスと人権」や「労働CSR」、「サプライチェーン上の労働問題」等を専門にコンサルティング業務に従事しています。これらの経験を踏まえて学生へのフィードバックを行うとともに、企業実務とのつながりを意識した研究を行っていきます。そのため、本ゼミでは、ゲストスピーカーの招聘や校外学習等を積極的に企画していく予定です。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース、グローバルサステナビリティコース

【Outline (in English)】

【Course outline】

This seminar will focus on the theme of "Business and Human Rights," which has been attracting attention in the context of corporate social responsibility (CSR) and sustainability management in recent years. We will learn about responsible corporate management from a variety of perspectives related to "people," including social issues such as child labor in the supply chain, and corporate management issues such as diversity management and the realization of decent work.

【Learning Objectives】

Students will deepen their knowledge of "Business and Human Rights" and "Labor CSR" and acquire the ability to consider the relationship between "business" and "people" from the perspective of Responsible Business Conduct.

Through group work, individual presentations, and academic writing, students will develop their communication and presentation skills, as well as their abilities in problem formulation and logical thinking. At the same time, they will acquire fundamental academic skills and, through their further development, cultivate essential competencies for working professionals.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to research the topics to be discussed in the seminar in advance and prepare to express their own opinions during the discussion.

In addition, students are required to prepare for group and individual presentations outside of class. Make sure to prepare resumes and other materials for your group and individual presentations.

Students are expected to decide on their own areas of interest and conduct research independently.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Usual performance score (100%): Participation in discussions, contribution to group work and seminar activities, and the content of group and individual presentations will be comprehensively evaluated.

HIS400HA (史学 / History 400)

研究会A

芳賀 和樹

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会では、「人間と人間」の関係、「人間と自然」の関係の変容を長期的視野から考えます。「歴史は暗記系の学問」というイメージがあるかもしれませんが、歴史学の醍醐味は、データを時系列順に整理し、人間がこれまでどのように生きてきたのか、どのように生きていくのかを考えるといるところにあると思います。未来を考えると、人は検討材料として過去を参照します。長期的視野から過去・現在・未来を見通そうとするのが歴史学だといえるでしょう。本研究会では、時間として主に江戸時代～現在を、空間として日本をとりあげ、各自が「問い」を立てながら、上記について考えていきます。

【到達目標】

- ①資料（データ）の整理の仕方や読み解き方、専門用語の使い方を習得し、長期的視野に基づいて論理的に思考できるようになる。
- ②自ら「問い」を立て、適切な方法を用いて調査し、各自の「答え」を導き出せるようになる。
- ③多様な意見を尊重しながら建設的に議論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- 授業は、下記のように、基本的に対面による演習形式で行います。
- ①入門書や歴史資料を読み解くことで、基本的な知識や研究手法を習得するとともに、各自の関心を深める。
 - ②各自の関心にそくして「問い」を立て、文献調査やフィールドワークなどを行い、「答え」を共有・議論する。
 - ③以上から、具体的な事例に基づいて、「人間と人間」の関係、「人間と自然」の関係の変容を長期的視野から考える。
- 課題提出後の授業においては、いくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	テーマと進め方の説明、年間計画の確認と相談、メンバーの自己紹介等。
第2回	文献講読と発表・質疑応答・討論の方法	文献の読み解き方、発表・質疑応答・討論の際のポイントを学習する。講読する文献を分担する。
第3回	研究テーマの設定と調査の方法	研究テーマの設定、調査方法や研究計画の立案について学習する。
第4回	文献講読の発表・質疑応答・討論 (1)	文献を読み解き、内容を発表し、議論する。
第5回	文献講読の発表・質疑応答・討論 (2)	文献を読み解き、内容を発表し、議論する。
第6回	文献講読の発表・質疑応答・討論 (3)	文献を読み解き、内容を発表し、議論する。
第7回	文献講読の発表・質疑応答・討論 (4)	文献を読み解き、内容を発表し、議論する。

第8回	春季グループ発表の準備 (1)	グループを編成する。共同研究のテーマを設定し、調査項目などについて分担する。
第9回	春季グループ発表の準備 (2)	グループごとに各自の調査結果を共有し、発表準備を進める。
第10回	春季グループ発表の準備 (3)	中間発表を実施する。
第11回	春季グループ発表の準備 (4)	グループごとに各自の調査結果を共有し、発表準備を進める。
第12回	春季グループ発表と質疑応答・討論 (1)	調査結果を発表し、議論する。
第13回	春季グループ発表と質疑応答・討論 (2)	調査結果を発表し、議論する。
第14回	個別研究・総括研究のテーマと調査計画の発表	個別研究 (2・3年生)・総括研究 (4年生) のテーマと調査計画について発表し、議論する。
第15回	個別研究・総括研究の発表・質疑応答・討論 (1)	調査結果を発表し、議論する。
第16回	個別研究・総括研究の発表・質疑応答・討論 (2)	調査結果を発表し、議論する。
第17回	個別研究・総括研究の発表・質疑応答・討論 (3)	調査結果を発表し、議論する。
第18回	秋季グループ発表・総括研究最終発表の準備 (1)	グループを編成する。共同研究のテーマを設定し、調査項目などについて分担する (2・3年生)。総括研究最終発表の準備を進める (4年生)。
第19回	秋季グループ発表・総括研究最終発表の準備 (2)	グループごとに各自の調査結果を共有し、発表準備を進める (2・3年生)。総括研究最終発表の準備を進める (4年生)。
第20回	個別研究・総括研究の発表・質疑応答・討論 (4)	調査結果を発表し、議論する。
第21回	個別研究・総括研究の発表・質疑応答・討論 (5)	調査結果を発表し、議論する。
第22回	秋季グループ発表・総括研究最終発表の準備 (3)	中間発表を実施する。
第23回	秋季グループ発表・総括研究最終発表の準備 (4)	グループごとに各自の調査結果を共有し、発表準備を進める (2・3年生)。総括研究最終発表の準備を進める (4年生)。
第24回	秋季グループ発表・総括研究最終発表と質疑応答・討論 (1)	調査結果を発表し、議論する。
第25回	秋季グループ発表・総括研究最終発表と質疑応答・討論 (2)	調査結果を発表し、議論する。
第26回	秋季グループ発表・総括研究最終発表と質疑応答・討論 (3)	調査結果を発表し、議論する。
第27回	秋季グループ発表・総括研究最終発表と質疑応答・討論 (4)	調査結果を発表し、議論する。
第28回	まとめ	1年間を総括し、得られた知見や考えたことについて議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料や研究テーマに関連する文献・歴史資料などを参照し、準備学習（データの収集と整理・考察、発表資料の作成など）と復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業での学習状況や調査研究への取り組み状況（50%）、発表および質疑・討論等（50%）により行います。主体性や課題に対する内容の充実度などに応じて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出等には、学習支援システムを利用します。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、人間文化コース

【Outline (in English)】**【授業の概要（Course outline）】**

This course examines the transformation of relationships between humans and humans, and between humans and nature, from a long-term perspective. While history may be perceived as a subject requiring rote memorization, I believe the true essence of historical study lies in organizing data chronologically to contemplate how humans have lived until now and how they will live in the future. When contemplating the future, people refer to the past as a basis for consideration. History, then, can be said to be the discipline that seeks to understand the past, present, and future from a long-term perspective. This course will focus primarily on the time period from the Edo period to the present and the geographical space of Japan. Students will develop their own questions and explore the themes mentioned above.

【到達目標（Learning Objectives）】

- ① Acquire skills in organizing and interpreting data, using specialized terminology, and thinking logically with a long-term perspective.
- ② Develop the ability to formulate questions independently, conduct research using appropriate methods, and derive individual answers.
- ③ Cultivate the capacity to engage in constructive discussions while respecting diverse opinions.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Please refer to the handouts and literature and historical materials related to the theme for preparatory study and review. The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Grading will be based on the students' progress in class and their efforts to conduct research (50%), as well as their presentations and questions/discussions (50%). Evaluation will be based on the student's initiative and the quality of the content of the assignment.

MAN400HA（経営学 / Management 400）

研究会A

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代企業論、ビジネスヒストリー、CSR論Ⅰ・Ⅱで習得した知識をベースに、「良い企業、良い社会、良い働き方」とは何かという問いに対する答えを見出すため、持続可能な社会で求められる企業とは何かについて考えます。SDGs（持続可能な開発目標）、パリ協定（脱炭素）、CSR（企業の社会的責任）、Business Ethics（企業倫理）等のテーマを中心に、サステナブル社会で人々から共感される理想の企業像とは何かを学びます。

【到達目標】

本研究会を通じて、学生はSDGsやパリ協定（カーボンニュートラル）をはじめとするサステナビリティに関するグローバルトレンドと企業経営との関係を理解し、SDGs時代に社会から選ばれる企業とは何かを理論と実証の両面から考察できるようになることを目指す。春学期には、SDGsおよびサステナビリティ経営に関する文献・論文の講読を通じて、経営学および金融・投資の基礎知識、論理的思考力、ディベート力を身につける。秋学期には、チームでサステナビリティ報告書や財務データの分析、企業訪問・有識者ヒアリング等のフィールド調査を行い、上場企業の中からSDGs時代にふさわしい企業を選定し、ポートフォリオを構築・評価できるようになる。さらに、日経ストックリーグや外部論文コンテストへの応募を通じて、分析結果をレポートとしてまとめ、根拠に基づいて論理的に発信する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期は、SDGsおよびESG投資に関する文献や論文を輪読し、論文作成に必要な知識を習得を図りディベート能力も涵養します。秋学期は複数のチームを編成し、日本経済新聞社が主催するストックリーグに参加します。日経ストックリーグではSDGsへの取り組み、財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルのESG投資ファンドを組成しバーチャルトレードを行います。さらに、その成果をレポートにまとめてコンテストにチャレンジします。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの進め方
	日経STOCKリーグ	日経STOCKリーグの説明
	研究会修了論文	卒業論文の執筆スケジュール
第2回	企業と社会に関する文献講読①	担当者による報告と討議
第3回	企業と社会に関する文献講読②	担当者による報告と討議
第4回	企業と社会に関する文献講読③	担当者による報告と討議

第5回	企業と社会に関する文献講読④	担当者による報告と討議
第6回	日経STOCKリーグ第1回テーマ報告	テーマの方向性についての報告と討議
第7回	ESG投資に関する文献講読①	日経STOCKリーグ優秀論文のレビュー 担当者による報告と討議
第8回	ESG投資に関する文献講読②	日経STOCKリーグ優秀論文のレビュー 担当者による報告と討議
第9回	コーポレートガバナンスに関する文献講読①	コーポレートガバナンスに関する主要論点のレビュー 担当者による報告と討議
第10回	コーポレートガバナンスに関する文献講読②	コーポレートガバナンスに関する主要論点のレビュー 担当者による報告と討議
第11回	日経STOCKリーグ第2回テーマ報告	問題認識と分析手法の報告と討議
第12回	証券投資・財務分析に関する基礎的文献の講読①	証券投資・財務分析に関する基本知識の習得 担当者による報告と討議
第13回	証券投資・財務分析に関する基礎的文献の講読②	証券投資・財務分析に関する基本知識の習得 担当者による報告と討議
第14回	日経STOCKリーグ第3回テーマ報告	ファンドテーマの決定 企業調査の方法・スケジュールの報告
第15回	日経STOCKリーググループ中間報告①	これまでの分析結果の報告と課題の整理
第16回	日経STOCKリーググループ中間報告②	これまでの分析結果の報告と課題の整理
第17回	研究会修了論文中間報告①	論文テーマ・論文構成の報告と討議
第18回	日経STOCKリーグ（企業評価）	チーム毎に分析結果の報告
第19回	日経STOCKリーグ（企業評価）	チーム毎に分析結果の報告
第20回	日経STOCKリーグ（企業評価）	チーム毎に分析結果の報告
第21回	日経STOCKリーググループ中間報告③	ポートフォリオ企業の選定状況報告
第22回	日経STOCK（企業訪問①）	企業を訪問しヒアリング調査を実施
第23回	日経STOCK（企業訪問②）	企業を訪問しヒアリング調査を実施
第24回	日経STOCK（企業訪問③）	企業を訪問しヒアリング調査を実施
第25回	日経STOCKリーググループ中間報告④	ポートフォリオの完成 レポート内容の報告
第26回	研究会修了論文中間報告②	論文構成および内容の報告と討議
第27回	日経STOCKリーグ提出用レポートの検討	レポート執筆状況の報告
第28回	日経STOCKリーグ提出用レポートの検討	レポート完成稿の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミの発表資料や適宜紹介される文献・資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。企業のSDGs活動、財務分析、企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと事業構造改革』文真堂,2023年
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会, 2023年
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂, 2021年

Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan

長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文真堂，2019年

長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂，2018年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂，2017年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂，2016年

日経エコロジー編『ESG経営ケーススタディ20』日経BP社，2017年

【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

日経ストックリーグレポート：80%

平常点：20%

平常点はゼミにおける報告内容および討議への貢献度、企業など外部機関に対するヒアリング調査の実施状況を評価します。

日経ストックリーグレポートについては、テーマ選定、評価基準の設定、財務分析、証券分析等の正確性とオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンを使用します。

【担当教員の専門領域】

<専門領域>

サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー

<研究テーマ>

取締役会の実効性分析

企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319』2021年

【実務経験のある教員による授業】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役・顧問として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース、ローカル・サステナビリティコース

【Outline (in English)】

Based on the knowledge acquired in Contemporary Corporate Theory, Business History, and CSR I and II, students will discuss the ideal company in a sustainable society.

Students will build a portfolio and prepare a stock league report on themes such as SDGs (Sustainable Development Goals), Paris Agreement(Decarbonization), CSR (Corporate Social Responsibility), and Business Ethics.

Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.

Students will be able to gain a deeper knowledge of the future of Japanese companies.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the final report (80%) and presentation (20%).

LIT400HA (文学 / Literature 400)

研究会A

日原 傳

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・近世、近代の紀行文や都市をあつかった文献を読み、名勝、詩跡および都市の成立の経緯を探る。また、近代以前の旅の実態を探る。

【到達目標】

- ・名勝、詩跡および都市の成立の経緯について理解を深める。
- ・近代以前の旅の実態について理解を深める。
- ・名勝、詩跡の成立に関わる文学、絵画などの存在を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・授業形態（演習）
- ・最初の時間に、本年度用いる基本テキストについて説明する。以後は、テキストを輪読してゆく。
- ・テキストを輪読しながら、浮かび上がってくる問題について議論する。
- ・各自が自分の興味あるテーマについて調べ、発表する時間を設ける。※課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行なう。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	名勝・詩跡・都市・旅	テキストの説明。参考文献の紹介。
第2回	文献講読	テキスト輪読
第3回	文献講読	テキスト輪読
第4回	文献講読	テキスト輪読
第5回	文献講読	テキスト輪読
第6回	文献講読	テキスト輪読
第7回	文献講読	テキスト輪読
第8回	発表、文献講読	発表（個人テーマの紹介）、テキスト輪読
第9回	発表、文献講読	発表（個人テーマの紹介）、テキスト輪読
第10回	文献講読	テキスト輪読
第11回	文献講読	テキスト輪読
第12回	文献講読	テキスト輪読
第13回	文献講読	テキスト輪読
第14回	発表、文献講読	発表（個人テーマの進捗状況の紹介）、テキスト輪読
第15回	発表、文献講読	発表（個人テーマの進捗状況の紹介）、テキスト輪読
第16回	文献講読	テキスト輪読
第17回	文献講読	テキスト輪読
第18回	文献講読	テキスト輪読
第19回	文献講読	テキスト輪読
第20回	文献講読	テキスト輪読
第21回	文献講読	テキスト輪読

第22回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第23回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第24回	文献講読	テキスト輪読
第25回	文献講読	テキスト輪読
第26回	文献講読	テキスト輪読
第27回	発表、文献講読	発表（個人テーマの進捗状況の紹介）、テキスト輪読
第28回	総合討論	年間の研究活動の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。
- ・各自に割り当てた基本テキストの担当箇所について、可能な限り調べ、発表の準備をする。
- ・各自テーマを決め、最終レポート執筆のために文献を収集する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定します。

【参考書】

必要に応じて随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度、発表内容） 70%

最終レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

最終レポート、研究会修了論文に関して、個別に面談指導する時間を早くから設ける。

【関連の深いコース】

人間文化コース、ローカル・サステイナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the relation between a place of scenic beauty and literature.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term paper (30%), in-class contribution(70%).

ART400HA（芸術学 / Art studies 400）

研究会A

平野井 ちえ子

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の文化、主に舞台芸術を切り口として、文化政策・アートマネジメントの現状を考えます。

【到達目標】

- 1. 地域に暮らす人々の生活とそれぞれの地に固有の文化活動との関わりを理解することです。
- 2. 基本的な知識と方法論を身につけた後、とくに自信をもって語れる得意ジャンルまたはエリアをもつことが必要です。
- 3. 文化というソフトウェアから地域を考える姿勢が大切です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

春学期の前半は、日本の伝統芸能・民俗芸能・現代演劇・前衛的パフォーマンスの流れに親しむため、文献や映像資料による講義・ディスカッションを行います。春学期後半には、参加者各自に舞台芸術鑑賞レポートの作成と発表を求めます。秋学期の前半は、文化政策とそのケーススタディの基本書を輪読します。秋学期後半には、「劇場」について講義・ディスカッションを行い、劇場レポートの作成と発表を求めます。各回のゼミでの指導のほか、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 能・狂言（講義・討論）	1年間の流れを概説します。また、春学期の舞台芸術鑑賞レポートについて説明します。能舞台の構造を説明した後、能と狂言について、それぞれの物語性・演技の型・視聴覚効果の特徴などを講義します。映像資料について意見交換します。
第2回	歌舞伎（講義・討論）	歌舞伎の舞台構造を説明した後、「時代物」「世話物」「所作物」について講義を行います。映像資料について意見交換します。
第3回	文楽（講義・討論）	文楽と歌舞伎を対照的に考察します。映像資料について意見交換します。
第4回	伝統芸能のまとめ	伝統芸能各ジャンルの関連性について学びます。話芸にも言及します。
第5回	最新舞台情報・舞台芸術鑑賞レポート作成指導	舞台芸術情報の探し方を指導します。論文・レポートの書き方を、本ゼミのテーマに即して解説します。
第6回	現代演劇1：翻訳劇の導入から日本の現代劇へ（講義・討論）	日本の現代劇に影響を与えた海外の劇作家・作品について講義を行います。映像資料について意見交換します。

第7回	現代演劇2：同時代の日本演劇（講義・討論）	現代日本の劇作家・演出家・演者について講義を行います。映像資料について意見交換します。
第8回	現代演劇3：前衛劇・パフォーマンス（講義・討論）	土方巽を初めとする「舞踏」というジャンルについて講義を行います。映像資料について意見交換します。
第9回	舞台鑑賞レポート中間発表	各自の舞台鑑賞レポートの方向性・進捗状況を確認・指導するとともに、ゼミ全体で話題を共有できるよう指導します。
第10回	現代演劇4：同時代の日本演劇（講義・討論）	現代演劇のワークショップについて講義を行います。映像資料について意見交換します。
第11回	民俗芸能（講義・討論）	日本の民俗芸能について講義を行います。映像資料について意見交換します。
第12回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（1）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第13回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（2）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第14回	春学期の総括	春学期に学んだことを振り返り、ディスカッションを行います。
第15回	秋学期オリエンテーション	課題書2冊を紹介し『文化政策の展開』各章の担当者を決めます。夏期休暇中に鑑賞した芸術作品について報告していただきます。
第16回	文献講読・討論（『文化政策の展開』1）	3. 公立文化施設
第17回	文献講読・討論（『文化政策の展開』2）	4. 文化経済学
第18回	文献輪読・討論（『文化政策の展開』3）	5. 文化政策飛躍の時代—1990年代以降
第19回	最新舞台情報・劇場レポート作成指導	6. アーツ・マネジメント
第20回	文献輪読・討論（『文化政策の展開』4）	7. 多様化する事業主体
第21回	劇場レポート発表準備	8. 多様化する芸術表現
第22回	文献講義・討論（『劇場空間の源流』1）	劇場レポートの着眼点を指導します。論文・レポートの書き方を、本ゼミのテーマに即して解説します。
第23回	文献講義・討論（『劇場空間の源流』2）	12. 文化による地域再生の時代(2)—2000年代以降
第24回	文献講義・討論（『劇場空間の源流』3）	13. 創造経済、創造産業
第25回	文献講義・討論（『劇場空間の源流』4）	劇場レポートのテーマ・構想について、各自のアイデアを交換しディスカッションを行います。
第26回	劇場レポート発表・討論(1)	第1章「生成する劇場空間」
第27回	劇場レポート発表・討論(2)	第2章「祭りから歌舞伎小屋へ」
第28回	総括	第6章「日本の劇場創成期」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料・URL等を使用して予習・復習を行ってください。
舞台芸術鑑賞レポート・劇場レポート・文献輪読の予習（発表者はスライドの準備）が重要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

野田邦弘（2014）『文化政策の展開』学芸出版社

本杉省三（2015）『劇場空間の源流』鹿島出版会

【参考書】

青山昌文（2015）『舞台芸術への招待』放送大学教育振興会

大笹吉雄（1999）『劇場が演じた劇』教育出版株式会社

舞台芸術財団演劇人会議（2005）『シンポジウム・劇場芸術の地平』

舞台芸術財団演劇人会議

【成績評価の方法と基準】

【平常点】50%

参加態度、口頭発表（テキスト輪読分担・舞台芸術鑑賞レポート・劇場レポート）

【期末レポート】50%

春学期は、舞台芸術鑑賞レポート

秋学期は、劇場レポート

【学生の意見等からの気づき】

好評です。今後も、学生の自主性を尊重し、地域と芸術をバランスよく論じ合う交流の場としていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業はBT0309教室で行います。Zoomによるオンラインゼミの回もあります。Zoomでも頻繁に動画共有を行うので、使用機器（PC利用のこと）とネットワークの安定性を事前に御確認ください。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、人間文化コース

【Outline (in English)】

We will discuss regional theatres and performing arts referring to the current Japanese situation of cultural policy and art management. Our goals include understanding cultures(mainly performing arts) specific in each local area and pursuing a subject each student will decide to specialize in. Before each class, you will be expected to have finished reading assignment(s). Presenters must prepare relevant slides to show your ideas. Your study time will be four hours for a class. Grading will be decided based on active participation(50%) and term papers(50%).

EVN400HA（その他の環境学 / Others 400）

研究会A

佐々木 大輔

配当年次／単位：2～4年／4単位
開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：定員制
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、想定を超える気象災害が各地で頻繁に生じており、気候変動対策と防災・減災対策とを効果的に連携させて取り組んでいくことが求められている。
本研究会では、気候変動影響を把握した上で緩和と適応を考慮して行う対策、災害による被害を最小限にするべく事前に実施する対策、災害からの復興等について横断的に学ぶ。

【到達目標】

4年次において気候変動と防災をテーマに研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は原則として対面による演習形式で行う。
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
授業形態の詳細は学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、趣旨説明等
第2回	文献購読	予め指定した文献を読み込んだ上でディスカッションを行う。
第3回	文献購読	予め指定した文献を読み込んだ上でディスカッションを行う。
第4回	文献購読	予め指定した文献を読み込んだ上でディスカッションを行う。
第5回	文献購読	予め指定した文献を読み込んだ上でディスカッションを行う。
第6回	文献購読	予め指定した文献を読み込んだ上でディスカッションを行う。
第7回	文献購読	予め指定した文献を読み込んだ上でディスカッションを行う。
第8回	リサーチクエスションの設定・精査	各自、研究上の問いを設定・精査する。
第9回	リサーチクエスションの設定・精査	各自、研究上の問いを設定・精査する。
第10回	リサーチクエスションの設定・精査	各自、研究上の問いを設定・精査する。
第11回	研究会修了論文構想発表（1）	4年生による研究会修了論文構想発表を行う。
第12回	研究会修了論文構想発表（2）	4年生による研究会修了論文構想発表を行う。
第13回	研究会修了論文構想発表（3）	4年生による研究会修了論文構想発表を行う。
第14回	春学期のまとめ	研究の進捗報告、振り返り
第15回	ガイダンス	秋学期の進め方について確認する。

第16回	リサーチクエスションの設定・精査	各自、研究上の問いを設定・精査する。
第17回	リサーチクエスションの設定・精査	各自、研究上の問いを設定・精査する。
第18回	リサーチクエスションの設定・精査	各自、研究上の問いを設定・精査する。
第19回	調査分析、論文執筆	調査分析、論文執筆の進捗報告とそれに対するディスカッションを行う。
第20回	調査分析、論文執筆	調査分析、論文執筆の進捗報告とそれに対するディスカッションを行う。
第21回	調査分析、論文執筆	調査分析、論文執筆の進捗報告とそれに対するディスカッションを行う。
第22回	調査分析、論文執筆	調査分析、論文執筆の進捗報告とそれに対するディスカッションを行う。
第23回	調査分析、論文執筆	調査分析、論文執筆の進捗報告とそれに対するディスカッションを行う。
第24回	調査分析、論文執筆	調査分析、論文執筆の進捗報告とそれに対するディスカッションを行う。
第25回	研究会修了論文発表（1）	4年生による研究会修了論文発表を行う。
第26回	研究会修了論文発表（2）	4年生による研究会修了論文発表を行う。
第27回	研究会修了論文発表（3）	4年生による研究会修了論文発表を行う。
第28回	まとめ	1年間を振り返り、総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献購読、調査分析、発表準備、論文執筆等を行う。
各自が報告用レジュメとPPTファイルを事前に準備する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業中に指示

【参考書】

必要に応じて授業中に指示

【成績評価の方法と基準】

平常点や研究の進捗状況等による総合評価（100%）

【学生の意見等からの気づき】

本ゼミでは知識の習得に加え、プレゼンテーションの実施方法等、実践的なスキルの向上を図る。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、環境サイエンスコース

【Outline (in English)】

[Course outline] This seminar focuses on climate change and disaster risk reduction.

[Learning objectives] In the fourth year, students will write a seminar completion paper on the theme of climate change and disaster risk reduction.

[Learning activities outside of classroom] Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.

[Grading criteria/policy] Students will be assessed comprehensively based on seminar participation, contribution to presentation and discussion, and research progress (100%).

MAN400HA（経営学 / Management 400）

研究会A

金藤 正直

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会では、文献調査、現地調査（フィールドワーク、アンケート調査、ヒアリング調査）、そして、社会実験やフィージビリティスタディを通じて、「企業や地域の持続的成長のためのビジネスデザイン」の方法について学習していくことを目的とする。

【到達目標】

経営学や会計学の視点から、企業または地域が今後も持続的に成長していくために必要とされるビジネスやその経営手法を論理的に考えながら明らかにしつつ、その結果をわかりやすく、丁寧に説明していく能力やスキルを習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

①12の研究チーム(以下参照)のうち、1チームに所属する。

- 1) 地域ビジネスチーム
- 2) 商品開発チーム
- 3) サービスマネジメントチーム
- 4) アパレルチーム
- 5) ヘルスケアチーム
- 6) グローバルビジネスチーム
- 7) エンターテインメントビジネスチーム
- 8) エネルギーマネジメントチーム
- 9) フードロスチーム
- 10) 中小企業チーム
- 11) 人材開発・育成チーム
- 12) 経済政策分析チーム

②所属チームで研究計画書を作成する。この計画書をもとに行われる文献調査やアンケート・ヒアリング調査により、研究対象となる企業または地域のビジネスの現状と課題を明らかにしつつ、その課題への解決策も検討する。

③研究・調査の進捗状況や成果については、異なるチームとの意見交換や中間報告・最終報告を行うとともに、研究・調査レポートまたは研究会修了論文も作成する。

※研究会は原則対面で実施する。

※研究会では、各チームメンバーのさらなるレベルアップのために、大学院生や事業関係者へのプレゼンテーションを始め、学会、インゼミ、企業イベント、エコプロなどへの参加、合宿（特別ゼミ）なども実施予定である。

※課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

※大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムを通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 研究・調査の目標設定	研究会の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。 また、チームを作り、その中で各自の1年間の目標を検討し、設定する。
第2回	研究・調査やその成果報告の方法（A）	文献を用いた研究とその成果報告に関する方法を説明する。
第3回	研究・調査のテーマと方法に関する報告	各チームが行う研究・調査のテーマと方法について報告し、決定する。
第4回	研究・調査の方向性とその内容に関する検討	各チームで1年間の研究・調査の方向性とその内容を検討する。
第5回	研究・調査報告①	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第6回	研究・調査報告②	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第7回	研究・調査報告③	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第8回	研究・調査報告④	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第9回	研究・調査報告⑤	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第10回	研究・調査報告⑥	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第11回	研究・調査報告⑦	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第12回	研究・調査報告⑧	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第13回	研究・調査やその成果報告の方法（B）	アンケート調査およびヒアリング調査とその結果報告に関する方法について説明する。
第14回	研究・調査計画書の作成方法	これまでの研究・調査の成果を整理する計画書の作成方法について説明する。
第15回	研究・調査計画書の報告（中間報告）（A）	春学期中に取り組んだ研究・調査や作成した計画書に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。
第16回	研究・調査計画書の報告（中間報告）（B）	春学期中に取り組んだ研究・調査や作成した計画書に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。
第17回	チーム間での議論・検討①	研究・調査内容をチーム同士で報告し合い、それに対して意見を出し合う。
第18回	チーム間での議論・検討②	研究・調査内容を前回とは異なるチーム同士で報告し合い、それに対して意見を出し合う。
第19回	研究・調査報告⑨	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第20回	研究・調査報告⑩	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第21回	研究・調査報告⑪	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。

第22回	研究・調査報告⑫	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第23回	研究・調査報告⑬	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第24回	研究・調査報告⑭	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第25回	研究・調査報告⑮	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第26回	研究・調査報告⑯	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第27回	全チームの研究・調査報告へのコメントやアドバイス	全チームの研究・調査の成果に対してアドバイザーや教員がコメントやアドバイスを行う。
第28回	総括－次年度に向けて－	今年度取り組んだ研究・調査成果をもとに、次年度に向けた取り組みを報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本研究会では、著書・論文内容の整理や国内外の取組事例の分析を通して、①研究・調査テーマの決定、②研究・調査の目的・視点・方法、③研究・調査に関する先進地域や研究対象地域の選定・検討方法を学習し、また、今後社会で活躍するための能力やスキルを身に付けていきます。大変なこともあるかもしれませんが、楽しく前向きに、また、計画的に実施してください。そのために、本研究会での準備学習・復習(チームミーティングなど)は必ず行ってください。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、毎回の報告はパワーポイントを利用します。各チームは報告レジュメ（パワーポイント版）とともに、報告概要（ワード版）の作成と配布をお願いします。

【参考書】

各チームメンバーの研究・調査の進捗状況に応じて、著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の4点に基づいて評価します。

- ①討論への参加（発言内容）（20％）
- ②報告用配布レジュメの内容（20％）
- ③報告内容（プレゼンテーション能力）（30％）
- ④研究・調査レポート、研究会修了論文（30％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、ゼミ生の意見や要望などを考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとプロジェクターを使用しますので、毎回準備をお願いします。

【その他の重要事項】

本研究会は、個人による研究・調査だけではなく、数名のメンバーから構成されるチームでの研究・調査が中心となります。また、調査先の方々、学部外の学生や教員と一緒に勉強会や報告会などのイベントも開催します。そのために、物事を自分で考え、また、積極的かつ意欲的に取り組むことができる能力だけではなく、人と人とのつながりや他人への気配りを大切にできる能力も身につけてください。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース、ローカル・サステナビリティコース

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this seminar is to learn the method of business design for sustainable growth of the region based on literature survey, field survey, and feasibility study.

② Learning Objectives

Thought this seminar, students are able to logically discuss sustainability management system in companies and regions.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the seminar, using the materials introduced in seminar. Preparatory study and review time for this seminar are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.

- 1) Participation in the discussion : 20%
- 2) Content of the resume : 20%
- 3) Content of the research/survey presentation : 30%
- 4) Research/survey report, thesis at the end of the seminar : 30%

ENV400HA（環境保全学 / Environmental conservation 400）

研究会A

松本 倫明

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地球温暖化とその周辺」

地球環境／地球温暖化対策／省エネ／エネルギー問題／エコ技術など、地球温暖化をキーワードに幅広いテーマを扱います。

【到達目標】

地球温暖化とその周辺について理解を深めます。たとえば温暖化政策や温暖化対策と称しているものが本当に正しいか、これらを検証する力を身につけることを目標とします。そのために、客観的に事実やデータにもとづいて定量的に解析し、考察する力をつけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

最近の活動内容は以下の通りです。今年度の全体テーマはゼミ内の話し合いで決めます。

「環境速報」（通年）…環境に関するニュースをレポーターが発表し、みんなで考えます。環境に関する幅広い知見を得ることが目的です。「文献輪講」（前期）…地球温暖化に関する文献を輪講します。文献は毎年異なります。

「研究報告」（後期）…個人の研究の進捗状況を発表し、議論します。「グループワーク」（逐次）…特定のテーマについてグループで研究します。

「報告書」（年度末）…1年間の成果をまとめた報告書を提出します。4年生は研究会修了論文（卒論）を提出します。

必要に応じてサブゼミを火曜6限に行うことがあります。上記の他に親睦会などが行われます。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	打ち合わせ	研究会運営について打ち合わせをします。
第2回	環境速報 文献輪講 グループワーク	環境速報と文献輪講を行います。 グループワークを話し合います。
第3回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。 文献輪講（前半）の議論をします。
第4回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。 文献輪講の議論をします。
第5回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。 文献輪講の発表準備をします。
第6回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。 文献輪講を発表します。
第7回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。 文献輪講の発表の振り返りをします。

第8回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。 文献輪講（後半）の議論をします。
第9回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。 文献輪講の議論をします。
第10回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。 文献輪講の発表準備をします。
第11回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。 文献輪講を発表します。
第12回	環境速報 文献輪講 グループワーク発表	環境速報と文献輪講を行います。 文献輪講の発表の振り返りをします。
第13回	グループワーク発表	春学期のグループワークの成果を発表します。
第14回	まとめ	春学期のまとめをします。
第15回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。 個人研究課題の選定について学びます。
第16回	環境速報 研究報告 グループワーク	環境速報と研究報告を行います。 グループワークについて話し合います。
第17回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。 個人研究アイデアを検討します（2年生）。
第18回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。 個人研究アイデアを検討します（3年生）。
第19回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。 研究アイデアを検討します（4年生）。
第20回	環境速報 研究報告 グループワーク	環境速報と研究報告を行います。 グループワーク中間報告。
第21回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。 年度末報告書と研究会修了論文の執筆方法を学びます。
第22回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。 年度末報告書の執筆準備を行います。
第23回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。 年度末報告書の進捗について検討します。
第24回	環境速報 研究報告 グループワーク	環境速報と研究報告を行います。 グループワーク最終報告。
第25回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。 個人研究のまとめ方について学びます。
第26回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第27回	グループワーク	グループワークの全体議論を行います。
第28回	まとめ	1年間のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境速報・文献購読・研究報告のレポーターにあたった場合には、発表の準備をしてください。課外活動で学外で調査を実施することがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示をします。

【参考書】

授業中に指示をします。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの参加姿勢（40%）、発表と議論の姿勢（30%）、年度末報告書などの提出物（30%）にもとづき総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークを充実させます。

【学生が準備すべき機器他】

環境速報・文献購読・研究報告のレポーターにあたった場合には、発表の準備をしてください。課外活動では、学外で調査を実施することがあります。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Seminar A focusing on climate change.

Learning objectives: Students learn scientific knowledge about global warming and related issues.

Learning activities outside of classroom: Preparation for presentation. Group discussion and fieldwork. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Students will be comprehensively evaluated based on their participation in the seminar (40%), presentation and discussion (30%), and submissions such as the end-of-year report (30%).

HSS400HA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400）

研究会A

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を健康に生きていくために

ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が1998年から14年連続で3万人を超えていた。現在は減少傾向にあり、2025年に2万人を切って過去最低となった。しかし、若者の自殺者数は増加傾向で、小中高生では過去最高を更新している。メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数は非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりながら増加している。不規則な生活などにより生活習慣病に罹っている人の割合も多く、私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。本講義で、学生は将来社会に出て、働きながら健康を維持し、健康寿命を延長して長寿をめざすための知識を得ることを目的としている。さらに、コミュニケーション能力、発言力、ディスカッション能力を高めることにより、学生は職場における最大のストレス要因である人間関係を円滑に保つことができる能力を取得する。

【到達目標】

テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解を深めることを目的としている。また、学生はプレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）、グループディスカッションを通じて、議事進行、意見のまとめと発表、発言力、コミュニケーション力を身につけることが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1年に2回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標にしている。少人数制のゼミであり、通常の講義では難しい細やかな学習により学生の能力を高める。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。都合により、オンラインで行う回もあるが、事前に通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第2回	図書館ガイダンス	文献検索方法など

第3回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（1）	研究発表とディスカッション（1）
第4回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（2）	研究発表とディスカッション（2）
第5回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（3）	研究発表とディスカッション（3）
第6回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（4）	研究発表とディスカッション（4）
第7回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（5）	研究発表とディスカッション（5）
第8回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（6）	研究発表とディスカッション（6）
第9回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（7）	研究発表とディスカッション（7）
第10回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（8）	研究発表とディスカッション（8）
第11回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（9）	研究発表とディスカッション（9）
第12回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（10）	研究発表とディスカッション（10）
第13回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（11）	研究発表とディスカッション（11）
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめ
第15回	ガイダンス	秋学期の発表日程及びテーマの決定
第16回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（12）	研究発表とディスカッション（12）
第17回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（13）	研究発表とディスカッション（13）
第18回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（14）	研究発表とディスカッション（14）
第19回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（15）	研究発表とディスカッション（15）
第20回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（16）	研究発表とディスカッション（16）
第21回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（17）	研究発表とディスカッション（17）

第22回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（18）	研究発表とディスカッション（18）
第23回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（19）	研究発表とディスカッション（19）
第24回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（20）	研究発表とディスカッション（20）
第25回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（21）	研究発表とディスカッション（21）
第26回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（22）	研究発表とディスカッション（22）
第27回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（23）	研究発表とディスカッション（23）
第28回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書をよむこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定します

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容などの評価（50%）、通常の参加態度（50%）による総合評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

学生の自発的な発言機会を増やすようにしていきます。

【その他の重要事項】

2年生からの参加が基本であり、学生は選んだテーマについて毎回掘り下げて調査、研究を行い、最終的に卒業論文を作成します。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース
ローカルサステイナビリティコース

【Outline (in English)】

To live a healthy life in modern society

Course outline

In today's stress-filled society, the number of people living with mental disorders is very high. Stress in the work environment is also shifting and increasing due to diversification of work patterns, overwork, and problems with work-life balance. Many people suffer from lifestyle-related diseases due to irregular lifestyles, and there are many barriers to living a physically and mentally healthy life. In addition, in the rapidly changing environment of healthcare, we are required to manage our own health by accurately selecting and choosing from a flood of information. The purpose of this lecture is to provide students with the knowledge they need to maintain their health, extend their healthy life span, and achieve longevity while working in the future.

Learning Objectives

The aim of this seminar is for all students to deepen their understanding of the research theme through active discussion by students. Students will also learn presentation skills, how to facilitate the proceedings, summarize and present their opinions, and communicate with others through group discussions.

Learning activities outside of classroom

Students are expected to prepare and review using the materials introduced in each presentation. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

The overall evaluation will be based on the evaluation of the resume and the content of the presentation (50%), and the normal participation attitude (50%).

HSS400HA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400）

研究会A

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を健康に生きていくために

ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が1998年から14年連続で3万人を超えていた。現在は減少傾向にあり、2025年に2万人を切って過去最低となった。しかし、若者の自殺者数は増加傾向で、小中高生では過去最高を更新している。メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数は非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりながら増加している。不規則な生活などにより生活習慣病に罹っている人の割合も多く、私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。本講義で、学生は将来社会に出て、働きながら健康を維持し、健康寿命を延長して長寿をめざすための知識を得ることを目的としている。さらに、コミュニケーション能力、発言力、ディスカッション能力を高めることにより、学生は職場における最大のストレス要因である人間関係を円滑に保つことができる能力を取得する。

【到達目標】

テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解を深めることを目的としている。また、学生はプレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）、グループディスカッションを通じて、議事進行、意見のまとめと発表、発言力、コミュニケーション力を身につけることが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1年に2回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標にしている。少人数制のゼミであり、通常の講義では難しい細やかな学習により学生の能力を高める。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。都合により、オンラインで行う回もあるが、事前に通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第2回	図書館ガイダンス	文献検索方法など

第3回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（1）	研究発表とディスカッション（1）
第4回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（2）	研究発表とディスカッション（2）
第5回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（3）	研究発表とディスカッション（3）
第6回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（4）	研究発表とディスカッション（4）
第7回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（5）	研究発表とディスカッション（5）
第8回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（6）	研究発表とディスカッション（6）
第9回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（7）	研究発表とディスカッション（7）
第10回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（8）	研究発表とディスカッション（8）
第11回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（9）	研究発表とディスカッション（9）
第12回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（10）	研究発表とディスカッション（10）
第13回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（11）	研究発表とディスカッション（11）
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめ
第15回	ガイダンス	秋学期の発表日程及びテーマの決定
第16回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（12）	研究発表とディスカッション（12）
第17回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（13）	研究発表とディスカッション（13）
第18回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（14）	研究発表とディスカッション（14）
第19回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（15）	研究発表とディスカッション（15）
第20回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（16）	研究発表とディスカッション（16）
第21回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（17）	研究発表とディスカッション（17）

第22回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（18）	研究発表とディスカッション（18）
第23回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（19）	研究発表とディスカッション（19）
第24回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（20）	研究発表とディスカッション（20）
第25回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（21）	研究発表とディスカッション（21）
第26回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（22）	研究発表とディスカッション（22）
第27回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（23）	研究発表とディスカッション（23）
第28回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書をよむこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定します

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容などの評価（50%）、通常の参加態度（50%）による総合評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

学生の自発的な発言機会を増やすようにしていきます。

【その他の重要事項】

2年生からの参加が基本であり、学生は選んだテーマについて毎回掘り下げて調査、研究を行い、最終的に卒業論文を作成します。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース
ローカルサステイナビリティコース

【Outline (in English)】

To live a healthy life in modern society

Course outline

In today's stress-filled society, the number of people living with mental disorders is very high. Stress in the work environment is also shifting and increasing due to diversification of work patterns, overwork, and problems with work-life balance. Many people suffer from lifestyle-related diseases due to irregular lifestyles, and there are many barriers to living a physically and mentally healthy life. In addition, in the rapidly changing environment of healthcare, we are required to manage our own health by accurately selecting and choosing from a flood of information. The purpose of this lecture is to provide students with the knowledge they need to maintain their health, extend their healthy life span, and achieve longevity while working in the future.

Learning Objectives

The aim of this seminar is for all students to deepen their understanding of the research theme through active discussion by students. Students will also learn presentation skills, how to facilitate the proceedings, summarize and present their opinions, and communicate with others through group discussions.

Learning activities outside of classroom

Students are expected to prepare and review using the materials introduced in each presentation. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

The overall evaluation will be based on the evaluation of the resume and the content of the presentation (50%), and the normal participation attitude (50%).

ENV400HA（環境保全学 / Environmental conservation 400）		
研究会A		
渡邊 誠		
配当年次／単位：2～4年／4単位		
開講セメスター：年間授業/Yearly 曜日・時限：火5/Tue.5		
備考（履修条件等）：定員制		
その他属性：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
テーマ：人間活動と自然・社会（温暖化対策を含めて）		
本研究会では人間活動の結果として生起する社会課題について考えます。具体的な例としては、エネルギー、廃棄物、リサイクル（物質循環）などについて考察します。千代田区で進められている温暖化対策についても研究します。これらをもとにして「人」と「環境」の関連性について幅広く考察し、環境問題の論点や視点の持ち方を学びます。テーマ例としては、化石燃料の使用によるCO ₂ の排出と温暖化対策、プラスチックの排出と汚染対策、再生可能エネルギーの可能性とその政策、などがあります。都市と地方の自治体間の連携による森林整備事業およびカーボンオフセットなども研究テーマとしています。この他、参加者が関心を強く持っている内容についてもテーマとして取り上げる予定です。		
【到達目標】		
様々な社会的課題について考え、その政策を模索します。具体的な目標としては次の力を身に付けることにあります。		
・人間活動の特徴を地球システムの概念とともに考察できる。		
・エネルギーと廃棄物に関する政策について考察できる。		
・千代田区の温暖化対策について説明できる。		
・柔軟に考え多角的な観点から研究を遂行することができる。		
・自分の意見を持ち説得力のある説明（プレゼンテーション）ができる。		
・調査内容を論文としてまとめ自分の意見を主張することができる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連		
【主な授業方法】		
S 演習/ゼミ /Seminar		
【授業の進め方と方法】		
授業は対面形式で進めていく予定です。連絡事項は学習支援システム上で表示します。授業では、著書、文献等の読み合わせ、あるいは様々なWeb情報に触れることにより現在の社会的課題について考察します。また様々な基礎事項についても学習するなど、研究を遂行するための準備も行います。また、特定のテーマを定め、それに関連する内容について調査し、様々な角度から話し合いを行うことにより問題を深く掘り下げます。グループによる調査と検討のほか、個人研究も行います。これにより環境問題の特徴や性質が理解され、様々な分野の内容を結びつけながら問題解決へ向けて考えようとするセンスが養われます。		
授業内でレポート課題を出題する場合には、それが提出された後の授業などにおいていくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	1年間の授業計画とその打ち合わせ
第2回	導入ディスカッション（文献購読）	設定されたテーマに関する文献等の調査

第3回	導入ディスカッション（資料分析）	設定されたテーマに関する分析と検討
第4回	導入ディスカッション（討論）	設定されたテーマに関する総合討論
第5回	基礎的事項の確認（資料収集）	基礎知識を習得するための資料収集
第6回	基礎的事項の確認（資料の精査）	基礎知識を習得するための資料研究
第7回	基礎的事項の確認（討論）	基礎知識を習得するための討論と質疑応答
第8回	共通テーマによる研究と報告（テーマ選定）	共通テーマによる調査と分析（テーマの選定）
第9回	共通テーマによる研究と報告（検討）	共通テーマによる調査と分析（分析と検討）
第10回	共通テーマによる研究と報告（報告）	共通テーマによる調査と分析（報告）
第11回	グループ研究（テーマ選定）	グループ研究による調査と分析（調査内容の検討）
第12回	グループ研究（検討）	グループ研究による調査と分析（分析と検討）
第13回	グループ研究（報告）	グループ研究による調査と分析（発表）
第14回	個人研究（モチベーションの整理）	学術的関心事の整理と論点の考察
第15回	個人研究（テーマ選定）	個人研究による調査と分析（調査内容の検討）
第16回	個人研究（調査と分析）	個人研究による調査と分析（調査）
第17回	個人研究（検討）	個人研究による調査と分析（調査内容の検討）
第18回	個人研究（報告）	個人研究による調査と分析（研究報告）
第19回	個人研究（討論）	個人研究による調査と分析（総合討論）
第20回	卒論の中間報告（課題整理）	研究会修了論文の中間報告と質疑応答
第21回	卒論の中間報告（報告と討論）	研究会修了論文の中間報告と討論
第22回	個人研究（課題確認）	個人研究による調査と分析（課題の確認）
第23回	個人研究（論点確認）	個人研究による調査と分析（論点の確認）
第24回	個人研究（検討）	個人研究による調査と分析（調査内容の検討）
第25回	個人研究（総合討論）	個人研究による調査と分析（総合討論）
第26回	卒論の最終報告（報告）	研究会修了論文の最終報告と質疑応答（発表）
第27回	卒論の最終報告（討論）	研究会修了論文の最終報告と質疑応答（討論）
第28回	総括	総合討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準としています。これにより予習・復習を行うほか、グループ研究あるいは個人研究を進めるための調査、検討、資料作成を行うこととします。発表に際してはあらかじめレジュメを作成し提出します。

【テキスト（教科書）】
 特に使用しません。

【参考書】
 開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
 授業参加の積極性など100%として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

基礎事項などについては、なるべくわかりやすい説明となるよう留意します。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションのためのPCなどは各自用意してください。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース
環境サイエンスコース

【Outline (in English)】

(Course outline) Theme: Human actions and society including global warming countermeasure. In this seminar we consider environmental problems caused by a result of human actions in the earth. One of the points at issue is related to the evolution of science and technology in our society. The meaning of the “progress” for us is inquired here. Policy studies are introduced in class. In the spring semester, discussion with common themes will be mainly held for all members of this seminar. Reports from participants will be introduced in the autumn semester. Students should examine practical instances expanded in society and its influence to our living beforehand. In class, they report prepared contents including their own opinions and suggestion. Discussion will be made by all of participants. (Learning Objectives) At the end of this class, we are expected to have active sense to research execution. Skills of paper writing is expected to be acquired. Students will understand the features of human actions with relation to the law of nature on the earth. (Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class. (Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

ENV400HA（環境保全学 / Environmental conservation 400）

研究会A

高田 雅之

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然のもつ奥深い魅力を探求するとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題に対し望ましい在り方を考究することをテーマとします。その際、地域の社会や経済との関わりの視点を中心に、国際的視点や他の諸問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力と大局観・俯瞰力を養います。研究会を通して多様な知識による基盤を作り、その上に各自の問題意識を組立て、修了論文を目指します。

【到達目標】

以下の4点を身に付けます。

- ①自然環境に関する幅広い知識・見識と柔軟な考え方
- ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力（プレゼンテーション／レポート能力）
- ③他者との議論を通して、異なる観点の意見を受け入れ合意を形成する能力（コミュニケーション能力）
- ④自ら課題を設定し、多角的な情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力（俯瞰的／論理的思考）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ネイチャーポジティブ、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。

- ①グループワークをとおして、設定課題について調査・考究し、解決に向けた成果を取りまとめます
- ②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します
- ③野外学習・サブゼミ・ゼミ合宿を通じて、市民活動／企業とのコラボやフィールドに学び、関心テーマを実践的に掘り下げ、自然を読み取る知識と経験、行動力・探求力・結実力を養います
- ④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な修了論文作成につなげます

なお、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の進め方
第2回	テーマ1：グループ研究1	事前学習
第3回	テーマ1：グループ研究2	グループ討議
第4回	テーマ1：グループ研究3	グループ討議と中間発表
第5回	テーマ1：グループ研究4	グループ討議
第6回	テーマ1：グループ研究5	グループ討議とまとめ

第7回	テーマ1：グループ研究6	発表と総括講義
第8回	テーマ2：グループ研究1	事前学習
第9回	テーマ2：グループ研究2	グループ討議
第10回	テーマ2：グループ研究3	グループ討議と中間発表
第11回	テーマ2：グループ研究4	グループ討議
第12回	テーマ2：グループ研究5	グループ討議とまとめ
第13回	テーマ2：グループ研究6	発表と総括講義
第14回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第15回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第16回	テーマ3：ディベート1	事前学習
第17回	テーマ3：ディベート2	グループ討議
第18回	テーマ3：ディベート3	ディベート第1回
第19回	テーマ3：ディベート4	グループ討議
第20回	テーマ3：ディベート5	ディベート第2回
第21回	テーマ3：ディベート6	発表とまとめ
第22回	テーマ4：個人・グループ研究1	事前学習
第23回	テーマ4：個人・グループ研究2	グループ内プレゼン
第24回	テーマ4：個人・グループ研究3	グループ討議
第25回	テーマ4：個人・グループ研究4	グループ討議と中間発表
第26回	テーマ4：個人・グループ研究5	グループ討議
第27回	テーマ4：個人・グループ研究6	発表と総括講義
第28回	年間まとめ	総括講義と意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。設定課題に対して、事前調査、資料作成、発表準備などを行っていただきます。また週末等に行う野外学習とサブゼミ活動に積極的に参加してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：提出物の内容と期日遵守の他、学習意欲、受講態度、グループワーク等への貢献、野外学習・合宿・サブゼミ等への参加、ゼミ運営への貢献などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、自主活動のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】

「自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）」が未履修の学生は、当該科目を必ず履修してください。また、より理解を深めるため、「サイエンスカフェⅢ（生態学）」（春期）と「自然環境論Ⅳ」（秋期）の履修を推奨します。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the richness and diversity of nature and ecosystem services, and will explore ways to solve various problems between the humans and nature mainly from local perspectives, based on the understanding of ecosystems and wildlife.

The goals of this class are to acquire wide and deep knowledge of the above-mentioned matters, and enhance abilities for information analysis, discussions and presentations.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on comprehensive evaluations including qualities of presentations, participation in discussions, motivation for learning, contribution to seminar activities(100%).

GEO400HA (地理学 / Geography 400)

研究会B

杉戸 信彦

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：災害の歴史と経験を考える－発生・対応・現代へ－
 湿润変動帯に位置する日本列島においては、自然環境からさまざまな恩恵を受ける一方で、地震や火山噴火、豪雨などによる災害が繰り返し発生してきました。

本研究会（本演習）では、主に明治以降に発生した自然災害に注目して、その地理学的特徴や被害、当時の社会の対応、その後について理解を深め、何を学ぶべきか考えるとともに、時代背景を踏まえながら現代社会ならではの課題について考えます。

【到達目標】

自然災害の特徴について自然と社会の両側面から説明できる。
 実際に発生した自然災害から何を学ぶべきか、また現代ならではの課題について説明できる。
 調査法や発表法を身につける。
 地図を活用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

文献講読を中心とし、グループワークやディスカッション、時の話題の紹介などにも取り組みます。

文献講読では、主に明治以降に発生したそれぞれの自然災害の自然的・社会的特徴に関わる資料（発生メカニズムと土地条件、被害状況、社会の対応、復旧・復興ほか）や、災害と時代背景を考える文献などを扱う予定です。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	趣旨説明
第2回	文献講読、時の話題	自然災害の歴史と経験について、時の話題（紹介、意見交換）
第3回	文献講読	地震・津波災害について理解を深める（1）
第4回	文献講読	地震・津波災害について理解を深める（2）
第5回	グループワーク	地震・津波災害についてテーマを設定し検討を行う（1）
第6回	グループワーク	地震・津波災害についてテーマを設定し検討を行う（2）
第7回	討論	文献を読み検討およびディスカッションを行う
第8回	時の話題	紹介、意見交換
第9回	文献講読	火山災害について理解を深める
第10回	グループワーク	火山災害についてテーマを設定し検討を行う
第11回	文献講読	気象災害について理解を深める

第12回	グループワーク	気象災害についてテーマを設定し検討を行う
第13回	討論	関連するテーマについて検討およびディスカッションを行う（1）
第14回	討論	関連するテーマについて検討およびディスカッションを行う（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料収集や調査、発表準備、まとめ等を行う。
 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点やレポート等の総合評価（100%）

【学生の意見等からの気づき】

知識や基礎力、思考力に加え、応用力やスキルをより涵養すべく、詳しく具体的な説明や効果的な進め方を心がけます。

【Outline (in English)】

We have repeatedly experienced natural disasters caused by earthquakes, volcanic eruptions, heavy rains, and so on, although we receive various benefits from the natural environment of the Japanese islands, one of the tectonically active and intensely denuded regions in the world. We focus primarily on the natural disasters during the Meiji era and later, and study geophysical features, damages, responses of society at that time, and subsequent events of each disaster, to discuss problems unique to modern society while taking into account the historical context.

Students should be able to do the followings by the end of the course: (1) to explain the natural disasters from the perspective of the natural environment and human society, (2) to explain what we should learn from the natural disasters for the present day and problems unique to modern society, (3) to conduct surveys and presentations, and (4) to use maps. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on criteria including in-class contribution and reports (100%).

SOS400HA（その他の社会科学 / Social science 400）

研究会B

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4
備考（履修条件等）：定員制
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会で生じた、あるいは生じている様々な問題を素材として、国際平和（国際社会の中の日本、国際紛争の解決、環境問題の改善、人権の保障、よりよい社会の実現）について考える。

【到達目標】

自分で設定したテーマについて、徹底的に調べ、研究し、発表し、議論することで、問題解決能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

専門文献講読、事例研究、個人の研究報告、時事問題に関する討論、ディベート等を行う。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際平和の追求	ガイダンス
第2回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第3回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第4回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第5回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第6回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第7回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第8回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第9回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第10回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第11回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第12回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第13回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第14回	国際平和の追求	まとめと討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。報告者が事前に指定する文献を読み、それに基づいて十分に予習をしてくること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岩沢雄司『国際法』東京大学出版会、2020年。
繁田泰宏・佐古田彰編集代表、平野実晴共同編集『テキストブック国際環境法』（東信堂、2026年）。
植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2026年。

【参考書】

森川幸一他編『国際法判例百選 [第3版]』有斐閣、2021年。
繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦編『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。

【成績評価の方法と基準】

発表：40%

議論への参加：30%
期末レポート：30%

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
発表に必要なPC、機器使用のための鍵等を用意すること。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】
本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】
Participants will discuss international peace focusing on armed conflicts, international environmental issues, human rights etc.
Learning Objectives:
Acquire problem-solving skills by conducting research, making presentations, and discussing the themes of each student's interest.
Learning Activities Outside of Classroom:
Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Grading Criteria /Policy:
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Presentations: 30%; Participation in discussions 30%; Term paper: 30%; In-class contribution: 10%

TRS400HA（観光学 / Tourism Studies 400）

研究会B

梶 裕史

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：沖縄離島の「文化的景観」とエコツーリズム
夏休みに企画・実施する「沖縄離島ゼミ合宿」（訪問先＝八重山諸島、7泊8日）への参加を必修として、その事前学習を行う。内容は、「文化的景観」という考え方をベースに、離島・海辺固有の自然・文化資産を活かしたエコな地域形成・人間形成の可能性について、日本型のエコツーリズムや観光文化、エコミュージアムなどの視点と結びつけた事例研究となる。

【到達目標】

夏季フィールドワーク参加時の、自発的なヒアリング内容を具体的に準備できること。受け身ではなく一人旅の気持で参加できる予備知識と深い関心を持てること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

講義とグループワークとを組み合わせて夏季フィールドワークの事前学習を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、参加者自己紹介	年間スケジュールの説明等
第2回	沖縄・八重山離島についてのガイダンス	合宿で訪問する地域について概観的な予備学習
第3回	導入課題の小発表（グループワーク）	竹富島を訪ねる旅を想定した自主企画（日帰り／1泊）
第4回	講義とグループワーク①	竹富島の集落景観（有形部分）の価値Ⅰ
第5回	講義とグループワーク②	伝統文化継承と「観光」の両立その経緯
第6回	講義とグループワーク③	島の針路選択の成功
第7回	講義とグループワーク④	集落景観の価値Ⅱ（無形部分）祭事・行事の意義など
第8回	講義とグループワーク⑤	「うつぐみの心」と観光文化（第2回からのまとめ）
第9回	講義とグループワーク⑥	竹富島の「循環する自然」に即した生活文化
第10回	個別小発表	現地で調べたいテーマについて／合宿のグループ分け
第11回	講義とグループワーク⑦	石垣島白保集落について 概観
第12回	講義とグループワーク⑧	白保の「サンゴ礁文化継承」の地域活動についてー竹富島との共通点・相違
第13回	夏季フィールドワークの打ち合わせ①	島の方々と交流するにあたっての留意事項等
第14回	夏季フィールドワークの打ち合わせ②	各自のヒアリングの質問候補の紹介・共有のグループワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

有益なwebサイトによる現地情報の収集や読書など。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業のなかで紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーや随時の宿題50％、グループワークにおける参加態度50％。

【学生の意見等からの気づき】

夏休みに参加する1週間強の合宿生活は、実感的な現地学習になることはもちろん、参加者相互の親睦・連帯感を深めるかけがえのない体験になっているという手応えがあります。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・この授業は、2026年度は履修登録対象が梶Aゼミの3年生に限定されます。

・昨年度までの通年授業の代替として、秋学期には同じ金曜4限に自主ゼミの場を設けますので、この授業の履修者は必ず参加してください。

・運悪く台風発生等により夏季フィールドワークが中止を余儀なくされた場合は、学祭期間に短縮の現地合宿を開催する可能性があります（参加可能な人のみ）。

【関連の深いコース】

人間文化コース、ローカル・サステイナビリティコース、

【Outline (in English)】

Theme: "Cultural Landscapes" and Ecotourism on Okinawa's Remote Islands. This preparatory study is required for the "Okinawa Remote Island Seminar Camp" (destination: Yaeyama Islands, 7 nights, 8 days) planned and implemented during the summer vacation. Based on the concept of "cultural landscape," the content will be a case study linking the perspectives of Japanese-style ecotourism, tourism culture, and ecomuseums to explore the possibilities for eco-regional and human development that utilize the unique natural and cultural assets of remote islands and coastal areas.

Goal

Be able to prepare specific content for spontaneous interviews during summer fieldwork. Have prior knowledge and a deep interest that allows you to participate with the mindset of a solo traveler rather than a passive participant.

Work to be done outside of class

Gathering local information from useful websites and reading, etc. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria

50% reaction papers and occasional homework, 50% participation in group work.

CMF400HA（その他の複合領域 / Complex systems(Others) 400）

研究会B

北川 徹哉

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リーマンショックと呼ばれる2008年の金融危機を題材として、その背景や特性に関する初歩的内容について勉強する。また、その金融危機が世界や日本に与えた衝撃について知るとともに、それを回避するためにはどうするべきであったのかを考える。

【到達目標】

1. 銀行などの金融機関の役割を説明できる。
2. 金融危機に至るまでの背景を説明できる。
3. 金融危機が起こってしまったときに、国家や社会が被るダメージを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

最初の数回は講義を聴講し、以降はグループワークを行う。各グループはテーマを設定、調査し、内容を取りまとめて発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	金融危機に関する講義	到達目標1～3に関する基礎内容について（1）
第2回	金融危機に関する講義	到達目標1～3に関する基礎内容について（2）
第3回	金融危機に関する講義	到達目標1～3に関する基礎内容について（3）
第4回	グループディスカッション	調査のテーマと進め方について グループごとに話し合い
第5回	グループワーク	グループごとに調査、資料精読
第6回	グループワーク	グループごとに調査、資料精読
第7回	中間報告の準備	調査テーマの内容と進捗状況について発表準備
第8回	中間報告	グループごとにスライドによる発表、質疑応答・討論
第9回	グループワーク	中間報告での指摘事項を調査内容・方針へ反映
第10回	グループワーク	グループごとに調査、資料精読
第11回	グループワーク	グループごとに調査、資料精読
第12回	グループワーク	グループごとに調査、資料精読
第13回	最終報告の準備	調査内容の取りまとめ
第14回	最終報告	グループごとにスライドによる発表、質疑応答・討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回から数回にわたる講義の内容の復習をすること。以降はグループワークの準備、資料等の精読、不明箇所の事前調査、発表のためのスライドなどの作成・準備をすること。
本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時に指定する。

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッション（30％：議論・質疑応答の良好度、到達目標1～3への到達度）、発表（30％：スライド・資料などの完成度や正確性、到達目標1～3への到達度）、授業への参加度（40％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

小さなことからコツコツと勉強します。また、知識を脳裏に固定するには話すこと、話し合うことが一番です。わからないことも誰かと話すようにしましょう。

【関連の深いコース】

すべてのコース

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class is a seminar for learning about the background and the characteristics on the world financial crisis 2008.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

- A. to learn about the rolls of financial institutions,
- B. to obtain the knowledge on how the financial crisis occurs,
- C. to study about the national and social damages due to financial crisis.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to investigate on their own research issues regarding financial crisis and to prepare for the presentation and discussion. Your study time will be more than four hours for a class on average.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on discussion (30%), presentation (30%) and class contribution (40%).

CMF400HA (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 400)

研究会B

ESTHER STOCKWELL

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

* Human Communication 1 *

本授業は、人間のコミュニケーションを言語的・非言語的側面の両面から捉え、その理論と実践について体系的に学ぶことを目的とする。授業前半では、コミュニケーションの基本概念、モデル、自己認識や知覚のプロセスを理解し、対人コミュニケーションの基礎的枠組みを習得する。後半では、言語・非言語コミュニケーション、傾聴および批判的思考の理論を踏まえ、文章作成やプレゼンテーションといった実践的活動を通じて、大学での学修および将来の専門的活動に必要なコミュニケーション能力の向上を図る。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下のとおりである。

人間のコミュニケーションに関する基本概念、主要理論、およびモデルを理解し、説明できるようになる。

自己認識や知覚がコミュニケーションに及ぼす影響を理解し、対人関係において適切に応用できるようになる。

言語的・非言語的コミュニケーションの特性を理解し、効果的な表現および解釈を行う力を身につける。

傾聴および批判的思考の技能を用いて、情報を分析し、適切に判断する能力を養う。

学術的文章の作成および口頭発表を通じて、自身の考えを論理的かつ明確に伝える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

Classes are structured around a combination of short lectures, visual materials, and guided discussions that introduce key concepts and theories of human communication. In the first half of the course, students examine foundational topics such as communication models, perception, self-awareness, and verbal and non-verbal communication.

In the second half of the course, students engage in applied learning through listening and critical thinking exercises, writing workshops, and presentation training. These activities are designed to support the development of academic writing skills and effective oral communication. Students are expected to prepare for each class by completing assigned readings and reflective tasks, and feedback is provided through in-class discussion and the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	Overview of the course, online activity, and overview of human communication

第2回	Introduction of Communication Studies	Definition of communication / Components of communication / Types of communication
第3回	Introduction of Communication Studies	Models of communication / The goal of studying communication
第4回	Self, Perception & Communication	What occurs in perception? / How do we perceive others? / What is self-awareness?
第5回	Self, Perception & Communication	How does perception affect communication and sense of self?
第6回	Verbal Communication	What is language? / Characteristics of language
第7回	Verbal Communication	How can language be an enhancement and an obstacle to communication?
第8回	Non verbal Communication	What is non-verbal communication? / How are verbal and non-verbal communication related? / What are non-verbal codes?
第9回	Non verbal Communication	Why are non-verbal codes difficult to interpret? / How can we improve our non-verbal communication?
第10回	Listening & Critical thinking	Misconceptions about listening / The listening process / Four types of listening / Critical listening
第11回	Writing Workshop	Planning & writing a short essay
第12回	Writing Workshop	Planning & writing an academic paper
第13回	Presentation Workshop	Planning & preparing oral presentation / Presentation techniques
第14回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes. Therefore, students are expected to take about four hours for preparation and review a class.

【テキスト（教科書）】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in each class.

【参考書】

Adler, R., & Rodman, G. (2023). Understanding Human Communication (15th Edition). New York: Oxford.

Griffin, E. (2022). A First Look at Communication Theory. (10th Edition). Boston: McGraw Hill.

Joseph A. DeVito (2018). Human Communication: The Basic Course (14th Edition). Pearson.

Pearson, J., Tittsworth, S., & Hosek, A. (2024). Human Communication (8th Edition). Boston: McGraw-Hill Education.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to participate actively in class. Assessment is based on weekly class participation, writing online learning journal postings, presentations and written assignments. Students will not be assessed on their English language skills, but rather on their knowledge of the content of the classes.

Assessment will consist of in-class participation (30%), a presentation (20%), a take-home exam (20%) and learning journals (30%).

Note that if you miss 4 classes or more, you cannot pass this subject.

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

【関連の深いコース】

すべてのコース

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to human communication by examining both theoretical foundations and practical applications. Students explore key concepts and models of communication, including perception, self-awareness, and the processes underlying verbal and non-verbal interaction.

As the course progresses, emphasis shifts toward the development of practical communication skills, such as critical listening, academic writing, and oral presentation. Through lectures, discussions, workshops, and presentations, students learn to analyse communication processes and express their ideas clearly and effectively in academic and everyday contexts.

CMF400HA (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 400)

研究会B

ESTHER STOCKWELL

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

* Human Communication 2*

本授業は、人間のコミュニケーションを対人関係、集団、組織、文化、メディアといった多様な文脈から捉え、その理論と実践について体系的に学ぶことを目的とする。授業前半では、対人コミュニケーションや小集団コミュニケーションの基本的枠組みを理解し、文化的多様性や異文化間コミュニケーションの特性について考察する。後半では、組織およびマス・コミュニケーションの構造や影響を検討するとともに、コミュニケーション研究法の基礎を学び、最終的には発表を通じて、自らの関心テーマを論理的に表現する力の向上を図る。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下のとおりである。

人間のコミュニケーションに関する主要な概念および理論を理解し、対人、集団、組織、メディアの各文脈において説明できるようになる。異文化間コミュニケーションの特徴や課題を理解し、文化的差異を踏まえた適切なコミュニケーションのあり方を考察できるようになる。組織およびマス・コミュニケーションの仕組みとその社会的影響について批判的に分析する力を身につける。

定量的・定性的なコミュニケーション研究法の基礎を理解し、簡単な分析に応用できるようになる。

発表を通じて、自身の考えや分析結果を論理的かつ明確に伝える能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

Classes are conducted through a combination of short lectures, visual materials, and guided discussions. In the first half of the course, students focus on interpersonal, small-group, and intercultural communication, examining key theories and concepts through case examples and discussion.

In the second half of the course, attention shifts to organizational and mass communication, as well as basic research methods in communication studies. Students are introduced to both quantitative and qualitative approaches and are encouraged to apply these perspectives to selected topics. The course concludes with student presentations, providing opportunities to synthesise theoretical knowledge and communicate ideas clearly and effectively. Preparation through assigned readings and active participation in class discussions are essential components of the learning process.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Fundamental Communication Studies	Overview of the course, online activity, and overview of fundamentals of communication

第2回	Interpersonal Communication	The nature of communication in interpersonal relationships
第3回	Interpersonal Communication	Essential interpersonal communication behaviours / How to improve interpersonal relationships
第4回	Small group Communication	The types & functions of small groups / The role of leadership in small groups
第5回	Small group Communication	Theoretical approaches to group leadership / Establishing culture in small groups
第6回	Intercultural Communication	Various different cultural patterns / Hofstede's characteristics of culture
第7回	Intercultural Communication	Potential problems in intercultural communication / Characteristics of different cultures / Strategies for improving intercultural communication
第8回	Organizational Communication	Type of organisations & organisational structures / Communication Network
第9回	Organizational Communication	Organisational Assimilation / The dark side of workplace communication
第10回	Mass Communication	Synchronous communication / Asynchronous communication / CMC and the communication process
第11回	Mass Communication	Mass media organisations / Agenda-setting, Gatekeeping, and Social Reality / Theories of media effects
第12回	Communication Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第13回	Communication Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第14回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes. Therefore, students are expected to take about four hours for preparation and review a class.

【テキスト（教科書）】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in each class.

【参考書】

Adler, R., & Rodman, G. (2023). Understanding Human Communication (15th Edition). New York: Oxford.
Griffin, E. (2022). A First Look at Communication Theory. (10th Edition). Boston: McGraw Hill.
Joseph A. DeVito (2018). Human Communication: The Basic Course (14th Edition). Pearson.

Pearson, J., Titsworth, S., & Hosek, A. (2024). Human Communication (8th Edition). Boston: McGraw-Hill Education.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to participate actively in class. Assessment is based on weekly class participation, writing online learning journal postings, presentations and written assignments. Students will not be assessed on their English language skills, but rather on their knowledge of the content of the classes.

Assessment will consist of in-class participation (20%), a presentation (30%), a written assignment (30%) and a take-home exam (20%).

Note that if you miss 4 classes or more, you cannot pass this subject.

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

【Outline (in English)】

This course offers an introduction to human communication by examining communication processes across interpersonal, group, organizational, intercultural, and mass communication contexts. Students explore fundamental theories and concepts that explain how communication functions and why it sometimes succeeds or fails.

As the course progresses, students analyse the role of culture, organisations, and media in shaping communication practices and social reality. Basic quantitative and qualitative research methods in communication studies are also introduced. Through lectures, discussions, and presentations, students develop the ability to analyse communication phenomena and to present their ideas in a clear and logical manner.

SOC400HA（社会学 / Sociology 400）

研究会B

櫻井 洋介

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【ビジネスと人権】

本授業では、「ビジネスと人権」を中心に、サステナビリティ経営の社会（S）領域に関する理論と実務を学びます。

人権・労働・ダイバーシティ・人的資本・キャリア等、「人」に関連する様々なサステナビリティ課題を取り上げることで、持続可能な組織と個人の関係性を多角的に考察するとともに、企業が社会的課題にどのように向き合うべきかについて、国際的な動向や企業の取組事例を通じて考察し、持続可能な企業経営のあり方を探求します。

【到達目標】

「ビジネスと人権」に関する国際的な議論の動向や理論の枠組みを体系的に学び、企業活動と人権の関係性や企業の責任について理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

講義形式による基礎知識のインプットを行った上で、ディスカッションやグループワークを行います。授業の後半には、プレゼンテーション発表を行っていただきます。外部のゲストスピーカーの招聘や、校外学習を行うことがあります（校外学習の場合は、木曜4限の研究会Aと合同で行うことがあります）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「ビジネスと人権」の全体像と到達目標を確認する。
第2回	人権の基本概念と国際人権規範	人権の基本概念と国際人権規範について学ぶ。
第3回	ビジネスと人権に関する指導原則と企業の人権尊重責任	ビジネスと人権に関する指導原則と企業の人権尊重責任の内容について学ぶ。
第4回	人権デュー・ディリジェンス（人権DD）の理論と実践	企業に求められる人権DDの意義や基本プロセスについて学ぶ。
第5回	国家の人権保護義務と各国の「ビジネスと人権」政策	国家の人権保護義務の文脈におけるスマートミックス概念の重要性と国内外の「ビジネスと人権」政策の現状と課題について学ぶ。
第6回	人権DDの実務と企業事例	国内外の先進企業がどのように人権DDを実践しているかを学ぶ。
第7回	ディスカッション①	「ビジネスと人権」に関するディスカッションやディベートを行う。
第8回	人権・労働問題とサプライチェーンマネジメントの実務	人権・労働に関するサプライチェーン上の問題について学ぶ。

第9回	ダイバーシティ経営・人的資本・キャリア形成	人権・労働に関する社内の問題について学ぶ。
第10回	ビジネスと人権フォーラムの視聴	「ビジネスと人権フォーラム」の中から各自で任意のセッションを選択し、視聴する。
第11回	ディスカッション②	「ビジネスと人権」に関するディスカッションやディベートを行う。
第12回	プレゼンテーションの内容・グループ決め	プレゼンテーションの内容とグループを決定する。
第13回	プレゼンテーション①	プレゼンテーションを実施する。
第14回	プレゼンテーション②	プレゼンテーションを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト講読（日英）、文献調査（日英）、資料作成、発表準備等。本授業の準備・復習時間は、2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

櫻井洋介『人権尊重の経営 SDG s時代の新たなリスクへの対応』（日本経済新聞出版、2022）

【参考書】

推奨書籍については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションへの貢献を含む平常点（50%）とプレゼンテーション発表（50%）をもとに評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

担当教員は実務家教員（現役のサステナビリティコンサルタント）であり、「ビジネスと人権」や「労働 CSR」、「サプライチェーン管理」等を専門に、企業のコンサルティング業務に従事しています。それらの経験を踏まえて、具体的な事例を交えながら授業を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course focuses on “Business and Human Rights” and examines both theory and practice related to the social (S) dimension of sustainability management.

By addressing a wide range of people-related sustainability issues — including human rights, labor, diversity, human capital, and careers — the course explores the relationship between sustainable organizations and individuals from multiple perspectives. It also examines how companies should engage with social challenges through international developments and corporate case studies, and seeks to identify appropriate approaches to sustainable corporate management.

【Learning Objectives】

This course aims to provide a systematic understanding of international debates and theoretical frameworks on business and human rights, and to deepen students’ understanding of the relationship between corporate activities and human rights, as well as corporate responsibility.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to engage in activities such as reading and analyzing texts in Japanese and English, conducting literature research in both languages, preparing materials, and getting ready for presentations. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Evaluation will be based on class participation, including contributions to discussions (50%), and presentations (50%).

SOC400HA（社会学 / Sociology 400）

研究会B

櫻井 洋介

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【サステナビリティ経営の基礎と実務】

本授業では、現代の企業経営において重要な課題となっている「サステナビリティ経営」について、基礎から体系的に学ぶ。

企業が環境・社会・ガバナンス（ESG）の観点から持続可能な価値創造を目指すうえで必要となる理論的枠組みを理解するとともに、具体的な企業事例や政策動向を通じて、理論と実務の両面からサステナビリティ経営の課題を考える。

環境問題、労働・人権課題、サプライチェーン管理、情報開示・ステークホルダー対応など、サステナビリティ経営に関連する多様なテーマを幅広く取り上げ、今後それらをより専門的に探究していくための土台となる知識を身につけることを目的とする。

【到達目標】

「サステナビリティ経営」について、基礎的な理論や枠組みを体系的に学ぶとともに、企業の実務における実態や課題を理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

講義形式による基礎知識のインプットを行った上で、ディスカッションやグループワーク等を行います。授業の後半には、プレゼンテーション発表を行っていただきます。外部のゲストスピーカーの招聘や、校外学習を行うことがあります（校外学習の場合は、木曜4限の研究会Aと合同で行うことがあります）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	サステナビリティ経営の全体像と到達目標を確認する。
第2回	企業の社会的責任と経営倫理	企業の社会的責任（CSR）や経営倫理の基本概念や歴史的展開について学ぶ。
第3回	サステナビリティ経営とESG投資	サステナビリティ経営の概念とESG投資について学ぶ。
第4回	ディスカッション①	企業の社会的責任やサステナビリティ経営に関するディスカッションやディベートを行う。
第5回	環境問題と企業経営	脱炭素や生物多様性、資源循環等の環境課題に対する企業の対応について学ぶ。
第6回	人的資本経営の基礎	人材戦略や人的資本経営の重要性について学ぶ。
第7回	人権・労働問題とサプライチェーン管理	「ビジネスと人権」の基礎やサプライチェーン上の労働問題等について学ぶ。

第8回	コーポレートガバナンスと内部統制	サステナビリティ経営におけるコーポレートガバナンスの重要性や取締役会の役割について学ぶ。
第9回	情報開示とステークホルダーエンゲージメント	サステナビリティ情報開示の潮流や統合報告、ステークホルダーエンゲージメントについて学ぶ。
第10回	ディスカッション②	サステナビリティ課題に関するディスカッションやディベートを行う。
第11回	プレゼンテーションの内容・グループ決め	プレゼンテーションの内容とグループを決定する。
第12回	プレゼンテーション①	プレゼンテーションを実施する。
第13回	プレゼンテーション②	プレゼンテーションを実施する。
第14回	まとめ	これまでの学習内容を概括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト講読（日英）、文献調査（日英）、資料作成、発表準備等。本授業の準備・復習時間は、2時間を標準とします。「サステナ経営検定3級」の受検を推奨します。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しませんが、サステナビリティ経営関連の書籍を各自で読んでいただくことを強く推奨します。推奨書籍については、授業内で紹介します。

【参考書】

参考書は指定しませんが、サステナビリティ経営関連の書籍を各自で読んでいただくことを強く推奨します。推奨書籍については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションへの貢献を含む平常点（50%）とプレゼンテーション発表（50%）をもとに評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

担当教員は実務家教員（現役のサステナビリティコンサルタント）であり、企業のサステナビリティ経営に関するコンサルティング業務に従事しています。それらの経験を踏まえて、具体的な事例を交えながら実務的な観点を踏まえた授業を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course provides a systematic introduction to sustainability management, a set of issues that has become increasingly important in contemporary corporate management.

Students will develop an understanding of the theoretical frameworks required for companies to pursue sustainable value creation from the perspectives of environmental, social, and governance (ESG) factors. At the same time, the course examines concrete corporate cases and policy developments in order to analyze the challenges of sustainability management from both theoretical and practical viewpoints.

The course covers a wide range of topics related to sustainability management, including environmental issues, labor and human rights, supply chain management, corporate disclosure, and stakeholder engagement.

Its objective is to help students acquire foundational knowledge that will serve as a basis for more specialized and advanced study of sustainability-related issues in the future.

【Learning Objectives】

This course aims to provide students with a systematic understanding of the basic theories and frameworks of sustainability management, while also deepening their understanding of its practical realities and challenges in corporate practice.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to engage in activities such as reading and analyzing texts in Japanese and English, conducting literature research in both languages, preparing materials, and getting ready for presentations. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Students are encouraged to take the “Sustainability Management Test 3rd grade”.

【Grading Criteria /Policy】

Evaluation will be based on class participation, including contributions to discussions (50%), and presentations (50%).

HIS400HA（史学/History 400）

研究会B

芳賀 和樹

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5
備考（履修条件等）：定員制
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会の目的は、時間としては江戸時代～現在、そして未来を、空間としては主に日本をとりあげ、人間と森林の関係を、長期的かつ多角的な視野から考察・展望することです。森林は、木材などの物質生産だけでなく、災害リスクの低減、生物多様性の保全、レクリエーション・環境教育・健康維持のための空間の提供など、多面的な機能を有しています。近年では、「グリーンインフラ(緑の社会資本)」とも呼ばれ、その重要性に改めて注目が集まっています。人間と森林が〈過去〉から〈現在〉まで長期にわたって取り結んできた関係を丁寧に解きほぐしながら、人間と森林の〈未来〉について一緒に考えましょう。

【到達目標】

- ①資料（データ）の整理の仕方や読み解き方、専門用語の使い方を習得し、長期的視野に基づいて論理的に思考できるようになる。
- ②森林が有する機能や森林の利用・管理の展開を、具体的な事例に基づいて説明できるようになる。
- ③自ら「問い」を立て、適切な方法を用いて調査し、各自の「答え」を導き出せるようになる。
- ④多様な意見を尊重しながら建設的に議論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は、下記のように、基本的に対面による演習形式で行います。
①映像資料、歴史資料、入門書などから、〈過去〉の森林利用・管理の展開を把握する。
②森林・林業に関する最新のデータやトピックが掲載されている『森林・林業白書』から、〈現在〉の動向・課題を探る。
③関心に基づいて「問い」を立て、調査し、「答え」を共有・議論することを通じて、人間と森林の〈未来〉を展望する。
課題提出後の授業においては、いくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	テーマと進め方の説明・相談、メンバーの自己紹介等。
第2回	人間と森林の〈過去〉を振り返る（1）	映像資料、歴史資料、入門書などから、〈過去〉の森林利用・管理の展開を把握する。
第3回	人間と森林の〈過去〉を振り返る（2）	映像資料、歴史資料、入門書などから、〈過去〉の森林利用・管理の展開を把握する。
第4回	人間と森林の〈過去〉を振り返る（3）	映像資料、歴史資料、入門書などから、〈過去〉の森林利用・管理の展開を把握する。
第5回	人間と森林の〈過去〉を振り返る（4）	映像資料、歴史資料、入門書などから、〈過去〉の森林利用・管理の展開を把握する。

第6回	人間と森林の〈現在〉を考える（1）	森林・林業に関する最新のデータやトピックが掲載されている『森林・林業白書』などから、〈現在〉の動向・課題を探る。
第7回	人間と森林の〈現在〉を考える（2）	森林・林業に関する最新のデータやトピックが掲載されている『森林・林業白書』などから、〈現在〉の動向・課題を探る。
第8回	人間と森林の〈現在〉を考える（3）	森林・林業に関する最新のデータやトピックが掲載されている『森林・林業白書』などから、〈現在〉の動向・課題を探る。
第9回	人間と森林の〈現在〉を考える（4）	森林・林業に関する最新のデータやトピックが掲載されている『森林・林業白書』などから、〈現在〉の動向・課題を探る。
第10回	人間と森林の〈未来〉を展望する（1）	関心に基づいて「問い」を立て、調査し、「答え」を共有・議論することを通じて、人間と森林の〈未来〉を展望する。
第11回	人間と森林の〈未来〉を展望する（2）	関心に基づいて「問い」を立て、調査し、「答え」を共有・議論することを通じて、人間と森林の〈未来〉を展望する。
第12回	人間と森林の〈未来〉を展望する（3）	関心に基づいて「問い」を立て、調査し、「答え」を共有・議論することを通じて、人間と森林の〈未来〉を展望する。
第13回	人間と森林の〈未来〉を展望する（4）	関心に基づいて「問い」を立て、調査し、「答え」を共有・議論することを通じて、人間と森林の〈未来〉を展望する。
第14回	まとめ	これまでの授業を総括し、得られた知見や考えたことについて議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料やテーマに関連する文献・歴史資料などを参照し、準備学習（データの収集と整理・考察、発表資料の作成など）と復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業での学習状況や課題への取り組み状況（50％）、発表および質疑・討論等（50％）により行います。主体性や課題に対する内容の充実度などに応じて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

難解な専門用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出等には、学習支援システムを利用します。

【関連の深いコース】

すべてのコース

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

The purpose of this course is to examine and envision the relationship between humans and forests from a long-term and multifaceted perspective, covering the Edo period to the present and the future in terms of time, and mainly Japan in terms of space. Forests have multifaceted functions, not only producing materials such as timber, but also reducing disaster risk, conserving biodiversity, and providing spaces for recreation, environmental education, and health maintenance. In recent years, they have been referred to as "green infrastructure" and their importance has been gaining renewed attention. Let us carefully unravel the long-standing relationship between humans and forests, from the past to the present, and together contemplate the future of humans and forests.

【到達目標 (Learning Objectives)】

- ① Acquire skills in organizing and interpreting data, using specialized terminology, and thinking logically with a long-term perspective.
- ② Be able to explain the functions forests possess and the development of forest utilization and management based on specific examples.
- ③ Develop the ability to formulate questions independently, conduct research using appropriate methods, and derive individual answers.
- ④ Cultivate the capacity to engage in constructive discussions while respecting diverse opinions.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Please refer to the handouts and literature and historical materials related to the theme for preparatory study and review. The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Grading will be based on the students' progress in class and their efforts to conduct research (50%), as well as their presentations and questions/discussions (50%). Evaluation will be based on the student's initiative and the quality of the content of the assignment.

MAN400HA（経営学 / Management 400）

研究会B

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5
備考（履修条件等）：定員制
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SDGs（持続可能な開発目標）、パリ協定（脱炭素）、責任投資原則（ESG投資）、共通価値の創造（CSV）、統合報告書、CX（デジタルトランスフォーメーション）などのテーマを中心に、具体的な企業事例を通じて、企業経営の未来像を探索します。

【到達目標】

大量生産・大量消費時代の20世紀が終わり、サステナビリティ社会の実現が求められる21世紀では、企業経営のあり方にも変革が求められています。このゼミでは、責任ある経営とは何かをテーマに、未来社会で求められる企業像や企業価値とは何かについて学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

持続可能な社会の構築に向けた世界的な潮流を踏まえ、以下の4つのポイントを中心に日本企業が直面する課題について検討します。
（1）SDGsとパリ協定が企業の未来に及ぼす影響とは何か、（2）責任ある経営の評価基準とは何か、（3）責任投資（ESG投資）時代に社会から選ばれる企業とは何か、（4）AI（人工知能）などデジタル革命の成果に代替されないスキルの磨き方。2・3年の混合チームを編成し、（1）～（4）のテーマに関する研究報告を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 責任ある経営の学び方	研究会の目的・到達目標の説明 扱う主要テーマの解説（SDGs／ESG／CSV／統合報告／DX）
第2回	企業と社会の関係をどう捉えるか①	CSR・企業倫理に関する基礎文献の輪読
第3回	企業と社会の関係をどう捉えるか②	企業の社会的責任の歴史の変遷 SDGsと企業経営に関する文献講読 SDGsが企業戦略に与える影響の整理
第4回	ESG投資と責任ある経営①	ESG投資の基本概念・評価視点 非財務情報とは何か
第5回	ESG投資と責任ある経営②	ESG評価と企業価値の関係 日本企業のESGの課題
第6回	CSV・パーパス経営の考え方	CSV・パーパスの概念整理 事例紹介（社会課題解決型ビジネス）
第7回	統合報告書と情報開示の役割	統合報告の目的と構成 財務情報と非財務情報の統合とは
第8回	コーポレートガバナンスと責任ある経営	ガバナンスの基本原則 取締役会の役割と実効性

第9回	脱炭素・環境経営と企業戦略	パリ協定とカーボンニュートラル 環境対応が競争力になる仕組み
第10回	DX・AI時代に求められる企業と人材	DXが企業経営に与える影響 AIに代替されにくい能力
第11回	テーマ別グループ編成・研究計画立案	SDGs／ESG／ガバナンス／DX等のテーマ別検討
第12回	テーマ別中間報告①（問題意識）	各グループによる問題設定の報告
第13回	テーマ別中間報告②（分析枠組み）	分析手法・使用資料の報告
第14回	春学期まとめ	春学期の学びの整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のゼミで紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。統合報告書やサステナブル報告書を読み、企業のSDGs活動等に関する基礎知識を習得して下さい。企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと事業構造改革』文真堂,2023年

長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会, 2023年
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂, 2021年

Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan

長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文真堂, 2019年

長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂, 2018年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂, 2017年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂, 2016年

日経エコロジー編『ESG経営ケーススタディ20』日経BP社, 2017年

【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

グループ研究報告：50%

平常点：50%

グループ研究報告については、テーマ選定、研究方法・分析プロセス、データ解析等の正確性とオリジナリティを評価します。

平常点はゼミにおける報告内容および討議への貢献度、企業など外部機関に対するヒアリング調査の実施状況を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンを使用します。

【担当教員の専門領域】

<専門領域>

サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー

<研究テーマ>

取締役会の実効性分析

企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319』2021年

【実務経験のある教員による授業】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役・顧問として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステナビリティコース

【Outline (in English)】

This seminar examines future models of corporate management through concrete corporate case studies, focusing on themes such as the Sustainable Development Goals (SDGs), the Paris Agreement (decarbonization), the Principles for Responsible Investment (ESG investing), Creating Shared Value (CSV), integrated reporting, and digital transformation (DX).

The standard preparation and review time for this seminar is two hours each.

Grading will be based on the final report (50%) and presentation (50%).

MAN400HA（経営学 / Management 400）

研究会B

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大量生産・大量消費型の20世紀型経営から、持続可能な社会価値を創造する21世紀型経営への転換が求められる中、本ゼミでは日本企業のサステナビリティ変革事例を対象に、サステナビリティ経営の実像とその変革プロセスを探究する。統合報告書やサステナビリティ報告書などの開示資料を活用し、経営戦略、ガバナンス、人的資本、環境対応の観点から企業を多面的に分析することで、社会課題の解決と企業価値向上を両立させる経営のあり方について理解を深める。さらに、ケーススタディ報告を通じて、データと根拠に基づき企業を読み解き、論理的に発信する力の養成を目指す。

【到達目標】

本ゼミを通じて、学生は責任ある経営およびサステナビリティ経営に関する基礎理論と主要概念を体系的に理解し、SDGs、ESG投資、CSV、統合報告、DX等の視点から企業活動を多面的かつ批判的に分析できるようになることを目指す。さらに、文献講読や具体的な企業事例の検討を通じて、企業がどのように社会課題の解決と企業価値向上を両立させているのかを把握し、その成果や課題について根拠に基づいて評価するとともに、企業の望ましいあり方について自らの見解を論理的に説明・発信できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

前半は、サステナビリティ経営、統合報告、ESG投資に関する基礎理論を学ぶとともに、主要企業の統合報告書およびサステナビリティ報告書をグループで分析し、企業評価に必要な視点を身につける。後半は、チームごとに分析対象企業を選定し、経営戦略、ガバナンス、人的資本、環境対応などの観点から総合的なケーススタディを行い、報告・討議を通じて理解を深める。発表に向けては、少人数のサブゼミにおいて資料検討やリサーチを行い、必要に応じて企業訪問やサステナビリティ部門担当者とのオンライン対話を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の目的・到達目標、ケーススタディ型学習の進め方、サステナビリティ経営の全体像整理
第2回	企業のサステナビリティ変革をどう読むか サステナビリティ経営の基本理論	日本 サステナビリティ経営の概念 20世紀型 経営と21世紀型経営の違い
第3回	統合報告・サステナビリティ報告の読み方	統合報告書の構成、主要開示項目、企業サンプル分析
第4回	ESG投資と企業評価	ESG評価視点、投資家の着眼点、事例検討

第5回	人的資本経営と人材育成戦略	人的資本開示、人的投資と企業価値、事例分析
第6回	カーボンニュートラルと環境戦略	脱炭素目標、環境対応と競争力、企業事例
第7回	グループ編成・企業候補選定	チーム編成、分析対象企業の選定、理由共有
第8回	分析枠組みの設計	経営戦略・ガバナンス・人的資本・環境対応の評価項目整理
第9回	中間報告①（企業概要・戦略）	企業概要、サステナビリティ戦略報告
第10回	中間報告②（人的資本・ガバナンス）	人的資本施策、ガバナンス体制報告
第11回	中間報告③（環境・脱炭素戦略）	GXグリーントランスフォーメーション評価
第12回	ケーススタディ報告①	総合評価、強み・課題整理
第13回	ケーススタディ報告②	事業戦略とサステナビリティ戦略の統合
第14回	まとめ・振り返り	学びの整理、個人リフレクション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のゼミで紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。統合報告書やサステナブル報告書を読み、企業のSDGs活動等に関する基礎知識を習得して下さい。企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと事業構造改革』文真堂,2023年
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会, 2023年
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂, 2021年
Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文真堂, 2019年
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂, 2018年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂, 2017年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂, 2016年
日経エコロジー編『ESG経営ケーススタディ20』日経BP社, 2017年

【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

グループ研究報告：50%
平常点：50%
グループ研究報告については、テーマ選定、研究方法・分析プロセス、データ解析等の正確性とオリジナリティを評価します。平常点はゼミにおける報告内容および討議への貢献度、企業など外部機関に対するヒアリング調査の実施状況を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンを使用します。

【担当教員の専門領域】

＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
取締役会の実効性分析
企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年
「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319』2021年

【実務経験のある教員による授業】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役・顧問として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステナビリティコース

【Outline (in English)】

This seminar examines sustainability transformation cases of Japanese companies and explores how sustainable management can contribute to both solving social issues and enhancing corporate value. Using integrated reports and sustainability reports, students analyze corporate strategy, governance, human capital, and environmental initiatives. Through case studies, students develop the ability to evaluate corporate practices based on data and present logical analyses and proposals.

Grading will be based on the final report (50%) and presentation (50%).

ENV400HA（環境保全学 / Environmental conservation 400）

研究会A

高田 雅之

配当年次／単位：2～4年／4単位
開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 4/Fri.4
備考（履修条件等）：定員制
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然のもつ奥深い魅力を探求するとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題に対し望ましい在り方を考究することをテーマとします。その際、国際的視点や海外事例を中心に、加えて地域の社会経済や他の諸問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力と大局観・俯瞰力を養います。研究会を通して多様な知識による基盤を作り、その上に各自の問題意識を組立て、修了論文を目指します。

【到達目標】

- 以下の4点を身に付けます。
- ①自然環境に関する幅広い知識・見識と柔軟な考え方
 - ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力（プレゼンテーション／レポート能力）
 - ③他者との議論を通して、異なる観点の意見を受け入れ合意を形成する能力（コミュニケーション能力）
 - ④自ら課題を設定し、多角的な情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力（俯瞰的／論理的思考）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ネイチャーポジティブ、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。
- ①グループワークをとおして、設定課題について調査・考究し、解決に向けた成果を取りまとめます
 - ②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します
 - ③野外学習・サブゼミ・ゼミ合宿を通じて、市民活動／企業とのコラボやフィールドに学び、関心テーマを実践的に掘り下げ、自然を読み取る知識と経験、行動力・探求力・結実力を養います
 - ④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な修了論文作成につなげます
- また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の進め方
第2回	テーマ1：グループ研究1	事前学習
第3回	テーマ1：グループ研究2	グループ討議
第4回	テーマ1：グループ研究3	グループ討議と中間発表
第5回	テーマ1：グループ研究4	グループ討議
第6回	テーマ1：グループ研究5	グループ討議とまとめ

第7回	テーマ1：グループ研究6	発表と総括講義
第8回	テーマ2：グループ研究1	事前学習
第9回	テーマ2：グループ研究2	グループ討議
第10回	テーマ2：グループ研究3	グループ討議と中間発表
第11回	テーマ2：グループ研究4	グループ討議
第12回	テーマ2：グループ研究5	グループ討議とまとめ
第13回	テーマ2：グループ研究6	発表と総括講義
第14回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第15回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第16回	テーマ3：ディベート1	事前学習
第17回	テーマ3：ディベート2	グループ討議
第18回	テーマ3：ディベート3	ディベート第1回
第19回	テーマ3：ディベート4	グループ討議
第20回	テーマ3：ディベート5	ディベート第2回
第21回	テーマ3：ディベート6	発表とまとめ
第22回	テーマ4：個人・グループ研究1	事前学習
第23回	テーマ4：個人・グループ研究2	グループ内プレゼン
第24回	テーマ4：個人・グループ研究3	グループ討議
第25回	テーマ4：個人・グループ研究4	グループ討議と中間発表
第26回	テーマ4：個人・グループ研究5	グループ討議
第27回	テーマ4：個人・グループ研究6	発表と総括講義
第28回	年間まとめ	総括講義と意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。設定課題に対して、事前調査、資料作成、発表準備などを行ってまいります。また週末等に行う野外学習とサブゼミ活動に積極的に参加してまいります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）：提出物の内容と期日遵守の他、学習意欲、受講態度、グループワーク等への貢献、野外学習・合宿・サブゼミ等への参加、ゼミ運営への貢献などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、講義形式学習のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】

「自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）」が未履修の学生は、当該科目を必ず履修してください。また、より理解を深めるため、「サイエンスカフェⅢ（生態学）」（春期）と「自然環境論Ⅳ」（秋期）の履修を推奨します。

【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース、環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the richness and diversity of nature and ecosystem services, and will explore ways to solve various problems between the humans and nature mainly from global perspectives, based on the understanding of ecosystems and wildlife.

The goals of this class are to acquire wide and deep knowledge of the above-mentioned matters, and enhance abilities for information analysis, discussions and presentations.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on comprehensive evaluations including qualities of presentations, participation in discussions, motivation for learning, contribution to seminar activities(100%).

MAN400HA（経営学 / Management 400）

研究会B

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4
備考（履修条件等）：定員制
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会では、英語で書かれた基本的な契約書（英米法に基づくもの）を読むための勉強をします。英文契約書の英語は、特殊なものです。そのための基本的な用語や文例を学んでいきます。

【到達目標】

受講者の皆さんが、社会に出て国際的に活躍されるときに遭遇する英文契約を読む基礎力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

担当教員が、初歩的な教科書をもとに、英文契約の基本を解説していきます。授業の途中で何回か、教科書にでてくる用語や文例を覚えて頂き、確認する小テストを行います。教科書を終えたのち、現実には用いられている英文契約書（プリント）を用いて、皆さんに読んで頂きます。受講生何名かで構成される班による発表形式を取りたいと思います。難しい箇所は、担当教員が解説いたします。なお、この授業は、対面授業として実施される予定です。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	英文契約書の背景（1）	国際契約書と英語等
第2回	英文契約書の背景（2）	仲裁、準拠法、国際裁判管轄等
第3回	契約書の英語（1）	接続詞、助動詞等
第4回	契約書の英語（2）	特殊な用語法（1）、小テスト
第5回	契約書の英語（3）	特殊な用語法（2）、小テスト
第6回	契約書の英語（4）	特殊な用語法（3）、小テスト
第7回	契約書の英語（5）	特殊な用語法（4）、小テスト
第8回	契約書の英語（6）	売買契約書（1）、小テスト
第9回	契約書の英語（7）	売買契約書（2）、小テスト
第10回	契約書の英語（8）	売買契約書（3）、小テスト
第11回	英文契約の読解（1）	実際の英文契約読解（班による発表）
第12回	英文契約の読解（2）	実際の英文契約読解（班による発表）
第13回	英文契約の読解（3）	実際の英文契約読解（班による発表）
第14回	英文契約の読解（4）	実際の英文契約読解（班による発表）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

教科書で指定された小テストの箇所（一定の長さの条文や単語）を覚えて来て下さい。また、実際の英文契約書の訳を班ごとに発表するときに和訳や説明をしたレジュメの準備をお願いします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

本郷貴裕『はじめてでも読みこなせる英文契約書』（明日香出版社、(2018) 2, 640円。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

成績は、小テストの合計点（70％）と班による発表評価（30％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

これから、丁寧に英文契約の読み方を解説していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

大学教員になる以前、企業の国際法務部で、英文契約及び関係する文書を英語で大量に起案してきたことから、読解の対象となる英文契約を説明するときに、なぜそのような表現になるのか、あるいは、自分であればもっと詳細に必要な事項を書き込むといった説明を行うことができる。

【Outline (in English)】

< Course Outline >

In this seminar, we will study for reading basic contracts written in English (based on Anglo-American law). English style and terms written in contracts are very unique. Students will learn basic contract terms and examples.

< Learning Objectives >

This course aims to equip students with the basic skills to read English contracts. This ability will be required for students to play an active role internationally in the future.

< Learning Activities outside of Classroom >

Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture. Students should remember the quiz points (some legal words and sentences) specified in the textbook before attending each class. Each student group should prepare for a report of the translation of the actual English contract. Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in this course will be decided based on your in-class quiz points (70%) and your group report (30%).

ENV400HA（環境保全学 / Environmental conservation 400）

研究会B

日原 傳

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・ 詩歌の鑑賞と実作を通して、詩歌に親しむ。
- ・ 定型詩（俳句・短歌など）の規則や表現技法を学ぶ。
- ・ 句会・歌会を体験する。

【到達目標】

- ・ 詩歌を鑑賞する力をつける。
- ・ 詩歌を実作する体験を積む。
- ・ 自分の好きな俳人・歌人・詩人を見つける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」
「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

最初の時間に俳句や短歌に関する基本文献を紹介する。

自分の作った俳句・短歌、あるいは自分の好きな俳人・歌人の作品
を持ち寄り、鑑賞・批評を行なう。

※対面授業を基本にし、状況によってオンライン授業を組み合わせ
る。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援シ
ステムでその都度提示する。

※課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」
を通じて行なう。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の
詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の運営方法につ いて	基本文献及び関連資料の説明。 句会、歌会の説明。
第2回	鑑賞と創作	鑑賞（各自の読みを示す）創作 （作品発表および相互批評）
第3回	鑑賞と創作	鑑賞（各自の読みを示す）創作 （作品発表および相互批評）
第4回	鑑賞と創作	鑑賞（各自の読みを示す）創作 （作品発表および相互批評）
第5回	鑑賞と創作	鑑賞（各自の読みを示す）創作 （作品発表および相互批評）
第6回	鑑賞と創作	鑑賞（各自の読みを示す）創作 （作品発表および相互批評）
第7回	鑑賞と創作	鑑賞（各自の読みを示す）創作 （作品発表および相互批評）
第8回	鑑賞と創作	鑑賞（各自の読みを示す）創作 （作品発表および相互批評）
第9回	鑑賞と創作	鑑賞（各自の読みを示す）創作 （作品発表および相互批評）
第10回	鑑賞と創作	最終レポートの構想発表、作品 の発表と相互批評
第11回	鑑賞と創作	鑑賞（各自の読みを示す）創作 （作品発表および相互批評）
第12回	鑑賞と創作	鑑賞（各自の読みを示す）創作 （作品発表および相互批評）
第13回	鑑賞と創作	鑑賞（各自の読みを示す）創作 （作品発表および相互批評）

第14回 授業の総まとめ 研究会活動の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・ アンソロジー等を用いて、なるべくたくさんの詩歌（俳句、短歌な
ど）を読む。
- ・ 句会・歌会に出す作品を作る。
- ・ 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

授業の進行に合わせて、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度・発表）70%

最終レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

最終レポートの構想を発表する場を早めに設ける。

【関連の深いコース】

すべてのコース

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary
skills and knowledge needed to write Haiku and Tanka poems.
Before/after each class meeting, students will be expected to
spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the
following

Term paper (30%), in-class contribution(70%).

SHS400HA（科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 400）

研究会B

渡邊 誠

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ： ITパスポート試験とその応用（テクノロジー編）

ITパスポート試験（国家試験・経済産業省）の受験を念頭において、その関連知識、技能を修得することを目的としています。春学期開講科目ではテクノロジー編としてコンピュータ、ネットワーク、セキュリティなどの問題を中心に学習します。またそこで得た内容の応用法について研究します。これにより、本研究会を履修している皆さんが今後進めていく研究および将来の業務に対して、これらの知見がどのように関連して応用できるのかという点について考察します。科学技術社会のあり方を政策的観点から考察することに繋げていくことも重要な目的のひとつです。

【到達目標】

本研究会では、ITパスポート試験に関連して概ね次の力を身に付けることを目標としています。

- ・コンピュータの原理が説明できる
- ・ネットワークの基礎事項が説明できる
- ・セキュリティ問題について考察できる
- ・上記の知識の応用法について考察できる
- ・科学技術社会のあり方について考察できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業では指定した教科書を丁寧に読み進めます。テキストに掲載されている章末問題などを解くことを通して、内容の理解度を高めていきます。その際ポイントとなる事項について参加者間で検討し合うことにします。また、学習で得た知識・技能の応用法についてグループ研究することも含めながら考察する予定です。セキュリティ対策、AIに関する社会的受容などの問題についても重要な検討事項となります。これらを通して社会における科学技術のありかたを参加者全員による総合討論を行いながら考察する予定としています。授業内でレポート課題を出題する場合には、それが提出された後の授業などにおいていくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	年間授業計画と打ち合わせ
第2回	導入ディスカッション (概要)	情報処理技術者試験の概要
第3回	導入ディスカッション (カリキュラム)	ITパスポート試験の概要とカリキュラム研究
第4回	導入ディスカッション (参考資料検討)	ITパスポート試験の教科書研究
第5回	テクノロジー研究 (基礎理論)	コンピュータ基礎、ビットとバイト、論理回路

第6回	テクノロジー研究 (ハードウェア)	システム構成要素、CPUと演算、記憶装置
第7回	テクノロジー研究 (ソフトウェア)	アルゴリズムとプログラミング、OSと各種アプリケーションソフト
第8回	テクノロジー研究 (ネットワークとセキュリティ)	クライアント&サーバ、LANとインターネット、セキュリティマネジメント
第9回	演習 (コンピュータ基礎関連)	演習問題による学習（コンピュータ関連事項）
第10回	演習 (ネットワーク関連)	演習問題による学習（ネットワーク関連事項）
第11回	ストラテジ研究へ向けて	企業活動と経営戦略、各種分析ツールなどの概観
第12回	マネジメント研究へ向けて	システム導入と運用法などの概観
第13回	演習問題（過去問）学習	演習問題による復習と総合学習
第14回	総括	テクノロジー編のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストについては授業の中で指定します。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加の積極性100%によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容を確実に把握してもらえるよう、授業をゆっくり進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション等のためのPCなどは各自用意してください。

【関連の深いコース】

すべてのコース

【Outline (in English)】

(Course outline) Theme: IT Passport Examination and its application. In this seminar we learn the contents of IT Passport Examination held by Ministry of Economy, Trade and Industry. Here we deal with the problems of technology of IT systems, computer networks, and security management. Application methods for this knowledge is studied in class. One of the points at issue is related to the evolution of science and technology in society. (Learning Objectives) At the end of this class we are expected to have the knowledge of IT systems and its application. The policy of science and technology in society is considered. (Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class. (Grading Criteria/Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

SHS400HA（科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 400）

研究会B

渡邊 誠

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ： ITパスポート試験とその応用（ストラテジ・マネジメント編）

ITパスポート試験（国家試験・経済産業省）の受験を念頭において、その関連知識、技能を修得することを目的としています。秋学期開講科目ではストラテジ・マネジメント編として企業戦略、組織運用、法務と財務、システムの導入・管理・運用などの問題を中心に学習します。またそこで得た内容の応用法について研究します。これにより、本研究会を履修している皆さんが今後進めていく研究および将来の業務に対して、これらの知見がどのように関連していて応用できるのかという点について考察します。科学技術社会のあり方を政策的観点から考察することに繋げていくことも重要な目的のひとつです。

【到達目標】

本研究会では、ITパスポート試験に関連して概ね次の力を身に付けることを目標としています。

- ・企業戦略、組織運用などの基本的事項が説明できる
- ・ITシステムの導入・管理・運用などの基本的事項が説明できる
- ・セキュリティ問題について考察できる
- ・上記の知識の応用法について考察できる
- ・科学技術社会のあり方について考察できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業では指定した教科書を丁寧に読み進めます。テキストに掲載されている章末問題などを解くことを通して、内容の理解度を高めていきます。その際ポイントとなる事項について参加者間で検討し合うことにします。また、学習で得た知識・技能の応用法についてグループ研究することも含めながら考察する予定です。セキュリティ対策、AIに関する社会的受容などの問題についても重要な検討事項となります。これらを通して社会における科学技術のありかたを参加者全員による総合討論を行いながら考察する予定としています。授業内でレポート課題を出題する場合には、それが提出された後の授業などにおいていくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	年間授業計画と打ち合わせ
第2回	導入ディスカッション (概要とカリキュラム)	情報処理技術者試験の概要とカリキュラムの確認
第3回	ストラテジ研究 (企業関連)	企業活動と法務・財務、戦略とデータの利活用
第4回	ストラテジ研究 (経営関連)	経営戦略と各種分析ツール、品質管理手法

第5回	ストラテジ研究 (システムと技術関連)	システム戦略と応用
第6回	マネジメント研究 (システム開発)	システム開発手法、組織管理
第7回	マネジメント研究 (プロジェクト管理)	プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント
第8回	マネジメント研究 (システム監査)	システム監査と内部統制
第9回	演習 (ストラテジ関連)	演習問題による学習（ストラテジ関連事項）
第10回	演習 (マネジメント関連)	演習問題による学習（マネジメント関連事項）
第11回	テクノロジー研究へ向けて (ITシステムと戦略)	ITシステムと企業活動、経営戦略などの考察
第12回	テクノロジー研究へ向けて (ITシステムと管理・運用)	ITシステムと開発、管理・運用などの考察
第13回	演習問題（過去問） 学習	演習問題による復習と総合学習
第14回	総括	ストラテジ・マネジメント編のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストについては授業の中で指定します。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加の積極性100%によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容を確実に把握してもらえるよう、授業をゆっくり進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション等のためのPCなどは各自用意してください。

【関連の深いコース】

すべてのコース

【Outline (in English)】

(Course outline) Theme: IT Passport Examination and its application. In this seminar we learn the contents of IT Passport Examination held by Ministry of Economy, Trade and Industry. Here we deal with the problems of strategy of business, administration of organizations, and development of computer systems. Application methods for this knowledge is studied in class. One of the points at issue is related to the evolution of science and technology in society. (Learning Objectives) At the end of this class we are expected to have the knowledge of strategy and management problems in organizations. The policy of science and technology in society is considered. (Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class. (Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

MAN400HA（経営学 / Management 400）

研究会B

金藤 正直

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会では、研究論文やリサーチペーパーの作成、ケーススタディ、ビジネスモデルの構築、量的・質的調査のための基礎的技法を学習しつつ、その成果を実践にも活かしていくことを目的とする。

【到達目標】

本研究会では、企業や自治体、その他関係機関とも連携しながら、「読む」、「書く（描く）」、「調べる」、「考える」、「つくる」、「話す（報告する）」、「計算する」、「分析・評価する」、といった能力の向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ①現在取り組んでいるテーマ、または関心のあるテーマごとにチームを作ります。
- ②チームごとに（またはチーム内のメンバー個人で）実施計画書を作成し、それをもとに研究・調査などを進めていきます。
- ③②での成果については報告を行い、またレポートも作成します。※原則対面で実施する。
- ※ゼミでは、各メンバーのレベルアップのために、企業イベント、学会、インゼミ、エコプロなどへの参加も予定しています。
- ※課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 春学期の研究・調査	研究会の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。また、チームまたは各自の目標を検討し、設定してもらう。
第2回	研究・調査のための 諸文献の分析方法①	文献（市販の教材も含む）を用いて、主体的に研究・調査していくための方法を説明する。
第3回	研究・調査のための 諸文献の分析方法②	文献（市販の教材も含む）を用いて主体的に研究・調査していくための方法を説明する。
第4回	諸文献の分析内容の 報告・議論①	文献（市販の教材も含む）の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第5回	諸文献の分析内容の 報告・議論②	文献（市販の教材も含む）の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第6回	諸文献の分析内容の 報告・議論③	文献（市販の教材も含む）の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。

第7回	諸文献の分析内容の 報告・議論④	文献（市販の教材も含む）の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第8回	研究・調査テーマの 選定・検討方法	研究・調査テーマの選定・検討方法を説明するとともに、実際にそのテーマを選定し、検討していく作業も行う。
第9回	研究・調査テーマの 分析方法	第7回までの講義内容に基づいて、第8回で選定・検討した研究・調査テーマを分析していくための方法を説明する。
第10回	研究・調査テーマの 分析結果の報告・議論①	研究・調査テーマを分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第11回	研究・調査テーマの 分析結果の報告・議論②	研究・調査テーマを分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第12回	研究・調査テーマの 分析結果の報告・議論③	研究・調査テーマを分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第13回	研究・調査テーマの 分析結果の報告・議論④	研究・調査テーマを分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第14回	小 括	これまでの報告・議論の内容を整理し、その内容を全員に共有していく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本研究会では、著書・論文内容の整理や国内外の取組事例の分析を通して、①研究・調査テーマの決定、②研究・調査の目的・視点・方法、③研究・調査に関する先進地域や研究対象地域の選定・検討方法を学習し、また、今後社会で活躍するための能力やスキルを身に付けていきます。大変なこともあるかもしれませんが、楽しく前向きに、また、計画的に実施してください。そのために、本研究会での準備学習・復習は必ず行ってください。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、毎回の報告はパワーポイントを利用します。各チームは報告レジュメ（パワーポイント版）とともに、報告概要（ワード版）の作成と配布をお願いします。

【参考書】

各チームメンバーの研究・調査の進捗状況に応じて、著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の4点に基づいて評価します。

- ・討論への参加（発言内容）（20％）
- ・報告用配布レジュメの内容（20％）
- ・報告内容（プレゼンテーション能力）（30％）
- ・研究・調査レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、ゼミ生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとプロジェクターを使用しますので、毎回準備をお願いします。

【その他の重要事項】

本研究会は、個人による研究・調査だけではなく、数名のメンバーから構成される新たなチーム「イノベーションマネジメントチーム」での研究・調査が中心となります。また、調査先の方々、学部外の学生や教員と一緒に勉強会や報告会などのイベントも開催します。そのために、物事を自分で考え、また、積極的かつ意欲的に取り組むことができる能力だけではなく、人と人とのつながりや他人への気配りを大切にできる能力も身につけてください。

【関連の深いコース】

全てのコースが対象

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this seminar is to learn the methodology for writing research papers, and basic techniques of case study, business model development, quantitative and qualitative research.

② Learning Objectives

Through this seminar, students are able to learn how to effectively teach methods and practices of research and investigation on business administration.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the seminar, using the materials introduced in seminar. Preparatory study and review time for this seminar are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.

- 1) Participation in the discussion : 20%
- 2) Content of the resume : 20%
- 3) Content of the research/survey presentation : 30%
- 4) Research/survey report : 30%

MAN400HA（経営学 / Management 400）

研究会B

金藤 正直

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会では、研究論文やリサーチペーパーの作成、ケーススタディ、ビジネスモデルの構築、量的・質的調査のための基礎的技法を学習しつつ、その成果を実践にも活かしていくことを目的とする。

【到達目標】

本研究会では、企業や自治体、その他関係機関とも連携しながら、「読む」、「書く（描く）」、「調べる」、「考える」、「つくる」、「話す（報告する）」、「計算する」、「分析・評価する」、といった能力の向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ①現在取り組んでいるテーマ、または関心のあるテーマごとにチームを作ります。
- ②チームごとに（またはチーム内のメンバー個人で）実施計画書を作成し、それをもとに研究・調査などを進めていきます。
- ③②での成果については報告を行い、レポートまたは論文も作成します。

※原則対面で実施する。

※ゼミでは、各メンバーのレベルアップのために、企業イベント、学会、インゼミ、エコプロなどへの参加も予定しています。

※課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 秋学期からの研究・調査	研究会の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。 また、春学期の取り組みに基づいて、チームまたは各自の目標を検討し、設定してもらう。
第2回	アンケート調査の方法①	文献（市販の教材も含む）も活用しながら、アンケート調査デザインの検討方法を説明する。
第3回	アンケート調査の方法②	文献（市販の教材も含む）も活用しながら、アンケート調査票の作成・送付方法を説明する。
第4回	アンケート調査の方法③	文献（市販の教材も含む）も活用しながら、アンケート調査の結果を分析するための方法を説明する。
第5回	ヒアリング/インタビュー調査の方法①	文献（市販の教材も含む）も活用しながら、ヒアリング/インタビュー調査の意義や調査票の作成方法を説明する。

第6回	ヒアリング/インタビュー調査の方法②	文献（市販の教材も含む）も活用しながら、ヒアリング/インタビュー調査の実践方法を説明する。
第7回	ヒアリング/インタビュー調査の方法③	文献（市販の教材も含む）も活用しながら、ヒアリング/インタビュー調査の結果を分析するための方法を説明する。
第8回	アンケート/ヒアリング/インタビュー調査 内容の報告・議論①	チームまたは各自で検討したアンケート/ヒアリング/インタビュー調査内容や分析方法を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第9回	アンケート/ヒアリング/インタビュー調査 内容の報告・議論②	チームまたは各自で検討したアンケート/ヒアリング/インタビュー調査内容や分析方法を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第10回	調査・分析結果の報告・議論①	チームまたは各自で実施したアンケート/ヒアリング/インタビュー調査の結果とその分析内容を報告し、それを全員で議論する。
第11回	調査・分析結果の報告・議論②	チームまたは各自で実施したアンケート/ヒアリング/インタビュー調査の結果とその分析内容を報告し、それを全員で議論する。
第12回	調査・分析結果の報告・議論③	チームまたは各自で実施したアンケート/ヒアリング/インタビュー調査の結果とその分析内容を報告し、それを全員で議論する。
第13回	レポートまたは論文の作成	レポートまたは論文の作成方法を説明する。
第14回	小 括	これまでの報告・議論の内容を整理し、その内容を全員に共有していく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本研究会では、著書・論文内容の整理や国内外の取組事例の分析を通して、①研究・調査テーマの決定、②研究・調査の目的・視点・方法、③研究・調査に関する先進地域や研究対象地域の選定・検討方法を学習し、また、今後社会で活躍するための能力やスキルを身に付けていきます。大変なこともあるかもしれませんが、楽しく前向きに、また、計画的に実施してください。そのために、本研究会での準備学習・復習は必ず行ってください。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、毎回の報告はパワーポイントを利用します。各チームは報告レジュメ（パワーポイント版）とともに、報告概要（ワード版）の作成と配布をお願いします。

【参考書】

各チームメンバーの研究・調査の進捗状況に応じて、著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の4点に基づいて評価します。

- ・討論への参加（発言内容）（20%）
- ・報告用配布レジュメの内容（20%）
- ・報告内容（プレゼンテーション能力）（30%）
- ・研究・調査レポートまたは論文（30%）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、ゼミ生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとプロジェクターを使用しますので、毎回準備をお願いします。

【その他の重要事項】

本研究会は、個人による研究・調査だけではなく、数名のメンバーから構成される新たなチーム「イノベーションマネジメントチーム」での研究・調査が中心となります。また、調査先の方々、学部外の学生や教員と一緒に勉強会や報告会などのイベントも開催します。そのために、物事を自分で考え、また、積極的かつ意欲的に取り組むことができる能力だけではなく、人と人とのつながりや他人への気配りを大切にできる能力も身につけてください。

【関連の深いコース】

全てのコースが対象

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this seminar is to learn the methodology for writing research papers, and basic techniques of case study, business model development, quantitative and qualitative research.

② Learning Objectives

Through this seminar, students are able to learn how to effectively teach methods and practices of research and investigation on business administration.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the seminar, using the materials introduced in seminar. Preparatory study and review time for this seminar are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.

- 1) Participation in the discussion : 20%
- 2) Content of the resume : 20%
- 3) Content of the research/survey presentation : 30%
- 4) Research/survey report or paper : 30%

CUA400HA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 400）

研究会B

高橋 五月

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Bゼミのテーマは「文化人類学的エスノグラフィーの基礎を学び、文化を探る」です。文化人類学者たちがエスノグラフィーという調査方法を用いて探求した先行研究を読みながら、学生自らエスノグラフィーを用いたフィールドワークを行い、関心がある問題テーマについて調査研究を行い、調査論文を作成します。

【到達目標】

- 1) 人間と環境の関係について、先行研究を通して文化人類学的視点について理解を深める
- 2) エスノグラフィーという文化人類学的調査の基本的な知識を得る
- 3) フィールドワークの実践的なスキルを得る
- 4) 先行研究レビューを参考にしながら調査データを分析し、調査論文にまとめるスキルを得る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期は、先行研究を講読しながら、エスノグラフィーの入門書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自のフィールドワークの準備、調査計画を行う。フィールドワークは各自の調査計画に応じて、夏季・冬季休暇中および学期中に実施する。秋学期は、先行研究を講読し、先行研究レビューを作成しながら、フィールドワークで収集したデータの分析を調査論文としてまとめ、発表する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	自己紹介とゼミのテーマ、進め方、課題についての説明、授業計画と文献講読の発表担当を決める
第2回	エスノグラフィー入門（1）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第3回	エスノグラフィー入門（2）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第4回	エスノグラフィー入門（3）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第5回	エスノグラフィー入門（4）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる

第6回	エスノグラフィー入門（5）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第7回	エスノグラフィー入門（6）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第8回	エスノグラフィー入門（7）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第9回	エスノグラフィー入門（8）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第10回	エスノグラフィー入門（9）	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第11回	調査計画発表（1）	夏季休暇中に実施するフィールドワークの計画書について発表する
第12回	調査計画発表（2）	夏季休暇中に実施するフィールドワークの計画書について発表する
第13回	調査計画発表（3）	夏季休暇中に実施するフィールドワークの計画書について発表する
第14回	調査計画発表（4）、前期のまとめ	夏季休暇中に実施するフィールドワークの計画書について発表する、前期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献は必ず読み、感想文（300字程度）を授業支援システムにアップロードし、ゼミ当日は積極的に議論に参加すること。発表担当文献については、事前準備を十分に。フィールドワークは各自で学期中及び夏季・冬季休暇中に行う。加えて、各自の研究に関連する先行文献は教員に相談しながら各自で収集し、読み進め、先行研究レビューを執筆する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

小田博志『エスノグラフィー入門』春秋社（2010）

【参考書】

随時授業内でお知らせします

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（20%）、文献感想文（20%）、文献発表（20%）、研究論文（40%）

【学生の意見等からの気づき】

現地調査を自ら計画して遂行するのは苦労も多いですが、楽しさと達成感を得られるということを学生も感じ取ってくれているようで嬉しいです。

【学生が準備すべき機器他】

高橋ゼミでは、資料配布、お知らせ配信、課題提出等は全て授業支援システムを通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【関連の深いコース】

どのコースの学生でも履修可能

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This is a seminar course, which is designed to learn basic knowledge of ethnographic research methods and writing. The main goal of this seminar is to help students to develop necessary skills for research design, ethnographic fieldwork, and academic writing.

Students will be expected to proactively participate in class and to prepare for and review classwork daily. An expected weekly study time for this seminar is four hours on average. A final grade will be based on class participation (20%), weekly commentaries (20%), presentation (20%), and research paper (40%).

CUA400HA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 400）

研究会B

高橋 五月

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Bゼミのテーマは「文化人類学的エスノグラフィーの基礎を学び、文化を探る」です。文化人類学者たちがエスノグラフィーという調査方法を用いて探求した先行研究を読みながら、学生自らエスノグラフィーを用いたフィールドワークを行い、関心がある問題テーマについて調査研究を行い、調査論文を作成します。

【到達目標】

- 1) 人間と環境の関係について、先行研究を通して文化人類学的視点について理解を深める
- 2) エスノグラフィーという文化人類学的調査の基本的な知識を得る
- 3) フィールドワークの実践的なスキルを得る
- 4) 先行研究レビューを参考にしながら調査データを分析し、調査論文にまとめるスキルを得る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期は、先行研究を講読しながら、エスノグラフィーの入門書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自のフィールドワークの準備、調査計画を行う。フィールドワークは各自の調査計画に応じて、夏季・冬季休暇中および学期中に実施する。秋学期は、先行研究を講読し、先行研究レビューを作成しながら、フィールドワークで収集したデータの分析を調査論文としてまとめ、発表する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	進め方、課題についての説明、授業計画と文献講読の発表担当を決める
第2回	フィールドワーク「謎」発表会（1）	夏季休暇中に実施したフィールドワークとそこで発見した「謎」を発表する、質疑応答でフィードバックを得る
第3回	フィールドワーク「謎」発表会（2）	夏季休暇中に実施したフィールドワークとそこで発見した「謎」を発表する、質疑応答でフィードバックを得る
第4回	フィールドワーク「謎」発表会（3）	夏季休暇中に実施したフィールドワークとそこで発見した「謎」を発表する、質疑応答でフィードバックを得る
第5回	先行研究を探す、読む、リサーチクエスチョンを育てる（1）	ゼミ生の研究に関連する文化人類学の先行研究を探し、ゼミ全体で読み、リサーチクエスチョンの育て方、論文の書き方を学ぶ

第6回	先行研究を探す、読む、リサーチクエスチョンを育てる（2）	ゼミ生の研究に関連する文化人類学の先行研究を探し、ゼミ全体で読み、リサーチクエスチョンの育て方、論文の書き方を学ぶ
第7回	先行研究を探す、読む、リサーチクエスチョンを育てる（3）	ゼミ生の研究に関連する文化人類学の先行研究を探し、ゼミ全体で読み、リサーチクエスチョンの育て方、論文の書き方を学ぶ
第8回	先行研究を探す、読む、リサーチクエスチョンを育てる（4）	ゼミ生の研究に関連する文化人類学の先行研究を探し、ゼミ全体で読み、リサーチクエスチョンの育て方、論文の書き方を学ぶ
第9回	先行研究を探す、読む、リサーチクエスチョンを育てる（5）	ゼミ生の研究に関連する文化人類学の先行研究を探し、ゼミ全体で読み、リサーチクエスチョンの育て方、論文の書き方を学ぶ
第10回	先行研究を探す、読む、リサーチクエスチョンを育てる（6）	ゼミ生の研究に関連する文化人類学の先行研究を探し、ゼミ全体で読み、リサーチクエスチョンの育て方、論文の書き方を学ぶ
第11回	研究進捗発表（1）	各自の研究論文の進捗状況を発表する
第12回	研究進捗発表（2）	各自の研究論文の進捗状況を発表する
第13回	研究進捗発表（3）	各自の研究論文の進捗状況を発表する
第14回	研究論文ドラフトのピアコメント、まとめ	研究論文ドラフトに対するピアコメントをする、秋学期のまとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献は必ず読み、感想文（300字程度）を授業支援システムにアップロードし、ゼミ当日は積極的に議論に参加すること。発表担当文献については、事前準備を十分に作る。フィールドワークは各自で学期中及び夏季・冬季休暇中に行う。加えて、各自の研究に関連する先行文献は教員に相談しながら各自で収集し、読み進め、先行研究レビューを執筆する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

小田博志『エスノグラフィー入門』春秋社（2010）

【参考書】

随時授業内でお知らせします

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（20％）、文献感想文（20％）、文献発表（20％）、研究論文（40％）

【学生の意見等からの気づき】

現地調査を自ら計画して遂行するのは苦労も多いですが、楽しさと達成感を得られるということを学生も感じ取ってくれているようで嬉しいです。

【学生が準備すべき機器他】

高橋ゼミでは、資料配布、お知らせ配信、課題提出等は全て授業支援システムを通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【関連の深いコース】

どのコースの学生でも履修可能

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This is a seminar course, which is designed to learn basic knowledge of ethnographic research methods and writing. The main goal of this seminar is to help students to develop necessary skills for research design, ethnographic fieldwork, and academic writing.

Students will be expected to proactively participate in class discussions and to prepare for and review classwork daily. The expected weekly study time for this seminar is four hours. A final grade will be based on class participation (20%), weekly commentaries (20%), presentation (20%), and research paper (40%).

CUA400HA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 400）

研究会A

高橋 五月

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Aゼミのテーマは「文化人類学の視点から文化を探る」です。文化人類学者たちがエスノグラフィーという調査方法を用いて探求した先行研究を読みながら、学生も自ら興味のあるテーマを選択し、エスノグラフィーを用いたフィールドワークを行ながらリサーチエスチョンを育て、3年生は研究論文、4年生は卒業論文にまとめます。

【到達目標】

- 1) 先行研究を通して文化人類学的視点について理解を深める
- 2) エスノグラフィーという文化人類学的調査の基本的な知識を得る
- 3) 現地調査を通して、エスノグラフィーの実践的なスキルを得る
- 4) エスノグラフィックな視点と思考を磨き、普段「当たり前」として過ごされてしまう物事に埋め込まれている複雑な文化的側面に面白さを見出し、「問い」を組み立て、育てるスキルを養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ゼミ生の卒論研究テーマに関連する先行研究を講読と意見交換をしながら、エスノグラフィーと文化人類学的理論についての理解を深める。また、学生は各自で卒論研究のフィールドワークを引き続き実行すると同時に、先行研究の講読と意見交換を参考にしながら卒論研究での理論的議論の発展に努める。また、ゼミでは各自の卒論研究の経過を報告し、他学生や教員からのコメントや質問を随時卒論執筆に反映させる。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	自己紹介とゼミの進め方、課題についての相談と決定する。文献講読の司会担当決める。
第2回	本年度の卒論研究計画の発表（1）	各自の卒論研究について、本年度の調査計画書を提出し、発表する。
第3回	本年度の卒論研究計画の発表（2）	各自の卒論研究について、本年度の調査計画書を提出し、発表する。
第4回	先行研究の講読（1）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする。
第5回	先行研究の講読（2）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする。
第6回	先行研究の講読（3）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする。

第7回	先行研究の講読（4）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする。
第8回	先行研究の講読（5）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする。
第9回	先行研究の講読（6）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする。
第10回	先行研究の講読（7）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする。
第11回	卒論研究中間発表（1）	卒論研究の中間発表
第12回	卒論研究中間発表（2）	卒論研究の中間発表
第13回	卒論研究中間発表（3）	卒論研究の中間発表
第14回	卒論研究中間発表（4）	卒論研究の中間発表
第15回	秋学期イントロダクション	秋学期のゼミ授業計画を相談、決定する
第16回	3年生研究中間発表（3）	3年生の研究中間発表
第17回	3年生研究中間発表（3）	3年生の研究中間発表
第18回	3年生研究中間発表（3）	3年生の研究中間発表
第19回	先行研究の講読（8）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする。
第20回	先行研究の講読（9）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする。
第21回	先行研究の講読（10）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする。
第22回	先行研究の講読（11）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする。
第23回	先行研究の講読（12）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする。
第24回	先行研究の講読（13）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする。
第25回	先行研究の講読（14）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする。
第26回	先行研究の講読（15）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする。
第27回	卒論発表（1）	卒論提出予定者による研究成果発表。
第28回	卒論発表（2）	卒論提出予定者による研究成果発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献は必ず読み、感想文（3000字程度）を授業支援システムにアップロードし、ゼミ当日は積極的に議論に参加すること。発表担当文献については、事前準備を十分に。フィールドワークは各自で学期中及び夏季・冬季休暇中に行う。加えて、卒論研究に関連する先行文献は教員に相談しながら各自で収集し、読み進め、先行研究レビューを執筆する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

小田博志『エスノグラフィー入門』春秋社（2010）

【参考書】

随時授業内でお知らせします

【成績評価の方法と基準】

議論への参加とコメントペーパー（40％）、発表（20％）、研究論文・卒論（40％）

【学生の意見等からの気づき】

グループワークなども取り入れながら、今後も学生同士で意見交換できる環境を積極的にサポートしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

高橋ゼミでは、資料配布、お知らせ配信、課題提出等は全て Hoppii(学習支援 システム) を通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【関連の深いコース】

人間文化コース、グローバル・サステイナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This is a seminar course, which is designed for students to prepare for their senior theses. The main goal of this seminar is to help students to enhance their skills in research design, ethnographic fieldwork, and academic writing.

Students will be expected to proactively participate in class and to prepare for and review classwork daily. The expected weekly study time for this seminar is four hours. A final grade will be based on class participation and weekly commentaries (40%), presentation (20%), and research paper (40%).

PHL400HA（哲学 / Philosophy 400）

研究会A

竹本 研史

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月5/Mon.5

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の問題を考察するために必要な、自由、人権、民主主義、平等、所有、他者、差別、権力、平和、労働、貧困、正義、ジェンダー、セクシュアリティといった諸概念は、これまでの長い思想的・文化的な伝統のなかで数多くの議論が積み重ねられてきた。本研究会では、マイノリティを中心とした〈他者〉がどのように文化をつくり、逆に〈他者〉はどのように表象されてきているのか、またその他者が実際に、社会においてどのように排除されているのか、どのように社会的に包摂すべきなのか、それら以上の諸点について、ヨーロッパや近現代日本を舞台にして、人文・社会系の文献や芸術作品の分析を通じて考察することがテーマです。

各ゼミ生は、ゼミでの学習や講義、社会連携科目、自身の個人研究とフィールド調査を通じて、テキストの読解力の養成とともに、自身の専門的知見を広め見識を深めることによって、最終的には、4年生の最後にその学生にしか書けない立派な研究会修了論文を完成させることを目標としています。

【到達目標】

(1) ヨーロッパや近現代日本の思想や文学、文化、社会に関する文献の正確な読解力の定着。ならびに、「人間」や「社会」、「民主主義」をはじめとする諸概念それ自体が、どのような歴史的負荷を帯びているか把握すること。

(2) 個々の問題の発見、必要な情報の収集・分析、論理的な考察、成果の表現（発表や討議を通じた意見表明の方法、レポート作成を通じた論文執筆の方法）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

(1) ヨーロッパや近現代日本の文化や社会に関する文献の輪読+個人研究発表。

(2) 学期に1回、事前学習のうえ、映画館・美術館・博物館、劇場、コンサート・ホールなどでプチ FS。

(3) ゼミ合宿(夏休みか春休み)。

(2) と (3) については、コロナ禍があげたらという条件のもとでの設定である。

学生からの質問・意見や、提出物に対しては、基本的に授業時間内およびZoomを用いた面談でフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、および各人の1年間の研究スケジュールの確認
第2回	テキストの精読 (1)	文化や社会に関する基礎的文献の精読 (1) (入門編)
第3回	テキストの精読 (2)	文化や社会に関する基礎的文献の精読 (2)

第4回	テキストの精読 (3)	文化や社会に関する基礎的文献の精読 (3)
第5回	テキストの精読 (4)	文化や社会に関する基礎的文献の精読 (4)
第6回	テキストの精読 (5)	文化や社会に関する基礎的文献の精読 (5)
第7回	テキストの精読 (6)	文化や社会に関する基礎的文献の精読 (6)
第8回	テキストの精読 (7)	文化や社会に関する基礎的文献の精読 (7)
第9回	フィールド学習準備 (1)	フィールド学習のための事前文献調査 (1)
第10回	フィールド学習準備 (2)	フィールド学習のための事前文献調査 (2)
第11回	フィールド学習準備 (3)	フィールド学習のための事前文献調査 (3)
第12回	4年生研究会修了論文中間発表 (1)	4年生を対象とした卒論中間発表 (前編)
第13回	4年生研究会修了論文中間発表 (2)	4年生を対象とした卒論中間発表 (中編)
第14回	4年生研究会修了論文中間発表 (3)	4年生を対象とした卒論中間発表 (後編)
第15回	フィールド学習発表	フィールド学習で調査した内容を発表
第16回	テキストの精読 (8)	文化や社会に関する古典の精読 (1)
第17回	テキストの精読 (9)	文化や社会に関する古典の精読 (2)
第18回	テキストの精読 (10)	文化や社会に関する古典の精読 (3)
第19回	テキストの精読 (11)	文化や社会に関する古典の精読 (4)
第20回	テキストの精読 (12)	文化や社会に関する古典の精読 (5)
第21回	テキストの精読 (13)	文化や社会に関する古典の精読 (6)
第22回	2、3年生研究構想発表 (1)	2、3年生それぞれの研究について簡単に発表、教員・学生を交えて討論 (1)
第23回	2、3年生研究構想発表 (2)	2、3年生それぞれの研究について簡単に発表、教員・学生を交えて討論 (2)
第24回	2、3年生研究構想発表 (3)	2、3年生それぞれの研究について簡単に発表、教員・学生を交えて討論 (3)
第25回	4年生研究会修了論文中間発表 (1)	研究会修了論文第2章までの執筆段階において中間発表を行う (前編)
第26回	4年生研究会修了論文中間発表 (2)	研究会修了論文第2章までの執筆段階において中間発表を行う (中編)
第27回	4年生研究会修了論文中間発表 (3)	研究会修了論文第2章までの執筆段階において中間発表を行う (後編)
第28回	まとめ	1年間の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。(1) 授業で扱う文献は熟読のうえ、疑問点を整理し、専門用語などは事前に調べておくこと。(2) 日頃からとにかく本を読むこと。映画、美術、音楽、演劇、ダンス、バレエ、マンガ、スポーツなどを積極的に鑑賞、観戦すること。(3) 人文・社会科学分野の文献を数多く揃えている書店や古本屋を覗いてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業当初はプリント。後半で扱う古典については教場で指示する。

【参考書】

教場にて指示。

【成績評価の方法と基準】

(1) 2、3 年生は、授業中の発表と司会（30％）、夏・冬 2 回の期末レポート（45％）と 3 度の小レポート提出（15％）、ゼミ運営への貢献（10％）。

(2) 4 年生は、発表と司会（30％）、研究会論文の提出（45％）。6 月まで月 1 回の小レポートの提出（15％）、ゼミ運営への貢献（10％）。ただし、課題を 1 回でも未提出の場合は単位を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

毎年どのようなテキストを取り扱うのかを教員、学生双方で議論し合いながら決定している。

【その他の重要事項】

人間文化コース、グローバル・サステイナビリティコース所属学生のみ受講が可能である。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース、人間文化コース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しない。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the basic concepts and principles of democracy. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and writing research papers.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to make oral presentation and to write research papers.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process

Term-end reports (45 %)

Short reports (15 %)

Presentations & Moderations (30 %)

In-class contribution (10 %)

SOC400HA（社会学 / Sociology 400）

研究会A

三原 さやか、佐伯 英子

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会は今年度は【医療社会学】を主題とし、健康、病い、身体、医療技術などの社会的側面に焦点を当てて考察を深めます。

【到達目標】

- 1. 身体や医療技術を社会的観点から捉えることにより新しい知見を得る。
- 2. 各自が設定した研究テーマに沿って調査を行い、卒業時には、研究会修了論文を提出する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

前期と後期でそれぞれに設定されたテーマに基づいてグループプロジェクトを行います。また、個人研究に関する発表やディスカッションの場を設けます。また、課題提出後は、授業もしくは学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の概要と目標; 年間計画の確認; 自己紹介
第2回	個人研究についての発表	報告、質疑応答とディスカッション
第3回	個人研究についての発表	報告、質疑応答とディスカッション
第4回	グループプロジェクト(1)ブレインストーミング	アイデアや情報の共有、ディスカッション
第5回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第6回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第7回	グループプロジェクト(1)グループワーク	グループワークを行う
第8回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第9回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第10回	グループプロジェクト(1)発表	報告、質疑応答
第11回	グループプロジェクト(1)総括	ディスカッションとまとめ
第12回	個人研究についての発表	進捗状況とこれからの計画について報告
第13回	個人研究についての発表	進捗状況とこれからの計画について報告

第14回	春学期のまとめ	これまでの学びのふりかえり; 夏季休暇中の課題の確認; 秋学期の進め方についての説明
第15回	ガイダンス	秋学期の計画について確認; 夏季休暇中の課題についての報告; グループワークについてディスカッション
第16回	個人研究についての発表	進捗状況の共有と調査内容についての報告、質疑応答とディスカッション
第17回	個人研究についての発表	進捗状況の共有と調査内容についての報告、質疑応答とディスカッション
第18回	個人研究についての発表	進捗状況の共有と調査内容についての報告、質疑応答とディスカッション
第19回	グループプロジェクト(2)ブレインストーミング	アイデアや情報を共有、ディスカッション
第20回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第21回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第22回	グループプロジェクト(2)グループワーク	グループワークを行う
第23回	グループプロジェクト(2)発表	報告、質疑応答
第24回	グループプロジェクト(2)総括	ディスカッションとまとめ
第25回	個人研究についての発表	ここまでの調査と分析で明らかになったことを発表; 質疑応答
第26回	個人研究についての発表	ここまでの調査と分析で明らかになったことを発表; 質疑応答
第27回	個人研究についての発表	ここまでの調査と分析で明らかになったことを発表; 質疑応答
第28回	1年間のまとめ	今年度の学習内容と研究活動のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎週課題となる文献を読み、ディスカッションに備え、質問や意見を用意してきてください。また、個人研究として各自がテーマを決めて調査と発表をすることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションやアクティビティでの参加・貢献度 40%; グループプロジェクト 30%; 期末レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、グループディスカッションやグループワーク、個人プロジェクトのサポートのバランスをとりながら実施します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、人間文化コース

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This seminar on medical sociology focuses on health, illnesses, the body, and technology.

【Learning Objectives】

In this seminar, students are expected to:

- 1. deepen their understanding of issues concerning modern healthcare from sociological perspectives; and
- 2. conduct individual research projects and complete their theses by the end of the senior year.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation 40%; Group project 30%; Term paper 30%

HUG400HA（人文地理学 / Human geography 400）

研究会A

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／4単位
開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火3/Tue.3
備考（履修条件等）：定員制
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2026年度は「地域の経済」について調べ、考え、議論します。

【到達目標】
この研究会では「地域」や「社会」や「経済」をキーワードとして考えます。①関連する文献や書籍を精読し、②自らの「問い」を立て、③主体的に調べ（フィールドワークや資料分析）、④リサーチペーパーを作成することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
受講者の問題関心によって演習の方法は適宜調整しますが、基本的には①文献・書籍の精読と研究会全体の議論、②テーマ「地域の経済」についてのグループワークとフィールドワーク、③リサーチペーパーの作成と報告を、段階的に進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（春）	研究会の進め方の説明、研究会メンバーの自己紹介、年間計画の相談をする
第2回	「学び問う」、「調べ考える」ことについて	研究を進めるにあたっての心構え、方法などについて概説する
第3回	研究テーマの検討	「地域の経済」に関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第4回	研究スタート発表	グループ研究の目的、方法を発表し、議論する。
第5回	研究スタート発表	グループ研究の目的、方法を発表し、議論する。
第6回	グループワーク	議論をもとに、調査研究、分析を進める。
第7回	研究スタート発表	グループ研究の目的、方法を発表し、議論する。
第8回	グループワーク	議論をもとに、調査研究、分析を進める。
第9回	データ収集と分析	データを分析し、議論する
第10回	グループワーク	議論をもとに、調査研究、分析を進める。
第11回	データ収集と分析	データを分析し、議論する
第12回	グループワーク	議論をもとに、調査研究、分析を進める。

第13回	調査計画の報告	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する
第14回	調査計画の報告	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する
第15回	研究成果中間報告	卒業研究、グループ研究の成果報告
第16回	グループワーク	議論をもとに、調査研究、分析を進める。
第17回	卒論中間発表	4年生の中間発表をもとに議論する。
第18回	卒論中間発表	4年生の中間発表をもとに議論する。
第19回	グループワーク	議論をもとに、調査研究、分析を進める。
第20回	卒論中間発表	4年生の中間発表をもとに議論する。
第21回	卒論中間発表	4年生の中間発表をもとに議論する。
第22回	グループワーク	議論をもとに、調査研究、分析を進める。
第23回	3年生の卒論構想発表	個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する。
第24回	3年生の卒論構想発表	個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する。
第25回	3年生の卒論構想発表	個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する。
第26回	3年生の卒論構想発表	個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する。
第27回	3年生の卒論構想発表	個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する。
第28回	年間のふりかえりとまとめ	「地域の経済」という共通テーマについて得られた知見と課題について議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。自らの問題意識に関わる論文、文献、資料などに積極的にアクセスし、自主的にそれを収集整理、熟読し、自分のオリジナリティに自覚的になることを目指してください。また、文献などだけでなく自分の5感で可能な範囲でのフィールドワークを体感してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
・適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
グループ研究（30％）、個別研究（30％）、研究会への参加姿勢（40％）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生の主体性を大切に研究運営をしていきます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステイナビリティコース

【Outline (in English)】
◆Course outline

In 2026, students will investigate, think and discuss about "the economy of local".

◆Learning Objectives

In this study group, students will consider "region," "society," and "economy" as keywords. The goal of this course is for students to (1) carefully read relevant literature and books, (2) formulate their own "questions," (3) conduct independent research (fieldwork and material analysis), and (4) write a research paper.

◆Learning activities outside of classroom

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Students are expected to actively access papers, documents, and materials related to their own problem consciousness, voluntarily collect and organize them, read them carefully, and become aware of their own originality. In addition, please try to experience fieldwork to the extent possible using your own five senses as well as literature. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

◆Grading Criteria /Policy

The evaluation will be based on the overall attitude toward group research (30 %) , individual research (30 %) , and participation in research meetings (40 %) .

PHL400HA（哲学 / Philosophy 400）

研究会A

吉永 明弘

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木2/Thu.2

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境倫理学とアメニティマップ：マップ作りを通じて環境倫理学と都市問題について学ぶ

【到達目標】

環境倫理学の概要を理解するとともに、倫理的な考え方を身につける。また、マップ作りを通して都市問題、住宅問題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

環境倫理学、都市問題、住宅問題などに関する文献を読んで議論する。どのジャンルの本の重点的に読むかは参加学生と相談して決める。その他、アメニティマップ（魅力ある場所と問題のある場所を色分けして記したマップ）の製作と発表を行い、成果を冊子にまとめる。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（1）	環境倫理学、都市問題、住宅問題の概要を説明し、講読するテキストやマップ作りの場所を決める。
2	イントロダクション（2）	環境倫理学、都市問題、住宅問題の概要を説明し、講読するテキストやマップ作りの場所を決める。
3	文献講読（1）	テキストの講読を行う。
4	文献講読（2）	テキストの講読を行う。
5	文献講読（3）	テキストの講読を行う。
6	文献講読（4）	テキストの講読を行う。
7	文献講読（5）	テキストの講読を行う。
8	文献講読（6）	テキストの講読を行う。
9	アメニティマップ概説	アメニティマップについて説明する。
10	アメニティマップ準備	アメニティマップ製作の準備を行う。
11	アメニティマップ製作	アメニティマップを製作する。
12	アメニティマップ製作	アメニティマップを製作する。
13	アメニティマップ発表	アメニティマップを用いて発表を行う。
14	アメニティマップ発表	アメニティマップを用いて発表を行う。
15	中間考察	テキストと地図作りから得られた知見について話し合う。

16	文献講読（7）	テキストの講読を行う。
17	文献講読（8）	テキストの講読を行う。
18	文献講読（9）	テキストの講読を行う。
19	文献講読（10）	テキストの講読を行う。
20	文献講読（11）	テキストの講読を行う。
21	文献講読（12）	テキストの講読を行う。
22	冊子の製作（1）	マップと文献研究の成果を冊子にまとめる。
23	冊子の製作（2）	マップと文献研究の成果を冊子にまとめる。
24	冊子の製作（3）	マップと文献研究の成果を冊子にまとめる。
25	冊子の製作（4）	マップと文献研究の成果を冊子にまとめる。
26	冊子の製作（5）	マップと文献研究の成果を冊子にまとめる。
27	冊子の製作（6）	マップと文献研究の成果を冊子にまとめる。
28	冊子の製作（7）	マップと文献研究の成果を冊子にまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当者はテキストを読んでレジュメをつくってこること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

参加者と相談のうえ決定します。

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理 増補改訂版』勁草書房、2025年

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年

【成績評価の方法と基準】

担当分のレジュメ（30％）、アメニティマップ（20％）、冊子の作成（50％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【関連の深いコース】

人間文化コース、ローカル・サステイナビリティコース

【Outline (in English)】

This course deals with the environmental ethics, urban environment. At the end of the course, students are expected to write a paper on environmental ethics and urban environment. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Making a book:50%, amenity map:20%, in class contribution:30%.

ECN400HA（経済学 / Economics 400）

研究会B

杉野 誠

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2026年度のテーマは「温暖化対策と再エネ」です。温暖化のみならず生物多様性・エネルギー問題など幅広く関連する問題です。1つの政策が温暖化問題を解決できるわけではない。そのため、複合的な政策（ポリシーミックス）が求められる。この授業を通じて、持続可能な社会を実現するための方策を議論を深めます。

【到達目標】

本研究会では、以下の到達目標を設定しています。

- 1) 温暖化問題と再エネをめぐる議論を広い視野から捉える
- 2) 自分の意見を持ち、それを様々な方法によって人に伝える
- 3) 持続可能な社会に必要な政策の立案・構想できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	登録者間の自己紹介、授業の内容・進め方について概説する
第2回	基礎文献の輪読 1	気候変動問題の本質に関する文献を読み、議論する
第3回	基礎文献の輪読 2	気候変動問題の本質に関する文献を読み、議論する
第4回	基礎文献の輪読 3	気候変動問題の本質に関する文献を読み、議論する
第5回	基礎文献の輪読 4	気候変動問題の本質に関する文献を読み、議論する
第6回	基礎文献の輪読 5	気候変動問題の本質に関する文献を読み、議論する
第7回	グループディスカッション 1 - 1	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第8回	グループディスカッション 1 - 2	グループ発表および全体ディスカッション
第9回	グループディスカッション 2 - 1	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第10回	グループディスカッション 2 - 2	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第11回	グループディスカッション 2 - 3	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする

第12回	再エネ関連施設へのヒアリング調査①	グループディスカッションで出た問題点などについて現場で確認する①
第13回	再エネ関連施設へのヒアリング調査②	グループディスカッションで出た問題点などについて現場で確認する②
第14回	春学期の総まとめ	春学期全体のまとめとこれからの課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。必要に応じて関連する文献を読むこと。また、与えられた課題を期限内に実施すること。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を用いらない。

【参考書】

有村・杉野・鷲津（2022）『カーボンプライシングのフロンティア』、日本評論社。

T.H. Arimura and S. Matsumoto ed. (2021) Carbon Pricing in Japan, Springer.

有村（2015）『温暖化対策の新しい排出削減メカニズム』、日本評論社。

有村・蓬田・川瀬（2012）『地球温暖化対策と国際貿易：排出量取引と国境調整措置をめぐる経済学・法学的分析』、日本評論社。

有村・武田（2012）『排出量取引と省エネルギーの経済分析』、日本評論社。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（40%）、報告・プレゼンテーション（50%）、授業への貢献度（議論への積極的参加や貢献など）（10%）に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生間の交流を深めることができるようにグループワークなどを積極的に増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンやタブレットなどを持参すること

【関連の深いコース】

すべてのコース

【Outline (in English)】

【Course Outline】In this course, we will focus on climate change and renewable energy. These issues are more than just the about preserving nature. For example, extreme weather condition, biodiversity and energy issues are also associated with climate change. Since these issues are complex, there is no one policy solution. This course deals with policies and actions needed to achieve a sustainable society. It also enhances the development of students' skill in debating, writing and presentation.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to 1) have a wide view on environmental economics, 2) understand the economic logic of renewable energy implementation policy and 3) propose relevant environmental policies.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the references. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%, presentation 50%, in class contribution: 10%

SHS400HA（科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 400）

研究会A

金光 秀和

配当年次／単位：2～4年／4単位
開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火4/Tue.4
備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

持続可能な未来を展望できるようになるために、「科学技術と社会」「科学技術と人間」をメインテーマとして考察を進めます。具体的には、各自が「人間」「環境」「科学技術」から課題（問い）を設定し、文献調査・講読、プレゼンテーション、ワークショップの企画、年度末レポートの作成を行い、課題発見能力（疑う力）、論理的思考力（筋道を立てて考える力）、批判的思考力（適切にツッコむ力）の涵養を目指します。テーマは「人間」「環境」「科学技術」を軸としますが、基本的には各自の興味関心を踏まえて自由に設定できます。また、これまでに経験したことのないことにチャレンジして報告をする「チャレンジ報告会」、読書体験を共有する「リーディングセッション」など、未来に向けて実践的に経験を拡張する機会も設けます。

【到達目標】

各自が課題（問い）を設定して研究活動を進めることによって、①課題発見・分析能力、②課題完遂能力、③論理的思考力、④情報管理能力、⑤情報発信・スキルの涵養を目標とします。これらを通して、「科学技術と社会」「科学技術と人間」の問題について考察を深めることが期待されます。また、ワークショップの企画・運営によって、⑤コミュニケーション力、⑥スケジュール管理能力、⑦チームワーク力、⑧ファシリテーション力、⑨リーダーシップ力の涵養を目標とします。これらを通して、「科学技術と社会」「科学技術と人間」の問題に対処するための態度、行動を学ぶことが期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

各自が設定した課題（問い）をもとに、インプット（文献講読、情報収集）とアウトプット（プレゼンテーション、ワークショップの企画・運営）を行います。また、他大学のゼミとの協働、社会人との対話、各自の課題（問い）に即した現場調査などのフィールドワークを実施したいと思います。授業では、提出された論点や質問について、適宜全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期イントロダクション	本授業の問題意識、テーマの概要、進め方について説明します。
第2回	プレゼンテーション①	自己紹介を兼ねたプレゼンテーションを実施してもらい、各自が扱う課題、チャレンジリスト、読書リストを検討します。
第3回	文献講読①	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を講読します。
第4回	文献講読②	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を講読します。
第5回	文献講読③	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を講読します。
第6回	文献講読④	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を講読します。

第7回	文献講読⑤	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を講読します。
第8回	リーディングセッション①	課題図書を読書体験を共有するためのワークショップを開催します。
第9回	文献講読⑥	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を講読します。
第10回	文献講読⑦	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を講読します。
第11回	プレゼンテーション②	発表者と質問者を決めて各自の課題について発表します。
第12回	プレゼンテーション③	発表者と質問者を決めて各自の課題について発表します。
第13回	プレゼンテーション④	発表者と質問者を決めて各自の課題について発表します。
第14回	チャレンジ報告会①	春学期の活動を全体的に振り返るとともに、それぞれの経験の拡張を共有するためのワークショップを開催します。
第15回	秋学期イントロダクション	本授業の問題意識、テーマの概要、進め方について確認します。また、チャレンジリスト、読書リストを検討します。
第16回	文献講読⑧	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を講読します。
第17回	文献講読⑨	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を講読します。
第18回	文献講読⑩	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を講読します。
第19回	プレゼンテーション⑤	発表者と質問者を決めて各自の課題（年度末レポートの進捗状況）について発表します。
第20回	プレゼンテーション⑥	発表者と質問者を決めて各自の課題（年度末レポートの進捗状況）について発表します。
第21回	プレゼンテーション⑦	発表者と質問者を決めて各自の課題（年度末レポートの進捗状況）について発表します。
第22回	リーディングセッション②	課題図書を読書体験を共有するためのワークショップを開催します。
第23回	プレゼンテーション⑧	発表者と質問者を決めて各自のワークショップの企画について発表します。
第24回	プレゼンテーション⑨	発表者と質問者を決めて各自のワークショップの企画について発表します。
第25回	ワークショップ①	担当者を決めて各自が企画したワークショップを開催します。
第26回	ワークショップ②	担当者を決めて各自が企画したワークショップを開催します。
第27回	ワークショップ③	担当者を決めて各自が企画したワークショップを開催します。
第28回	チャレンジ報告会②	一年間の活動を全体的に振り返るとともに、それぞれの経験の拡張を共有するためのワークショップを開催します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの興味関心を踏まえて問いを立てられるように、新聞、映画、SF小説などをもとに、「人間」「環境」「科学技術」に関心を払ってください。特に、授業で扱うテーマについては、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。また、授業で指定された文献はしっかりと熟読し、それをもとに自分でも文献（情報）調査を行ってください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
特に指定ませんが、各自の課題に即して適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加、文献調査・講読、プレゼンテーション、ワークショップの企画・運営）を80％、年度末レポートを20％として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施していないため、特にありません。

【関連の深いコース】

人間文化コース

ローカル・サステナビリティコース

【Outline (in English)】

Course Outline

The main themes of the course are "Science, Technology and Society" and "Science, Technology and Human Beings" to enable students to see a sustainable future. Specifically, each student will set an issue (question) from the perspective of "human beings," "environment," and "science and technology," and conduct literature research and close reading, make presentations, plan workshops, and write end-of-year reports, with the aim of cultivating the ability to discover issues (the ability to question), think logically (the ability to think in a logical manner), and think critically (the ability to think appropriately). Themes will be based on "human beings," "environment," and "science and technology," but students will be free to choose their own themes based on their own interests. There will also be opportunities to expand practical experiences for the future, such as the "Challenge Debriefing Session," where students will report on challenges they have never experienced before, and the "Reading Session," where students will share their reading experiences.

Learning Objectives

Through research activities in which students set their own problems (questions), this class aims to develop (1) problem finding and analysis skills, (2) problem solving skills, (3) logical thinking skills, (4) information management skills, and (5) information transmission skills. Through these activities, students are expected to deepen their consideration of the issues of "science, technology and society" and "science, technology and human beings". By planning and running each workshop, this class also aims to cultivate (5) communication skills, (6) schedule management skills, (7) teamwork skills, (8) facilitation skills, and (9) leadership skills. Through these activities, students are expected to learn attitudes and behaviors to deal with the issues of "science, technology and society" and "science, technology and human beings".

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it, and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class contribution (80%) and final report (20%).

SHS400HA（科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 400）

研究会A

藤田 研二郎

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、環境問題・地域課題の現場における人びとの取り組みについて、社会調査を通じて捉える方法を学ぶ。環境社会学、地域社会学をはじめ関連する研究動向をレビューするとともに、具体的な事例の情報収集を行い、実際のフィールドでの活動に参加しながら、インタビュー調査等の実習を行う。

【到達目標】

社会調査の方法を通じて、環境問題・地域課題の現場における人びとの取り組みを捉えられるようになる。具体的な事例の検討を通じて、それらの課題を分析・考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業前半では、具体的な環境問題・地域課題に関するフィールドワークや関連する文献のレビューを行う。後半では、それらとともに各自の研究テーマにもとづくケーススタディを行う。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の授業の概要、フィールドワーク、文献レビューの進め方を示す。
第2回	自己紹介・班分け	自己紹介をし、フィールドワークに向けて班分けを行う。
第3回	フィールドワーク：事前学習①	プレゼンする方法を学ぶ。フィールドワーク先の情報収集について、班内での分担を決める。
第4回	フィールドワーク：事前学習②	班ごとに、情報収集の結果を発表する。
第5回	フィールドワーク：事前学習③	班ごとに、情報収集の結果を発表する。
第6回	フィールドワーク：事前学習④	班ごとに、情報収集の結果を発表する。
第7回	フィールドワーク：事前学習⑤	インタビュー調査の方法を学び、質問項目を作成する。
第8回	フィールドワーク：現地実習	フィールドワークを行い、インタビュー調査の実習をする。
第9回	フィールドワーク：事後学習①	班ごとに、フィールドワーク、インタビュー調査の結果を発表する。
第10回	フィールドワーク：事後学習②	班ごとに、フィールドワーク、インタビュー調査の結果を発表する。今後の調査テーマを検討する。

第11回	文献レビュー①	環境社会学の文献を読み、ディスカッションする。
第12回	文献レビュー②	地域社会学の文献を読み、ディスカッションする。
第13回	文献レビュー③	NPO論の文献を読み、ディスカッションする。
第14回	春学期のまとめ・秋学期に向けて	フィールドワーク、文献レビューの結果をまとめる。今後の調査テーマについて、班内での分担を決める。
第15回	オリエンテーション	秋学期の授業の概要、フィールドワーク、文献レビュー、ケーススタディの進め方を示す。
第16回	フィールドワーク：事前学習①	班ごとに、情報収集の結果を発表する。
第17回	フィールドワーク：事前学習②	班ごとに、情報収集の結果を発表する。インタビュー調査の質問項目を作成する。
第18回	フィールドワーク：現地実習	フィールドワークを行い、インタビュー調査の実習をする。
第19回	フィールドワーク：事後学習	班ごとに、フィールドワーク、インタビュー調査の結果を発表する。
第20回	ケーススタディ：資料収集の方法	ケーススタディのテーマを設定する。新聞記事などの資料の収集方法を選び、事例を選定する。
第21回	ケーススタディ：発表①	事例について、新聞記事などの資料収集の結果を発表する。
第22回	ケーススタディ：発表②	事例について、新聞記事などの資料収集の結果を発表する。
第23回	ケーススタディ：発表③	事例について、新聞記事などの資料収集の結果を発表する。
第24回	ケーススタディ：文献収集の方法	関連する先行研究について、論文などの文献の収集方法を学び、文献リストを作成する。
第25回	文献レビュー①	環境社会学の文献を読み、ディスカッションする。
第26回	文献レビュー②	地域社会学の文献を読み、ディスカッションする。
第27回	文献レビュー③	NPO論の文献を読み、ディスカッションする。
第28回	秋学期のまとめ	フィールドワーク、ケーススタディ、文献レビューの結果をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献を事前に読む。フィールドワーク、ケーススタディでは、各回の課題を行うとともに、発表に向けた準備をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

文献は、受講者の関心を考慮しながら選定する。

【参考書】

環境社会学の入門的なテキストとして、例えば以下のものがある。鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）＋授業内での課題（フィールドワーク・文献レビュー・ケーススタディ、40%）＋期末レポート（30%）、を想定。

【学生の意見等からの気づき】

提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。授業内容を深めるため、定期的にディスカッションの時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。またPCを使う回があるため、各自用意すること。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

In this class, students will learn social research methods to understand the activities in the fields of environmental problems and local issues. We will review related research trends, including environmental sociology and community studies, and conduct social research methods such as interview surveys while participating in specific field activities.

(Learning Objectives)

Students should be able to do the following:

- Conduct social research methods to understand the activities in the fields of environmental problems and local issues.
- Analyze and discuss the challenges in those specific field activities.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Reading literature. Preparing for presentations of fieldwork and case studies. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (30%) + Literature Review, Fieldwork, and Case Study (40%) + Report (30%).

MAN400HA（経営学 / Management 400）

研究会A

松本 敦則

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会のテーマは「日本とヨーロッパの地域・企業分析」である。主に産業集積（Industrial districts）という観点から日本とヨーロッパの比較検討を行うが、その他、関連する地域の中小企業、地域金融、地域産業政策、観光分野も扱っていく。日本やヨーロッパの地域や企業の基本的な理論、仕組みや成り立ちを理解することを目的とする。

【到達目標】

まず、日本とヨーロッパの地域集積における基本的な理論を学ぶ。その上で地域・企業を分析した報告書を作成できるようにする。そのため、基本的な文献の輪読、発表、議論、レポート作成を通じて地域産業に関する現状分析や課題の発見、解決手法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

講義形式だけでなく、毎回担当者を決めて、基本文献の輪読、発表、ディスカッションを行う。また地域のフィールドスタディも検討している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	今後のゼミの進め方について検討する。
2	産業集積に関する理論研究とテーマ設定①	基本文献の輪読と発表、ディスカッションを行う。
3	産業集積に関する理論研究とテーマ設定②	基本文献の輪読と発表、ディスカッションを行う。
4	産業集積に関する理論研究とテーマ設定③	基本文献の輪読と発表、ディスカッションを行う。
5	産業集積に関する理論研究とテーマ設定④	基本文献の輪読と発表、ディスカッションを行う。
6	産業集積に関する国内の事例研究①	事例研究についての発表とディスカッション行う。
7	産業集積に関する国内の事例研究②	事例研究についての発表とディスカッション行う。
8	産業集積に関する国内の事例研究③	事例研究についての発表とディスカッション行う。
9	産業集積に関する国内の事例研究④	事例研究についての発表とディスカッション行う。
10	産業集積に関するヨーロッパの事例研究①	事例研究についての発表とディスカッション行う。

11	産業集積に関するヨーロッパの事例研究②	事例研究についての発表とディスカッション行う。
12	産業集積に関するヨーロッパの事例研究③	事例研究についての発表とディスカッション行う。
13	産業集積に関するヨーロッパの事例研究④	事例研究についての発表とディスカッション行う。
14	ゲストスピーカーによる講義	ゲストスピーカーによる講義とディスカッションを行う。
15	秋学期のガイダンス	今後のゼミの進め方について検討する。
16	産業集積や地域産業に関する文献の輪読①	文献の輪読と発表、ディスカッションを行う。
17	産業集積や地域産業に関する文献の輪読②	文献の輪読と発表、ディスカッションを行う。
18	産業集積や地域産業に関する文献の輪読③	文献の輪読と発表、ディスカッションを行う。
19	産業集積や地域産業に関する文献の輪読④	文献の輪読と発表、ディスカッションを行う。
20	産業集積や地域産業に関する文献の輪読⑤	文献の輪読と発表、ディスカッションを行う。
21	産業集積や地域産業に関する文献の輪読⑥	文献の輪読と発表、ディスカッションを行う。
22	産業集積や地域産業に関する文献の輪読⑦	文献の輪読と発表、ディスカッションを行う。
23	産業集積や地域産業に関する文献の輪読⑧	文献の輪読と発表、ディスカッションを行う。
24	個人の研究テーマの報告①	個人の研究テーマの報告とディスカッションを行う。
25	個人の研究テーマの報告②	個人の研究テーマの報告とディスカッションを行う。
26	個人の研究テーマの報告③	個人の研究テーマの報告とディスカッションを行う。
27	個人の研究テーマの報告④	個人の研究テーマの報告とディスカッションを行う。
28	ゲストスピーカーによる講義	ゲストスピーカーによる講義とディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時指定します。

【参考書】

随時指定します。

【成績評価の方法と基準】

定常点（100％）。研究会への貢献度やレポート、発表などから総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の関心分野や興味は多岐にわたるので学生と話しをしながら進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

2025年度のゼミ合宿では茨城県笠間市の栗、焼き物産地に行き、市役所や地元の企業を訪問し人材育成、商品開発、産業観光の観点から議論を行った。本研究会でも合宿やイベントを検討していきたいと思う。また、社会人向けの経営大学院（イノベーション・マネジメント研究科）のゼミを19年間担当してきているので、この社会人ゼミ生との交流も図っていきたい。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、グローバルサステナビリティコース

【Outline (in English)】

(Course outline)

The theme of this study group is "Analysis of regions and companies in Japan and Europe." We will compare Japan and Europe primarily from the perspective of industrial districts, but will also cover small and medium-sized enterprises in related regions, regional finance, regional industrial policy, and tourism.

The aim is to understand the basic theories, mechanisms, and origins of regions and companies in Japan and Europe.

(Learning Objectives)

First, learn the basic theories of regional agglomerations in Japan and Europe. Then, you will be able to write reports analyzing regions and companies. To achieve this, you will analyze the current situation of regional industries, identify issues, and learn solutions through group reading of basic literature, presentations, discussions, and report writing.

(Learning activities outside of classroom)

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Regular grades (100%). Students will be evaluated comprehensively based on their contributions to research groups, reports, presentations, etc.

ECN400HA（経済学 / Economics 400）

研究会A

山田 久

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人口減少が進み、企業や組織の人材不足は深刻になっています。一方で、世界情勢の複雑化や様々な社会課題・経営課題に対処するため、個々人の能力向上が求められる時代が到来しています。本ゼミでは、基礎文献の輪読やレポート作成を通じ、多様な人々が能力を伸ばして生き活き働ける経済・社会や組織の在り方を学びます。同時に、各人が個性を活かしながら組織で活躍していくのに有益な、考え方や視野を身に着けることを目指します。

【到達目標】

労働経済や人的資源管理に関する知見を深め、経済と労働、人と組織の関係を考察する力を身に付けます。個人発表やディスカッション、論文・レポートの執筆を通じて、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、課題設定能力や論理的思考力等を鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

書籍・テキストの講読を行い、その内容をもとにディスカッション形式で進行することを基本とします。春学期は労働経済や人的資源に関わる教科書的な文献や今日のな問題を扱った良書を輪読し、基礎的な知識・思考法を身につけます。秋学期はゼミ生それぞれがテーマを設定し、事例・文献の探索の仕方、データの取り扱い方などを学びながら、レポート作成を行います。年に数回社会人や社会人学生のゲストを呼び、働くことの実際の理解を深める機会を設ける予定です。以下の記載の具体的な学習内容はあくまで予定で、必要に応じて柔軟に見直します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	学習の心構え、メンバー自己紹介、輪読するテキストの確認、輪読担当部分の取り決め
2	担当部分の発表・質疑応答	担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
3	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
4	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
5	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
6	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
7	テーマ・ディスカッション	ディスカッション
8	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
9	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
10	テーマ・ディスカッション	ディスカッション

11	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
12	社会人ゲストとの対話	社会人ゲストの仕事内容・キャリアを話してもらい、「働く」ことの実際を理解を深める
13	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答、ディスカッション	担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
14	前半の振り返りとりまとめ、後半への準備	開始から前回までの取りまとめ
15	担当部分の発表・質疑応答、ディスカッション	担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
16	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答、ディスカッション	担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
17	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答、ディスカッション	担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
18	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答、ディスカッション	担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
19	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答、ディスカッション	担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
20	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答、ディスカッション	担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
21	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答、ディスカッション	担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
22	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答、ディスカッション	担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
23	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答、ディスカッション	担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
24	企業人事アワード授賞式見学	企業人事のベストプラクティスを見聞する
25	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答、ディスカッション	担当者による発表と質疑応答・ディスカッション
26	レポート報告（1）	各自によるレポートの発表と討議
27	レポート報告（2）	各自によるレポートの発表と討議
28	レポート報告（3）	各自によるレポートの発表と討議、振り返りと来年度への準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献を精読したり、与えられたテーマについて下調べをするなどして、ディスカッションで自分の考えを述べる準備をしておいてください。また、秋学期のレポート作成については、自らの問題意識にもとづいて主体的なテーマ設定を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時指定します。

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%とし、研究会への貢献度や発表・レポートの内容から総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

具体的なスケジュールを早めに示すようにします。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、グローバルサステイナビリティコース

【Outline (in English)】

【Course outline】 We live in a world where each person is required to enhance their capabilities to adapt to various challenges caused by population decline, changes in the world order, and other factors.

In this seminar, students are expected to acquire self-enforcement skills and perspectives for maximizing their abilities in real society.

【Learning Objectives】 Students will acquire knowledge and perspectives on labor economics and human resource management. Through discussions and report writing, students are expected to develop communication skills, task-setting abilities, and logical thinking.

【Learning activities outside of classroom】 Students should be prepared for discussions by reading the recommended books. Regarding reports, students are encouraged to choose their own themes based on their interests. By standard, 2 hours of self-study are required respectively before and after each seminar.

【Grading Criteria /Policy】 Students will be evaluated based on their contributions to the seminar, presentations, reports, and other related activities.

HUG400HA (人文地理学 / Human geography 400)

研究会B

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、地域経済、人文地理学、歴史学、民俗学、文化人類学などの視点から興味があるテーマを調べ、考え、議論します。受講生の問題関心に合わせて「研究テーマ」を設定します。

【到達目標】

学生はテーマを決定し、それをキーワードとして考えます。①関連する文献や書籍を精読し、②自らの「問い」を立て、③主体的に調べ（フィールドワークや資料分析）、④リサーチペーパーを作成することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

受講者の問題関心によって演習の方法は適宜調整しますが、基本的には①文献・書籍の精読と研究会全体の議論、②テーマについてのグループワークとフィールドワーク、③リサーチペーパーの作成と報告を、段階的に進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究会の進め方の説明、研究会メンバーの自己紹介、年間計画の相談をする。
第2回	研究講座：マイテーマを決める	研究を進めるにあたっての心構え、方法などについて概説した後、研究テーマを決める。
第3回	研究報告1	研究テーマを報告し、議論する。
第4回	研究報告1	研究テーマを報告し、議論する。
第5回	研究講座：論文を読む	論文紹介の方法を講義する。
第6回	研究報告2	関連する文献を読み、報告にもとづき議論する。
第7回	研究報告2	関連する文献を読み、報告にもとづき議論する。
第8回	研究講座：フィールドワークをする	フィールドワークの方法を講義する。
第9回	研究報告3	フィールドワークの取り組みを報告する。
第10回	研究報告3	フィールドワークの取り組みを報告する。
第11回	研究講座：研究をまとめる	研究のアウトプットについて講義する。
第12回	研究報告4	調査の経過を報告する。
第13回	研究報告4	調査の経過を報告する。
第14回	まとめと総括	今後の研究の展望を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。自らの問題意識に関わる論文、文献、資料などに積極的にアクセスし、自主的にそれを収集整理、熟読し、自分のオリジナリティに自覚的になることを目指してください。また、文献などだけでなく自分の5感で可能な範囲でフィールドワークを体感してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

研究会への主体的と、発表（合計で100%）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

オプションのワークショップなどについては、参加者と相談の上実施するか否かを決め、テーマと日程を設定します。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

◆Course outline

Students will research, think about, and discuss topics of interest from the perspectives of regional economics, human geography, history, folklore, and cultural anthropology. The "research theme" will be set according to the students' specific interests.

◆Learning Objectives

Students decide on a theme and consider it as a keyword. Students are expected to (1) carefully read relevant literature and books, (2) formulate their own "questions," (3) conduct independent research (fieldwork and material analysis), and (4) write a research paper.

◆Learning activities outside of classroom

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Students are expected to actively access papers, documents, and materials related to their own problem consciousness, voluntarily collect and organize them, read them carefully, and become aware of their own originality. Also, please try to experience fieldwork to the extent possible using your own five senses as well as literature. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

◆Grading Criteria /Policy

Students will be evaluated on the basis of their participation in the workshop and the final report.

PHL400HA (哲学 / Philosophy 400)

研究会B

吉永 明弘

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境倫理学・環境美学の本を読む。

【到達目標】

環境倫理学と環境美学に関する専門書を協力して読むことによって、内容を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

環境倫理学と環境美学に関する本を輪読する。参加者の関心のあるテーマを中心に読んでいく。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介を行い、読む本を選定する。
2	環境倫理に関する本を読む（1）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
3	環境倫理に関する本を読む（2）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
4	環境倫理に関する本を読む（3）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
5	環境倫理に関する本を読む（4）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
6	環境倫理に関する本を読む（5）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
7	環境倫理に関する本を読む（6）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
8	環境倫理に関する本を読む（7）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
9	環境倫理に関する本を読む（8）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
10	環境美学に関する本を読む（1）	選定された環境美学に関する文献を輪読する
11	環境美学に関する本を読む（2）	選定された環境美学に関する文献を輪読する
12	環境美学に関する本を読む（3）	選定された環境美学に関する文献を輪読する
13	環境美学に関する本を読む（4）	選定された環境美学に関する文献を輪読する
14	環境美学に関する本を読む（5）	選定された環境美学に関する文献を輪読する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各人の関心のあるテーマについて調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

参加者と相談のうえ決定します。

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年
吉永明弘『ブックガイド 環境倫理』勁草書房、2017年
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年
吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年
青田麻未『環境を批評する』春風社、2020年

【成績評価の方法と基準】

発表（50％）と書評の作成（50％）に対して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course deals with environmental aesthetics and environmental ethics. At the end of the course, students are expected to write a book review on bioethics, animal ethics and environmental ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, book review:50%, in class contribution:50%.

PHL400HA（哲学 / Philosophy 400）

研究会B

吉永 明弘

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境倫理学・動物倫理学の本を読む。

【到達目標】

環境倫理学と動物倫理学に関する専門書を協力して読むことによって、内容を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

環境倫理学と動物倫理学に関する本を輪読する。参加者の関心のあるテーマを中心に読んでいく。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介を行い、読む本を選定する。
2	環境倫理に関する本を読む（1）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
3	環境倫理に関する本を読む（2）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
4	環境倫理に関する本を読む（3）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
5	環境倫理に関する本を読む（4）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
6	環境倫理に関する本を読む（5）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
7	環境倫理に関する本を読む（6）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
8	環境倫理に関する本を読む（7）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
9	環境倫理に関する本を読む（8）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
10	動物倫理に関する本を読む（1）	選定された動物倫理に関する文献を輪読する
11	動物倫理に関する本を読む（2）	選定された動物倫理に関する文献を輪読する
12	動物倫理に関する本を読む（3）	選定された動物倫理に関する文献を輪読する
13	動物倫理に関する本を読む（4）	選定された動物倫理に関する文献を輪読する
14	動物倫理に関する本を読む（5）	選定された動物倫理に関する文献を輪読する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各人の関心のあるテーマについて調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

参加者と相談のうえ決定します。

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年

吉永明弘『ブックガイド 環境倫理』勁草書房、2017年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年

久保田さゆり『動物のもつ倫理的な重み』勁草書房、2024年

【成績評価の方法と基準】

発表（50％）と書評の作成（50％）に対して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course deals with animal ethics and environmental ethics. At the end of the course, students are expected to write a book review on bioethics, animal ethics and environmental ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following , book review:50%, in class contribution:50%.

CMF400HA（その他の複合領域 / Complex systems(Others) 400）

研究会B

小島 聡

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考（履修条件等）：定員制社会人クラス

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

持続可能性の視点から、現代社会について考える。具体的には、基礎概念、SDGsの動向、新しい社会のイメージ、変革への課題について、ソーシャル・イノベーションやソーシャル・デザインといわれる新たな実践を参照しながら検討する。この授業の目的は、学生が現代文明の転換期において持続可能な社会について理解し、さらに社会実践のデザインについて学ぶことである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・持続可能な社会に関する知識を習得する。
- ・SDGsの現状と課題について理解する。
- ・持続可能性に関する課題発見、課題解決のための思考力を身につける。
- ・調査研究に関する学問的な技法を身につける
- ・アクションプランを企画する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業形態は、文献購読、現地調査も含むケーススタディ、ソーシャルデザインに関するワークショップなどを組み合わせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の方向性と具体的なプログラムについて確認する。
第2回	現代社会と持続可能性に関する問題群	持続可能性に関する様々な問題群をワークショップ形式で確認し、参加者の認識を共有する。
第3回	SDGsの現在	SDGsに関する基礎知識と動向について共有する。
第4回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第5回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第6回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第7回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第8回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第9回	持続可能性に関する映像の視聴	持続可能性に関するドキュメンタリー番組の視聴と討論を行う。

第10回	ゲストスピーカー	ゲストスピーカーの講義と討論を行う。
第11回	SDGsのケーススタディ	SDGsの実践ケースについて参加者が報告し討論を行う。
第12回	SDGsのケーススタディ	SDGsの実践ケースについて参加者が報告し討論を行う。
第13回	SDGsのケーススタディ	SDGsの実践ケースについて参加者が報告し討論を行う。
第14回	夏期フィールドスタディの検討	夏期休暇中に実施する研究会としてのフィールドスタディについて検討する。
第15回	オリエンテーション	秋学期の方向性と具体的なプログラムについて確認する。
第16回	夏期フィールドスタディの結果の検討	夏期休暇中に実施した研究会としてのフィールドスタディの結果について検討する。
第17回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第18回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第19回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第20回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第21回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第22回	持続可能性に関する映像の視聴	持続可能性に関するドキュメンタリー番組の視聴と討論を行う。
第23回	ゲストスピーカー	ゲストスピーカーによる講義と討論を行う。
第24回	My SDGsに関するプレゼンテーション	自らがコミットすると仮定したSDGsに関するアクションの企画の報告に基づき議論する。
第25回	My SDGsに関するプレゼンテーション	自らがコミットすると仮定したSDGsに関するアクションの企画の報告に基づき議論する。
第26回	My SDGsに関するプレゼンテーション	自らがコミットすると仮定したSDGsに関するアクションの企画の報告に基づき議論する。
第27回	My SDGsに関するプレゼンテーション	自らがコミットすると仮定したSDGsに関するアクションの企画の報告に基づき議論する。
第28回	総括と展望	1年間の研究会を振り返りつつ、持続可能性の視点から、現代社会の諸課題をあらためて確認し、さらに今後について展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の授業時間外の学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする）。

- ・文献および関連資料の予習
- ・課題への取り組み

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

適宜、授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70%）、課題への取り組み（30%）による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・社会人学生がそれぞれの人生経験や情報・意見を交換しあうことにより、RSPの趣旨が発現する知的空間になったと感じています。
- ・教員と社会人学生の協働による企画運営という傾向がみられ、その点はさらに前に進めていきたいと思っています。

【その他の重要事項】

研究会を通して、RSP所属学生を中心として、学生のコミュニティ形成を図っていきます。

【関連の深いコース】

すべてのコース

【Outline (in English)】

In this seminar, from the viewpoint of “Sustainability”, we will think about modern society. If it says concretely, we will focus on basic concepts, the trend of “SDGs”, the image of new society and the agenda to change, while referring to new practices, so-called social innovation and social design. The purpose of this seminar is for students to understand sustainable society at the turning point of modern civilization and to learn about the design of social practice further.

At the end of the course, students are expected to achieve the following goals:

- (1) Acquire knowledge of sustainable society.
- (2) Understand issues related to SDGs.
- (3) Acquire problem-finding and problem-solving skills.
- (4) Acquire academic skills for research.
- (5) Acquire the ability to plan social design.

Students need to prepare and review each session by using textbooks and related materials, and to work on some assignments. Preparatory and review time for this seminar are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following: Active class participation: 70%, Assignments : 30%

ECN400HA（経済学 / Economics 400）

研究会A

杉野 誠

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2026年度のテーマは「循環型社会の構築」です。循環型社会は、廃棄物の削減のみならず、使用済みの製品を再利用・リサイクルなど幅広く考え行動変容を要する。1つの行動・取組・政策だけで廃棄物問題を解決できるわけではない。そのため、複合的な政策（ポリシーミックス）や全体を考えて行動することが求められる。この授業を通じて、持続可能な社会を実現するための方策を議論を深めます。

【到達目標】

本研究会では、以下の到達目標を設定しています。

- 1) 廃棄物問題をめぐる議論を広い視野から捉える
- 2) 自分の意見を持ち、それを様々な方法によって人に伝える
- 3) 持続可能な社会に必要な政策の立案・構想できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

毎回、報告者が指定されたテキストの内容をプレゼンを行います。その後、受講者全員で討論を実施し内容の理解度を含まれる。また研究の方向性や残される問題点を洗い出し、卒業論文のテーマ、研究の完成度を高める。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	登録者間の自己紹介、授業の内容・進め方について概説する
第2回	基礎文献の輪読 1	廃棄物問題の本質に関する文献を読み、議論する
第3回	基礎文献の輪読 2	廃棄物問題の本質に関する文献を読み、議論する
第4回	基礎文献の輪読 3	廃棄物問題の本質に関する文献を読み、議論する
第5回	基礎文献の輪読 4	廃棄物問題の本質に関する文献を読み、議論する
第6回	基礎文献の輪読 5	廃棄物問題の本質に関する文献を読み、議論する
第7回	グループディスカッション 1 - 1	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第8回	グループディスカッション 1 - 2	グループ発表および全体ディスカッション
第9回	グループディスカッション 2 - 1	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第10回	グループディスカッション 2 - 2	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする

第11回	グループディスカッション 2 - 3	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第12回	グループディスカッション 2 - 4	グループ発表および全体ディスカッション
第13回	グループディスカッション 3	グループ毎に課題について議論し、結論をだす
第14回	春学期の総まとめ	春学期全体のまとめとこれからの課題について
第15回	秋学期のオリエンテーション	春学期の復習と秋学期の進め方について概説する
第16回	中級文献の輪読 1	循環型社会に関する文献を読み、議論する
第17回	中級文献の輪読 2	循環型社会に関する文献を読み、議論する
第18回	中級文献の輪読 3	循環型社会に関する文献を読み、議論する
第19回	中級文献の輪読 4	循環型社会に関する文献を読み、議論する
第20回	中級文献の輪読 5	循環型社会に関する文献を読み、議論する
第21回	グループディスカッション 4 - 1	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第22回	グループディスカッション 4 - 2	グループ発表および全体ディスカッション
第23回	グループディスカッション 5 - 1	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第24回	グループディスカッション 5 - 2	グループ発表および全体ディスカッション
第25回	グループディスカッション 6 - 1	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第26回	グループディスカッション 6 - 2	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第27回	グループディスカッション 6 - 3	グループ発表および全体ディスカッション
第28回	まとめ	年間の議論を総括するとともにこれまでの活動に関するフィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。必要に応じて関連する文献を読むこと。また、与えられた課題を期限内に実施すること。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を用いない。

【参考書】

Porter, Richard C. The economics of waste. Routledge, 2010.

【成績評価の方法と基準】

平常点（議論への積極的参加や貢献など）（10%）、期末レポート（40%）、報告（50%）に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者がいないため、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンやタブレットなどを持参すること

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、グローバルサステイナビリティコース

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with waste management. Waste management is more than just treating unwanted materials (waste). For example, reducing wasteful consumption, reusing goods and recycling are also associated with waste management. Since waste management is complex, there is no one policy solution. We will discuss what policies/actions that are need to achieve a sustainable society in this course. It also enhances the development of students' skill in debating and presentation.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to 1) have a wide view on waste management, 2) understand the economic logic of waste management policies and 3) propose relevant policies needed in the near future.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the references. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%, presentation 50%, in class contribution: 10%

SHS400HA (科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 400)

研究会B

金光 秀和

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間と環境の共生、人間と人間の共生という理念を実現するために必要な「科学技術」と「デザイン」をメインテーマとして、社会に貢献する協働のネットワークを形成するために必要な思考力やコミュニケーション能力の涵養を目指します。具体的には、技術論・デザイン論に関する学術的文献を精読するとともに、文献講読で扱ったテーマについて、ディスカッション・対話を実施します。

【到達目標】

現代社会で技術やデザインが果たす役割について①専門的な知識を得ること、さらにその過程で、②学術文献を読むための基本的なスキルを身につけることを目標とします。また、文献講読で扱ったテーマについて、ディスカッション・対話を行うなかで、技術やデザインが果たす役割について③批判的に思考できること、さらにその過程で、自分の考えを表現する、他者の考えを傾聴する、他者とともに考えるといった、④ディスカッションや対話のための基本的なスキルを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

学術的文献の講読を基本とします。参加者は、①文献講読、②質問、③司会等を担当します。また、文献講読で扱った中からテーマを設定して、ディスカッションや対話を行います（ディスカッションと対話の違いについては授業中に説明します）。ディスカッション・対話の際には、企画と司会を何人かのグループで担当してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の問題意識、テーマの概要、進め方について説明します。
第2回	ディスカッション・対話①	ディスカッション・対話を実施します。
第3回	文献講読①	文献を講読します。
第4回	文献講読②	文献を講読します。
第5回	文献講読③	文献を講読します。
第6回	文献講読④	文献を講読します。
第7回	ディスカッション・対話②	ディスカッション・対話を実施します。
第8回	文献講読⑤	文献を講読します。
第9回	文献講読⑥	文献を講読します。
第10回	文献講読⑦	文献を講読します。
第11回	文献講読⑧	文献を講読します。
第12回	ディスカッション・対話③	ディスカッション・対話を実施します。
第13回	ディスカッション・対話④	ディスカッション・対話を実施します。
第14回	振り返りとまとめ	学期中の活動を全体的に振り返るとともに、それぞれの経験を共有します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの興味関心を踏まえて問いを立てられるように、新聞、映画、SF小説などをもとに、世界や自分に関心を払ってください。特に、授業で扱う問いについては、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。また、授業で指定された文献はしっかりと熟読し、それをもとに自分でも文献（情報）調査を行ってください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

特に指定しませんが、各自のテーマに即して適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加、文献調査・講読、プレゼンテーション、ファシリテーション）を80%、学期末エッセイを20%として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施していないため、特にありません。

【関連の深いコース】

すべてのコース

【Outline (in English)】

Course Outline

The main themes of this course are "technology" and "design," which are necessary to realize the principles of symbiosis between humans and the environment, and between humans and humans. The aim of this course is to cultivate the thinking and communication skills necessary to form a collaborative network that contributes to society. Specifically, the course will include a close reading of academic literature on technology and design theory, as well as discussion and dialogue on the topics covered in the literature review. Each student will be free to set his/her own theme and will have the opportunity to collect and present information as well as to facilitate the dialogue.

Learning Objectives

The goal of this course is to (1) acquire specialized knowledge about the role that technology and design play in modern society and, in the process, (2) acquire basic skills for reading academic literature. In addition, through discussions (or dialogues) on the themes covered in the literature reading, the course aims to (3) enable students to think critically about the roles played by technology and design, and in the process, (4) develop basic skills for discussion and dialogue, such as expressing one's own ideas, listening to others' ideas, and thinking together with others.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class contribution (80%) and final report (20%).

ENV400HA（環境保全学 / Environmental conservation 400）

研究会B

高田 雅之

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2
備考（履修条件等）：定員制CESゼミ
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

千代田区を含む都市全体を対象に以下に取り組みます。
①緑・水・多様な生物など都市の自然を構成している個々の要素について理解と知識を深めます。
②街路樹・公園・都市農業・河川や海岸など都市を構成する自然的空間の果たす役割と機能を考究します。
③計画・環境教育・コミュニティ・企業活動・健康・景観づくり・防災など人間との関係価値について探求します。
④認証制度・グリーンインフラなどこれらに関連づける仕組みやシステムから持続的な都市を発案します。

【到達目標】

ゼミでは「緑・水・生物」の視点から人と自然にとって持続可能な都市を探求します。防災・造園・健康・生物多様性・計画・教育・地域など様々な分野からのアプローチを試み、フィールドワークや国内外事例研究を含めて、多面的知識と俯瞰的な視点から都市環境を考え、望ましい姿をイメージできる思考力を高めることを目標とします。併せて、千代田区が取り組んでいる環境マネジメントシステムであるCES（千代田エコシステム）への貢献も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

①グループ研究…設定したテーマについてグループで調査・討論・取りまとめ・プレゼンテーションを行い、「課題設定→情報収集→分析評価→提案」を通して課題への知識と理解を高めます。
②個人プレゼン…個々人の関心に応じたテーマを自由に設定してプレゼンにより問題提起と討論を行い、個々の学びを高めます。
③フィールドワーク…ゼミの時間を活用して、様々な取り組みの実際を学ぶ、またはグループで探索調査して取りまとめるほか、週末の野外学習等の活動にも積極的に参加いただきます。
④実践的な力の醸成…これらを積み重ね、組み合わせて、持続可能な都市に向けたアイデアや提案を取りまとめることを通して、俯瞰力・構想力・実践的・思考力を高めていきます。
また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の進め方
第2回	基礎学習1（テーマ1）	テーマ1に関する基礎知識の習得
第3回	基礎学習2（テーマ1）	テーマ1に関する基礎知識の習得
第4回	フィールド学習1	現地調査1
第5回	グループ研究1	緑地と水辺に関するグループ討議
第6回	グループ研究2	生物に関するグループ討議

第7回	グループ研究3	緑地・水辺・生物に関するグループ発表とまとめ
第8回	グループ研究4	持続可能に都市に関するグループ討議
第9回	グループ研究5	持続可能に都市に関するグループ討議
第10回	グループ研究6	持続可能に都市に関するグループ発表とまとめ
第11回	フィールド学習2	現地調査2
第12回	個人研究1	研究構成の検討と意見交換
第13回	個人研究2	研究結果の発表と討論
第14回	まとめ	総括講義と意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をします。各自の研究に係る文献・資料収集、実地調査のほか、共同の活動としてゼミ時間以外に、各種イベントの準備と実施、施設見学や現地調査等を実施します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：提出物の内容と期日遵守の他、学習意欲、受講態度、グループワークへの貢献、ゼミ運営への率先と貢献、そのほか野外活動への参加などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、自主活動のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】

「自然環境政策論Ⅰ・Ⅱ」「サイエンスカフェⅢ」「自然環境論Ⅳ」などの関連する講義科目の履修を推奨します。

【関連の深いコース】

すべてのコース

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn practically the following themes mainly for Chiyoda Ward as one of the study field with a view to the entire urban area.

- ① The factors that compose urban nature, such as greenery, waterfront, and wildlife.
- ② The role and function of natural spaces that make up urban areas, such as street trees, parks, urban agriculture, rivers and coasts.
- ③ The role of human beings to urban nature, such as environmental education, activities at community, corporate activities, citizen activity, landscape creation and maintenance activities.
- ④ The mechanisms and systems that link urban nature, such as evaluation systems, urban planning and green infrastructure.

The goals of this class are to acquire wide/ deep knowledge and practical thinking ability of the above-mentioned matters. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content. Grading will be decided based on comprehensive evaluations including qualities of presentations, participation in discussions, motivation for learning, contribution to seminar activities(100%).

OTR400HA（その他 / Others 400）

研究会修了論文

人間環境学部教員

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA（その他 / Others 400）

コース修了論文

人間環境学部教員

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

備考（履修条件等）：RSP生以外

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間環境学部での学びを踏まえた、成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、コース修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

指導教員に従い、個別に指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コース修了論文は、基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に依りて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②コース修了論文の指導教員の決定については、事前に指導教員とよく相談し、内諾を得ること。指導教員の決定に関するプロセスについては、学務部の掲示および履修の手引きを参照し、慎重に行うこと。また、コース修了論文は、秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

③Aタイプ研究会受講者は登録できない。

【Outline (in English)】

This is a course for thesis writing designed for those who do not participate in a Type A seminar.

The goal of this course is that students will be able to plan and write their theses based on their research.

The minimum requirement for the thesis is that it contains the essential components of an academic paper and the writing is well organized.

It will be evaluated based on the originality of the content.

This class is essentially a self-directed course. Students are required to follow the instructions of their seminar advisor and independently work on their research and writing.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA（その他 / Others 400）

プログラム修了論文

人間環境学部教員

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

備考（履修条件等）：RSP生のみ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会人リフレッシュ・ステージ・プログラム（RSP）で入学した学生が、人間環境学部での学びを踏まえた、成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、プログラム修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

指導教員に従い、個別に指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラム修了論文は、基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に依りて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②プログラム修了論文の指導教員の決定については、事前に指導教員とよく相談し、内諾を得ること。指導教員の決定に関するプロセスについては、学務部の掲示および履修の手引きを参照し、慎重に行うこと。また、プログラム修了論文は、秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

③RSP以外の学生は登録できない。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for RSP program students). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organized, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR200HA（その他 / Others 200）

人間環境セミナー

湯澤 規子、芳賀 和樹

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土3/.Sat.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本セミナーでは、「食」と「農」に関わる多彩な講師陣に学び、多角的な視野と立場から考え、論じ、実践する経験を得る。昨今、複雑さが増す食と農の分野に関する関心を高め、未来への指針を見出す感性と知性を身に着ける。

そのために、「食」と「農」の世界を拡張すること、食農教育の最前線に触れること、飲食に関わる実践者の哲学と対話すること、時空を横断して食と農の多様性を実感することを目指す。

【到達目標】

「食」と「農」をめぐる営みは大切だとは言われていても、具体的に自分の言葉で思索し、行動し、実践できる人は多くはない。本セミナーでは、「食」と「農」を多角的な視野と立場から考え、目の前の一皿から未来への指針を見出す感性と知性を培いたい。当学部の学生として、①「食」と「農」の世界を拡張すること、②食農教育の最前線に触れること、③食と農に関わる実践者の哲学と対話すること、④時空を横断して食と農の多様性を実感すること、⑤自ら関わることができる行動を見出すことが本セミナーの目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本セミナーでは、食と農に関わって実際の現場で活躍されている講師を招き、具体的な活動や努力、体験などの話を聴講する。各講師の知見やさまざまな経験に触れることによって、受講者のSDGsや現代社会における課題に対する意識や理解が深まることが期待される。

受講者は各回にコメントペーパー（講師からの質問への回答や、講師や講義内容への質問を記すもの）の記入と提出が求められる。

また、同時に可能な範囲でアクティブラーニングの要素を取り入れた回を設け、受講者の思い、考え、意見などを発信する機会も設ける予定である。

本講義は対面開講である。受講者数の制限を行う可能性があり、その詳細は春学期当初に学習支援システムを通じて連絡する。

担当：湯澤規子・芳賀和樹

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	セミナーの目的、進め方等の説明。講義の全体像の解説。
第2回	セミナー	外部講師による講義
第3回	セミナー	外部講師による講義
第4回	セミナー	外部講師による講義
第5回	セミナー	外部講師による講義
第6回	セミナー	外部講師による講義
第7回	セミナー	外部講師による講義
第8回	セミナー	外部講師による講義
第9回	セミナー	外部講師による講義
第10回	セミナー	外部講師による講義
第11回	セミナー	外部講師による講義
第12回	セミナー	外部講師による講義
第13回	セミナー	外部講師による講義

第14回 総括

全体での質疑応答／意見交換と
セミナーの総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：次週以降のテーマにつき自分なりの予備知識を得て、質問や意見等を用意してください。

復習：講義で配布されたプリントや、聴講した内容について復習し、いっそう理解や興味を深めてください。

本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じ外部講師によるプリント（資料）が配布される。

【参考書】

外部講師や教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（参加姿勢、コメントペーパーの内容、授業中の発言など）：30%

期末テスト：70%

なお、原則として、4回以上無断で欠席した者は、成績評価を行わない。

【学生の意見等からの気づき】

学生が興味を持ち、自主的に学習できるようなテーマを選ぶ。

【その他の重要事項】

講演後に質問時間が設けられるので、積極的に質問を行うこと。本セミナーの詳しいテーマおよび外部講師については、掲示板および学部ウェブサイトで発表する。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In this seminar, students learn from a diverse range of instructors engaged in food and agriculture, gaining experience in thinking, discussing, and taking action from multiple perspectives and standpoints. The course aims to deepen students' interest in the increasingly complex fields of food and agriculture, while cultivating the sensitivity and intellect necessary to envision guiding principles for the future. space.

[Learning Objectives]

To this end, students will expand their understanding of the world of food and agriculture, engage with the forefront of food and agricultural education, engage in dialogue with practitioners in the food and dining industries about their philosophies, and experience the diversity of food and agriculture across time and

[Learning Activities outside of classroom]

Preparation: Students are expected to have their own prior knowledge of the topics to be covered in the next week and beyond, and to prepare questions and opinions.

Review: Students are expected to review the handouts distributed in the lecture and the contents of the lecture to further deepen your understanding and interest.

The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Contribution points (participation attitude, content of comment papers, remarks in class, etc.): 30%.

Exam: 70%

In principle, students who are absent without permission more than four times will not receive a grade.

OTR200HA（その他 / Others 200）

人間環境セミナー

渡邊 誠、松本 倫明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水6/Wed.6

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東日本大震災の被災地域である福島県浜通り地方を中心にして、震災からの復興状況や地域活性化、まちづくりなどについて学習します。電力供給をめぐる地方と首都圏との関係についても考察します。

【到達目標】

被災地域で活動する企業、自治体、研究者などの多様な視点から福島県の現状とその取り組みについて講義していただきます。各講師の経験および様々な知見をもとにして、地方が目指すまちづくり、災害対策、エネルギー供給のあり方などについて考察することを目指としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に対面形式で授業を行う予定です。講師からの講義を聴講した後に質疑応答などのための時間を設けます。受講者は毎回リアクションペーパーに必要事項を書き込み提出します。本セミナーの最終時限に試験を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と内容、進め方などについて
第2回	講義(1)	外部講師による講義
第3回	講義(2)	外部講師による講義
第4回	講義(3)	外部講師による講義
第5回	講義(4)	外部講師による講義
第6回	講義(5)	外部講師による講義
第7回	講義(6)	外部講師による講義
第8回	講義(7)	外部講師による講義
第9回	講義(8)	外部講師による講義
第10回	講義(9)	外部講師による講義
第11回	講義(10)	外部講師による講義
第12回	講義(11)	外部講師による講義
第13回	講義(12)	総合討論
第14回	総括	総括と最終試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
開講時に連絡します。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、最終試験70％の割合で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
外部講師の方々と質疑応答、討論などができるように配慮したいと考えています。

【その他の重要事項】

本セミナーの詳細、各回の講義テーマと担当外部講師等については、別途、学部ホームページあるいは学習支援システムなどを通して発表します。

本セミナーでは受講者数に制限を設ける可能性があります。その場合、受講希望の手続きについては4月初旬にお知らせします。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This seminar deals with earthquake-disaster reconstruction at Fukushima prefecture in Japan. The town planning and area development is studied with local lecturers on the spot. The nuclear-power generation is one of the important contents.

【Learning Objectives】 Participants will be able to understand the concept of disaster countermeasures, urban planning, and community development.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, participants are expected to spend four hours to understand the course content. (each two hours before and after class.)

【Grading Criteria /Policy】 Grades will be determined by in-class activities (30%) and final exam (70%).

OTR200HA（その他 / Others 200）

人間環境セミナー

梶 裕史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土3/Sat.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本セミナーは、公益財団法人・日本離島センターに企画をお願いして開催するわが国で唯一の総合的な離島講座です。

わが国は、ユーラシア大陸の東縁、東西南北約3,000キロメートルの広大な海域に点在する島々からなる世界有数の海洋島嶼国であり、「本土」5島（北海道・本州・四国・九州・沖縄本島）の周囲に320余りの「有人島」、そして無人島も含めると約6800の島々を有し、その200カイリ排他的経済水域は国土の12倍もの広さに及びます。

日本の離島は、国土や排他的経済水域の安全保障上の確保をはじめ、海洋資源の利用、自然環境の保全、多様な文化の継承、自然との触れ合いの場および機会の提供、食糧の安定供給など、多様な国家的・国民的役割を担い続けています。

さらに、世界の中の日本列島自体が、地理的・歴史的に「離島」に相当する歩みを持ってきたことを思えば、離島について考察することは、「持続可能性」の学びに絶好です。

このような性格をもつ離島について、その地理、自然、文化、環境、産業等について多面的に学ぶことは、海や島が好きの方、強い興味があって行ってみたい方、住んでみたい方等に非常に好適です。

【到達目標】

わが国の離島の保全・振興が有する多面的な価値・効用について、持続可能性の観点から、ばらばらではなくつながりを持って理解できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本セミナーは対面授業とし、離島在住の方や関係する専門分野の講師をお招きして、具体的なテーマに関する講演を聴講します。お話のあとで時間があれば質疑応答の機会も設けます。

各回の内容や順序は一例であり、実際のスケジュールは7月下旬に学部ホームページに発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・セミナー	セミナーのねらいと進め方、各回の予定概要、担当教員（梶）による離島の事例紹介
第2回	セミナー	日本離島センター講師による総論的な講義（1）－日本の離島の概要
第3回	セミナー	日本離島センター講師による総論的な講義（2）－離島振興政策①
第4回	セミナー	日本離島センター講師による総論的な講義（3）－離島振興政策②
第5回	セミナー	外部講師による各論（1） （例：離島の自治①）
第6回	セミナー	外部講師による各論（2） （例：離島の自治②）

第7回	セミナー	外部講師による各論（3） （例：離島の自然環境と「観光」）
第8回	セミナー	外部講師による各論（4） （例：離島の自然環境と水産業）
第9回	セミナー	外部講師による各論（5） （例：離島の伝統文化）
第10回	セミナー	外部講師による各論（6） （例：離島の地域づくり①）
第11回	セミナー	外部講師による各論（7） （例：離島の地域づくり②）
第12回	セミナー	外部講師による各論（8） （例：離島の地域づくり③）
第13回	セミナー	外部講師による各論（9） （例：離島の地域づくり④）
第14回	授業のまとめと試験	総括と授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

予習：次週以降のテーマにつき、自分なりの予備知識を得る。

復習：各回で配布されたプリントを復習する。また、日ごろから離島に関する新聞記事、書籍を読むように心がける。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。外部講師が必要に応じて資料を配布します（学習支援システムにも可能な範囲で掲載）。

【参考書】

参考書は、外部講師が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・成績評価の基準は、平常点（毎回のリアクションペーパーの内容、授業態度等）が50％、授業内試験が50％。

・原則として、リアクションペーパー提出が4回以上無い人はD評価となります。また、10分以上遅れて入室した場合、リアクションペーパーは配られません（欠席扱い）。

・「授業態度」について

外部講師をお招きするセミナーであるため、失礼に当たらないように聴講する姿勢が不可欠です。講義中のスマートフォンの使用は、禁止します（ただし、授業改善アンケートへの回答作業がある時などは除く）。原則として手書きでノートをとるか、配布されるレジュメにメモを書き込むこと（パソコン・タブレットの使用については、許可制とします）。担当者（学部専任教員）が随時巡回しますが、私語はもちろんのこと、スマホやPCによる「内職」が発覚した場合、あるいはずっと居眠りしているような場合は、リアクションペーパー無効とします。

以上の詳細は、授業開始前に学習支援システムに掲載します。

【学生の意見等からの気づき】

遠い離島からわざわざ来て下さった方のお話など、非常に貴重なリアリティがあり、毎回きわめて好評です。

【その他の重要事項】

授業初回前までに学習支援システムの仮登録者が250名を越えた場合は、志望理由提出による選抜を行います。結果は第2回の授業までに学習支援システムに掲載します。なお、4年生で、セミナーまたはFS計6単位以上という卒業要件を満たしていないために履修したいという志望理由は、優先されません。内容に積極的に興味を持つ人を優先します。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当します。

【Outline (in English)】

This seminar is Japan's only comprehensive course on remote islands, planned and hosted by the Japan Remote Islands Center, a public interest incorporated foundation.

Japan is one of the world's leading maritime island nations, consisting of islands scattered across a vast area of ocean stretching approximately 3,000 kilometers from east to west and north to south on the eastern edge of the Eurasian continent. Surrounding its five main islands (Hokkaido, Honshu, Shikoku, Kyushu, and Okinawa) are over 320 inhabited islands, and including uninhabited islands, the total number of islands is approximately 6,800. Japan's 200-nautical-mile exclusive economic zone is 12 times the size of its land area.

Japan's remote islands continue to play a variety of national and national roles, including ensuring the security of the national territory and exclusive economic zone, utilizing marine resources, preserving the natural environment, passing on diverse cultures, providing places and opportunities for interaction with nature, and ensuring a stable food supply.

Furthermore, considering that the Japanese archipelago itself has had a history equivalent to that of a remote island in terms of geography and history, studying remote islands is an ideal way to learn about sustainability.

Learning about remote islands with these characteristics from multiple perspectives, including their geography, nature, culture, environment and industry, is ideal for people who love the sea and islands, or who have a strong interest in visiting or living there.

Goal

The multifaceted value and utility of the conservation and development of Japan's remote islands can be understood from the perspective of sustainability, not as separate entities but as connected entities.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Be sure to prepare and review each lecture using the materials introduced in that class.

Preparation: Gain your own background knowledge about the themes from next week onwards.

Review: Review the handouts distributed in each class. Also, make an effort to read newspaper articles and books about remote islands on a regular basis. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

Grading criteria

- Grading is based 50% on regular performance (content of each reaction paper, class attitude, etc.) and 50% on in-class exams.
- As a general rule, students who do not submit four or more reaction papers will receive a D. Also, if you arrive more than 10 minutes late, you will not receive a reaction paper (you will be marked absent).

• Regarding "Class Attitude"

As this is a seminar featuring an external lecturer, it is essential to respectfully attend to the class. The use of smartphones during lectures is prohibited (with the exception of when students are required to respond to a class improvement survey). As a general rule, students should take notes by hand or write them on the provided resumes (permission is required for the use of computers or tablets). A full-time faculty member will patrol the classroom regularly, and if students are found to be talking, doing "side work" on their smartphones or computers, or dozing off throughout the class, their reaction papers will be invalid.

Details of the above will be posted on the Learning Support System before the start of class.

OTR200HA（その他 / Others 200）

フィールドスタディ

人間環境学部教員

配当年次／単位：1～4年／2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生はさまざまな「現場（フィールド）」を訪問し、人間環境学部での多様な学びに関連するテーマについて、直接的に触れながら学習することを目的とする。本プログラムは、社会との交流・連携を重視する当学部カリキュラムの特色を体現する教育活動であり、課題解決型学習（PBL）のひとつでもある。

【到達目標】

本プログラムでは、学生が教室での講義や文献から学んだ知識を、「現場」における実体験を通じて検証し、当該フィールドにおけるトピックスやテーマについて理解を深めることを目指す。また、こうした学びを通じて、人間環境学部で学ぶ自らの問題意識を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

各コースでは、実施テーマに応じて事前学習を行い、その内容を踏まえて現地での観測・観察、調査、施設での実習などを実施する。現地での学習終了後には、事後学習や報告会を行う。なお、各コースの構成はそれぞれ異なるため、担当教員からの連絡を必ず確認すること（詳細は「履修の手引き」も参照）。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	事前オリエンテーション	フィールドスタディの概略。
第2回～第4回	事前講義	各コースに関連する事項、参加にあたっての注意事項等。
第5回～第10回	現地実習・観察	現地に赴き、観察や調査、施設での実習などを行う。実習の日数や宿泊の有無はコースによって異なる。合計4日間の実習が原則であるが、国内遠距離地域や海外でのフィールドスタディの場合には1週間から10日前後に及ぶこともある。
第11回～第13回	事後講義	現地体験の総括講義、報告会等。
第14回	レポート提出	与えられたテーマについてレポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コースに応じて、具体的な指示は事前オリエンテーションなどの場で適宜伝える。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

コースに応じて、具体的な指示は事前オリエンテーションなどの場で適宜伝える。

【参考書】

コースに応じて、具体的な指示は事前オリエンテーションなどの場で適宜伝える。

【成績評価の方法と基準】

コースに応じて、具体的な指示は事前オリエンテーションなどの場で適宜伝える。

【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし

【その他の重要事項】

参加が確定した後は、やむを得ない事情がない限りキャンセルは認めない。参加にあたっては、交通費や宿泊費などの追加費用が発生するため十分に留意すること。なお、自己都合によるキャンセルの場合、原則として費用は返還されない。

【Outline (in English)】

This is a combination of lectures and off-campus visit for deepening knowledge and experiences related to sustainability issues in reality. Students are expected to learn sustainability issue deeply, to interrelate class-room knowledge with reality in the ground, and to strengthen their motivations to study further.

Explanations for preparatory study and evaluation criteria will be provided for each course at orientation and advance lectures. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR200HA（その他 / Others 200）

海外フィールドスタディ

人間環境学部教員

配当年次／単位：1～4年／4単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生はさまざまな「現場（フィールド）」を訪問し、人間環境学部での多様な学びに関連するテーマについて、直接的に触れながら学習することを目的とする。本プログラムは、社会との交流・連携を重視する当学部カリキュラムの特色を体現する教育活動であり、課題解決型学習（PBL）のひとつでもある。

【到達目標】

本プログラムでは、学生が教室での講義や文献から学んだ知識を、「現場」における実体験を通じて検証し、当該フィールドにおけるトピックスやテーマについて理解を深めることを目指す。また、こうした学びを通じて、人間環境学部で学ぶ自らの問題意識を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

各コースでは、実施テーマに応じて事前学習を行い、その内容を踏まえて現地での観測・観察、調査、施設での実習などを実施する。現地での学習終了後には、事後学習や報告会を行う。なお、各コースの構成はそれぞれ異なるため、担当教員からの連絡を必ず確認すること（詳細は「履修の手引き」も参照）。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	事前オリエンテーション	フィールドスタディの概略。
第2回～第4回	事前講義	各コースに関連する事項、参加にあたっての注意事項等。
第5回～第10回	現地実習・観察	現地に赴き、観察や調査、施設での実習などを行う。実習の日数や宿泊の有無はコースによって異なる。合計4日間の実習が原則であるが、国内遠距離地域や海外でのフィールドスタディの場合には1週間から10日前後に及ぶこともある。
第11回～第13回	事後講義	現地体験の総括講義、報告会等。
第14回	レポート提出	与えられたテーマについてレポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コースに応じて、具体的な指示は事前オリエンテーションなどの場で適宜伝える。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

コースに応じて、具体的な指示は事前オリエンテーションなどの場で適宜伝える。

【参考書】

コースに応じて、具体的な指示は事前オリエンテーションなどの場で適宜伝える。

【成績評価の方法と基準】

コースに応じて、具体的な指示は事前オリエンテーションなどの場で適宜伝える。

【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし

【その他の重要事項】

参加が確定した後は、やむを得ない事情がない限りキャンセルは認めない。参加にあたっては、交通費や宿泊費などの追加費用が発生するため十分に留意すること。なお、自己都合によるキャンセルの場合、原則として費用は返還されない。

【Outline (in English)】

This is a combination of lectures and off-campus visit for deepening knowledge and experiences related to sustainability issues in reality. Students are expected to learn sustainability issue deeply, to interrelate class-room knowledge with reality in the ground, and to strengthen their motivations to study further.

Explanations for preparatory study and evaluation criteria will be provided for each course at orientation and advance lectures. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

SCOPE Seminar

伊藤 弘太郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Seminar (Academic)

This seminar offers students opportunities to discuss contemporary issues and prospects associated with international relations in the Indo-Pacific region. Although it is said that information technology (IT) has made a massive amount of knowledge accessible to us, it is entirely unclear how we can effectively use it to make the world more sustainable. On the contrary, we tend to be drawn in a sea of information. This seminar encourage students to gain skills to critically analyze knowledge in the age of globalization.

【到達目標】

Upon successful completion of this course, students will be able to:

- (1) Learn critical reading skills.
- (2) Learn critical thinking skills.
- (3) Understand how 'concepts' are used analytically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

The course will consist of short lectures, group work (discussions and presentations). While we are preparing for the group presentation together, each student is encouraged to find news to share and discuss in class. In addition to a midterm presentation on what is learned from the group work, each student is required to complete his/her final project.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Introduction to the course
Week 2	Reading academic literature (1)	Short lecture and discussion
Week 3	Reading academic literature (2)	Short lectures and discussion
Week 4	Reading academic literature (3)	Short lecture and discussion
Week 5	Reading academic literature (4)	Short lecture and discussion
Week 6	Reading academic literature (5)	Short lecture and discussion
Week 7	Reading academic literature (6)	Short lecture and discussion
Week 8	Reading academic literature (7)	Short lecture and discussion
Week 9	Reading academic literature (8)	Short lectures and discussion
Week 10	Reading academic literature (9)	Short lectures and discussion

Week 11	Reading academic literature (10)	Short lectures and discussions
Week 12	Reading academic literature (11)	Short lecture and discussion
Week 13	Reading academic literature (12)	Short lecture and discussion
Week 14	Conclusion	Reflections and final remarks

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Textbook will be introduced in the first class.

【参考書】

References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】

Class participation and discussions: 50%

Presentations: 20%

Final assignment: 30%

Please note if students miss three classes, they cannot receive credit without a justifiable reason. Even with a justifiable reason, if students miss three classes, their grading may be adjusted.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

No specified equipment is needed.

【その他の重要事項】

I have working experiences in the Executive and the Legislative bodies of Japan to deal with international relations, especially national security affairs. I will introduce actual examples from a practical point of view.

You can use Generation AI services but sentences produced by the generation AI cannot be copied verbatim. You can just utilize the idea.

SCOPE Seminar

GAEL BESSON

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Legal theory is a discipline that uses tools, concepts, and methods from philosophy, sociology, political science, economics, and critical studies to study the concepts central to Law in a general way: authority, rule, norm, obligation, and the concept of law itself.

As a specific discipline, Legal theory's vocabulary is distinct from legal vocabulary; it is therefore vital to understand the texts of the founders — including Hart, Kelsen, Dworkin, Finnis, and Fuller.

This class accompanies the student into one of the most fundamental branches of this discussion: how analytical philosophy of law, especially the tools provided by Herbert L. A. Hart's theory, deals with contemporary problems such as:

- 1) The persistence of law in an era of never-ending crises.
- 2) New forms of law usage by NGOs and governments.
- 3) The reluctance of justices to strike down arguably unconstitutional rules.
- 4) The concurrence between the three branches of government.
- 5) Complexities of interconnected legal systems and challenges posed by private corporations.
- 6) Scientific accounts for injustices rising from global warming.
- 7) The role of law as a means to avoid violence and the challenges posed to positivism by jusnaturalism.

【到達目標】

By the end of the course, students are expected to have acquired:

- 1) Research Skills: The ability to find research articles in libraries and online databases.
- 2) Theoretical Foundations: A firm grasp of the core notions of Legal Positivism through the study of Hart's concept of Law.
- 3) Practical Application: A way to use these analytical tools to account for the lawyer, judge and citizen point of view.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar、L 講義/Lecture

【授業の進め方と方法】

Methodology: Classes consist of discussion, document study, and lectures. Students apply analytical frameworks by conducting independent research on a subject of their choice.

Research Project: The research will result in a short essay submitted at the end of the semester. Feedback on source reliability, sound problematics, and study schedules will be provided at the beginning and end of each class.

AI Policy: Authorized for formatting in case-by-case situations, forbidden for research paper or essay.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	MODULE 1 - WHAT IS LEGAL THEORY	A) General definitions of Legal Theory; B) Main themes, questions, and the choice between a lawyer's or a societal point of view.
2	MODULE 2 - METHOD OF LEGAL THEORY	A) Navigating academic databases (JSTOR, HeinOnline); B) Identifying reliable sources and structuring a sound research plan.
3	MODULE 3 - HERBERT L. A. HART	A) Biography of H.L.A. Hart; B) Bibliography and the evolution of analytical positivism.
4	MODULE 4 - SOCIAL RULES	A) Why "Habits" don't account for the persistence of law; B) The internal aspect of a social rule.
5	MODULE 5 - FROM SOCIAL TO LEGAL	A) The necessity of secondary rules in "complex" systems; B) The Rule of Recognition as the base of all legal rules.
6	MODULE 6 - LEGAL RULES	A) The choice of the strict internal point of view; B) Determining who needs to recognize the rule as a legal rule.
7	MID-TERM REVIEW	Research Project Review: Individual feedback on whether the "problematic" is sound and data is reliable.
8	MODULE 7 - SECONDARY RULES AND PRIMARY RULE	A) Relationship between the Rule of Recognition and other secondary rules; B) Rules that create obligation vs. rules that confer power.
9	MODULE 8 - THE EXISTENCE OF LAW	A) The union of primary and secondary rules; B) Hart vs. Kelsen's conception of validity (Grundnorm).
10	MODULE 9 - THE OPEN TEXTURE OF LEGAL LANGUAGE	A) Realism and skepticism about rules; B) The "Open Texture" of language and the necessity of judicial leeway.
11	MODULE 10 - THE INTERPRETATION OF LAW	A) Wittgenstein's paradox: following vs. interpreting; B) Addressing the "Realist's Confusion."
12	Presentation of the final report	Final Report Defense: Group A presentations and peer-to-peer feedback.
13	Presentation of the final report	Final Report Defense: Group B presentations and peer-to-peer feedback.
14	Test	Comprehensive Test: In-class assessment of core concepts and analytical application.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

In addition to the research project to be presented in class, students will be required to prepare the class by familiarizing themselves with the documents handed out for this purpose. Per Hosei University regulation, it is expected 2 hours / credit a week.

【テキスト（教科書）】

None.

【参考書】

H.L.A. Hart, *The Concept of Law* (3rd ed., with Leslie Green), Oxford University Press, 2012.

Nicola Lacey, *A Life of H. L. A. Hart: The Nightmare and the Noble Dream*, Oxford University Press, 2004.

Neil MacCormick, *H.L.A. Hart*, Stanford University Press, 2nd ed., 2008.

Hans Kelsen, *Pure Theory of Law* (Trans. Max Knight), Lawbook Exchange, 2009.

Frederick Schauer, "(Re)Taking Hart," 119 *Harv. L. Rev.* 852 (2006).

P.M.S. Hacker, "Hart's Philosophy of Law", in *Law, Morality and Society*, Clarendon Press, 1977.

Martti Koskenniemi, *From Apology to Utopia: The Structure of International Legal Argument*, Cambridge University Press, 2006.

Jean-Yves Ch  rot, "Hart et le concept de droit", manuscript, 2019.

【成績評価の方法と基準】

Participation in class (including attendance, homework and discussion): 50%

Final test and essay: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Course content has been reviewed and updated.

【学生が準備すべき機器他】

Pen, notebook, color pencils, eraser.

【その他の重要事項】

Students can contact the instructor anytime at his mail.

This course will be held face-to-face.

SCOPE Seminar

伊藤 弘太郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Seminar (Academic)

This seminar offers students opportunities to discuss contemporary issues and prospects associated with international relations in the Indo-Pacific region. Although it is said that information technology (IT) has made a massive amount of knowledge accessible to us, it is entirely unclear how we can effectively use it to make the world more sustainable. On the contrary, we tend to be drawn in a sea of information. This seminar encourage students to gain skills to critically analyze knowledge in the age of globalization.

【到達目標】

Upon successful completion of this course, students will be able to:

- (1) Learn critical reading skills.
- (2) Learn critical thinking skills.
- (3) Understand how 'concepts' are used analytically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

The course will consist of short lectures, discussions, and presentations by students. While we are reading the same textbook together, each student is encouraged to find news to share and discuss in class. In addition to a midterm report on what is learned from the textbook, each student is required to complete his/her final project.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Introduction to the course
Week 2	Reading academic literature (1)	Short lecture and discussion
Week 3	Reading academic literature (2)	Short lectures and discussion
Week 4	Reading academic literature (3)	Short lecture and discussion
Week 5	Reading academic literature (4)	Short lecture and discussion
Week 6	Reading academic literature (5)	Short lecture and discussion
Week 7	Reading academic literature (6)	Short lecture and discussion
Week 8	Reading academic literature (7)	Short lecture and discussion
Week 9	Reading academic literature (8)	Short lectures and discussion
Week 10	Reading academic literature (9)	Short lectures and discussion

Week 11	Reading academic literature (10)	Short lectures and discussions
Week 12	Reading academic literature (11)	Short lecture and discussion
Week 13	Reading academic literature (12)	Short lecture and discussion
Week 14	Conclusion	Reflections and final remarks

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Textbook will be introduced in the first class.

【参考書】

References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】

Class participation and discussions: 50%

Presentations: 20%

Final assignment: 30%

Please note if students miss three classes, they cannot receive credit without a justifiable reason. Even with a justifiable reason, if students miss three classes, their grading may be adjusted.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

No specified equipment is needed.

【その他の重要事項】

I have working experiences in the Executive and the Legislative bodies of Japan to deal with international relations, especially national security affairs. I will introduce actual examples from a practical point of view.

You can use Generation AI services but sentences produced by the generation AI cannot be copied verbatim. You can just utilize the idea.

SCOPE Seminar

GAEL BESSON

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水5/Wed.5

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This seminar offers a rigorous exploration of global constitutionalism through the lens of Miyoko Tsujimura's transformative research. By moving beyond a simple description of foreign systems, we engage in the "Science of Comparative Constitutional Law." We will analyze how the 21st century has shifted the foundations of sovereignty, the internationalization of human rights, and the "revolution of constitutional review." Using the professor's translation of Tsujimura's work, students will compare Western models (France, USA, Germany) with Non-Western and Socialist systems, concluding with a deep dive into Japan's unique "Pacifism" and its constitutional identity.

【到達目標】

By the end of the course, students are expected to have acquired:

- 1) Methodological Mastery: The ability to classify diverse constitutional systems.
- 2) Critical Comparative Skills: A nuanced understanding of how Western constitutional concepts (e.g., Separation of Powers) are adapted or challenged in Non-Western contexts (Asia, Africa, Latin America).
- 3) Thematic Expertise: A specialized knowledge of Third-Generation Rights, gender equality, and bioethics within comparative jurisprudence.
- 4) Institutional Literacy: The ability to contrast different models of Constitutional Review (The American A Posteriori model vs. the European Abstract model).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Methodology: This is a research-oriented seminar. While we will use current events (e.g., constitutional reforms in Chile, debates on Art. 9 in Japan, or US Supreme Court shifts) to test theoretical frameworks in real-time, each session involves a deep reading of translated chapters followed.

Continuous Feedback: Students will complete weekly homework assignments, which may include short essays, Country Profiles" or "Case Analyses" to the class. Feedback will be provided at the start of each class to ensure the mastery of key concepts.

Active Learning: Each session starts with a 10-minute review of last week's notions, and concludes with a 10-minute synthesis period to verify comprehension of the day's notions.

Research Project: Students will conduct a deep dive into a subject of their choice, resulting in an argumentative essay.

AI Policy: Authorized for formatting in case-by-case situations, forbidden for research paper or essay.

Final Assessment: A research paper and / or depending on the number of students, an in-class test evaluating the student's knowledge of the class content.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ORIENTATION	Introduction to the Seminar; expectations for research papers.
2	AIMS & METHODOLOGY	Universality vs. Particularism. Understanding the "Tsujimura Model" vs. Duverger/Higuchi models.
3	MODERN vs CONTEMPORARY	The transformation of constitutionalism in the 21st century. International protection of Human Rights.
4	WESTERN MODELS(I)	The Atlantic Tradition: France (Vth Republic), Germany (Basic Law), and the USA.
5	WESTERN MODELS (II): JAPAN	The 1946 Constitution as a "Western-style" text. Popular sovereignty and the 1945 transition.
6	NON-WESTERN MODELS	Socialist & Asian Capitalist systems: Russia, China, and the "Asian Values" debate (South Korea/India).
7	MID-TERM REVIEW	Synthesis: Comparing the "Western" vs "Non-Western" constitutional identities
8	GENERATION OF RIGHTS (I)	Civil Liberties & Social Rights: Freedom of religion and expression in US, France, and Japan.
9	GENERATION OF RIGHTS (II)	Bioethics & Gender: 3rd Gen Rights, reproductive rights (IVG), and family models in a globalized world.
10	POLITICAL INSTITUTIONS	Parliamentary vs. Presidential: Semi-presidentialism (France) vs. the Japanese Emperor system.
11	CONSTITUTIONAL REVIEW	Kelsen vs. Marshall: The French Conseil Constitutionnel (A priori) vs. the US/Japan Judicial Review (A posteriori).
12	PACIFISM & PEACE	Article 9: The unique Japanese "Right to live in peace" and global pacifist constitutional provisions.
13	THE LIVING CONSTITUTION	Amendment & Revision: Why Germany revises constantly while Japan/USA remain "rigid."
14	FINAL EXAMINATION	Comparative Essay / Case Analysis.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

In addition to the research project to be presented in class, students will be required to prepare the class by familiarizing themselves with the documents handed out for this purpose. Per Hosei University regulation, it is expected 2 hours / credit a week.

【テキスト（教科書）】

None.

【参考書】

- Miyoko Tsujimura, Science du droit constitutionnel comparé (Trans. Gaël Besson, 2024).
- Vicki Jackson & Mark Tushnet, Comparative Constitutional Law, Foundation Press.
- Michel Rosenfeld & András Sajó, The Oxford Handbook of Comparative Constitutional Law, Oxford University Press.
- Ran Hirschl, Comparative Matters: The Renaissance of Comparative Constitutional Law, Oxford University Press.
- Tom Ginsburg & Rosalind Dixon, Comparative Constitutional Law, Edward Elgar Publishing.

【成績評価の方法と基準】

Participation in class (including attendance, homework and discussion): 50%

Final test and essay: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Course content has been reviewed and updated.

【学生が準備すべき機器他】

Pen, notebook, color pencils, eraser.

【その他の重要事項】

Students can contact the instructor anytime at his mail.

This course will be held face-to-face.

SCOPE Seminar

Mariia ERMILOVA

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This advanced seminar explores key issues related to human – environment relationships from anthropological and interdisciplinary perspectives. The course examines a range of environmental challenges and sustainability issues through a critical discussion of academic literature. The seminar emphasizes independent inquiry, critical reading, and collaborative discussion. By the end of the course, students will produce a paper summarizing their findings.

【到達目標】

The course aims to provide opportunities for students to develop their research interests in environmental and sustainable issues. By completing this seminar, students will gain a critical understanding of the various challenges of sustainable resource use, mainly through critical thinking and discussions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

Lectures and personal guidance will be carried out regarding each student's project. There will be opportunities for discussion and feedback on the individual project. The class will be conducted on a face-to-face basis.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to the Seminar	Course overview, expectations, and introduction to key concepts: human – environment relationships, sustainability, socio-ecological systems.
Week 2	How to Read Academic Literature	Academic Literature Structure of academic articles and books. Identifying research questions, methods, and arguments. Practice reading exercise and group discussion. Students analyze a short article together.

Week 3	Collective Reading (輪読) I	Guided collective reading of a selected article or book chapter. Discussion of key concepts and arguments. Student task: Choose article for presentation. Each student presents one article related to human – environment relationships.
Week 4	Collective Reading (輪読) II	Student-led discussion of readings. Students prepare questions and short reflections.
Week 5	Collective Reading (輪読) III	Critical discussion of theoretical frameworks and perspectives related to environmental issues.
Week 6	Student Presentations I	Student presentation of selected academic articles. Peer questions and discussion.
Week 7	Student Presentations II	Presentations and peer feedback. Students critically evaluate arguments and methods.
Week 8	Student Presentations III	Presentations followed by peer review discussion and reflection.
Week 9	Environmental Debate I	Debate on contemporary environmental issue. Team A vs Team B. Structured debate and discussion.
Week 10	Environmental Debate II	Debate with new teams (Team C vs Team D). Students rotate roles and positions.
Week 11	Environmental Debate III	Debate with new teams (Team E vs Team F). Critical evaluation of arguments.
Week 12	Environmental Debate IV	Debate with new teams (Team G vs Team H). Reflection on debate strategies and evidence.
Week 13	Synthesis Discussion	Review of key themes from readings, presentations, and debates. Discussion of major environmental debates.
Week 14	Final Reflection	Course summary and reflection. Discussion of research insights and preparation of final paper.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

There is no specific textbook; all materials will be distributed in the class.

【参考書】

References will be provided in the class

【成績評価の方法と基準】

Class participation and discussion — 30%

Presentation — 30%

Final paper — 40%

Final paper:

2000 – 3000 words

Students analyze one or two articles from the course.

【学生の意見等からの気づき】

Students' opinions will be collected to improve future courses.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

SCOPE Seminar

Mariia ERMILOVA

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This advanced seminar explores key issues related to human – environment relationships from anthropological and interdisciplinary perspectives. The course examines a range of environmental challenges and sustainability issues through a critical discussion of academic literature. The seminar emphasizes independent inquiry, critical reading, and collaborative discussion. By the end of the course, students will produce a paper summarizing their findings.

【到達目標】

The course aims to provide opportunities for students to develop their research interests in environmental and sustainable issues. By completing this seminar, students will gain a critical understanding of the various challenges of sustainable resource use, mainly through critical thinking and discussions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

Lectures and personal guidance will be carried out regarding each student's project. There will be opportunities for discussion and feedback on the individual project. The class will be conducted on a face-to-face basis.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to the Seminar	Course overview, expectations, and introduction to key concepts: human – environment relationships, sustainability, socio-ecological systems.
Week 2	How to Read Academic Literature	Academic Literature Structure of academic articles and books. Identifying research questions, methods, and arguments. Practice reading exercise and group discussion. Students analyze a short article together.

Week 3	Collective Reading (輪読) I	Guided collective reading of a selected article or book chapter. Discussion of key concepts and arguments. Student task: Choose article for presentation. Each student presents one article related to human – environment relationships.
Week 4	Collective Reading (輪読) II	Student-led discussion of readings. Students prepare questions and short reflections.
Week 5	Collective Reading (輪読) III	Critical discussion of theoretical frameworks and perspectives related to environmental issues.
Week 6	Student Presentations I	Student presentation of selected academic articles. Peer questions and discussion.
Week 7	Student Presentations II	Presentations and peer feedback. Students critically evaluate arguments and methods
Week 8	Student Presentations III	Presentations followed by peer review discussion and reflection.
Week 9	Environmental Debate I	Debate on contemporary environmental issue. Team A vs Team B. Structured debate and discussion.
Week 10	Environmental Debate II	Debate with new teams (Team C vs Team D). Students rotate roles and positions.
Week 11	Environmental Debate III	Debate with new teams (Team E vs Team F). Critical evaluation of arguments.
Week 12	Environmental Debate IV	Debate with new teams (Team G vs Team H). Reflection on debate strategies and evidence.
Week 13	Synthesis Discussion	Review of key themes from readings, presentations, and debates. Discussion of major environmental debates.
Week 14	Final Reflection	Course summary and reflection. Discussion of research insights and preparation of final paper.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

There is no specific textbook; all materials will be distributed in the class.

【参考書】

References will be provided in the class

【成績評価の方法と基準】

Class participation and discussion — 30%

Presentation — 30%

Final paper — 40%

Final paper:

2000 – 3000 words

Students analyze one or two articles from the course.

【学生の意見等からの気づき】

Students' opinions will be collected to improve future courses.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

SCOPE Seminar

杉野 誠

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The combination of population and economic growth leads to explosive consumption and massive amounts of waste. The composition of traditional waste was mainly biological waste. However, modern day waste includes paper, plastic, metals and chemicals. Thus, dumping waste into landfills is an undesirable option. What are the desirable options. What can emerging countries learn from developed countries? In this seminar, students will learn and discuss Japanese waste management issues and measures taken to tackle these issues.

【到達目標】

Students will be able to:

- 1) Read critically
- 2) Think critically
- 3) Propose realistic policies based on current practices

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

The course will consist of 1) presentations by students, 2) discussion, 3) group work and short lectures. We will be reading the same material, but students will be required to find and share news related to the topic. Each student will be required to complete their final project/report.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Guidance of the course
Week 2	Reading academic literature (1)	Presentation, discussion and short lecture.
Week 3	Reading academic literature (2)	Presentation, discussion and short lecture.
Week 4	Reading academic literature (3)	Presentation, discussion and short lecture.
Week 5	Reading academic literature (4)	Presentation, discussion and short lecture.
Week 6	Reading academic literature (5)	Presentation and group work.
Week 7	Reading academic literature (6)	Presentation, discussion and short lecture.
Week 8	Reading academic literature (7)	Presentation, discussion and short lecture.
Week 9	Reading academic literature (8)	Presentation, discussion and short lecture.
Week 10	Reading academic literature (9)	Presentation, discussion and short lecture.
Week 11	Reading academic literature (10)	Presentation and group work.

Week 12	Individual guidance (1)	Presentation of final report and feedback.
Week 13	Individual guidance (2)	Presentation of final report and feedback.
Week 14	Conclusion	Reviewing semester and final remarks.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Will be announced in week 1 class.

【参考書】

Will be announced in week 1 class.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be calculated by the following three components.

- 1) Class preparation, Discussion and Group work 40%
- 2) Presentation 30%
- 3) Final report 30%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

No specific equipment is needed.

【その他の重要事項】

You can use Generation AI services, but will be required to explain which part of the presentation/report was generated by AI.

Use of electronic equipment (PCs, tablets, smartphones etc.) during discussion/group work will be regulated unless the specified.

SCOPE Seminar

武貞 稔彦

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of this seminar is to understand and learn: 1) the meaning of “the future(s),” 2) the significance of contemplating “the future(s),” and 3) methodologies for envisioning “the future(s),” through an academic approach to “the future(s).” Modern society faces multiple intertwined global challenges — such as climate change and other environmental issues, demographic shifts, economic growth, and conflict and peace — casting doubt on its sustainability. Building a sustainable society, as outlined in the Sustainable Development Goals (SDGs), whether through extending current practices or through major transformation, fundamentally means constructing the future. Existing academic disciplines striving for scientific rigor, such as natural and social sciences, are primarily based on what has actually occurred or been experienced — an approach termed positivism or empiricism. What academic approaches, then, are possible for the “future(s),” a reality that has not yet unfolded? Furthermore, how can existing academic disciplines contribute to envisioning the “future(s)?” Through engaging with these questions, it is hoped that students will develop the ability to envision the future(s).

【到達目標】

Through active participation in this seminar, participants are expected to acquire the following abilities:

1. Provide logical explanations regarding multiple futures and related concepts.
2. Master methodologies for envisioning futures.
3. Gain a holistic perspective on the future(s).
4. More purposefully identify lessons and knowledge from existing academic discipline that can be utilized for future building.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・ This course primarily consists of group discussions and presentations by participants. Short lectures will be held as needed.
- ・ Participants are strongly required to meet the following three points: i) Participate in each session after having read the assigned literature(s) beforehand, ii) Submit the assigned writing assignments by the deadline, iii) Commit to and contribute to group discussions.
- ・ Feedback on assignments will be provided as needed, either in class or individually through the Learning Management System.
- ・ The method of class management may be subject to change depending on circumstances such as the number of enrolled students.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Orientation	Overview of the course; Why future(s)?
Week 2	The future or futures	Multiple concepts of future
Week 3	Foresight	What is foresight? How and why humankind developed foresight?
Week 4	Development and Sustainability	What is (has been) development? Why sustainability matters.
Week 5	History	What history as an academic discipline would teach us for future(s)?
Week 6	Obstacles	What would be obstacles to build future(s), in terms of transformation or change?
Week 7	Temporal perspectives	How far should we consider for future generation? On Short-termism and Long-termism.
Week 8	Discount Rate	What is the concept and its consequences of discount rate?
Week 9	Methodology	What are the methodologies for envisioning future(s)?
Week 10	Future Design Workshop	Experience one of methodologies for future building.
Week 11	Preparation for Group Presentation	Choose the topic and prepare group presentation.
Week 12	Group presentation (1)	Group presentation (1) and peer-review.
Week 13	Group presentation (2)	Group presentation (2) and peer-review
Week 14	Conclusion	Summary and feedback of the seminar

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare for and review each session by using references and materials assigned in class and/or through course website. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Materials will be distributed in class.

【参考書】

Krznaric, Roman (2021) “The Good Ancestor: How to Think Long Term in a Short-Term World” WH Allen, London
 Suddendorf, T., Redshaw, J., and Bulley, A. (2022) “The Invention of Tomorrow: A Natural History of Foresight” Basic Books, New York

【成績評価の方法と基準】

Active Participation and contribution in class 40%; Assignments 30%; Group project 30%

【学生の意見等からの気づき】

This is a newly introduced seminar.

【学生が準備すべき機器他】

PC or other devices will be useful for in class research.

【その他の重要事項】

Due to the nature of class management, enrollment may be limited. Therefore, attendance at the first session is mandatory for prospective students.

OTR200HA（その他 / Others 200）

Field Workshop

人間環境学部教員

配当年次／単位：1～4年／2単位

備考（履修条件等）：定員制 In case of oversubscription: priority given to students of the Faculty of Sustainability Studies/主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Field Workshop is designed to provide hands-on experiences outside the classroom to further learn about sustainability. Students will visit locations and facilities within Japan and learn from experts who are devoted to unique issues relating to sustainability.

【到達目標】

Through this course, students will be able to (1) better understand issues of sustainability, especially by connecting knowledges that they learned in classrooms and through field visits and (2) to actively engage in discussions on how to apply theories to actual problems in order to improve future sustainability.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

Each Field Workshop consists of both a field trip itself and on-campus classes before and after the field trips for preparations and reflections. Class schedule below is a sample of a course. Since Field Workshops differ from one another in their contents, students are advised to find detailed information about each Field Workshop when announced.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Outlines of a Field Workshop
2-4	Classes for preparation of the field trips	Knowledge required to understand the sites and preparation of the Field Workshop
5-11	Fieldwork	Four days of field trips (four day trips or a four-day trip)
12-13	Classes for reflections of the field trips	Reviews and discussions
14	Report writing	Writing and submitting an assigned report

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Detailed instructions are provided in the orientation and other sessions. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Materials will be distributed in orientation and preparatory classes.

【参考書】

Texts will be introduced in orientation and preparatory classes.

【成績評価の方法と基準】

Participation and contribution: 50%; the final report: 50%

【学生の意見等からの気づき】

We received highly positive feedback from students who participated in the previous Field Workshops. We will continue to provide engaging learning opportunities.

【その他の重要事項】

Participants have to bear the costs of transportation, insurance, as well as program fees.

Cancellation of the participation is, in principle, not allowed after the enrollment is finalized. Furthermore, there is no refund made for the paid expenses if the cancellation is due to personal reasons.

If more than 15 students apply for this Field Workshop, instructors will select participants based on the essay submitted with the application. Priority goes to SCOPE students and students in the Faculty of Sustainability Studies. This course may be canceled if there is no participant from SCOPE. Please note that if the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, in order for the instructor to effectively manage the class, the number of students who are allowed to register for the course may be limited.

This course will be held during Spring break. Please make sure you do not schedule other activities overseas during this period if you are considering to take this course.

Co-creative Workshop A I

佐々木 大輔

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土1/Sat.1

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The Co-creative Workshop provides students with multidisciplinary learning opportunities to discuss various challenges of sustainability. The class brings together students from SCOPE and students from the Faculty of Sustainability Studies and offers them the opportunity to collaborate on workshop projects together. Participants will discuss various sustainability issues and try to come up with solutions through group work.

【到達目標】

Students should aim at being able to:

- (1) identify and analyze sustainability problems
- (2) interact proactively and collaborate with diverse participants to design solutions and present them in the class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

Students will participate in group work with other students from diverse backgrounds and study experience. Through facilitating interaction and teamwork, defining problems, and generating ideas, participants will collaborate to come up with solutions for various sustainability problems.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Guidance	Introduction of participants
Week 2	Practice of group work	Each group discusses selected sustainability topics and presents them in class
Week 3	Case No.1 (1)	Introduction to case No.1. Defining and analyzing the issue
Week 4	Case No.1 (2)	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution
Week 5	Case No.1 (3)	Continue to analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution
Week 6	Case No.1 (4)	Group presentation and discussion
Week 7	Case No.1 (5)	Feedback from facilitator/participants
Week 8	Case No.1 (6)	Reflection and follow up work Each group reviews their group work and revise the deliverables as necessary

Week 9	Case No.2 (1)	Introduction to case No.2. Defining and analyzing the issue
Week 10	Case No.2 (2)	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution
Week 11	Case No.2 (3)	Continue to analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution.
Week 12	Case No.2 (4)	Group presentation and discussion
Week 13	Case No.2 (5)	Feedback from facilitator/participants
Week 14	Case No.2 (6)	Reflection and follow up work Each group reviews their group work and revise the deliverables as necessary

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are highly expected to read reference materials, do necessary research and contribute to group work. Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.

【テキスト（教科書）】

There are no requisite textbooks in this class. Materials may be distributed in class as needed.

【参考書】

References may be distributed in class as needed.

【成績評価の方法と基準】

Students will be assessed based on the following criteria:

- (1) Active class participation (20%)
- (2) Contribution to the group work (40%)
- (3) Student's own progress (40%)

Details will be explained in the first class.

Please note if students miss four or more classes, they cannot receive credit without a justifiable reason. Even with a justifiable reason, if students miss four or more classes, their grading may be adjusted.

【学生の意見等からの気づき】

The instructor's explanation will be minimized and students will lead the discussion.

【学生が準備すべき機器他】

When students do their group work and make presentations, using their own PCs or other devices may help students work productively.

【その他の重要事項】

- (1) Note that selection may be conducted in the first class if the number of participants is too large. Students interested in participating should attend the first class.
- (2) As all the class and group work will be conducted in English, students with lower English proficiency may have difficulties keeping up with the class. In that case, students are expected to make additional efforts to improve their English skills.

Co-creative Workshop A II

伊藤 弘太郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This lecture provides students with multidisciplinary learning opportunities to discuss and understand various challenges of sustainability. This lecture brings together students from SCOPE and students from the Faculty of Sustainability Studies（人間環境学部）and offers them the opportunity to collaborate on workshop projects together. Participants will discuss various social problems.

【到達目標】

Students should aim at being able to:

- (1) Identify sustainability problems and analyze the backgrounds.
- (2) Interact proactively and work together with participants to design research solutions and present them in the class.
- (3) Deepen critical thinking skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Students will have to participate in group work with other students. Through the interactive discussion with the lecturer and team member students, students will define problems based on the original ideas, participant-student will collaborate to come up with solutions for various kinds of sustainability problems. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Orientation	Self introduction of participants for ice-breaking and orientation for this class.
Week 2	Practice of group work	Each group talks about a topic of sustainability and presents them in class
Week 3	Case Study No.1 (1)	Introduction to case study No.1. Defining and analyzing the issue
Week 4	Case Study No.1 (2)	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution
Week 5	Case Study No.1 (3)	Continue to analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution

Week 6	Case Study No.1 (4)	Group presentation and discussion
Week 7	Case Study No.1 (5)	Feedback from the lecturer /participant-students
Week 8	Case Study No.1 (6)	Reflection and follow up work Each group reviews their group work and revise the deliverables as necessary
Week 9	Case Study No.2 (1)	Introduction of the Case Study No.2. Defining and analyzing the issue
Week 10	Case Study No.2 (2)	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution
Week 11	Case Study No.2 (3)	Continue to analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution.
Week 12	Case Study No.2 (4)	Group presentation and discussion
Week 13	Case Study No.2 (5)	Feedback from the Lecturer/participant-students
Week 14	Short Field Work	Visiting a field related to participant-students' preference

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to look for and read reference materials, do necessary research, and actively contribute to group work. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

This course is a workshop-style class. Therefore any textbook will not be used. Materials will be distributed in class according to the topics and discussions.

【参考書】

Reference will be introduced as appropriate during class.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on the following criteria:

- (1) Active class participation (20%)
- (2) Contribution to the group work (40%)
- (3) Student's own progress (40%)

Please note if students miss three classes, they cannot receive credit without a justifiable reason. Even with a justifiable reason, if students miss four or more classes, their grading may be adjusted.

The evaluation and the regulation of the details will be explained in the first class (orientation).

【学生の意見等からの気づき】

Following student comments, the lecturer's explanation will be minimized and students will lead the discussions.

【学生が準備すべき機器他】

When students do their group work and make presentations, using their own PCs or other devices may help students work productively.

【その他の重要事項】

(1) Note that selection may be conducted in the first class if the number of participants is too large. Students interested in participating should attend the first class.

(2) As all the class3s will be conducted in English, students with lower English proficiency may have difficulties keeping up with the class. In that case, students are expected to make additional efforts to improve their English skills.

(3) I can leverage my working experiences as a secretary for Member of House of the Representative and an administrative officer in the Japanese government.

Co-creative Workshop B I

GAEL BESSON

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course focuses on a core practical skill: how to analyze a complex social problem and co-create a sustainable solution. Sustainability is a trans-disciplinary "wicked problem" that no single actor (government, corporation, or citizen) can solve alone, requiring a horizontal, "co-creative" approach. While many actors propose solutions (like CSR reports, labels, or advocacy), understanding their real-world impact and limitations can be challenging for non-specialists.

This class accompanies the student in acquiring the tools to analyze these "glocal" sustainability challenges. We will explore the "associative path" (the public role of NGOs) and the "social role of corporations" (CSR) as key drivers of social change.

【到達目標】

By the end of the course, students are expected to have acquired:

- 1) Systemic Analysis: The ability to analyze a complex sustainability problem using stakeholder mapping and problem-based learning.
- 2) Advocacy Literacy: An overview of key citizen advocacy tools (e.g., labels, public awareness campaigns, and "moot courts").
- 3) Theoretical Grounding: A robust knowledge of the practical and theoretical challenges of participatory democracy and Corporate Social Responsibility (CSR).
- 4) Professional Communication: The ability to formulate, defend, and "pitch" a co-created project proposal in a group setting.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

Methodology: Classes consist of group discussions, case studies, and hands-on workshops. Students will be required to apply analytical frameworks by contributing to their group project milestones, which will be discussed during class.

Project-Based Learning (PBL): The course is structured around a semester-long group project where students identify a "wicked problem" and develop a co-created solution.

Mentorship: The professor acts as a facilitator, providing feedback on research plans and stakeholder analysis during dedicated workshop sessions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Presentation of the course methodology (group work, problem-based learning) and sustainability challenges.

2	Defining the Problem	Analysis of the "wicked problem" concept and the SDGs. Stakeholder mapping and conflicts.
3	Case Study 1	The Associative Path & Participatory Democracy: Analysis of the "associative trend" vs. "industrial trend" in environmental law.
4	Group Formation	Students form groups and choose a project theme. Introduction to research methods and data evaluation.
5	Case Study 2	The Social Role of Corporations (CSR): Critical analysis of sustainability reports. Transition or Greenwashing?
6	Workshop 1	Project Definition: Groups present their problem statement, stakeholder analysis, and research plan.
7	Guest Speaker	Inviting a professional (NGO/CSR) to discuss practical challenges of implementing sustainability.
8	Lever for Action	Identifying legal, economic, and social blocking points and opportunities for change.
9	Workshop 2	Mid-term Review: Groups present the status of their research and initial solution drafts.
10	Ideation & Co-design	Brainstorming techniques to develop innovative and "glocal" (global + local) solutions.
11	Workshop 3	Prototyping Solutions: Making proposals concrete and feasible (action plans, policy proposals).
12	Final Prep	How to "pitch" a sustainability project: Training in communication, argumentation, and visual aids.
13	Final Presentations (A)	Presentation of the co-creation projects to the class (acting as a jury).
14	Final Presentations (B)	Remaining presentations, course synthesis, and final reflection on skills.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

In addition to the research project to be presented in class, students will be required to prepare the class by familiarizing themselves with the documents handed out for this purpose. Per Hosei University regulation, it is expected to be 2 hours / credit a week.

【テキスト（教科書）】

None.

【参考書】

- Archie B. Carroll, "Corporate Social Responsibility: Evolution of a Definitional Construct", Business & Society, 1999.
- François Ost, "La responsabilité, fil d'Ariane du droit de l'environnement", Droit et société, 1995.
- Christopher D. Stone, Should Trees Have Standing? - Toward Legal Rights for Natural Objects, Southern California Law Review, 1972.

- Keisuke Mark Abe, "Les droits de la nature au Japon : Concrétiser la vision alternative", Revue juridique de l'Université Seikei, 2023.

- Gaël Besson, "L'état du droit des énergies renouvelables : le droit de l'énergie face au droit de la nature", XIVème Séminaire Franco-Japonais de Droit Public, 2023.

【成績評価の方法と基準】

Participation in class (including attendance, homework and discussion): 50%

Final test and essay: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Course content has been reviewed and updated.

【学生が準備すべき機器他】

Pen, notebook, color pencils, eraser.

【その他の重要事項】

Students can contact the instructor anytime at his mail.

This course will be held face-to-face.

Co-creative Workshop B II

Mariia ERMILOVA

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The Co-creative Workshop aims to provide students with multidisciplinary learning opportunities to deal with various challenges of sustainability. It brings together students from SCOPE and students from the Faculty of Sustainability Studies and offers them the opportunity to collaborate on workshop project. We will discuss various sustainability issues and try to come up with possible solutions through group work. Examples of topics include environmental degradation, local revitalization business in rural Japan, and waste management policies in Japan, China and the EU.

【到達目標】

By the end of the course, students will be able to:

- (1) identify and analyze sustainability problems in given cases
- (2) critically analyze the issues within the wider contexts of social, economic, political, and religious aspects of societies
- (3) interact proactively and collaborate with diverse participants
- (4) design collaborative solutions and present them in class

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

This course is highly student-oriented. Students are given opportunity to work on the topic according to your interests as a group. Instructor will play a role of facilitating and supporting students during the entire processes of completing their research. Lecture on methodology and advice on the specific steps of doing project will be given by the instructor in each class session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week1	Introduction	Course orientation
Week2	Group work	Each group discusses sustainability topics and presents them in the class.
Week3	Case study 1 ①	Introduction to case/topic No.1. Defining and analyzing the issue.
Week4	Case study 1 ②	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution.
week5	Case study 1 ③	Group presentation and feedback from facilitator/participants.
Week6	Case study 2 ①	Introduction to case/topic No.2. Defining and analyzing the issue.

Week7	Case study 2 ②	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution.
Week8	Case study 2 ③	Group presentation and feedback from facilitator/participants.
Week9	Case study 3 ①	Introduction to case/topic No.3. Defining and analyzing the issue.
Week10	Case study 3 ②	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution.
Week11	Case study 3 ③	Group presentation and feedback from facilitator/participants.
Week12	Case study 4 ①	Introduction to case/topic No.4. Defining the issue and analyzing stakeholders.
Week13	Case study 4 ②	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution.
Week14	Case study 4 ③	Group presentation and feedback from facilitator/participants. Overall discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

There are no particular textbooks required for this class. Relevant materials will be introduced in class according to the topics and discussions.

【参考書】

References are introduced in each class.

【成績評価の方法と基準】

Class participation and discussion 30%

Individual work and contribution to group work 30%

Group presentation 40%

【学生の意見等からの気づき】

Feedback is not available due to the change in instructor.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to bring in PC for the class sessions when conducting team project.

【その他の重要事項】

None.

Co-creative Workshop A

佐々木 大輔

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土1/Sat.1

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The Co-creative Workshop provides students with multidisciplinary learning opportunities to discuss various challenges of sustainability. The class brings together students from SCOPE and students from the Faculty of Sustainability Studies and offers them the opportunity to collaborate on workshop projects together. Participants will discuss various sustainability issues and try to come up with solutions through group work.

【到達目標】

Students should aim at being able to:

- (1) identify and analyze sustainability problems
- (2) interact proactively and collaborate with diverse participants to design solutions and present them in the class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

Students will participate in group work with other students from diverse backgrounds and study experience. Through facilitating interaction and teamwork, defining problems, and generating ideas, participants will collaborate to come up with solutions for various sustainability problems. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Guidance	Introduction of participants
Week 2	Practice of group work	Each group discusses selected sustainability topics and presents them in class
Week 3	Case No.1 (1)	Introduction to case No.1. Defining and analyzing the issue
Week 4	Case No.1 (2)	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution
Week 5	Case No.1 (3)	Continue to analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution
Week 6	Case No.1 (4)	Group presentation and discussion
Week 7	Case No.1 (5)	Feedback from facilitator/participants
Week 8	Case No.1 (6)	Reflection and follow up work Each group reviews their group work and revise the deliverables as necessary

Week 9	Case No.2 (1)	Introduction to case No.2. Defining and analyzing the issue
Week 10	Case No.2 (2)	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution
Week 11	Case No.2 (3)	Continue to analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution.
Week 12	Case No.2 (4)	Group presentation and discussion
Week 13	Case No.2 (5)	Feedback from facilitator/participants
Week 14	Case No.2 (6)	Reflection and follow up work Each group reviews their group work and revise the deliverables as necessary

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are highly expected to read reference materials, do necessary research and contribute to group work. Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.

【テキスト（教科書）】

There are no requisite textbooks in this class. Materials may be distributed in class as needed.

【参考書】

References may be distributed in class as needed.

【成績評価の方法と基準】

Students will be assessed based on the following criteria:

- (1) Active class participation (20%)
- (2) Contribution to the group work (40%)
- (3) Student's own progress (40%)

Details will be explained in the first class.

Please note if students miss four or more classes, they cannot receive credit without a justifiable reason. Even with a justifiable reason, if students miss four or more classes, their grading may be adjusted.

【学生の意見等からの気づき】

The instructor's explanation will be minimized and students will lead the discussion.

【学生が準備すべき機器他】

When students do their group work and make presentations, using their own PCs or other devices may help students work productively.

【その他の重要事項】

- (1) Note that selection may be conducted in the first class if the number of participants is too large. Students interested in participating should attend the first class.
- (2) As all the class and group work will be conducted in English, students with lower English proficiency may have difficulties keeping up with the class. In that case, students are expected to make additional efforts to improve their English skills.

Co-creative Workshop B

伊藤 弘太郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This lecture provides students with multidisciplinary learning opportunities to discuss and understand various challenges of sustainability. This lecture brings together students from SCOPE and students from the Faculty of Sustainability Studies（人間環境学部）and offers them the opportunity to collaborate on workshop projects together. Participants will discuss various social problems.

【到達目標】

Students should aim at being able to:

- (1) Identify sustainability problems and analyze the backgrounds.
- (2) Interact proactively and work together with participants to design research solutions and present them in the class.
- (3) Deepen critical thinking skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Students will have to participate in group work with other students. Through the interactive discussion with the lecturer and team member students, students will define problems based on the original ideas, participant-student will collaborate to come up with solutions for various kinds of sustainability problems. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Orientation	Self introduction of participants for ice-breaking and orientation for this class.
Week 2	Practice of group work	Each group talks about a topic of sustainability and presents them in class
Week 3	Case Study No.1 (1)	Introduction to case study No.1. Defining and analyzing the issue
Week 4	Case Study No.1 (2)	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution
Week 5	Case Study No.1 (3)	Continue to analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution

Week 6	Case Study No.1 (4)	Group presentation and discussion
Week 7	Case Study No.1 (5)	Feedback from the lecturer /participant-students
Week 8	Case Study No.1 (6)	Reflection and follow up work Each group reviews their group work and revise the deliverables as necessary
Week 9	Case Study No.2 (1)	Introduction of the Case Study No.2. Defining and analyzing the issue
Week 10	Case Study No.2 (2)	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution
Week 11	Case Study No.2 (3)	Continue to analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution.
Week 12	Case Study No.2 (4)	Group presentation and discussion
Week 13	Case Study No.2 (5)	Feedback from the Lecturer/participant-students
Week 14	Short Field Work	Visiting a field related to participant-students' preference

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to look for and read reference materials, do necessary research, and actively contribute to group work. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

This course is a workshop-style class. Therefore any textbook will not be used. Materials will be distributed in class according to the topics and discussions.

【参考書】

Reference will be introduced as appropriate during class.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on the following criteria:

- (1) Active class participation (20%)
- (2) Contribution to the group work (40%)
- (3) Student's own progress (40%)

Please note if students miss three classes, they cannot receive credit without a justifiable reason. Even with a justifiable reason, if students miss four or more classes, their grading may be adjusted.

The evaluation and the regulation of the details will be explained in the first class (orientation).

【学生の意見等からの気づき】

Following student comments, the lecturer's explanation will be minimized and students will lead the discussions.

【学生が準備すべき機器他】

When students do their group work and make presentations, using their own PCs or other devices may help students work productively.

【その他の重要事項】

(1) Note that selection may be conducted in the first class if the number of participants is too large. Students interested in participating should attend the first class.

(2) As all the class3s will be conducted in English, students with lower English proficiency may have difficulties keeping up with the class. In that case, students are expected to make additional efforts to improve their English skills.

(3) I can leverage my working experiences as a secretary for Member of House of the Representative and an administrative officer in the Japanese government.

Co-creative Workshop C

GAEL BESSON

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course focuses on a core practical skill: how to analyze a complex social problem and co-create a sustainable solution. Sustainability is a trans-disciplinary "wicked problem" that no single actor (government, corporation, or citizen) can solve alone, requiring a horizontal, "co-creative" approach. While many actors propose solutions (like CSR reports, labels, or advocacy), understanding their real-world impact and limitations can be challenging for non-specialists.

This class accompanies the student in acquiring the tools to analyze these "glocal" sustainability challenges. We will explore the "associative path" (the public role of NGOs) and the "social role of corporations" (CSR) as key drivers of social change.

【到達目標】

By the end of the course, students are expected to have acquired:

- 1) Systemic Analysis: The ability to analyze a complex sustainability problem using stakeholder mapping and problem-based learning.
- 2) Advocacy Literacy: An overview of key citizen advocacy tools (e.g., labels, public awareness campaigns, and "moot courts").
- 3) Theoretical Grounding: A robust knowledge of the practical and theoretical challenges of participatory democracy and Corporate Social Responsibility (CSR).
- 4) Professional Communication: The ability to formulate, defend, and "pitch" a co-created project proposal in a group setting.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

Methodology: Classes consist of group discussions, case studies, and hands-on workshops. Students will be required to apply analytical frameworks by contributing to their group project milestones, which will be discussed during class.

Project-Based Learning (PBL): The course is structured around a semester-long group project where students identify a "wicked problem" and develop a co-created solution.

Mentorship: The professor acts as a facilitator, providing feedback on research plans and stakeholder analysis during dedicated workshop sessions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Presentation of the course methodology (group work, problem-based learning) and sustainability challenges.

2	Defining the Problem	Analysis of the "wicked problem" concept and the SDGs. Stakeholder mapping and conflicts.
3	Case Study 1	The Associative Path & Participatory Democracy: Analysis of the "associative trend" vs. "industrial trend" in environmental law.
4	Group Formation	Students form groups and choose a project theme. Introduction to research methods and data evaluation.
5	Case Study 2	The Social Role of Corporations (CSR): Critical analysis of sustainability reports. Transition or Greenwashing?
6	Workshop 1	Project Definition: Groups present their problem statement, stakeholder analysis, and research plan.
7	Guest Speaker	Inviting a professional (NGO/CSR) to discuss practical challenges of implementing sustainability.
8	Lever for Action	Identifying legal, economic, and social blocking points and opportunities for change.
9	Workshop 2	Mid-term Review: Groups present the status of their research and initial solution drafts.
10	Ideation & Co-design	Brainstorming techniques to develop innovative and "glocal" (global + local) solutions.
11	Workshop 3	Prototyping Solutions: Making proposals concrete and feasible (action plans, policy proposals).
12	Final Prep	How to "pitch" a sustainability project: Training in communication, argumentation, and visual aids.
13	Final Presentations (A)	Presentation of the co-creation projects to the class (acting as a jury).
14	Final Presentations (B)	Remaining presentations, course synthesis, and final reflection on skills.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

In addition to the research project to be presented in class, students will be required to prepare the class by familiarizing themselves with the documents handed out for this purpose. Per Hosei University regulation, it is expected to be 2 hours / credit a week.

【テキスト（教科書）】

None.

【参考書】

- Archie B. Carroll, "Corporate Social Responsibility: Evolution of a Definitional Construct", Business & Society, 1999.
- François Ost, "La responsabilité, fil d'Ariane du droit de l'environnement", Droit et société, 1995.
- Christopher D. Stone, Should Trees Have Standing? - Toward Legal Rights for Natural Objects, Southern California Law Review, 1972.

- Keisuke Mark Abe, "Les droits de la nature au Japon : Concrétiser la vision alternative", Revue juridique de l'Université Seikei, 2023.

- Gaël Besson, "L'état du droit des énergies renouvelables : le droit de l'énergie face au droit de la nature", XIVème Séminaire Franco-Japonais de Droit Public, 2023.

【成績評価の方法と基準】

Participation in class (including attendance, homework and discussion): 50%

Final test and essay: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Course content has been reviewed and updated.

【学生が準備すべき機器他】

Pen, notebook, color pencils, eraser.

【その他の重要事項】

Students can contact the instructor anytime at his mail.

This course will be held face-to-face.

Co-creative Workshop D

Mariia ERMILOVA

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The Co-creative Workshop aims to provide students with multidisciplinary learning opportunities to deal with various challenges of sustainability. It brings together students from SCOPE and students from the Faculty of Sustainability Studies and offers them the opportunity to collaborate on workshop project. We will discuss various sustainability issues and try to come up with possible solutions through group work. Examples of topics include environmental degradation, local revitalization business in rural Japan, and waste management policies in Japan, China and the EU.

【到達目標】

By the end of the course, students will be able to:

- (1) identify and analyze sustainability problems in given cases
- (2) critically analyze the issues within the wider contexts of social, economic, political, and religious aspects of societies
- (3) interact proactively and collaborate with diverse participants
- (4) design collaborative solutions and present them in class

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

This course is highly student-oriented. Students are given opportunity to work on the topic according to your interests as a group. Instructor will play a role of facilitating and supporting students during the entire processes of completing their research. Lecture on methodology and advice on the specific steps of doing project will be given by the instructor in each class session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week1	Introduction	Course orientation
Week2	Group work	Each group discusses sustainability topics and presents them in the class.
Week3	Case study 1 ①	Introduction to case/topic No.1. Defining and analyzing the issue.
Week4	Case study 1 ②	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution.
week5	Case study 1 ③	Group presentation and feedback from facilitator/participants.
Week6	Case study 2 ①	Introduction to case/topic No.2. Defining and analyzing the issue.

Week7	Case study 2 ②	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution.
Week8	Case study 2 ③	Group presentation and feedback from facilitator/participants.
Week9	Case study 3 ①	Introduction to case/topic No.3. Defining and analyzing the issue.
Week10	Case study 3 ②	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution.
Week11	Case study 3 ③	Group presentation and feedback from facilitator/participants.
Week12	Case study 4 ①	Introduction to case/topic No.4. Defining the issue and analyzing stakeholders.
Week13	Case study 4 ②	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution.
Week14	Case study 4 ③	Group presentation and feedback from facilitator/participants. Overall discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

There are no particular textbooks required for this class. Relevant materials will be introduced in class according to the topics and discussions.

【参考書】

References are introduced in each class.

【成績評価の方法と基準】

Class participation and discussion 30%

Individual work and contribution to group work 30%

Group presentation 40%

【学生の意見等からの気づき】

Feedback is not available due to the change in instructor.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to bring in PC for the class sessions when conducting team project.

【その他の重要事項】

None.

Co-creative Workshop

佐々木 大輔

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土1/Sat.1

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The Co-creative Workshop provides students with multidisciplinary learning opportunities to discuss various challenges of sustainability. The class brings together students from SCOPE and students from the Faculty of Sustainability Studies and offers them the opportunity to collaborate on workshop projects together. Participants will discuss various sustainability issues and try to come up with solutions through group work.

【到達目標】

Students should aim at being able to:

- (1) identify and analyze sustainability problems
- (2) interact proactively and collaborate with diverse participants to design solutions and present them in the class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

Students will participate in group work with other students from diverse backgrounds and study experience. Through facilitating interaction and teamwork, defining problems, and generating ideas, participants will collaborate to come up with solutions for various sustainability problems. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Guidance	Introduction of participants
Week 2	Practice of group work	Each group discusses selected sustainability topics and presents them in class
Week 3	Case No.1 (1)	Introduction to case No.1. Defining and analyzing the issue
Week 4	Case No.1 (2)	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution
Week 5	Case No.1 (3)	Continue to analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution
Week 6	Case No.1 (4)	Group presentation and discussion
Week 7	Case No.1 (5)	Feedback from facilitator/participants
Week 8	Case No.1 (6)	Reflection and follow up work Each group reviews their group work and revise the deliverables as necessary

Week 9	Case No.2 (1)	Introduction to case No.2. Defining and analyzing the issue
Week 10	Case No.2 (2)	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution
Week 11	Case No.2 (3)	Continue to analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution.
Week 12	Case No.2 (4)	Group presentation and discussion
Week 13	Case No.2 (5)	Feedback from facilitator/participants
Week 14	Case No.2 (6)	Reflection and follow up work Each group reviews their group work and revise the deliverables as necessary

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are highly expected to read reference materials, do necessary research and contribute to group work. Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.

【テキスト（教科書）】

There are no requisite textbooks in this class. Materials may be distributed in class as needed.

【参考書】

References may be distributed in class as needed.

【成績評価の方法と基準】

Students will be assessed based on the following criteria:

- (1) Active class participation (20%)
- (2) Contribution to the group work (40%)
- (3) Student's own progress (40%)

Details will be explained in the first class.

Please note if students miss four or more classes, they cannot receive credit without a justifiable reason. Even with a justifiable reason, if students miss four or more classes, their grading may be adjusted.

【学生の意見等からの気づき】

The instructor's explanation will be minimized and students will lead the discussion.

【学生が準備すべき機器他】

When students do their group work and make presentations, using their own PCs or other devices may help students work productively.

【その他の重要事項】

- (1) Note that selection may be conducted in the first class if the number of participants is too large. Students interested in participating should attend the first class.
- (2) As all the class and group work will be conducted in English, students with lower English proficiency may have difficulties keeping up with the class. In that case, students are expected to make additional efforts to improve their English skills.

Co-creative Workshop

伊藤 弘太郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This lecture provides students with multidisciplinary learning opportunities to discuss and understand various challenges of sustainability. This lecture brings together students from SCOPE and students from the Faculty of Sustainability Studies（人間環境学部）and offers them the opportunity to collaborate on workshop projects together. Participants will discuss various social problems.

【到達目標】

Students should aim at being able to:

- (1) Identify sustainability problems and analyze the backgrounds.
- (2) Interact proactively and work together with participants to design research solutions and present them in the class.
- (3) Deepen critical thinking skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Students will have to participate in group work with other students. Through the interactive discussion with the lecturer and team member students, students will define problems based on the original ideas, participant-student will collaborate to come up with solutions for various kinds of sustainability problems. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Orientation	Self introduction of participants for ice-breaking and orientation for this class.
Week 2	Practice of group work	Each group talks about a topic of sustainability and presents them in class
Week 3	Case Study No.1 (1)	Introduction to case study No.1. Defining and analyzing the issue
Week 4	Case Study No.1 (2)	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution
Week 5	Case Study No.1 (3)	Continue to analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution

Week 6	Case Study No.1 (4)	Group presentation and discussion
Week 7	Case Study No.1 (5)	Feedback from the lecturer /participant-students
Week 8	Case Study No.1 (6)	Reflection and follow up work Each group reviews their group work and revise the deliverables as necessary
Week 9	Case Study No.2 (1)	Introduction of the Case Study No.2. Defining and analyzing the issue
Week 10	Case Study No.2 (2)	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution
Week 11	Case Study No.2 (3)	Continue to analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution.
Week 12	Case Study No.2 (4)	Group presentation and discussion
Week 13	Case Study No.2 (5)	Feedback from the Lecturer/participant-students
Week 14	Short Field Work	Visiting a field related to participant-students' preference

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to look for and read reference materials, do necessary research, and actively contribute to group work. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

This course is a workshop-style class. Therefore any textbook will not be used. Materials will be distributed in class according to the topics and discussions.

【参考書】

Reference will be introduced as appropriate during class.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on the following criteria:

- (1) Active class participation (20%)
- (2) Contribution to the group work (40%)
- (3) Student's own progress (40%)

Please note if students miss three classes, they cannot receive credit without a justifiable reason. Even with a justifiable reason, if students miss four or more classes, their grading may be adjusted.

The evaluation and the regulation of the details will be explained in the first class (orientation).

【学生の意見等からの気づき】

Following student comments, the lecturer's explanation will be minimized and students will lead the discussions.

【学生が準備すべき機器他】

When students do their group work and make presentations, using their own PCs or other devices may help students work productively.

【その他の重要事項】

(1) Note that selection may be conducted in the first class if the number of participants is too large. Students interested in participating should attend the first class.

(2) As all the class3s will be conducted in English, students with lower English proficiency may have difficulties keeping up with the class. In that case, students are expected to make additional efforts to improve their English skills.

(3) I can leverage my working experiences as a secretary for Member of House of the Representative and an administrative officer in the Japanese government.

Co-creative Workshop

GAEL BESSON

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course focuses on a core practical skill: how to analyze a complex social problem and co-create a sustainable solution. Sustainability is a trans-disciplinary "wicked problem" that no single actor (government, corporation, or citizen) can solve alone, requiring a horizontal, "co-creative" approach. While many actors propose solutions (like CSR reports, labels, or advocacy), understanding their real-world impact and limitations can be challenging for non-specialists.

This class accompanies the student in acquiring the tools to analyze these "glocal" sustainability challenges. We will explore the "associative path" (the public role of NGOs) and the "social role of corporations" (CSR) as key drivers of social change.

【到達目標】

By the end of the course, students are expected to have acquired:

- 1) Systemic Analysis: The ability to analyze a complex sustainability problem using stakeholder mapping and problem-based learning.
- 2) Advocacy Literacy: An overview of key citizen advocacy tools (e.g., labels, public awareness campaigns, and "moot courts").
- 3) Theoretical Grounding: A robust knowledge of the practical and theoretical challenges of participatory democracy and Corporate Social Responsibility (CSR).
- 4) Professional Communication: The ability to formulate, defend, and "pitch" a co-created project proposal in a group setting.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

Methodology: Classes consist of group discussions, case studies, and hands-on workshops. Students will be required to apply analytical frameworks by contributing to their group project milestones, which will be discussed during class.

Project-Based Learning (PBL): The course is structured around a semester-long group project where students identify a "wicked problem" and develop a co-created solution.

Mentorship: The professor acts as a facilitator, providing feedback on research plans and stakeholder analysis during dedicated workshop sessions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Presentation of the course methodology (group work, problem-based learning) and sustainability challenges.

2	Defining the Problem	Analysis of the "wicked problem" concept and the SDGs. Stakeholder mapping and conflicts.
3	Case Study 1	The Associative Path & Participatory Democracy: Analysis of the "associative trend" vs. "industrial trend" in environmental law.
4	Group Formation	Students form groups and choose a project theme. Introduction to research methods and data evaluation.
5	Case Study 2	The Social Role of Corporations (CSR): Critical analysis of sustainability reports. Transition or Greenwashing?
6	Workshop 1	Project Definition: Groups present their problem statement, stakeholder analysis, and research plan.
7	Guest Speaker	Inviting a professional (NGO/CSR) to discuss practical challenges of implementing sustainability.
8	Lever for Action	Identifying legal, economic, and social blocking points and opportunities for change.
9	Workshop 2	Mid-term Review: Groups present the status of their research and initial solution drafts.
10	Ideation & Co-design	Brainstorming techniques to develop innovative and "glocal" (global + local) solutions.
11	Workshop 3	Prototyping Solutions: Making proposals concrete and feasible (action plans, policy proposals).
12	Final Prep	How to "pitch" a sustainability project: Training in communication, argumentation, and visual aids.
13	Final Presentations (A)	Presentation of the co-creation projects to the class (acting as a jury).
14	Final Presentations (B)	Remaining presentations, course synthesis, and final reflection on skills.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

In addition to the research project to be presented in class, students will be required to prepare the class by familiarizing themselves with the documents handed out for this purpose. Per Hosei University regulation, it is expected to be 2 hours / credit a week.

【テキスト（教科書）】

None.

【参考書】

- Archie B. Carroll, "Corporate Social Responsibility: Evolution of a Definitional Construct", Business & Society, 1999.
- François Ost, "La responsabilité, fil d'Ariane du droit de l'environnement", Droit et société, 1995.
- Christopher D. Stone, Should Trees Have Standing? - Toward Legal Rights for Natural Objects, Southern California Law Review, 1972.

- Keisuke Mark Abe, "Les droits de la nature au Japon : Concrétiser la vision alternative", Revue juridique de l'Université Seikei, 2023.

- Gaël Besson, "L'état du droit des énergies renouvelables : le droit de l'énergie face au droit de la nature", XIVème Séminaire Franco-Japonais de Droit Public, 2023.

【成績評価の方法と基準】

Participation in class (including attendance, homework and discussion): 50%

Final test and essay: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Course content has been reviewed and updated.

【学生が準備すべき機器他】

Pen, notebook, color pencils, eraser.

【その他の重要事項】

Students can contact the instructor anytime at his mail.

This course will be held face-to-face.

Co-creative Workshop

Mariia ERMILOVA

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The Co-creative Workshop aims to provide students with multidisciplinary learning opportunities to deal with various challenges of sustainability. It brings together students from SCOPE and students from the Faculty of Sustainability Studies and offers them the opportunity to collaborate on workshop project. We will discuss various sustainability issues and try to come up with possible solutions through group work. Examples of topics include environmental degradation, local revitalization business in rural Japan, and waste management policies in Japan, China and the EU.

【到達目標】

By the end of the course, students will be able to:

- (1) identify and analyze sustainability problems in given cases
- (2) critically analyze the issues within the wider contexts of social, economic, political, and religious aspects of societies
- (3) interact proactively and collaborate with diverse participants
- (4) design collaborative solutions and present them in class

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

This course is highly student-oriented. Students are given opportunity to work on the topic according to your interests as a group. Instructor will play a role of facilitating and supporting students during the entire processes of completing their research. Lecture on methodology and advice on the specific steps of doing project will be given by the instructor in each class session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week1	Introduction	Course orientation
Week2	Group work	Each group discusses sustainability topics and presents them in the class.
Week3	Case study 1 ①	Introduction to case/topic No.1. Defining and analyzing the issue.
Week4	Case study 1 ②	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution.
week5	Case study 1 ③	Group presentation and feedback from facilitator/participants.
Week6	Case study 2 ①	Introduction to case/topic No.2. Defining and analyzing the issue.

Week7	Case study 2 ②	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution.
Week8	Case study 2 ③	Group presentation and feedback from facilitator/participants.
Week9	Case study 3 ①	Introduction to case/topic No.3. Defining and analyzing the issue.
Week10	Case study 3 ②	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution.
Week11	Case study 3 ③	Group presentation and feedback from facilitator/participants.
Week12	Case study 4 ①	Introduction to case/topic No.4. Defining the issue and analyzing stakeholders.
Week13	Case study 4 ②	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution.
Week14	Case study 4 ③	Group presentation and feedback from facilitator/participants. Overall discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

There are no particular textbooks required for this class. Relevant materials will be introduced in class according to the topics and discussions.

【参考書】

References are introduced in each class.

【成績評価の方法と基準】

Class participation and discussion 30%

Individual work and contribution to group work 30%

Group presentation 40%

【学生の意見等からの気づき】

Feedback is not available due to the change in instructor.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to bring in PC for the class sessions when conducting team project.

【その他の重要事項】

None.

